甲府市文化財調査報告 64

甲府城下町遺跡Ⅸ

― 庁舎建設に伴う発掘調査報告書 ―

2013

甲　府　市
甲府市教育委員会

序

本書は平成22年、市庁舎建設にともない実施した甲府城下町遺跡の発掘調査報告書であります。本遺跡は、近世甲斐国の政治的中心であった甲府城周辺に広がる都市遺跡であり、調査地は城の大手口前面に広がる武家屋敷地の一角であります。

甲府城下町は、鎌倉期以来の歴史を有する町場として発展を遂げ、戦国期には武田氏により領国経営の中心地に位置づけられ、江戸時代初期に中世以来の都市空間を巧みに継承しつつ、計画的に建設された近世都市へと再編されました。今なお、市内各所に城下の面影を残し、中心都市としての位置づけは現在にいたっても変化ありません。

これまで市街各地で多くの調査が積み重ねられ、多彩な遺物とともに多大な成果を挙げてまいりました。今回の調査でも17世紀初頭から18世紀初頭にかけて武家屋敷だった時期や18世紀前葉から幕末までの大手役宅が設けられていた時期、さらには明治維新後、山梨県庁が建てられた時期の遺構・遺物が確認されました。これら大きな成果が得られ、地域の歴史に新たなページが加わるとともに豊かな実像が提示できることと思われます。本報告書が学術研究深化への一助になるとともに、教育資料へも活用され、郷土の歴史と文化を再認識する機会となればこの上ない喜びであります。

末筆となりましたが、調査に際し、貴重な文化遺産に対する深いご理解を賜り、ご支援・ご協力を頂いた関係機関各位および発掘から報告書刊行まで労をいとわず精力的に業務を遂行していただきました指導調査員はじめスタッフの方々に、感謝申し上げるとともに、衷心より厚くお礼申し上げます。

平成25年3月

甲府市教育委員会

教育長　長谷川　義高

例言

1．本書は山梨県甲府市丸の内一丁目 18-1 における甲府城下町遺跡の発掘調査報告書である。

2．本調査は甲府市役所の新庁舎建設に伴うものであり、甲府市教育委員会が主体となって実施した。
3．本遺跡に関わる調査は伊藤正彦（文化振興課文化財主事）が担当した。調査、整理作業の一部は甲府市教育委員会より委託を受けた昭和測量株式会社高野高潔、小谷亮二、泉英樹が行った。
4．調査は平成 22 年 11 月 9 日より平成 23 年 3 月 22 日にかけて実施した。調査面積は 1,800 ㎡である。本調査に並行して整理作業に着手し、すべての作業が終了したのは平成 25 年 3 月である。
5．本書の編集は、伊藤正彦を責任者とし、高野高潔（昭和測量株式会社）が行った。執筆は第 1 章、第 6 章第 2 節を伊藤正彦、第 6 章第 3 節を泉英樹、第 6 章第 4 節を小谷亮二が担当した。第 5 章第 1 節、第 2 節は株式会社古環境研究所、第 5 章第 3 節は聖マリアンナ医科大学解剖学講座澤田純明氏に委託した。その他は高野高潔が担当した。整理作業に係る遺物洗浄・注記・接合作業、遺物実測・図面浄書作業及び拓図・写真図版などの作成は、浅川悠紀子・大森透江・小澤美幸・栗田かずよ・齊藤里美・広瀬ありさ・藤原由香・宮下真樹子・渡辺麗子が行った。
6．第 6 章第 2 節の資料の読み下しは林陽一郎・宮澤宮美恵両氏にお願いをした。
7．本書に関わる出土遺物及び記録図面・写真等は甲府市教育委員会で保管している。
8．本書に関わる基準点測量・基準杭の設定は昭和測量株式会社が行った。
9．発掘調査参加者（敬称略）
伊井實・池谷千代子・大森透江・荻原忠・小澤美幸・北野礼子・小菅徹・小菅春江・小林としみ・齊藤里美・佐藤あけみ・志村由未・竹野章・田中孝雄・田中初子・田中博之・十屋健治・根津航・原田隆邦・原田みゆき・深澤友子・松原静夫・宮原雄二・望月明・望月孝次・望月敏子・横田五男
10．本遺跡の発掘調査および整理作業にあたっては、以下の諸機関・各位から多大なるご指導・ご協力を賜った。記してお礼申し上げる。
山梨県立博物館、財団法人山梨文化財研究所、植月学、増松光宏、野代幸和、畑大介、林陽一郎、宮澤宮美恵、宮本茂樹

凡例

1．本書に掲載した遺構番号は、整理作業の過程において新たに付与し、遺構種類毎に連番号としている。
2．遺構名は調査現場で付けたものを元に、遺構の形状・性格などを考慮し整理作業の過程において新たに付与した。
3．全体図、遺構・遺物実測図の縮尺は図中に表示した通りである。
4．遺構断面図における水平数値は、海抜高度を示している。
5．報告書中の方位は、それぞれの図中に表示した通りである。

目次

目次
序
例言
凡例
目次
挿図・表目次
第1章　調査概要
　第1節　調査に至る経緯 …… 1
　第2節　試掘調査の結果 …… 1
　第3節　調査の経過 …… 3
第2章　遺跡環境
　第1節　立地と地理的環境 …… 4
　第2節　歴史的環境 …… 5
第3章　調査方法と基本層序
　第1節　調査方法 …… 7
　第2節　基本層序 …… 8
第4章　調査成果
　第1節　発掘調査の概要 …… 9
　第2節　建物跡 …… 11
　第3節　溝状遺構 …… 44
　第4節　井戸跡 …… 78
　第5節　埋桶 …… 96
　第6節　池 …… 105
　第7節　土坑 …… 147
　第8節　ピット …… 176
　第9節　その他の遺構 …… 199
　第10節　遺構外出土遺物 …… 209
第5章　自然科学分析
　第1節　環境考古学分析 …… 331
　第2節　樹種同定 …… 343
　第3節　人骨・動物骨同定 …… 348
第6章　まとめ
　第1節　遺構の時代区分 …… 352
　第2節　県庁舎建設前史 …… 353
　第3節　甲府城下町遺跡出土の焼塩壺について …… 381
　第4節　甲府城下町遺跡出土の真牡蠣について …… 384
　第5節　まとめ …… 385
遺物観察表 …… 386

挿図目次

図1　試掘地点……2
図2　調査地の位置……4
図3　甲府城下町遺跡周辺の遺跡分布……6
図4　グリッド配置図……7
図5　基本層序……8
図6　調査区全体図……10
図7　山梨県庁全体図……11
図8　県庁1号基礎……12
図9　県庁1号基礎出土遺物（1）……14
図10　県庁1号基礎出土遺物（2）……15
図11　県庁2号基礎……17
図12　県庁2号基礎出土遺物……18
図13　県庁3号基礎……18
図14　県庁3号基礎出土遺物……18
図16　県庁4号基礎出土遺物……19
図15　県庁4号基礎……19
図18　県庁5号基礎出土遺物……20
図17　県庁5号基礎……20
図20　県庁6号基礎出土遺物……21
図19　県庁6号基礎……21
図21　県庁7号基礎……23
図22　県庁7号基礎出土遺物……24
図23　県庁8号基礎……25
図24　県庁8号基礎出土遺物……26
図25　県庁9号基礎……26
図26　県庁9号基礎出土遺物……27
図27　県庁10号基礎（1）……28
図28　県庁10号基礎（2）……29
図29　県庁10号基礎出土遺物（1）……30
図30　県庁10号基礎出土遺物（2）……31
図32　県庁11号基礎出土遺物……33
図31　県庁11号基礎……33
図33　県庁12号基礎……34
図34　県庁12号基礎出土遺物……34
図35　県庁13号・14号基礎……35
図36　県庁13号・14号基礎出土遺物……36
図37　県庁15号基礎……37
図38　県庁15号基礎出土遺物……37
図39　県庁16号・17号基礎……38
図40　県庁16号基礎出土遺物……38
図41　県庁基礎廃土出土遺物……39
図42　1号建物跡……41
図43　1号建物跡出土遺物……42
図44　1号・2号・8号溝……45
図45　1号溝出土遺物（1）……46
図46　1号溝出土遺物（2）……47
図47　1号溝出土遺物（3）……48
図48　2号溝出土遺物（1）……53
図49　2号溝出土遺物（2）……54
図50　2号溝出土遺物（3）……55
図51　2号溝出土遺物（4）……56
図52　8号溝出土遺物……59
図53　3号～5号溝……61
図54　3号溝出土遺物（1）……62
図55　3号溝出土遺物（2）……63
図56　3号溝出土遺物（3）……64
図57　4号溝出土遺物……67
図58　5号溝出土遺物（1）……68
図59　5号溝出土遺物（2）……69
図60　5号溝出土遺物（3）……70
図61　5号溝出土遺物（4）……71
図62　6号・7号溝……75
図63　10号・11号溝……76
図64　10号溝出土遺物……76
図65　11号溝出土遺物……77
図66　12号溝……77
図67　1号・2号・3号井戸・9号溝……79
図68　1号井戸……80
図69　1号井戸出土遺物（1）……81
図70　1号井戸出土遺物（2）……82
図71　2号井戸……85
図72　2号井戸出土遺物（1）……86
図73　2号井戸出土遺物（2）……87
図74　3号井戸……90
図75　3号井戸出土遺物……90
図76　9号溝出土遺物（1）……92
図77　9号溝出土遺物（2）……93
図78　埋桶（1）……97
図79　埋桶（2）……98
図80　埋桶出土遺物（1）……99
図81　埋桶出土遺物（2）……100
図82　埋桶出土遺物（3）……101
図83　1号池・2号集石（1）……106
図84　1号池・2号集石（2）……107

図 85　1号池出土遺物（1）……108
図 86　1号池出土遺物（2）……109
図 87　1号池出土遺物（3）……110
図 88　1号池出土遺物（4）……111
図 89　1号池出土遺物（5）……112
図 90　1号池出土遺物（6）……113
図 91　1号池出土遺物（7）……114
図 92　1号池出土遺物（8）……115
図 93　1号池出土遺物（9）……116
図 94　1号池出土遺物（10）……117
図 95　1号池出土遺物（11）……118
図 96　1号池出土遺物（12）……119
図 97　1号池出土遺物（13）……120
図 98　1号池出土遺物（14）……121
図 99　1号池出土遺物（15）……122
図 100　1号池出土遺物（16）……123
図 101　1号池出土遺物（17）……124
図 102　1号池出土遺物（18）……125
図 103　2号集石出土遺物……126
図 104　土坑（1）……150
図 105　土坑（2）……151
図 106　土坑（3）……152
図 107　土坑（4）……153
図 108　土坑（5）……154
図 109　土坑（6）……155
図 110　土坑（7）……156
図 111　土坑（8）……157
図 112　土坑（9）……158
図 113　土坑出土遺物（1）……159
図 114　土坑出土遺物（2）……160
図 115　土坑出土遺物（3）……161
図 116　土坑出土遺物（4）……162
図 117　土坑出土遺物（5）……163
図 118　土坑出土遺物（6）……164
図 119　土坑出土遺物（7）……165
図 120　ピット（1）……180
図 121　ピット（2）……181
図 122　ピット（3）……182
図 123　ピット（4）……183
図 124　ピット（5）……184
図 125　ピット（6）……185
図 126　ピット（7）……186
図 127　ピット（8）……187
図 128　ピット（9）……188
図 129　ピット（10）……189
図 130　ピット（11）……190
図 131　ピット出土遺物（1）……191
図 132　ピット出土遺物（2）……192
図 133　ピット出土遺物（3）……193
図 134　ピット出土遺物（4）……194
図 135　1号集石……200
図 136　1号集石出土遺物（1）……201
図 137　1号集石出土遺物（2）……202
図 138　1号集石出土遺物（3）……203
図 139　1号集石出土遺物（4）……204
図 140　1号有機物集中地点……204
図 141　1号有機物集中地点出土遺物……204
図 142　遺構外出土遺物（1）……213
図 143　遺構外出土遺物（2）……214
図 144　遺構外出土遺物（3）……215
図 145　遺構外出土遺物（4）……216
図 146　遺構外出土遺物（5）……217
図 147　遺構外出土遺物（6）……218
図 148　遺構外出土遺物（7）……219
図 149　遺構外出土遺物（8）……220
図 150　遺構外出土遺物（9）……221
図 151　遺構外出土遺物（10）……222
図 152　遺構外出土遺物（11）……223
図 153　遺構外出土遺物（12）……224
図 154　遺構外出土遺物（13）……225
図 155　遺構外出土遺物（14）……226
図 156　遺構外出土遺物（15）……227
図 157　遺構外出土遺物（16）……228
図 158　遺構外出土遺物（17）……229
図 159　遺構外出土遺物（18）……230
図 160　遺構外出土遺物（19）……231
図 161　遺構外出土遺物（20）……232
図 162　遺構外出土遺物（21）……233
図 163　遺構外出土遺物（22）……234
図 164　遺構外出土遺物（23）……235
図 165　遺構外出土遺物（24）……236
図 166　遺構外出土遺物（25）……237
図 167　遺構外出土遺物（26）……238
図 168　遺構外出土遺物（27）……239
図 169　遺構外出土遺物（28）……240
図 170　遺構外出土遺物（29）……241
図 171　遺構外出土遺物（30）……242
図 172　遺構外出土遺物（31）……243
図 173　遺構外出土遺物（32）……244
図 174　遺構外出土遺物（33）……245

図 175　遺構外出土遺物（34）……246
図 176　遺構外出土遺物（35）……247
図 177　遺構外出土遺物（36）……248
図 178　遺構外出土遺物（37）……249
図 179　遺構外出土遺物（38）……250
図 180　遺構外出土遺物（39）……251
図 181　遺構外出土遺物（40）……252
図 182　遺構外出土遺物（41）……253
図 183　遺構外出土遺物（42）……254
図 184　遺構外出土遺物（43）……255
図 185　遺構外出土遺物（44）……256
図 186　遺構外出土遺物（45）……257
図 187　遺構外出土遺物（46）……258
図 188　遺構外出土遺物（47）……259
図 189　遺構外出土遺物（48）……260
図 190　遺構外出土遺物（49）……261
図 191　遺構外出土遺物（50）……262
図 192　遺構外出土遺物（51）……263
図 193　遺構外出土遺物（52）……264
図 194　遺構外出土遺物（53）……265
図 195　遺構外出土遺物（54）……266
図 196　遺構外出土遺物（55）……267
図 197　遺構外出土遺物（56）……268
図 198　遺構外出土遺物（57）……269
図 199　遺構外出土遺物（58）……270
図 200　遺構外出土遺物（59）……271

写真目次

写真 1　試掘坑 1……3
写真 2　試掘坑 2……3
写真 3　試掘坑 3……3
写真 4　試掘坑 4……3
写真 5　基本層序……8
写真 6　調査区全景……9
写真 7　調査区全景……9
写真 8　県庁 1～8 号基礎……13
写真 9　県庁 1 号基礎……13
写真 10　県庁 1 号基礎……13
写真 11　県庁 1 号基礎……13
写真 12　県庁 1 号基礎出土遺物（1）……15
写真 13　県庁 1 号基礎出土遺物（2）……16
写真 14　県庁 2 号基礎……17
写真 15　県庁 2 号基礎出土遺物……18
写真 16　県庁 3 号基礎出土遺物……19
写真 17　県庁 4 号基礎出土遺物……19
写真 18　県庁 5 号基礎出土遺物……20
写真 19　県庁 6 号基礎出土遺物……22
写真 20　県庁 7 号基礎出土遺物……25
写真 21　県庁 8 号基礎出土遺物……26
写真 22　県庁 9 号基礎出土遺物……27
写真 23　県庁 9～15 号……27
写真 24　県庁基礎胴木……27
写真 25　県庁基礎枕木……27
写真 26　県庁基礎杭……27
写真 27　県庁基礎胴木・縫……27
写真 28　県庁基礎杭・玉石……27
写真 29　県庁 10 号基礎出土遺物……32
写真 30　県庁 11 号基礎出土遺物……34
写真 31　県庁 12 号基礎出土遺物……34
写真 32　県庁 13 号基礎出土遺物……36
写真 33　県庁 15 号基礎出土遺物……37
写真 34　県庁 16 号基礎出土遺物……39
写真 35　県庁基礎盛土出土遺物……39
写真 36　1 号建物跡……41
写真 37　1 号建物跡出土遺物……43
写真 38　1 号溝出土遺物（1）……49
写真 39　1 号溝出土遺物（2）……50
写真 40　1 号溝出土遺物（3）……51
写真 41　1 号溝出土遺物（4）……52
写真 42　1 号溝検出状況……52
写真 43　1 号溝遺物出土状況……52
写真 44　1 号溝杭・板検出状況……52
写真 45　1 号溝完掘状況……52
写真 46　2 号溝遺物出土状況……56
写真 47　2 号溝完掘状況……56
写真 48　2 号溝出土遺物（1）……57
写真 49　2 号溝出土遺物（2）……58
写真 50　2 号溝出土遺物（3）……59
写真 51　8 号溝出土遺物……60
写真 52　8 号溝完掘状況……60
写真 53　3 号溝・4 号溝……64
写真 54　4 号溝遺物出土状況……64
写真 55　3 号溝出土遺物（1）……65
写真 56　3 号溝出土遺物（2）……66

写真 57　4 号溝出土遺物 ……67
写真 58　5 号溝完掘状況 ……71
写真 59　5 号溝出土遺物（1）……72
写真 60　5 号溝出土遺物（2）……73
写真 61　5 号溝出土遺物（3）……74
写真 62　6 号溝完掘 ……74
写真 63　6 号・7 号溝完掘 ……74
写真 64　9 号・10 号溝完掘 ……75
写真 65　11 号溝完掘 ……75
写真 66　10 号溝出土遺物 ……77
写真 67　11 号溝出土遺物 ……77
写真 68　12 号溝完掘状況 ……77
写真 69　1 号井戸 ……80
写真 70　1 号井戸 ……80
写真 71　1 号井戸出土遺物（1）……83
写真 72　1 号井戸出土遺物（2）……84
写真 73　2 号井戸完掘状況 ……85
写真 74　2 号井戸 ……85
写真 75　2 号井戸出土遺物（1）……88
写真 76　2 号井戸出土遺物（2）……89
写真 77　3 号井戸完掘状況 ……90
写真 78　3 号井戸出土遺物 ……91
写真 79　3 号井戸 ……91
写真 80　3 号井戸・9 号溝 ……91
写真 81　9 号溝粘土出土状況 ……93
写真 82　9 号溝完掘状況 ……93
写真 83　9 号溝出土遺物（1）……94
写真 84　9 号溝出土遺物（2）……95
写真 85　7 号土坑完掘状況 ……100
写真 86　8 号土坑完掘状況 ……100
写真 87　9 号土坑完掘状況 ……101
写真 88　10 号土坑完掘状況 ……101
写真 89　13 号土坑完掘状況 ……101
写真 90　埋桶出土遺物（1）……102
写真 91　埋桶出土遺物（2）……103
写真 92　埋桶出土遺物（3）……104
写真 93　1 号池完掘状況 ……105
写真 94　1 号池 ……105
写真 95　2 号集石 ……105
写真 96　1 号池遺物出土状況 ……126
写真 97　1 号池遺物出土状況 ……126
写真 98　1 号池遺物出土状況 ……126
写真 99　1 号池遺物出土状況 ……126
写真 100　1 号池出土遺物（1）……127
写真 101　1 号池出土遺物（2）……128
写真 102　1 号池出土遺物（3）……129
写真 103　1 号池出土遺物（4）……130
写真 104　1 号池出土遺物（5）……131
写真 105　1 号池出土遺物（6）……132
写真 106　1 号池出土遺物（7）……133
写真 107　1 号池出土遺物（8）……134
写真 108　1 号池出土遺物（9）……135
写真 109　1 号池出土遺物（10）……136
写真 110　1 号池出土遺物（11）……137
写真 111　1 号池出土遺物（12）……138
写真 112　1 号池出土遺物（13）……139
写真 113　1 号池出土遺物（14）……140
写真 114　1 号池出土遺物（15）……141
写真 115　1 号池出土遺物（16）……142
写真 116　1 号池出土遺物（17）……143
写真 117　1 号池出土遺物（18）……144
写真 118　1 号池出土遺物（19）……145
写真 119　1 号池出土遺物（20）……146
写真 120　2 号集石出土遺物 ……146
写真 121　1～6・30 号土坑検出状況 ……149
写真 122　土層三和土・土坑土層断面 ……149
写真 123　3 号土坑完掘状況 ……149
写真 124　4 号土坑完掘状況 ……149
写真 125　5 号土坑完掘状況 ……152
写真 126　6 号土坑完掘状況 ……152
写真 127　土坑出土遺物（1）……166
写真 128　土坑出土遺物（2）……167
写真 129　土坑出土遺物（3）……168
写真 130　土坑出土遺物（4）……169
写真 131　土坑出土遺物（5）……170
写真 132　土坑出土遺物（6）……171
写真 133　土坑出土遺物（7）……172
写真 134　土坑出土遺物（8）……173
写真 135　土坑出土遺物（9）……174
写真 136　土坑出土遺物（10）……175
写真 137　2 号ピット遺物出土状況 ……179
写真 138　27 号ピット遺物出土状況 ……179
写真 139　58 号ピット遺物出土状況 ……179
写真 140　59 号ピット遺物出土状況 ……179
写真 141　58 号ピット遺物出土状況 ……180
写真 142　59 号ピット遺物出土状況 ……180
写真 143　ピット出土遺物（1）……195
写真 144　ピット出土遺物（2）……196
写真 145　ピット出土遺物（3）……197
写真 146　ピット出土遺物（4）……198

写真 147　1号集石石列検出状況 ……199
写真 148　1号集石遺物出土状況 ……199
写真 149　1号有機物集中地点検出状況 …199
写真 150　1号有機物集中地点上層断面 …199
写真 151　1号集石出土遺物（1）……205
写真 152　1号集石出土遺物（2）……206
写真 153　1号集石出土遺物（3）……207
写真 154　1号集石出土遺物（4）……208
写真 155　1号有機物集中地点出土遺物 …208
写真 156　G 11 グリッド遺物出土状況 ……212
写真 157　遺構外出土遺物（1）……272
写真 158　遺構外出土遺物（2）……273
写真 159　遺構外出土遺物（3）……274
写真 160　遺構外出土遺物（4）……275
写真 161　遺構外出土遺物（5）……276
写真 162　遺構外出土遺物（6）……277
写真 163　遺構外出土遺物（7）……278
写真 164　遺構外出土遺物（8）……279
写真 165　遺構外出土遺物（9）……280
写真 166　遺構外出土遺物（10）……281
写真 167　遺構外出土遺物（11）……282
写真 168　遺構外出土遺物（12）……283
写真 169　遺構外出土遺物（13）……284
写真 170　遺構外出土遺物（14）……285
写真 171　遺構外出土遺物（15）……286
写真 172　遺構外出土遺物（16）……287
写真 173　遺構外出土遺物（17）……288
写真 174　遺構外出土遺物（18）……289
写真 175　遺構外出土遺物（19）……290
写真 176　遺構外出土遺物（20）……291
写真 177　遺構外出土遺物（21）……292
写真 178　遺構外出土遺物（22）……293
写真 179　遺構外出土遺物（23）……294
写真 180　遺構外出土遺物（24）……295
写真 181　遺構外出土遺物（25）……296
写真 182　遺構外出土遺物（26）……297
写真 183　遺構外出土遺物（27）……298
写真 184　遺構外出土遺物（28）……299
写真 185　遺構外出土遺物（29）……300
写真 186　遺構外出土遺物（30）……301
写真 187　遺構外出土遺物（31）……302
写真 188　遺構外出土遺物（32）……303
写真 189　遺構外出土遺物（33）……304
写真 190　遺構外出土遺物（34）……305
写真 191　遺構外出土遺物（35）……306
写真 192　遺構外出土遺物（36）……307
写真 193　遺構外出土遺物（37）……308
写真 194　遺構外出土遺物（38）……309
写真 195　遺構外出土遺物（39）……310
写真 196　遺構外出土遺物（40）……311
写真 197　遺構外出土遺物（41）……312
写真 198　遺構外出土遺物（42）……313
写真 199　遺構外出土遺物（43）……314
写真 200　遺構外出土遺物（44）……315
写真 201　遺構外出土遺物（45）……316
写真 202　遺構外出土遺物（46）……317
写真 203　遺構外出土遺物（47）……318
写真 204　遺構外出土遺物（48）……319
写真 205　遺構外出土遺物（49）……320
写真 206　遺構外出土遺物（50）……321
写真 207　遺構外出土遺物（51）……322
写真 208　遺構外出土遺物（52）……323
写真 209　遺構外出土遺物（53）……324
写真 210　遺構外出土遺物（54）……325
写真 211　遺構外出土遺物（55）……326
写真 212　遺構外出土遺物（56）……327
写真 213　遺構外出土遺物（57）……328
写真 214　遺構外出土遺物（58）……329
写真 215　遺構外出土遺物（59）……330

第１章　調査概要

第１節　調査に至る経緯

平成20年、甲府市企画部庁舎建設室より新庁舎建設に伴い埋蔵文化財の有無および取り扱いについて照会があった。建設地は甲府城下町遺跡の包蔵地内に存在し、武家屋敷および二ノ堀の存在が推定された。そのため市教育委員会は、調査が必要である旨回答するとともに詳細な建築計画を提示するよう求めた。市ちに埋蔵文化財の取り扱いについて庁舎建設課と協議を開始し、数回の協議を経た後、遺跡の時代・内容、遺構の残存状況などの把握を目的に同年８月および翌年10月との二度、試掘調査を実施した。

試掘結果に基づき開発に先立ち遺跡に重大な影響を与える範囲1,800㎡を対象に埋蔵文化財の記録保存を行い、地域の歴史を伝える資料として保存・活用すること。平成22年11月より発掘調査を開始し、期間は５ヶ月、引き続き平成23年度は基礎的整理作業を実施し、平成24年度に本格的な整理作業・報告書の刊行を行うこと。発掘調査から報告書の作成経費まで庁舎建設課で予算化し、市教委が執行することなどが合意された。

庁舎解体後の平成22年11月９日より翌年３月22日まで発掘調査及び基礎的整理作業を実施し、同年４月22日より翌年３月23日まで引き続き基礎的整理作業を行うとともに遺物の保存処理を行った。平成24年４月27日より本格的な整理作業として出土遺物の図化・写真撮影・原稿執筆を行い平成25年３月に本書の刊行となった。

法的手続きは以下のとおりである。

平成22年12月６日　文化財保護法第99条第１項の規定に基づき埋蔵文化財発掘の報告を山梨県教育委員会教育長に提出する。

平成23年４月１日　遺失物法第13条の規定に基づき埋蔵物の発見届を甲府警察署長に提出する。

第２節　試掘調査の結果

１．調査地の歴史変遷

調査地は近世の城下町遺跡として知られているが、近隣の調査では弥生時代末～平安時代の土器片が確認され、特に古墳時代を中心とする生活の痕跡が色濃く確認されている。中世以降、文献・古絵図等から朧気ながらも近代までに至る歴史変遷をたどることができる。中世鎌倉期から室町期にかけ調査地一帯は、正和元年（1312）創建と伝わる一蓮寺の門前町に含まれ、町場景観が広がっていたものと推量される。戦国期、武田館の建設および城下町の開創により城下南端に位置づけられ中世年府の一都市として機能し続けた。

近世に入ると甲府城建設により一蓮寺は移転し、一帯は武家屋敷地として再整備されたようである。宝永元年（1704）～享保９年（1729）の山府藩柳沢氏の領有期は、城代の平岡将監屋敷と記録され、享保９年、柳沢氏の大和郡山移封後から幕末までの甲府勤番支配期は、大手役宅が存在した。

明治維新以後、昭和３年（1928）まで山梨県庁及び議事堂が建ち、特に明治10年（1877）、洋風様式の新庁舎が完成するまで江戸期の大手役宅をそのまま転用し、県庁舎として用いられた。

昭和初年、県庁移転により跡地に甲府郵便局が昭和６年（1931）に、甲府水道局が昭和13年（1938）に、甲府市役所本庁が昭和34年（1959）にそれぞれ建設され今日に至っている。調査地は、江戸中期以降、現在まで県市の行政をつかさどる公的施設が存在し続けた場所であった。

２．試掘調査（図１）

平成20年８月２日～９日にかけて３地点、合計12㎡を調査した。

試掘坑１は３号館北側、市民駐車場地点に設定した。部分的に水道局倉庫の建設により壊されているが、それ以外は良好に残存していた。深さ1.4ｍまで掘削を行い、幅70㎝、深さ20㎝程の溝状遺構を確認した。江戸期の天目茶碗が出土する。検出された溝状遺構は浅く、流水の痕跡も確認できないため、地境あるいは雨落ち溝などであろうか。半岡将監もしくはそれ以前の武家屋敷に係る遺構であろう。

試掘坑２は１号館東側、公用車駐車場に設定した。深さ0.7ｍ掘削し、ンンガ積み焼却炉・水溜・礎石根付跡・柱穴などを確認した。ンンガ積み焼却炉が明治期の県庁舎に係る施設となり、水溜・礎石根付跡・柱穴などは、江戸時代後期から明治期の遺構となろう。

試掘坑３は敷地東側の公用車駐車場に設定した。深さ1.0ｍ掘削し、小礫を敷き詰めた一定の広がりが確認されるとともに、陶磁器・瓦片などの遺物を検出した。小礫の広がりは、屋敷内の建物をつなぐ通路などと解釈でき、共伴する遺物の年代から平

岡将監屋敷に係る遺構と判断した。

いずれの試掘地点からも遺構・遺物が確認された。部分的に後世の開発により破壊された箇所も存在するが、概ね良好に残存しており、市庁舎建設地には、江戸時代の平岡将監屋敷に係る遺構から大手役宅、さらに明治期の県庁舎に係る遺構が残存した。

翌年10月3日～10月11日にかけて、庁舎南側の市民駐車場を8㎡調査した。すでに工事図面などから甲府郵便局建設に際し、地表下2mまで掘削されており、遺構の残存状況を確認するため確認調査

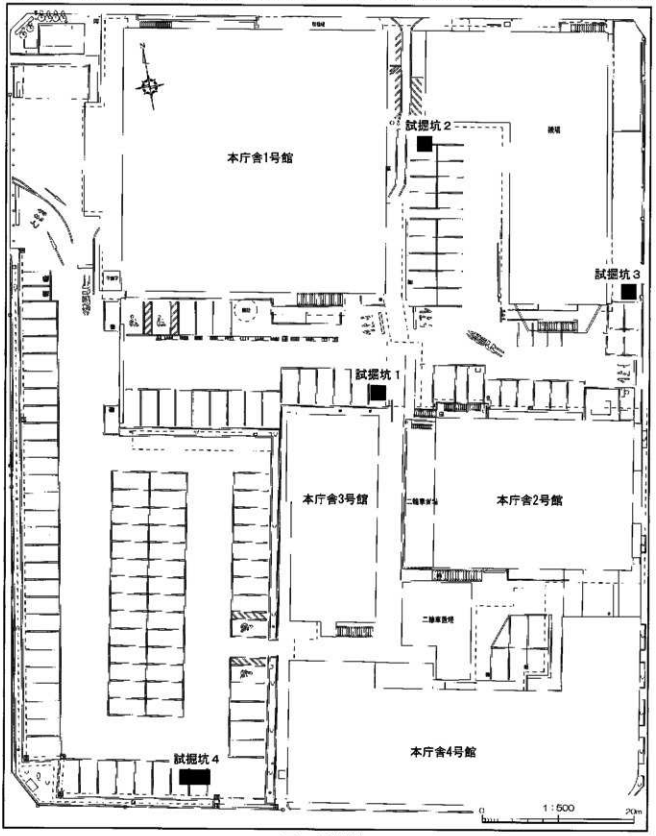


図1　試掘地点

写真１　試掘坑１　南から

写真２　試掘坑２　東から

写真３　試掘坑３　北から

写真４　試掘坑４　東から

を実施した。土層堆積を確認しつつ深さ２ｍまで掘削を行い、建物の沈下防止のために打ち込まれた松杭とともに、杭周辺に長径 20 ～ 50 ㎝程の礫が敷き詰められた状況を確認した。これら礫が松杭周辺のみに集中し、礫の隙間から金属片やガラス片が出土することからコンクリート基礎構築にともない沈下防止のために行った土壌改良の痕跡と推定した。調査により近世陶磁器が数点確認されたものの、遺構は確認されなかった。調査地は、後世の建物建設により遺跡が破壊されていた。３・４号館も含め旧甲府郵便局跡地は建物建設により遺跡が残存する可能性は極めて低いと判断した。

これら二ヵ年にわたる試掘結果に基づき開発に先立ち遺跡に重大な影響を与える範囲を対象に埋蔵文化財の記録保存を行うこととなった。

第３節　調査の経過

入札・落札者決定後、旧庁舎の解体を待ち、平成23年11月９日より着手し、翌年３月28日に調査を終了した。発掘調査・遺物整理作業及び周辺環境対策も含め昭和測量株式会社に業務を委託した。調査中より内容や成果を公表するよう努め、新聞・テレビなどマスコミ各社からの取材に応じるとともに平成23年１月16日　現場見学会を午前午後各１回開催し、総勢約200名の見学者を得た。

マスコミ等対応事例

H22. 12/ 7　広報課取材

12/15　山梨日日新聞取材

12/24　NHK 甲府局取材

12/25　NHK 甲府にて放映

12/27　YBS ラジオ収録

同日　読売新聞取材

H23. １月　広報１月号　発掘体験記事掲載

１/８　YBS ラジオ放送

１/12　朝日新聞取材

１/13　教育委員（５名）、庁舎建設部職員（13名）現場視察

１/16　現場見学会を午前午後各１回開催し、総勢約200名の見学者を得た

２月　広報２月号　発掘情報掲載

２/15　市議会庁舎建設特別委員（９名）視察

３/22　発掘調査を終了する

第２章　遺跡環境

第１節　立地と地理的環境

調査対象の甲府城下町遺跡は山梨県甲府市の中央部に位置し、甲府盆地の北縁にあたる（図２）。北方には関東山地の主要部である標高２,０００～２,５００ｍ級の秩父山地がある。調査地点は秩父山地山中の太良峠の南方を源とする相川により形成された扇状地扇端部にあり、緩傾斜面がより平坦面へと変換した面に立地している。相川中流域の左岸であり、標高は約２６７ｍである。

調査地点は甲府駅から４００ｍ南の甲府市役所に位置し、甲府駅南口の目抜き通りに面している。公官庁、金融機関等が集中する甲府市内の中心街にあたる。

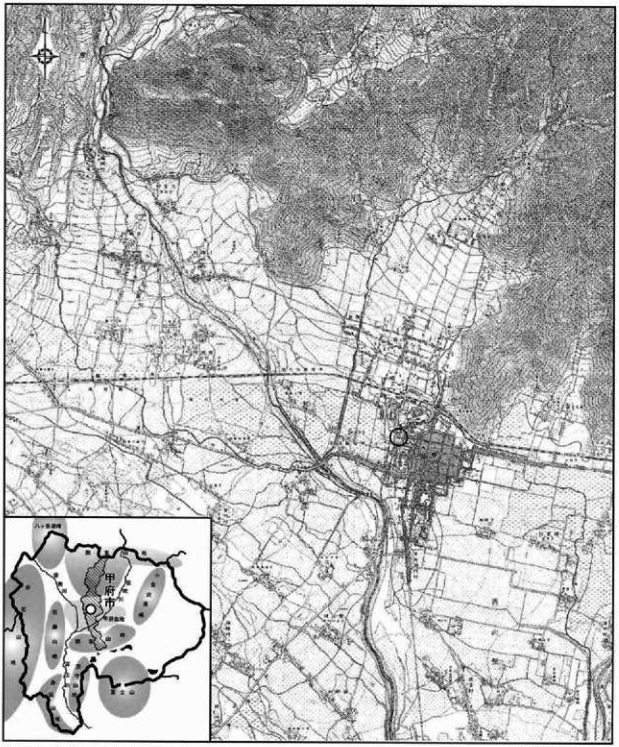


図２　調査地の位置

第2節　歴史的環境

甲府城下町遺跡の遺跡範囲は東西約1.9km、南北約2.2kmの規模で周知されている（図3）。調査地点（1）は城下町遺跡の中心部に位置している。近世当時の状況では甲府城の南側で、迫手門の門前に位置したことになる。北側で甲府城郭を巡る内堀に、西側で城下町を区画する二の堀に面しており、二の堀の内側の武家屋敷地内にある。

甲府城下町遺跡では現在までに多数の別地点での発掘調査が実施されている。従前報告の中では城下町遺跡北側の北口二丁目（桜シルク跡）地点（2）で城下町北辺の二の堀跡、土塁などが検出されている。また、城下町遺跡南側の集会所建設工事に伴う調査地点（3）では城下町南端の二の堀跡のほか上水跡などが検出されている。当調査地点の北東に隣接する甲府古紅梅地区市街地再開発に伴う調査地点（4）では上水跡などが検出されている。また、北側の甲府駅周辺土地区画整理事業（舞鶴城公園西通り線）に伴う調査地点（5）では甲府城内堀の中で甲府城石垣が検出されている。

この他にも二の堀で区画された町人地内、更に二の堀の外側の範囲も含めて甲府城下町遺跡では40地点以上での発掘調査が実施されている。

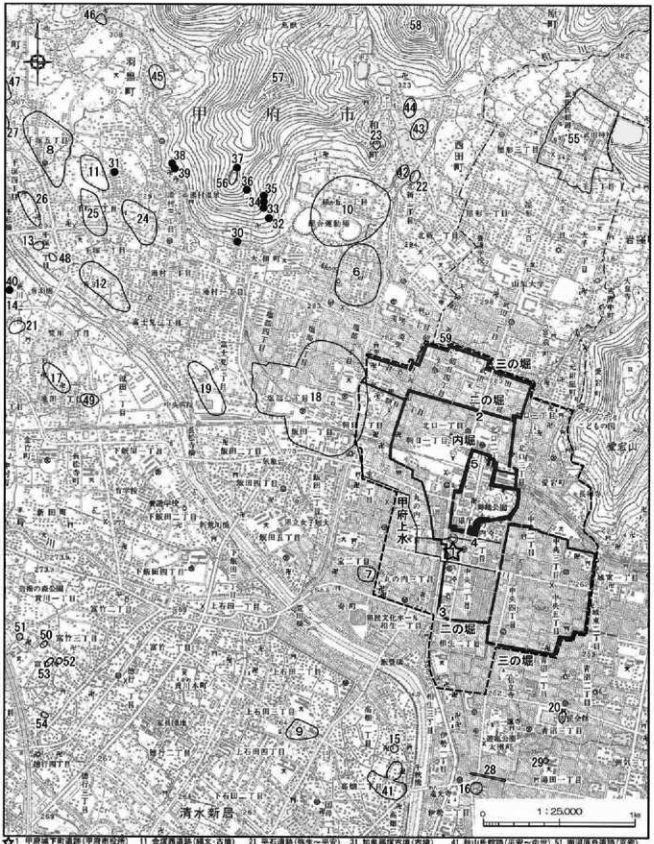
次に、甲府城下町遺跡周辺を時代を追って見ると、古くは旧石器時代の様子を伝えるものとして、相川の河床からナウマンゾウの臼歯の化石が出土している。続く縄文時代の遺跡として緑ヶ丘一丁目遺跡（6）、宝町遺跡（7）、榎田遺跡（8）から縄文時代前期の遺物が出土している。上石田遺跡（9）では縄文時代中期の遺構が確認されている。その他にも縄文時代の遺跡として緑ヶ丘二丁目遺跡（10）、金塚西遺跡（11）、音羽遺跡（12）、西大阪A遺跡（13）、西河原遺跡（20）、平石遺跡（21）、向田A遺跡（22）、三光寺山遺跡（23）、八幡東遺跡（24）、神山遺跡（25）、塩部遺跡（26）、天神北遺跡（27）、伊勢町遺跡（28）、湯田町遺跡（29）などがある。塩部遺跡（18）、榎田遺跡（8）、音羽遺跡（12）、青沼遺跡（20）では弥生時代から平安時代までの集落が出土している。富士見遺跡（19）では古墳時代前期の水田跡が検出されている。また、榎田遺跡（8）、塩部遺跡（18）では弥生時代から古墳時代前期の方形周溝墓も検出されている。平石遺跡（21）で検出された古墳時代後期の溝跡は祭祀関連遺構と推定されている。

また甲府城下町遺跡の北西側の湯村山周辺や千塚地域では古墳時代後期の大型の古墳が多く確認、もしくは存在していたことが推定されている。6世紀中葉の築造と考えられ初期横穴式石室を持つ円墳の万寿森古墳（東西約31m、南北約38m、高さ約5m）（30）、6世紀後半の築造と考えられ石室全長16.75mという大型の横穴式石室を持つ円墳の加牟那塚古墳（直径約45m、高さ約7m）（31）などが表とされる。その他にも積石塚で円墳の湯村山一号墳（直径約15m、高さ約2.5m）（32）、円墳の湯村山二号墳（直径約14.5m、高さ約5.5m）（33）、円墳の湯村山三号墳（直径約15.3m、高さ約2.5m）（34）、円墳の湯村山四号墳（直径約14.3m、高さ約2.5m）（35）、円墳の湯村山五号墳（直径約13m）（36）、円墳の湯村山六号墳（直径約10.4m）（37）、円墳の大平一号墳（直径約20m）（38）、円墳の大平二号墳（直径約15.9m、高さ約2.2m）（39）などがある。また塩部遺跡西側の荒川河畔にも穴塚古墳（40）がある。

山梨県内で3位の石室規模を誇る万寿森古墳（30）、2位の加牟那塚古墳（31）のほか多くの大型古墳が所在する本地域は、甲府盆地東部の御坂町井之上に所在する、県内で1位の姥塚古墳（6世紀後半築造、円墳、直径約40m、高さ約10m、石室全長17.54m）を代表とする錦生古墳群の地域とともに、甲府盆地を東西に二分する勢力が存在した地域といえる。

奈良・平安時代の遺跡として榎田遺跡（8）、音羽遺跡（12）、塩部遺跡（18）、青沼遺跡（20）、平石遺跡（21）、秋山氏館跡（41）、付之内遺跡（42）、水井遺跡（43）、十二天遺跡（44）、天神半遺跡（45）、若宮前遺跡（46）、御蔵遺跡（47）、西大阪B遺跡（48）、前田遺跡（49）、南河原A遺跡（50）、南河原B遺跡（51）、南河原C遺跡（52）、南河原D遺跡（53）、村西遺跡（54）がある。

中世の遺跡として秋山氏館跡（41）、武田氏館跡（55）、湯村山城（56）、法泉寺山の烽火台（57）、小松山の烽火台（58）、武田城下町遺跡（59）がある。



☆1 甲府城下町遺跡(甲府市役所)
2 甲府城下町遺跡(北口二丁目)
3 甲府城下町遺跡(善会寺)
4 甲府城下町遺跡(紅梅地区)
5 甲府城下町遺跡(甲府駅周辺)
6 稚ヶ丘二丁目遺跡(縄文～平安)
7 宝町遺跡(縄文・平安)
8 板垣遺跡(縄文～平安)
9 上石田遺跡(縄文)
10 稚ヶ丘二丁目遺跡(縄文～平安)
11 金澤西遺跡(縄文・古墳)
12 菅沢遺跡(縄文～平安)
13 西大原A遺跡(縄文)
14 西岡原遺跡(縄文・平安)
15 宝北遺跡(縄文・平安)
16 金刺工場遺跡(縄文～弥生)
17 荒村村上遺跡(縄文・平安)
18 塩部遺跡(弥生～平安)
19 富士見遺跡(古墳～平安)
20 青沼遺跡(古墳～平安)
21 中石遺跡(弥生～平安)
22 向田A遺跡(弥生～古墳)
23 三光寺山遺跡(古墳)
24 八幡東遺跡(弥生～古墳)
25 神田遺跡(弥生～平安)
26 鉄部遺跡(古墳)
27 天神北遺跡(古墳・平安)
28 伊勢町遺跡(古墳)
29 酒田町遺跡(古墳)
30 万寿森古墳(古墳)
31 加牟婆塚古墳(古墳)
32 湯村山一号墳(古墳)
33 湯村山二号墳(古墳)
34 湯村山三号墳(古墳)
35 湯村山四号墳(古墳)
36 湯村山五号墳(古墳)
37 湯村山六号墳(古墳)
38 大平一号墳(古墳)
39 大平二号墳(古墳)
40 穴塚古墳(古墳)
41 秋山氏館跡(平安～中世)
42 村之内遺跡(古墳～平安)
43 糸井遺跡(古墳～平安)
44 十二天遺跡(平安)
45 天神平遺跡(平安)
46 蓮実町遺跡(平安)
47 御嶽遺跡(古墳・平安)
48 西大坂B遺跡(平安)
49 敷地遺跡(平安)
50 南河原A遺跡(平安)
51 南河原B遺跡(平安)
52 南河原C遺跡(平安)
53 南河原D遺跡(平安)
54 村西遺跡(縄文・平安)
55 武田氏館跡(中世)
56 湯村山城(中世)
57 法泉寺山の烽火台(中世)
58 小松山の烽火台(中世)
59 武田城下町遺跡(中世)
※1～ 5m

図3　甲府城下町遺跡周辺の遺跡分布

第３章　調査方法と基本層序

第１節　調査方法

発掘調査は平成22年11月９日から翌年３月22日まで実施した。11月10日から12日、11月29日から12月１日に仮囲い設置工事を段階的に実施し、安全を確保した区域について11月16日から12月６日に重機による表土除去を行った。11月18日から人力による遺構・遺物の検出を開始した。

遺構・遺物の精査に当たり調査区に調査区北西の座標値X－－37435、Y－6150を起点として５m方眼のグリッドを設定した（図４）。グリッドの呼称は南北にアルファベット、東西に数字の名称を付して「A１グリッド」のように称した。遺構は検出順に番号を付した。遺構の位置、形状、土層断面はトータルステーションと手実測を併用して記録した。手実測の記録は10分の１、もしくは20分の１で図面を作成した。

包含層及び遺構から検出された遺物は順に番号を付して、トータルステーションを使用して位置を記録した。小破片については各遺構又はグリッドの一括出土遺物として取り上げた。遺構・遺物の写真撮影は35mm判カメラ（カラーネガ）と一眼レフデジタルカメラを使用した。

平成23年１月25日に１回目の空中撮影を実施、２月21日から22日に重機による表土除去および深堀を実施、３月16日に２回目の空中撮影を実施、３月17日から重機による井戸立ち割りおよび埋め戻しを実施した。遺構や遺物出土地点等の記録作業は、写真撮影、実測、測量等により適宜実施した。

整理作業は発掘調査と並行して出土遺物の洗浄・注記を開始し、接合、実測遺物の選定、実測・トレース作業を行った。遺物の実測は手実測と写真実測を併用し、手実測の図面はデジタルトレースをした。発掘調査時に遺構を記録した手実測図面もトレースはデジタルトレースを行った。遺物の写真撮影は一眼レフデジタルカメラを使用した。

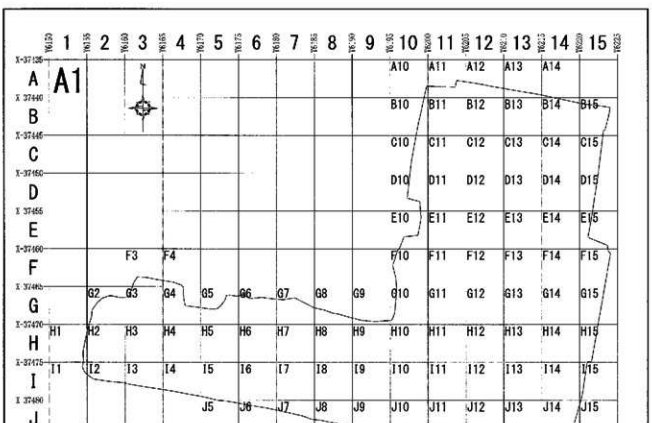


図４　グリッド配置図

第2節　基本層序

基本土層はD 15グリッドの調査区東壁で確認した。1層はコンクリート、2・3層は盛土で何れも現代の建物に関するものである。4層から6層が遺物が検出される遺構確認面である。以下に各層の説明を記す。

1　厚さ20㎝のコンクリートと砂礫層。
　20㎝大の円礫を含む。
2　暗褐色10YR3/3シルト。しまり強。粘性中。
　2～5㎝の円礫を40%含む。
3　褐色10YR4/6シルト。しまり強。粘性中。
4　黒褐色10YR3/2シルト。粘性中。
　細粒砂10%、2～10㎜の炭化物5%を含む。
5　黒色10YR3/1シルト。しまり強。粘性強。
　2～10㎜の炭化物10%を含む。
6　灰褐色7.5YR4/2粘土。しまり強。粘性強。
　2～3㎜の黄色土粒5%、2～5㎜の炭化物3%を含む。
7　灰黄褐色10YR4/2粘土。しまり強。粘性強。
　明黄褐色土40%、2～5㎝の亜円礫10%を含む。
8　灰黄褐色10YR4/2粘土。しまり強。粘性強。
　明黄褐色土50%、2～5㎝の亜角礫20%を含む。
9　灰褐色7.5YR4/2粘土。褐色土40%を含む。
10　明黄褐色10YR6/8シルト。しまり強。粘性中。
　褐灰色土20%、2～5㎜の赤色土粒2%を含む。
11　明黄褐色10YR6/8シルト。しまり強。粘性中。
　1～5㎝の亜円礫10%を含む。

写真5　基本層序　西から

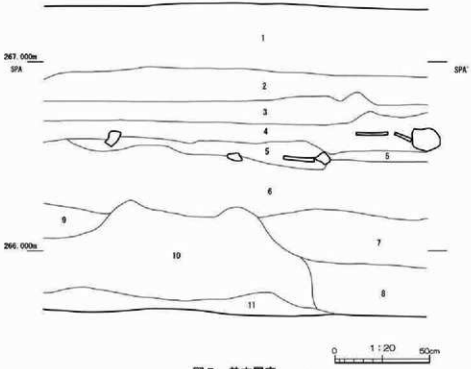


図5　基本層序

第４章　調査成果

第１節　発掘調査の概要

発掘調査では近世から近代の遺構・遺物が出土した。検出された遺構は山梨県庁基礎 17 条、建物跡１棟、溝 12 条、井戸３基、池１基、土坑 39 基、ピット 59 基、集石２箇所、有機物集中地点１箇所である（図６）。集石は３㎝前後の小礫が敷き詰められている箇所で１箇所は飛石列１条、もう１箇所は礎

写真６　調査区全景　南から　　甲府城と秩父山地を望む

写真７　調査区全景

1号機物集中
県庁1基礎
県庁2基礎
県庁3基礎
県庁4基礎
県庁5基礎
県庁9基礎
県庁10基礎
県庁11基礎
県庁12基礎
県庁13基礎
県庁14基礎
県庁15基礎
県庁16基礎
県庁17基礎
1集石
2集石
1井
2井
1:300
10m

図6　調査区全体図

石列2条を伴い検出された。

遺物は磁器、陶器、土器、木製品、古銭、金属製品、石製品、土製品、ガラス製品、瓦、動植物遺体などが出土している。以下に各遺構を出土遺物とともに詳述する。

第2節　建物跡

1．山梨県庁基礎（図7）

明治10年建築の山梨県庁基礎を17条検出した。F 12からＩ３グリッドに位置する。検出範囲で東西45 m、南北21 mである。平面形はE字形でいわゆる内務省型と呼ばれるものである。方向はN-10°-Eで南を正面としている。検出部位はEの字の中央部に突出した正面玄関部と、右翼部の角・左翼部廊下の一部である。基礎の構造は溝の底面に杭を打ち込み、杭上に枕木を乗せ、枕木上に胴木を渡している。胴木の上に根石、礎石と積み上げて、周囲を玉石や割石で充填している。

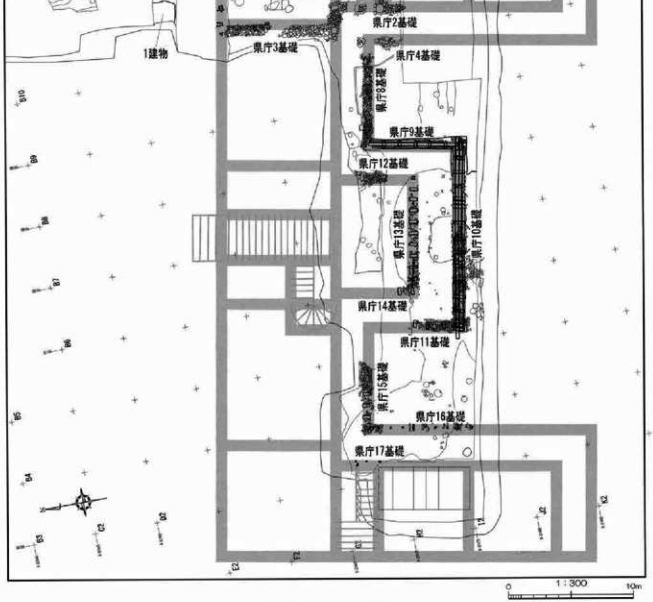


図7　山梨県庁全体図

1号基礎（図８～10）

F 12からＪ 11グリッドに位置する。E字形庁舎の右翼部の礎に当たる。建物東壁の基礎である。南北方向に延び、検出範囲で長さ 14.4 m、幅1.2 mである。北側は庁舎の北東角になり東西方向の５号基礎と接続している。５号基礎と接続する角部分

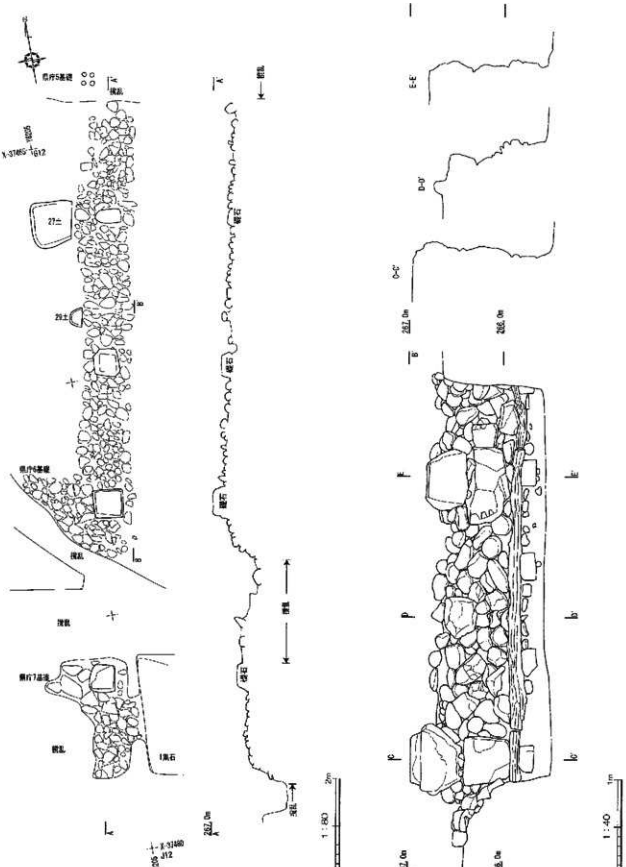


図８　県庁１号基礎

写真８　県庁１～８号基礎

写真９　県庁１号基礎　東から

写真10　県庁１号基礎　東から

写真11　県庁１号基礎　手違錠

は撹乱を受けているが、基礎構造最下部の杭のみ検出することが出来た。中間部の一部と南側は撹乱され消失している。中間部では東西方向に延びる６号基礎、７号基礎と接続している。１号基礎では礎石、玉石、根石、胴木、枕木を検出した。枕木上に胴木を渡し、胴木の上に根石、礎石と積み上げて、周囲を玉石や割石で充填している構造を確認した。胴木、枕木はアカマツが使用されている。胴木と枕木は手違錠で固定されていた。

礎石の上面から枕木の下面までの深さは約1.4ｍである。枕木の厚さは約20㎝、胴木の厚さは約15㎝である。12号基礎での確認状況から、この枕木の下には更に長さ１ｍ程度の杭が打ち込まれていると推察できる。礎石、根石には加工が認められた。２寸幅の矢穴も観察できた。庁舎全体として見ると、多くの礎石は加工されているが、形状に規格性は認められなかった。このことから、礎石、根石は転用品として使用された可能性が考えられる。

１号基礎では礎石は４個検出された。北側３個の礎石の間隔は約３ｍである。南側の礎石の間隔は約3.8ｍで、ここは階段が設置されていた箇所に当たる。他の遺構との切り合い関係は１号基礎が27号土坑、29号土坑、１号集石を切っている。

出土遺物の多くは詰め込まれた玉石の上面で検出されている。県庁建設時に玉石に被せられた土壌に包含され二次堆積したものが多いと考えられる。遺物は磁器18点（１～18）、陶器11点（19～29）、ガラス製品２点（30～31）、金属製品３点（32～34）、瓦２点（35～36）を図示した。磁器：１～８は丸碗、９～11は端反碗、12～14は碗、15～17は皿、18は瓶である。陶器：19・20は灯明受皿、22は行平鍋、23は土瓶蓋、24は土瓶、25は瓶、26は鉢、27・28は擂鉢、29は乗燭である。ガラス製品：30は栓、31は蓋である。金属製品：32は釘、33は手違錠である。33は県庁基礎の胴木と枕木を固定した状態で出土した。瓦：35は軒桟瓦である。

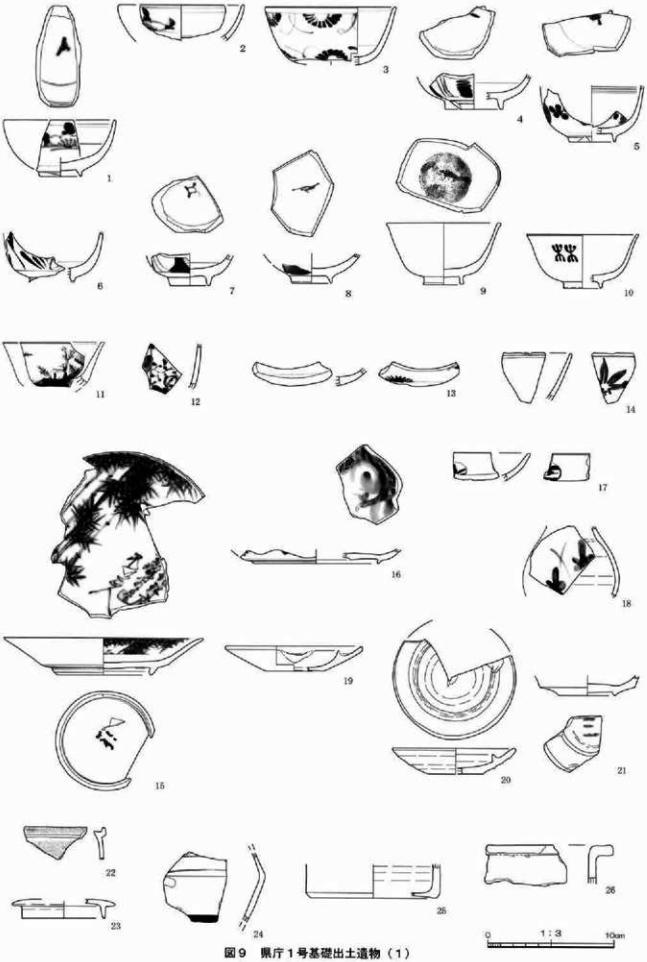


図９　県庁１号基礎出土遺物（１）

図10　県庁１号基礎出土遺物（２）

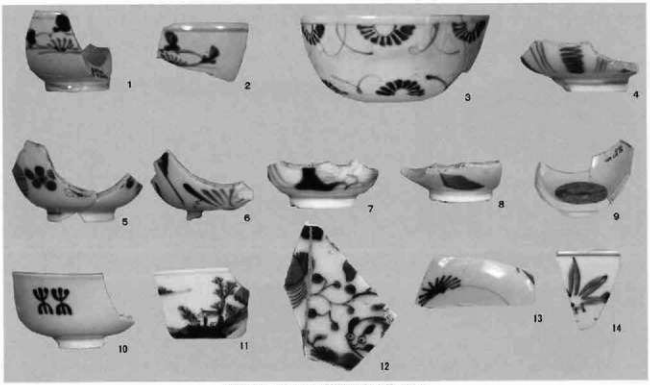


写真12　県庁１号基礎出土遺物（１）

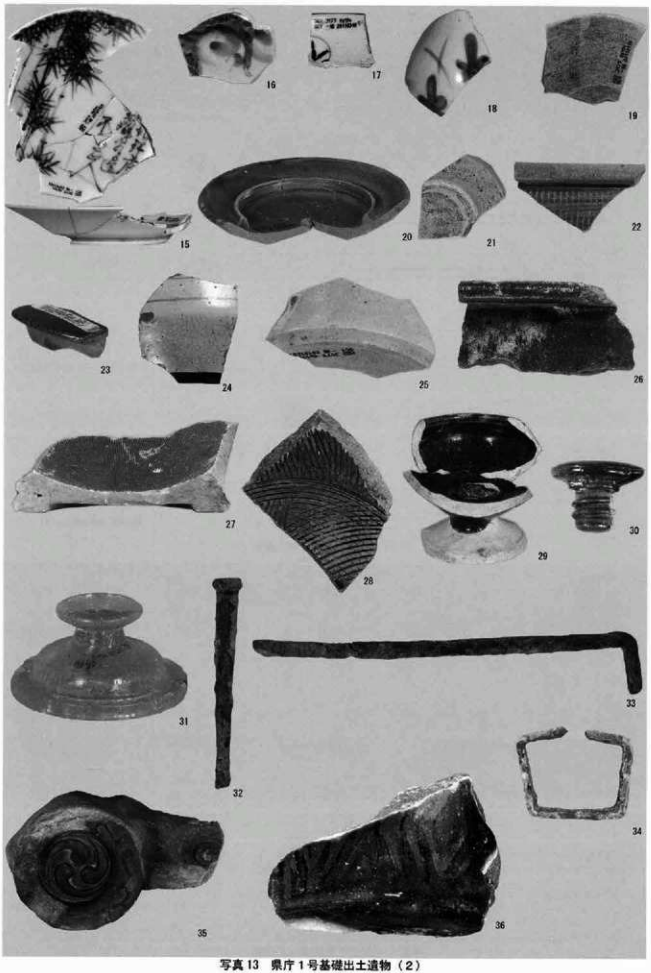


写真13　県庁1号基礎出土遺物（2）

２号基礎（図 11・12）

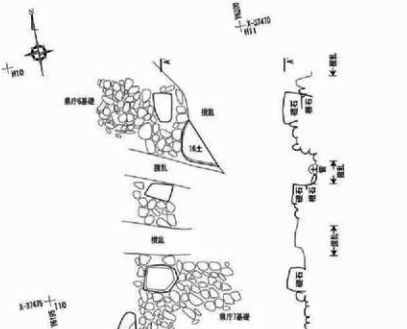
Ｈ 10 からＩ 10 グリッドに位置する。Ｅ字形庁舎の右翼部に当たる。右翼部西壁の基礎である。南北方向に延び、検出範囲で長さ６ｍ、幅 0.8 ｍである。北側は右翼突出部の付け根になり東西方向の６号基礎と接続している。中間部の一部と南側は攪乱され消失している。中間部では東西方向に延びる７号基礎と接続している。２号基礎では礎石、玉石、根石、胴木、枕木を検出した。土層断面では胴木を設置する深さまでは幅広に溝を掘り、枕木の部分だけ枕木の幅に合わせてもう一段掘り込んでいる様子が確認できた。玉石の下にある胴木、枕木の周囲の土層は、水分を多く含み暗渠のような状態であった。

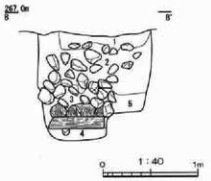
礎石の上面から枕木の下面までの深さは約 1.3 ｍである。枕木の厚さは約 15 ㎝、胴木の厚さは約 12 ㎝である。礎石、根石には加工が認められた。

２号基礎では礎石は３個検出された。３個の礎石の間隔は約 1.9 ｍである。ここは階段の上り口が設置されていた箇所に当たる。他の遺構との切り合い関係は２号基礎が 15 号土坑を切っている。

出土遺物は詰め込まれた玉石の上面で検出されている。県庁建設時に玉石に被せられた土壌に包含され二次堆積したものと考えられる。遺物は磁器１点（1）、陶器１点（2）を図示した。磁器：１は丸碗である。陶器：２は鉢と思われる。

写真 14　県庁２号基礎　南から　土層断面





1. にぶい黄褐色　10YR4/3　シルト　締り強く、粘性は中。玉石上部の土層。
2. 褐色　10YR4/4　シルト　締り弱く、粘性は中。玉石中間部の土層。
3. 灰色土　10Y5/1　シルト　締まり弱く、粘性は中。玉石下部から胴木周辺の土層で湿り気を帯びる。
4. 黒褐色　10YR3/2　粘土　締り強く、粘性は強。枕木以下の土層で水分が多く泥化している。
5. 灰オリーブ色土　7.5Y5/2　シルト　締まり強く、粘性は中。枕木に並行する土層、5㎝大の円礫を10%含む。

図 11　県庁２号基礎

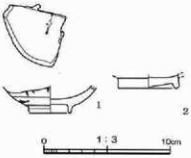


図12　県庁２号基礎出土遺物

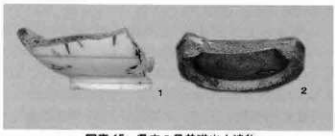
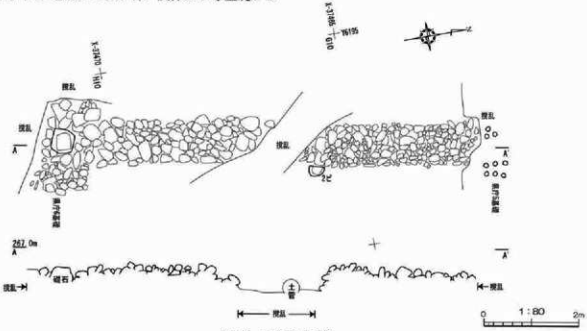


写真15　県庁２号基礎出土遺物

３号基礎（図13・14）

Ｆ10からＨ10グリッドに位置する。Ｅ字形庁舎の右翼部に当たる。南北方向に延び、検出範囲で長さ9.6ｍ、幅0.9ｍである。北側は建物北壁となる東西方向の５号基礎と接続している。中間部の一部が撹乱され、南端もわずかに消失している。南側では東西方向に延びる６号基礎と接続している。３号基礎では礎石、玉石を検出した。礎石は１個検出された。他の遺構との切り合い関係は３号基礎が２号ピットを切っている。

出土遺物は詰め込まれた玉石の上面で検出されている。県庁建設時に玉石に被せられた土壌に包含され二次堆積したものと考えられる。遺物は磁器３点（１～３）、陶器２点（４・５）、銭貨２点（６・７）を図示した。磁器：１は広東碗、２は端反碗、３は皿である。陶器：４は小皿、５は鉢と思われる。銭貨：６・７は寛永通宝である。７は文銭である。


撹乱
撹乱
撹乱

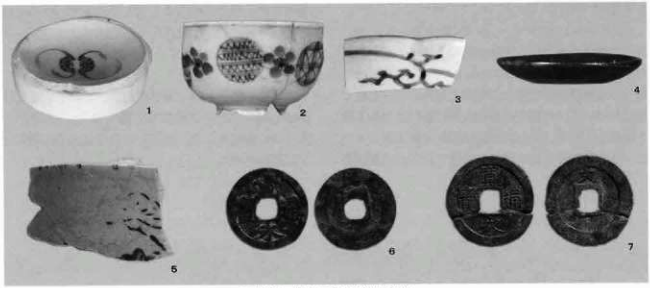
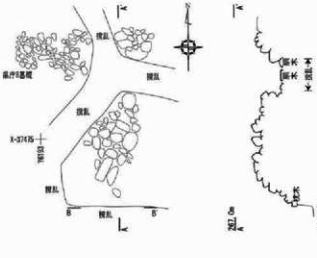


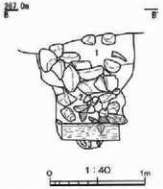
写真16　県庁３号基礎出土遺物

４号基礎（図15・16）

Ｈ９からＩ９グリッドに位置する。Ｅ字形庁舎の右翼部に当たる。右翼部外廊下の基礎である。南北方向に延び、検出範囲で長さ3.5ｍ、幅１ｍである。北側は建物正面の外廊下となる東西方向の８号基礎と接続している。中間部と南側が撹乱され消失している。南側では東西方向に延びる６号基礎と接続している。４号基礎では玉石、胴木、枕木を検出した。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は玉石の上面で検出されている。遺物は磁器１点（１）、陶器１点（２）を図示した。磁器：１は広東碗である。陶器：２は擂鉢である。





1. にぶい黄褐色　10YR4/3　シルト　締り強く、粘性は中。5mm位の炭化物を1%、2~5mmの亜円礫を10%含む。
2. 褐色　10YR4/4　シルト　締り弱く、粘性は中。2~5mm位の炭化物を2%、1~5mmの円礫を3%含む。
3. 黒褐色　10YR3/2　粘土　締り強く、粘性は強。1mm位の炭化粒を1%、1mm位の赤色土粒を1%含む。

図15　県庁４号基礎

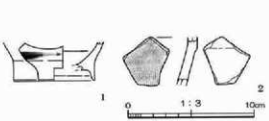


図16　県庁４号基礎出土遺物

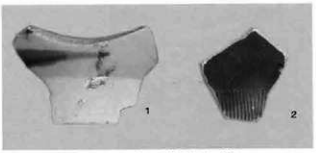


写真17　県庁４号基礎出土遺物

5号基礎（図17・18）

F 10からF 12グリッドに位置する。E字形庁舎の右翼部に当たる。建物北壁の基礎である。東西方向に延び、検出範囲で長さ9.5m、幅0.5mである。東側は建物東壁となる南北方向の1号基礎と接続している。西側では南北方向に延びる3号基礎と接続している。さらに西側は撹乱され消失している。5号基礎は全体に撹乱を受けているが、基礎構造最下部の杭のみ検出することが出来た。他の遺構との切り合い関係は撹乱のため明確ではないが5号基礎が9号溝、19号ピットを切っていたと考えられる。

出土遺物は杭と同一面で検出されているが撹乱の影響も考えられる。遺物は磁器1点（1）、陶器1点（2）を図示した。磁器：1は皿である。陶器：2は擂鉢である。

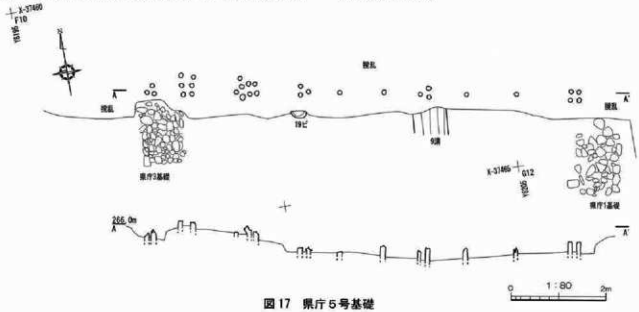


図17　県庁5号基礎

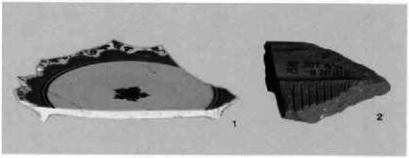


写真18　県庁5号基礎出土遺物

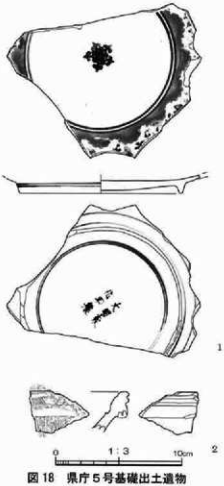


図18　県庁5号基礎出土遺物

6号基礎（図19・20）

H 10からH 12グリッドに位置する。E字形庁舎の右翼部に当たる。右翼部から建物正面の南壁へと続く基礎である。東西方向に延び、検出範囲で長さ10m、幅1mである。東側は建物東壁の1号基礎と接続している。中間部は撹乱され部分的に消失している。西側では南北方向に延びる2号基礎、3号基礎と接続している。さらに西側は撹乱により消失している。

6号基礎では礎石、玉石、根石を検出した。礎石は5個検出された。東側4個の礎石の間隔は約2.5mである。西側2個の礎石の間隔は約1.8mである。他の遺構との切り合い関係は撹乱のため明確ではな

いが6号基礎が16号土坑を切っている。

出土遺物は玉石の上面で検出されている。遺物は磁器6点（1～6）、陶器7点（7～13）、瓦1点（14）を図示した。磁器：1～5は丸碗、6は端反碗である。陶器：7は瓶、8は土瓶蓋、9・10は土瓶、11は鉢、12は擂鉢、13は土管である。瓦：14は軒丸瓦である。

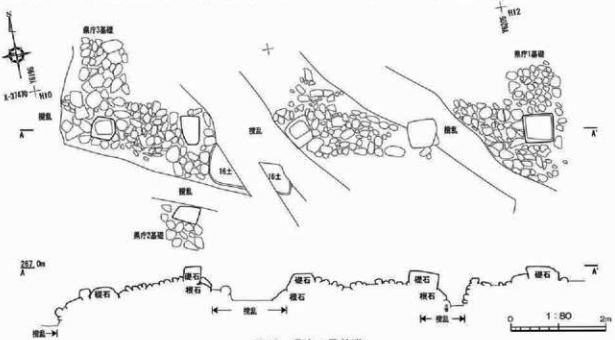


図19　県庁6号基礎

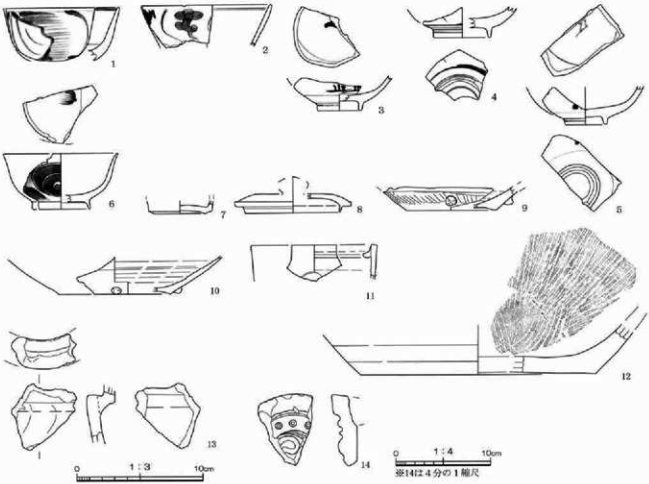


図20　県庁6号基礎出土遺物

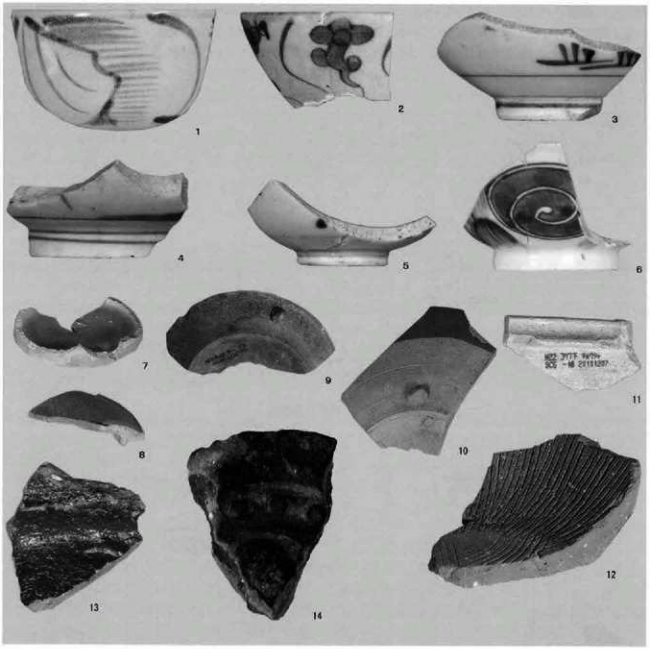


写真19　県庁6号基礎出土遺物

7号基礎（図21・22）

Ⅰ10グリッドに位置する。E字形庁舎の右翼部に当たる。右翼部の階段の基礎である。東西方向に延び、検出範囲で長さ8.4m、幅1.2mである。東側は建物東壁の1号基礎と接続している。中間部は撹乱され部分的に消失している。西側では南北方向に延びる2号基礎と接続している。

7号基礎では礎石、玉石、根石、胴木を検出した。礎石は3個検出された。中間の礎石は撹乱を受けていたが3個の礎石の間隔は約3.7mである。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は玉石の上面で検出されている。遺物は磁器5点（1～5）、陶器4点（6～9）、土器1点（10）、金属製品1点（11）を図示した。磁器：1、3、5は丸碗、4は筒形碗、2は鉢である。陶器:6、8は灯明受付皿、7、9は擂鉢である。土器:10は蓋、金属製品：11は鏡である。

8号基礎（図23・24）

H8からH9グリッドに位置する。E字形庁舎の中央部に当たる。建物正面の外廊下の基礎である。東西方向に延び、検出範囲で長さ8.8m、幅0.8mである。東側で右翼部突出部外廊下の4号基礎と接続する角部が撹乱されている。西側では中央部突出部の玄関の外廊下である9号基礎と接続している。8号基礎から西側の17号基礎までの範囲は甲府水道局の倉庫が建てられていたため礎石などの県

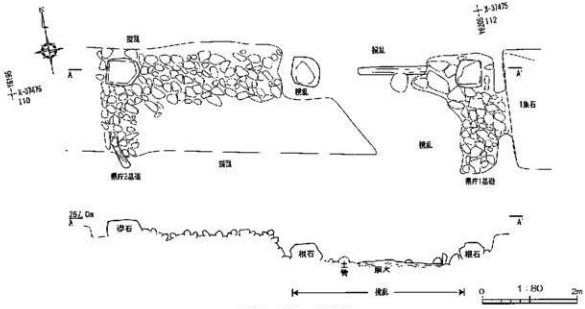


図21　県庁7号基礎

庁基礎上部の多くは撹乱され消失している。

8号基礎では玉石、胴木を検出した。他の遺構との切り合い関係は8号基礎が1号ピットを切っている。

出土遺物は玉石の上面で検出されている。遺物は磁器2点（1・2）を図示した。磁器：1は筒形碗、2は丸碗である。

9号基礎（図25・26）

H8からI8グリッドに位置する。E字形庁舎の中央部に当たる。中央部突出部の玄関部の外廊下の基礎である。南北方向に延び、検出範囲で長さ8.4m、幅0.9mである。北側は東西方向に延びる建物正面部外廊下の8号基礎と接続している。南側では東西方向に延びる中央部突出部の正面玄関の10号基礎と接続している。

9号基礎では胴木、枕木、杭を検出した。胴木は口心に1本の角材を渡し、両脇に1本ずつ丸太材が用いられていた。10号基礎との重なり合う部分では9号基礎の胴木の上半分を抉り込み、鉤の手の受け部が設けられていた。枕木は7個検出された。枕木の間隔は約1.2mである。胴木同士、胴木と枕木は鎹で固定されていた。胴木から枕木の厚さは0.3mである。各枕木の下から杭を検出した。杭は南端の角部では12本打ち込まれ、中間部では3本、その間は1本であった。杭の周囲には玉石が配置されていた。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は胴木脇で出土した陶器と、胴木で使用されていた鎹である。遺物は陶器1点（1）、金属製品3点（2～4）を図示した。陶器：1は皿、金属製品：2～4は鎹である。

10号基礎（図27～30）

I5からI8グリッドに位置する。E字形庁舎の中央部突出部に当たる。正面玄関の基礎である。東西方向に延び、検出範囲で長さ16m、幅1.2mである。東側は南北に延びる9号基礎、西側は11号基礎と接続している。

10号基礎では礎石、根石、玉石、胴木、枕木、杭を検出した。礎石、根石は1個検出された。胴木は中心に2本の角材を渡し、両脇に1本ずつ丸太材が用いられていた。枕木は18個検出された。枕木は角部で2本、中間の2箇所でそれぞれ2本と3本が並べて使用されていた。4か所で枕木と胴木との間にできる隙間を埋めるために板で調整がなされていた。枕木の間隔は約1.2mである。胴木同士、胴木と枕木は鎹で固定されていた。礎石から枕木の厚さは1.1mである。各枕木の下から杭を検出した。杭は複数の枕木を並べて使用している東西の角部と中間部2箇所では12本打ち込まれ、その間は1箇所で2本使用されているのを除いて、1本であった。杭の周囲には玉石が配置されていた。他の遺構との切り合い関係は10号基礎が1号池を切っている。

出土遺物は玉石の上面と、胴木で検出されている。遺物は磁器9点（1～9）、陶器1点（10）、樹脂製品3点（11～13）、金属製品17点、瓦2点を図示した。磁器：1は壺、2は表杯、3は皿、4～7は碗、8は灯明受付皿である。陶器:10は土瓶である。樹脂製品：11は筈、13は札である。金属製品：14～30は胴木で使用された鎹である。瓦：31・32は

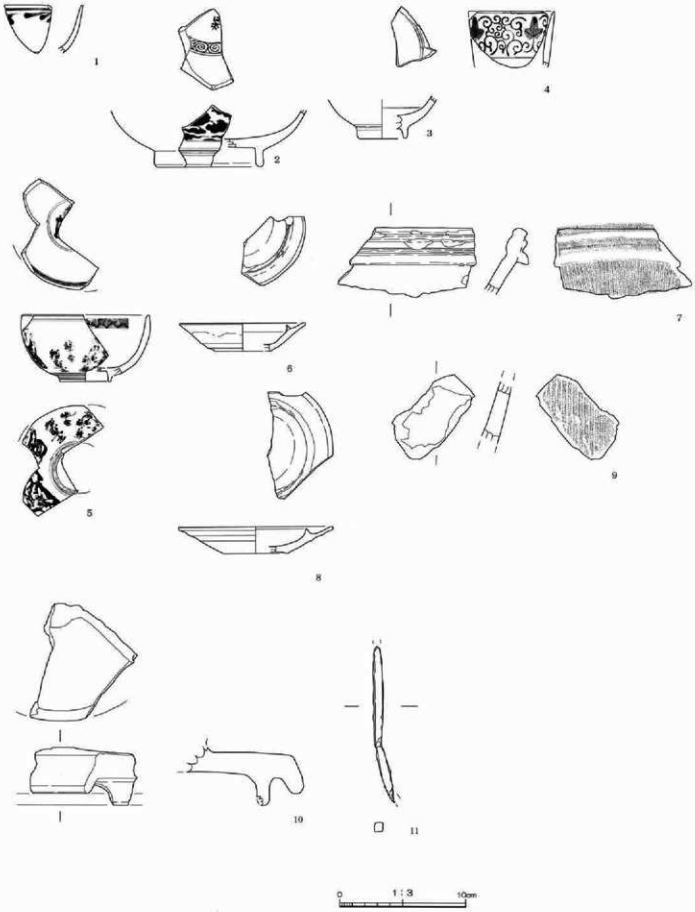


図22　県庁7号基礎出土遺物

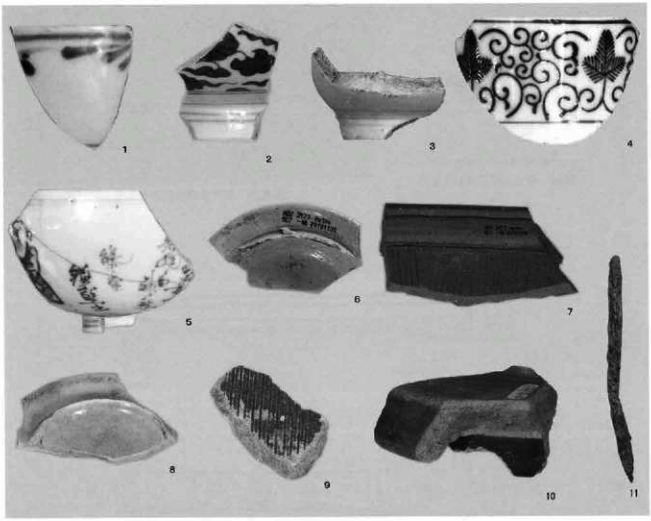


写真20　県庁７号基礎出土遺物

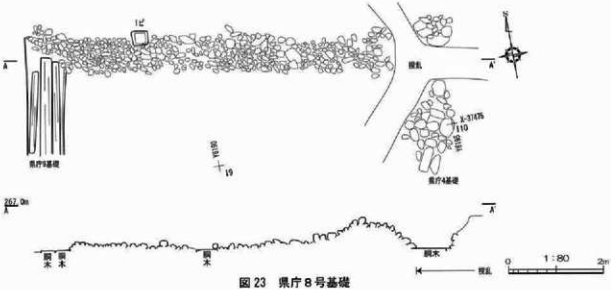


図23　県庁８号基礎

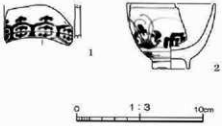


図 24　県庁８号基礎出土遺物

写真 21　県庁８号基礎出土遺物

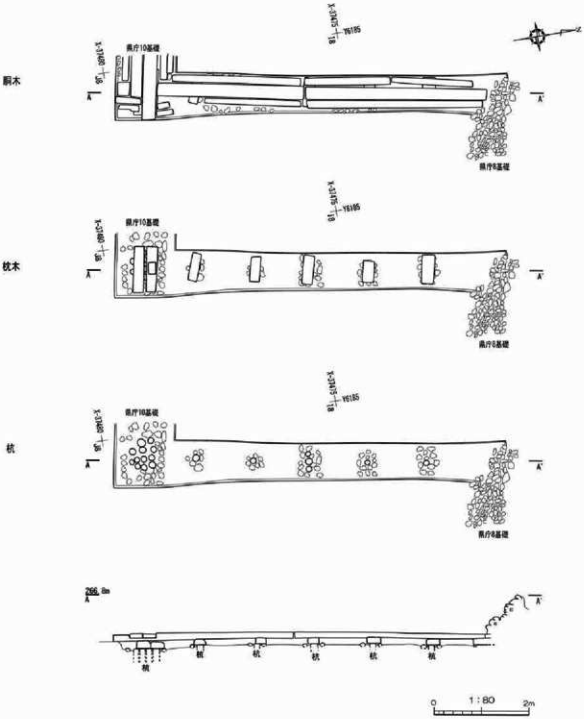


図 25　県庁９号基礎

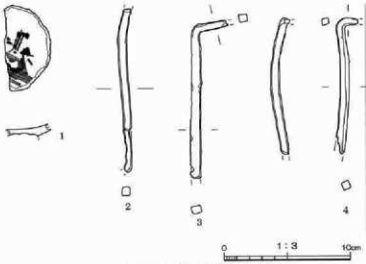


図 26　県庁９号基礎出土遺物

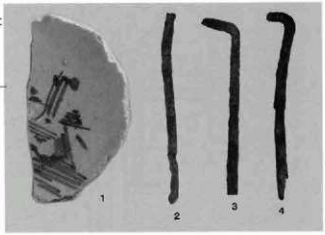


写真 22　県庁９号基礎出土遺物

写真 23　県庁９～15 号　南から

写真 24　県庁基礎胴木　西から

写真 25　県庁基礎枕木　西から

写真 26　県庁基礎杭　西から

写真 27　県庁基礎胴木・鎹　北から

写真 28　県庁基礎杭・玉石　北から

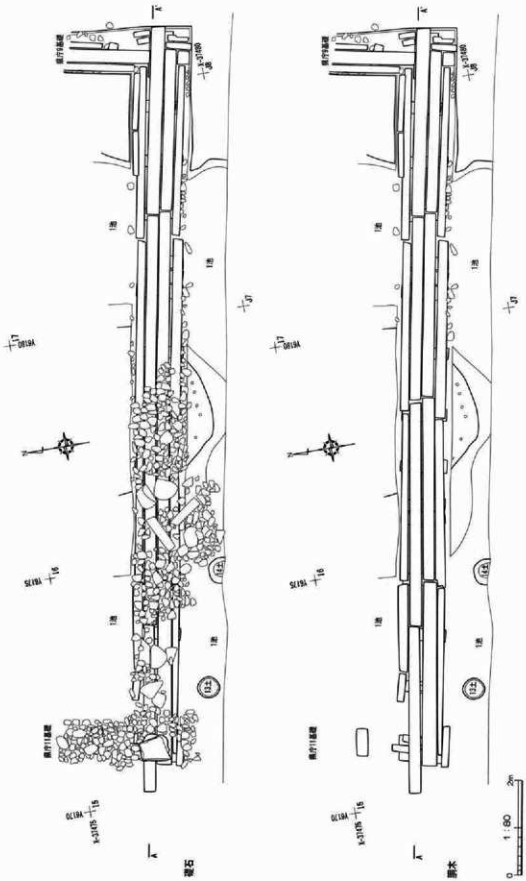


図27　県庁10号基礎（1）

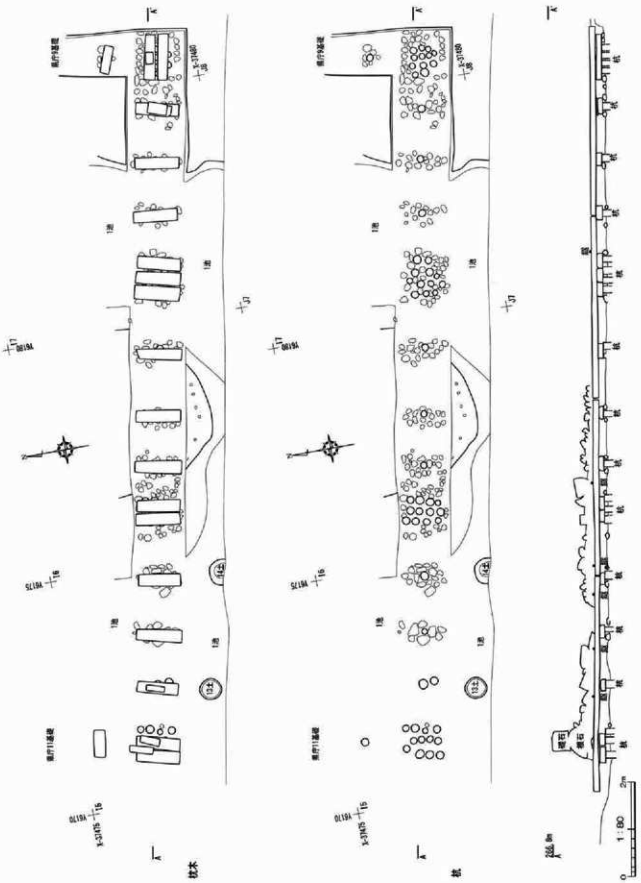


図28　県庁10号基礎（2）

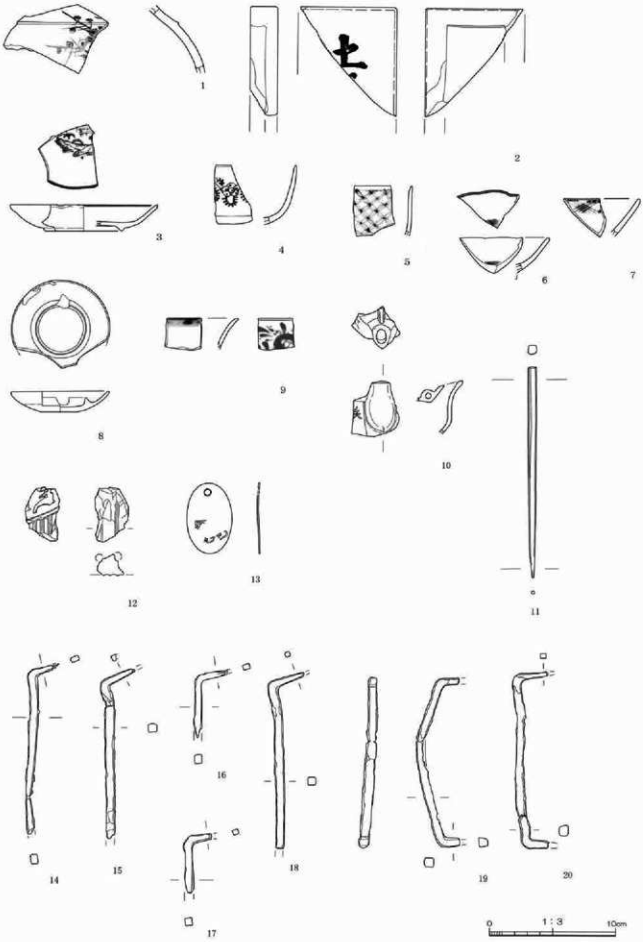


図 29　県庁 10 号基礎出土遺物（1）

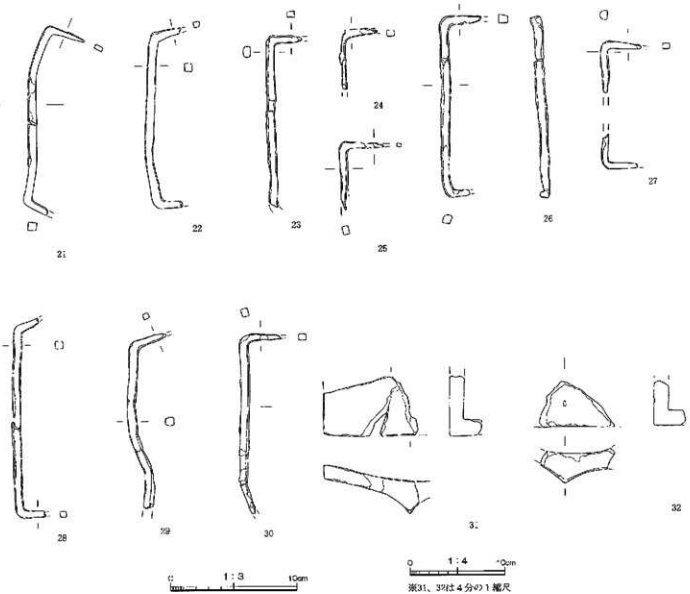


図30　県庁10号基礎出土遺物（2）

軒瓦または軒平滴水状瓦である。

11号基礎（図31・32）

H5からI5グリッドに位置する。E字形庁舎の中央部に当たる。正面玄関の基礎である。南北方向に延び、検出範囲で長さ4.5m、幅0.9mである。南側は10号基礎と接続している。北側は撹乱され消失している。

11号基礎では礎石、根石、玉石、胴木、枕木、杭を検出した。礎石には1個検出された。胴木は腐食が進んでいた。礎石から枕木の厚さは約1mである。礎石には3寸幅の矢穴が確認できた。枕木は5個検出された。枕木の間隔は約1.2mである。各枕木の下からは杭を検出した。杭本数の状況は東西で対をなす9号基礎と同様で角が12本、次いで1本、1本、3本であった。他の遺構との切り合い関係は11号基礎が1号池を切っている。

出土遺物は玉石の上面および枕木で検出されている。遺物は磁器4点（1～4）、陶器6点（5～10）、金属製品1点（11）、瓦1点（12）を図示した。磁器：1は丸碗、2・3は鉢、4は杯である。陶器：5は小坏、6は小皿、7・10は碗、8は瓶、9は鉢である。金属製品：11は鋲、瓦：12は輪違いである。

12号基礎（図33・34）

H7からI7グリッドに位置する。E字形庁舎の中央部に当たる。正面玄関の基礎である。南北方向に延び、検出範囲で長さ4.9m、幅0.9mである。北側は撹乱され消失している。南側では東西方向に延びる13号基礎と接続している。

12号基礎では玉石と杭を検出した。玉石の厚さ

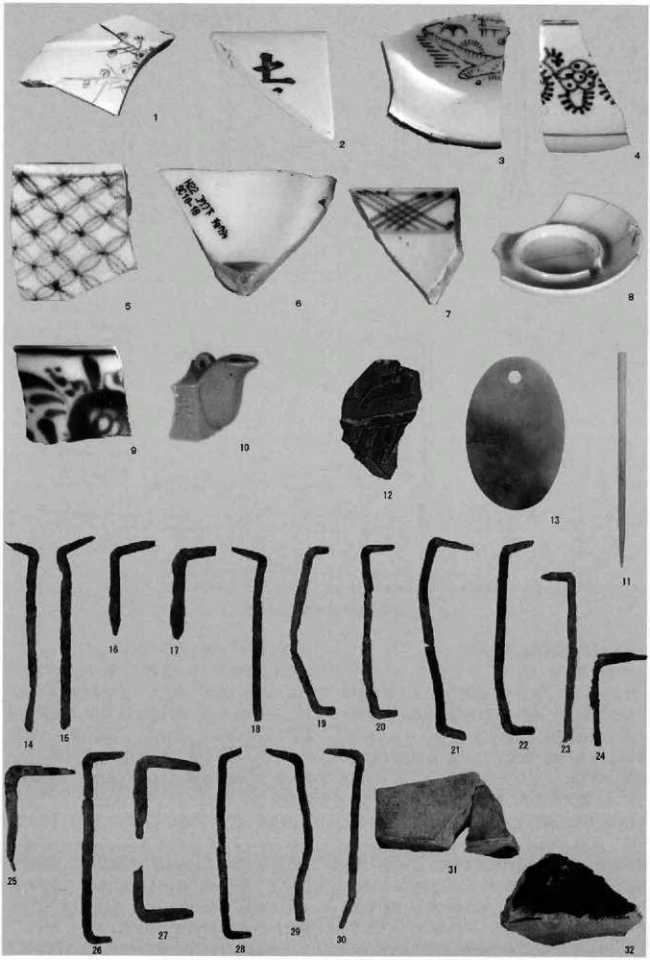


写真 29　県庁 10 号基礎出土遺物

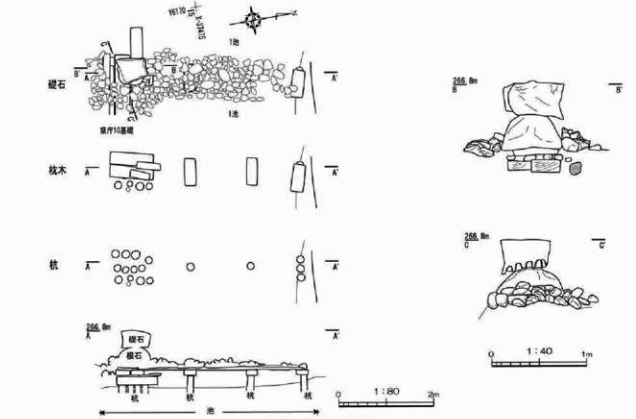


図 31　県庁 11 号基礎

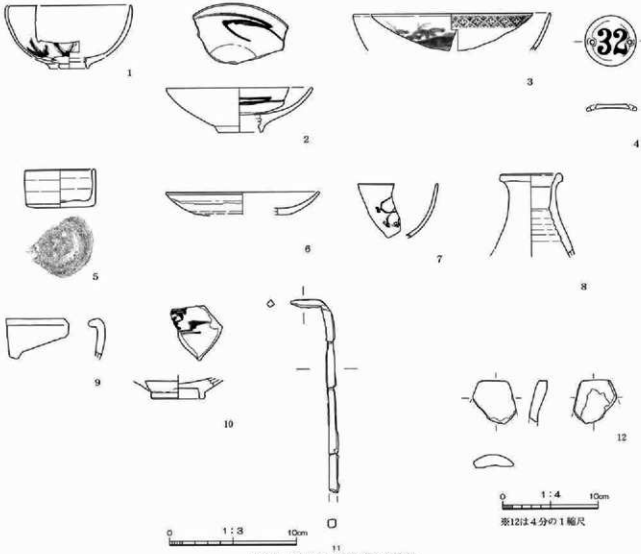


図 32　県庁 11 号基礎出土遺物

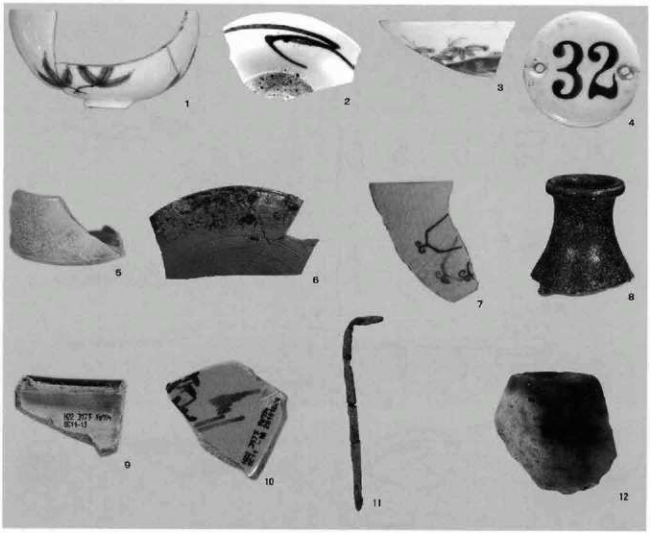


写真 30　県庁 11 号基礎出土遺物

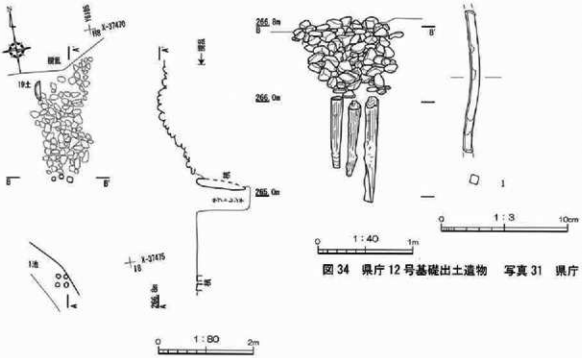
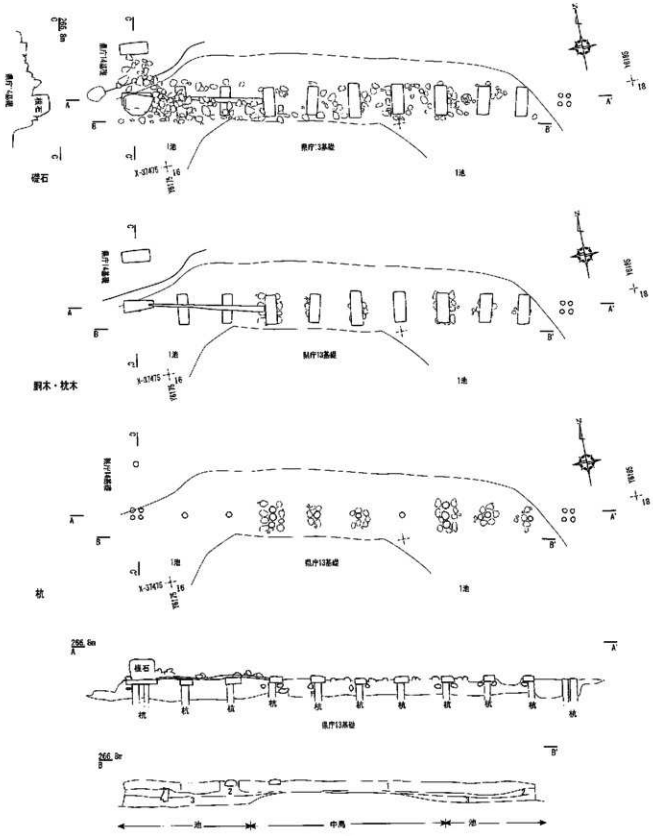
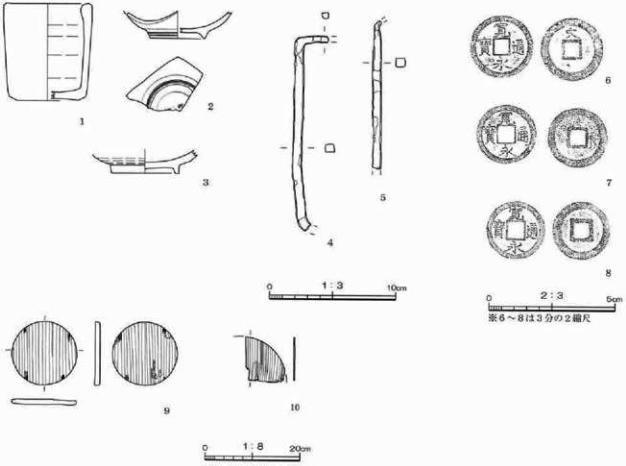


図 33　県庁 12 号基礎

図 34　県庁 12 号基礎出土遺物　写真 31　県庁 12 号基礎出土遺物


礎石
県庁13基礎
1池
X-37475
Y-16
Y-18
X-37476
Y-16
Y-18
A
B
A'
B'
2
1
2
1
2
1



※6～8は3分の2縮尺

※9，10は8分の1縮尺

図36　県庁13号・14号基礎出土遺物

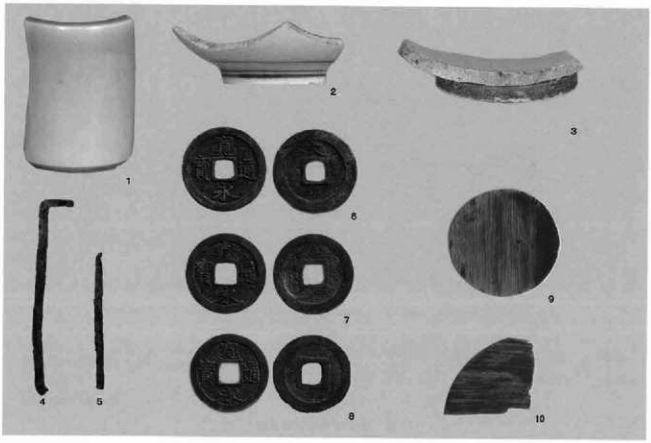


写真32　県庁13号基礎出土遺物

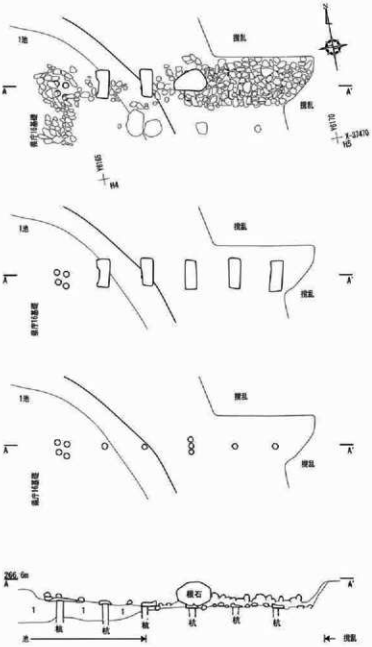


図 37　県庁 15 号基礎

写真 33　県庁 15 号基礎出土遺物

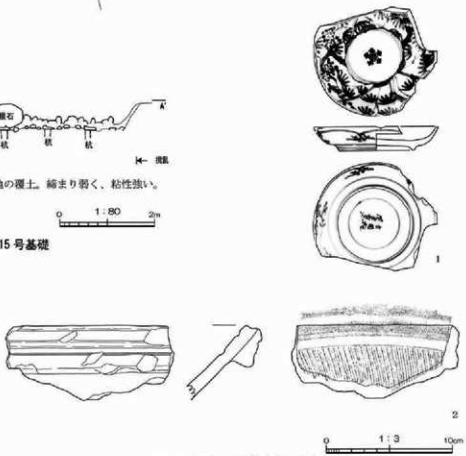


図 38　県庁 15 号基礎出土遺物

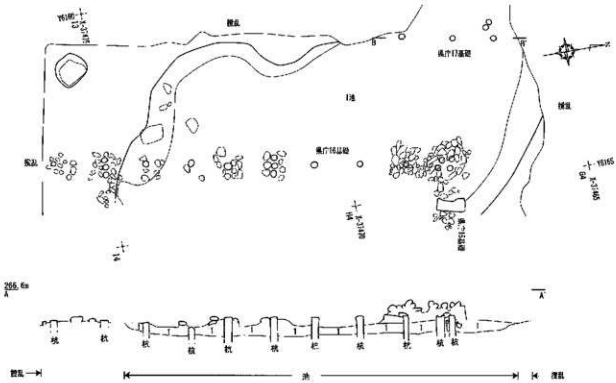


図 39　県庁 16 号・17 号基礎

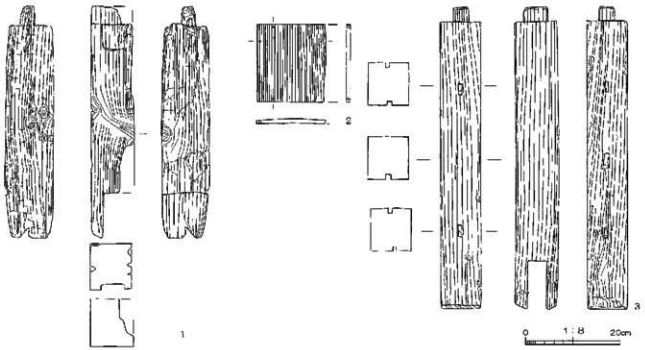


図 40　県庁 16 号基礎出土遺物

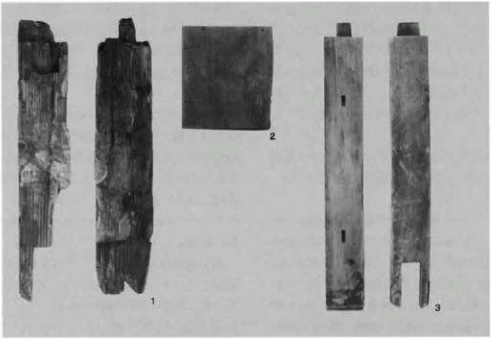


写真 34　県庁 16 号基礎出土遺物

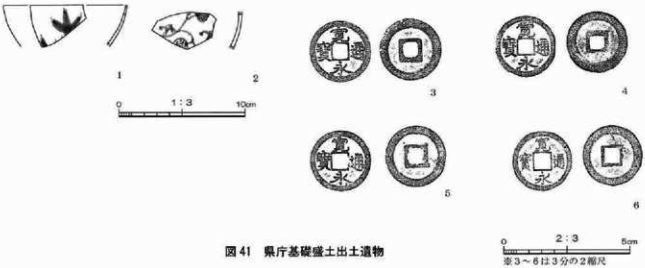


図 41　県庁基礎盛土出土遺物

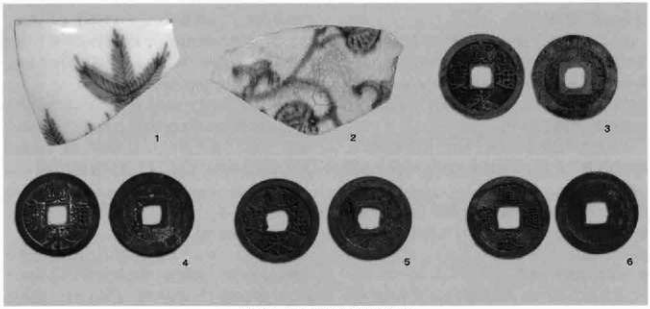


写真 35　県庁基礎盛土出土遺物

は0.8m、杭の長さは0.8～1.1mであった。杭は2箇所検出された。杭の間隔は約2mである。杭本数は南側の角部が4本、北側が3本であった。東西で対をなす14号基礎の状況と比較すると2箇所の杭の中間には1本の杭が存在していたと考えられる。他の遺構との切り合い関係は12号基礎が1号池を切っている。

出土遺物は杭周辺で検出されている。遺物は金属製品1点（1）を図示した。金属製品：1は鏃である。

13号基礎（図35～36）

H6からH7グリッドに位置する。E字形庁舎の中央部に当たる。正面玄関の基礎である。東西方向に延び、検出範囲で長さ9.5m、幅0.8mである。東側は12号基礎、西側は14号基礎と接続している。

13号基礎では根石、玉石、胴木、枕木、杭を検出した。根石は1個検出された。胴木は腐食し原形をとどめていなかった。根石から枕木の厚さは約0.5mである。枕木は10個検出された。東端の角部の枕木は消失していた。枕木の間隔は約1mである。各枕木の下からは杭を検出した。杭本数は東西の角部が4本、中間2箇所が3本、その間は1本であった。杭の利用には玉石が配置されていた。他の遺構との切り合い関係は13号基礎が1号池を切っている。

出土遺物は玉石の上面、基礎盛土、枕木で検出されている。遺物は磁器2点（1・2）、陶器1点（3）、金属製品2点（4・5）、銭貨3点、木製品2点を図示した。磁器：1は香炉、2は丸碗である。陶器：3は碗、金属製品4・5鏡である。銭貨6～8は寛永通宝である。6は文銭である。木製品9・10曲物底である。

14号基礎（図35）

H5グリッドに位置する。E字形庁舎の中央部に当たる。正面玄関の基礎である。南北方向に延び、検出範囲で長さ1.6m、幅0.7mである。北側は撹乱で消失している。南側では東西方向に延びる13号基礎と接続している。

14号基礎では根石、玉石、枕木、杭を検出した。根石は1個、枕木は2個検出された。枕木の間隔は約1mである。各枕木の下からは杭を検出した。杭本数は南側の角部が4本、北側が1本であった。他の遺構との切り合い関係は14号基礎が1号池を切っている。

15号基礎（図37・38）

G3からG4グリッドに位置する。E字形庁舎の中央部に当たる。左翼部から建物正面へと続く外廊下の基礎である。東西方向に延び、検出範囲で長さ5.9m、幅0.9mである。東側は撹乱され消失している。西側では南北方向に延びる16号基礎と接続している。

15号基礎では根石、玉石、枕木、杭を検出した。根石は1個、枕木は5個検出された。根石から枕木の厚さは0.5mである。枕木の間隔は約1mである。各枕木の下からは杭を検出した。杭の本数は西端の角部が4本、次いで1本、1本、3本、1本、1本であった。他の遺構との切り合い関係は15号基礎が1号池を切っている。

出土遺物は玉石の上面で検出されている。遺物は磁器1点（1）、陶器1点（2）を図示した。磁器：1は皿、陶器：2は擂鉢である。

16号基礎（図39・40）

G3からI3グリッドに位置する。E字形庁舎の左翼部に当たる。左翼部突出部の外廊下の基礎である。南北方向に延び、検出範囲で長さ8.8m、幅0.8mである。北側は15号基礎と接続している。南側は撹乱され消失している。

16号基礎では玉石、杭を検出した。杭は10箇所検出された。杭の間隔は約1mである。杭の本数は北端の角部が4本、次いで1本、1本、1本、3本、1本、1本、3本、1本であった。他の遺構との切り合い関係は16号基礎が1号池を切っている。

出土遺物は杭周辺で検出されている。遺物は木製品3点（1～3）を図示した。木製品：1・3は角材で継手を持つ。2は板材で縁辺部に竹釘が打ち込まれている。

17号基礎（図39）

G3グリッドに位置する。E字形庁舎の左翼部に当たる。左翼部突出部の南北に延びる礎面の基礎である。検出範囲で長さ2.1m、幅0.5mである。南北両側を撹乱で消失している。

17号基礎では杭を検出した。杭は3個所検出された。杭の間隔は約1mである。杭の本数は南から1本、1本、3本であるが、3本配列は1号池の杭と県庁基礎の杭が混在している可能性も考えられる。他の遺構との切り合い関係は17号基礎が1号池を切っている。

基礎盛土（図41）

G3からI7グリッドに位置する。E字形庁舎の右翼部に当たる。県庁と1号池が重なり合う辺りでは、基礎列の覆土が基礎列間にも検出され、面的に

盛土もしくは土壌改良を行っていると考えられる状況が確認された。　出土遺物は盛土中で検出されている。遺物は磁器１点（１）、陶器２点（２）、銭貨４点（３～６）を図示した。磁器：１は丸碗、陶器：２は丸碗である。銭貨：３～６は寛永通宝である。

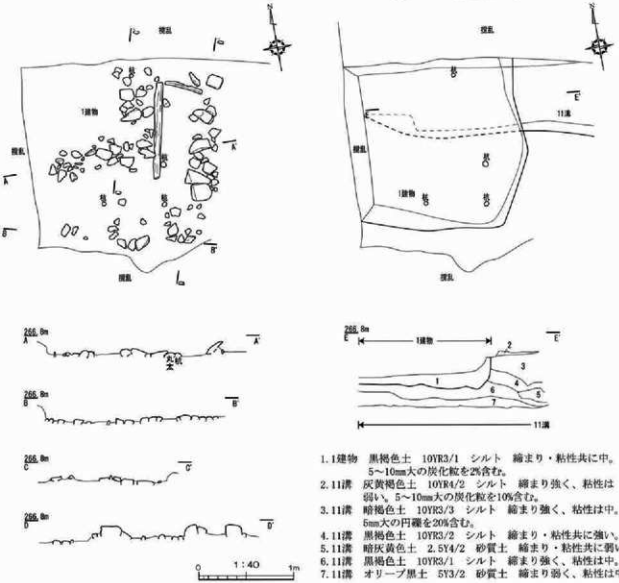
２．建物跡

１号建物跡（図42・43）

Ｅ10からＥ11グリッドに位置する。検出範囲で南北1.8ｍ、東西1.8ｍである。北側および西側は撹乱され消失している。比較的平たく割られた石を使用した石列を２条検出した。石列は並行し直角に曲がっていて、杭列が伴っており、建物角部の基礎跡と判断した。他の遺構との切り合い関係は１号建物跡が11号溝を切っている。

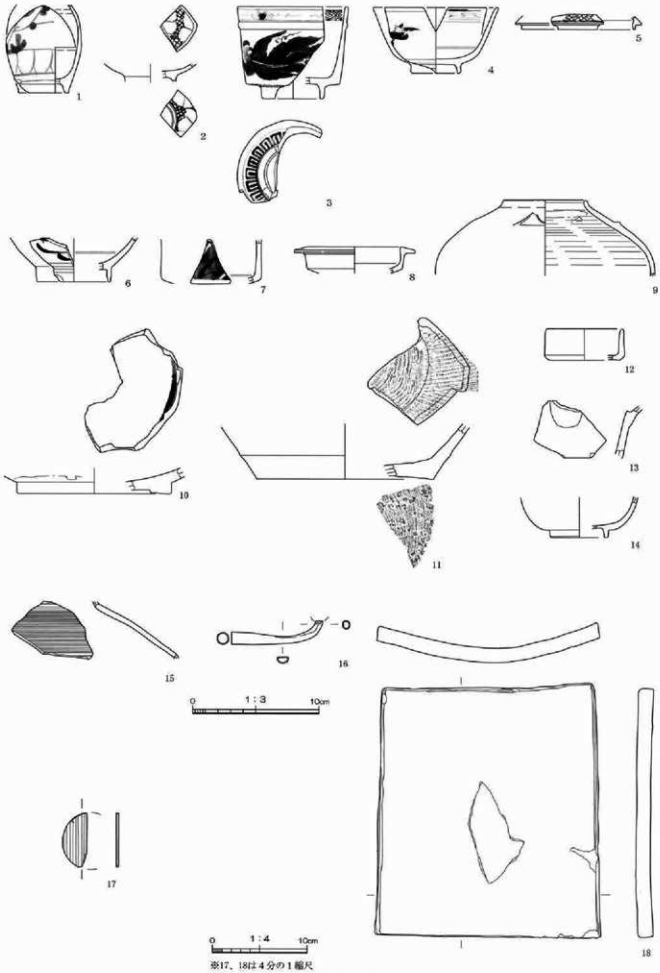
出土遺物は石列周辺で検出されている。遺物は磁器７点（１～７）、陶器８点（８～15）、金属製品１点（16）、木製品１点（17）、瓦１点（18）を図示した。磁器：１は瓶、２は丸碗、３は鉢、４は端反碗、５は蓋、６は広東碗、７は筒形碗である。陶器：８は蓋、９は壺、10は皿、11は擂鉢、12は小坏、14は碗である。金属製品：16は煙管雁首、木製品：17は曲物底板、瓦：18は平瓦である。

写真36　１号建物跡　東から



1.1建物　黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり・粘性共に中。
　　5～10mm大の炭化粒を2%含む。
2.11溝　灰黄褐色土　10YR4/2　シルト　締まり強く、粘性は弱い。5～10mm大の炭化粒を10%含む。
3.11溝　暗褐色土　10YR3/3　シルト　締まり強く、粘性は中。
　　5mm大の円礫を20%含む。
4.11溝　黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり・粘性共に強い。
5.11溝　暗灰黄色土　2.5Y4/2　砂質土　締まり・粘性共に弱い。
6.11溝　黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。
7.11溝　オリーブ黒土　5Y3/2　砂質土　締まり弱く、粘性は中。

図42　１号建物跡



※17、18は4分の1縮尺

図43　1号建物跡出土遺物

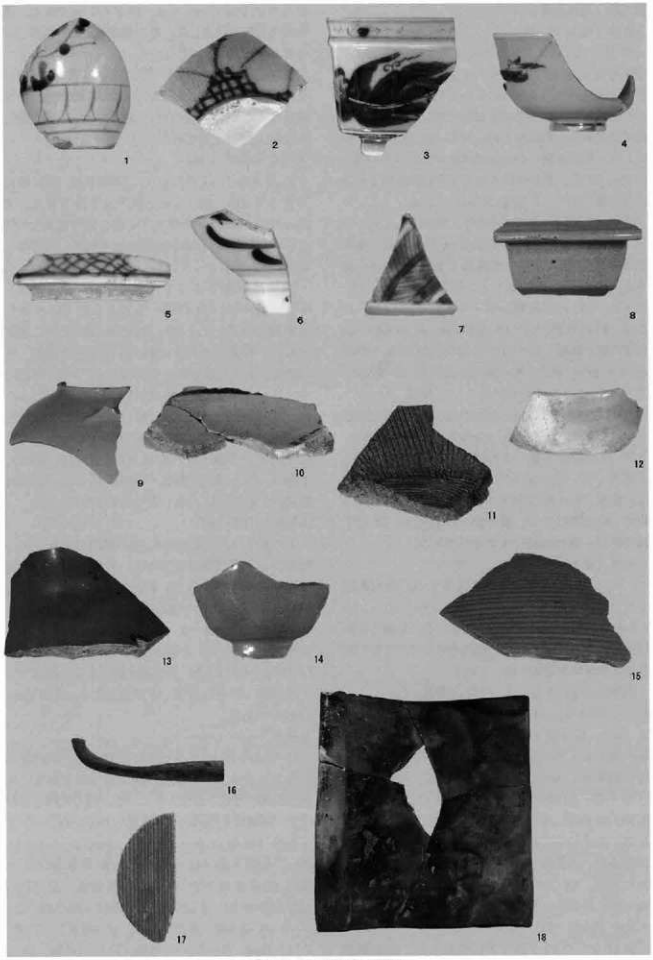


写真 37　1号建物跡出土遺物

第3節　溝状遺構

1号溝（図44～47）

D 11からD 12グリッドに位置する。検出範囲で長さ8.4 m、幅0.5～0.9 m、深さ0.3 mである。東側は撹乱され消失している。西側では溝縁辺沿いに打たれた杭列と、溝縁辺部の石列を検出した。東側では壁面沿いの杭で止められている土留め板を検出した。他の遺構との共伴関係は8号溝が1号溝に合流している。他の遺構との切り合い関係は1号溝が9号溝を切り、2号溝に切られている。

遺物は磁器26点（1～26）、陶器27点（27～53）、土器1点（54）、土製品2点（57・58）、金属製品4点（59～62）、木製品2点（63・64）、瓦3点（65～67）を図示した。磁器：1・4～10・12・14・19～22は碗、2・3・23・25は蓋、11は鉢、15は水滴、16・18・24は皿、17は小坏、26は端反碗。陶器：27・37・44は鍋、28は蓋、29は皿、30は行平鍋蓋、31・36・38・42・45・47は上瓶、32は小坏で底面に墨書がある。33は瓶、34・43・46・48は擂鉢、35は鉢、39・51は小皿、40は燭燭、41・49・50は灯明受付皿、52は壺、53は碗である。土器：54は焼塩壺蓋、55は焙烙、56は火鉢である。土製品：57・58は碁石である。金属製品：59・60は針金状、61・62は飾りである。木製品：63は曲物底、64は櫛である。瓦：65・67は桟瓦、66は平瓦である。65は側面に丸の刻印がある。

2号溝（図44・48～51）

C 11からD 11グリッドに位置する。検出範囲で長さ3.6 m、幅1.2 m、深さ0.3 mである。覆土からは瓦がまとまって出土している。北側と南側は撹乱され消失している。他の遺構との切り合い関係は2号溝が1号溝を切っている。

遺物は磁器15点（1～15）、陶器14点（16～29）、土器1点（30）、土製品1点（31）、木製品1点（32）、瓦9点（33～41）を図示した。磁器：1～3・5・8～14・17・18は碗、4は端反碗、15は筒形碗、6は皿、7は鉢である。陶器：19・21は小皿、20はせんじ碗、22・26は土瓶、23は花瓶、24は瓶、25は鉢、27は捏鉢、28は擂鉢、29は灯明受付皿である。土器：30は小皿、土製品：31は碁石、木製品：32は箸である。瓦：33・35～38は桟瓦、34・39は平瓦、40・41は袖瓦である。33・38・39は丸、37は丸に一文字の刻印がある。

8号溝（図44・52）

D 11からD 12グリッドに位置する。検出範囲で長さ2.4 m、幅0.4 m、深さ0.1 mである。溝縁辺部で板を検出した。他の遺構との共伴関係は8号溝が1号溝に合流している。

遺物は磁器5点（1～5）、陶器6点（6～11）を図示した。磁器：1・3・5は碗、2は瓶、4は油壺である。陶器：6は壺、7は土瓶、8・11は擂鉢、9は碗、10は小皿である。

3号溝（図53～56）

F 14からG 14グリッドに位置する。検出範囲で長さ7.6 m、幅0.7 m、深さ0.2 mである。北側と西側は撹乱され消失している。他の遺構との切り合い関係は3号溝が38号土坑を切り、5号溝に切られている。

遺物は磁器8点（1～8）、陶器14点（9～30）、土器3点（31・32）、土製品3点（34～36）、金属製品2点（37・38）、瓦2点（39～40）を図示した。磁器：1・8は碗、2は蓋、3は皿、4は油壺、5・6は小坏、7は広東碗である。陶器：9・15・17・25・27・28は擂鉢、10は灯明受付皿、11・19・30は鉢、12は鍋、13・14は土瓶、16は壺、18は碗、20は小皿、21～24は行平鍋、26・29は蓋である。土器：31・32は火鉢、33は焼塩壺蓋、土製品：34～36は碁石、金属製品：37・38は煙管吸口である。瓦：39・40は丸瓦である。

4号溝（図53・57）

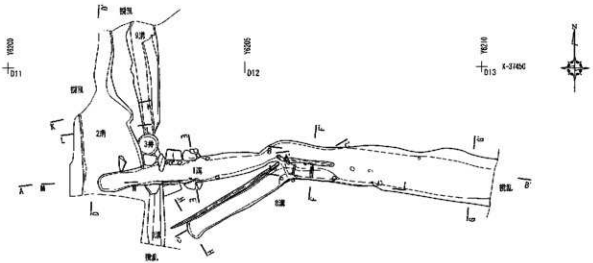
I 4グリッドに位置する。検出範囲で長さ3.2 m、幅0.3 m、深さ0.4 mである。北側と南側、東側は撹乱され消失している。底面に4号ピットがある。他の遺構との切り合い関係はない。

遺物は磁器5点（1～5）、陶器5点（6～10）、金属製品1点（11）を図示した。磁器：1は皿、2は小坏、3・4は丸碗、5は端反碗である。陶器：6・7は擂鉢、8・9は土瓶、10は瓶である。金属製品：11は釘である。

5号溝（図53・58～61）

G 14からG 15グリッドに位置する。検出範囲で長さ2.6 m、幅1.6 m、深さ0.3 mである。東側と西側は撹乱され消失している。他の遺構との切り合い関係は5号溝が3号溝を切っている。

遺物は磁器14点（1～14）、陶器31点（15～45）、土器5点（46～50）、土製品5点（51～55）、銭貨3点（56～58）、金属製品1点（59）、瓦2点（60・61）を図示した。磁器：1は小坏、2・5・9・10は丸碗、3は端反碗、4は紅皿、6は蓋、7は八角鉢、8・12・14は碗、11は広東碗、13は


N
D11
D12
D13
X-31400
撹乱
2溝
3溝
1溝
8溝
1溝
撹乱
撹乱
撹乱

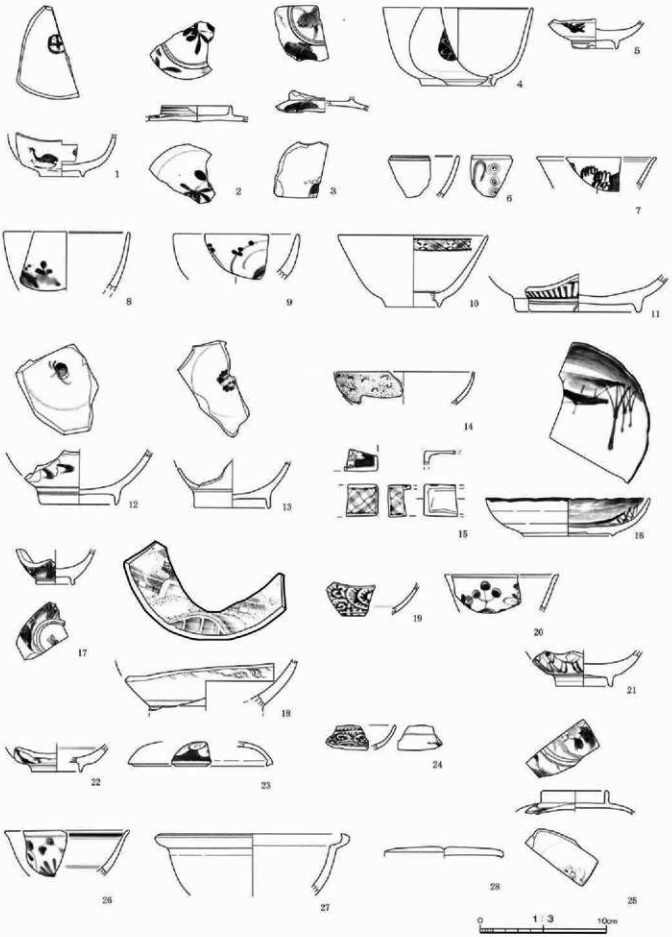


図45　1号溝出土遺物（1）

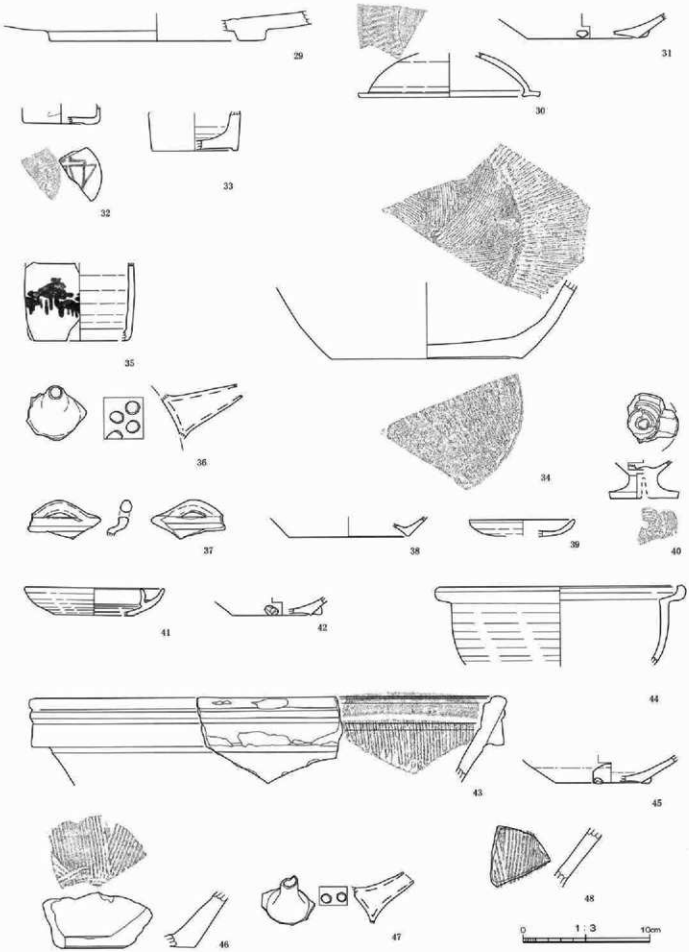


図46　1号溝出土遺物（2）

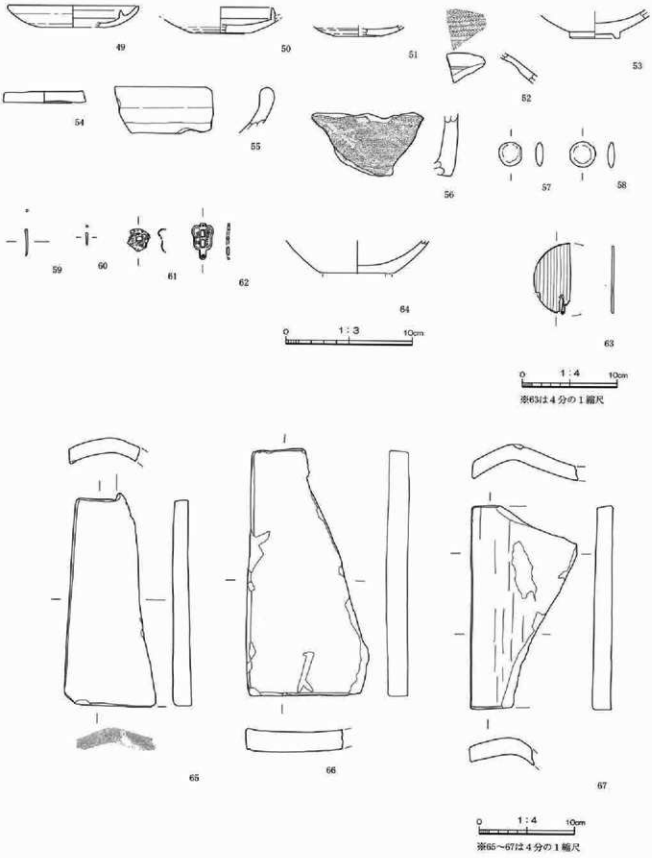


図47　1号溝出土遺物（3）

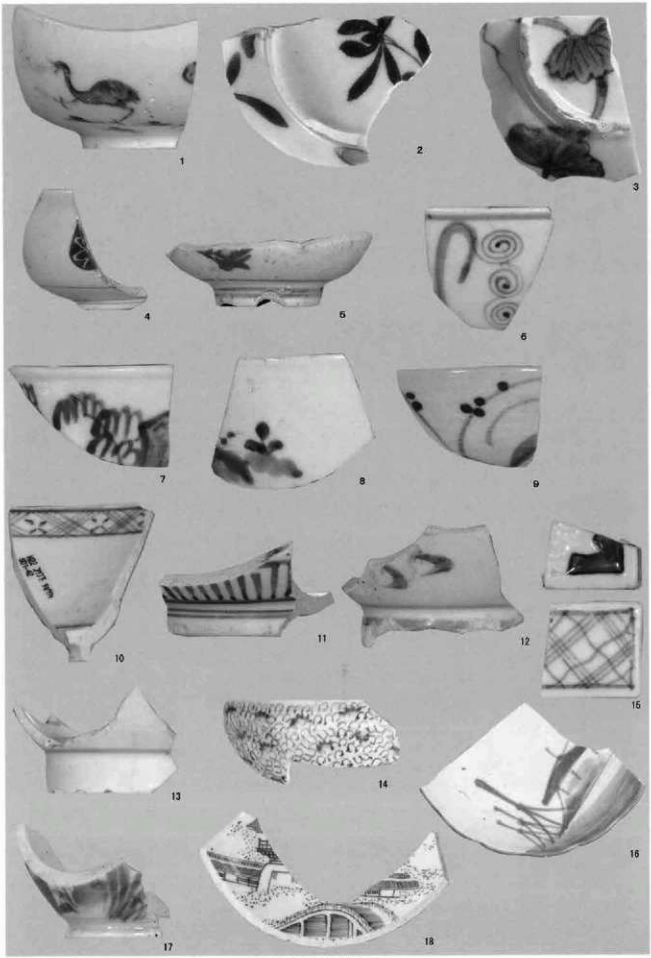


写真38 1号溝出土遺物（1）

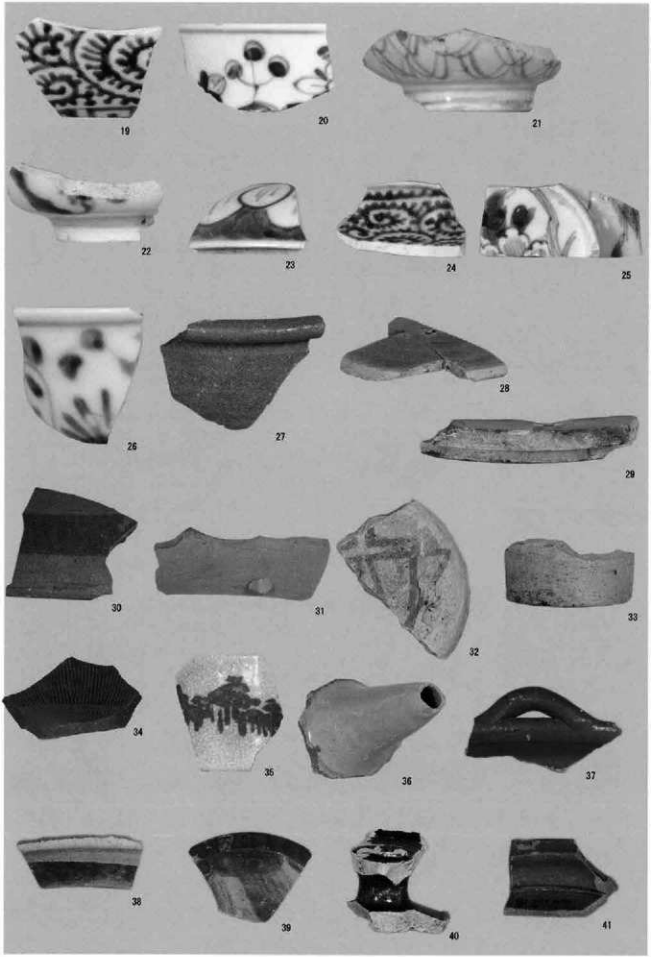


写真39　1号溝出土遺物（2）

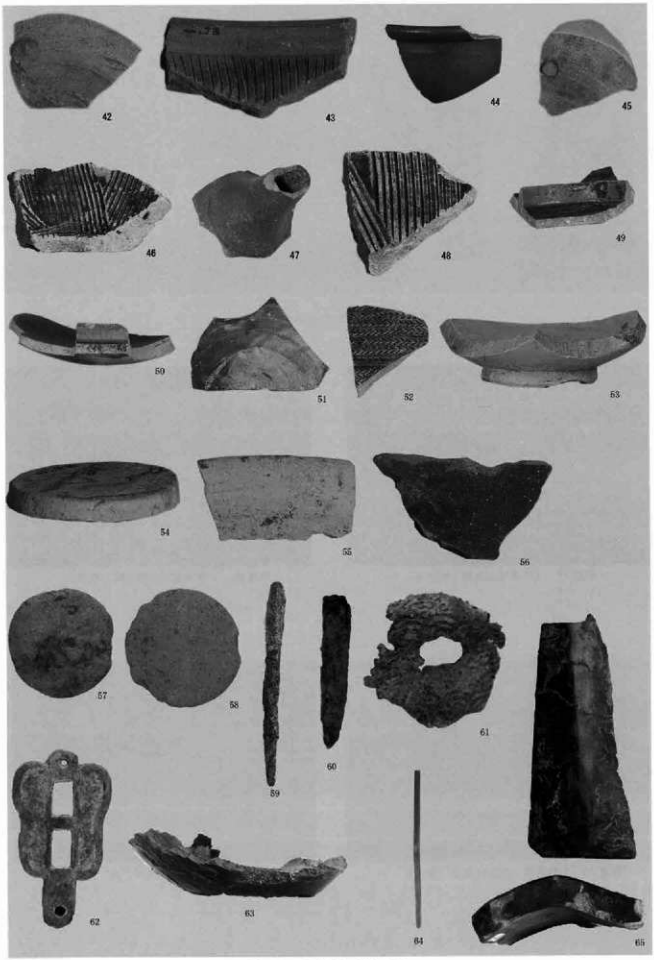


写真40　1号溝出土遺物（3）

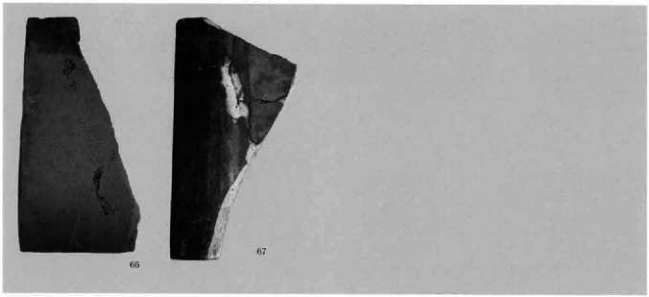


写真41　1号溝出土遺物（4）

写真42　1号溝検出状況　南から

写真43　1号溝遺物出土状況　南から

写真44　1号溝杭・板検出状況　北から

写真45　1号溝完掘状況　北から

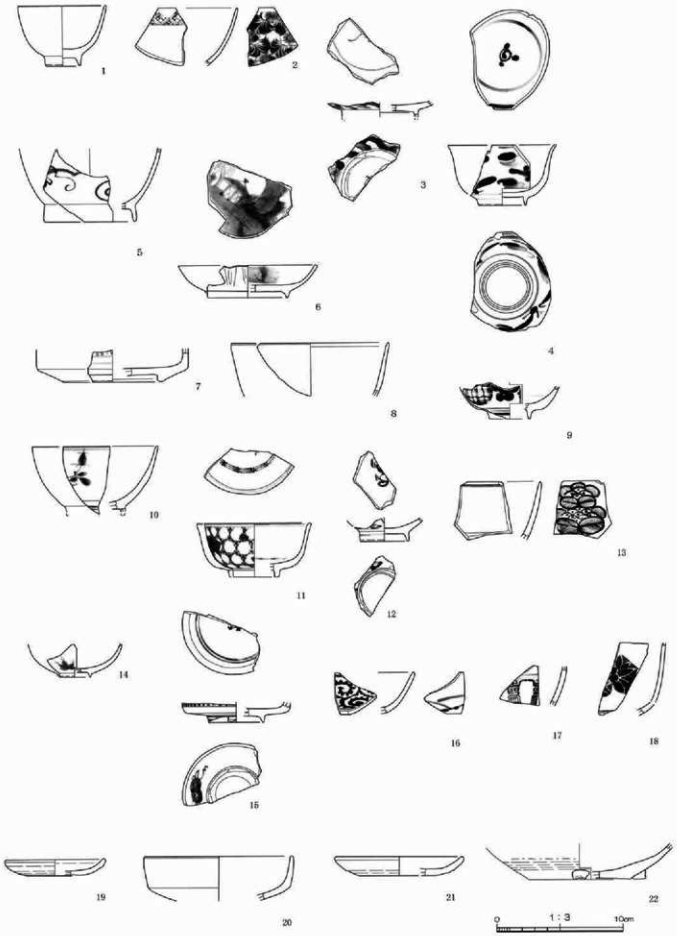


図48　2号溝出土遺物（1）

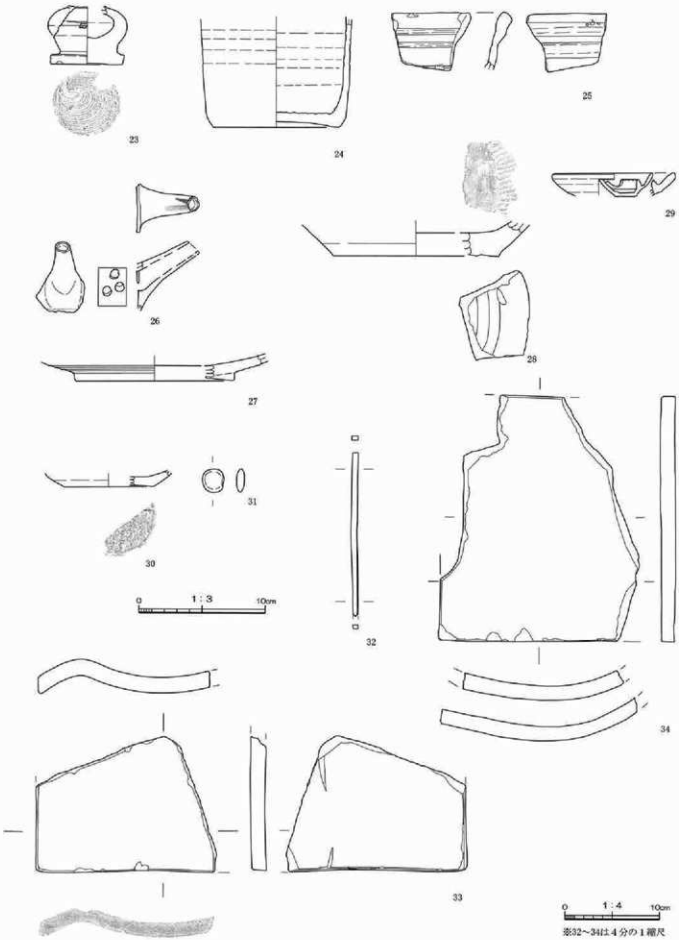


図49　2号溝出土遺物（2）

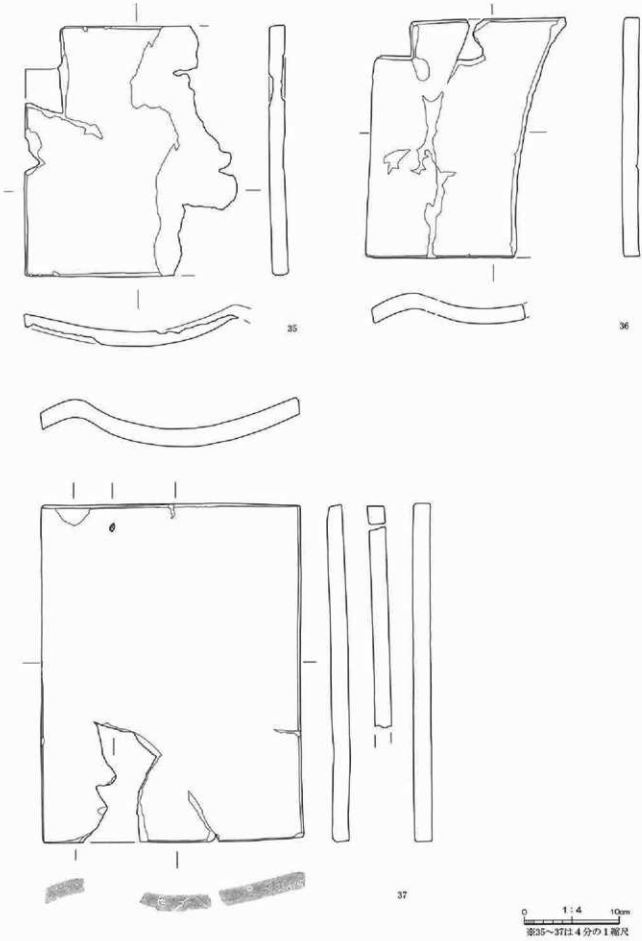


図50　2号溝出土遺物（3）

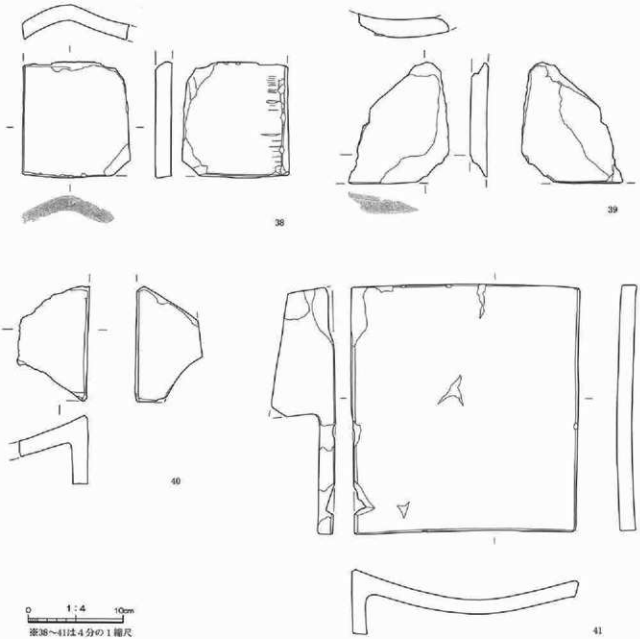


図51　2号溝出土遺物（4）

写真46　2号溝遺物出土状況　東から

写真47　2号溝完掘状況　南から

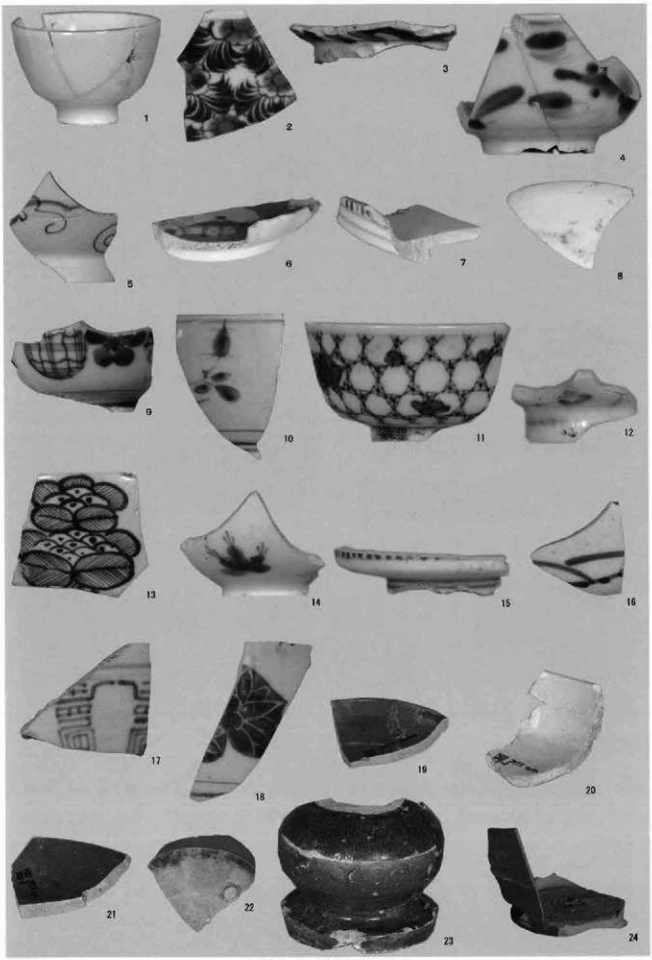


写真48　2号溝出土遺物（1）

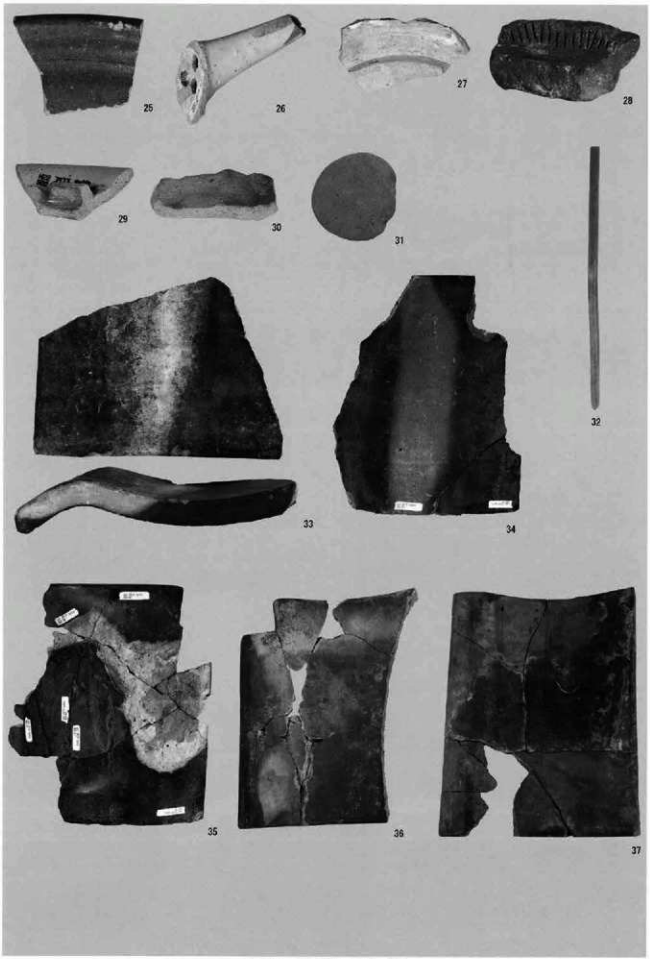


写真 49　2号溝出土遺物（2）

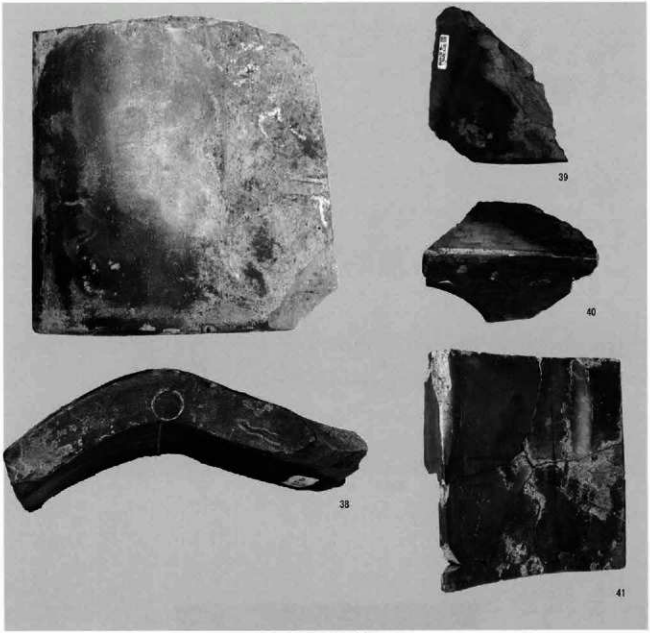


写真50　2号溝出土遺物（3）

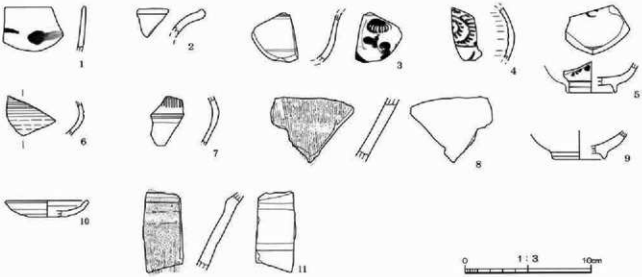


図52　8号溝出土遺物

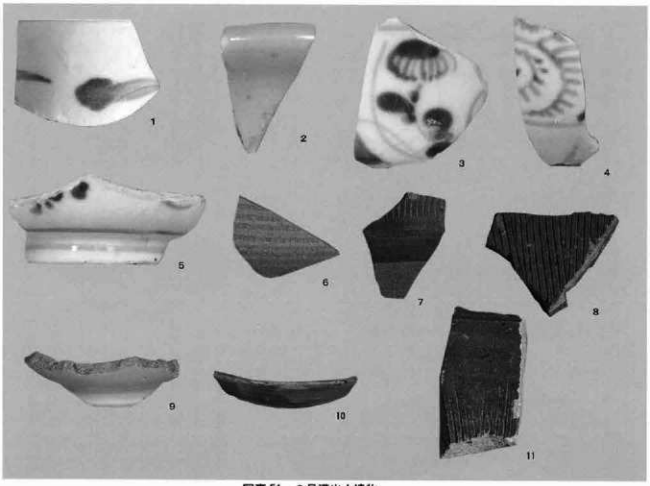


写真51　8号溝出土遺物

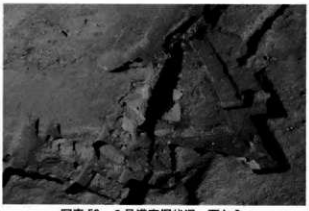
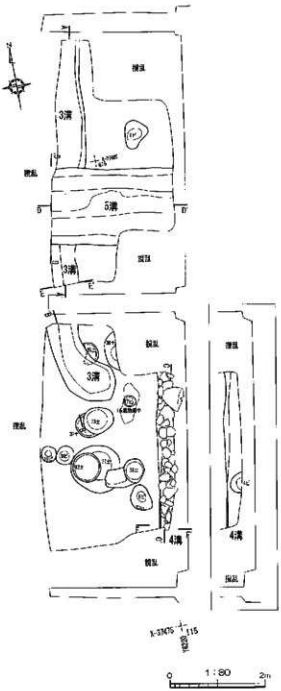
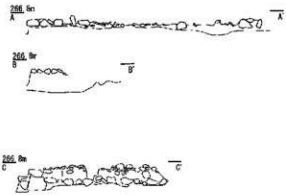


写真52　8号溝発掘状況　西から


撹乱
3溝
5溝
4溝
X-33475
Y-115
0 1:80 2m


1. 黒褐色土 10YR3/2 シルト 締まり・粘性共に中。
2～3mm大の炭化粒を1%、5cm大の亜円礫を1%、
1～2cm大の亜円礫を1%含む。
1. 黒褐色土 10YR3/2 シルト 締まり・粘性共に中。
2～5mm大の炭化粒を2%、1mm大の焼土粒を1%含む。
2. 暗褐色土 10YR3/3 シルト 地山。締まり強く、
粘性は中。2～5mm大の炭化粒を10%、1～2mm大の焼土粒を2%、
2～3mm大の黄色土粒を2%含む。
3. 撹乱
0 1:80 2m

1. 撹乱
2. にぶい黄褐色土 10YR4/3 シルト 締まり強く、粘性は弱い。亜円礫を5%含む。
3. 灰黄褐色土 10YR5/2 砂質 締まり弱く、粘性無し。3～5cm大の円礫を10%含む。
4. 黒褐色土 10YR3/1 シルト 締まり弱く、粘性強い。3～5cm大の円礫を5%含む。
5. 暗褐色土 10YR3/3 シルト 締まり強く、粘性弱い。
0 1:40 1m

図53 3号～5号溝

図 54　3号溝出土遺物（1）

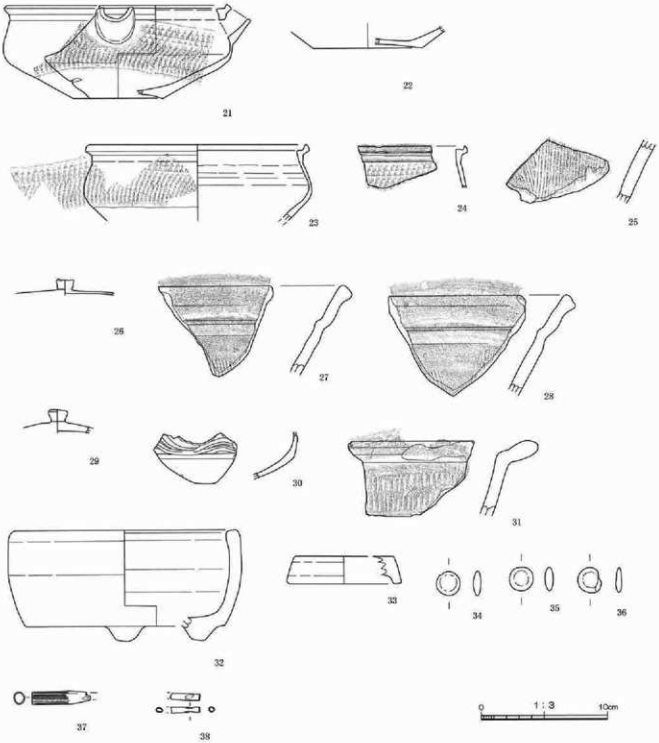
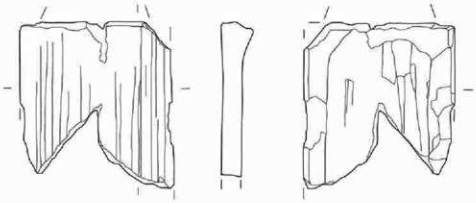
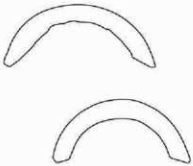
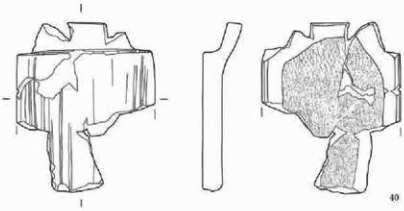


図55　3号溝出土遺物（2）



39





40

0　1:4　10cm
39・40は4分の1縮尺

図 56　3号溝出土遺物（3）

写真 53　3号溝・4号溝　南から

写真 54　4号溝遺物出土状況　東から

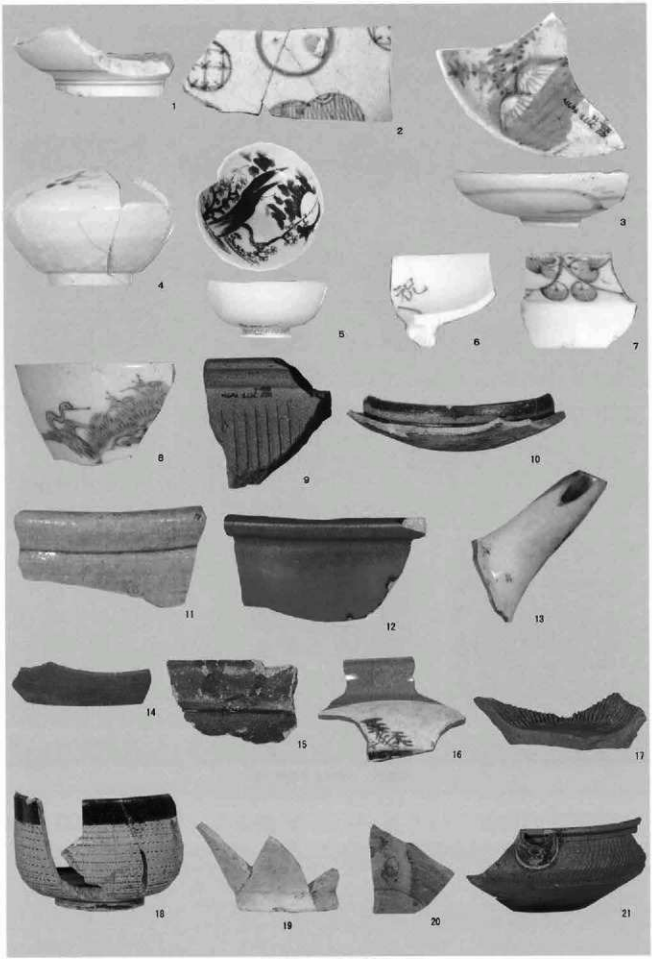


写真55　3号溝出土遺物（1）

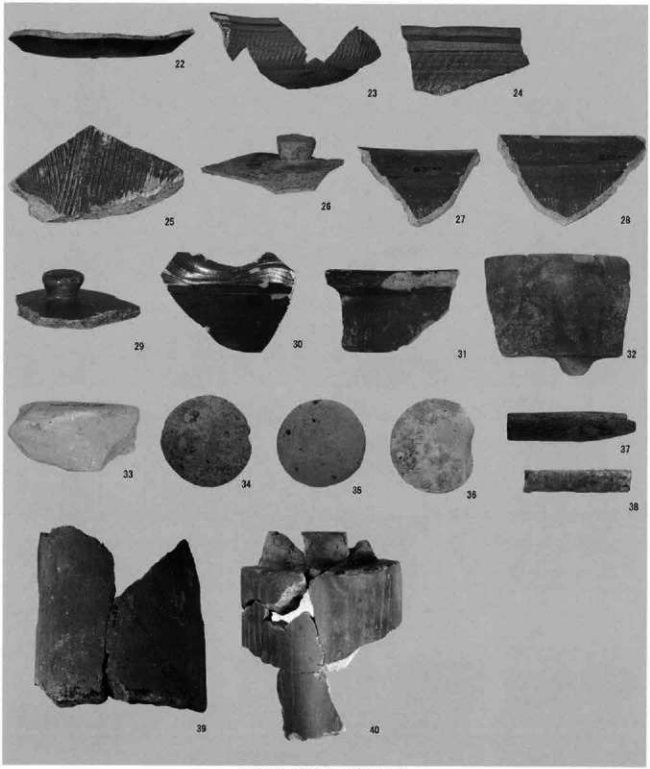


写真 56　3号溝出土遺物（2）

図57　4号溝出土遺物

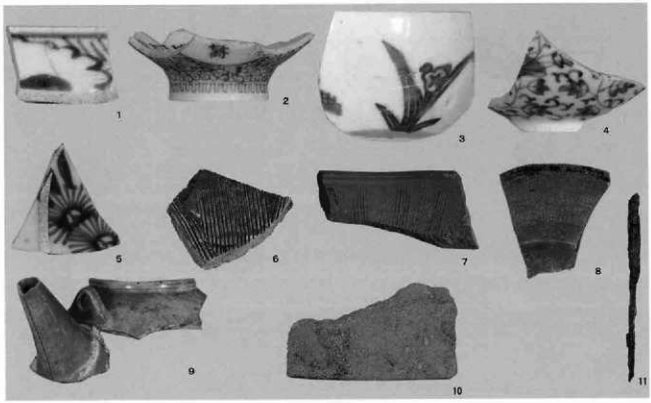


写真57　4号溝出土遺物

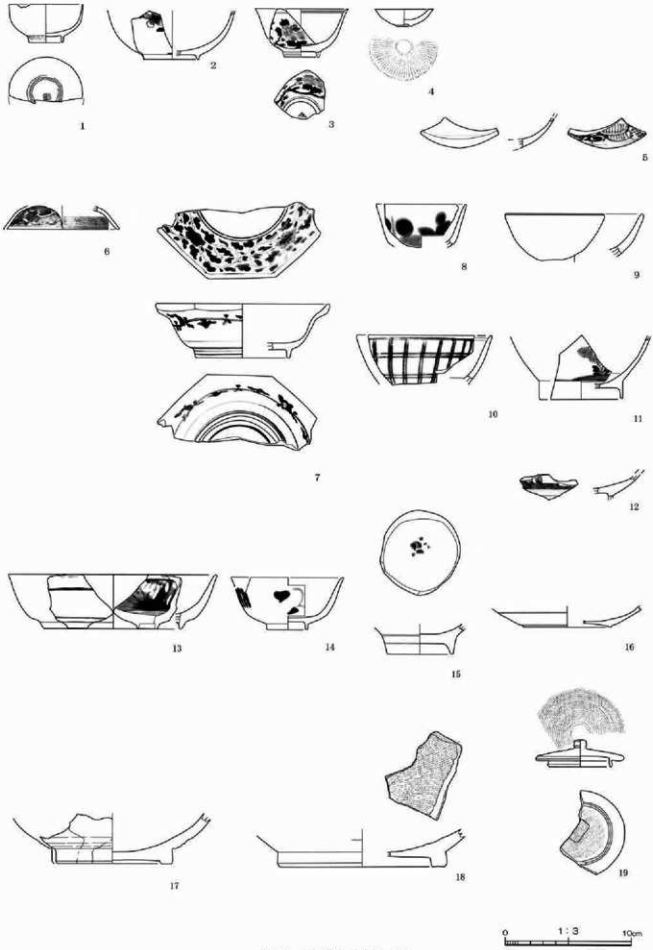


図58　5号溝出土遺物（1）

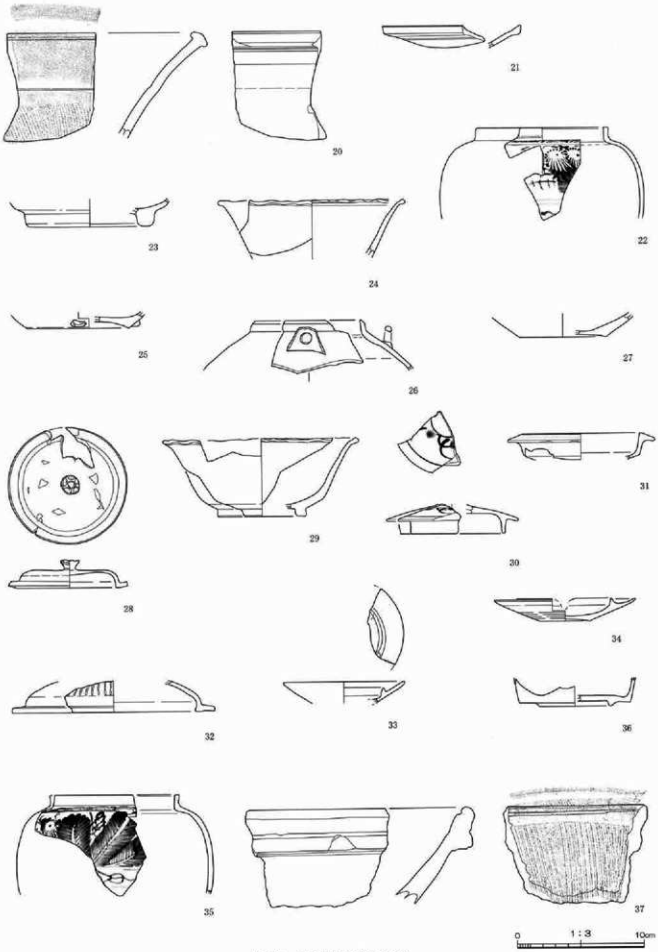


図59　5号溝出土遺物（2）

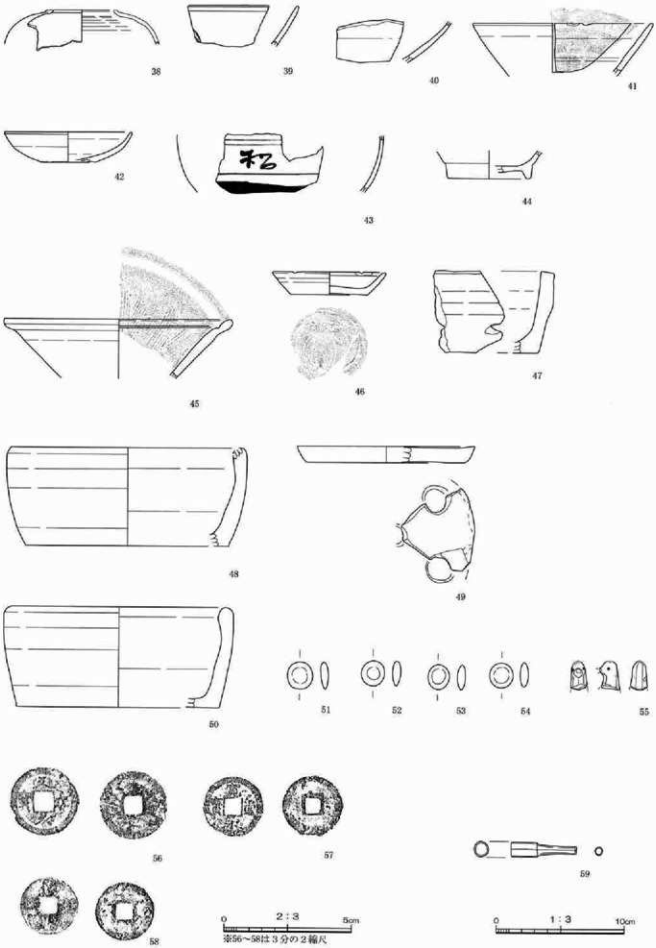


図60　5号溝出土遺物（3）

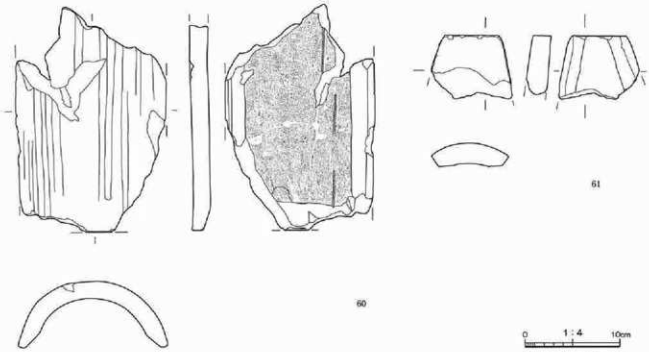


図61　5号溝出土遺物（4）

写真58　5号溝完掘状況　西から

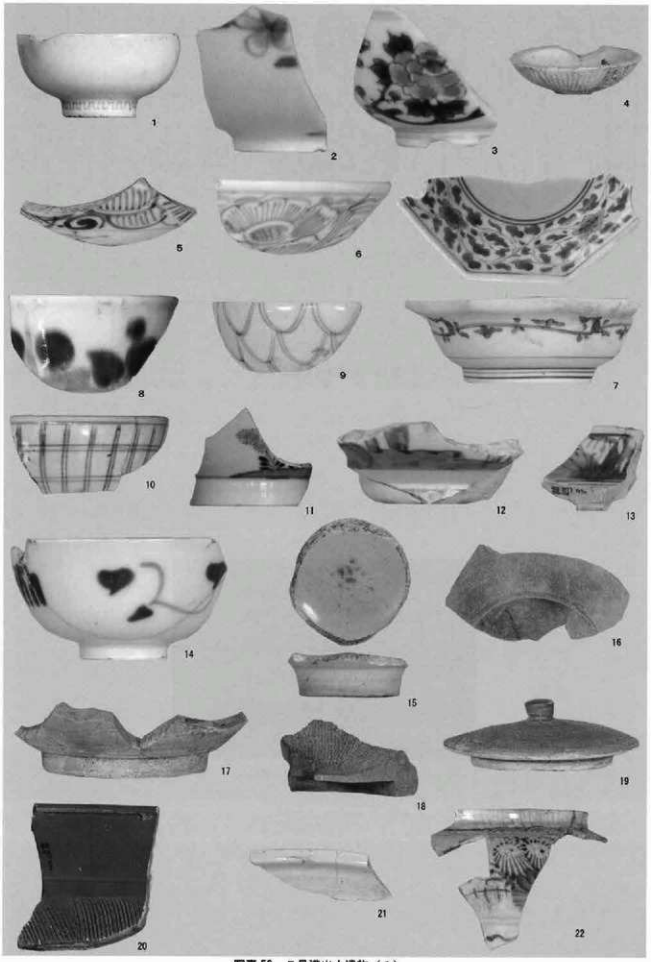


写真59　5号溝出土遺物（1）

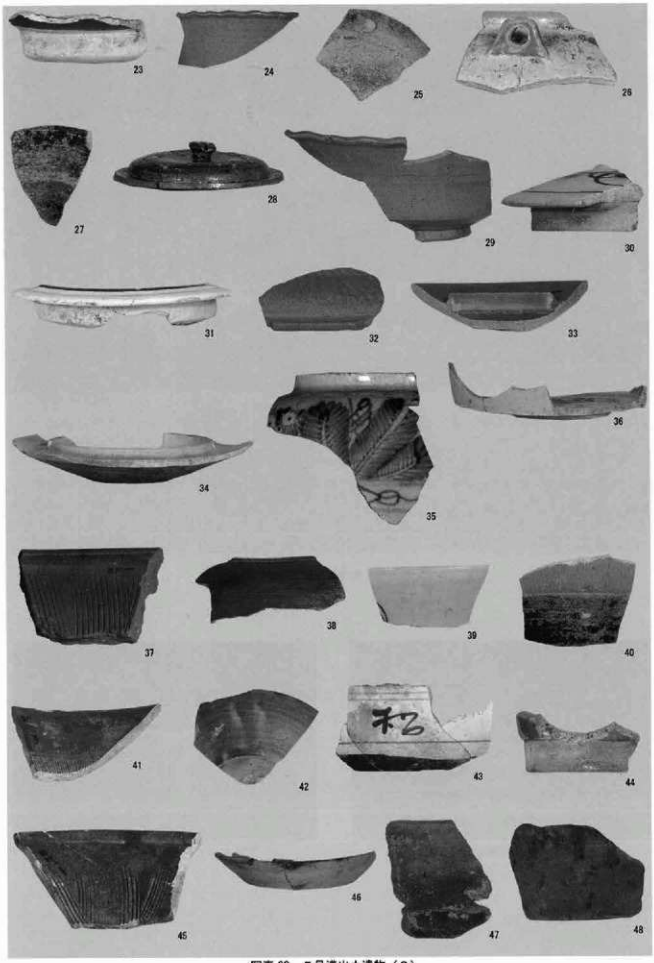


写真60　5号溝出土遺物（2）

写真61　5号溝出土遺物（3）

写真62　6号溝完掘　北から

写真63　6号・7号溝完掘　西から

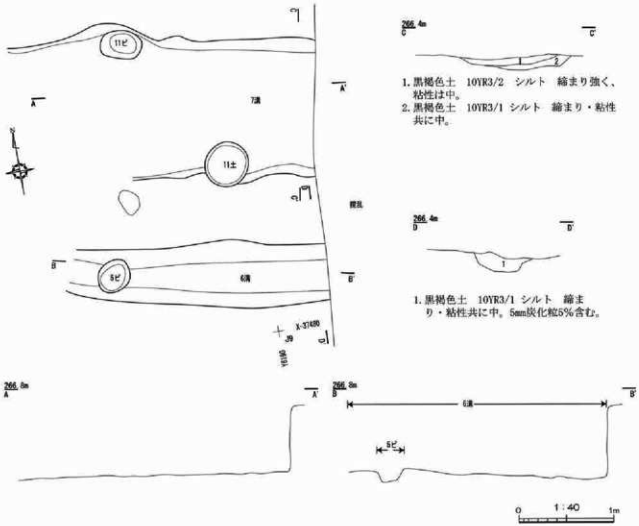
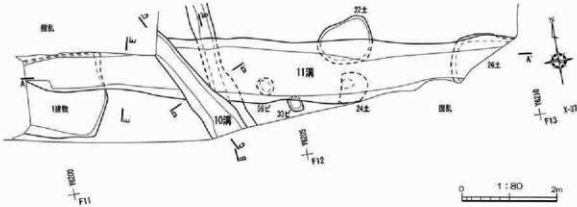
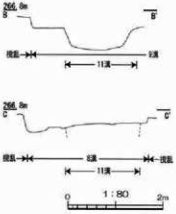


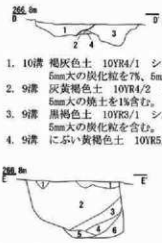
図62　6号・7号溝

写真64　9号・10号溝完掘　南から

写真65　11号溝完掘　西から







1. 10溝　褐灰色土　10YR4/1　シルト　締まり弱く、粘性は中。
   5mm大の炭化粒を7%、5mm大の焼土を1%含む。
2. 9溝　灰黄褐色土　10YR4/2　シルト　締まり弱く、粘性は中。
   5mm大の焼土を1%含む。
3. 9溝　黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。
   5mm大の炭化粒を含む。
4. 9溝　にぶい黄褐色土　10YR5/4　シルト　締まり・粘性共に強い。

1. 11溝　灰黄褐色土　10YR4/2　シルト　締まり強く、粘性は弱い。5～10mm大の炭化粒を10%含む。
2. 11溝　暗褐色土　10YR3/3　シルト　締まり強く、粘性は中。5mm大の円礫を20%含む。
3. 11溝　黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり・粘性共に強い。
4. 11溝　暗灰黄色土　2.5Y4/2　砂質土　締まり・粘性共に弱い。
5. 11溝　黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。
6. 11溝　オリーブ黒土　5Y3/2　砂質土　締まり弱く、粘性は中。

1:40　1m

図63　10号・11号溝

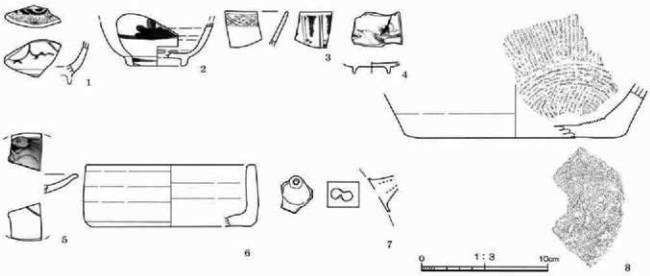


図64　10号溝出土遺物

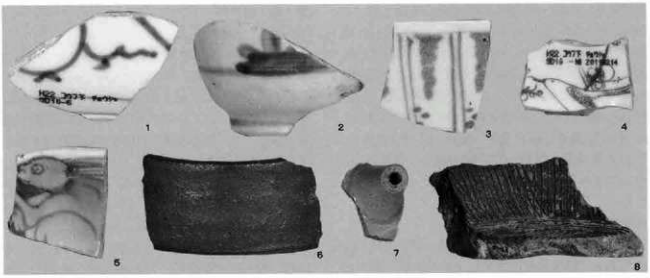
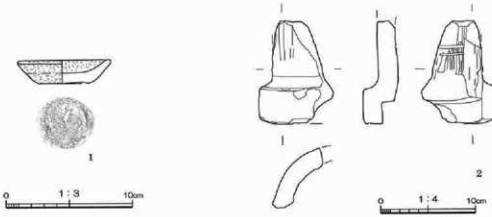


写真 66　10 号溝出土遺物



※2は4分の1縮尺

図 65　11 号溝出土遺物

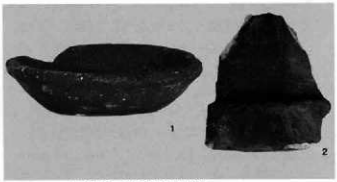


写真 67　11 号溝出土遺物

写真 68　12 号溝完掘状況　北から

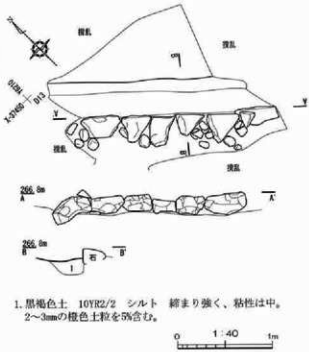


図 66　12 号溝

皿である。陶器：15は陶胎染付碗、16は土瓶、17は鉢、18・20・37・41・45は擂鉢、19・28・31は蓋、21・23・24・29・36は鉢、22・35・38は壺、25・26・40・43は土瓶、30は土瓶蓋、32は行平鍋蓋、33・34は灯明受付皿、39・44は碗、42は小皿。土器：46は小皿、47・48・50は火鉢、49は目皿。土製品：51～54は碁石、55は鳥笛、銭貨：56は文久永宝、57は寛永通宝、58は□□□宝である。金属製品：59は煙管吸口である。瓦：60は丸瓦、61は輪違いである。

6号溝（図62）

Ⅰ8からⅠ9グリッドに位置する。検出範囲で長さ2.7m、幅0.6m、深さ0.3mである。東側は撹乱され消失している。他の遺構との切り合い関係は6号溝が5号ピットに切られている。

7号溝（図62）

Ⅰ8からⅠ9グリッドに位置する。検出範囲で長さ3.3m、幅1.4m、深さ0.2mである。東側は撹乱され消失している。他の遺構との切り合い関係は7号溝が11号土坑、11号ピットに切られている。

10号溝（図63・64）

E11グリッドに位置する。検出範囲で長さ2.7m、幅0.5～0.7m、深さ0.1mである。北側と南側は撹乱され消失している。他の遺構との切り合い関係は10号溝が9号溝、11号溝を切っている。

遺物は磁器5点（1～5）、陶器3点（6～8）を図示した。磁器：1～3は碗、4・5は皿である。陶器：6は鉢、7は土瓶、8は擂鉢である。

11号溝（図63・65）

E10からE11グリッドに位置する。検出範囲で長さ10.2m、幅1.2m、深さ0.6mである。東側と西側は撹乱され消失している。他の遺構との切り合い関係は11号溝が1号建物跡、9号・10号溝、22号・24号・26号土坑、33号ピット、56号ピットに切られている。

遺物は土器1点（1）、瓦1点（2）を図示した。土器：1は皿、瓦：2は丸瓦である。

12号溝（図66）

D13グリッドに位置する。検出範囲で長さ2.4m、幅0.4m、深さ0.2mである。東側と西側は撹乱され消失している。溝縁辺部の石列を検出した。石は全て、はつられて面が作られていた。他の遺構との切り合い関係はない。

第4節　井戸跡

1号井戸（図67～70）

G11グリッドに位置する。長さ0.9m、幅0.9m、深さ5mである。平面形は円形で底なし桶が6段重ねられている。桶1個の高さは1.1mである。地下水を汲み上げる井戸である。桶の胴は竹釘で連結されていた。他の遺構との切り合い関係は1号土坑が9号溝に切られている。

遺物は磁器15点（1～15）、陶器18点（16～33）、土器4点（34～37）、石製品2点（38・39）、木製品1点（40）を図示した。磁器：1は皿、2・3・5・6・9・14・15は丸碗、4・7は蓋、8は瓶、10・11は筒形碗、12は端反碗、13香炉である。陶器：16・17・20～23・33は擂鉢、22は皿、24・26・28は碗、25は蓋、29は小坏、27は片口鉢、30は小皿、31・32は灯明受付皿である。28は高台内に墨書がある。土器：34～37は焼塔である。石製品：38・39は砥石である。木製品40は曲物底である。

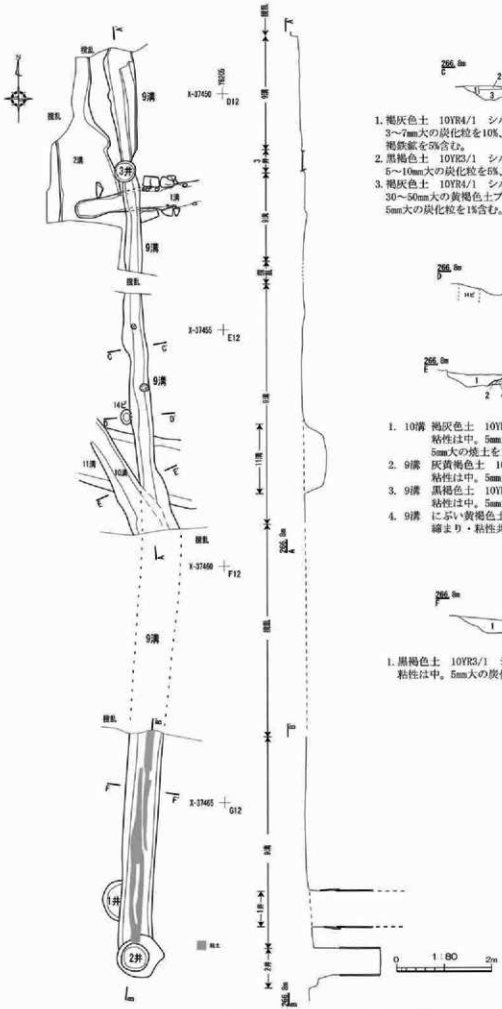
2号井戸（図67・71～73）

G11グリッドに位置する。長さ0.7m、幅0.7m、深さ1.4mである。平面形は円形で底のある桶が埋められている。桶は口径0.7m、底径0.8m、深さ0.9mである。桶の底板は竹釘で連結されていた。底がある桶だが1号井戸の底なしの桶と同様に口径より底径が大きく、上圧に耐える構造になっている。上水を引き込み桶に貯める井戸である。上水は敷地北側から9号溝を通して引き込まれ、途中で3号井戸を経由して2号井戸まで到達している。

遺物は磁器9点（1～9）、陶器5点（10～14）、土製品1点（15）、木製品7点（16～22）、瓦3点（23～25）を図示した。磁器：1は小坏、2～6・8は丸碗、7は水滴、9は瓶、陶器：10は香炉、11は壺、12は土瓶、13は擂鉢、14は灯明受付皿である。土製品：15は箱庭道具である。木製品：16は角材、17は曲物底、18～22は板材である。瓦：23は軒桟瓦、24は桟瓦である。24の側面には丸の刻印がある。25はなまこ壁と思われる。

3号井戸（図67・74～75）

D11グリッドに位置する。長さ0.4m、幅0.4m、深さ0.2mである。平面形は円形で胴部に口のある桶が埋められている。9号溝を通して北側から取水し、南側へ出水している。桶胴部の残存状況は良好とは言えず、取水部の状況は確認できていない。南側の出水部は桶胴部に四角い口が設けられて



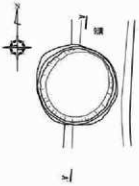
1. 褐灰色土　10YR4/1　シルト　締まり強く、粘性は中。3～7mm大の炭化粒を10%、5mm大の焼土粒を1%、褐鉄鉱を5%含む。
2. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。5～10mm大の炭化粒を5%、5mm大の焼土粒を1%含む。
3. 褐灰色土　10YR4/1　シルト　締まり強く、粘性は中。30～50mm大の黄褐色土ブロックを30～50mm大を40%、5mm大の炭化粒を1%含む。

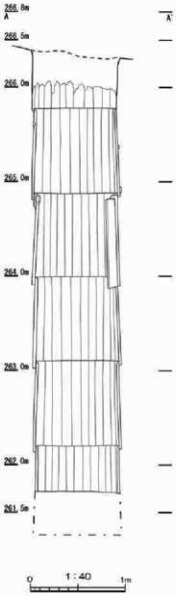
1. 10溝　褐灰色土　10YR4/1　シルト　締まり弱く、粘性は中。5mm大の炭化粒を7%、5mm大の焼土を1%含む。
2. 9溝　灰黄褐色土　10YR4/2　シルト　締まり弱く、粘性は中。5mm大の焼土を1%含む。
3. 9溝　黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。5mm大の炭化粒を含む。
4. 9溝　にぶい黄褐色土　10YR5/4　シルト　締まり・粘性共に強い。

1. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まりは強く、粘性は中。5mm大の炭化粒を5%含む。

0　1:40　1m

図67　1号・2号・3号井戸・9号溝





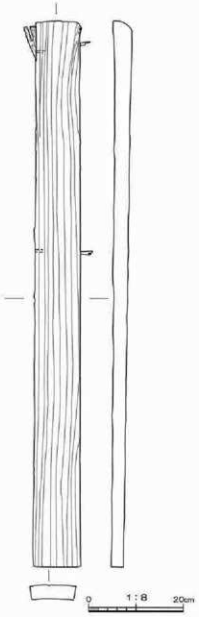


図 68　1号井戸

写真 69　1号井戸　東から

写真 70　1号井戸　西から

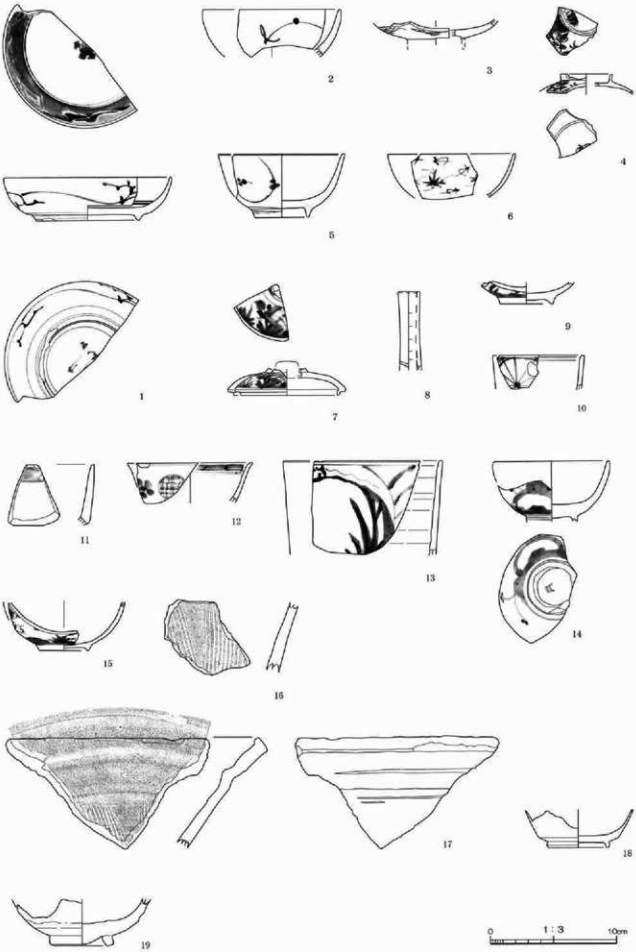
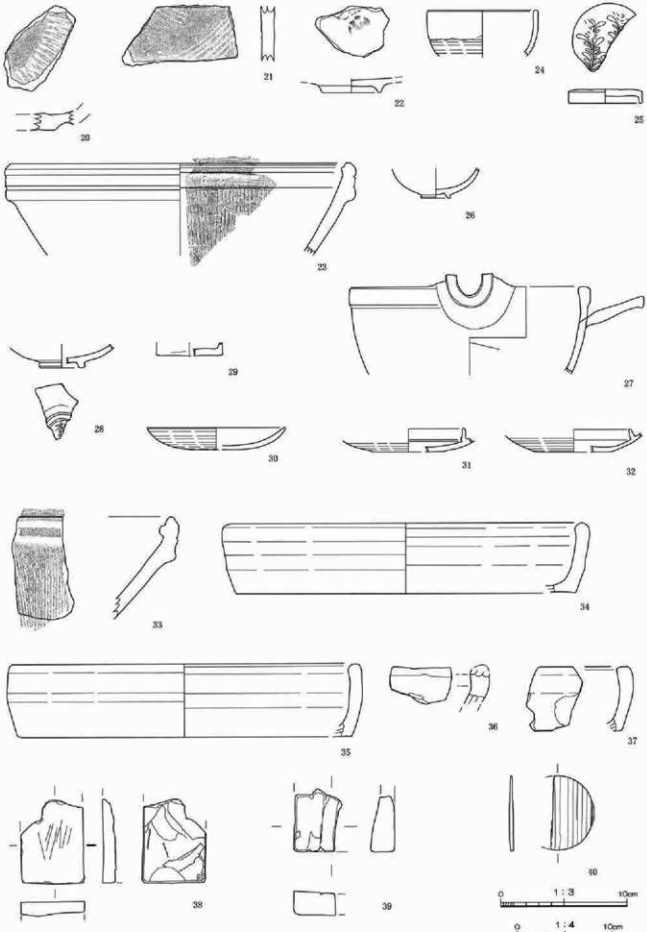


図69　1号井戸出土遺物（1）



番40は4分の1縮尺

図70　1号井戸出土遺物（2）

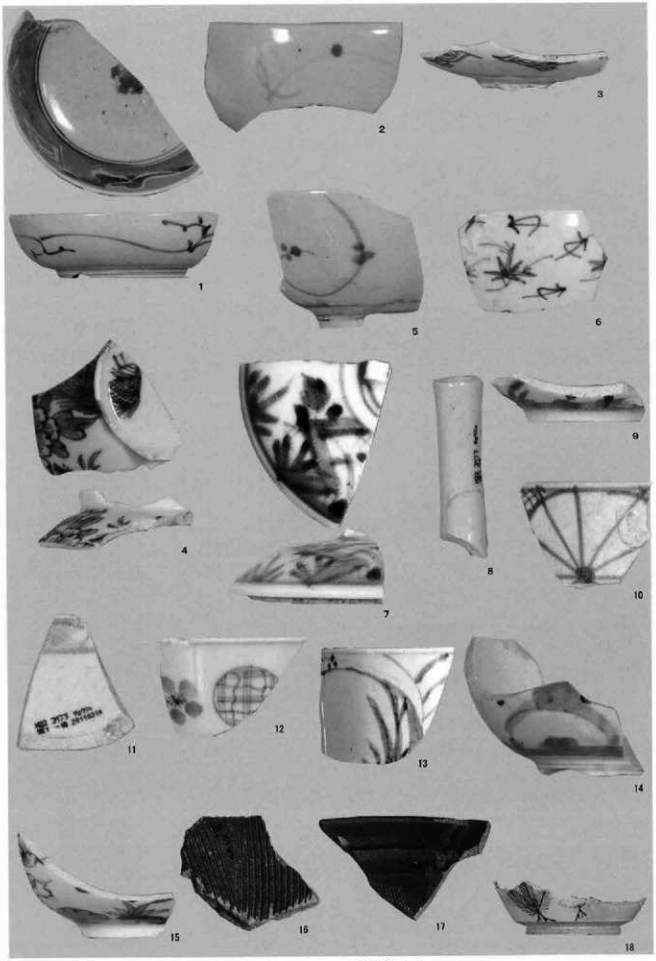


写真71　1号井戸出土遺物（1）

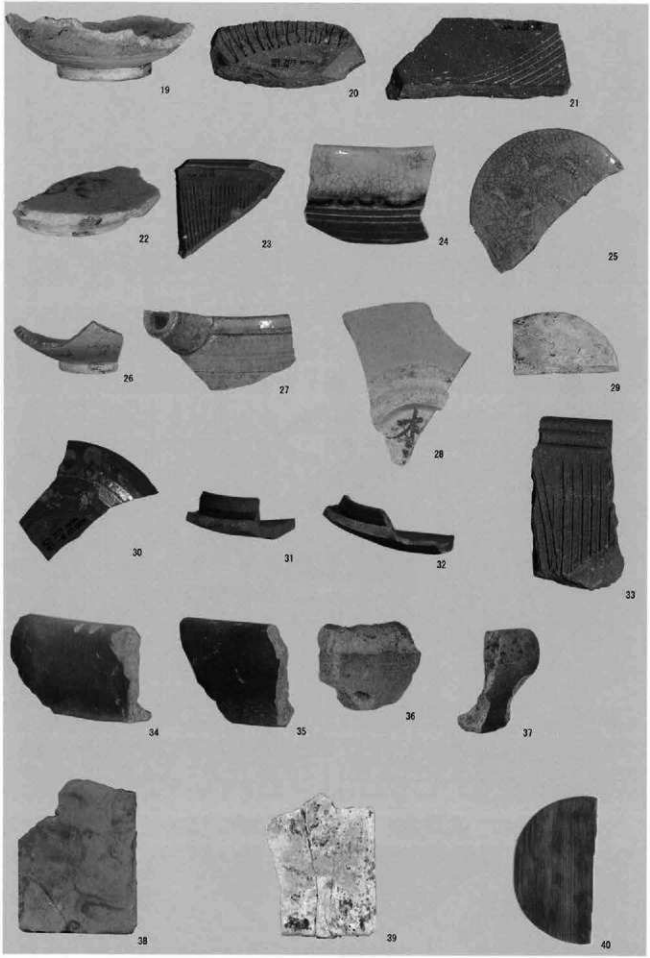


写真72　1号井戸出土遺物（2）

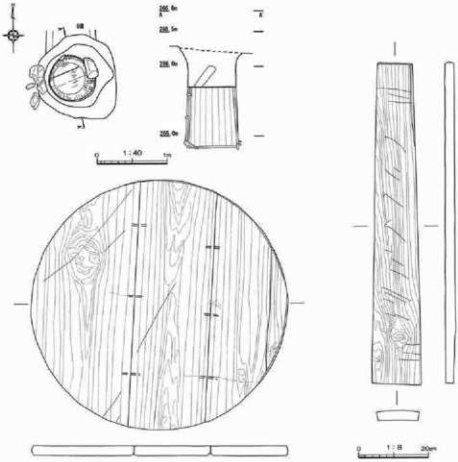


図 71　2 号井戸

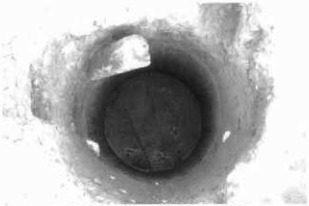


写真 73　2 号井戸完掘状況　西から

写真 74　2 号井戸　西から

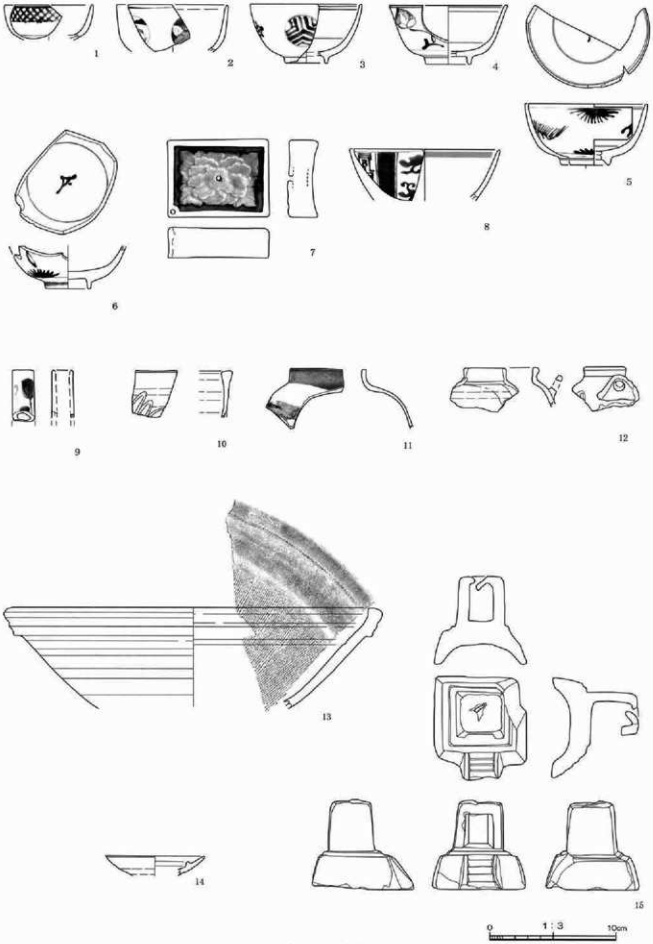


図72　2号井戸出土遺物（1）

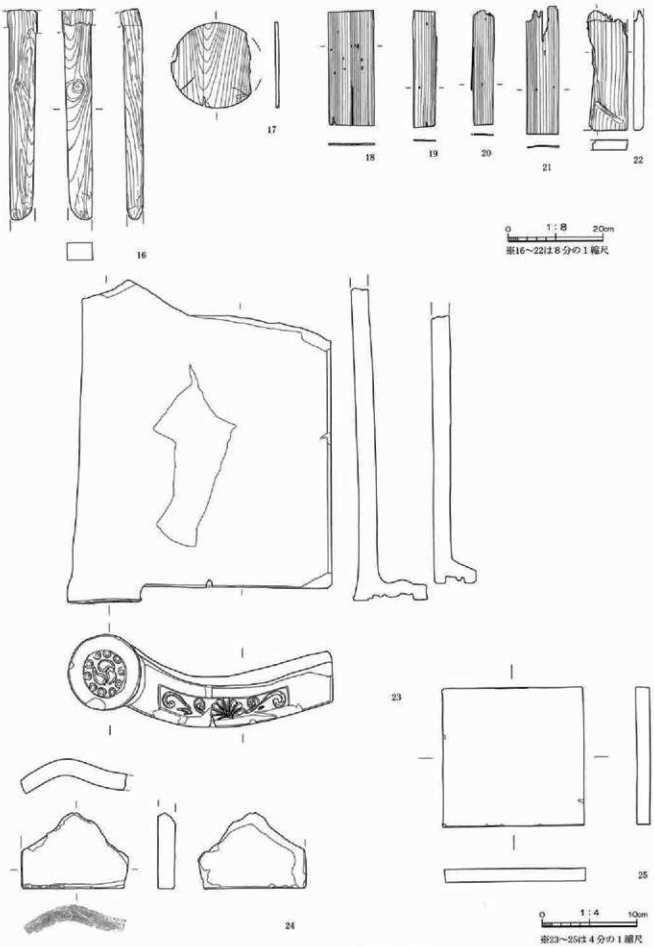


図73　2号井戸出土遺物（2）

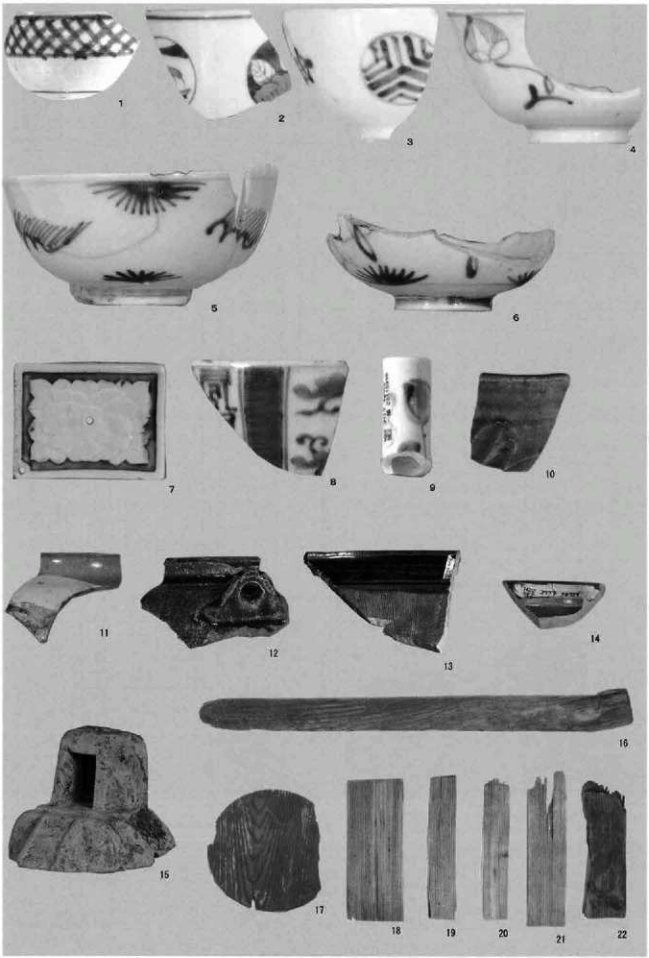


写真 75　2号井戸出土遺物（1）

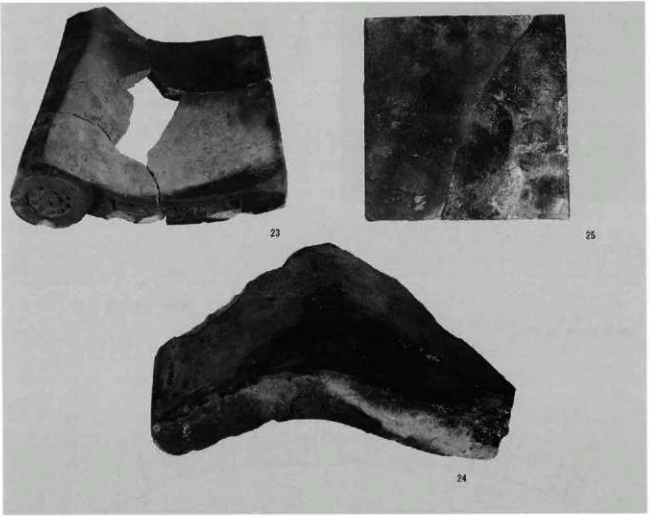


写真 76　2号井戸出土遺物（2）

写真77　3号井戸完掘状況　東から

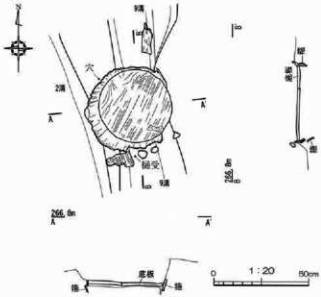
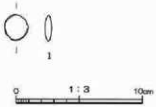
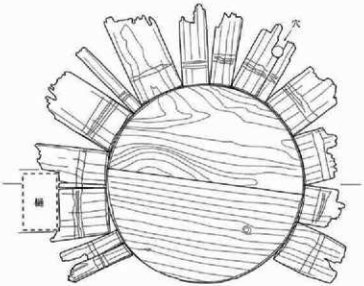
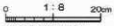


図74　3号井戸







※2は8分の1縮尺

図75　3号井戸出土遺物

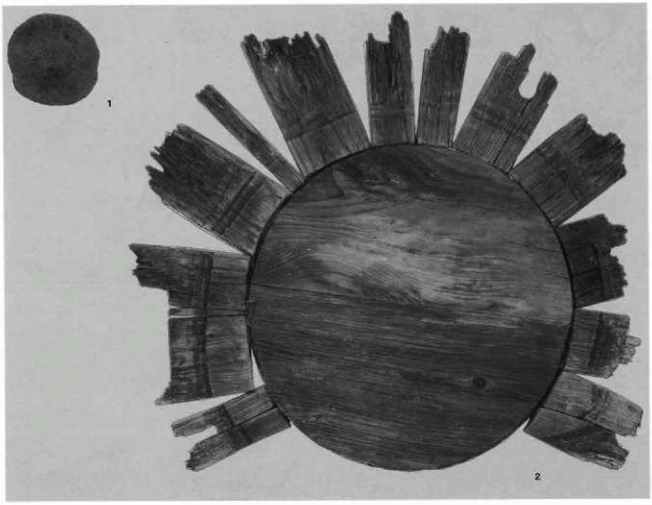


写真 78　3号井戸出土遺物

写真 79　3号井戸　東から

写真 80　3号井戸・9号溝　東から

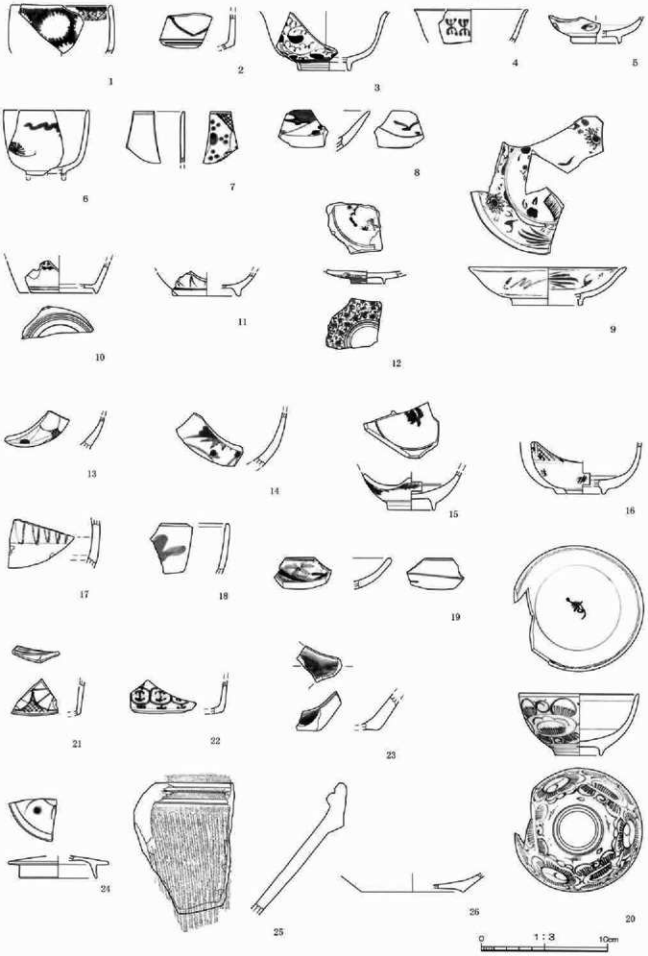


図 76　9号溝出土遺物（1）

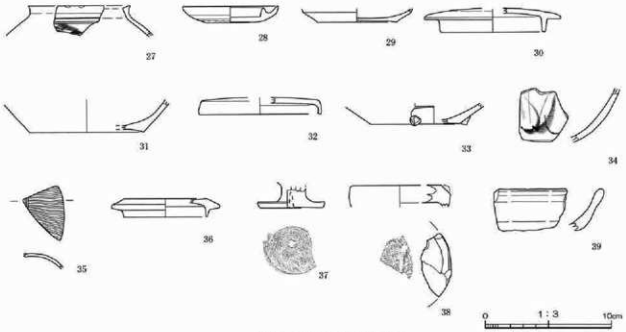


図 77　9号溝出土遺物（2）

写真 81　9号溝粘土出土状況　東から

写真 82　9号溝完掘状況　北から

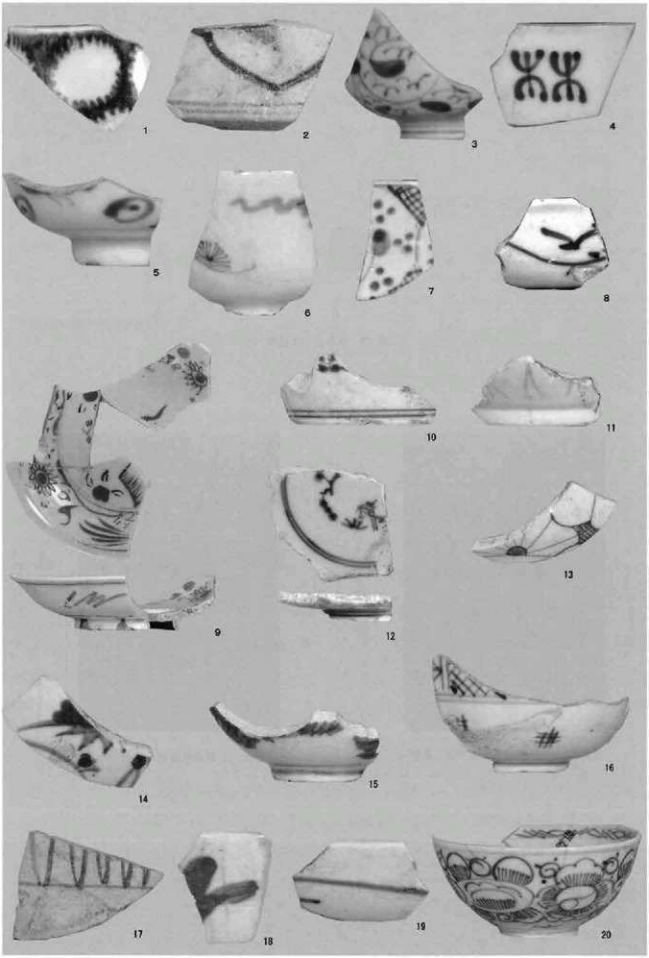


写真83　9号溝出土遺物（1）

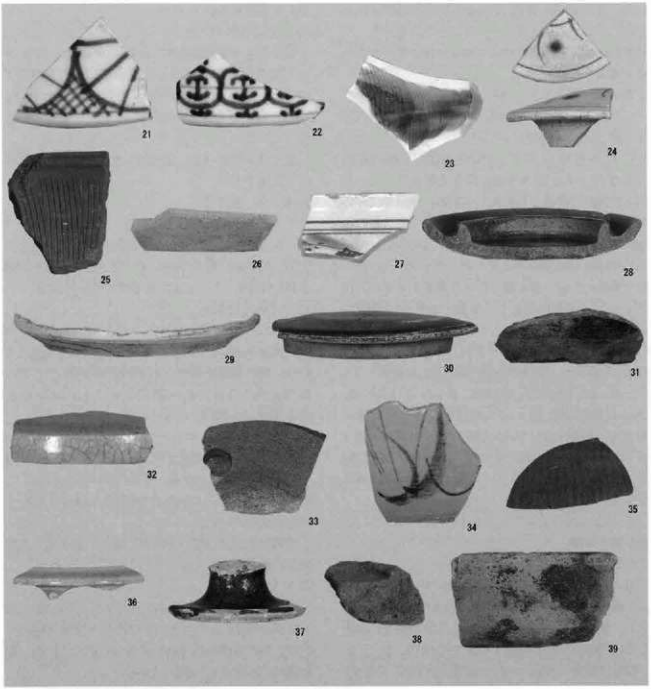


写真84　９号溝出土遺物（２）

いた。また西側に直径2.5cmほどの穴が開けられていた。この穴が3号井戸の蛇口と考えられる。3号井戸には水をためる機能はなく水道の蛇口であったと考えられる。

遺物は上製品1点（1）、木製品1点（2）を図示した。土製品：1は碁石、木製品：2は桶である。

9号溝（図67・76・77）

C 11からD 11グリッドに位置する。検出範囲で長さ19.2m、幅0.6m、深さ0.2mである。北側と中間部は撹乱され消失している。他の遺構との共伴関係は9号溝が3号井戸を経由して2号井戸に接続している。9号溝底面では粘土が検出された。溝に粘土を貼り樋を通していたものと考えられる。他の遺構との切り合い関係は9号溝が1号井戸、14号ピット、11号溝を切り、1号・2号・10号溝に切られている。

遺物は磁器23点（1～23）、陶器14点（24～37）、土器2点（38・39）を図示した。磁器：1、5～8、11、13～18、20は碗、2・21・22は筒形碗、3・4は端反碗、9・12・19は皿、10は瓶麦猪口である。陶器：24・30は土瓶蓋、25は擂鉢、26・27・31・33は土瓶、32・36は蓋、34は碗、35は壺、37は秉燭である。土器：38は焼塩壺蓋、39は鉢焙である。

第5節　埋桶

7号土坑（図78・80）

H 4グリッドに位置する。長さ0.45m、幅0.45m、深さ0.43mである。平面円形の埋桶を据えている。桶の底は検出されなかった。他の遺構との切り合い関係は7号土坑が1号池を切っている。

遺物は銭貨4点（1～4）、木製品（5）を図示した。銭貨：1～4は寛永通宝、木製品：5は検出した桶である。

8号土坑（図78・80）

I 4グリッドに位置する。長さ0.34m、幅0.30m、深さ0.43mである。平面円形の埋桶を据えている。他の遺構との切り合い関係はない。

遺物は木製品（1）を図示した。木製品：1は検出した桶である。

9号土坑（図78・80）

I 4グリッドに位置する。長さ0.48m、幅0.47m、深さ0.25mである。平面円形の埋桶を据えている。他の遺構との切り合い関係はない。

遺物は木製品（1）を図示した。木製品：1は検出した桶である。

10号土坑（図78・80）

H 4グリッドに位置する。長さ0.48m、幅0.48m、深さ0.10mである。平面円形の埋桶を据えている。底が浅く桶胴部の残存状況は良くなかった。他の遺構との切り合い関係は10号土坑が1号池を切っている。

遺物は木製品（1）を図示した。木製品：1は検出した桶である。

11号土坑（図78）

I 8グリッドに位置する。長さ0.47m、幅0.45m、深さ0.20mである。平面円形の埋桶を据えている。桶の底は腐食が進んでいた。他の遺構との切り合い関係は11号土坑が7号溝を切っている。

12号土坑（図78）

H 14グリッドに位置する。長さ0.55m、幅0.43m、深さ0.50mである。平面円形の埋桶を据えている。桶の胴底が検出されたが腐食が進んでいた。他の遺構との切り合い関係は12号土坑が37号土坑を切っている。

13号土坑（図79・81）

I 5グリッドに位置する。長さ0.53m、幅0.51m、深さ0.35mである。平面円形の埋桶を据えている。他の遺構との切り合い関係は13号土坑が1号池を切っている。

遺物は木製品（1）を図示した。木製品：1は検出した桶である。

25号土坑（図79）

E 11グリッドに位置する。長さ0.64m、幅0.58m、深さ0.10mである。平面円形の埋桶を据えている。桶の底が検出されたが腐食が進んでいた。他の遺構との切り合い関係はない。

32号土坑（図79・81）

H 14グリッドに位置する。長さ0.53m、幅0.50m、深さ0.30mである。平面円形の埋桶を据えている。桶の胴底が検出されたが腐食が進んでいた。他の遺構との切り合い関係は32号土坑が33号土坑を切っている。

遺物は銭貨4点（1～3）を図示した。銭貨：1は寛永通宝、2は文久永宝、3は寛永通宝四文銭である。

34号土坑（図79・81）

G 12グリッドに位置する。長さ0.45m、幅0.29m、深さ0.40mである。平面円形の埋桶を据えている。桶の底が検出されたが腐食が進んでいた。他

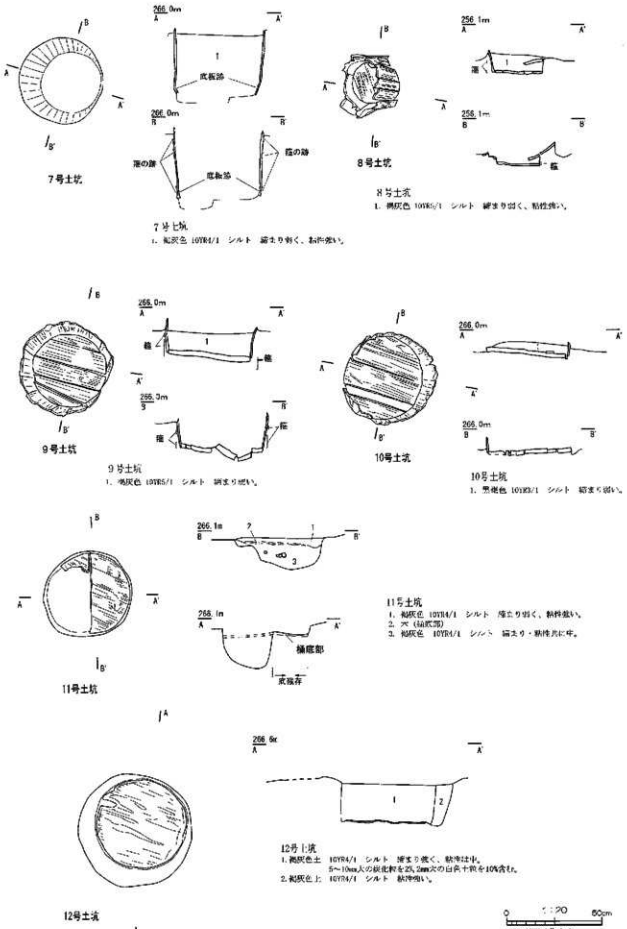
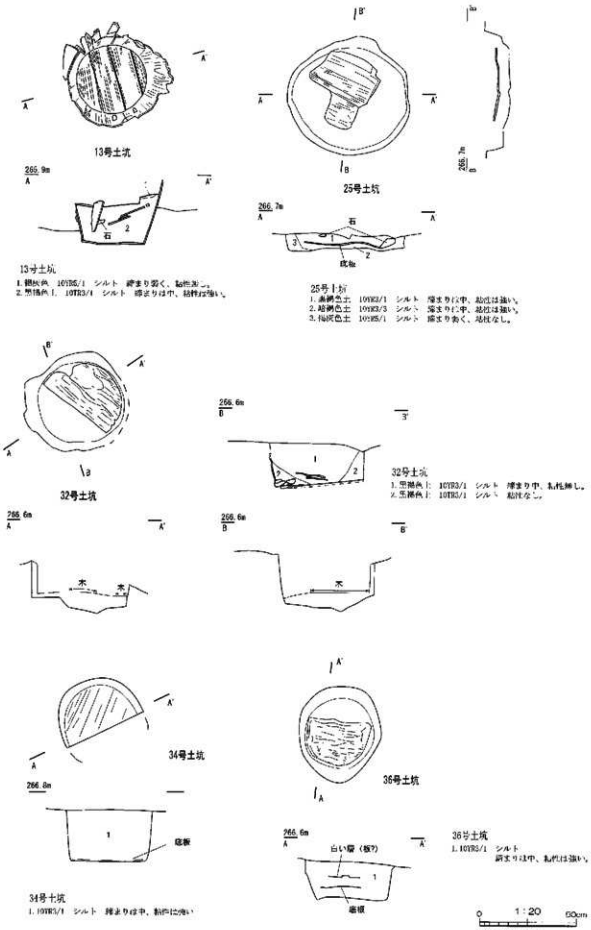

7号土坑
7号土坑
1. 紀灰色 10YR4/1 シルト 締まり弱く、粘性強い。
8号土坑
8号土坑
1. 褐灰色 10YR5/1 シルト 締まり弱く、粘性強い。
9号土坑
9号土坑
1. 褐灰色 10YR5/1 シルト 締まり強い。
10号土坑
10号土坑
1. 黒褐色 10YR3/1 シルト 締まり強い。
11号土坑
11号土坑
1. 褐灰色 10YR4/1 シルト 締まり弱く、粘性強い。
2. 灰（砂紋状）
3. 褐灰色 10YR4/1 シルト 締まり・粘性共に中。
12号土坑
12号土坑
1. 褐灰色土 10YR4/1 シルト 締まり強く、粘性は中。
5~10mm大の炭化粒を25, 2mm以下の白色土粒を10%含む。
2. 紀灰色土 10YR4/1 シルト 粘性強い。
※平面図北 4.3

図 78 埋桶（1）



13号土坑
1. 褐灰色　10YR5/1　シルト　締まり弱く、粘性あり。
2. 黒褐色 1.　10YR3/1　シルト　締まりは中、粘性は強い。

25号土坑
1. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まりは中、粘性は強い。
2. 暗褐色土　10YR3/3　シルト　強まりは中、粘性は強い。
3. 褐灰色土　10YR5/1　シルト　締まり弱く、粘性なし。

32号土坑
1. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり中、粘性無し。
2. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　粘性なし。

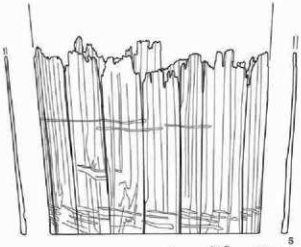
34号土坑
1. 10YR3/1　シルト　締まりは中、粘性は強い

36号土坑
1. 10YR3/1　シルト
締まりは中、粘性は強い。

図 79　埋桶（2）

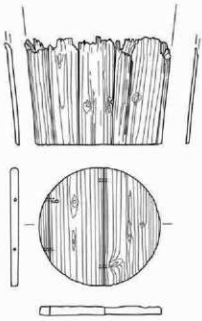
7号土坑

※1～4は3分の2縮尺



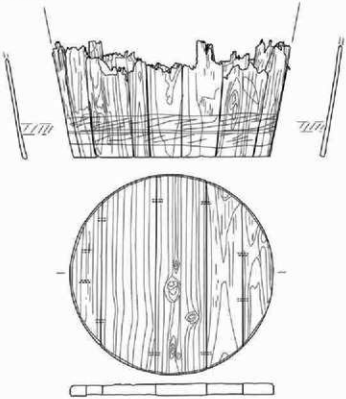
※5は8分の1縮尺

8号土坑



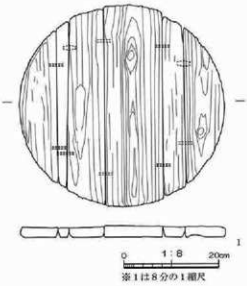
※1は8分の1縮尺

9号土坑



※1は8分の1縮尺

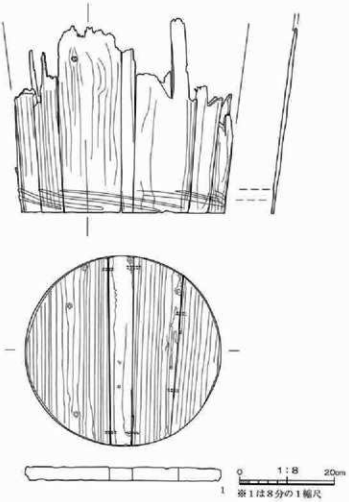
10号土坑



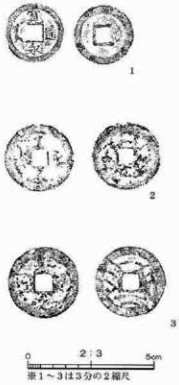
※1は8分の1縮尺

図80　埋桶出土遺物（1）

13号土坑



32号土坑



34号土坑

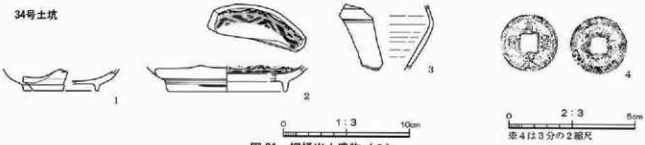
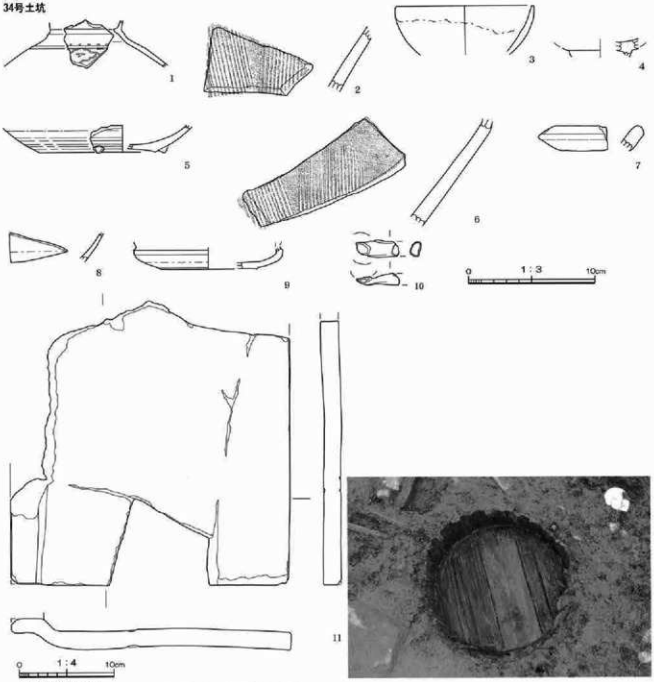


図81　埋桶出土遺物（2）

写真85　7号土坑完掘状況　東から

写真86　8号土坑完掘状況　西から

34号土坑



※11は4分の1縮尺

図82　埋桶出土遺物（3）

写真88　10号土坑完掘状況　西から

写真87　9号土坑完掘状況　東から

写真89　13号土坑完掘状況　北から

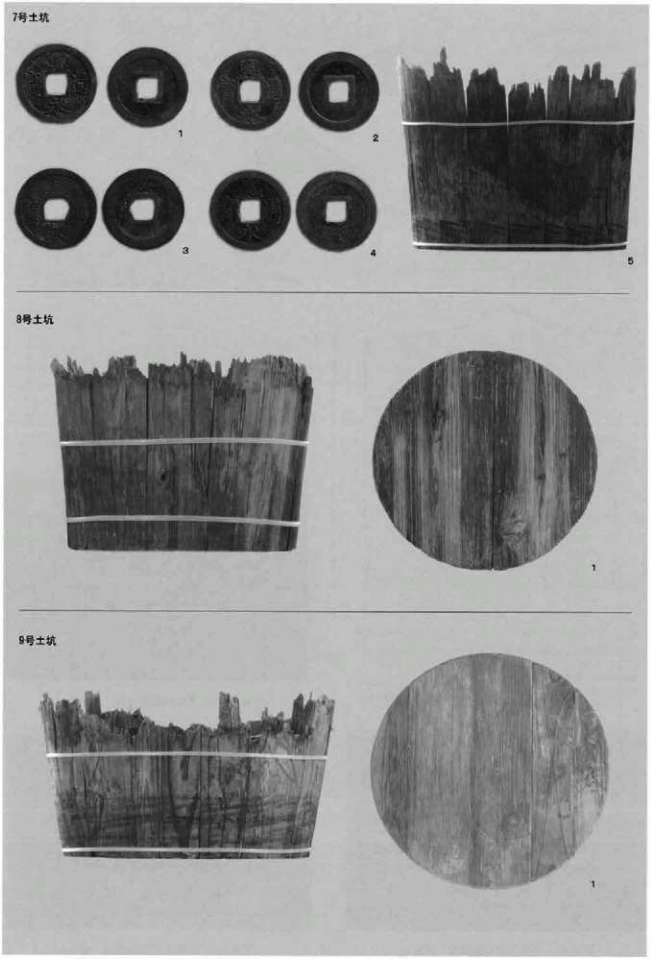
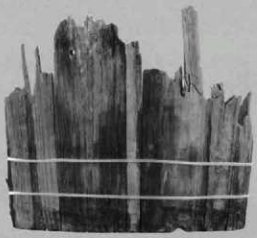


写真 90　埋桶出土遺物（1）

10号土坑

1

13号土坑



1

32号土坑

1

2

3

写真91　埋桶出土遺物（2）

34号土坑

1

2

3

4

36号土坑

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

写真 92　埋桶出土遺物（3）

の遺構との切り合い関係はない。

遺物は磁器２点（１・２）、陶器１点（３）、銭貨１点（４）を図示した。磁器：１は丸碗、２は皿である。陶器：３は土瓶、銭貨：４は寛永通宝である。

36号土坑（図79）

H14グリッドに位置する。長さ0.51ｍ、幅0.48ｍ、深さ0.22である。平面円形の埋桶を据えている。桶の胴底が検出されたが腐食してが進んでいた。他の遺構との切り合い関係は36号土坑が37号土坑を切っている。

第６節　池

１．１号池（図83～102）

Ｇ３からＩ７グリッドに位置する。検出範囲で南北5.6ｍ、東西20.4ｍである。南側と西側は撹乱され消失している。平面形は東西に延びるひょうたん形でくびれ部を持つ。東側の池内部には中島がある。池と中島の縁辺には杭が打たれ土留め板が設けられていたと考えられる。池のくびれ部にはより太い杭が並行した杭列をなしており橋が架けられていたもの考えられる。他の遺構との切り合い関係は１号池が県庁10号～17号基礎、７号・10号・13号・14号土坑、12号・54号・55号ピットに切られている。

遺物は磁器58点（１～58）、陶器49点（59～107）、土器38点（108～145）、石製品２点（146・147）、金属製品17点（148～165）、銭貨10点（166～175）、木製品246点（176～421）、瓦８点（422～429）を図示した。磁器は丸碗、端反碗、蕎麦猪口５、小坏、仏飯器９、瓶、皿、蓋、油壺37などである。陶器は碗、小坏、擂鉢、壺、三島手大皿69、小皿、灯明受付皿、瓶、呉器手碗76、香炉90、蓋、甕、馬の目皿100などである。土器は小皿、焼塩壺113、焙烙、灯明皿130、火鉢141である。石製品は硯146・147、金属製品は金具、火箸149、飾り、釘、鳶口155、煙管雁首、煙管吸口161、である。銭貨は寛永通宝、寛永通宝文銭172である。木製品は曲物底、樽蓋、継手を持つ角材、手鏡枠183・184、手桶182・270・288、下駄190、桶、楔、羽子板194、柄杓、柱217・235、札195・199、鍬229、曲物、杭257、栓の付いた蓋285、焼印がある蓋303。漆器椀蓋304、漆器椀305～309、箸310～421である。瓦は軒平瓦422～424、軒丸瓦425～426、熨斗瓦427、輪違い428・430、丸瓦429である。

２．２号集石（図83・84・103）

Ｆ12からＪ11グリッドに位置する。検出範囲で長さ５ｍ、幅1.7ｍである。北側と西側は撹乱され消失している。小石が敷き詰められた中に１条の飛び石列を検出した。飛び石列は長さ2.5ｍである。池の橋に向けられて延びているように思われる。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は小石上面で検出されている。遺物は磁器５点（１～５）、陶器３点（６～８）、土製品１点（９）、銭貨１点（10）を図示した。磁器：１は水滴、２は仏飯器、３は丸碗、４は筒形碗、５は皿である。陶器：６は鍋、７は碗、８は灯明受付皿である。土製品：９は碁石、銭貨：10は寛永通宝である。

写真93　１号池完掘状況　南から

写真94　１号池　西から

写真95　２号集石　北から

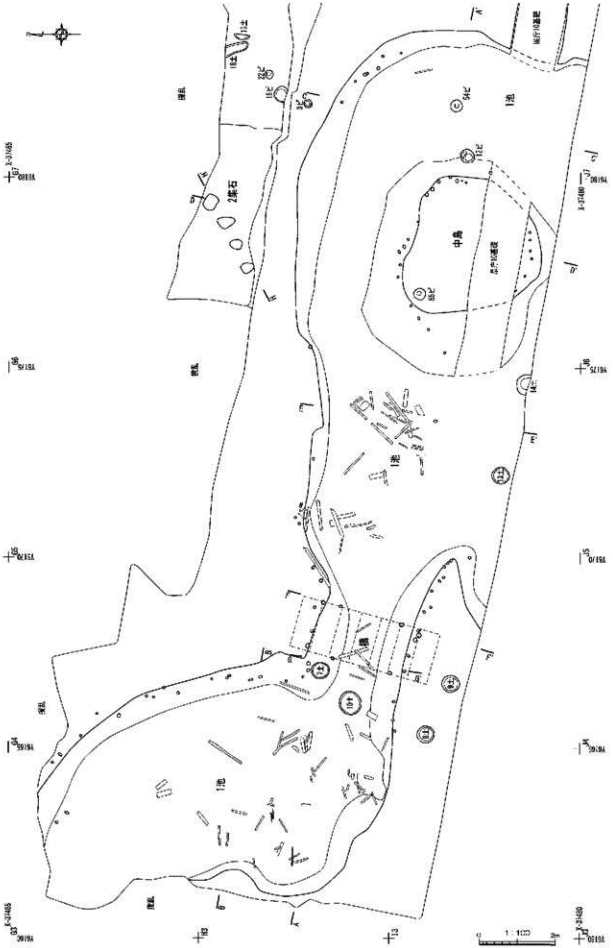


図83　1号池・2号集石（1）

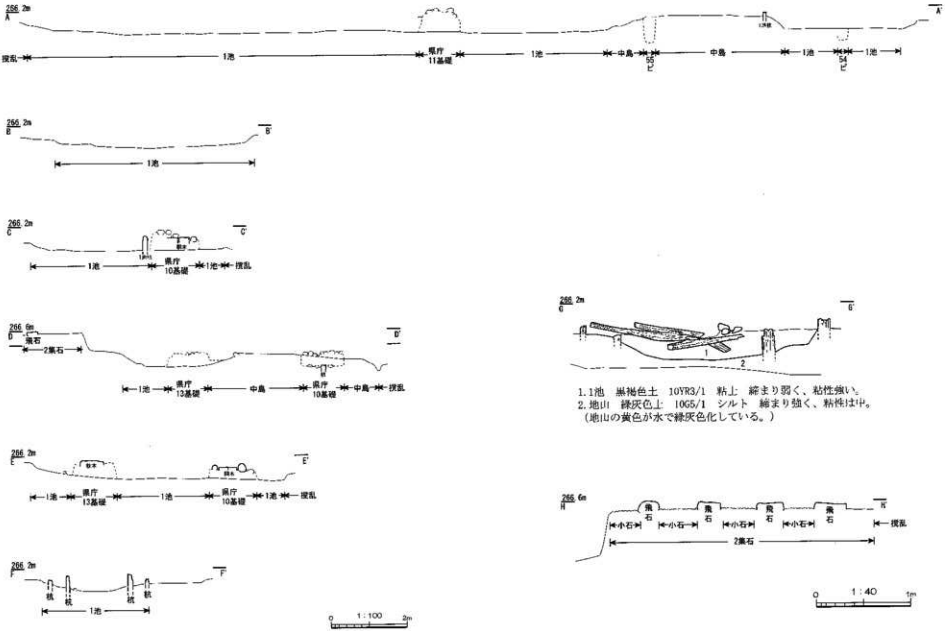


図84　1号池・2号集石（2）

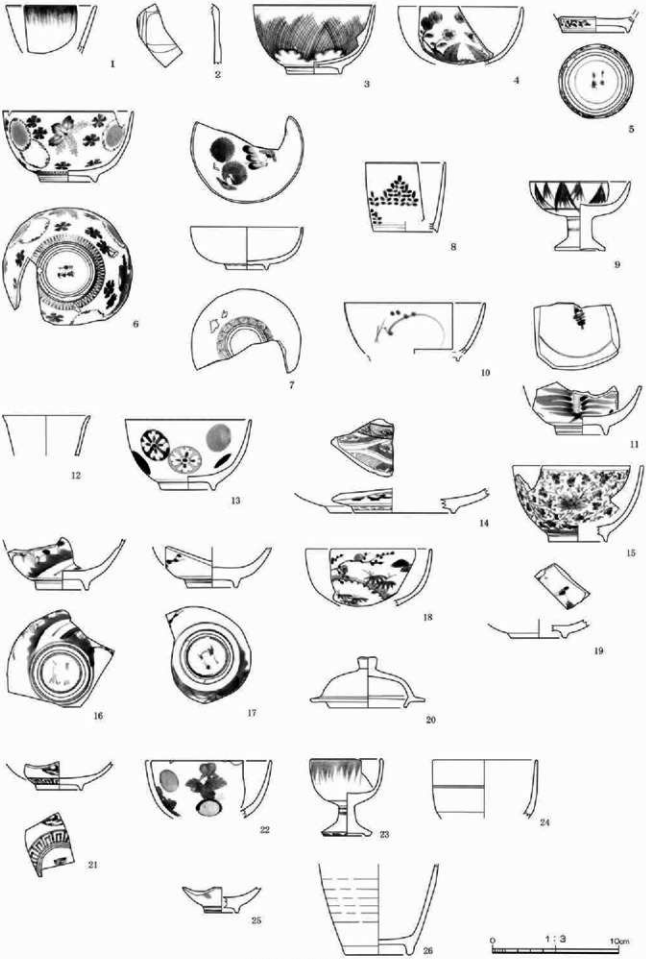


図85　1号池出土遺物（1）

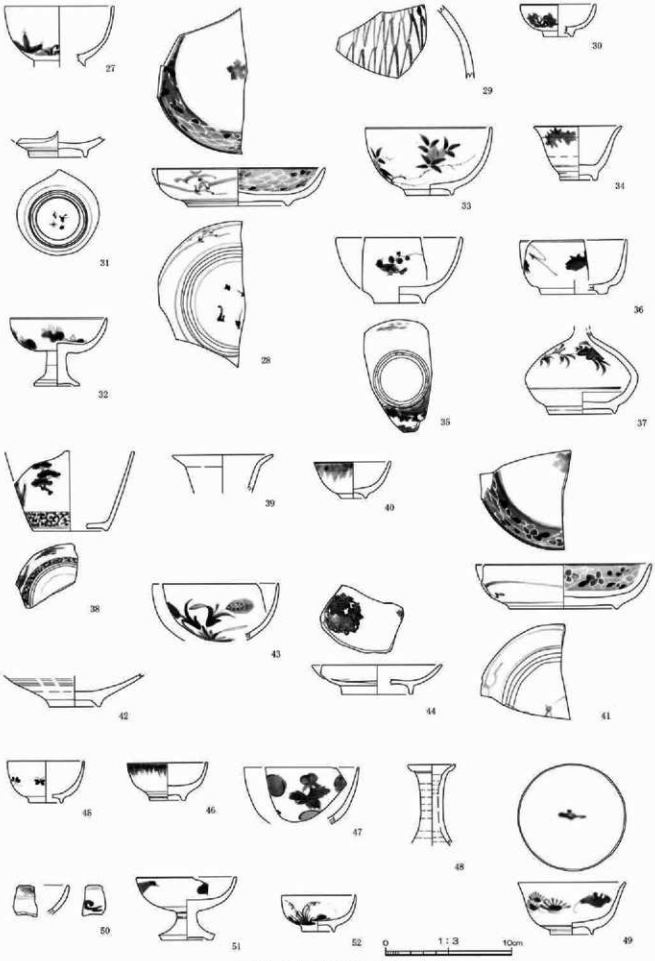


図86　1号池出土遺物（2）

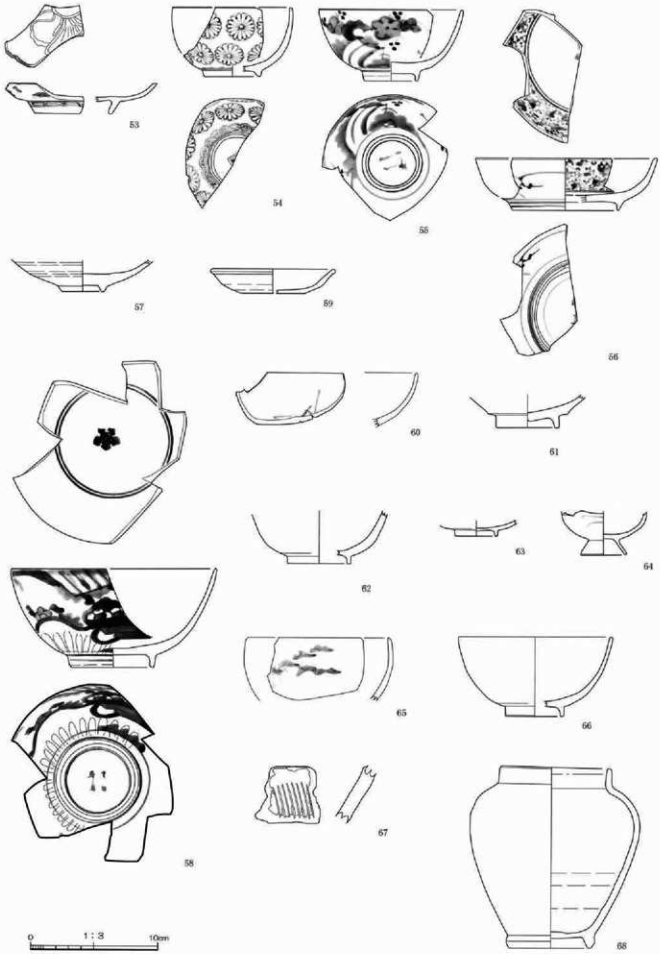


図87　1号池出土遺物（3）

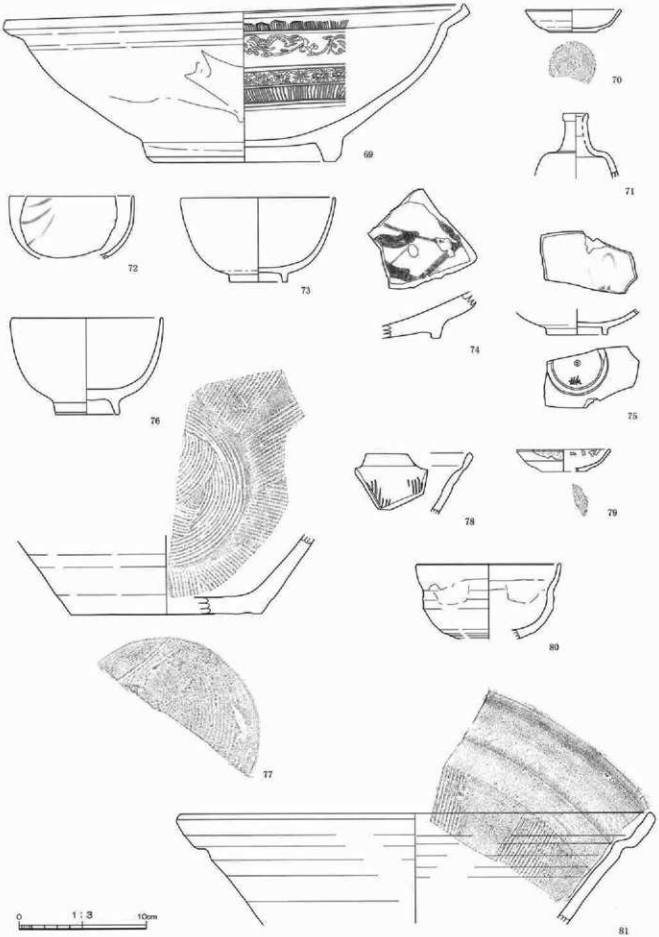


図88　1号池出土遺物（4）

図89　1号池出土遺物（5）

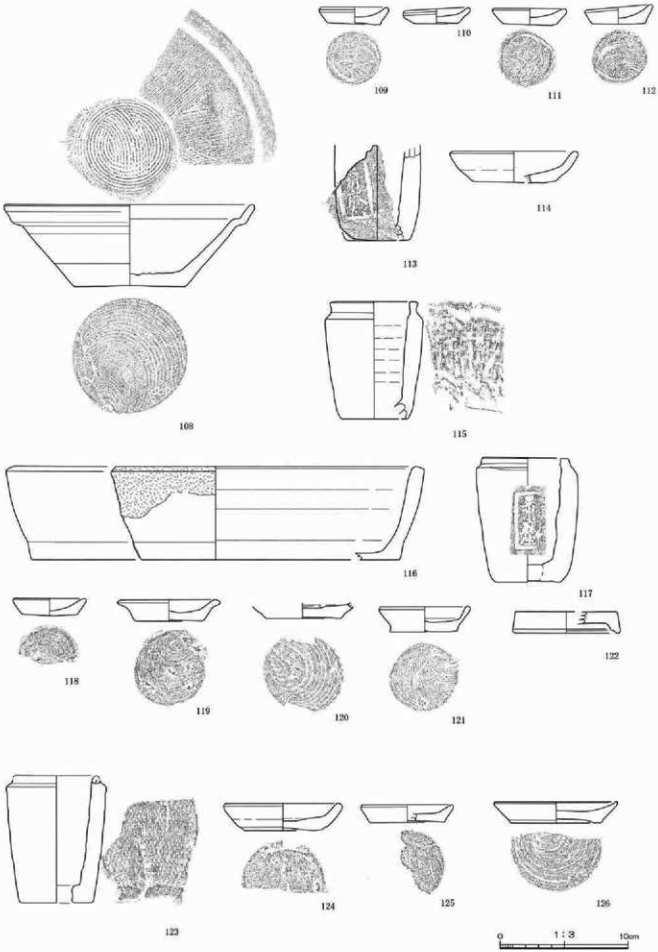


図90　1号池出土遺物（6）

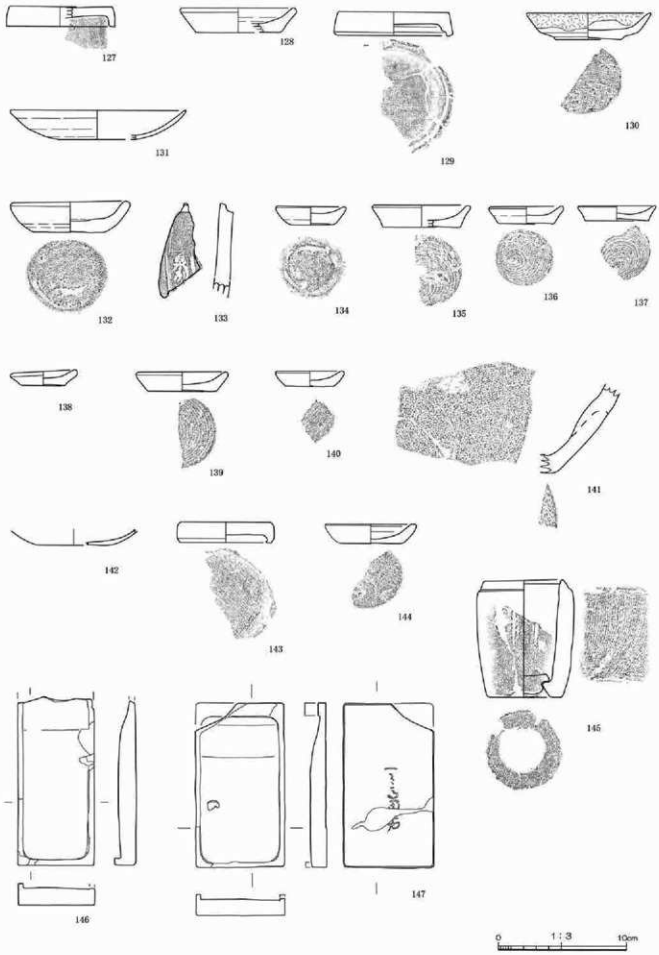


図91　1号池出土遺物（7）

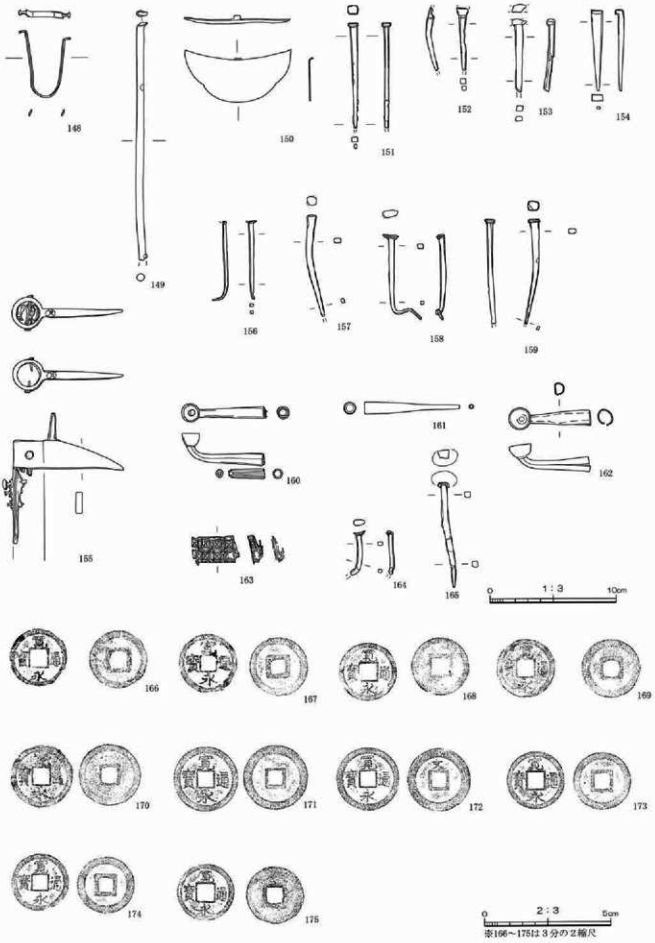


図 92　1号池出土遺物（8）

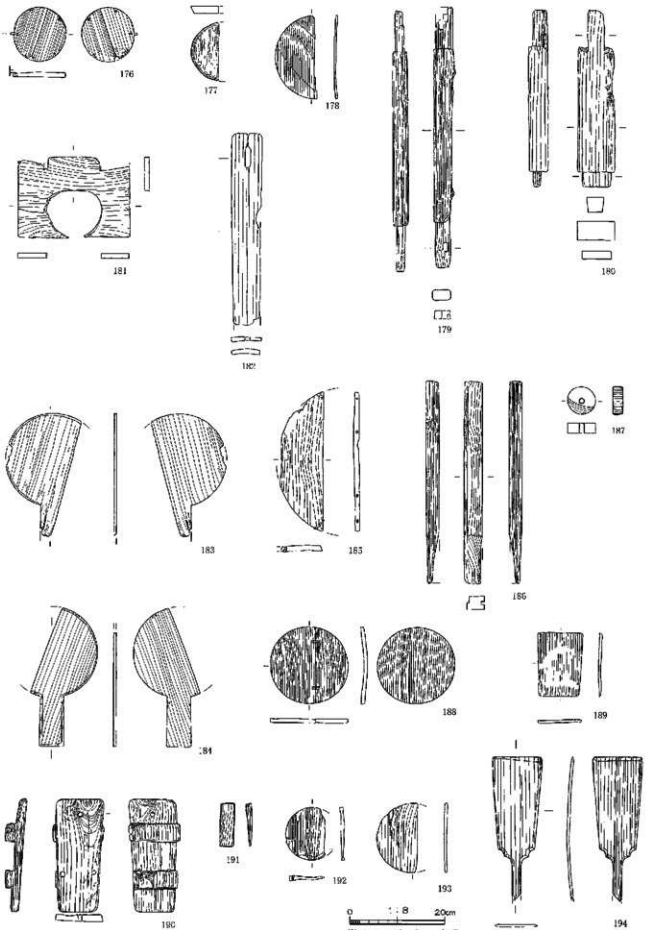


図93　1号池出土遺物（9）

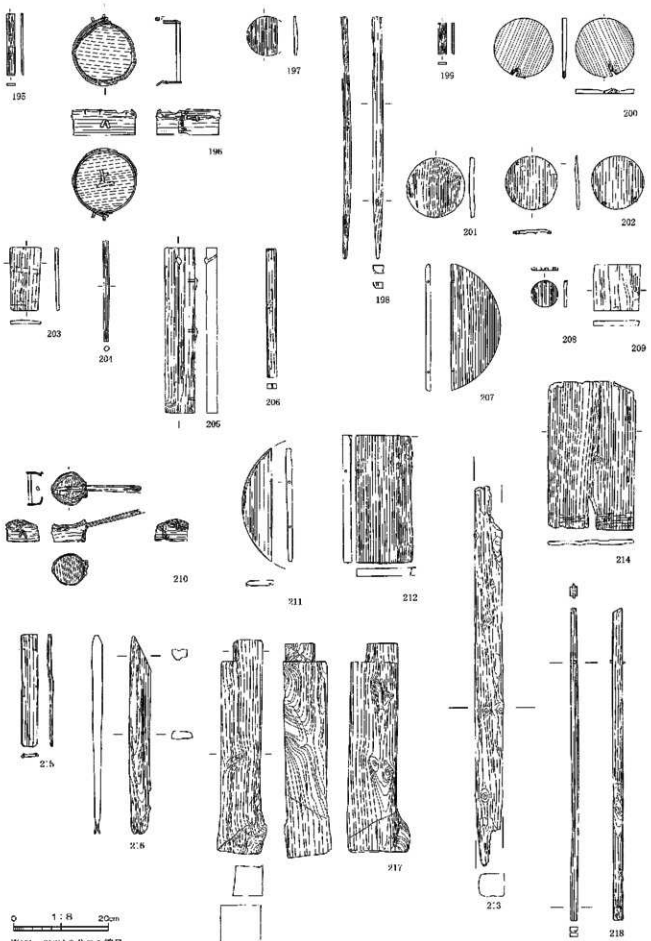


図94　1号池出土遺物（10）

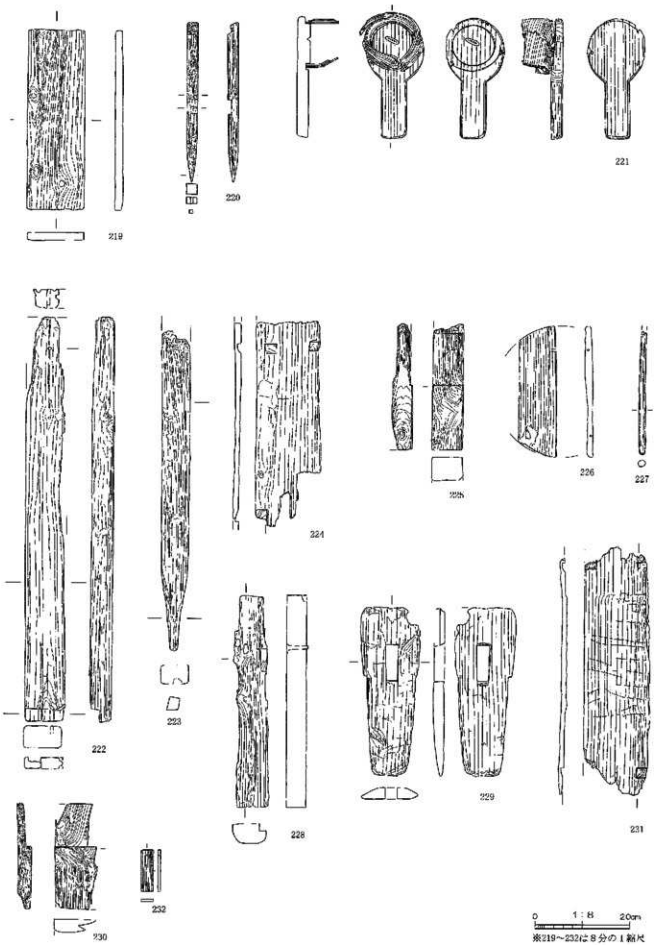


図95　1号池出土遺物（11）

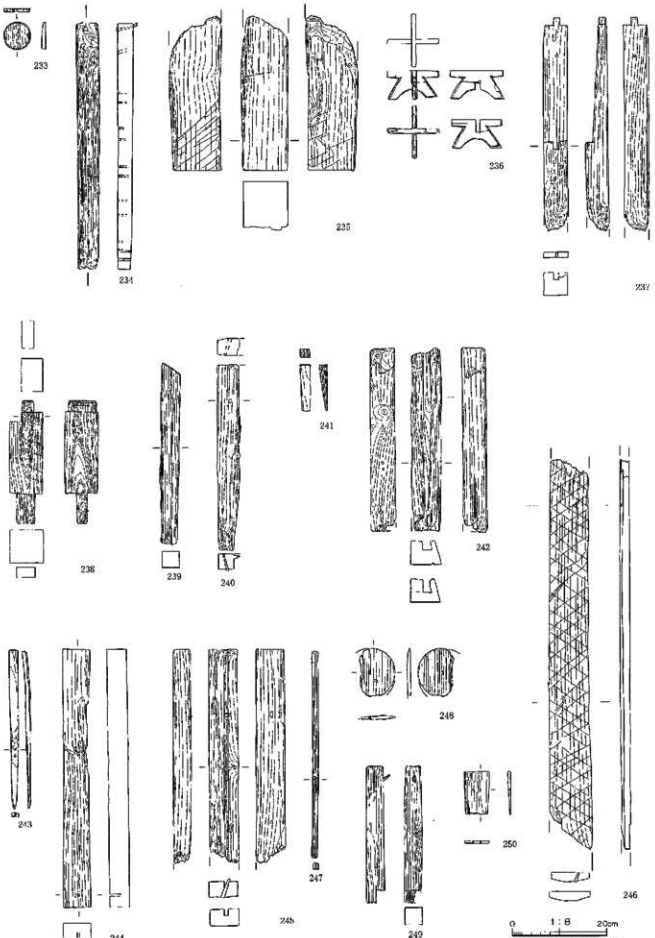


図96　1号池出土遺物（12）

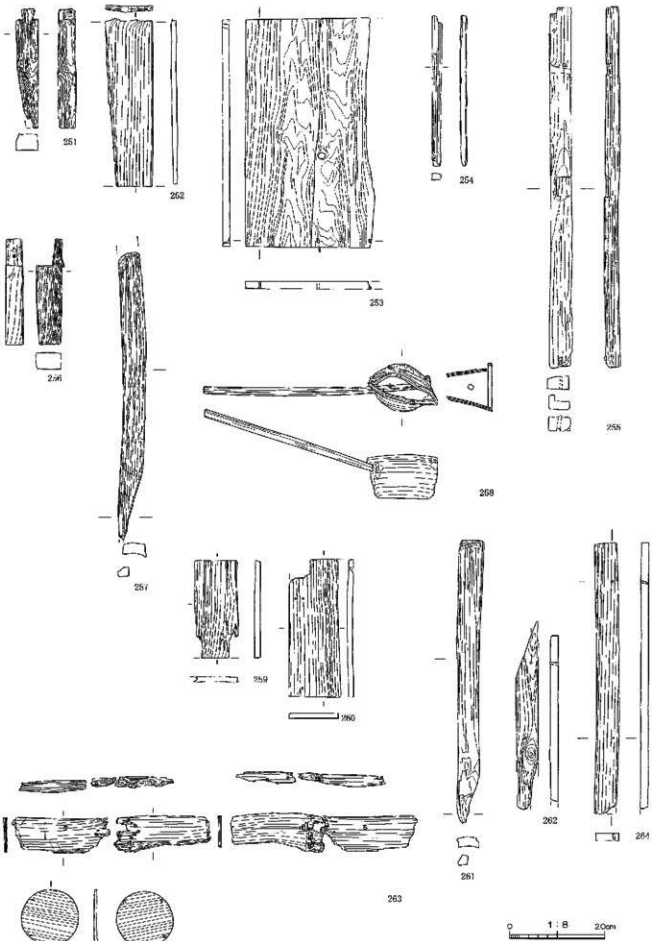


図97　1号池出土遺物（13）

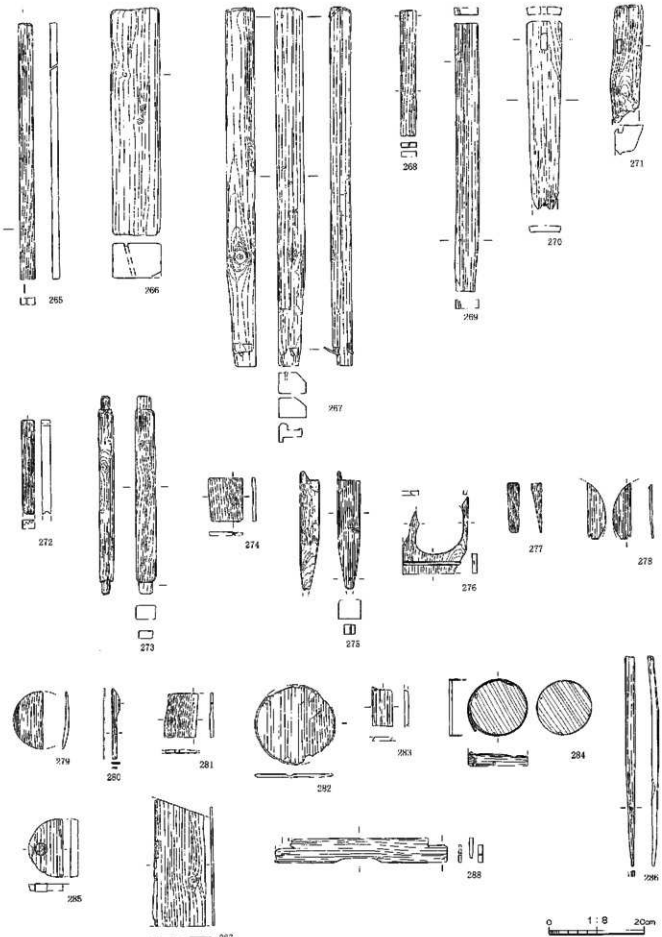


図98　1号池出土遺物（14）

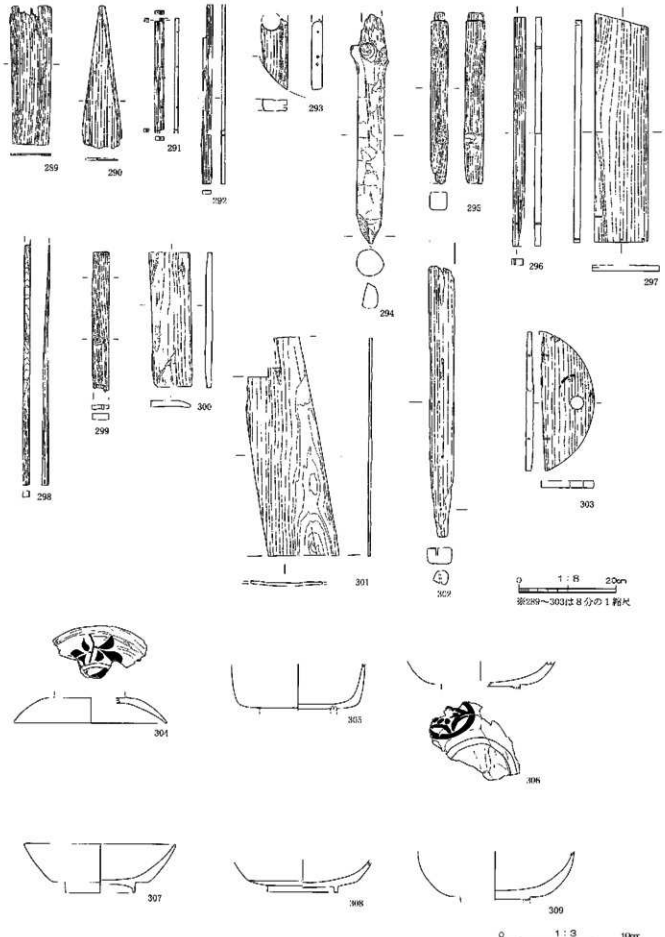


図 99　1号池出土遺物（15）

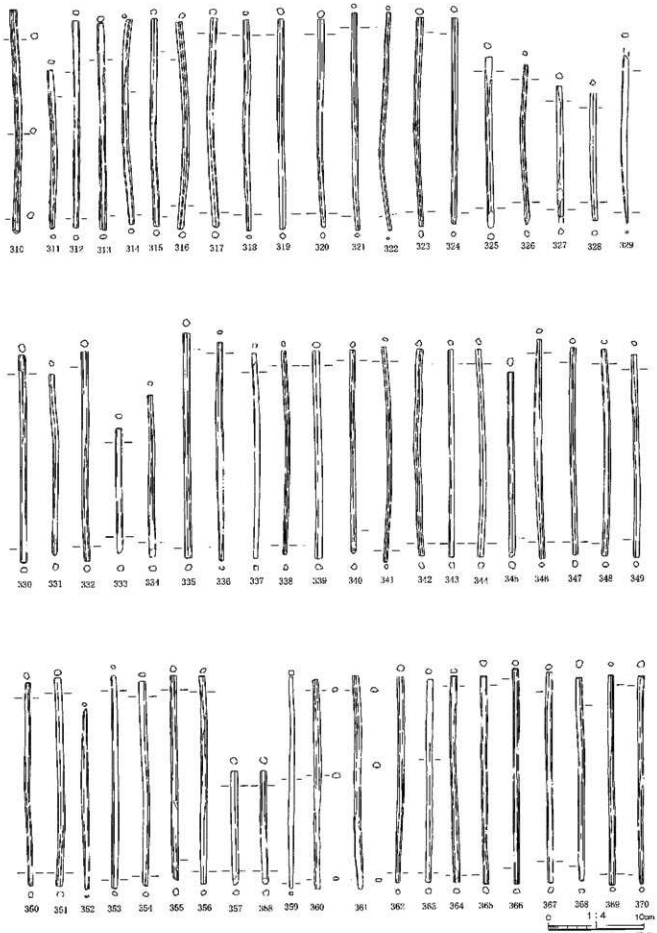


図 100　1号池出土遺物（16）

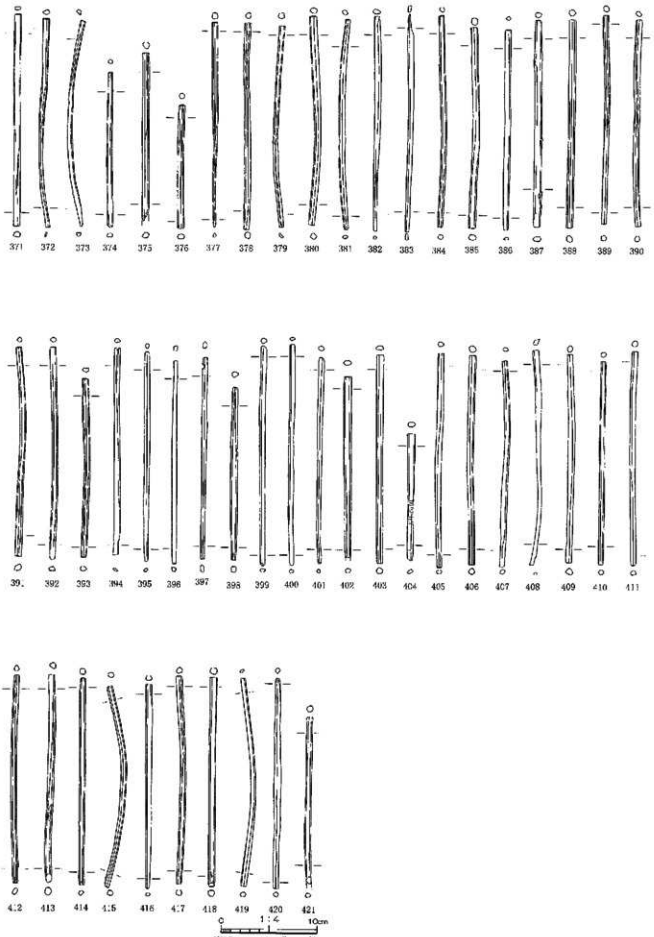


図 101　1号池出土遺物 (17)

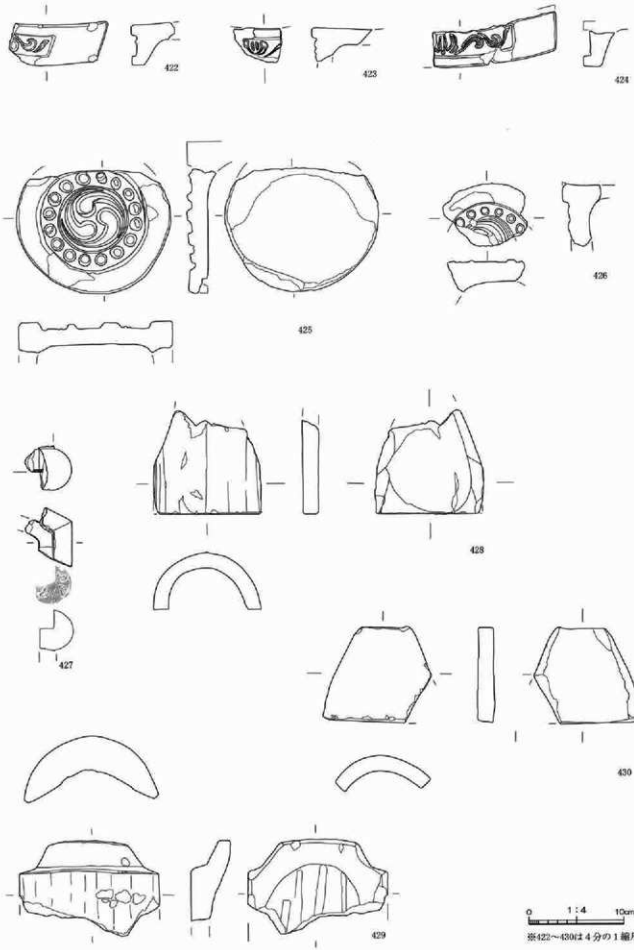


図 102　１号池出土遺物（18）

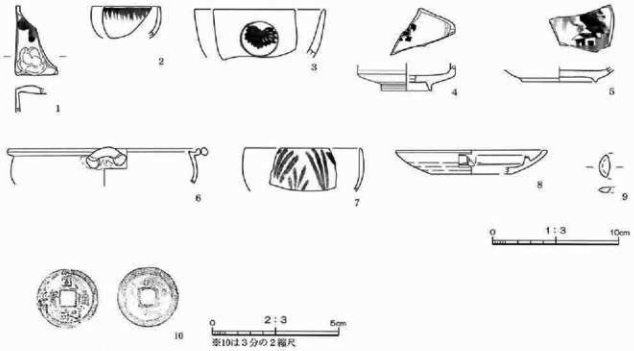


図 103　2号集石出土遺物

写真 96　1号池遺物出土状況

写真 97　1号池遺物出土状況

写真 98　1号池遺物出土状況

写真 99　1号池遺物出土状況

写真 100　1号池出土遺物（1）

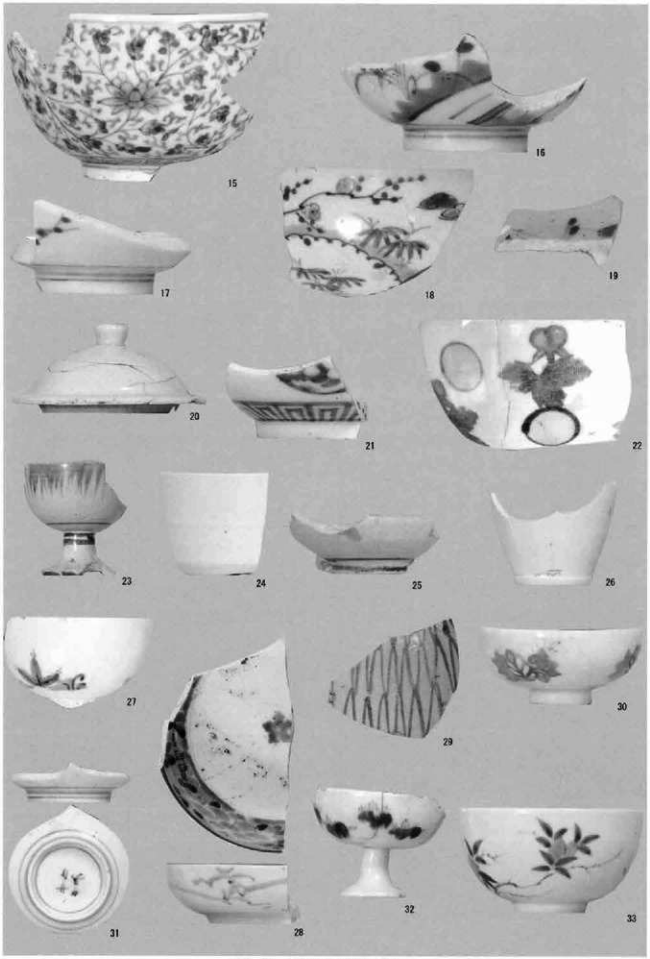


写真 101　1号池出土遺物（2）

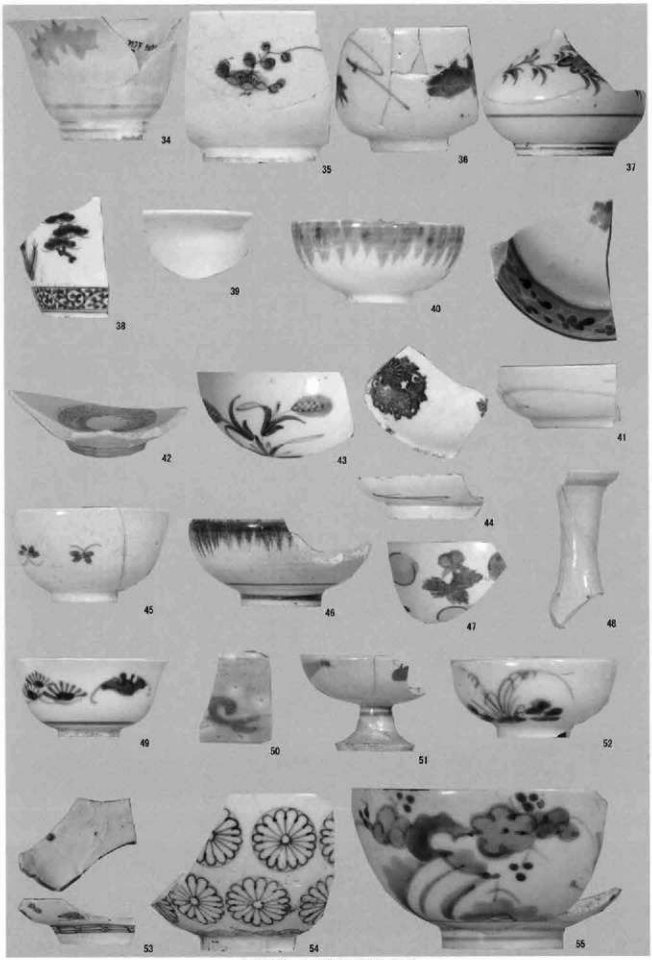


写真 102　1号池出土遺物（3）

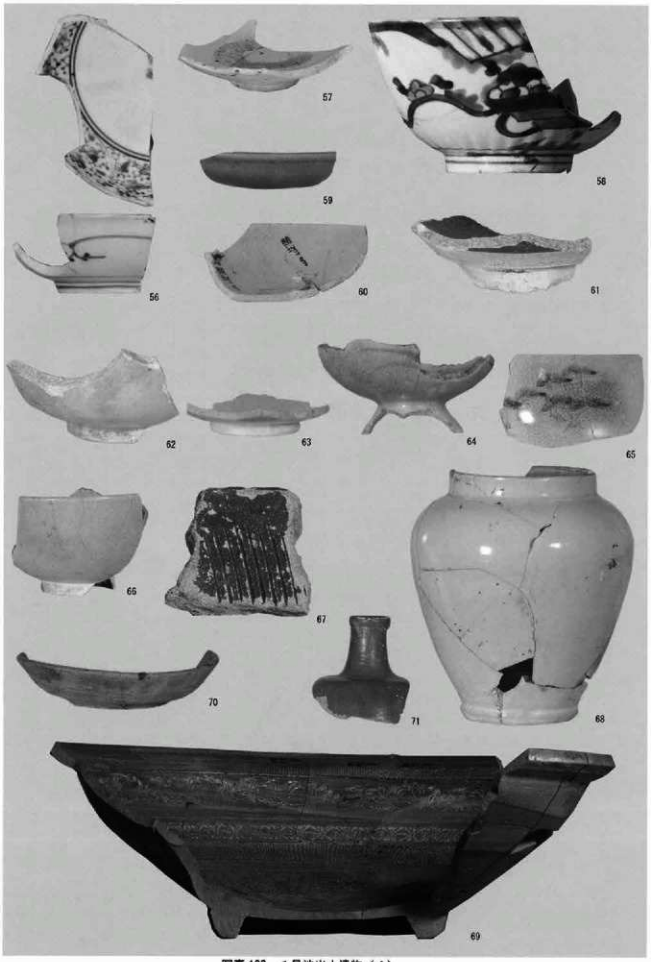


写真 103　1号池出土遺物（4）

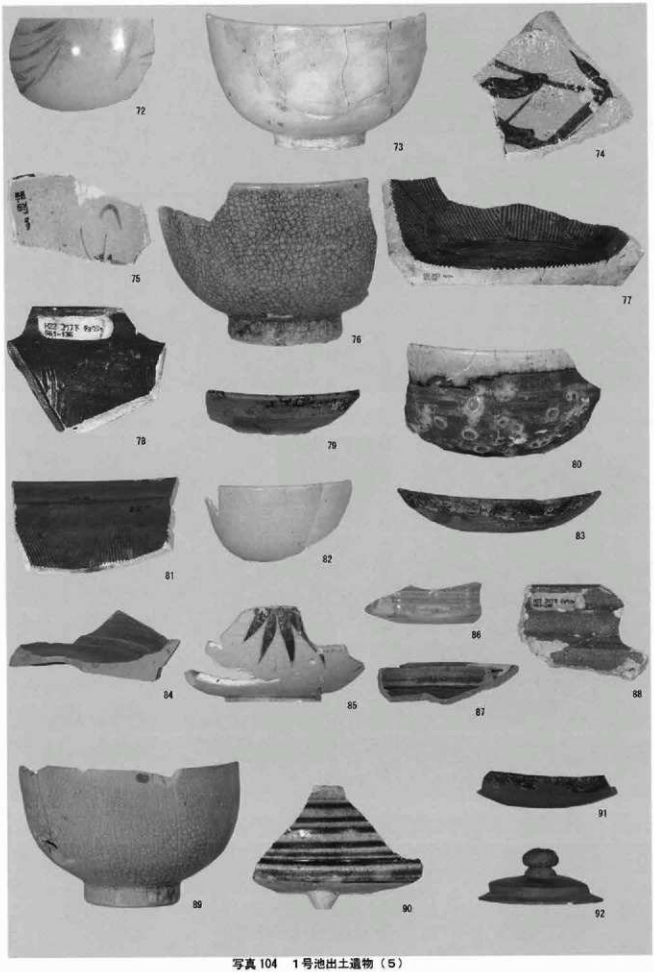


写真 104　1号池出土遺物（5）

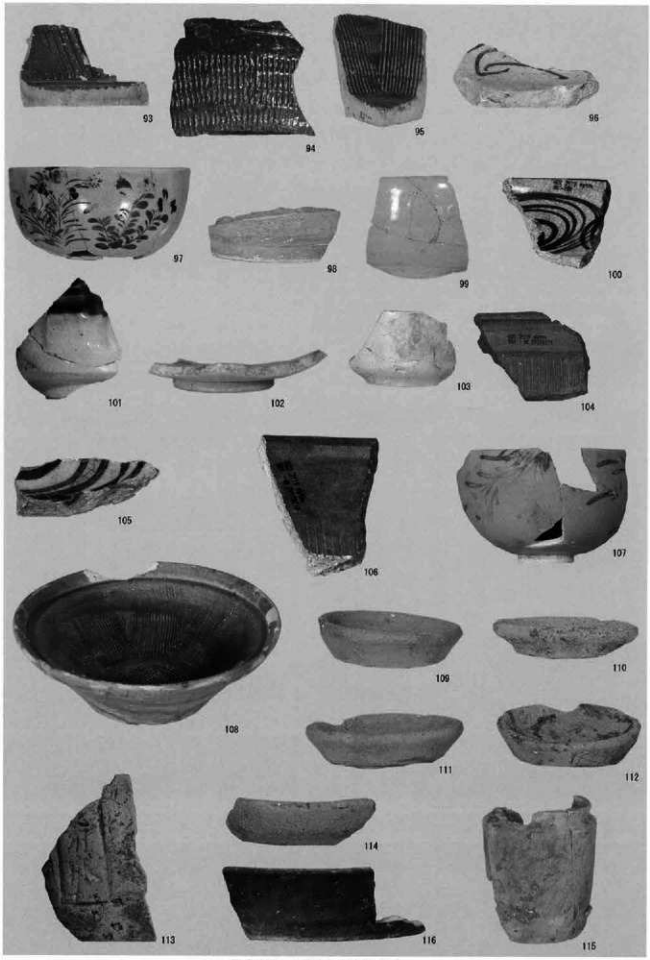


写真 105　1号池出土遺物（6）

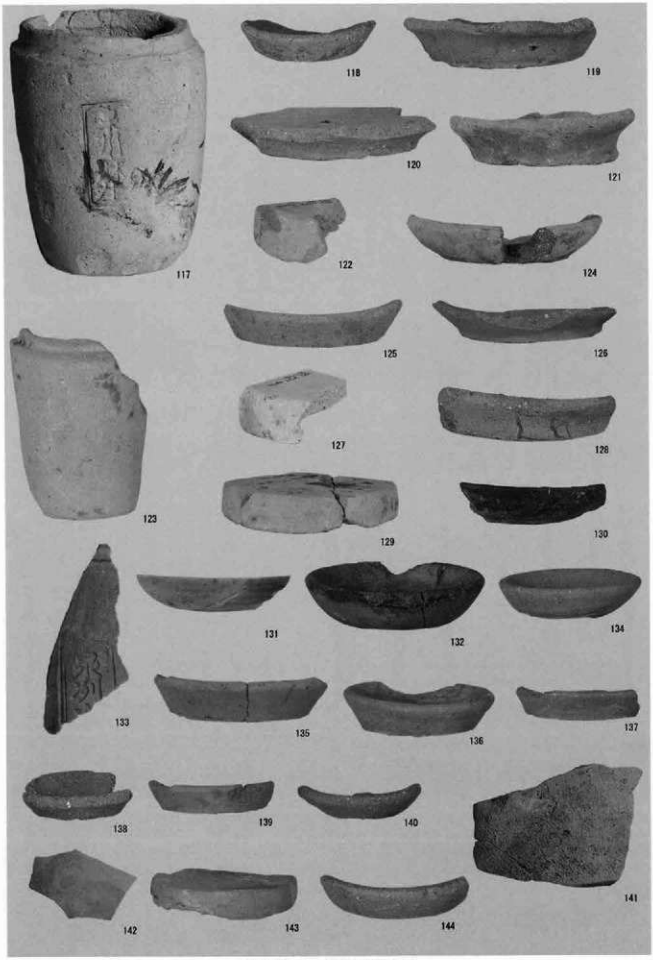


写真 106　1号池出土遺物（7）

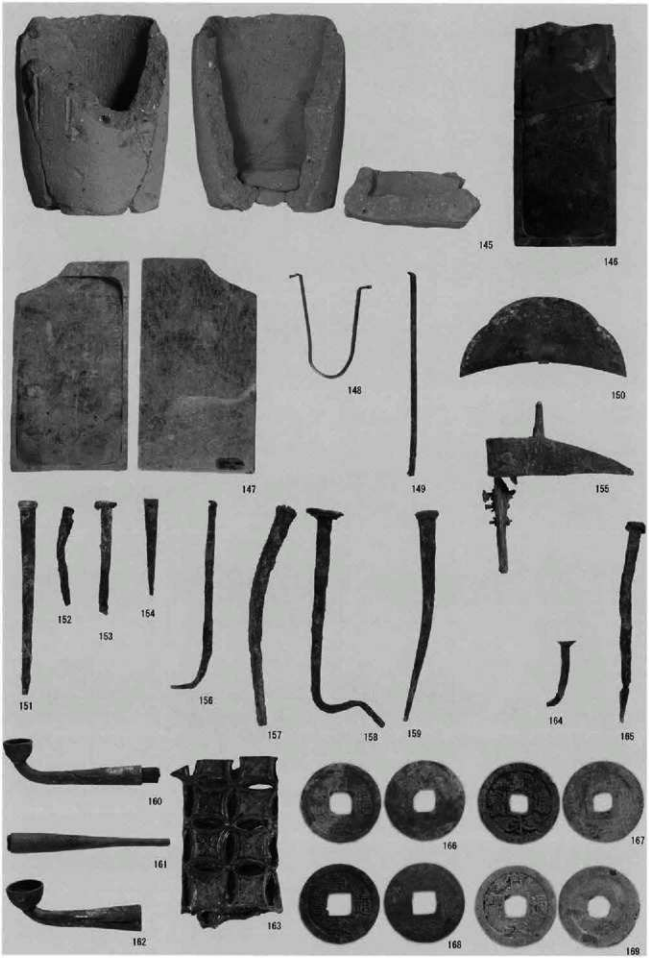


写真 107　1号池出土遺物（8）

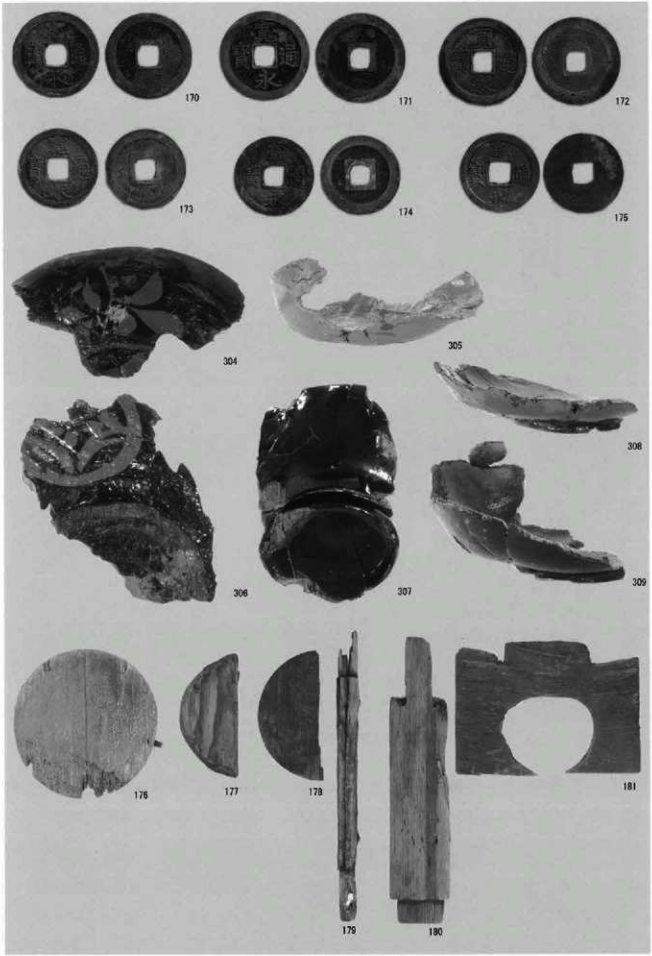


写真 108　1号池出土遺物（9）

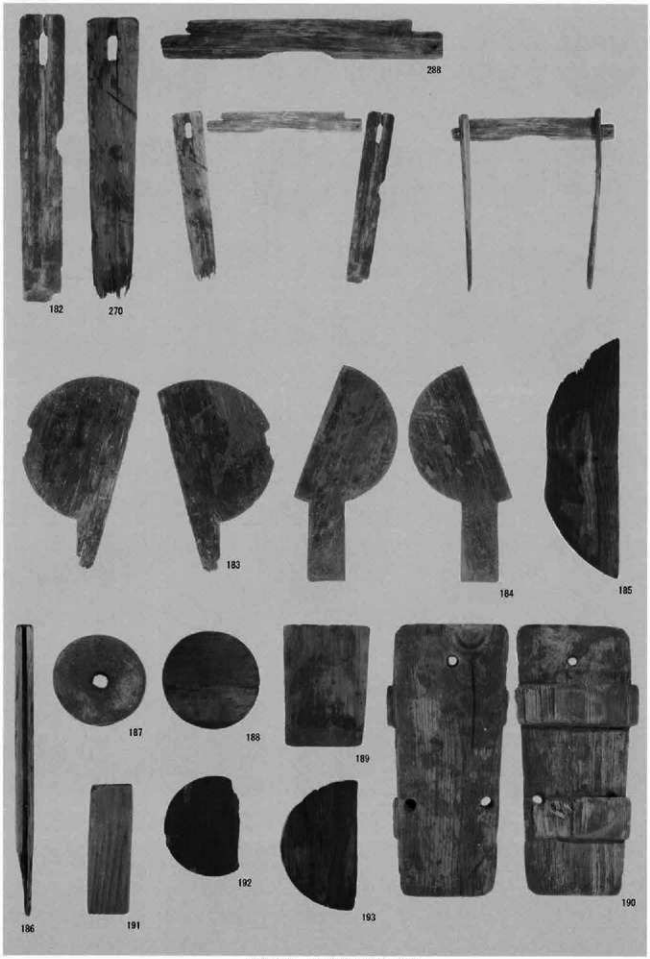


写真 109　1 号池出土遺物（10）

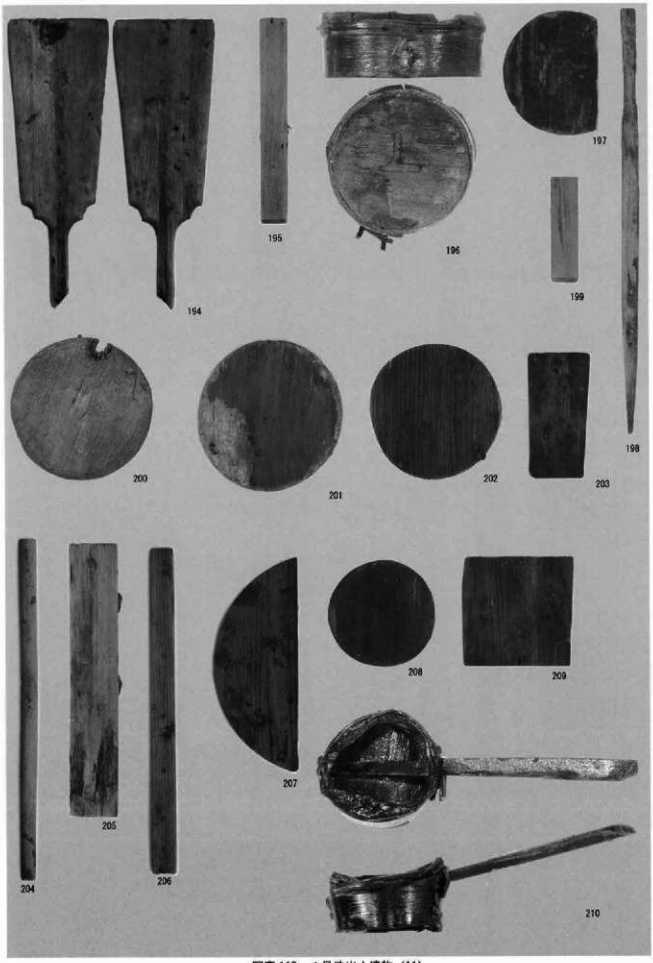


写真 110　1号池出土遺物（11）

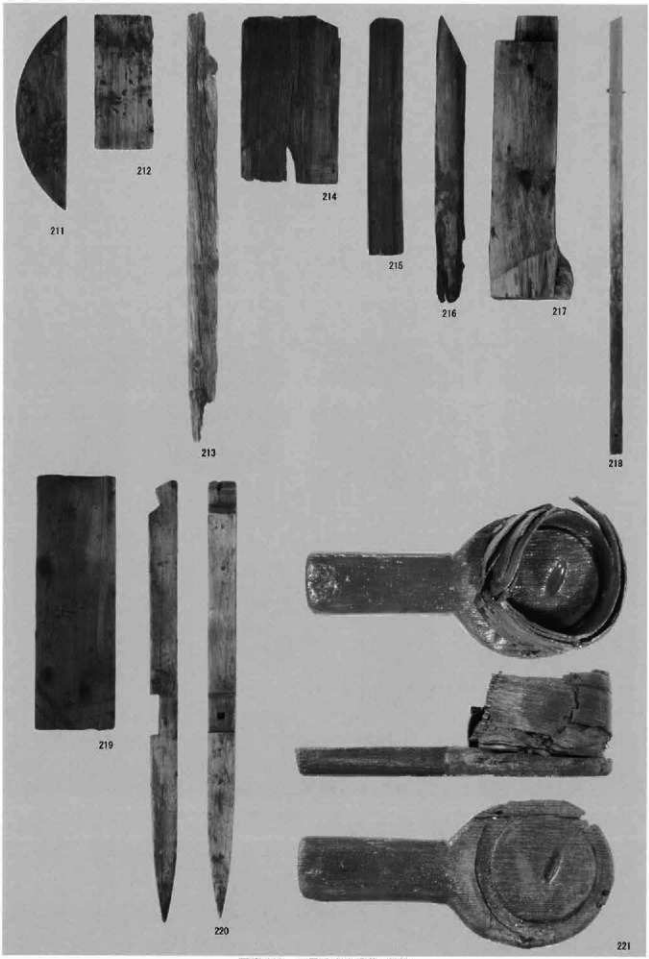


写真 111　1号池出土遺物（12）

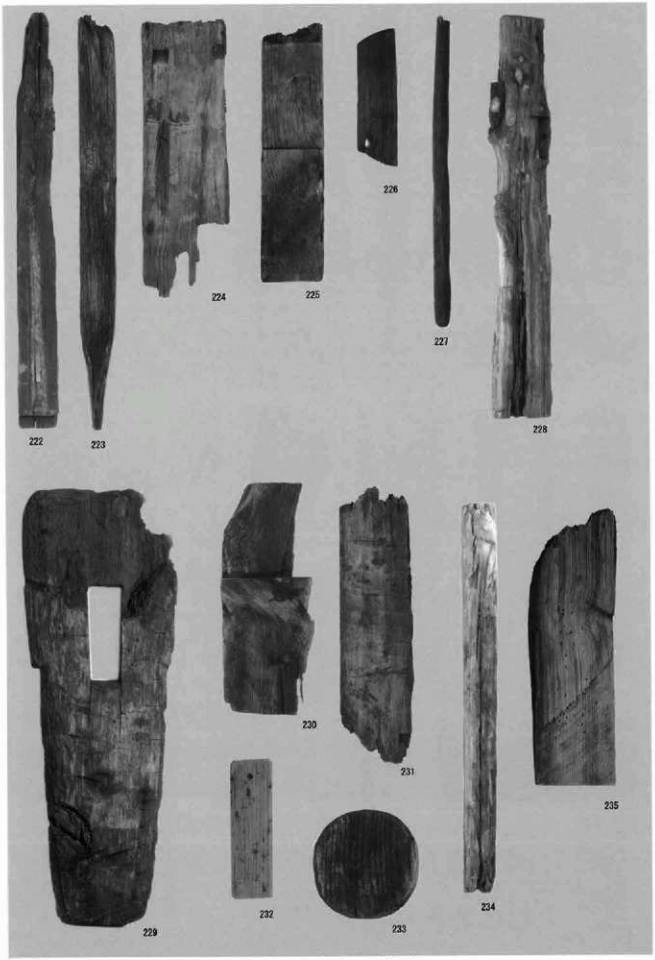


写真 112　1号池出土遺物（13）

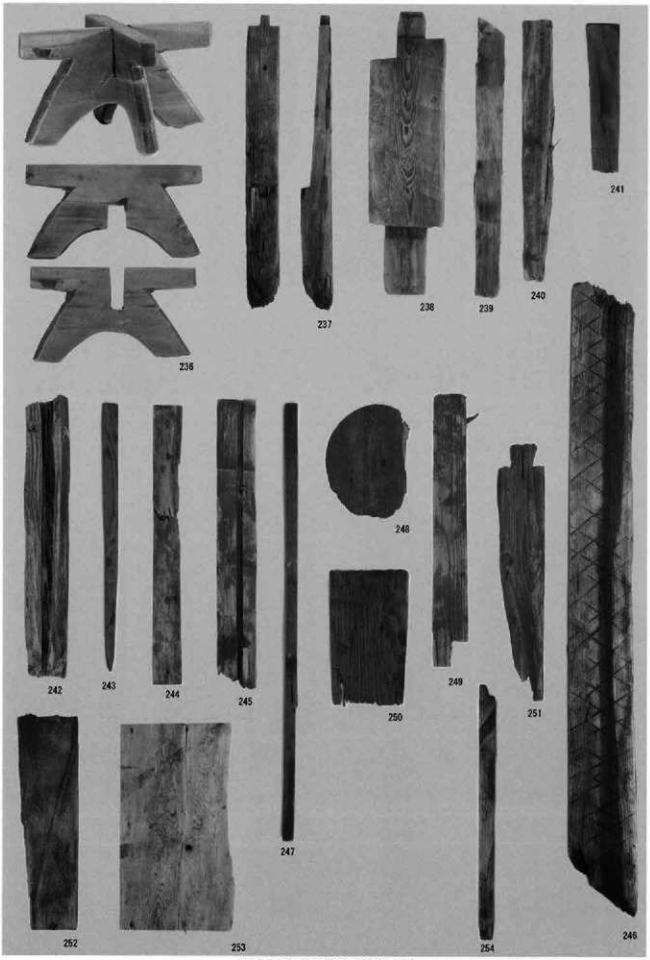


写真 113　1号池出土遺物（14）

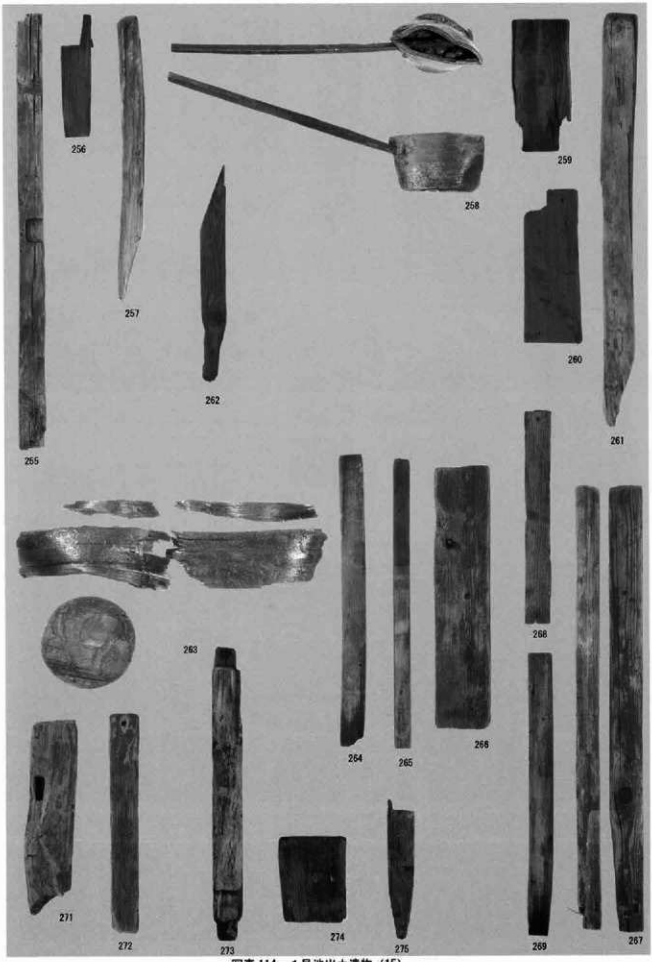


写真114　1号池出土遺物（15）

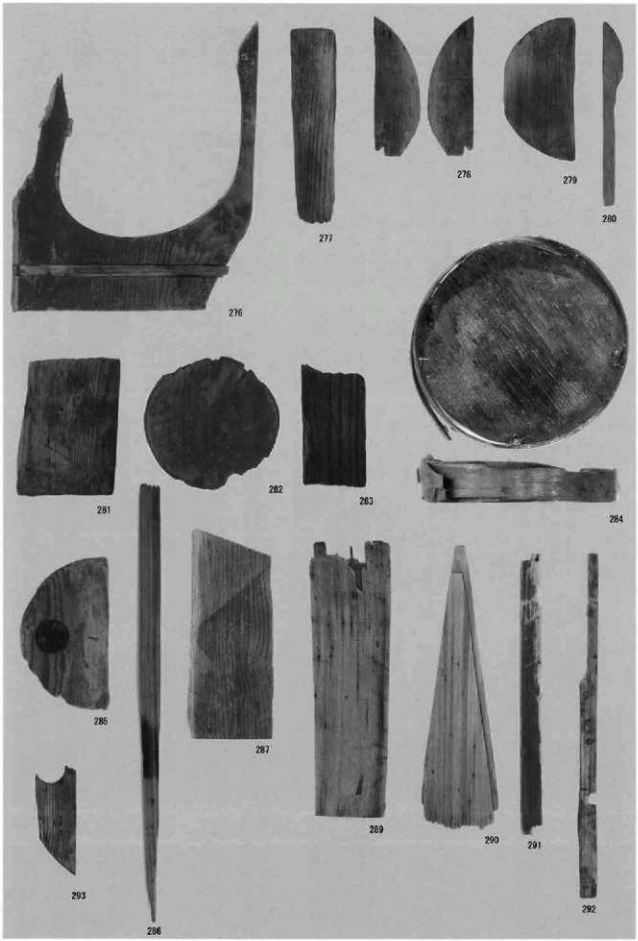


写真 115　1号池出土遺物（16）

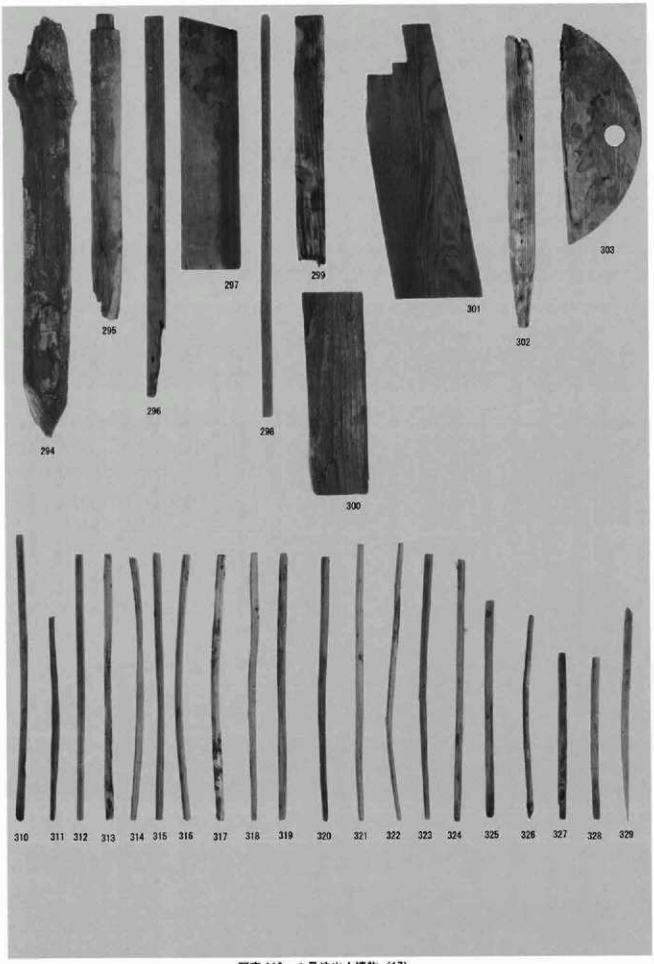


写真 116　1号池出土遺物 (17)

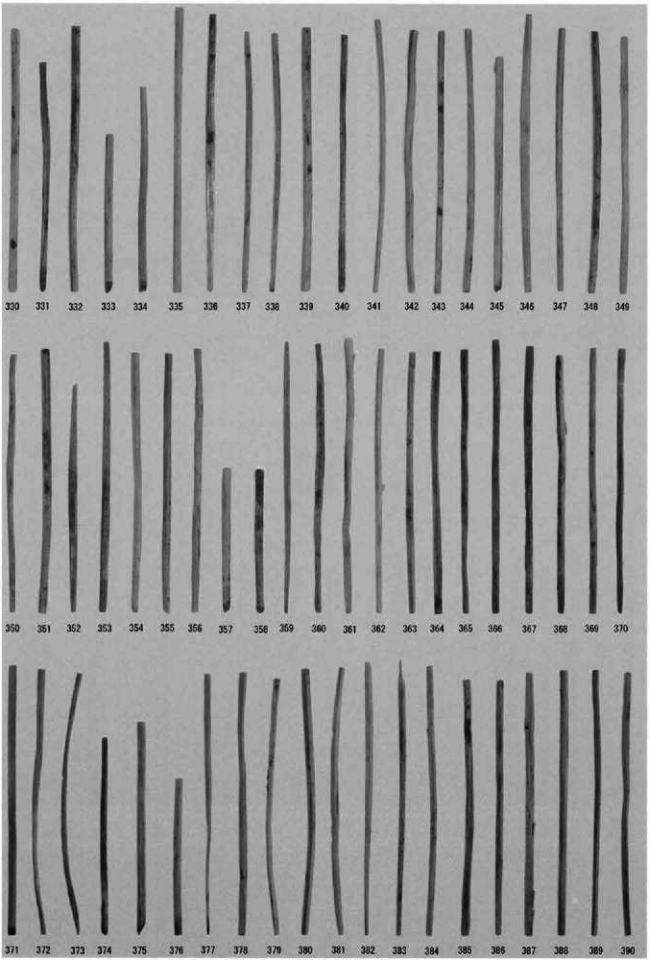


写真117　1号池出土遺物（18）

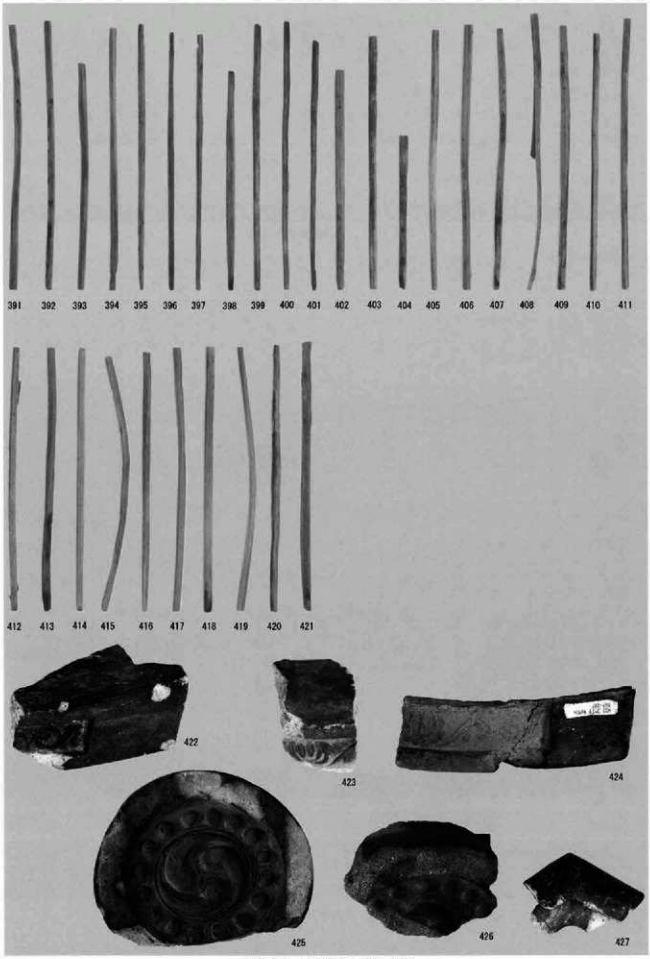


写真 118　1 号池出土遺物（19）

写真 119　1号池出土遺物（20）

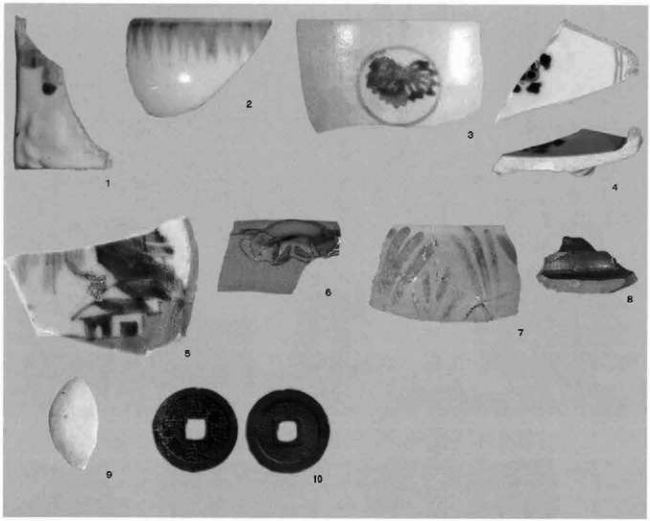


写真 120　2号集石出土遺物

第7節　土坑

1号土坑（図104）

G 11グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.49 m、幅0.28 m、深さ0.16 mである。平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係は1号土坑が6号土坑を切っている。灰が堆積し、底面が焼けている。竈跡と考えられる。

2号土坑（図104）

G 10グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.57 m、幅0.55 m、深さ0.05 mである。平面形は楕円形である。他の遺構との切り合い関係は2号土坑が4号土坑を切っている。灰が堆積し、底面が焼けている。竈跡と考えられる。

3号土坑（図104・105・113）

G 10グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.39 m、幅0.30 m、深さ0.24 mである。平面形は方形である。西側は撹乱され消失している。他の遺構との切り合い関係は3号土坑が4号土坑を切っている。灰が堆積し、底面が焼けている。竈跡と考えられる。1度作り替えがされている。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は瓦1点（1）を図示した。瓦：1は丸瓦である。

4号土坑（図104・113）

G 10グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.52 m、幅0.40 m、深さ0.21 mである。平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係は4号土坑が3号、5号土坑に切られている。灰が堆積し、底面が焼けている。竈跡と考えられる。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器1点（1）、土器2点（2・3）を図示した。陶器：1は碗である。土器：2は焙烙、3は煙炉類である。

5号土坑（図104・105・113）

G 11グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.57 m、幅0.37 m、深さ0.19 mである。平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係は5号土坑が4号、30号土坑を切っている。灰が堆積し、底面が焼けている。竈跡と考えられる。底面が2面確認できる。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器1点（1）、土器1点（2）を図示した。陶器：1は小皿である。土器：2は焼塩壺蓋である。

6号土坑（図104・105）

G 11グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.36 m、幅0.31 m、深さ0.15 mである。平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係は6号土坑が1号土坑に切られている。灰が堆積し、底面が焼けている。竈跡と考えられる。底面が2面確認できる。

30号土坑（図104・105）

G 11グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.36 m、幅0.25 m、深さ0.09 mである。平面形は楕円形である。他の遺構との切り合い関係は30号土坑が5号土坑に切られている。灰が堆積し、底面が焼けている。竈跡と考えられる。

14号土坑（図106）

I 5グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.54 m、幅0.40 m、深さ0.52 mである。平面形は楕円形である。他の遺構との切り合い関係は1号池を切る。

15号土坑（図106・113）

I 10グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.95 m、幅0.47 m、深さ0.50 mである。撹乱されており平面形の全容は不明である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器1点（1）を図示した。陶器：1は碗である。

16号土坑（図107・113）

H10グリッドに位置する。検出範囲で長さ1.17 m、幅0.50 m、深さ0.36 mである。平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器2点（1・2）を図示した。陶器：1・2は灯明受付皿である。

17号土坑（図107・113）

H 8グリッドに位置する。検出範囲で長さ1.38 m、幅0.60 m、深さ0.15 mである。平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器3点（1～3）、土器1点（4）を図示した。陶器：1～3は碗、土器：4は小皿である。

18号土坑（図107）

G 11グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.62 m、幅0.28 m、深さ0.15 mである。平面形は楕円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

19号土坑（図108・113）

H 7グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.42 m、幅0.12 m、深さ0.12 mである。撹乱されており平面形の全容は不明である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器1点（1）、金属製品1点（2）を図示した。陶器：

1は茶臼、金属製品：2は煙管吸口で銘字が残る。

20号土坑（図108・113）

F 10・11グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.72 m、幅0.70 m、深さ0.24 mである。平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。底面壁面が焼けている。炉跡と考えられる。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器1点（1）、土器1点（2）を図示した。陶器：1は鉢、土器：2は小皿である。

21号土坑（図108・114）

H 8グリッドに位置する。検出範囲で長さ1.30 m、幅0.98 m、深さ0.26 mである。平面形は不整形で、北半は撹乱されている。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は磁器5点（1～5）、陶器5点（6～11）、土製品1点（12）、瓦1点（13）を図示した。磁器：1・3～5は碗、2は蓋である。陶器：6は火鉢、7は灯明受付皿、8は鉢、9・11は碗、10は餌入れ、土製品：12は碁石、瓦：13は軒丸瓦である。

22号土坑（図108・114）

E 12グリッドに位置する。検出範囲で長さ1.17 m、幅0.98 m、深さ0.25 mである。平面形は楕円形である。他の遺構との切り合い関係は、22号土坑が11号溝を切る。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器3点（1～3）、土器1点（4）を図示した。陶器：1は小鉢、2は小皿、3は餌入れである。土器：4は火鉢である。

23号土坑（図109・114）

E 12グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.80 m、幅0.66 m、深さ0.15 mである。平面形は不整形である。他の遺構との切り合い関係は、23号土坑が43号・45号ピットに切られる。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は磁器1点（1）、陶器3点（2～4）を図示した。磁器：1は碗である。陶器：2・4は擂鉢、3は壺である。

24号土坑（図109・114）

E 12グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.55 m、幅0.52 m、深さ0.31 mである。平面形は楕円である。他の遺構との切り合い関係は24号土坑が11号溝を切る。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器2点（1・2）、土器1点（3）、瓦1点（4）を図示した。陶器：1は壺、2は鉢である。土器：3は火鉢、瓦：4は軒丸瓦である。

26号土坑（図109・115・116）

E 12グリッドに位置する。検出範囲で長さ1.45 m、幅0.65 m、深さ0.55 mである。平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係は26号土坑が11号溝を切る。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は磁器11点（1～11）、陶器21点（12～32）、土器15点（33～47）、土製品1点（48）、金属製品2点（49・50）を図示した。磁器：1は皿、2・7・10は丸碗、3・4・9は碗、5・6は端反碗、8は瓶、11は鉢である。陶器：12・22・28・32は鉢、23は壺、24は擂鉢、25～27は土瓶、29は擂鉢、30は上管、31は人形である。土器：33～37・42～44・47は小皿、40・41は焼塩壺、45は焼塩壺蓋、46は焙烙である。土製品：48は碁石、金属製品：49は煙管雁首、50は楔である。

27号土坑（図110・117）

G 11・12グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.94 m、幅0.73 m、深さ0.49 mである。平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は磁器10点（1～10）、陶器16点（11～26）、石製品2点（27・28）を図示した。磁器：1は筒丸碗、2は瓶、3・4・6～8・10は丸碗、5・9は皿である。陶器：11は碗、12～14・16・24は土瓶、15・17・20・23は鉢、18・19・25は壺、21・22・26は擂鉢である。石製品：27・28は石筆である。

28号土坑（図110・118）

G 14グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.46 m、幅0.40 m、深さ0.05 mである。平面形は楕円形である。28号土坑が3号溝に切られる。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器6点（1～6）、土器2点（7・8）を図示した。陶器：1は鍋、2は壺、3は擂鉢、4は香炉、5は灯明受付皿、6は土瓶である。土器：7は焼塩壺蓋、8は煙炉である。

29号土坑（図110・118）

G 12グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.40 m、幅0.26 m、深さ0.19 mである。平面形は楕円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は磁器1点（1）、陶器1点（2）を図示した。磁器：1は筒形碗、陶器：2は鍋である。

31号土坑（図111・118）

C 11グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.54 m、幅0.30 m、深さ0.13 mである。平面形は楕円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は磁器1点（1）を図示した。磁器：1は鉢である。

33号土坑（図111・119）

H 14グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.55 m、幅0.54 m、深さ0.40 mである。平面形は円形である。切り合い関係は32号土坑に切られる。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器1点（1）、銭貨4点（2～5）を図示した。陶器：1は行平鍋蓋である。銭貨：2・3・5は寛永通宝四文銭、4は文久永宝である。

35号土坑（図111）

I 10・11グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.56 m、幅0.56 m、深さ0.23mである。南側は撹乱され消失している。

37号土坑（図112・119）

H 14グリッドに位置する。検出範囲で長さ1.04 m、幅1.02 m、深さ0.60 mである。平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係は、12号土坑に切られる。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は磁器2点（1～2）、陶器4点（3～6）、土器1点（7）を図示した。磁器：1・2は丸碗である。陶器：3は瓶、4は鉢、5は土瓶、6は皿である。3は釘書きされた通い徳利である。土器：7は焼塩壺である。

38号土坑（図112）

H 7・8グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.53 m、幅0.52 m、深さ0.48 mである。平面形は円形である。東側は撹乱され消失している。他の遺構との切り合い関係はない。

39号土坑（図112）

G 14グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.85 m、幅0.23 m、深さ0.30 mである。撹乱されており平面形の全容は不明である。他の遺構との切り合い関係はない。

写真121　1号～6号・30号土坑検出状況　北から

写真122　土間三和土・土坑土層断面　北から

写真123　3号土坑完掘状況　北から

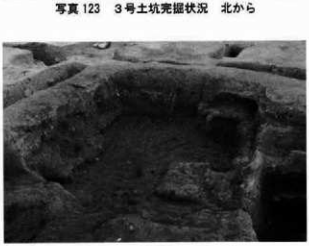
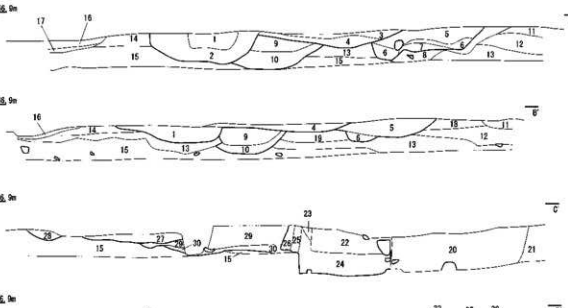
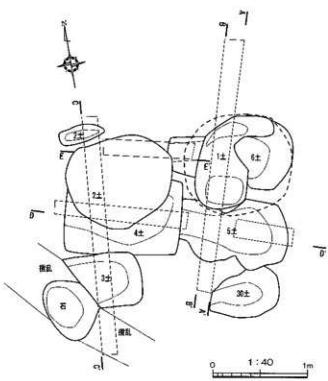
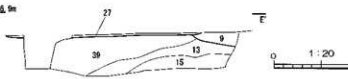


写真124　4号土坑完掘状況　西から

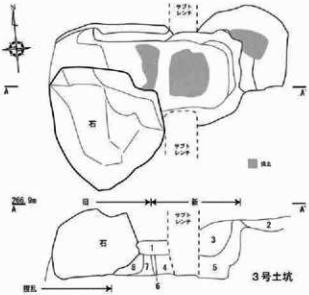
図104 土坑（1）





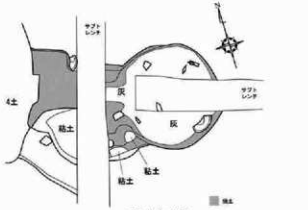


1. 1土 黒色 10YR2/1 シルト 締り強く、粘性は無。1mmの炭化粒を2%、1mmの焼土粒を3%含む。
2. 1一 暗灰色 2GY4/1 シルト 締り弱く、粘性に強。3mmの焼土粒を10%、3mmの白色粘土を1%含む。
3. 1一 黒褐色 10YR2/3 砂質土 締り強く、粘性は無。3mmの炭化物を20%、1mmの焼土粒を5%含む。
4. 1十 赤褐色 2.5YR4/8 礫土 締り良く、粘性は弱。
5. 5十 灰黄褐色 10YR4/2 シルト 締り良く、粘性は弱。1mmの炭化粒を1%、5mmの焼土粒を10%、1mmの白色粘土を6%含む。
6. 5十 褐褐色 10YR3/3 シルト 締り強く、粘性は無。5~10mmの焼土粒を80%、1mmの炭化粒を10%含む。
7. 5十 黒褐色 10YR3/1 シルト 締り中、粘性は弱。5mmの焼土を1%、2mmの炭化粒を1%含む。
8. 黒褐色 10YR3/2 シルト 締り強く、粘性は中。3mmの炭化粒を2%含む。
9. 6十 灰黄褐色 10YR4/2 シルト 締り強く、粘性は弱。炭層。
10. 6十 赤褐色 2.5YR4/8 礫土 締り強く、粘性は弱。
11. 炭黄褐色 10YR4/2 シルト 締り強く、粘性は弱。1~5mmの炭を2%、2~5mmの焼土を5%含む。
12. にぶい黄褐色 10YR4/3 シルト 締り強く、粘性は中。5~10mmの炭化物を5%、3mmの焼土粒を5%含む。
13. 灰白色 10YR8/1 粘土 締り強く、粘性は強。1~2mmの白色粘土を10%、1~2mmの黄色粘土を10%含む。
14. 黒褐色 10YR3/2 シルト 締り強く、粘性は弱。3mmの黄色粘土を2%含む。
15. 灰黄褐色 10YR4/2 シルト 硬り強く、粘性は弱。2mmの焼土粒を1%、2mmの黄色土粒を1%含む。
16. 褐灰色 10YR4/1 シルト 締り強く、粘性は弱。1mmの炭化粒を2%含む。
17. 赤褐色 2.5YR4/8 焼土 締り強く、粘性は弱。
18. 黒色 2.5YR1/8 焼土 締り強く、粘性は弱。
19. 赤褐色 2.5YR4/8 焼土 締り強く、粘性は弱。
20. 下水・水道等掘乱
21. 暗褐色 10YR3/3 硬り強く、粘性は弱。5mmの炭化粒を1%、5mmの黄色土粒を1%含む。
22. 3上 黒色 10YR2/1 締り強く、粘性はなし。1cmの焼土粒を2%含む。
23. 3上 褐灰色 10YR4/1 粘土 締り中、粘性は強。
24. 3上 黒褐色 10YR2/2 シルト 締り弱く、粘性に強。1cmの炭化粒を3%、1cmの焼土粒を2%含む。
25. 3上 赤褐色 2.5YR4/8 粘土 締り強く、粘性はなし。（26の掘上が掘げた範囲）
26. 3上 褐灰色 10YR4/1 粘土 締り中、粘性は強。
27. 2十 赤褐色 2.5YR4/8 礫土 締り強く、粘性はなし。
28. 2土 黒色 10YR2/1 締りは中、粘性に強。1mmの炭化粒を2%、1mmの焼土粒を5%含む。
29. 4土 灰黄褐色 10YR4/2 シルト 締り強く、粘性は中。1cmの炭化粒を5%、5mmの焼土粒を5%含む。
30. 4土 黒褐色 10YR2/3 シルト 締りず、粘性は中。1cmの焼土粒を10%、1~5cmの炭化物を10%含む。
31. 4土 灰黄褐色 10YR4/2 シルト 硬り強く、粘性は中。1cmの炭化粒を1%、1~3mmの焼土粒を3%含む。
32. 4土 黒色 10YR2/1 炭化物層 締り中、粘性はなし。
33. 5上 灰赤褐色 10YR4/2 シルト 締り強く、粘性は弱。
34. 5上 黒色 10YR2/1 炭化物層 硬り中、粘性はなし。
35. 5上 赤褐色 2.5YR4/8 焼土 締り強く、粘性はなし。
36. 5上 灰黄褐色 10YR4/2 シルト 締り強く、粘性は中。5~30mmの焼土を5%、5mmの炭化粒を2%含む。
37. 5上 黒褐色 10YR3/2 シルト 締り強く、粘性は中。
38. 5上 赤褐色 2.5YR4/8 焼土 締り強く、粘性はなし。
39. 灰黄褐色 10YR4/2 シルト 硬り強く、粘性は中。5mmの炭化粒を7%、3mmの焼土を1%含む。

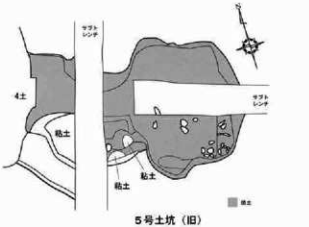


1. 黒色　10YR2/1　締り弱く、粘性はなし。
　1cmの焼土粒を2%含む。
2. 黒褐色土　10YR3/2 締まり強く、粘性は弱い。
　5～10mm大の炭化粒を7%、5mm大の焼土粒を5%含む。
3. 新３土　灰黄褐色土　10YR4/2　シルト　締まり強く、
　粘性は中。5mm大の炭化物を7%含む。5mm大の焼土を5%含む。
4. 新３土　黒褐色　10Yr2/2　シルト　締り弱く、粘性は弱。
　1cmの炭化粒を3%、1cmの焼土粒を2%含む。
5. 新３土　黒褐色土　10YR3/2　締まり強く、粘性は弱い。
　5cm大の焼土ブロックを40%、5cm大の炭化物を1%含む。
6. 新３土　赤褐色　2.5YR4/8　焼土　締り強く、粘性はなし。
　(26の粘土が焼けた範囲)
7. 新３土　褐灰色　10YR4/1　粘土　締り中、粘性は強。
8. 旧３土　暗褐色土　10YR3/3 締まり強く、粘性は中。
　2cm大の焼土ブロックを5%、5mm大の炭化粒を5%含む。

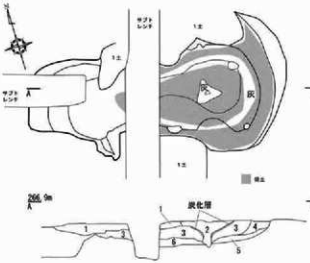
3号土坑



5号土坑（新）

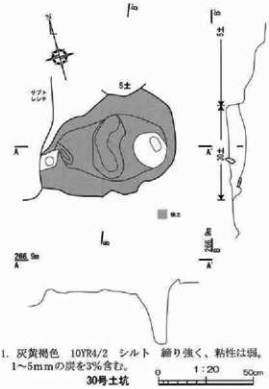


5号土坑（旧）



1. 明赤褐色土　2.5YR5/8　焼土　締まり強く、粘性無し。
2. 暗褐色土　10YR3/3　シルト　締まり強く、粘性は弱い。
3. 灰白色土　10YR7/1　灰　締まり強く、粘性は弱い。
4. 明赤褐色土　2.5YR5/8　焼土　締まり強く、粘性無し。
5. 灰白色土　10YR7/1　灰　締まり強く、粘性は弱い。
6. 明赤褐色土　2.5YR5/8　焼土　締まり強く、粘性無し。

6号土坑



1. 灰黄褐色　10YR4/2　シルト　締り強く、粘性は弱。
　1～5mmの炭を3%含む。

30号土坑

0　1:20　50cm

図 105　土坑（2）

写真 125　5号土坑完掘状況　北から

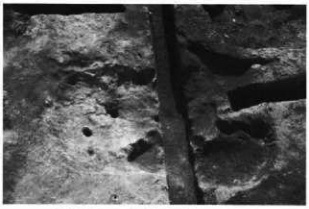
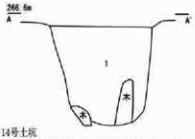
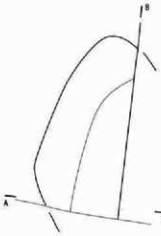


写真 126　6号土坑完掘状況　北から

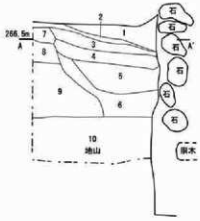
14号土坑



14号土坑
1. 灰色土　7.5Y4/1　粘土　締まり強く、粘性強い。



15号土坑



15号土坑
1. にぶい黄褐色土　10YR5/4　シルト　締まり強く、粘性は中。3～5mm大の炭化粒を8%、5mm大の黄色土粒を7%含む。
2. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。
3. にぶい黄褐色土　10YR5/4　シルト　締まり強く、粘性は弱い。8～20mm大の丙礫を7%含む。
4. 灰黄褐色土　10YR4/2　シルト　締まり強く、粘性は弱い。2mm大の炭化粒を2%含む。
5. にぶい黄褐色土　10YR5/3　シルト　締まり強く、粘性は弱い。8～10mm大の丙礫を2%含む。
6. にぶい黄褐色土　10YR5/4　シルト　締まり強く、粘性は弱い。2～10mm大の炭化粒を2%、5mm大の焼土粒を1%含む。
7. にぶい黄褐色土　10YR5/4　シルト　締まり強く粘性は中。5mm大の炭化粒を1%、5mm大の丙礫7%を3%含む。
8. 黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり強く、粘性は中。5mm大の炭化粒を1%含む。
9. にぶい黄褐色土　10YR4/3　シルト　締まり強く、粘性は弱い。
10. 褐色土　10YR4/6　シルト　締まり強く、粘性は中。

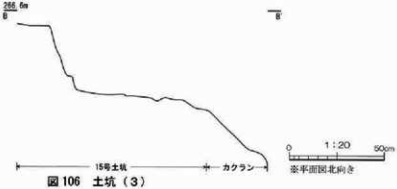
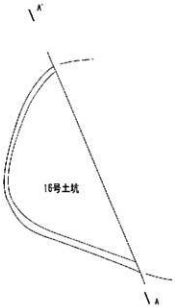
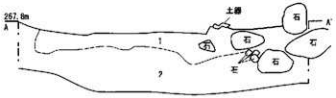
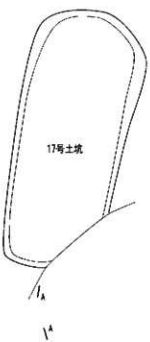


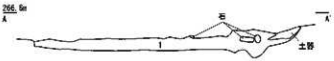
図 106　土坑（3）



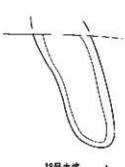


16号土坑
1. 黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり強く、粘性は中。
5～20cm大の炭化物20%、6mm大の焼土粒を10%含む。
2. 褐色土　10YR4/4　シルト　締まり強く、粘性は中。
6mm大の炭化物を2%、1cm大の焼土粒を2%含む。





17号土坑
1. 黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり強く、粘性は中。
1～6mm大の炭化物を2%、焼砂粒を1%、3～10cm大の亜円礫を3%含む。



18号土坑
1. 褐灰色土　10YR4/1　シルト　締まり強く、粘性は中。3mm大の炭化粒を1%、2mm大の焼土を1%含む。
2. 黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まりは中、粘性は弱い。3mm大の炭化粒を2%含む。

0　1:20　50cm
※平面図北向き

図 107　土坑（4）

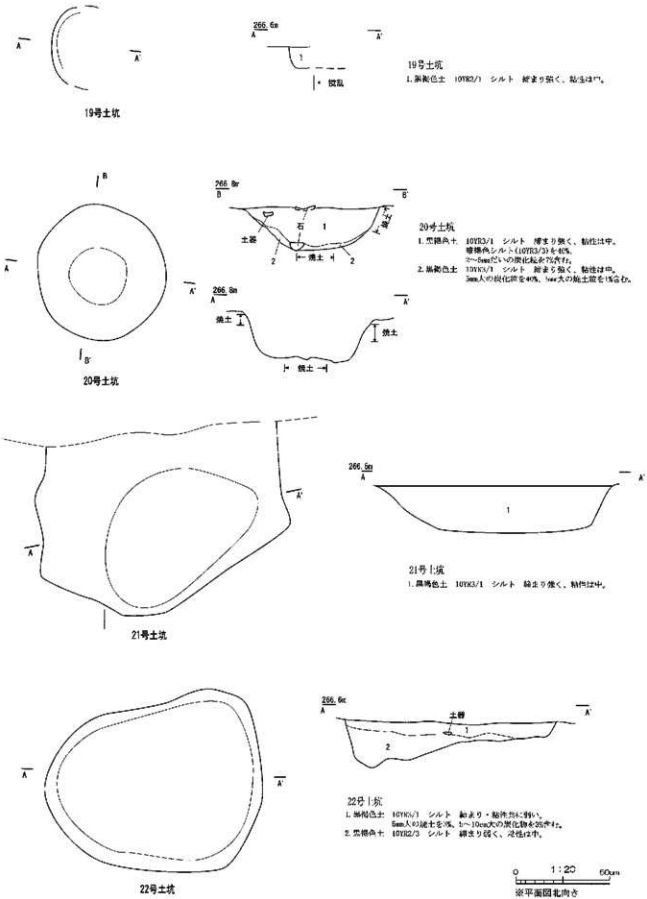
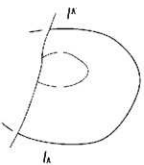

19号土坑
1.黒褐色土 10YR3/1 シルト 締まり強く、粘性は中。
19号土坑
20号土坑
1.黒褐色土 10YR3/1 シルト 締まり無く、粘性は中。
暗褐色シルト(10YR3/3)を40%、
2~5mm大までの炭化粒子2%含む。
2.黒褐色土 10YR3/1 シルト 締まり強く、粘性は中。
5mm大の炭化粒を40%、1mm大の焼土粒を1%含む。
土器
石
焼土
20号土坑
21号土坑
1.黒褐色土 10YR3/1 シルト 締まり強く、粘性は中。
21号土坑
22号土坑
1.黒褐色土 10YR3/1 シルト 細まり・粘性共に弱い。
5mm大の焼土を少量、5~10cm大の炭化物を多く含む。
2.黒褐色土 10YR2/3 シルト 締まり弱く、粘性は中。
22号土坑
0 1:20 50cm
※平面図北向き

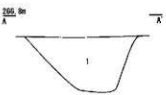
図108 土坑（5）

23号土坑

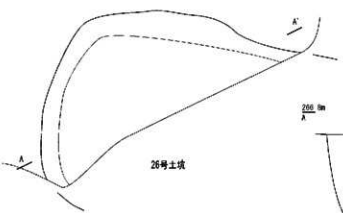
23号土坑
1. 黒褐色土　10YR4/1　シルト　締まりは中、粘性は強い。
　　5mm大の焼化粒多く含む。
2. 暗褐色土　10YR3/1　シルト　締まりは中、粘性は強い。
　　5cm大の焼土ブロックを含む。5mm大の炭化粒を10%含む。
3. 比較的新鮮な土　10YR4/3　シルト　地山。締まり・粘性共に強い。



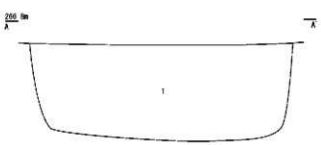
24号土坑



24号土坑
1. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。



26号土坑



26号土坑
1. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。

※平面図北向き

図 109　土坑（6）

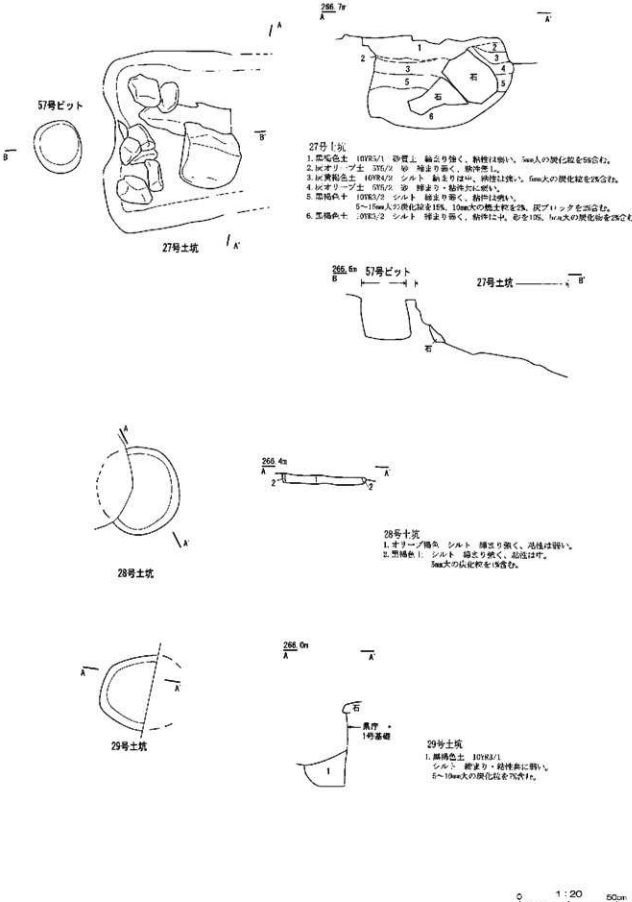

57号ピット
27号土坑
27号土坑
1. 黒褐色土 10YR3/1 砂質土 締まり強く、粘性は弱い。5mm大の炭化粒を5%含む。
2. 1cオリーブ土 5Y5/2 砂 締まり弱く、粘性無し。
3. 1cオリーブ土 10YR4/2 シルト 締まりは中、粘性は強い。5mm大の炭化粒を2%含む。
4. 1cオリーブ土 5Y5/2 砂 締まり・粘性ともに弱い。
5. 黒褐色土 10YR3/2 シルト 締まり強く、粘性は弱い。
5～15mm大の炭化粒を15%、10mm大の焼土粒を2%、炭ブロックを2%含む。
6. 黒褐色土 10YR3/2 シルト 締まり弱く、粘性に中。砂を10%、1cm大の炭化物を2%含む。
57号ピット
27号土坑
28号土坑
28号土坑
1. オリーブ褐色 シルト 締まり強く、粘性は弱い。
2. 黒褐色土 シルト 締まり強く、粘性は中。
5mm大の炭化粒を1%含む。
29号土坑
29号土坑
1. 黒褐色土 10YR3/1
シルト 締まり・粘性共に弱い。
5～10mm大の炭化粒を7%含む。
1:20
50cm
※平面図北向き

図 110 土坑（7）

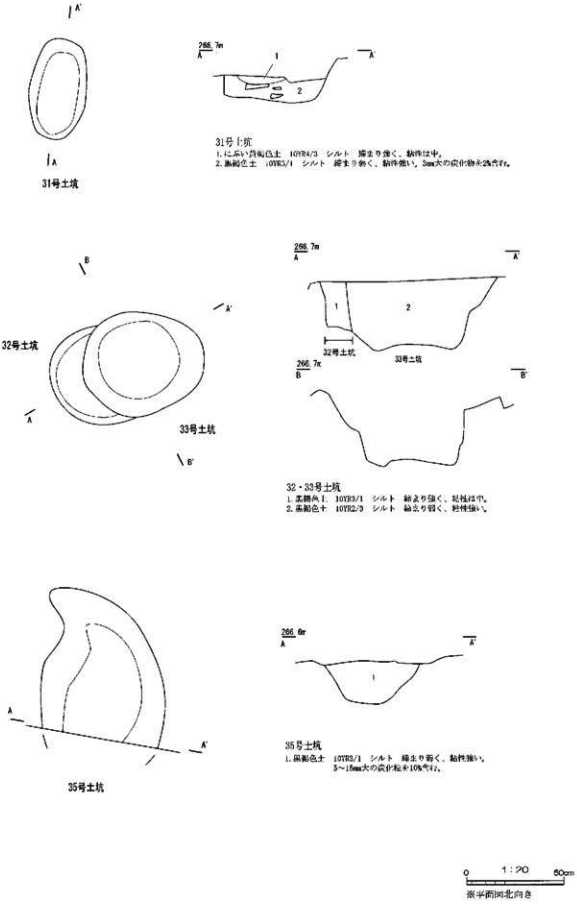
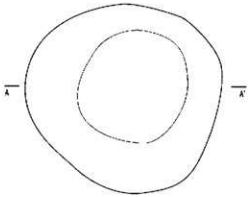
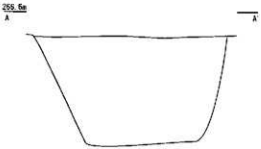

A'
A
31号土坑
266.7m
A
A'
1
2
31号土坑
1.にぶい黄褐色土　10YR4/3　シルト　締まり強く、粘性は中。
2.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり弱く、粘性強い。3mm大の炭化物を2%含む。
B
A'
32号土坑
A
33号土坑
B'
266.7m
A
A'
1
2
32号土坑
33号土坑
266.7m
B
B'
32・33号土坑
1.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。
2.黒褐色土　10YR2/3　シルト　締まり弱く、粘性強い。
A
A'
35号土坑
266.6m
A
A'
1
35号土坑
1.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり弱く、粘性強い。
3～15mm大の炭化粒を10%含む。
0　1:20　50cm
※半断面北向き

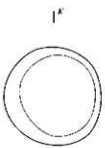
図111　土坑（8）



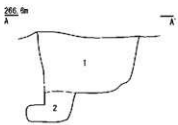
37号土坑



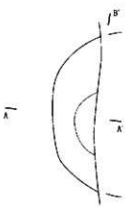
37号土坑
1. 赤褐色土　10YR5/1　シルト　締まり弱く、粘性強い。3mm大の炭化物を2%含む。



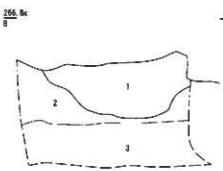
38号土坑

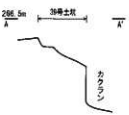


38号土坑
1. 黒褐色土　10YR2/1　シルト　締まり強く、粘性強い。
3mm大の炭化物を7%、褐色粒を3%含む。
2. 褐灰色土　10YR4/1　シルト　締まり・粘性共に強い。

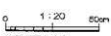


39号土坑





39号土坑
1. 黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり・粘性共に中。
5～8mm大の炭化粒を2%、5cm大の置円礫を1%、1～2cm大の亜円礫を1%含む。
2. 暗褐色土　10YR3/4　シルト　締まり強く、粘性は中。
2～3mm大の炭化粒を3%、2～3cm大の黄色土ボロを10%含む。
3. 褐色土　10YR4/4　シルト　締まり強く、粘性は中。
10cm大の亜円礫を1%、2～5cm大の亜円礫を5%含む。



※平面図北向き

図112　土坑（9）

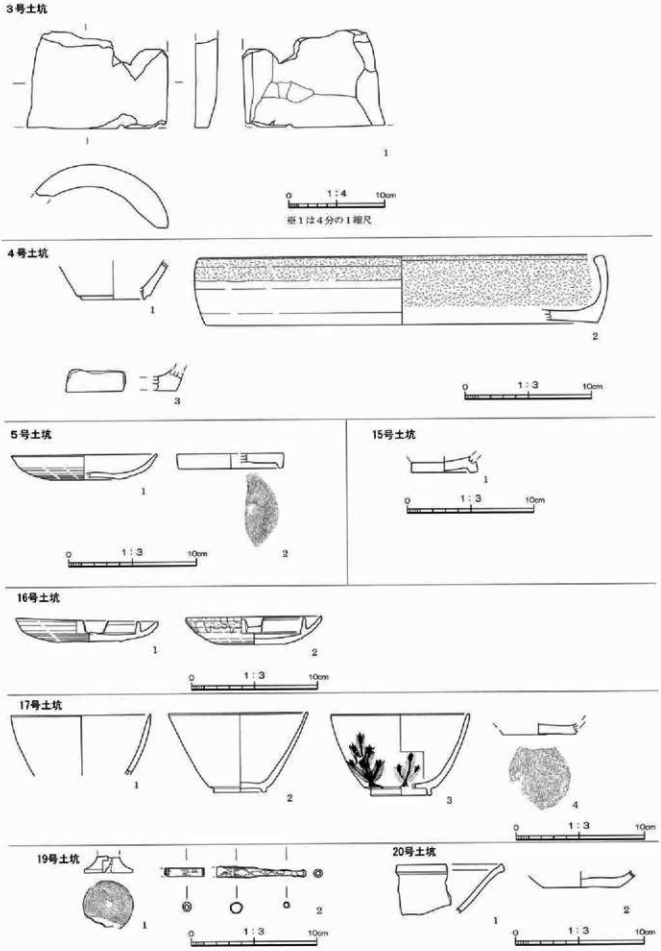


図113　土坑出土遺物（1）

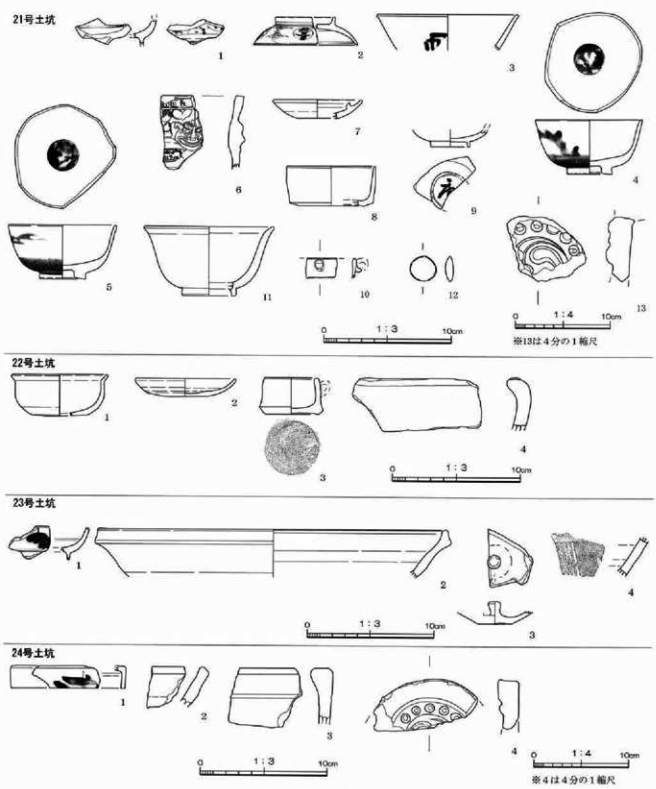


図 114　土坑出土遺物（2）

26号土坑

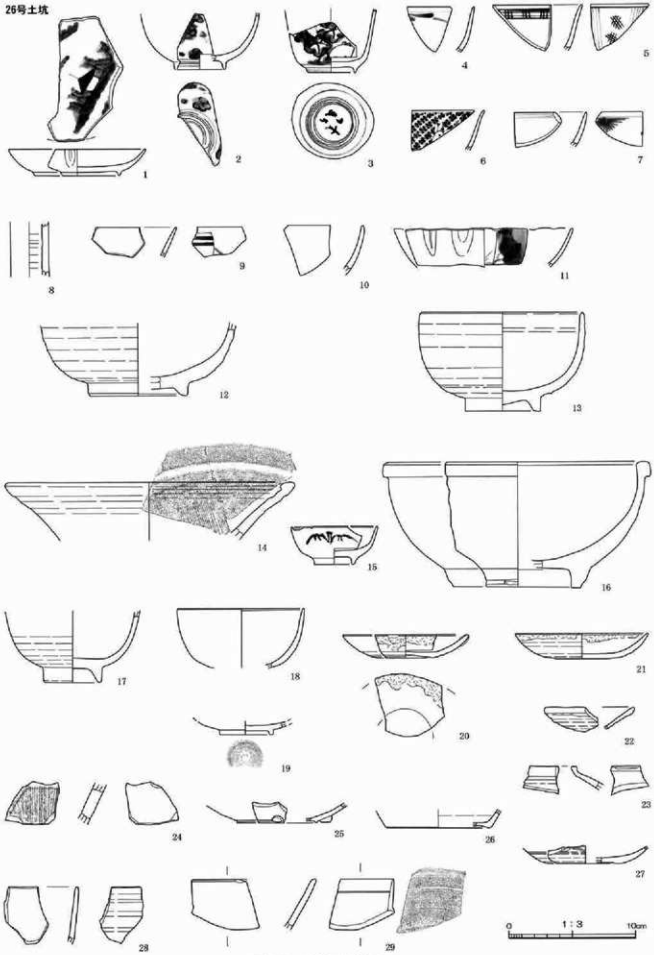


図 115　土坑出土遺物（3）

26号土坑

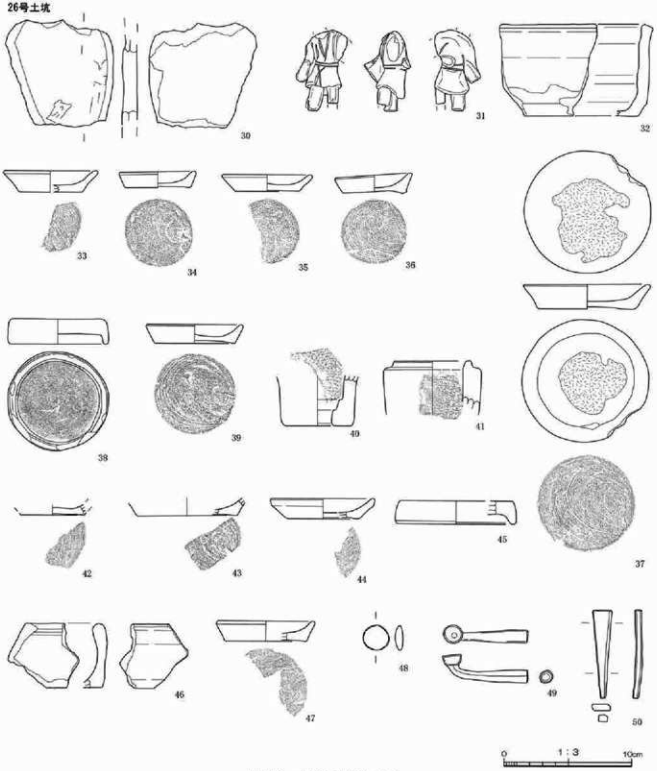


図 116　土坑出土遺物（4）

27号土坑

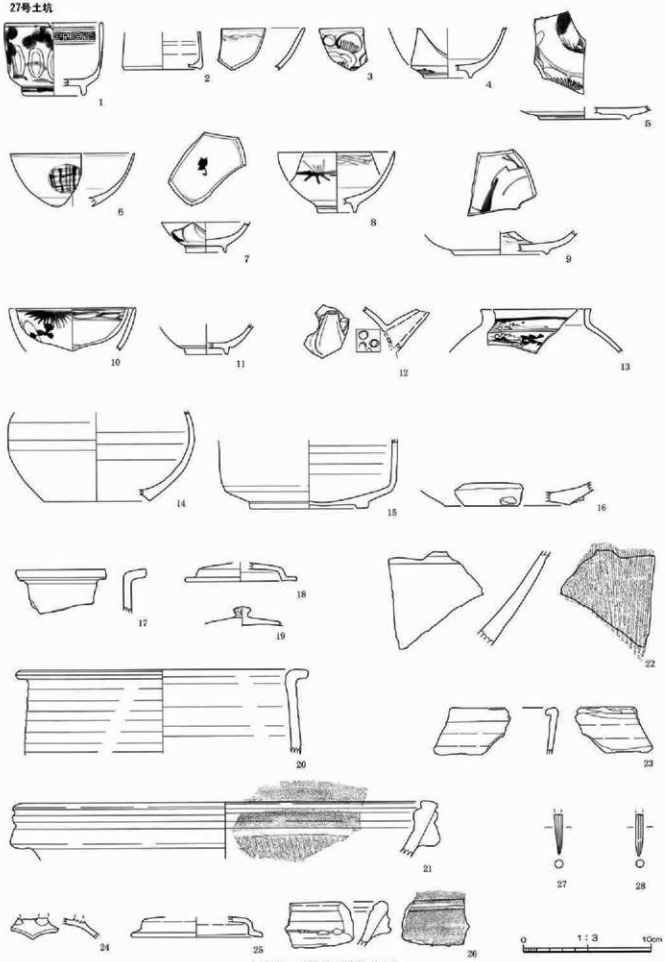
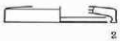
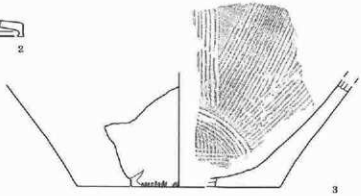
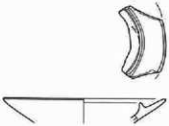


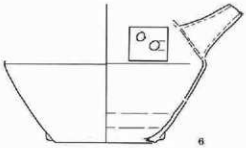
図117　土坑出土遺物（5）

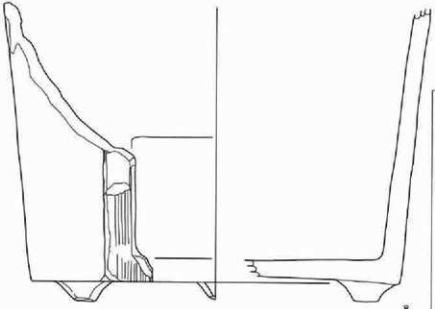
28号土坑

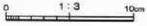




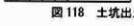








29号土坑



31号土坑

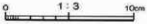
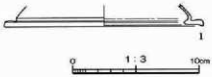
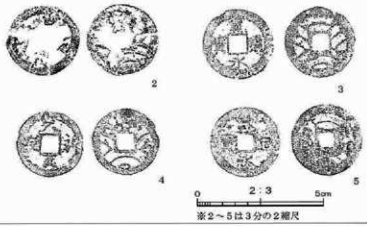


図118　土坑出土遺物（6）

33号土坑





※2～5は3分の2縮尺

37号土坑

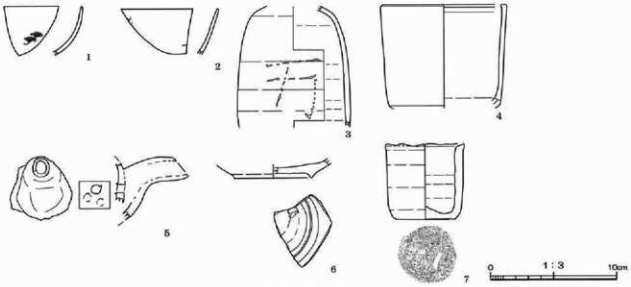


図119　土坑出土遺物（7）

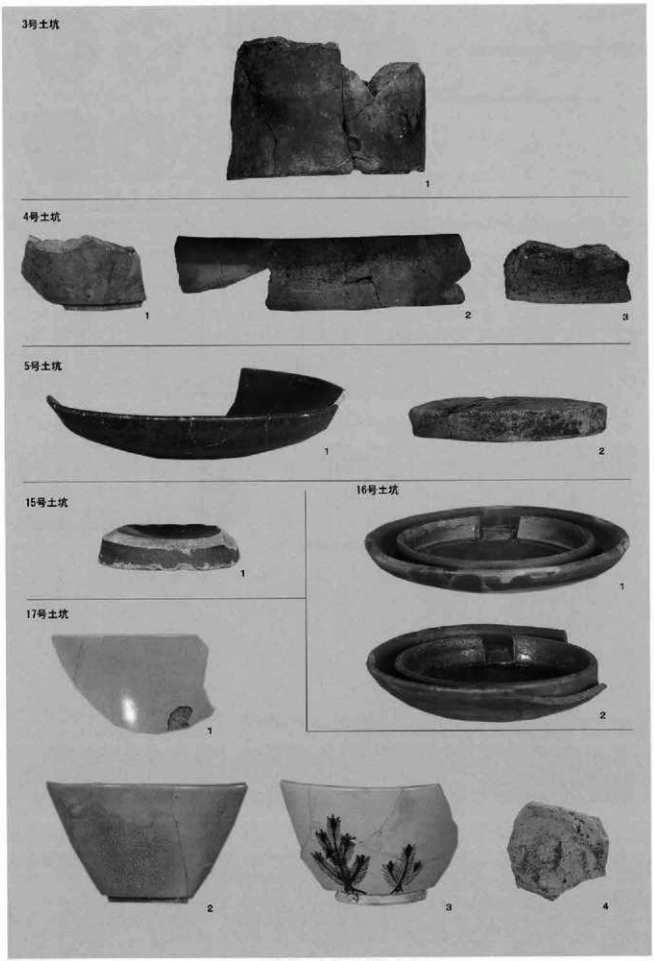


写真 127　土坑出土遺物（1）

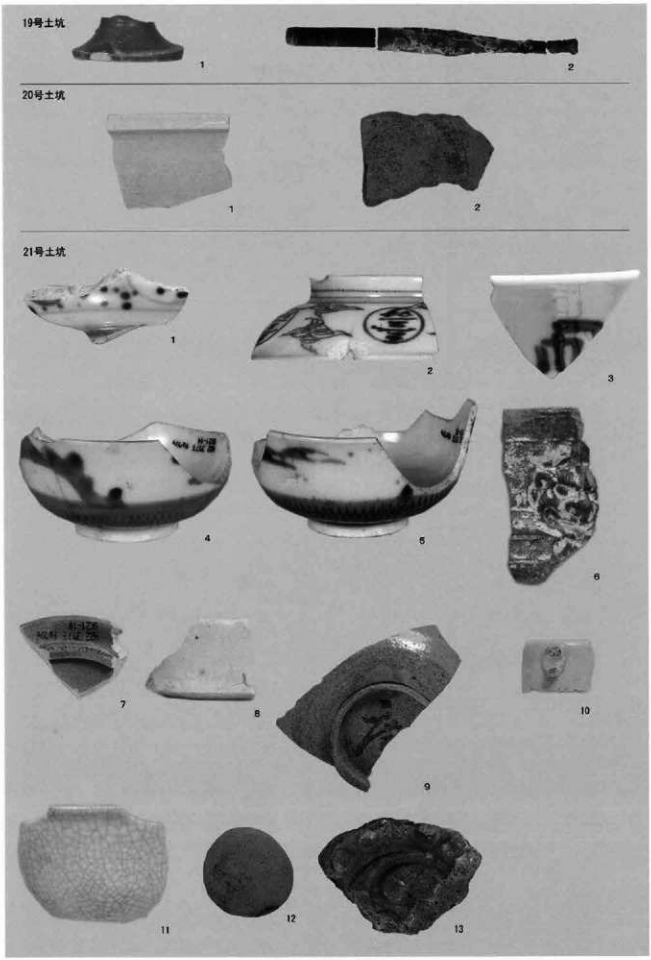


写真 128　土坑出土遺物（2）

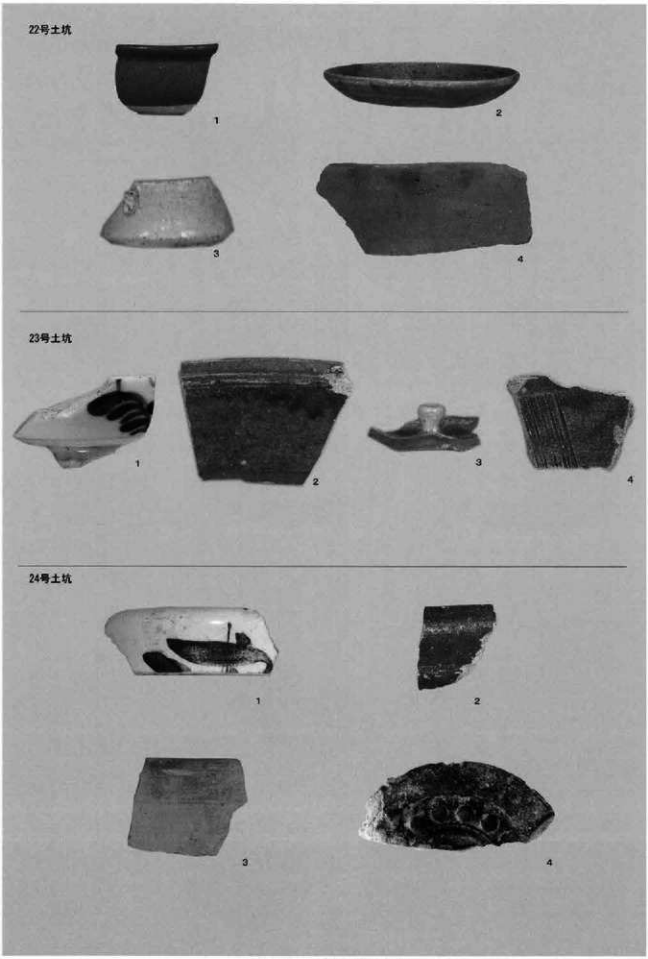


写真 129　土坑出土遺物（3）

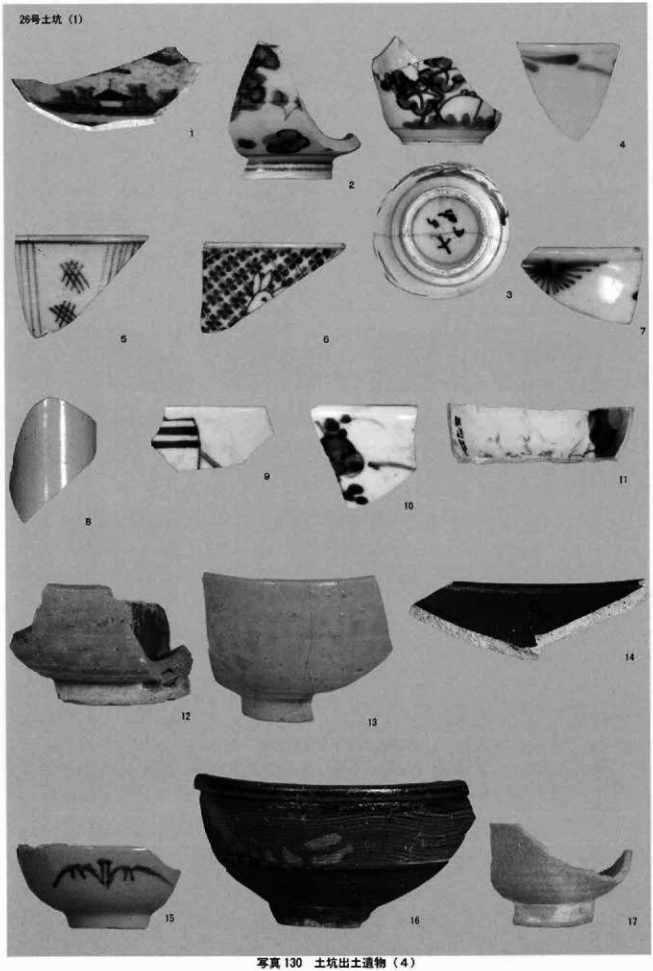


写真 130　土坑出土遺物（4）

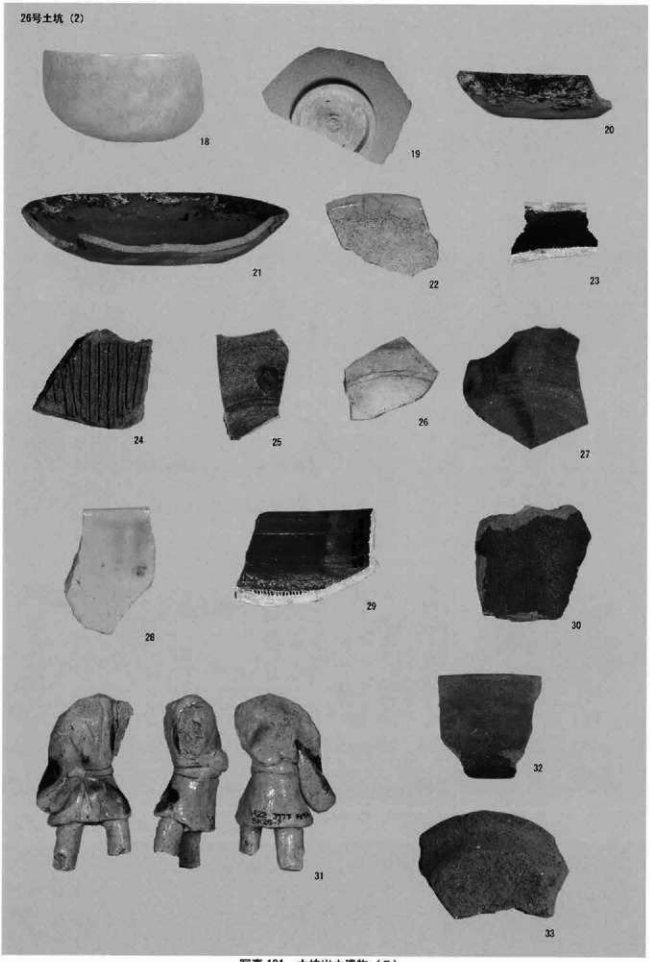


写真 131　土坑出土遺物（5）

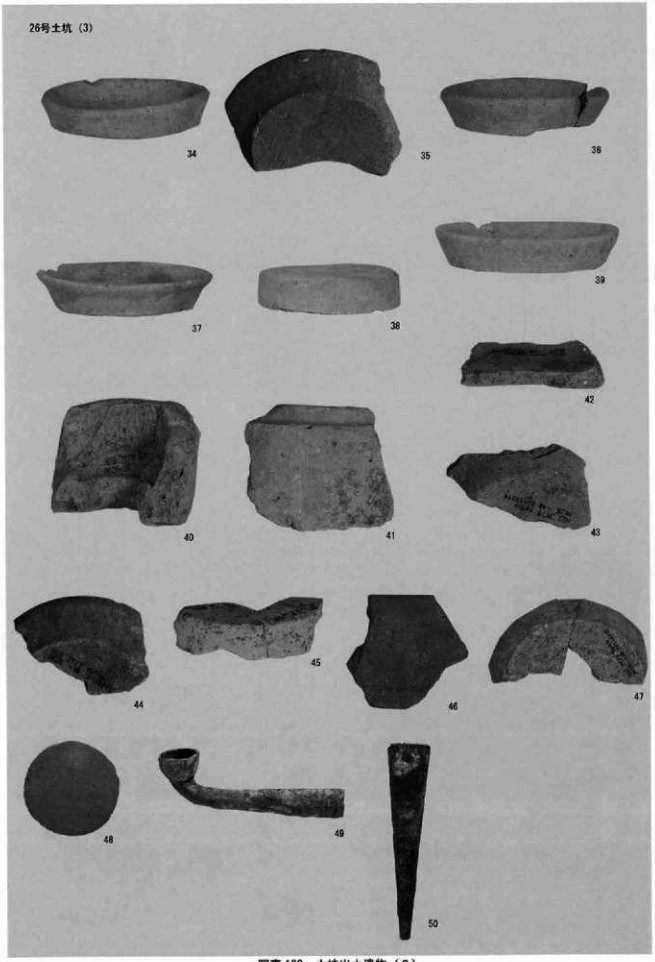


写真 132　土坑出土遺物（6）

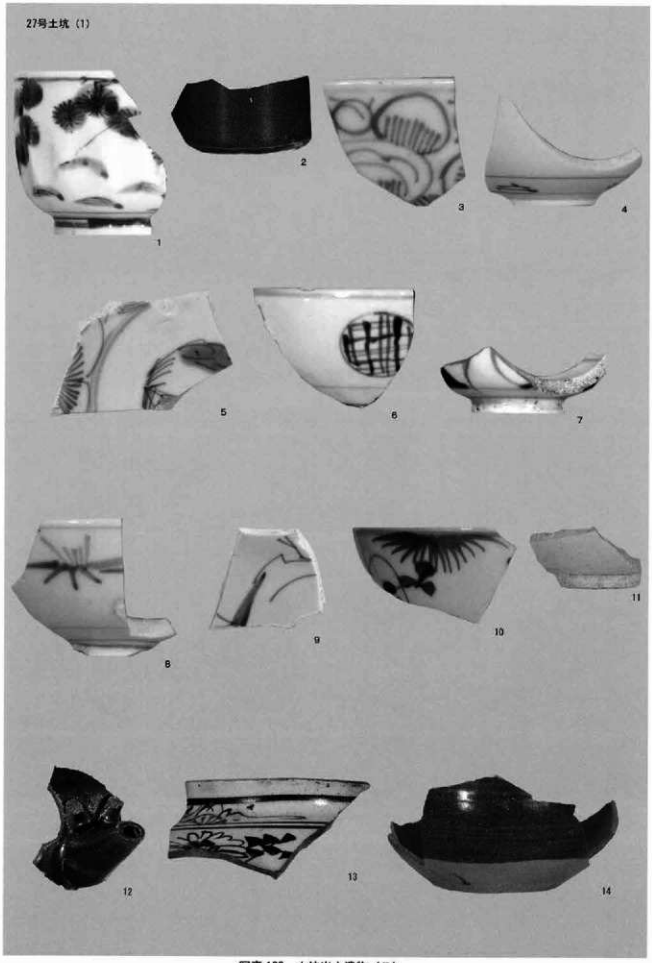


写真 133　土坑出土遺物（7）

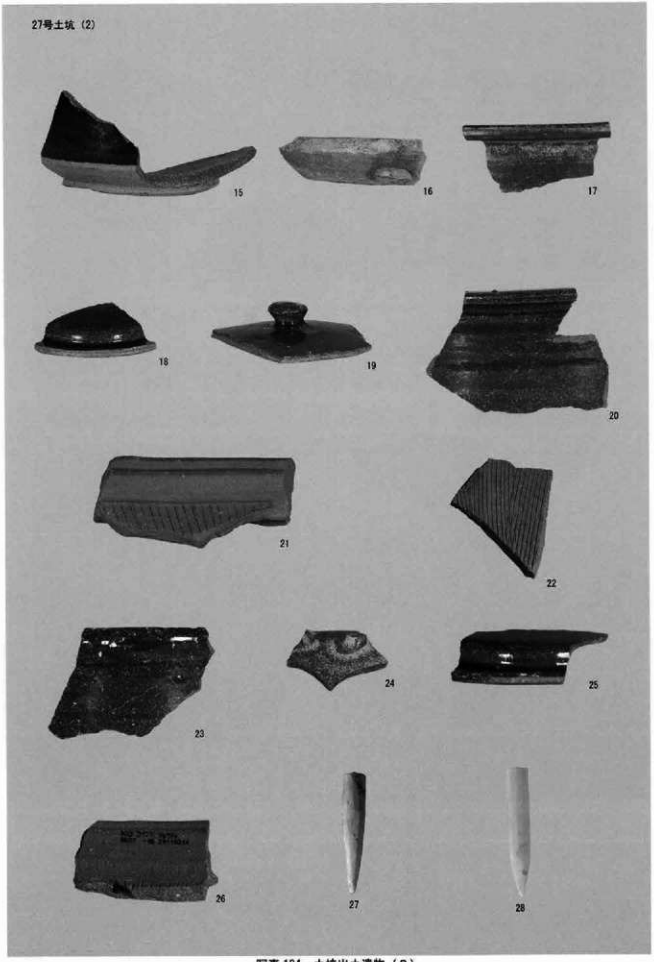


写真 134　土坑出土遺物（8）

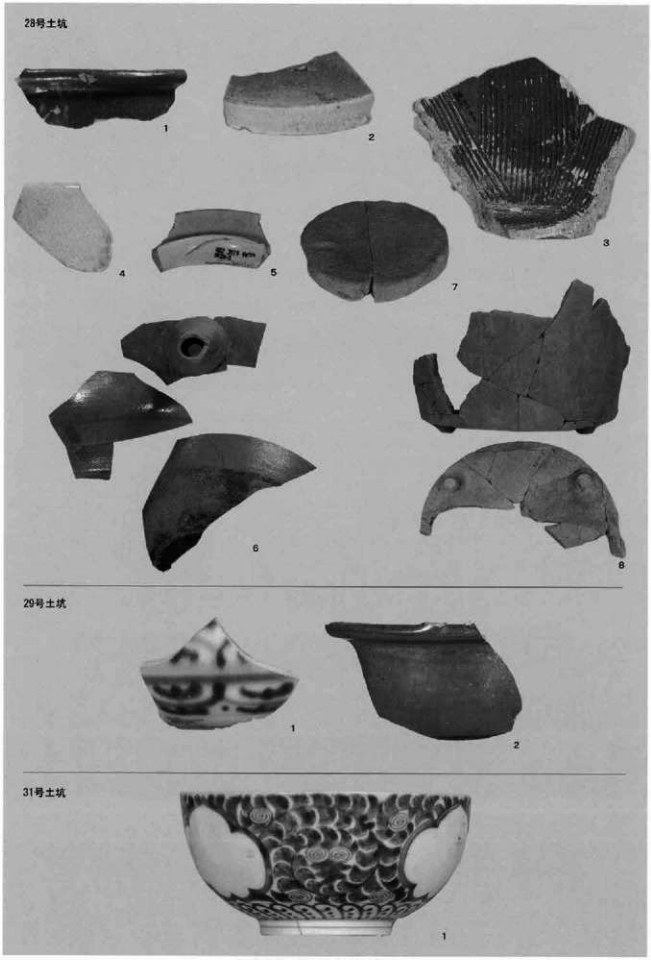


写真 135　土坑出土遺物（9）

33号土坑

1

2

3

4

5

37号土坑

1

2

3

4

5

6

7

写真 136　土坑出土遺物（10）

第8節　ピット

1号ピット（図120・131）

H8グリッドに位置する。長さ34cm、幅33cm、深さ39cmである。平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係は1号ピットが県庁8号基礎に切られている。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器1点（1）、陶器1点（2）を図示した。磁器：1は碗、陶器：2香炉である。

2号ピット（図120・131）

G10グリッドに位置する。長さ28cm、幅21cm、深さ20cmである。平面形は楕円形である。他の遺構との切り合い関係は2号ピットが県庁3号基礎に切られている。

出土遺物はピット底面で検出されている。遺物は土器2点（1・2）を図示した。土器：1・2は胞衣皿である。

3号ピット（図120）

H7グリッドに位置する。長さ22cm、幅20cm、深さ0.11cmである。平面形は円形で、他の遺構との切り合いはない。

4号ピット（図120）

H15グリッドに位置する。長さ43cm、幅23cm、深さ9cmで平面形は円形である。4号溝の底面で検出した。他の遺構との切り合い関係はない。

5号ピット（図121）

I8グリッドに位置する。長さ38cm、幅33cm、深さ11cmで、平面形は楕円形である。6号溝の底面で検出した。他の遺構との切り合い関係はない。

6号ピット（図121・131）

H14グリッドに位置する。長さ54cm、幅47cm、深さ67cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器2点（1・2）、陶器2点（3・4）、土器2点（5・6）を図示した。磁器：1・2は丸碗、陶器：3・4は碗である。土器：5は焜炉、6は焙烙である。

7号ピット（図121）

H14グリッドに位置する。長さ26cm、幅23cm、深さ33cmで、平面形は円形である。1号有機物集中地点の有機物に覆われていた。他の遺構との切り合い関係はない。

8号ピット（図121・131）

F15グリッドに位置する。長さ61cm、幅47cm、深さ32cmで、平面形は不整形である。他の遺構との切り合いはない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器1点（1）、陶器1点（2）、土器1点（3）を図示した。磁器：1は丸碗、陶器：2は鉢、土器：3は火鉢である。

9号ピット（図122）

H14グリッドに位置する。長さ40cm、幅37cm、深さ31cmで、平面形は円形である。10号ピットと隣接するが切り合い関係はない。

10号ピット（図122・131）

H14グリッドに位置する。長さ37cm、幅32cm、深さ24cmで、平面形は円形である。9号ピットと隣接するが切り合い関係はない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は陶器1点（1）を図示した。土器：1は鍋である。

11号ピット（図122）

I8グリッドに位置する。長さ43cm、幅30cm、深さ0.16cmで、平面形は楕円形である。7号溝の底面で検出した。

12号ピット（図122・131）

I7グリッドに位置する。長さ38cm、幅36cm、深さ11cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係は12号ピットが1号池を切っている。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器1点（1）を図示した。磁器：1は碗である。

13号ピット（図122）

H8グリッドに位置する。長さ30cm、幅28cm、深さ39cmで、平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係はない。

14号ピット（図122・132）

E11グリッドに位置する。長さ32cm、幅23cm、深さ33cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は陶器4点（1～4）、土器1点（5）を図示した。陶器：1～4は土瓶、土器：5は焜炉である。

15号ピット（図123・132）

H8グリッドに位置する。長さ49cm、幅32cm、深さ28cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は土器1点（1）を図示した。土器：1は小皿である。

16号ピット（図123・132）

H7グリッドに位置する。長さ41cm、幅32cm、深さ7cmで、平面形は楕円形である。他の遺構と

の切り合いはない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器1点（1）を図示した。磁器：1は碗である。

17号ピット（図123）

H 8グリッドに位置する。長さ34㎝、幅33㎝、深さ31㎝で、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係は17号ピットが21号土坑を切っている。

18号ピット（図123）

F 11グリッドに位置する。長さ34㎝、幅33㎝、深さ31㎝で、平面形は円形である。他の遺構との切り合いはない。

19号ピット（図123）

F 11グリッドに位置する。長さ32㎝、幅13㎝、深さ18㎝で、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

20号ピット（図124）

F 11グリッドに位置する。長さ28㎝、幅27㎝、深さ39㎝で、平面形は円形である。他の遺構との切り合いはない。

21号ピット（図124）

F 11グリッドに位置する。長さ32㎝、幅27㎝、深さ28㎝で、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

22号ピット（図124）

H 7グリッドに位置する。長さ24㎝、幅21㎝、深さ0.11㎝で、平面形は円形である。他の遺構との切り合いはない。

23号ピット（図124）

F 11・12グリッドに位置する。長さ36㎝、幅33㎝、深さ32㎝で、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

24号ピット（図124）

F 11グリッドに位置する。長さ31㎝、幅26㎝、深さ35㎝で、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

25号ピット（図124）

F 11グリッドに位置する。長さ43㎝、幅38㎝、深さ0.15㎝で、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

26号ピット（図124）

G 11グリッドに位置する。長さ34㎝、幅33㎝、深さ29㎝で、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

27号ピット（図124・132）

G 11グリッドに位置する。長さ30㎝、幅23㎝、深さ8㎝である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物はピット底面で検出されている。遺物は土器2点（1・2）を図示した。土器：1・2は鉢状皿である。

28号ピット（図125）

G 11グリッドに位置する。長さ15㎝、幅14㎝、深さ26㎝で、平面形は円形である。他の遺構との切り合いはない。

29号ピット（図125・132）

E 12グリッドに位置する。長さ36㎝、幅31㎝、深さ31㎝で、平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器1点（1）、木製品1点（2）を図示した。磁器：1は筒形碗、木製品：2は柱である。

30号ピット（図125）

E 12グリッドに位置する。長さ37㎝、幅35㎝、深さ35㎝である。他の遺構との切り合い関係はない。

31号ピット（図125）

G 11グリッドに位置する。長さ17㎝、幅16㎝、深さ22㎝で、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

32号ピット（図125・132）

G 11グリッドに位置する。長さ29㎝、幅28㎝、深さ39㎝で、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器1点（1）を図示した。磁器：1は碗である。

33号ピット（図125）

E 11グリッドに位置する。長さ28㎝、幅25㎝、深さ44㎝で、平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係は、33号ピットが11号溝を切っている。

34号ピット（図125・132）

E 12グリッドに位置する。長さ28㎝、幅26㎝、深さ42㎝で、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器1点（1）、陶器1点（2）を図示した。磁器：1は碗、陶器：2は擂鉢である。

35号ピット（図125）

D 12グリッドに位置する。長さ54㎝、幅39㎝、深さ54㎝で、平面形は楕円形である。他の遺構と

の切り合いはない。

36 号ピット（図 126）

E 11 グリッドに位置する。長さ 45 cm、幅 41 cm、深さ 45 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

37 号ピット（図 126・132）

E 11 グリッドに位置する。長さ 37 cm、幅 37 cm、深さ 17 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器 1 点（1）を図示した。磁器：1 は丸碗である。

38 号ピット（図 126）

E 11 グリッドに位置する。長さ 33 cm、幅 26 cm、深さ 22 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

39 号ピット（図 126）

E 12 グリッドに位置する。長さ 32 cm、幅 25 cm、深さ 37 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

40 号ピット（図 126・132）

E 12 グリッドに位置する。長さ 28 cm、幅 26 cm、深さ 24 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器 1 点（1）を図示した。磁器：1 は端反碗である。

41 号ピット（図 126）

D 12 グリッドに位置する。長さ 34 cm、幅 28 cm、深さ 31 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

42 号ピット（図 127・132）

E 12 グリッドに位置する。長さ 45 cm、幅 36 cm、深さ 27 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は木製品 1 点（1）を図示した。木製品：1 は柱である。

43 号ピット（図 127・132）

D 12 グリッドに位置する。長さ 30 cm、幅 28 cm、深さ 66 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係は、43 号ピットが 23 号土坑を切る。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器 1 点（1）を図示した。磁器：1 は端反碗である。

44 号ピット（図 127）

G 11 グリッドに位置する。長さ 38 cm、幅 36 cm、深さ 32 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

45 号ピット（図 127・132）

D・E 11 グリッドに位置する。長さ 42 cm、幅 29 cm、深さ 43 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合い関係は、45 号ピットが 23 号土坑と 46 号ピットを切る。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器 3 点（1～3）を図示した。磁器：1 は皿、2・3 は瓶である。

46 号ピット（図 127）

D 11 グリッドに位置する。長さ 24 cm、幅 22 cm、深さ 15 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合い関係は、46 号ピットが 45 号ピットに切られる。

47 号ピット（図 127・132）

H 11 グリッドに位置する。長さ 50 cm、幅 39 cm、深さ 44 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器 1 点（1）、陶器 2 点（2・3）を図示した。磁器：1 は丸碗、陶器：2 は壺、3 は鉢である。

48 号ピット（図 128）

D11 グリッドに位置する。長さ 32 cm、幅 28 cm、深さ 73 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

49 号ピット（図 128）

E 12 グリッドに位置する。長さ 30 cm、幅 24 cm、深さ 60 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

50 号ピット（図 128・132）

E 12 グリッドに位置する。長さ 21 cm、幅 16 cm、深さ 23 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は陶器 1 点（1）を図示した。陶器：1 は小坏である。

51 号ピット（図 128・133）

F 11 グリッドに位置する。長さ 28 cm、幅 17 cm、深さ 24 cmで、平面形は円形である。58 号ピットと隣接するが切り合いは確認できなかった。

出土遺物はピット底面で検出されている。遺物は土器 2 点（1・2）を図示した。土器：1・2 は胞衣皿である。

52 号ピット（図 128・133）

I 12 グリッドに位置する。長さ 73 cm、幅 65 cm、深さ 0.61 cmで、平面形は不整形である。南側は攪乱されている。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器2点（1・2）を図示した。磁器：1は碗、2は丸碗である。

53号ピット（図128・133）

H 12グリッドに位置する。長さ52㎝、幅31㎝、深さ0.46㎝で、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は陶器1点（1）を図示した。陶器：1は壺である。

54号ピット（図129・134）

I 7グリッドに位置する。長さ32㎝、幅31㎝、深さ60㎝で、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係は54号ピットが1号池を切っている。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は木製品1点(1)を図示した。木製品:1は箱である。

55号ピット（図129・134）

I 6グリッドに位置する。長さ31㎝、幅31㎝、深さ66㎝で、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係は55号ピットが1号池を切っている。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は木製品1点(1)を図示した。木製品:1は箱である。

56号ピット（図130）

E 11グリッドに位置する。長さ27㎝、幅18㎝、深さ0.53㎝で、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

57号ピット（図130）

G 11グリッドに位置する。長さ28㎝、幅24㎝、深さ21㎝で、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

58号ピット（図130・133）

F 11・G 11グリッドに位置する。長さ51㎝、幅45㎝、深さ17㎝で、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係は58号ピットが59号ピットを切っている。

出土遺物はピット底面で検出されている。遺物は陶器2点（1・2）、土器3点（3～5）、瓦1点（6）を図示した。陶器：1・2は瓶、土器：3～5は胞衣皿である。5には針状の細い金属片が付着している。瓦：6は桟平瓦である。

59号ピット（図130・133）

F 11・G 11グリッドに位置する。長さ31㎝、幅27㎝、深さ14㎝である。他の遺構との切り合い関係は59号ピットが58号ピットに切られている。

出土遺物はピット底面で検出されている。遺物は土器2点（1・2）を図示した。土器：1・2は胞衣皿である。

写真137　2号ピット遺物出土状況

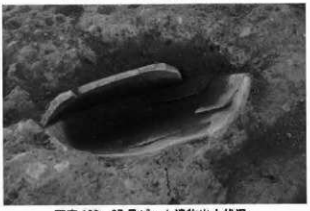


写真138　27号ピット遺物出土状況

写真139　58号ピット遺物出土状況

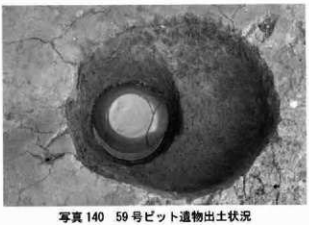
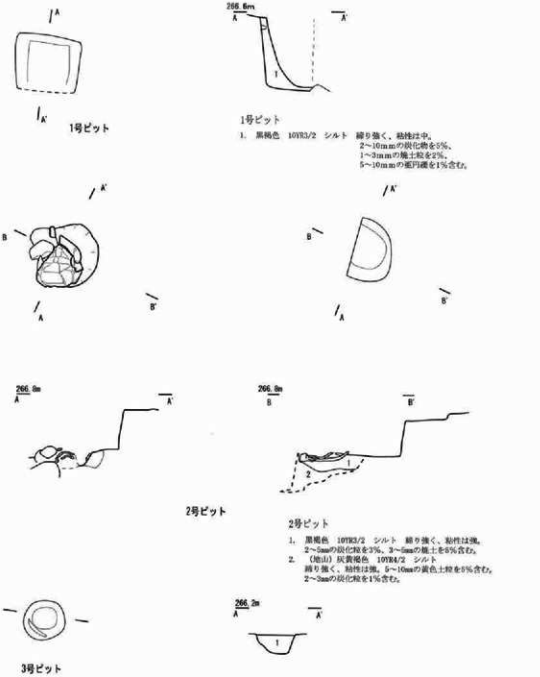


写真140　59号ピット遺物出土状況

写真 141　58 号ピット遺物出土状況

写真 142　59 号ピット遺物出土状況



1号ピット

1.　黒褐色　10YR3/2　シルト　締り強く、粘性は中。
2～10mmの炭化物を5%、
1～3mmの焼土粒を2%、
5～10mmの楕円礫を1%含む。

2号ピット

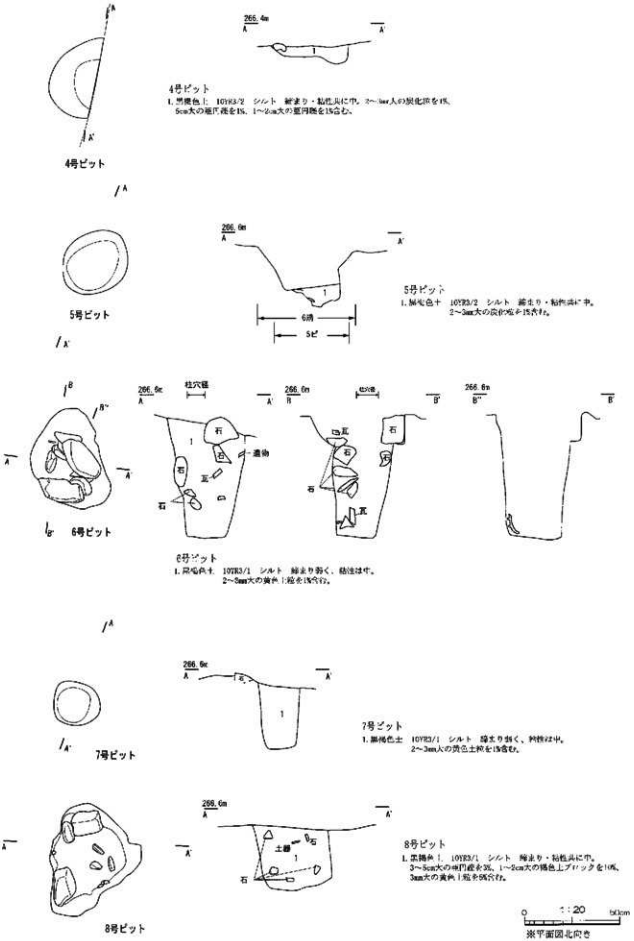
1.　黒褐色　10YR3/2　シルト　締り強く、粘性は強。
2～5mmの炭化粒を3%、3～5mmの焼土を0%含む。
2.　(地山) 灰黄褐色　10YR4/2　シルト
締り強く、粘性は強。5～10mmの黄色土粒を5%含む。
2～3mmの炭化粒を1%含む。

3号ピット

1.黒褐色土　10YR3/1　締まり極めて強く、粘性強い。

0　1:20　50cm
遺平面図北向き

図 120　ピット（1）



4号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり・粘性共に中。2～5mm大の炭化粒を1%、5cm大の瓦片、焼土1%、1～2cm大の礫円礫を1%含む。

5号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり・粘性共に中。2～3mm大の炭化粒を1%含む。

6号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり弱く、粘性は中。2～5mm大の黄色土粒を1%含む。

7号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり弱く、粘性は中。2～3mm大の黄色土粒を1%含む。

8号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり・粘性共に中。3～5cm大の楕円礫を3%、1～3cm大の褐色土ブロックを1%、3mm大の黄色土粒を5%含む。

図121　ピット（2）

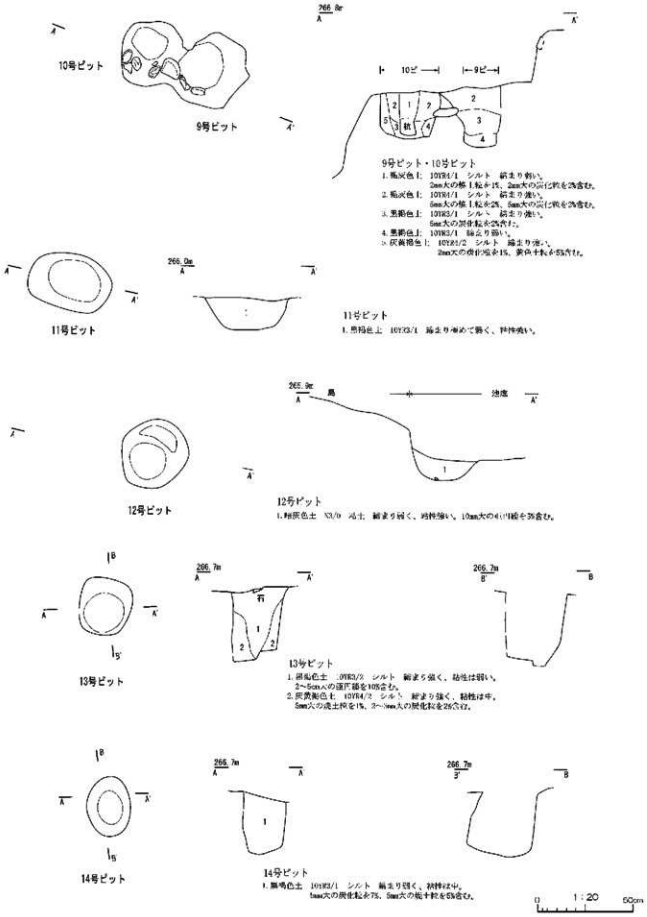
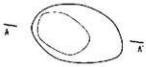
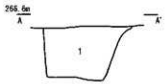

10号ピット
9号ピット
9号ピット・10号ピット
1. 褐灰色土　10YR4/1　シルト　締まり弱い。
2mm大の極小粒子1%、2mm大の炭化粒を2%含む。
2. 褐灰色土　10YR4/1　シルト　締まり強い。
5mm大の極小粒子2%、5mm大の炭化粒を3%含む。
3. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強い。
5mm大の礫粒子2%含む。
4. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱い。
5. 灰黄褐色土　10YR6/2　シルト　締まり強い。
2mm大の炭化粒1%、黄色土粒子5%含む。
11号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　締まり極めて弱く、粘性強い。
12号ピット
1. 暗灰色土　N3/0　粘土　締まり弱く、粘性強い。10mm大の炭化粒を2%含む。
13号ピット
1. 褐灰色土　10YR5/1　シルト　締まり強く、粘性は弱い。
2～5cm大の礫片粒を10%含む。
2. 灰黄褐色土　10YR4/2　シルト　締まり強く、粘性は中。
5mm大の焼土粒を1%、3～7mm大の炭化粒を2%含む。
14号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり弱く、粘性は中。
1mm大の炭化粒を7%、5mm大の粘土粒を5%含む。
0　1:20　50cm
※平面図北向き

図122　ピット（3）



15号ピット



15号ピット

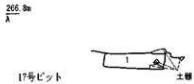
1. 暗褐色土　10YR3/2　シルト　粘まり強く、粘性はつ。
5mm大の炭を起を3%、5mm大の砂上を2%含む。

16号ピット

16号ピット

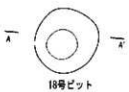
1. 黒灰色土　10YR4/1　シルト　粘まり強く、粘性は中。
6mm大の炭化粒を5%含む。

17号ピット

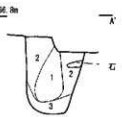


17号ピット

1. 暗赤　1.　10YR4/6　シルト　粘まり強く、粘性弱い。
3mm大の炭化粒を2%含む。
2. 黒褐色 1.　10YR3/1　シルト　粘まり・粘性共に弱。
5～10mm大の炭化粒を7%、3mm大の焼土粒を1%含む。



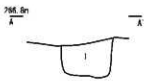
18号ピット



18号ピット

1. 黒褐色土　10YR3/4　粘まり強めで強く、粘性強い。（杭穴部分と考えられる。）
2. 暗褐色土　10YR3/3　粘まり強く、粘性は中。5mm大の炭化粒を7%、3mm大の焼土粒を2%含む。
3. 灰黄褐色土　10YR4/2　シルト　粘まり・粘性共に強い。（地山）

19号ピット



19号ピット

1. 黒灰色土　10YR4/1　シルト　粘まり強く、粘性は中。
5～10mm大の炭化粒を10%、2～5mm大の焼土粒を1%含む。

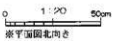


図123　ピット（4）

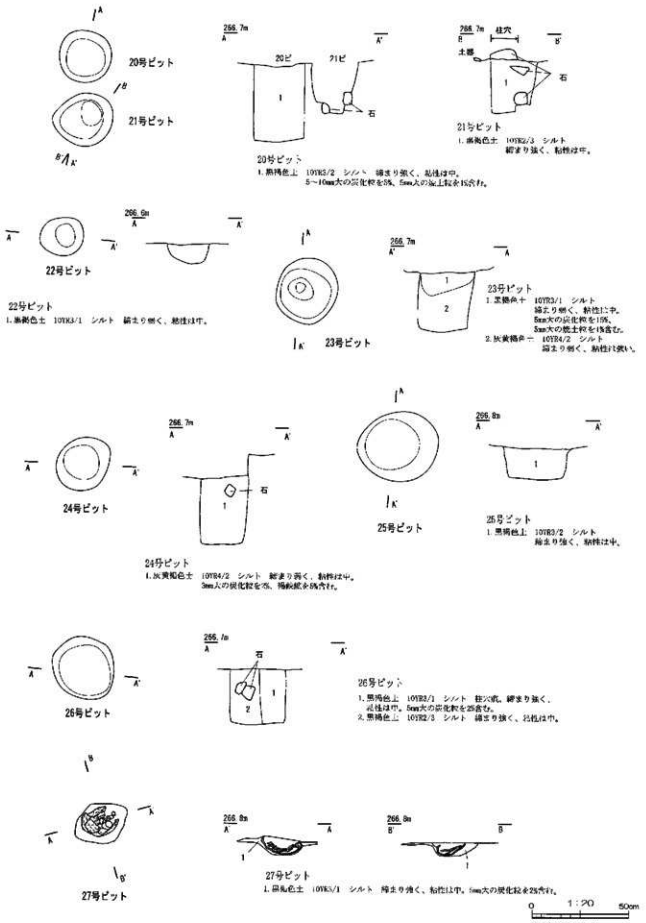

20号ピット
21号ピット
20ピ
21ピ
石
20号ピット
1.黒褐色土 10YR3/2 シルト 締まり強く、粘性は中。
5～10mm大の炭化粒を少、5mm大の焼土粒を15含む。
柱穴
土器
21号ピット
1.黒褐色土 10YR2/3 シルト
締まり強く、粘性は中。
22号ピット
22号ピット
1.黒褐色土 10YR3/1 シルト 締まり強く、粘性は中。
23号ピット
23号ピット
1.黒褐色土 10YR3/1 シルト
締まり強く、粘性に中。
5mm大の炭化粒を15%、
5mm大の焼土粒を1%含む。
2.灰黄褐色 10YR4/2 シルト
締まり強く、粘性は強い。
24号ピット
24号ピット
1.灰黄褐色土 10YR4/2 シルト 締まり弱く、粘性は中。
3mm大の炭化粒を少、褐色粒を3%含む。
25号ピット
25号ピット
1.黒褐色土 10YR3/2 シルト
締まり強く、粘性は中。
26号ピット
26号ピット
1.黒褐色土 10YR3/1 シルト 粒状感、締まり強く、
粘性は中。5mm大の炭化粒を25含む。
2.黒褐色土 10YR2/3 シルト 締まり強く、粘性は中。
27号ピット
27号ピット
1.黒褐色土 10YR3/1 シルト 締まり強く、粘性は中。5mm大の炭化粒を25含む。
0 1:20 50cm
※平面図北向き

図 124 ピット（5）

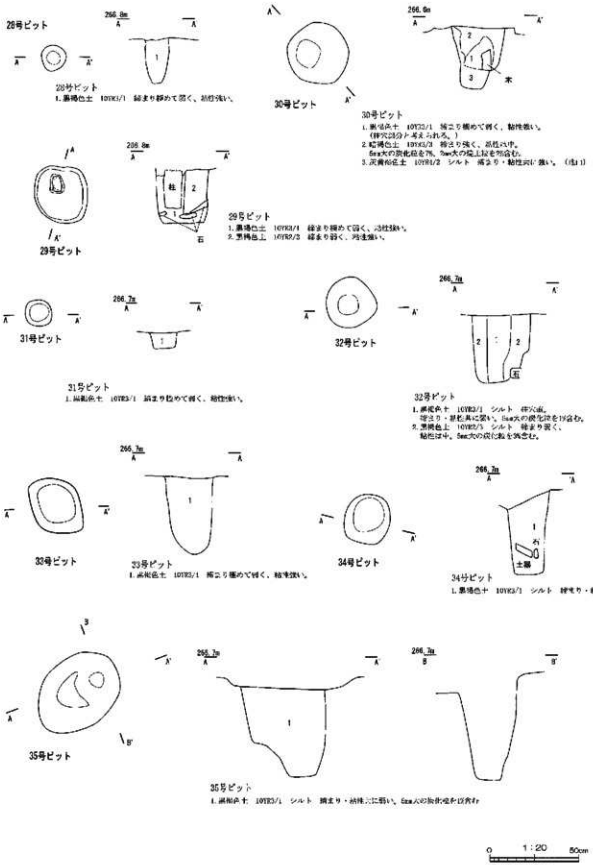

28号ピット
28号ピット
1.暗褐色土 10YR3/1 締まり弱めて固く、粘性強い。
30号ピット
30号ピット
1.黒褐色土 10YR3/1 締まり強めて固く、粘性強い。
(検出段階から考えられる。)
2.暗褐色土 10YR3/3 締まり強く、粘性大。
6cm大の炭化粒を7%、9cm大の焼土粒を微含む。
3.灰黄褐色土 10YR4/2 シルト 締まり・粘性共に強い。(色1)
29号ピット
29号ピット
1.黒褐色土 10YR2/1 締まり弱めで固く、粘性強い。
2.黒褐色土 10YR2/3 締まり弱く、粘性強い。
31号ピット
31号ピット
1.褐黒色土 10YR3/1 締まり弱めで固く、粘性強い。
32号ピット
32号ピット
1.黒褐色土 10YR2/1 シルト 掘穴面。
焼土ブロック・炭化粒を含む。6cm大の炭化粒を10%含む。
2.黒褐色土 10YR2/3 シルト 締まり強く、
粘性は中。6cm大の炭化粒を微含む。
33号ピット
33号ピット
1.褐黒色土 10YR3/1 締まり弱めで固く、粘性強い。
34号ピット
34号ピット
1.黒褐色土 10YR3/1 シルト 締まり・粘性共に弱い。
土器
35号ピット
35号ピット
1.褐黒色土 10YR3/1 シルト 締まり・粘性ともに弱い。6cm大の焼土粒を10%含む
0 1:20 50cm
座標方位は北向き

図125 ピット(6)

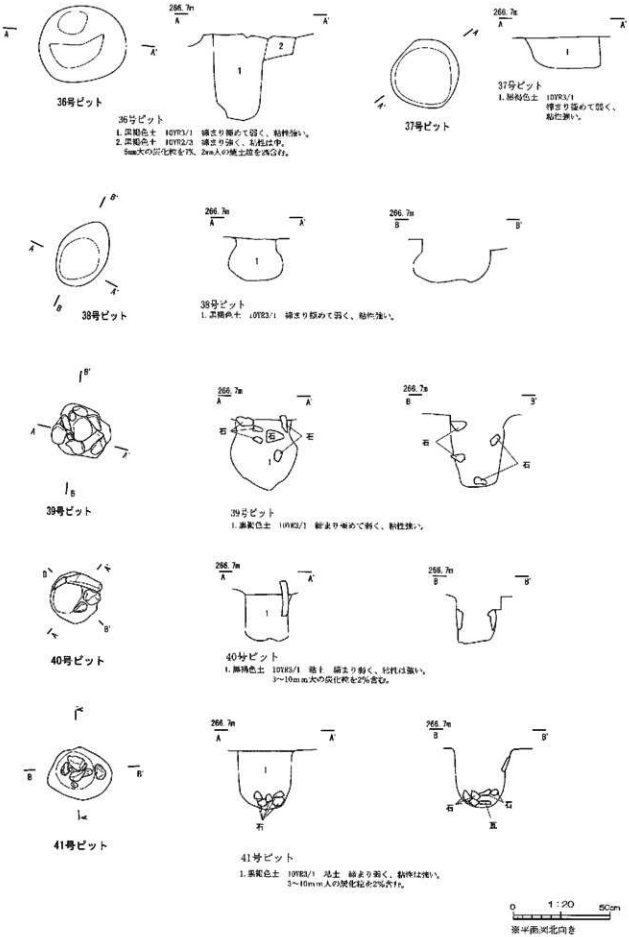

36号ピット
35号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　締まり極めて弱く、粘性強い。
2. 黒褐色土　10YR2/3　締まり弱く、粘性中。
5mm大の炭化粒を7%、2mm大の焼土粒を微含む。
37号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1
締まり極めて弱く、
粘性弱い。
38号ピット
38号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　締まり極めて弱く、粘性強い。
39号ピット
39号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　締まり極めて弱く、粘性強い。
40号ピット
40号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱く、粘性は強い。
3~10mm大の炭化粒を2%含む。
41号ピット
41号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　凡土　締まり弱く、粘性は強い。
3~10mm大の炭化粒を2%含む。
0　1:20　50cm
※平面図北向き

図126　ピット（7）

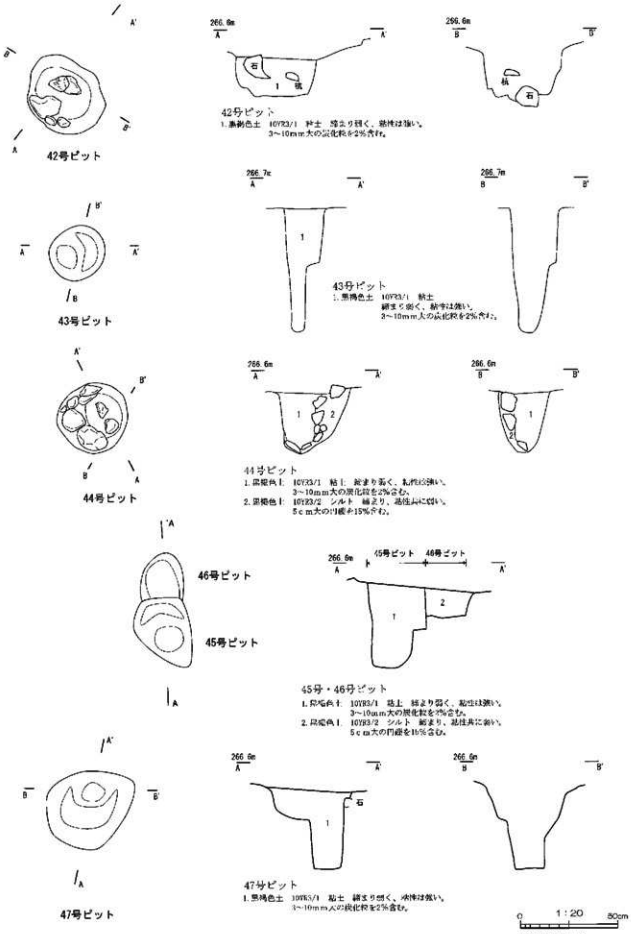

42号ピット
43号ピット
44号ピット
46号ピット
45号ピット
47号ピット
42号ピット
1. 黒褐色土 10YR3/1 粘土 焼土より硬く、粘性は強い。
3~10mm大の炭化粒を2%含む。
43号ピット
1. 黒褐色土 10YR3/1 粘土
締まり弱く、粘性は強い。
3~10mm大の炭化粒を2%含む。
44号ピット
1. 黒褐色土 10YR3/1 粘土 締まり弱く、粘性は強い。
3~10mm大の炭化粒を2%含む。
2. 黒褐色土 10YR3/2 シルト 締まり、粘性はにぶい。
5cm大の円礫を15%含む。
45号・46号ピット
1. 黒褐色土 10YR3/1 粘土 締まり弱く、粘性は強い。
3~10mm大の炭化粒を2%含む。
2. 黒褐色土 10YR3/2 シルト 締まり、粘性はにぶい。
5cm大の円礫を15%含む。
47号ピット
1. 黒褐色土 10YR3/1 粘土 締まり弱く、粘性は強い。
3~10mm大の炭化粒を2%含む。
1:20
50cm
※平面図北向き

図127 ピット（8）

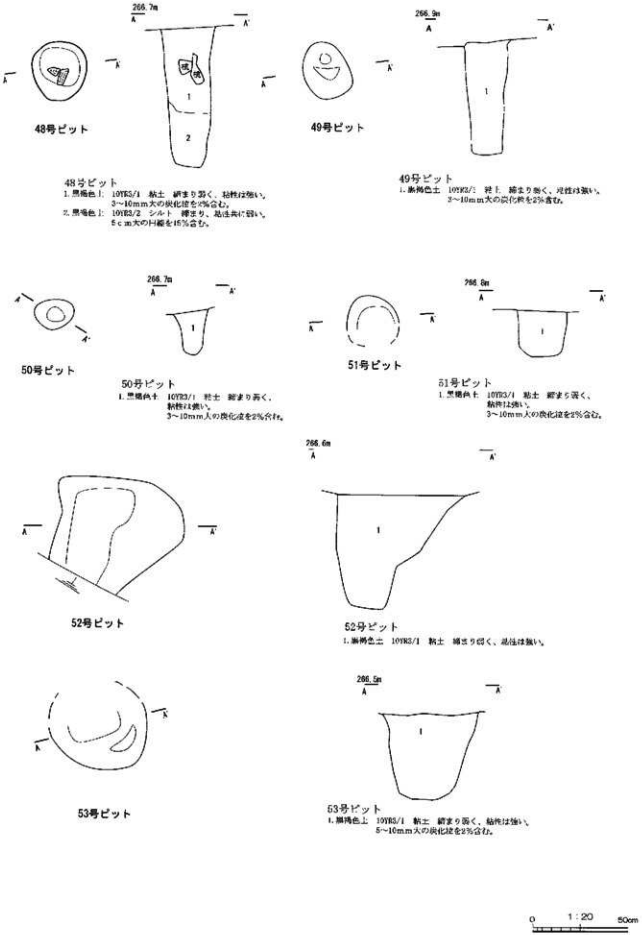

48号ピット
48号ピット
1. 黒褐色土 10YR3/1 粘土 締まり弱く、粘性は強い。
3～10mm大の炭化粒を5%含む。
2. 黒褐色土 10YR3/2 シルト 締まり、粘性共に弱い。
5cm大の円礫を15%含む。
49号ピット
49号ピット
1. 黒褐色土 10YR2/1 粘土 締まり強く、粘性は強い。
2～10mm大の炭化粒を2%含む。
50号ピット
50号ピット
1. 黒褐色土 10YR3/1 粘土 締まり弱く、
粘性は強い。
3～10mm大の炭化粒を2%含む。
51号ピット
51号ピット
1. 黒褐色土 10YR3/1 粘土 締まり弱く、
粘性は強い。
3～10mm大の炭化粒を2%含む。
52号ピット
52号ピット
1. 黒褐色土 10YR3/1 粘土 締まり強く、粘性は強い。
53号ピット
53号ピット
1. 黒褐色土 10YR3/1 粘土 締まり弱く、粘性は強い。
5～10mm大の炭化粒を2%含む。
0 1:20 50cm
※平面図北向き

図128 ピット（9）

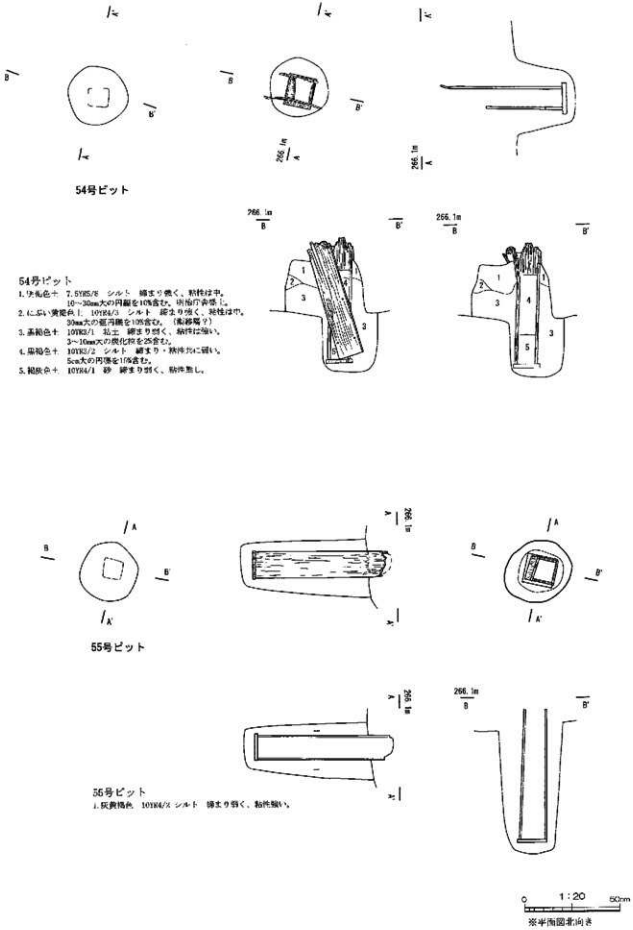
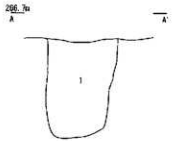

54号ピット
54号ピット
1. 明黄色土　7.5YR5/8　シルト　締まり強く、粘性は中。
10～30mm大の円礫を10%含む。床面に赤焼し。
2. にぶい黄褐色 1　10YR4/3　シルト　締まり強く、粘性は中。
30mm大の縄文土器を10%含む。（亀ヶ岡？）
3. 暗褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱く、粘性に強い。
3～10mm大の炭化粒を2%含む。
4. 黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり・粘性共に弱い。
5cm大の円礫を1%含む。
5. 褐灰色土　10YR4/1　砂　締まり弱く、粘性無し。
55号ピット
55号ピット
1. 灰黄褐色　10YR4/2　シルト　締まり弱く、粘性強い。
1:20
50cm
※半面図省略

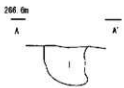
図129　ピット（10）

56号ピット



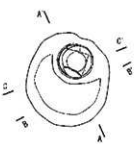
56号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり強く、粘性は弱い。
3~10mm大の焼土粒子を2%含む。

57号ピット

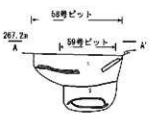


57号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱く、粘性は強い。
3~10mm大の炭化粒を2%含む。

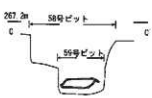
58号ピット

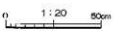


59号ピット



58号・59号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱く、粘性は強い。
3~10mm大の炭化粒を2%含む。
2. 黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり、粘性共に弱い。
5cm大の円礫を15%含む。





※平面図は1/40

図130　ピット（11）

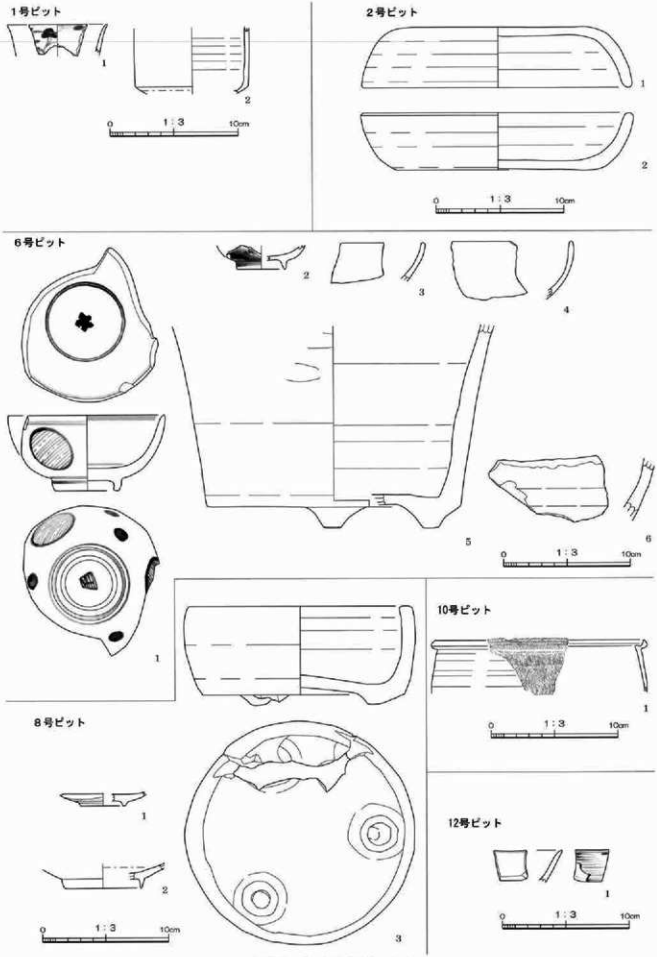


図131 ピット出土遺物（1）

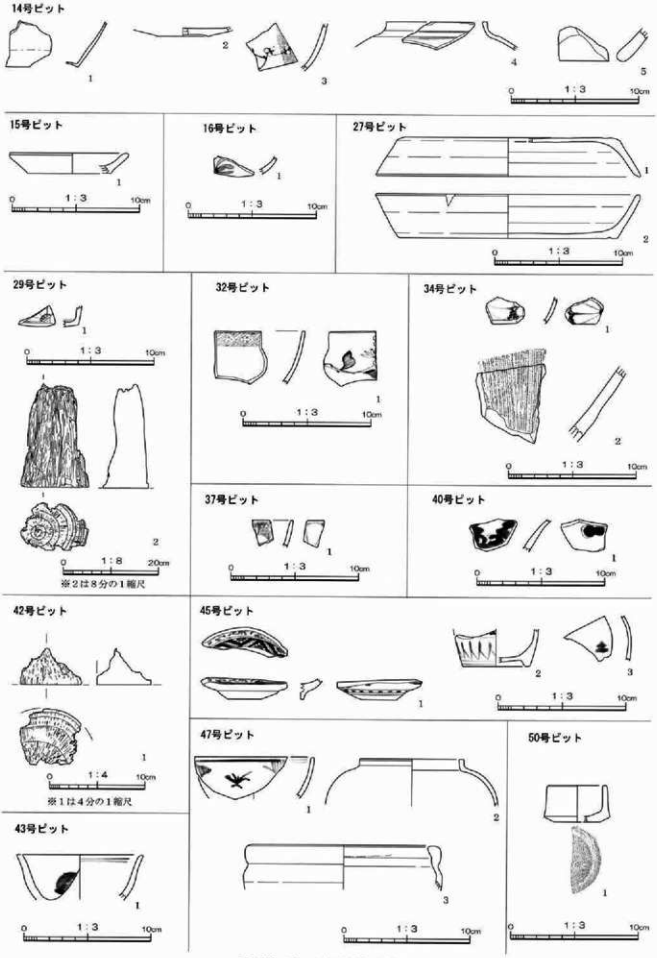


図132　ピット出土遺物（2）

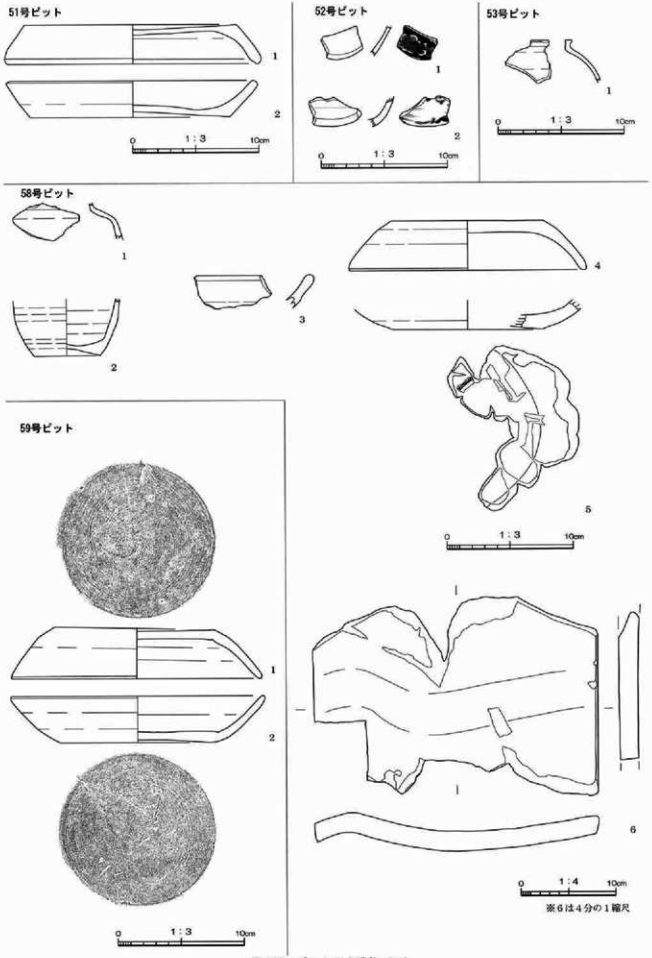
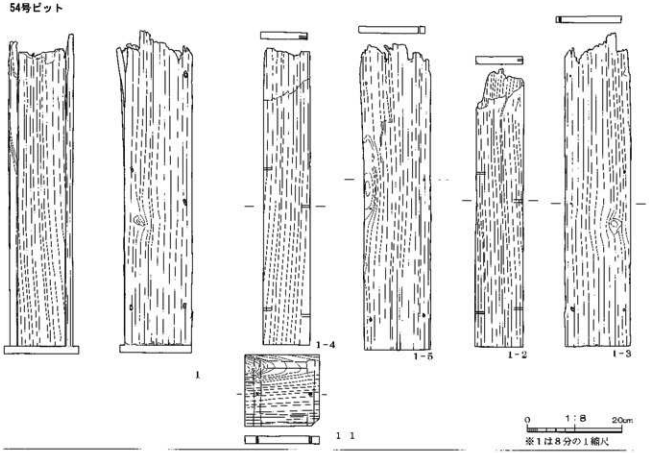


図 133　ピット出土遺物（3）

54号ピット



55号ピット

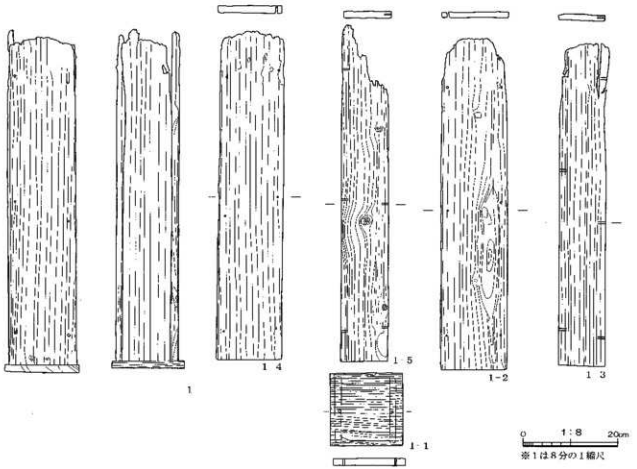


図 134　ピット出土遺物（4）

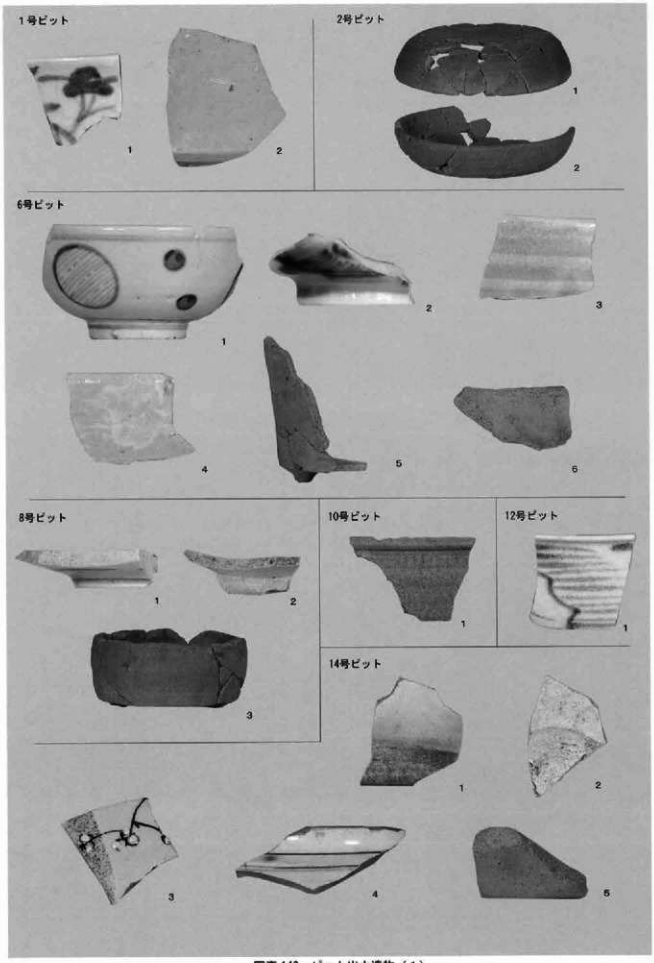


写真 143　ピット出土遺物（1）

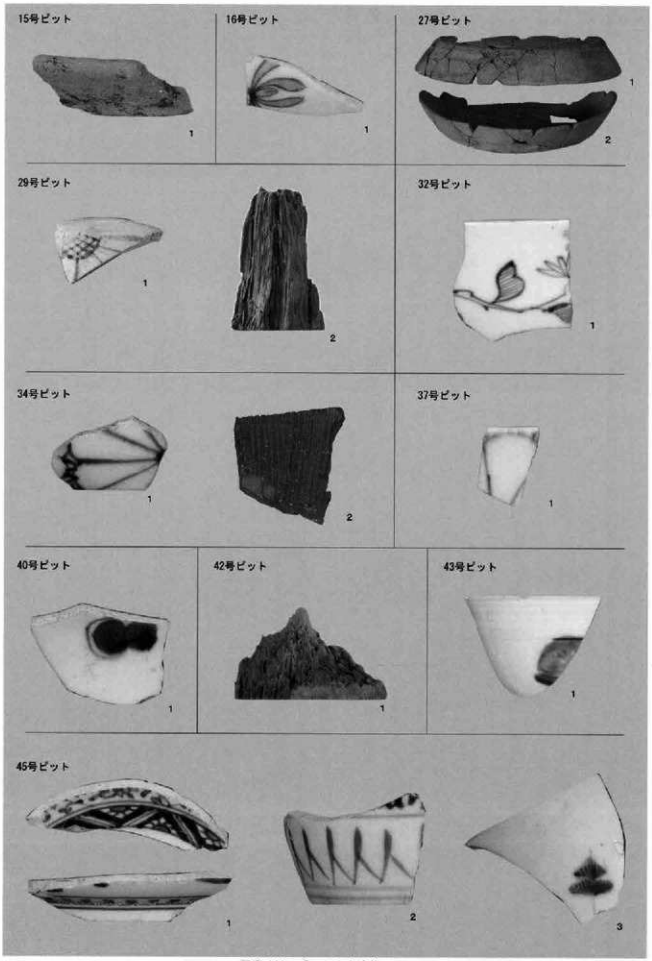


写真 144　ピット出土遺物（2）

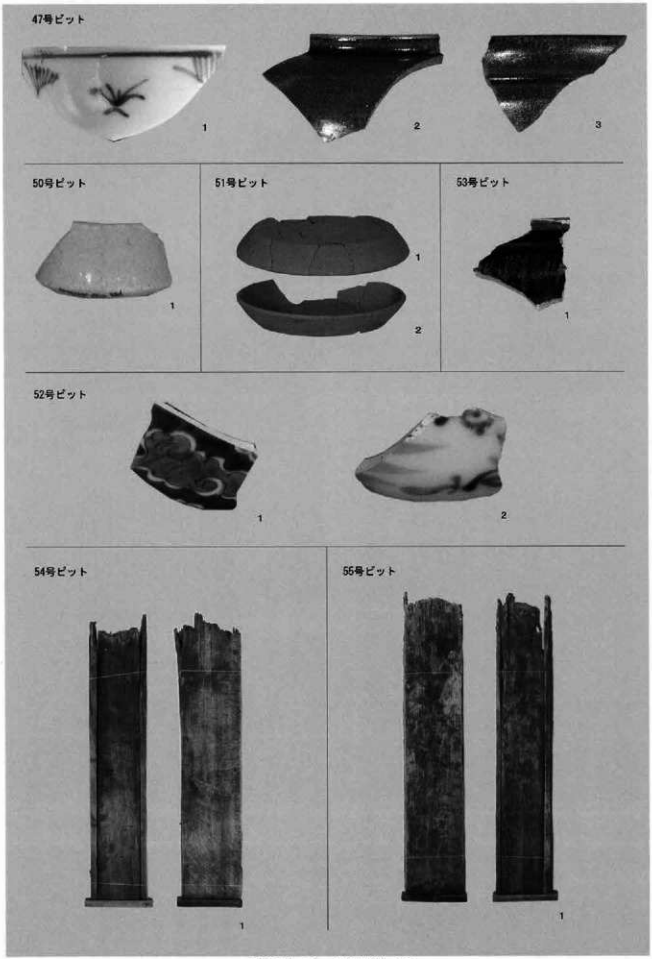


写真 145　ピット出土遺物（3）

58号ピット

1

2

3

4

5

6

59号ピット

1

2

写真146　ピット出土遺物（4）

第９節　その他の遺構

１．１号集石（図 135 ～ 139）

Ｉ 12 からＪ 14 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 13.6 m、幅 6.4 mである。小石が敷き詰められた中に２条の直行する石列を検出した。石列は南北の列が 1.6 m、東西の列が 8.4 mである。他の遺構との切り合い関係は１号石列が県庁１号基礎に切られ、52 号ピットを切っている。

出土遺物は小石上面で検出されている。遺物は磁器 30 点（１～ 30）、陶器 23 点（31 ～ 53）、土器１点（54）、金属製品１点（55）、銭貨２点（56・57）、瓦４点（58 ～ 61）を図示した。磁器：１・２は丸碗、３は油壺、４は瓶、６は紅皿、８・29 は筒形碗、９・12 は皿、14・24 は端反碗、15・17 は蓋である。陶器：31・50 は灯明受付皿、32・33 は鉢、34 は碗、35・40 は擂鉢、36・37 は瓶、38・42 は蓋、45 は土瓶、47 は土瓶蓋、48 は壺、53 は花瓶である。土器：54 は小皿、金属製品 55 は釘である。銭貨：56 は寛永通宝四文銭、57 は寛永通宝文銭である。瓦：58・59 は平瓦、60 は軒瓦、61 は輪違いである。59 は菱形内にサの刻印がある。

２．１号有機物集中地点（図 140・141）

Ｇ 14 からＨ 14 グリッドに位置する。長さ 82 ㎝、幅 34 ㎝、厚さ３㎝である。シジミが集中して堆積していた。他の遺構との切り合い関係は１号有機物集中が７号ピットを切っている。

出土遺物はシジミ堆積中で検出されている。遺物は石製品１点（1）、土製品１点（2）を図示した。石製品：１は火打ち石、土製品：２は碁石である。

写真 147　１号集石石列検出状況　東から

写真 148　１号集石遺物出土状況　西から

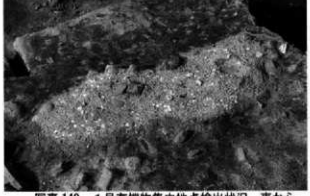


写真 149　１号有機物集中地点検出状況　東から

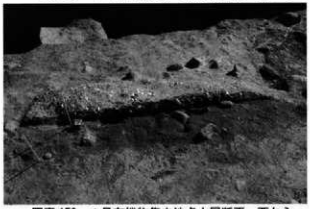


写真 150　１号有機物集中地点土層断面　西から

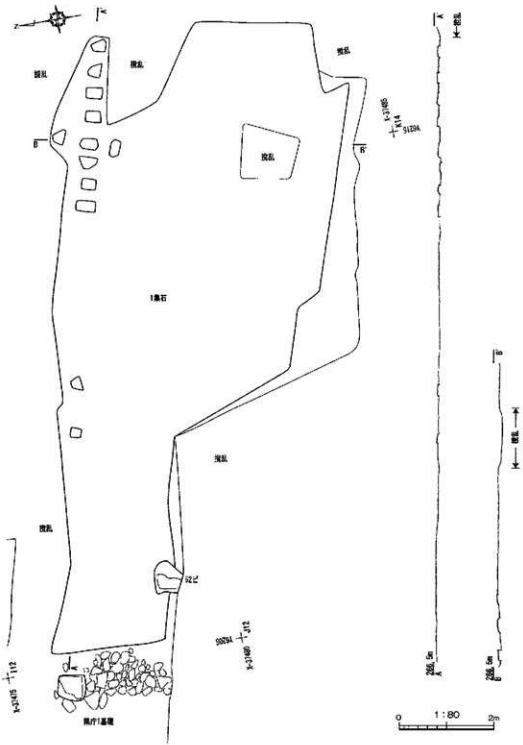

撹乱
撹乱
撹乱
撹乱
撹乱
撹乱
撹乱
1集石
22.2
県庁1基礎
X=24175
Y=112
X=24180
Y=112
X=24180
Y=115
Y=114
X=24175
Y=115
A
B
A
B
20.6.5m
20.6.5m
0
1:80
2m

図 135　1号集石

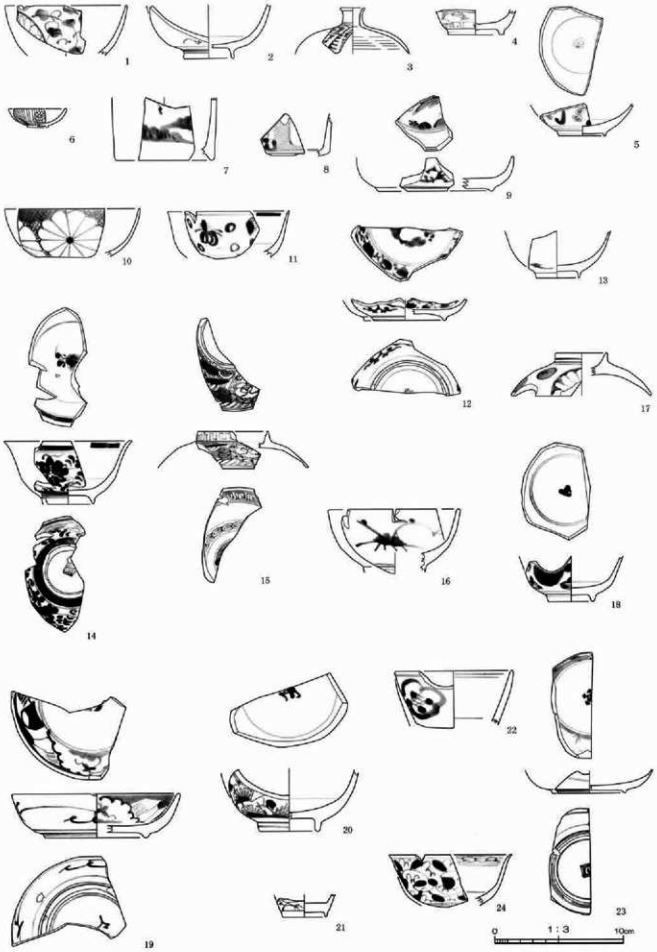


図 136　1号集石出土遺物（1）

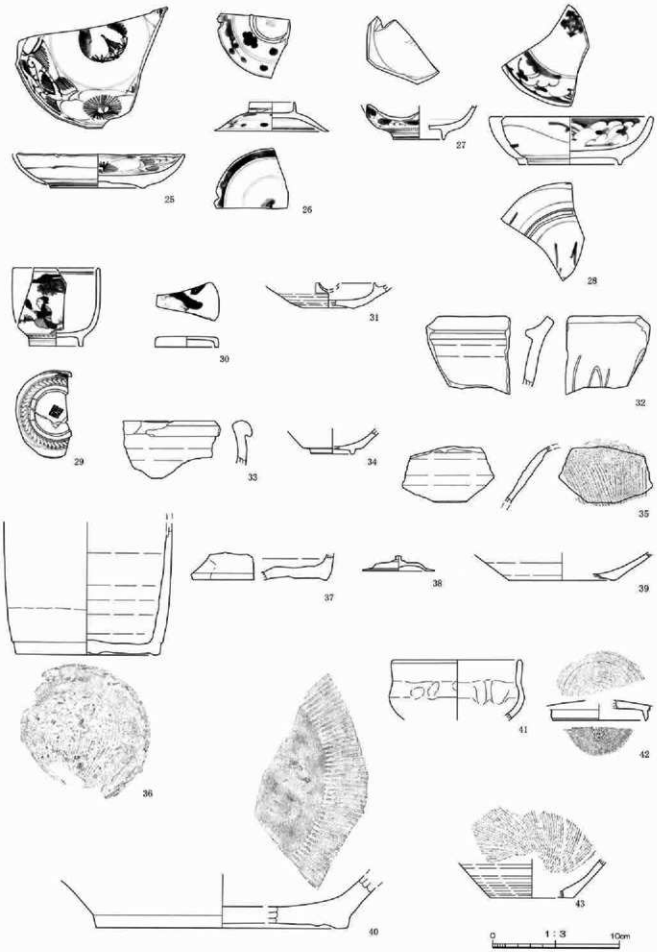
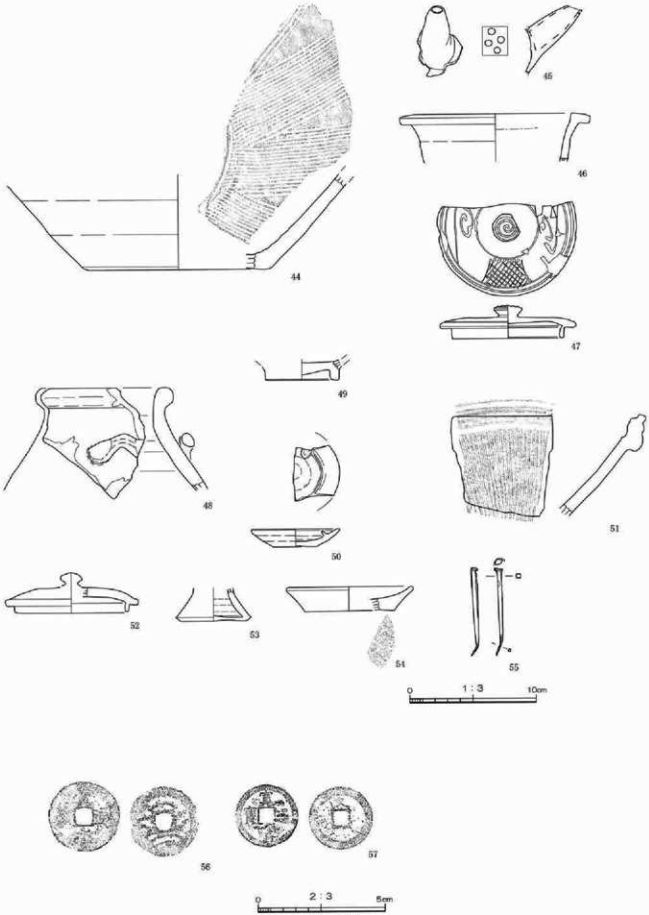


図 137　1号集石出土遺物（2）



※56、57は3分の2縮尺

図138　1号集石出土遺物（3）

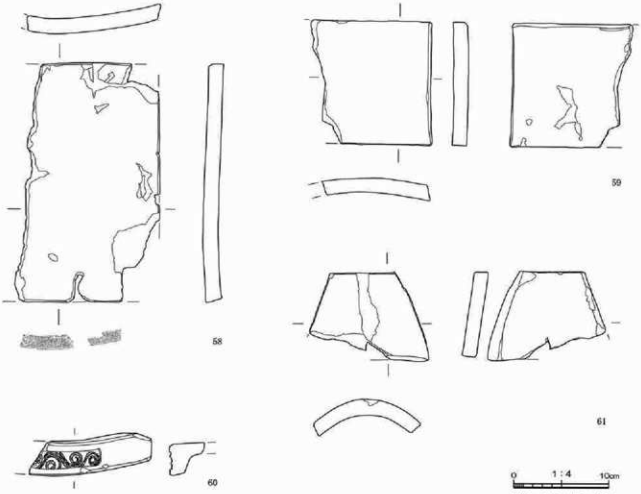


図 139　1号集石出土遺物（4）

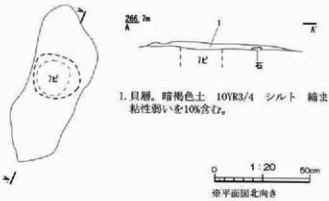


図 140　1号有機物集中地点

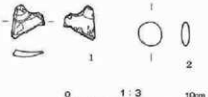


図 141　1号有機物集中地点出土遺物

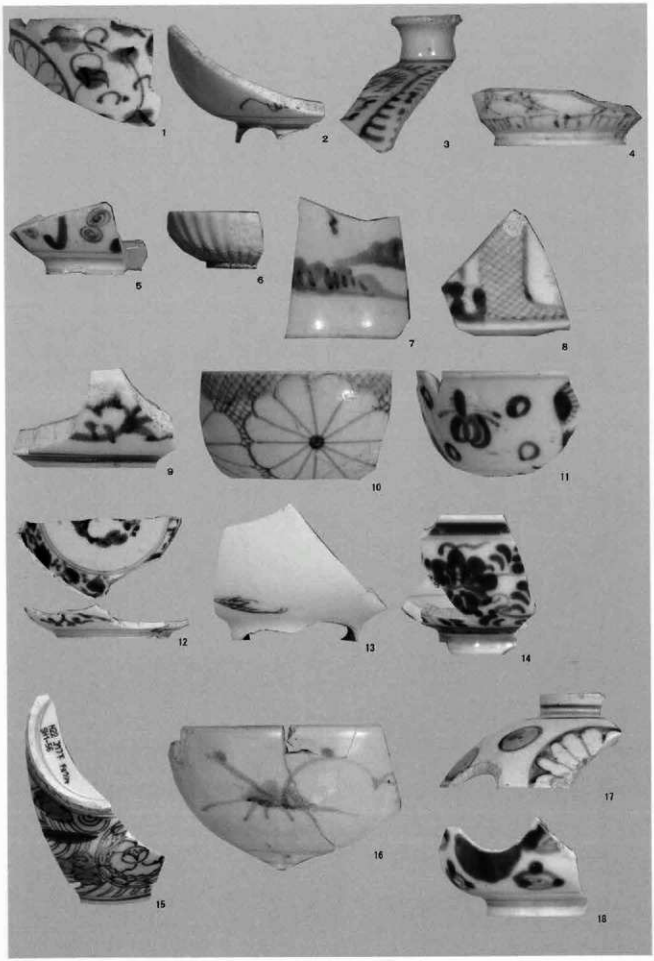


写真151　1号集石出土遺物（1）

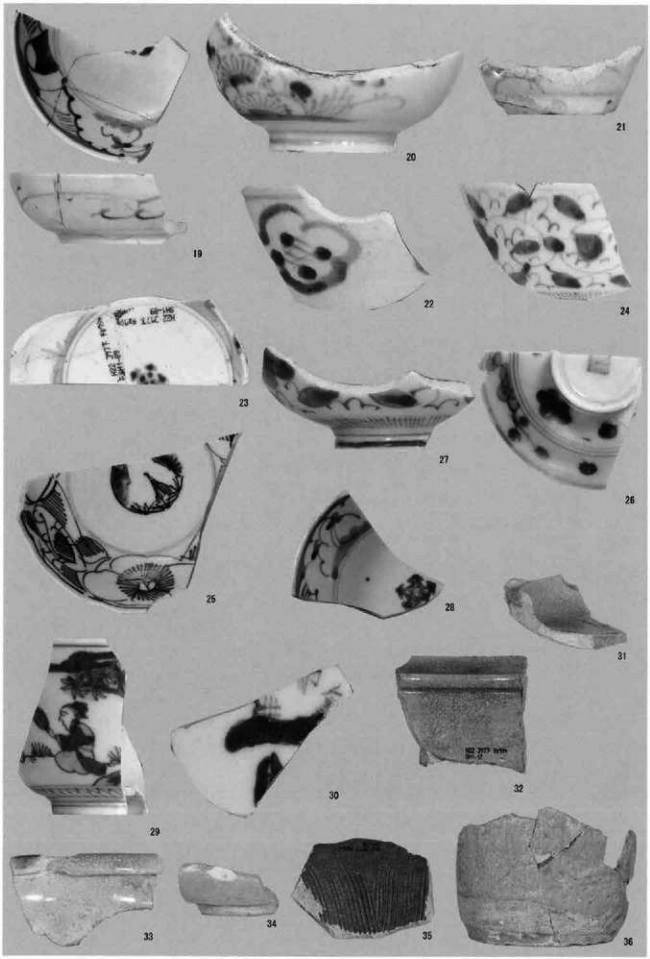


写真 152　1号集石出土遺物（2）

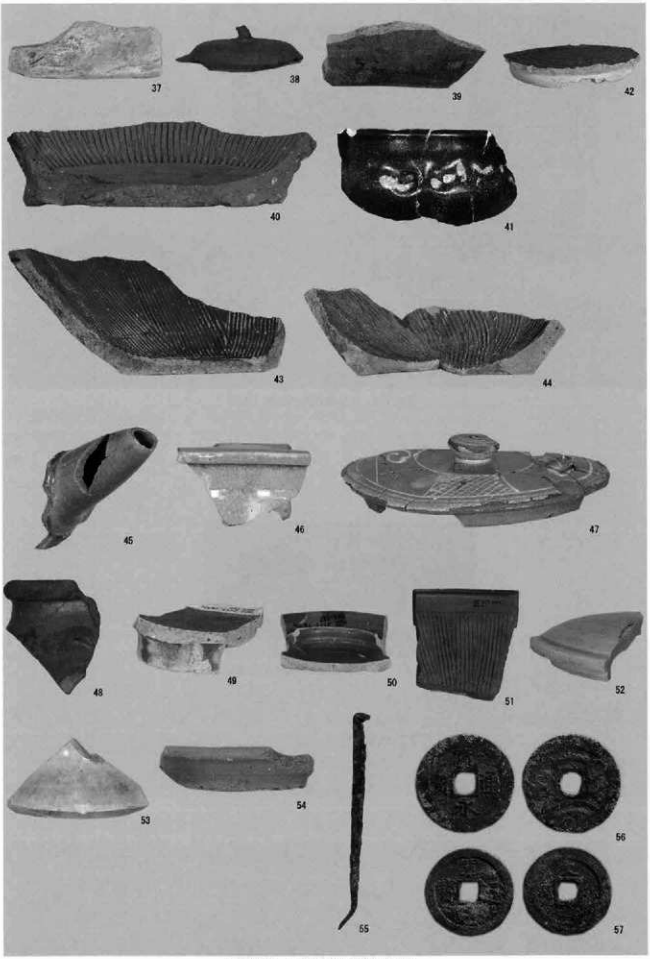


写真153　1号集石出土遺物（3）

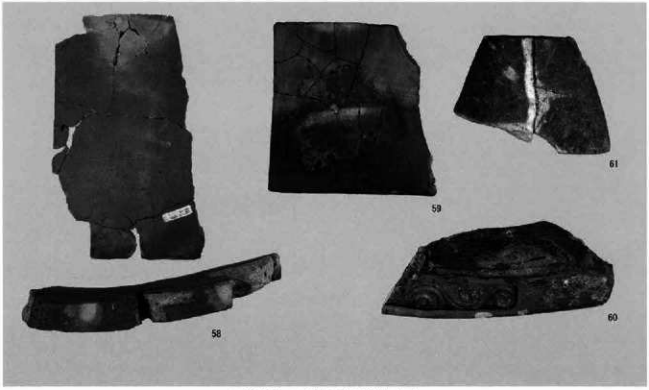


写真 154　1号集石出土遺物（4）

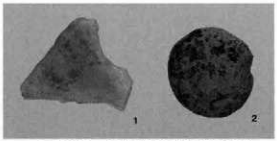


写真 155　1号有機物集中地点出土遺物

第10節　遺構外出土遺物

遺構外出土遺物をグリッド順に記す。D 11からE 12グリッドとG 11からH 11グリッドの出土遺物の多くは窪地を埋め戻して整地して県庁を建てるときに埋没したものと考えられる。

撹乱B 12グリッド（図142）

遺物は磁器2点（1・2）、陶器2点（3・4）を図示した。磁器：1は瓶、2は広東碗、陶器：3は擂鉢、4は鉢である。

撹乱B 13グリッド（図142）

遺物は磁器2点（1・2）、土器1点（3）、土製品2点（4・5）、硝子製品1点（6）、瓦1（7）点を図示した。磁器：1・2は丸碗、土器：3は煤炉、土製品：4・5は碁石、ガラス製品：6は瓶、瓦：7は軒丸瓦である。6はKikkoManの陽刻がある。

撹乱B 14グリッド（図143）

遺物は磁器3点（1～3）、陶器1点（4）、金属製品2点（5・6）を図示した。磁器：1は蓋、2は香炉、3は筒丸碗である。陶器：4は便器、金属製品：5は釘、6は煙管雁首である。

C 11グリッド（図143・144）

遺物は磁器9点（1～9）、陶器4点（10～13）、石製品1点（14）、金属製品2点（15・16）、瓦1点（17）を図示した。磁器：1は丸碗、2・5は碗、3は瓶、4は皿、6は端反碗、7・9は蓋、8は鉢である。陶器：10は灯明受付皿、11は擂鉢、12は瓶、13は小皿である。石製品：14は火打石、金属製品：15は釘、16は釣り針、瓦：17は軒平瓦である。

撹乱C 11グリッド（図144）

遺物は陶器1点（1）、石製品1点（2）を図示した。陶器：1は壺状、石製品：2は箱状である。

C 12グリッド（図144）

遺物は磁器1点（1）を図示した。磁器：1は皿である。

撹乱C 13グリッド（図144）

遺物は硝子製品2点（1・2）、石製品1点（3）を図示した。ガラス製品：1・2は瓶である。2は司側面にPAPILIOCLの陽刻がある。石製品：3は石筆石材と思われる。

C 14グリッド（図144）

遺物は陶器1点（1）を図示した。陶器：1は小皿である。

撹乱C 14グリッド（図144）

遺物は磁器4点（1～4）、土器1点（5）を図示した。磁器：1は香炉、2は瓶、3は丸碗、4は皿である。土器：5は小皿である。

C 15グリッド（図145）

遺物は磁器2点（1・2）を図示した。磁器：1・2は碗である。

D 11グリッド（図145・146）

遺物は磁器18点（1～18）、陶器9点（19～27）、土器1点（28）、金属製品1点（29）、瓦4点（30～33）を図示した。磁器：1は蓋、2は瓶、3・13・14は皿、4・17は碗、5・6・11・12・16は丸碗、7・8は筒形碗、9は鉢、10・15は瓶、18は急須である。陶器：19は秉燭、20は餌入れ、21は碗で高台が丸くなるほど摩耗している。22は鉢、23は三島手大皿、24は花瓶、25は土瓶、27は灯明受付皿である。土器：28は風口、金属製品：29はタイピンである。瓦：30は軒違い、31～33は平瓦で32は釘書き状の陰刻、33は三角内に二の刻印がある。

撹乱D 11グリッド（図147）

遺物は磁器1点（1）を図示した。磁器：1は広東碗である。

D 12グリッド（図147～150）

遺物は磁器26点（1～26）、陶器29点（27～55）、土器7点（56～62）、石製品4点（63～66）、土製品7点（67～73）、金属製品2点（74・79）、銭貨4点（75～78）、瓦4点（80～83）を図示した。磁器：1・8は端反碗、2は腰張碗、3は瓶、4・23は丸碗、5・14は皿、6は鍋島皿、10・19は碗、11は鉢、13は急須、16・24は蓋、17は鉢、18・26は端反碗、21は平碗、25は磁器の灯明受付皿などである。陶器：27・50は皿、28・51は鉢、29・54は擂鉢、30～32・55は土瓶、35・43は壺、36はせんじ碗、37・53は行平鍋、39・47は小皿、41・48は碗、44・45は灯明受付皿などである。土器：56は火鉢、57・58・60は小皿、59は焜炉類、61は焙烙、62は口皿である。石製品：63は碁石、64は磨石、65は硯、66は砥石である。土製品：67～73は碁石、金属製品：74は鈴、79は飾りである。銭貨：75～78は寛永通宝である。75は再文銭、76は文銭である。瓦：80は軒平瓦、81は軒違い、82は軒桟瓦、83は谷平瓦である。

撹乱D 12グリッド（図151）

遺物は磁器2点（1～2）、土器1点（3）、土製品1点（4）、金属製品1点（5）、木製品1点（6）を図示した。磁器：1は皿、2は瓶である。土器：3は鉢と思われる。土製品：4は碁石、金属製品：

5は煙管吸口、木製品：6は部材で中央部に朱塗りが残存している。

D 13グリッド（図151）

遺物は磁器1点（1）、陶器2点（2・3）、瓦2点（4・5）を図示した。磁器：1は蓋、鞠器：2はせんじ碗、3は底部に墨書がある。瓦：4・5は漆喰が残存している。なまこ壁と思われる。

E 10グリッド（図151）

遺物は磁器2点（1～2）、陶器1点（3）を図示した。磁器：1は皿、2は蕎麦猪口、陶器：3は蓋である。

E 11グリッド（図152・153）

遺物は磁器8点（1～8）、陶器12点（9～20）、土器4点（21～24）、土製品7点（25～31）、金属製品3点（32～34）、瓦3点（35～37）を図示した。磁器：1・5は広東碗、2・6は蕎麦猪口、3・4は碗、7・8は丸碗である。陶器：9は土瓶、10・11は壺、12・16は擂鉢、13・14は蓋、15は碗、17は小皿、18・20は鉢、19は小杉碗である。土器：21は口皿、22は焼塩壺蓋、23は小杉皿である。土製品：25～29は碁石、30は土鈴、31は人形である。金属製品：32は煙管雁首、33は煙管吸口、34は飾り、瓦：35・36は平瓦、37は桟瓦で丸の陰刻がある。

撹乱E 11グリッド（図154）

遺物は陶器2点（1・2）を図示した。陶器：1は瓶、2は擂鉢である。

E 12グリッド（図154～161）

遺物は磁器90点（1～90）、陶器54点（91～144）、土器14点（145～158）、ガラス製品2点（159・160）、土製品20点（161～180）、金属製品10点（181～185・187～190）、銭貨1点（186）、瓦2点（191～192）を図示した。磁器：1・15は平碗、2・58は鉢、5～7・83は端反碗、3・67・87・90は丸碗、10・33・85は碗、17腰張碗、20・40・54は筒形碗、26は水滴、30は急須、34・53は蓋、35・65・81は皿、36は合子蓋、37・76・86はくらわんか碗、41・57・62・72広東碗、46は瓶、60は燭笵和、66仏花瓶、69仏飯器、79筒丸碗、88は油壺、89は紅皿などである。陶器：91・120は蓋、92・98～100・143は土瓶、96・118は行平鍋、97は小杉碗、102・135は擂鉢、104・105は皿、106・124・127は鍋、107・110・131は鉢、108・130は壺、114は碗、115・139は瓶、119・136は小皿、122・138・144は灯明受付皿、137・141はミニチュア鍋、140は水入れなどである。土器：145・151・157・158は焼塩壺、146は鉢、147・149・156は小皿、150・152～154は焙烙、155はミニチュア擂鉢である。148は火鉢と思われる。ガラス製品：159・160は瓶、土製品：161～175は碁石、176・179・180は土鈴、177は土製煙造貨、178は人形である。金属製品：181釣針、182・187～190は釘、183は柄の金具、185は模である。銭貨：186は寛永通宝四文銭である。瓦：191は袖瓦、192は平瓦で丸の陰刻がある。

撹乱E 12グリッド（図161）

遺物は磁器3点（1～3）、陶器2点（4～5）、土器4点（6～9）、銭貨1点（10）を図示した。磁器：1・3は鉢、2は碗である。陶器：4は壺、5は腰鍔碗、土器：6は焼塩壺、7～9小皿である。銭貨：10は寛永通宝である。

F 10グリッド（図162）

遺物は銭貨1点（1）を図示した。銭貨：1は寛永通宝である。2枚が癒着している。

F 15グリッド（図162）

遺物は磁器3点（1～3）、陶器（4～8）、土器1点（9）、土製品1点（10）、金属製品4点（11～14）、銭貨：1点（15）を図示した。磁器：1は皿、2は蓋、3は仏飯器である。陶器：4は捏鉢、5は擂鉢、6は鉢、7・8は蓋である。土器：9は小皿、土製品：10は碁石である。金属製品：11は簪、12は鋲、13は煙管吸口、14は飾りである。

撹乱F 15グリッド（図162）

遺物は銭貨1点（1）、金属製品1点（2）を図示した。銭貨：1は十銭硬貨、金属製品：2はボタンである。

G 3グリッド（図162）

遺物は磁器1点（1）、瓦1点（2）を図示した。磁器：1は碗、瓦：2は平瓦で三角内に二の陰刻がある。

撹乱G 8グリッド（図162）

遺物はガラス製品1点（1）を図示した。ガラス製品：1は瓶である。

G 10グリッド（図162）

遺物は銭貨1点（1）を図示した。銭貨：1は寛永通宝である。

撹乱G 10グリッド（図163）

遺物は磁器1点（1）、陶器4点（2～5）、土器2点（6・7）、瓦1点（8）を図示した。磁器：1は丸碗、陶器：2・3は蓋、4は擂鉢、5は灯明

受付皿である。土器: 6は小皿、7は焼塩壺である。瓦：8は輪違いである。

G 11グリッド（図163～175）

遺物は磁器135点（1～135）、陶器116点（136～251）、土器7点（252～258）、石製品4点（259～262）、土製品3点（263～265）、金属製品3点（266～268）、銭貨5点（269～273）、瓦7点（274～280）を図示した。磁器：1はくらわんか碗、2・9～11・134は丸碗、4・68は筒丸碗、5・42・125～128は皿、76は鍋島皿、6・79・109・117・123は瀧反碗、7・133は碗、131は広東碗、8・115・124は瓶、12・30・59は小坏、22・40・58・67は爛徳利、32・113・132は蓋、45は鉢、75・90・100は酒盃、120・122は水滴などである。陶器：136～138・249・250は鉢、139・224・235は碗、210・211・223・231・244は小杉碗、140・161～163は擂鉢、141・190～196・245は上瓶、143・229は鍋、144・158は灯明受付皿、175・200・225は小皿、145～147・201～204・242は蓋、151は土鍋蓋、174は行平鍋蓋、212は行平鍋、154・160は壺、155は火鉢、165・181・188は瓶、248は小坏、251はミニチュア六角瓶などである。土器：252は皿、253は目皿、254・258は火鉢、255は火消し壺、256は焜炉類、257はカマドと思われる。石製品：259～261は石筆、262は滑石加工片である。土製品：263～265は碁石、金属製品：267は把手、268は釘である。銭貨：269・270・272・273は寛永通宝、271は文久永宝である。瓦：274・279・280は丸瓦、275は桟瓦、276は軒桟瓦、277は袖瓦である。278はなまこ壁と思われる。

撹乱G 11グリッド（図175）

遺物は陶器1点（1）を図示した。陶器：1は小杉碗である。

G 12グリッド（図175～177）

遺物は磁器27点（1～27）、陶器20点（28～47）、土器3点（48～50）、石製品2点（51・52）、土製品1点（53）、金属製品4点（54～57）、瓦3点（58～60）を図示した。磁器：1は端反碗、2は皿、3は瓶、4～9は碗、10は広東碗、11～13は丸碗、18は小坏、25は爛徳利、26は合子などである。陶器：28～30は蓋、31は灯明受付皿、32は上瓶、34は徳利、47は擂鉢、35は瓶、36は行平鍋、43は鉢などである。土器：48は小皿、49コンロ、50はカマドである。石製品：51・52は硯。52は朱墨が残存している。土製品：53は碁石、金属製品：54・55は弾丸、56は煙管吸口、57は鋲である。瓦：58～60は瓦転用砥石である。

G 14グリッド（図177）

遺物は磁器3点（1～3）、陶器2点（4・5）、土製品3点（6～8）、金属製品2点（9・10）を図示した。1は香炉、2は碗、4は蓋、5は擂鉢、6は碁石、9は煙管雁首、10は釘などである。

G 15グリッド（図177・178）

遺物は磁器2点（1～2）、陶器2点（3～4）、土器1点（5）、土製品2点（6・7）、金属製品1点（8）、銭貨1点（9）を図示した。1は碗、2は皿、3は擂鉢、5は手焙り、6は碁石、8は簪状、9は寛永通宝などである。

撹乱G 15グリッド（図178）

遺物は磁器2点（1・2）、陶器1点（3）、土器1点（4）、金属製品1点（5）を図示した。1は碗、2はレンゲ、3は三島手皿、4は片口状、5は煙管吸口である。

H 5グリッド（図178）

遺物は磁器2点（1・2）、土器1点（3）を図示した。1は泥盃、2は水滴、3は小皿である。

H 7グリッド（図178・179）

遺物は磁器2点（1～2）、陶器1点（3）、土器1点（4）、土製品3点（5～7）、瓦4点（9～12）を図示した。1は碗、3は餌入れ4は小皿、5は碁石、9は輪違い、10は鬼瓦、11は平瓦である。

H 8グリッド（図179・180）

遺物は磁器16点（1～16）、陶器1点（17～26）、硝子製品1点（27）、石製品1点（28）、土製品（29～38）、金属製品1点（39）、銭貨1点（40）を図示した。1は端反碗、2は丸碗、8は水滴、15は餌入れか、16は蓋、18は乗燭、19は灯明受付皿、21は鉢、22は上瓶、23は蓋、27は栓、28は磨石、29は碁石、39は鋲、40は寛永通宝などである。

H 9グリッド（図180・181）

遺物は磁器1点（1）、陶器3点（2～4）、瓦2点（5・6）を図示した。1は碗、2は種木鉢、4は小坏、5は平瓦、6は軒丸瓦である。

H 10グリッド（図181）

遺物は磁器2点（1・2）、土製品1点（3）、銭貨1点（4）、金属製品1点（5）を図示した。1・2は碗、3は碁石、4は寛永通宝、5は煙管吸口である。

撹乱H 10グリッド（図181）

遺物は磁器2点（1・2）、土製品1点（3）を

図示した。1・2は丸碗、3は碁石である。

H 11 グリッド（図 182～193）

遺物は磁器 99 点（1～99）、陶器 55 点（100～154）、土器 10 点（155～164）、土製品 3 点（165～167）、石製品 4 点（168～171）、金属製品 3 点（172・173・175）、銭貨 1 点（174）、瓦 4 点（175～179 を図示した。1は碗、3は平碗、6は腰張碗、7は丸碗、8は端反碗、14は皿、18は筒丸碗、37は香炉、41は瓶、43は小坏、51は蓋、53は広東碗、80は鉢、100は小杉碗、102は行平鍋、103は壺、105は土瓶、107は蓋、109は擂鉢、112は壺、121は行平鍋蓋、122は灯明受付皿、123は小皿、139は鍋、130は碗、131は徳利、134は瓶、155は目皿、156は火鉢、158は灯明皿、159は火鉢、161は小皿、163・164はカマド、165は碁石、168・170は砥石、169は硯、172は鉄、173は煙管雁首、175は煙管吸口、174は寛永通宝、176は丸瓦、177・178は平瓦などである。

撹乱H 11 グリッド（図 194）

遺物は磁器 6 点（1～6）、陶器 9 点（7～15）、土器 1 点（16）、土製品 1 点（17）を図示した。1は広東碗、2は碗、4は香炉、7は土瓶、8は碗、9は擂鉢、10は小杉碗、13は小皿、14は瓶、15は水滴、16は火鉢、17は碁石などである。

H 12 グリッド（図 195・196）

遺物は磁器 21 点（1～21）、陶器 13 点（22～28）、土器 1 点（29）、木製品 1 点（30）を図示した。1は小坏、2は丸碗、4は端反碗、5は腰張碗、15は壺、19は皿、22は陶胎染付碗、23は鉢、24は擂鉢、25は土瓶、27は脚付灯明受付皿、28は瓶、29は焙烙、30は漆器碗などである。

H 14 グリッド（図 196・197）

遺物は磁器 5 点（1～5）、陶器 13 点（6～18）、土器 2 点（19～20）、石製品 1 点（21）、土製品 2 点（22～23）、銭貨 1 点（24）、瓦 1 点（25）を図示した。1・2は碗、3は鶏形人形、4は皿、7は捏鉢、8は瓶、9は擂鉢、11は墨書のある鉢、12は尿瓶、14は土瓶、15はAと陰刻された目皿、18は鍋、19は火鉢、20は皿、21は砥石、22は碁石、24は寛永通宝、25は桟瓦などである。

撹乱H 15 グリッド（図 197）

遺物は磁器 1 点（1）を図示した。磁器：1は蓋である。

I 4 グリッド（図 198）

遺物は瓦 1 点（1）を図示した。1は平瓦である。

I 5 グリッド（図 198）

遺物は磁器 1 点（1）、陶器 1 点（2）、土器 1 点（3）、瓦 3 点（4～6）を図示した。1は碗、2は鉢、3は火鉢、4は平瓦、5は軒桟瓦、6は軒丸瓦である。

I 8 グリッド（図 198）

遺物は陶器 3 点（1～3）、金属製品 1 点（4）を図示した。1は灯明受付皿、2は土瓶、3は蓋、4は釘である。

I 9 グリッド（図 198）

遺物は陶器 1 点（1）を図示した。1は鉢である。

撹乱I 9 グリッド（図 198）

遺物は硝子製品 1 点（1）を図示した。1は瓶である。ヤクルト銘がある。

I 10 グリッド（図 198）

遺物は土製品 1 点（1）を図示した。1は碁石である。

I 11 グリッド（図 199）

遺物は磁器 2 点（1～2）、陶器 2 点（3～4）、貝製品 1 点（5）、瓦 3 点（6～8）を図示した。磁器：1は丸碗、2は端反碗、陶器：3は碗、4は小皿、貝製品：5は碁石、瓦：6は丸瓦、7・8は輪違いである。

撹乱I 11 グリッド（図 198）

遺物は瓦 1 点（1）を図示した。1は輪違いである。

撹乱I 12 グリッド（図 198）

遺物は磁器 1 点（1）を図示した。1は丸碗である。

J 8 グリッド（図 200）

遺物は磁器 5 点（1～5）、陶器 1 点（6）を図示した。1は鉢、2～5は碗、6は瓶である。

調査区一括（図 200）

遺物は磁器 3 点（1～3）、金属製品 1 点（5）、瓦 3 点（5～7）を図示した。1・2は碗、3は皿、5は軒瓦、6・7はなまこ壁と思われる。

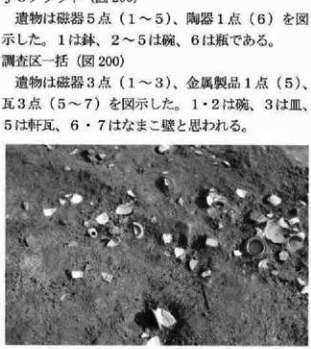
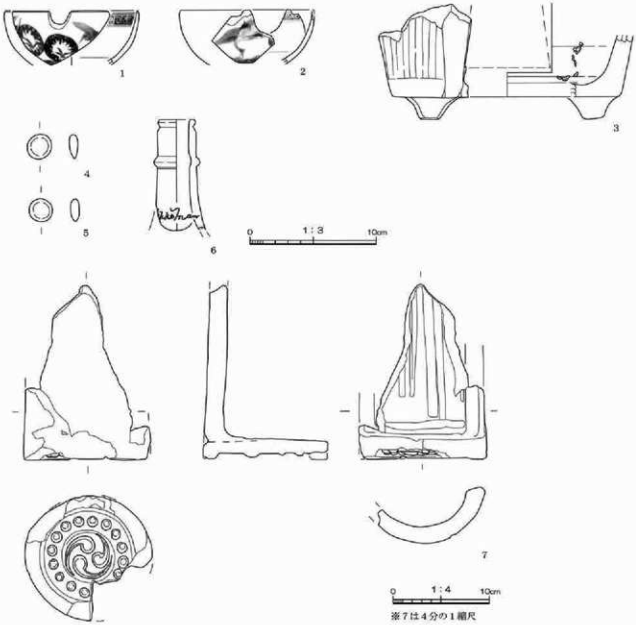


写真 156　G 11 グリッド遺物出土状況

撹乱B12グリッド

撹乱B13グリッド



※7は4分の1縮尺

図 142　遺構外出土遺物（1）

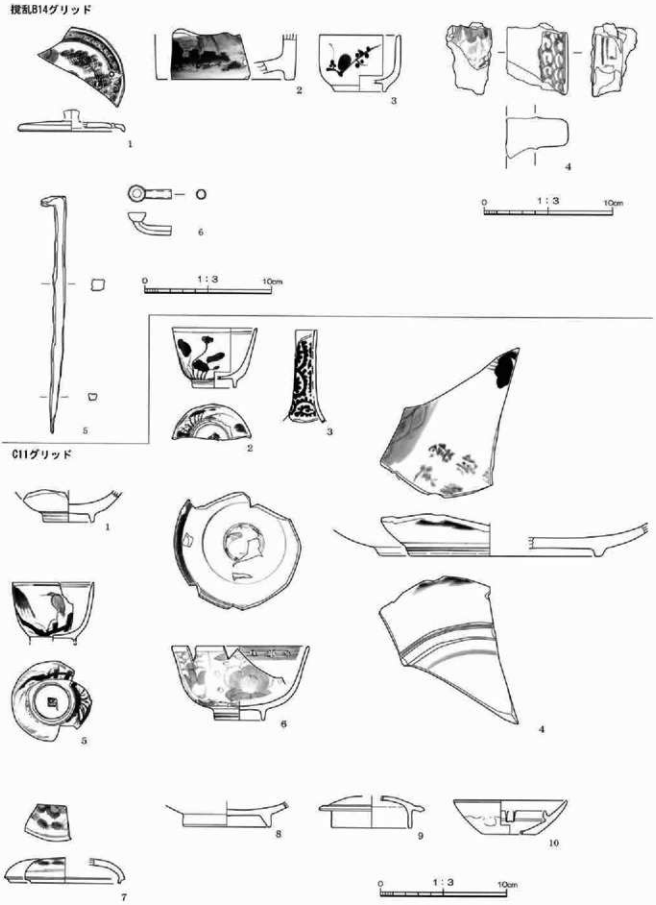
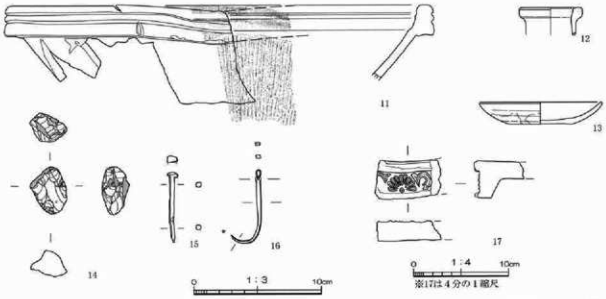
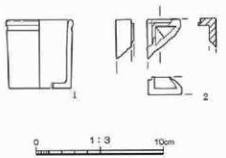


図143　遺構外出土遺物（2）

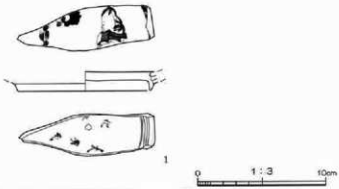
C11グリッド



撹乱C11グリッド

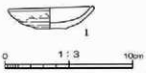


C12グリッド



撹乱C13グリッド

C14グリッド



撹乱C14グリッド

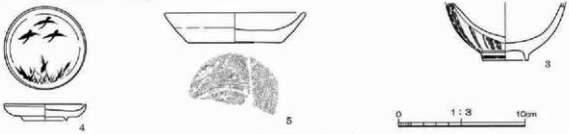


図144　遺構外出土遺物（3）

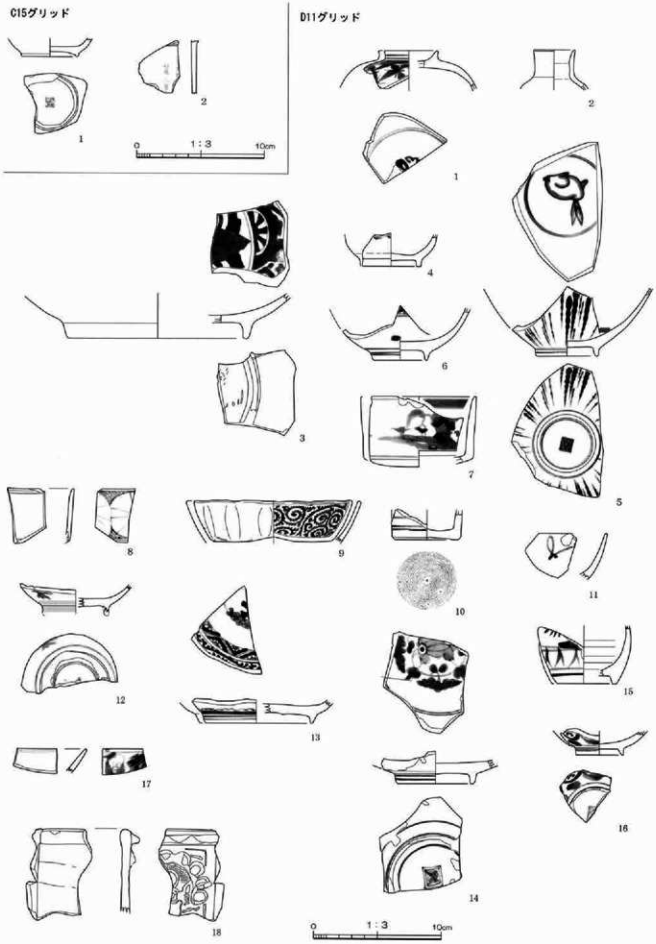


図 145　遺構外出土遺物（4）

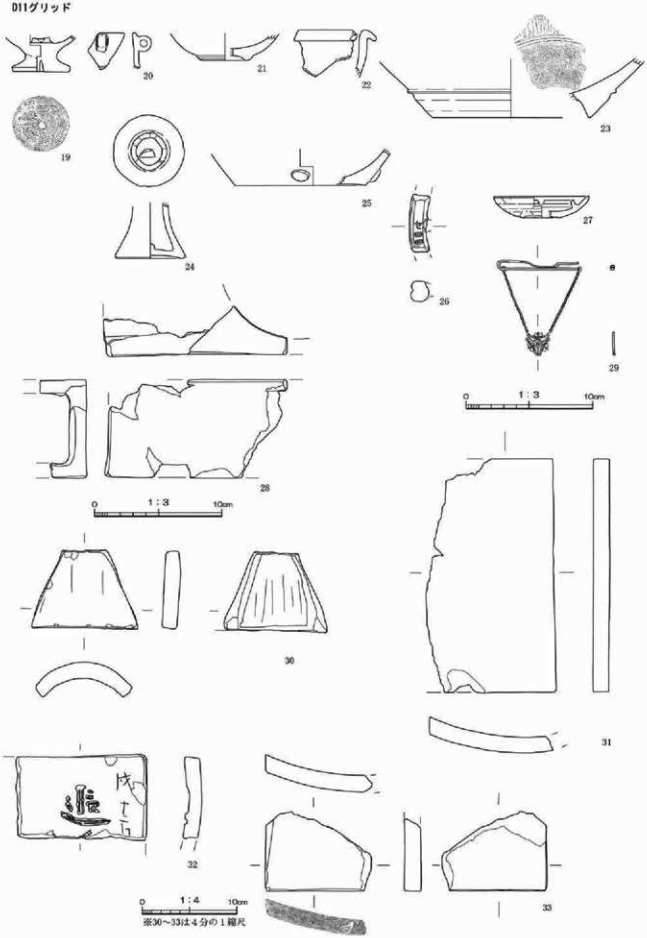


図146　遺構外出土遺物（5）

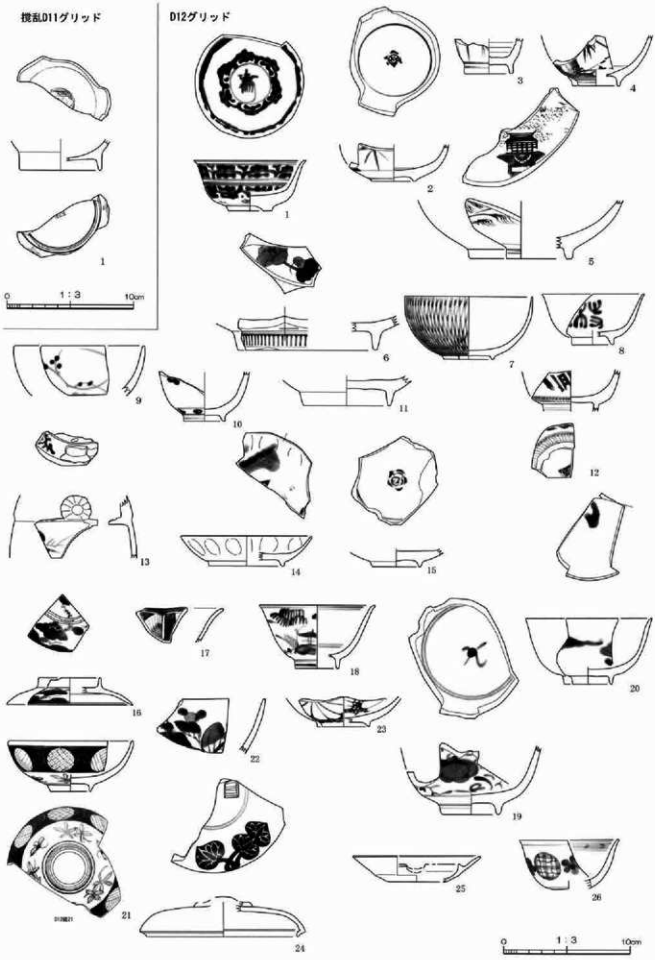


図147　遺構外出土遺物（6）

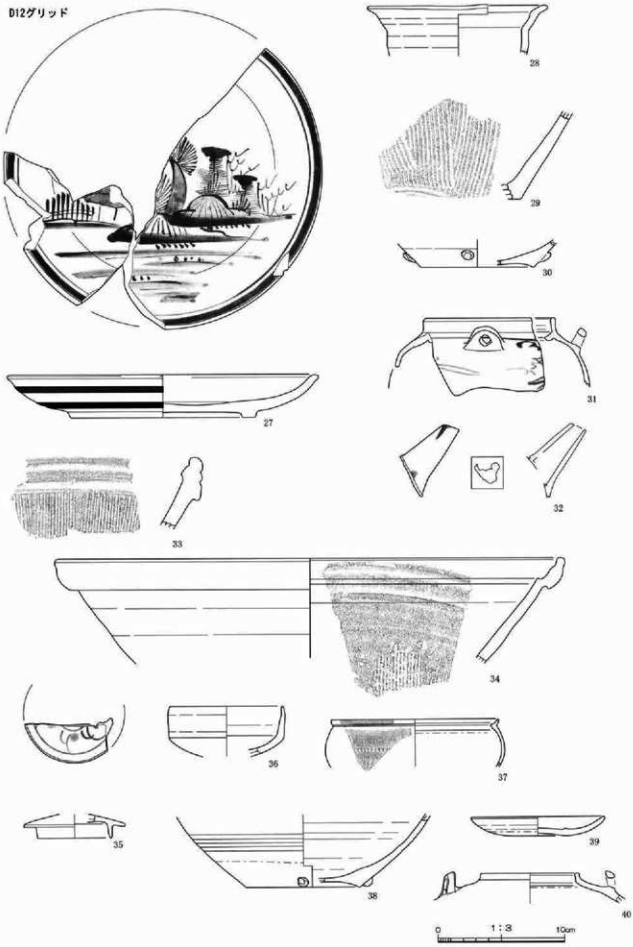


図 148　遺構外出土遺物（7）

D12グリッド

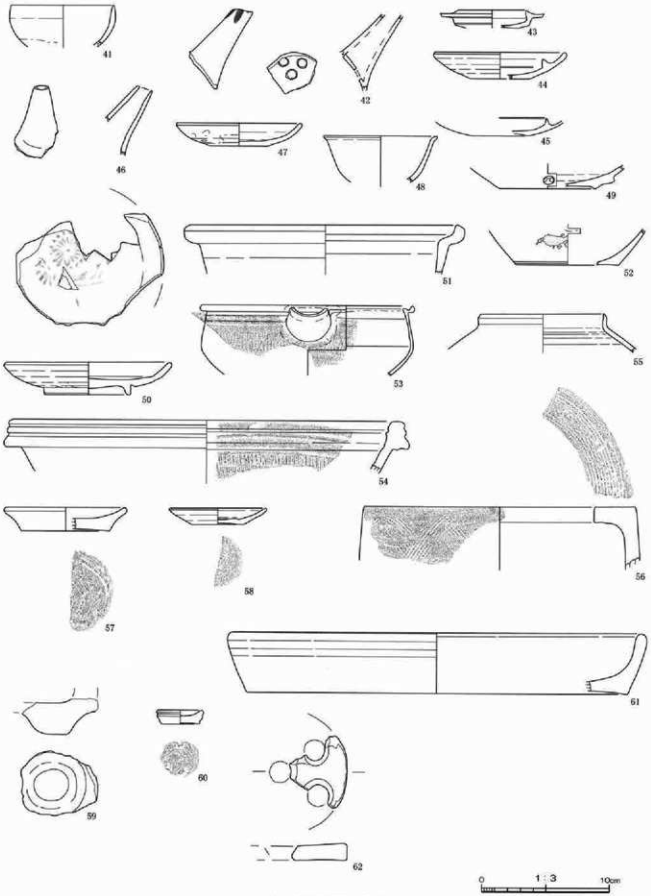


図 149　遺構外出土遺物（8）

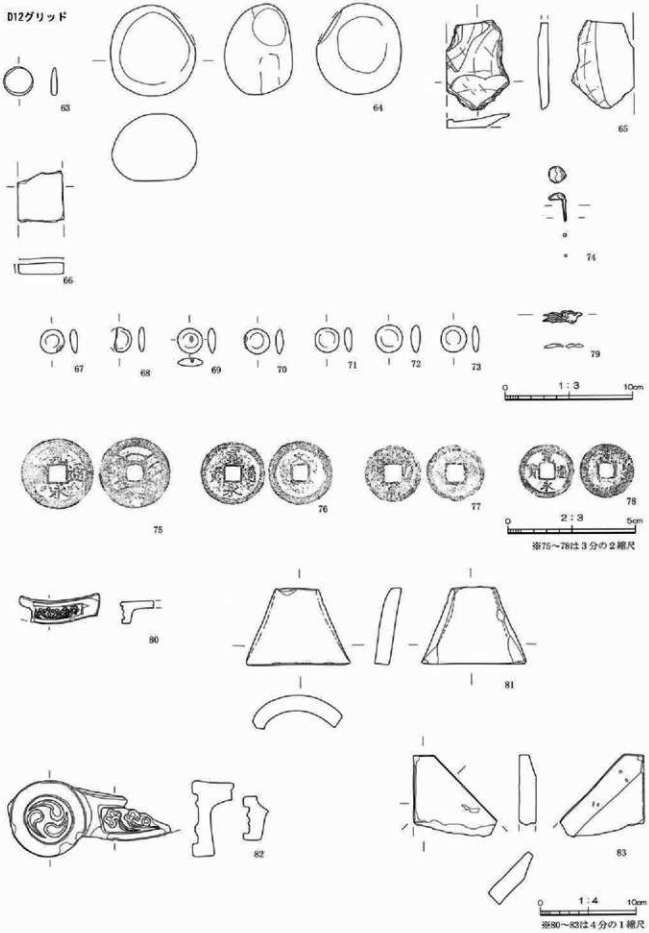
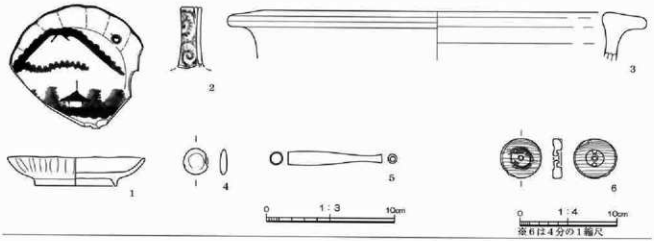
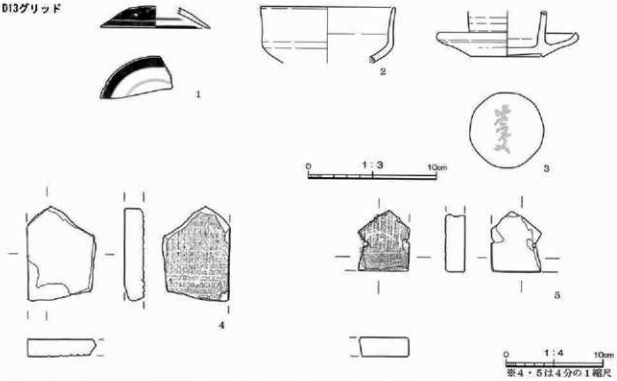


図 150　遺構外出土遺物（9）

撹乱D12グリッド



D13グリッド



E10グリッド

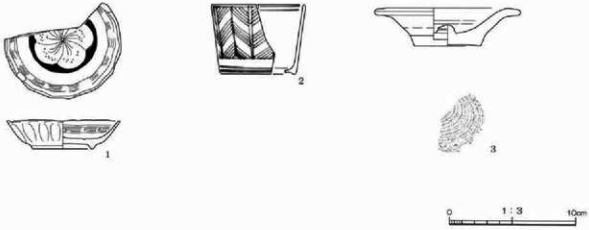


図 151　遺構外出土遺物（10）

E11グリッド

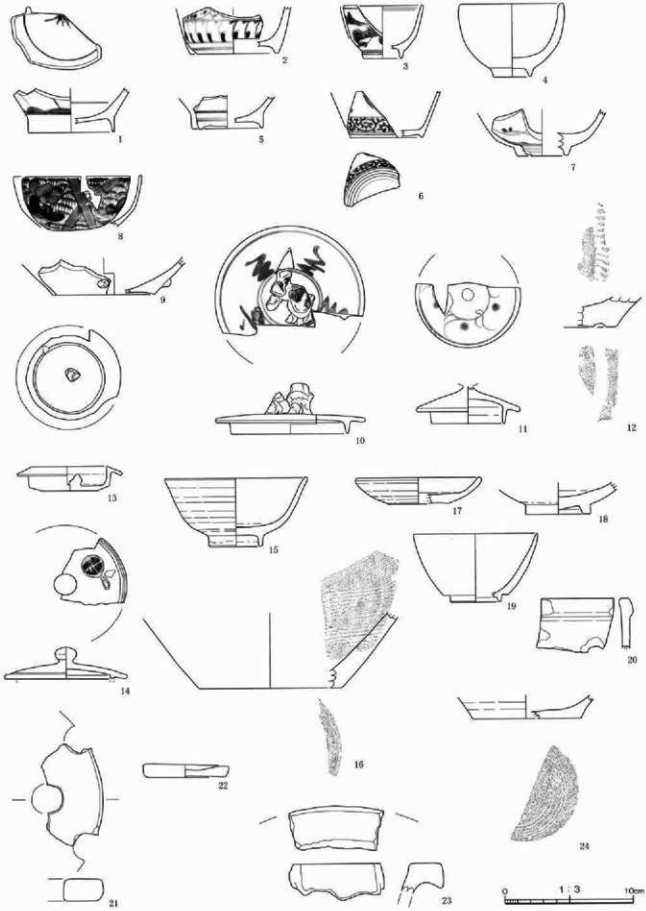


図 152　遺構外出土遺物（11）

E11グリッド

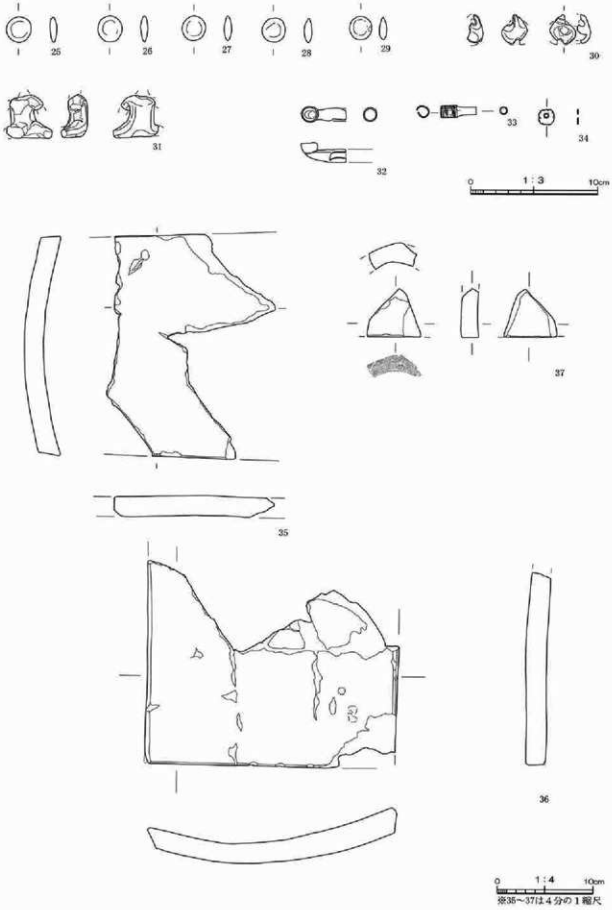


図153　遺構外出土遺物（12）

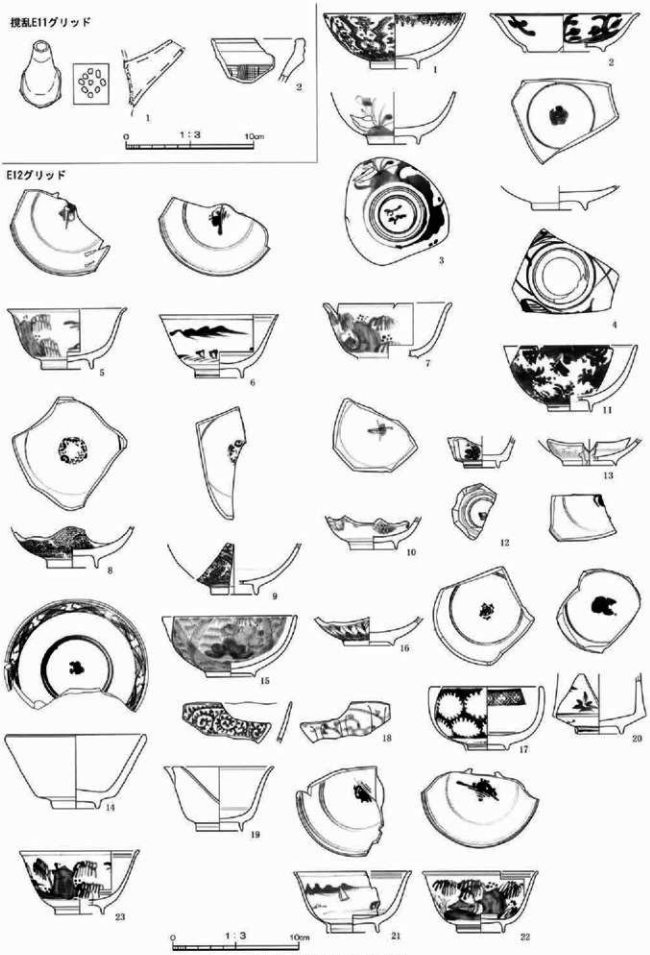


図 154　遺構外出土遺物（13）

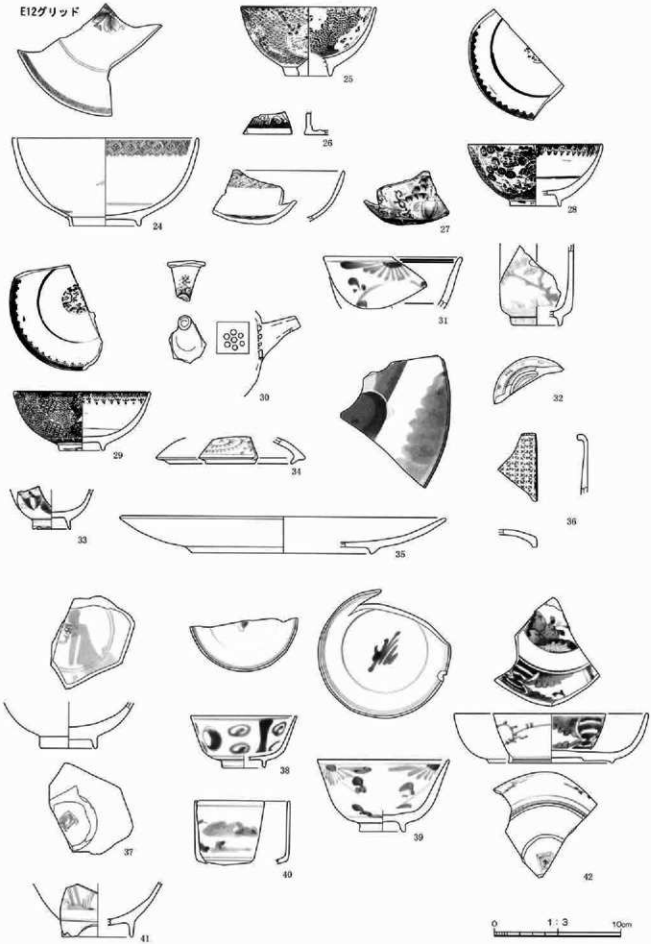


図 155　遺構外出土遺物（14）

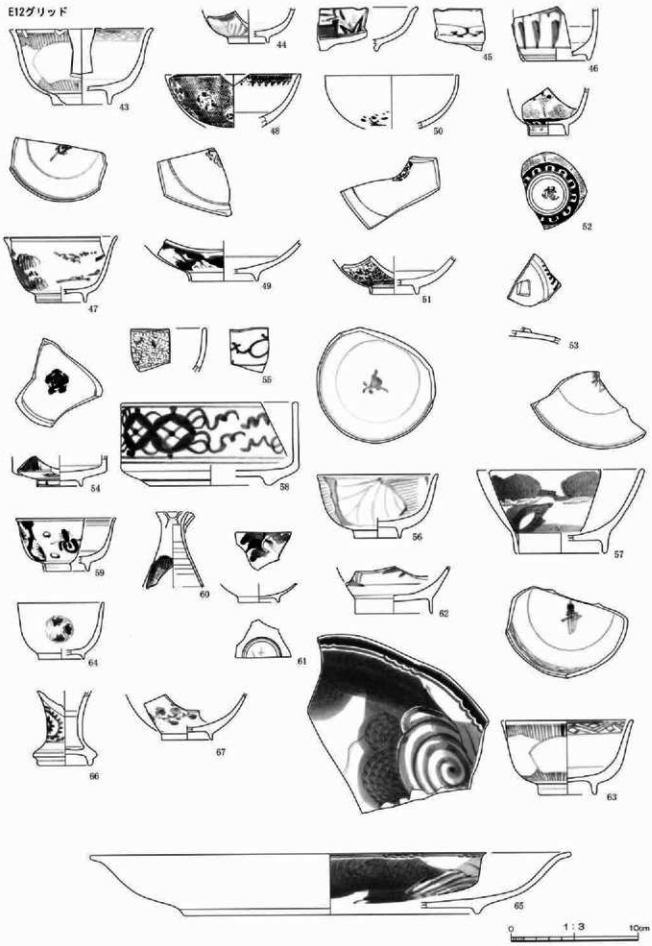


図 156　遺構外出土遺物（15）

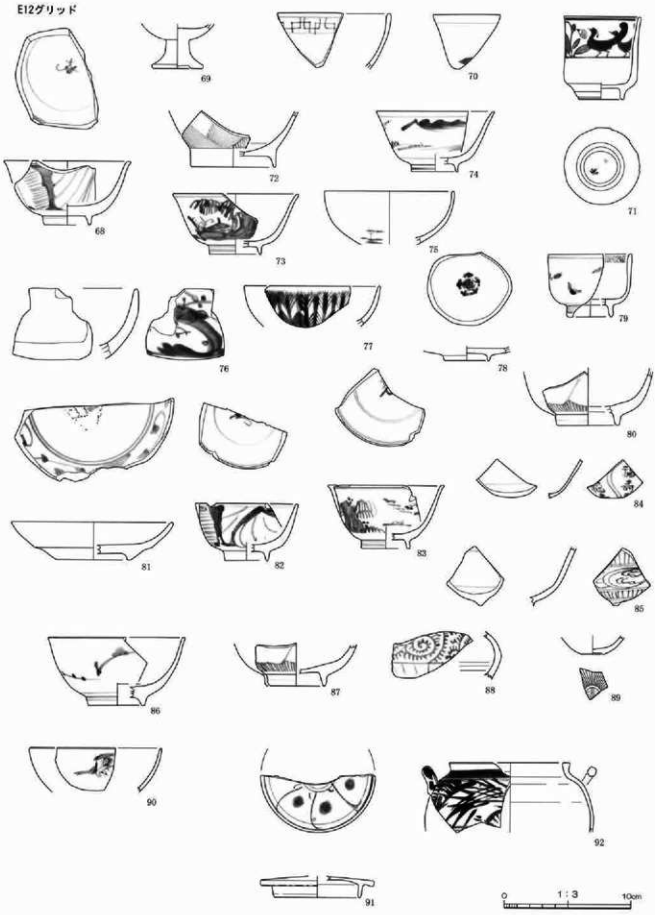


図 157　遺構外出土遺物（16）

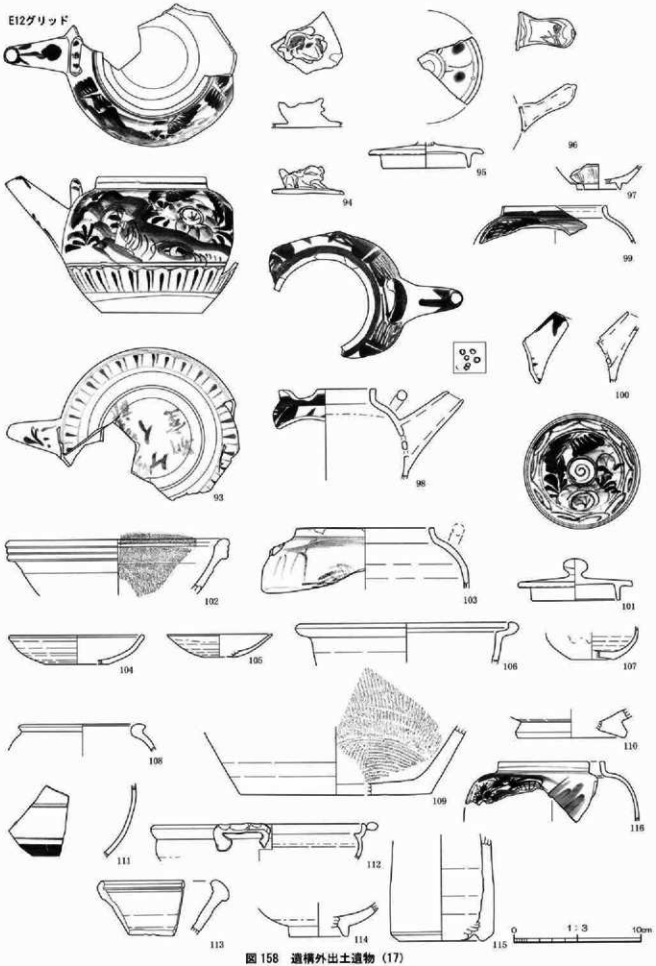


図 158　道横外出土遺物（17）

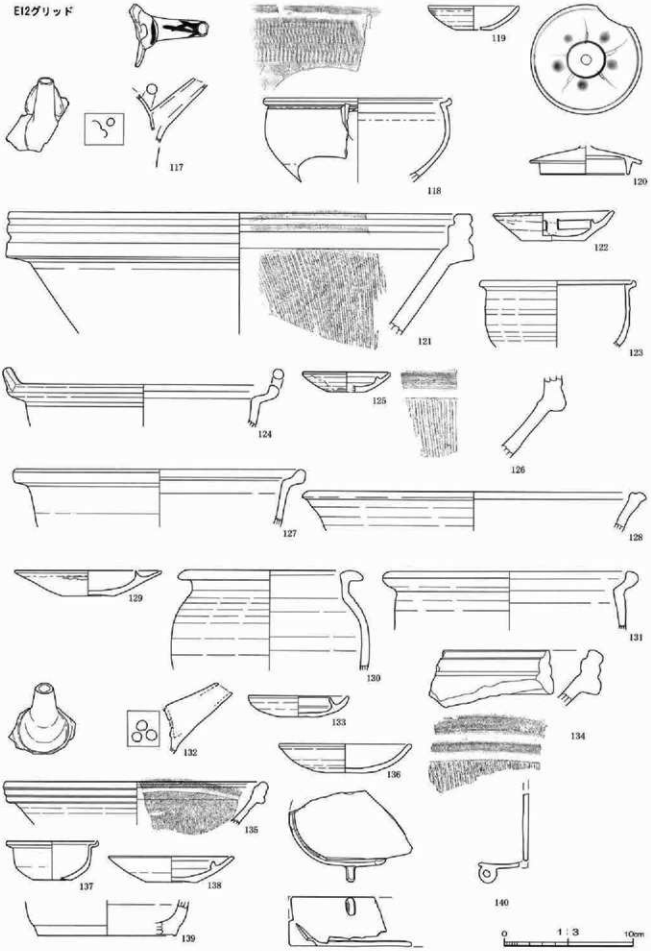


図 159　遺構外出土遺物（18）

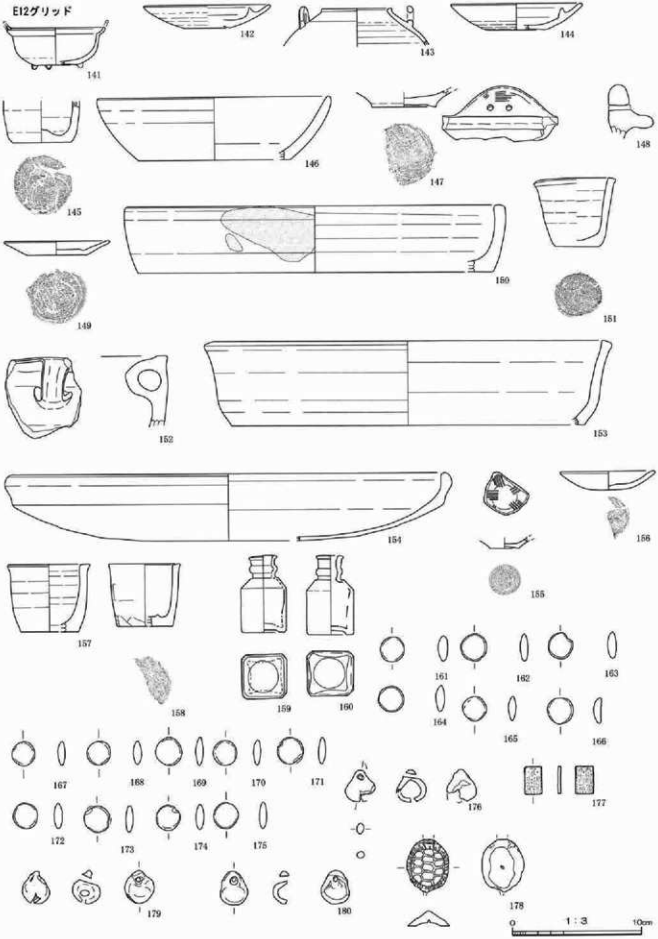


図 160　遺構外出土遺物（19）

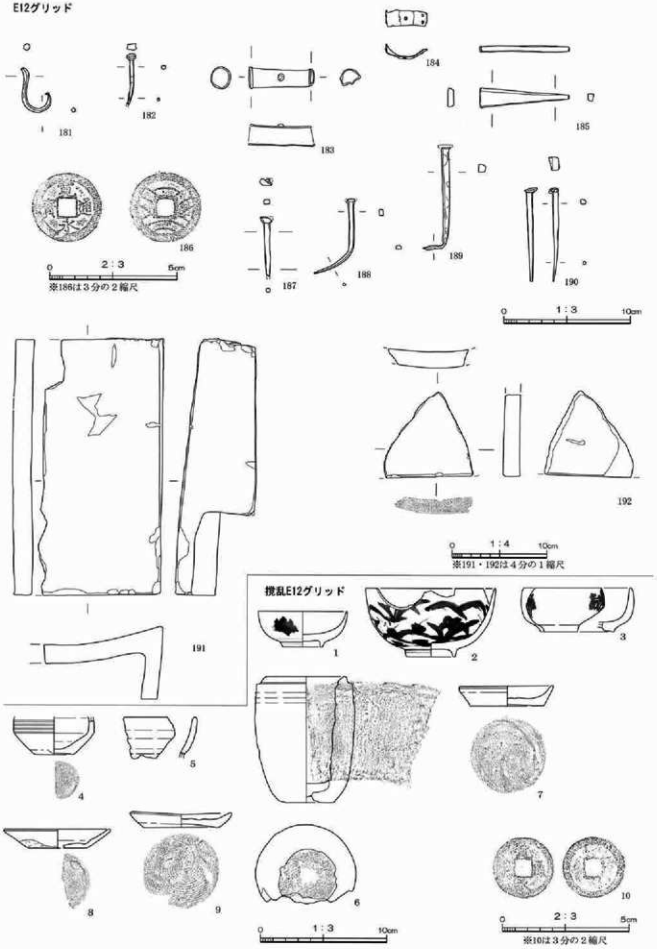


図161　遺構外出土遺物（20）

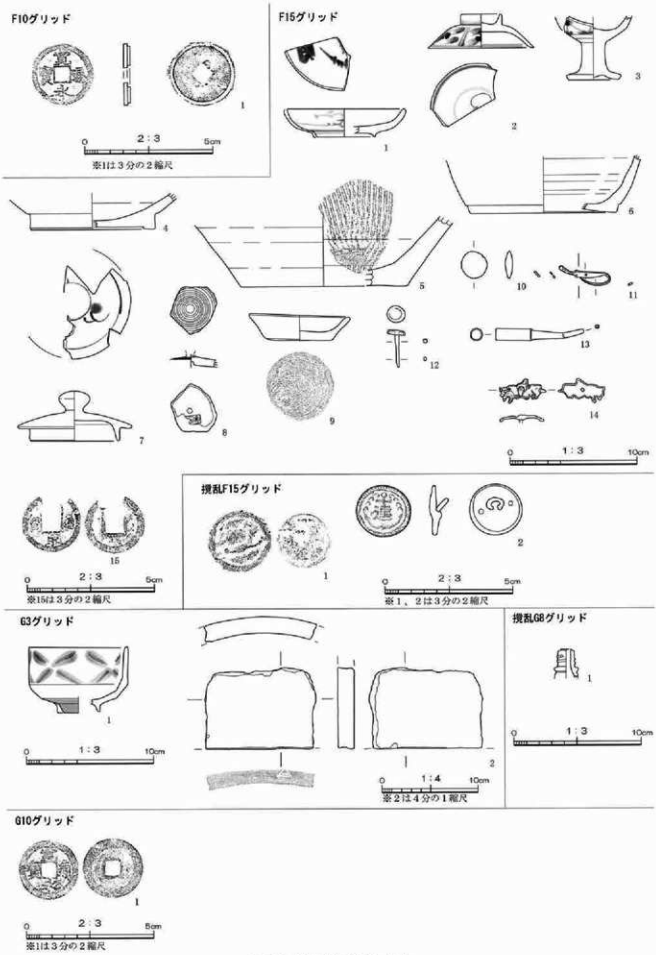


図162　道構外出土遺物（21）

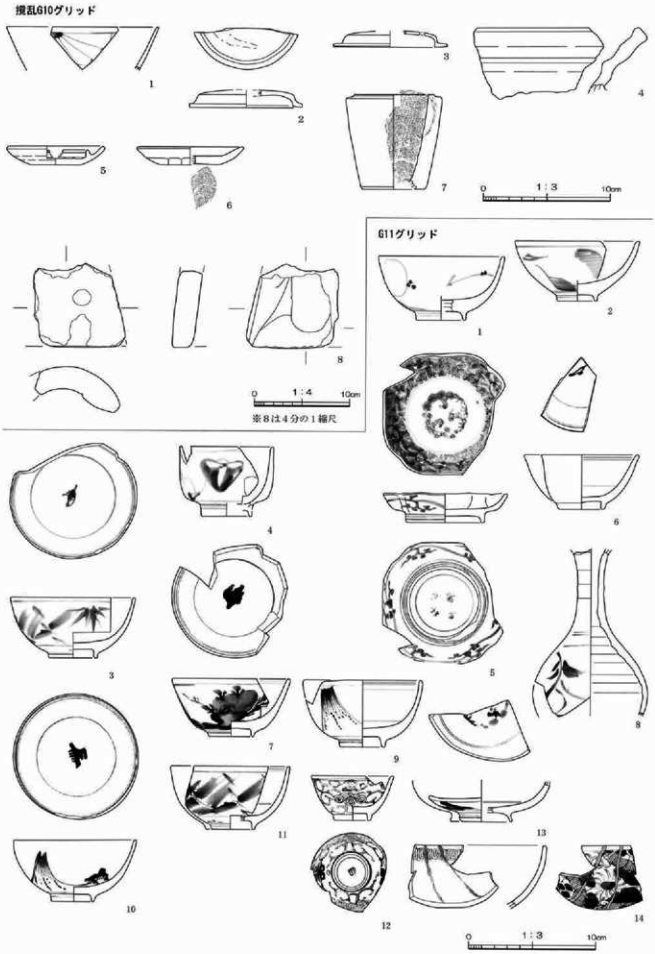


図 163　遺構外出土遺物（22）

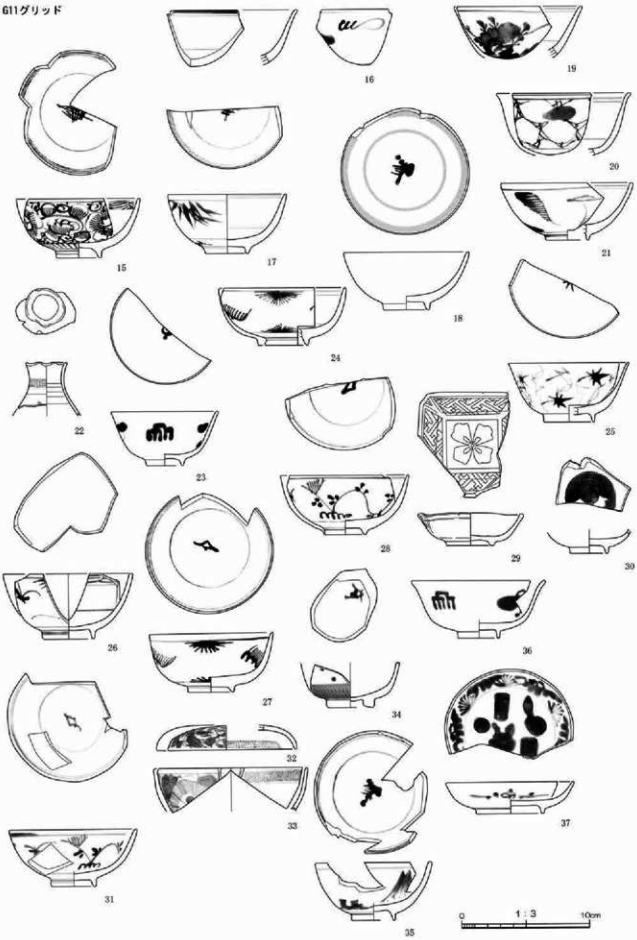


図 164　遺構外出土遺物（23）

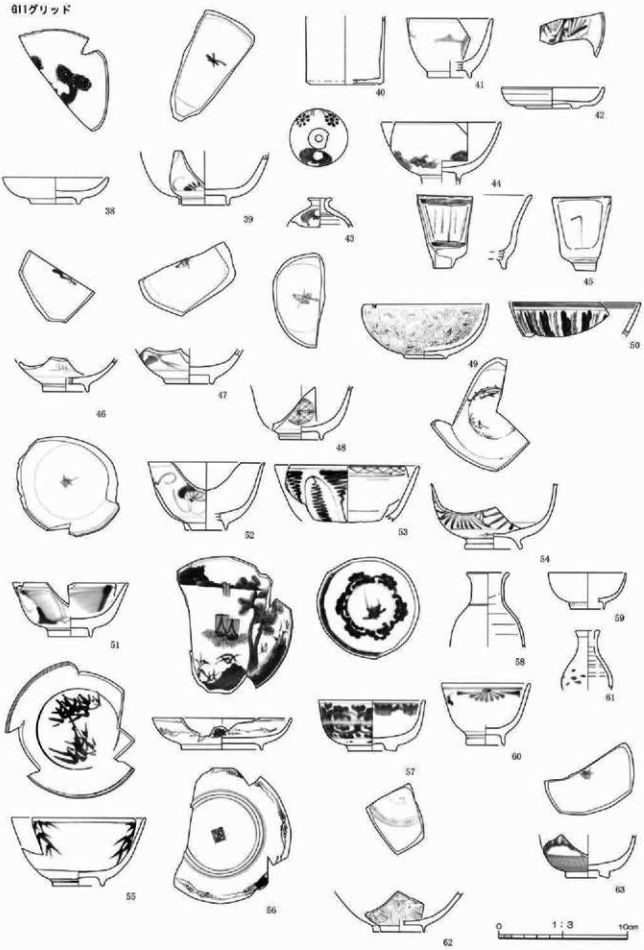


図 165　遺構外出土遺物（24）

G11グリッド

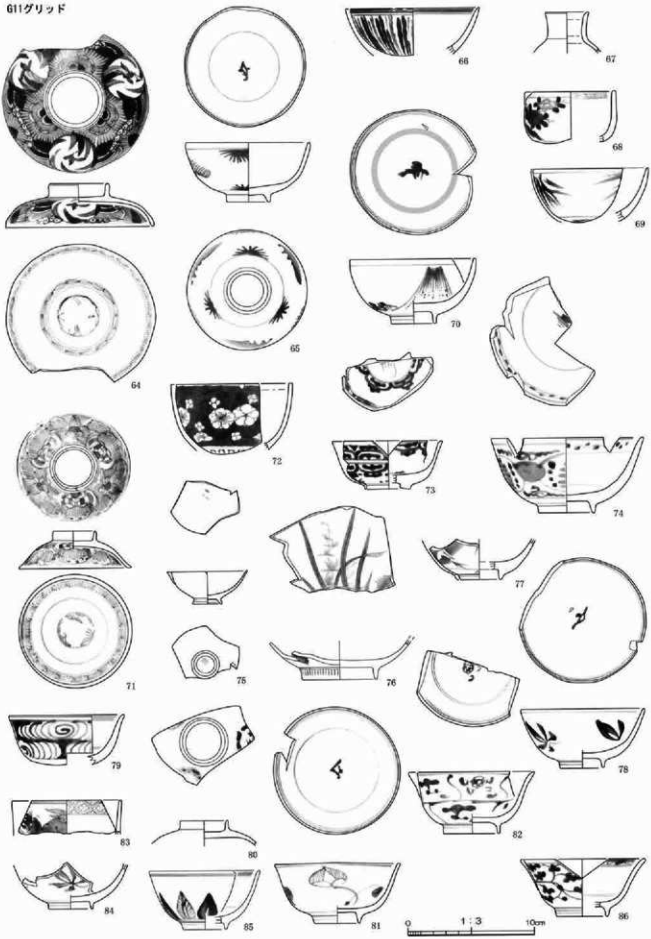


図 166　遺構外出土遺物（25）

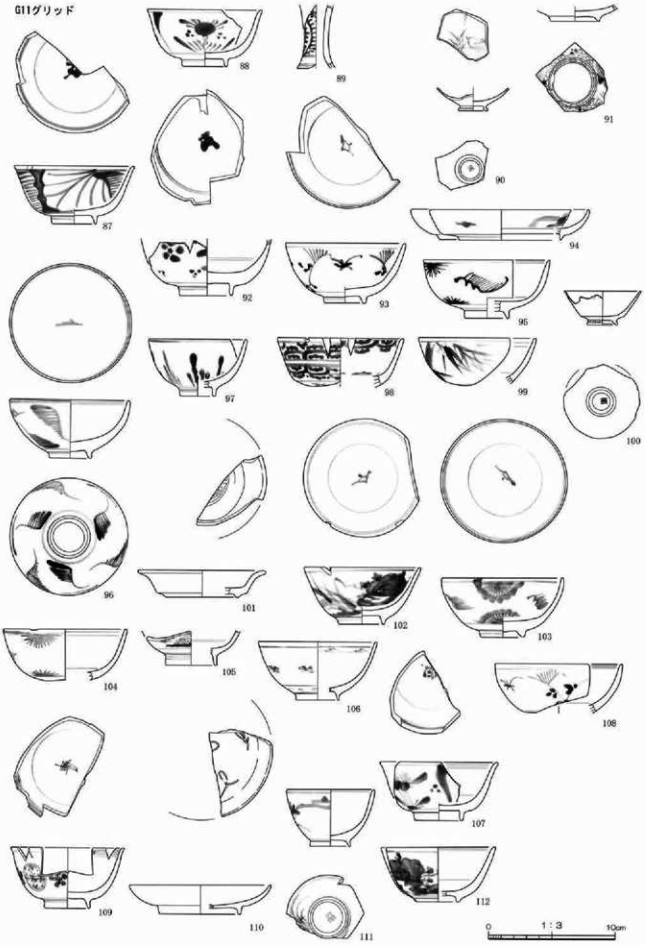


図 167　遺構外出土遺物（26）

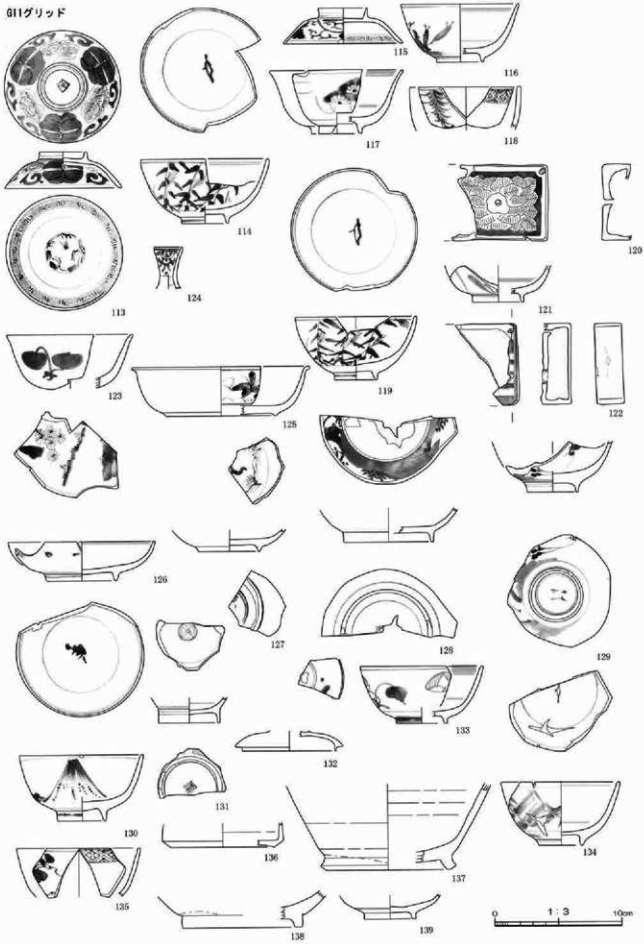


図 168　遺構外出土遺物（27）

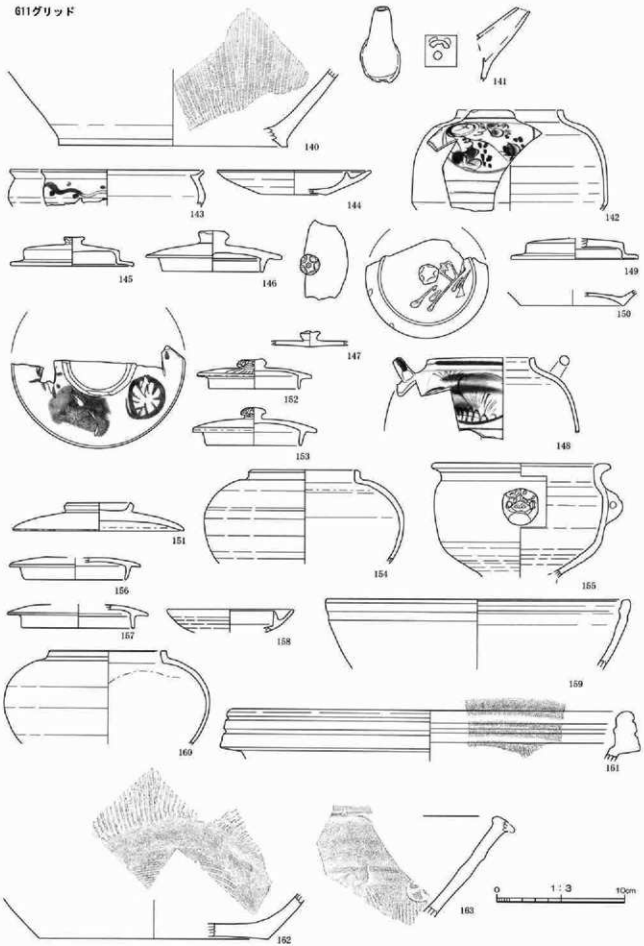


図 169　遺構外出土遺物（28）

G11グリッド

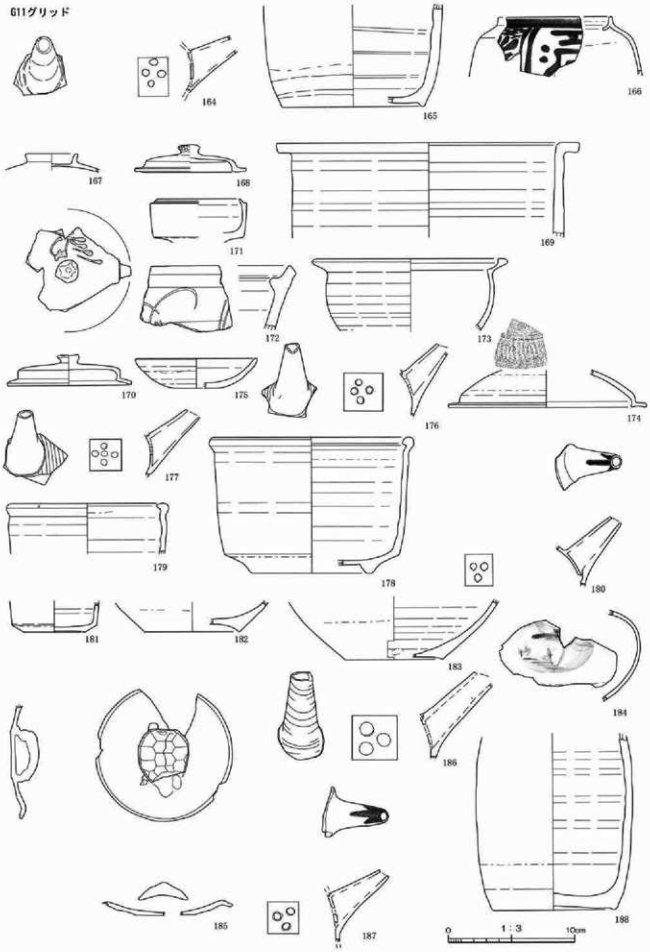


図 170　遺構外出土遺物（29）

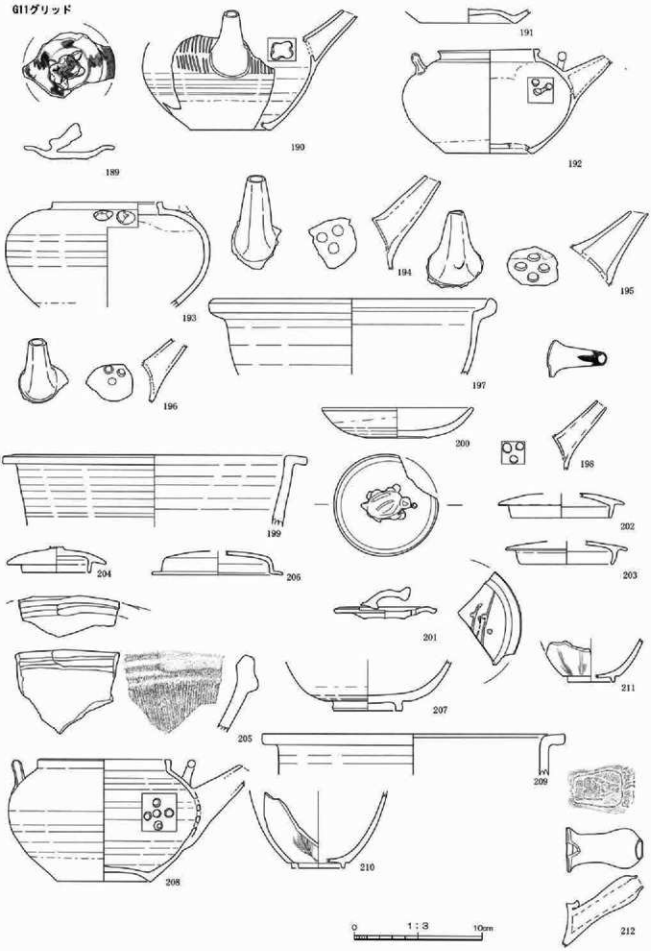


図 171　遺構外出土遺物（30）

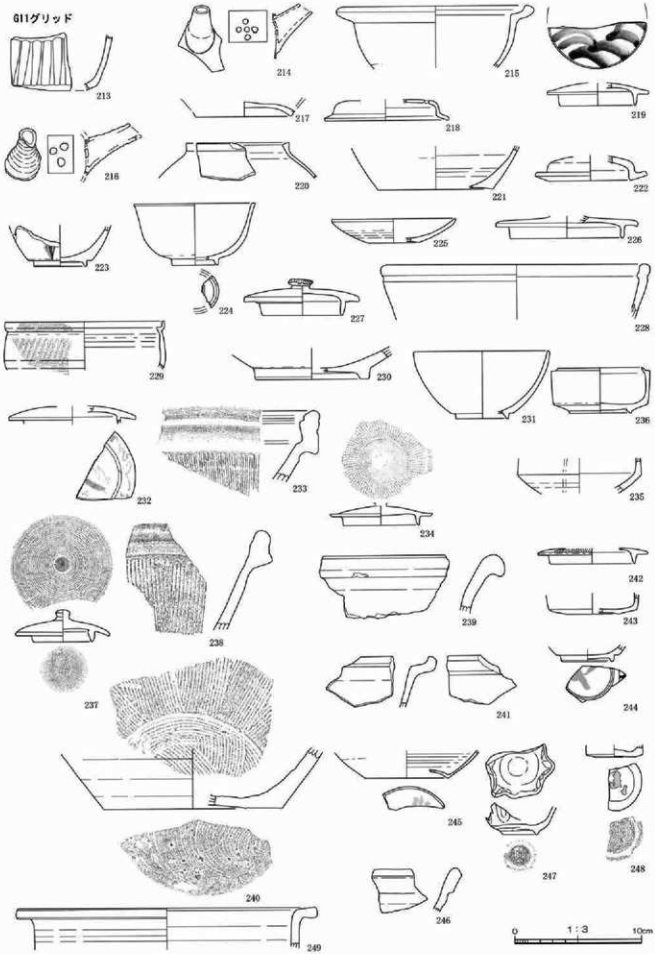


図 172　遺構外出土遺物（31）

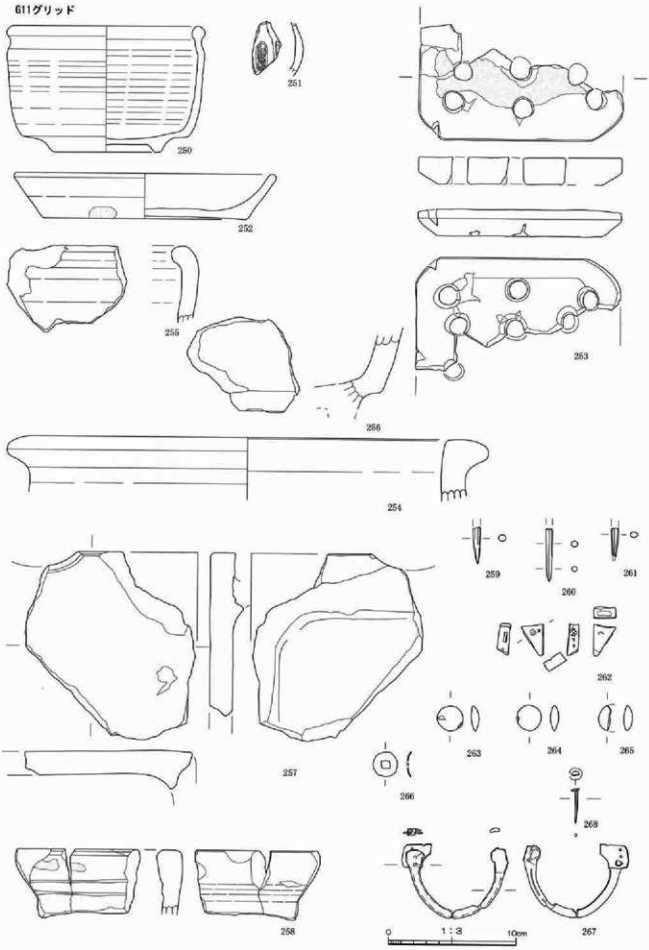


図 173　遺構外出土遺物（32）

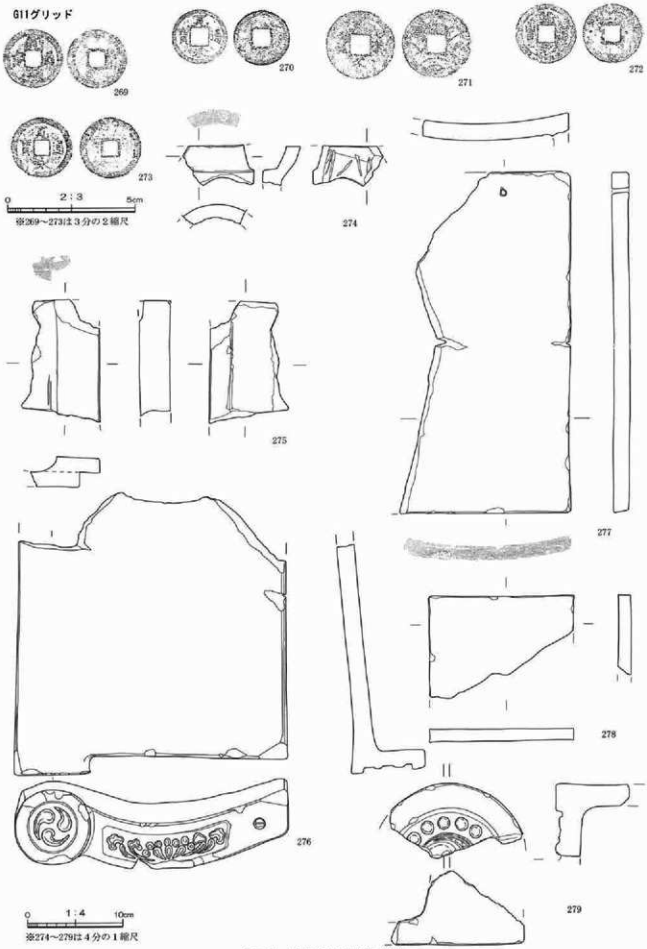


図174 遺構外出土遺物 (33)

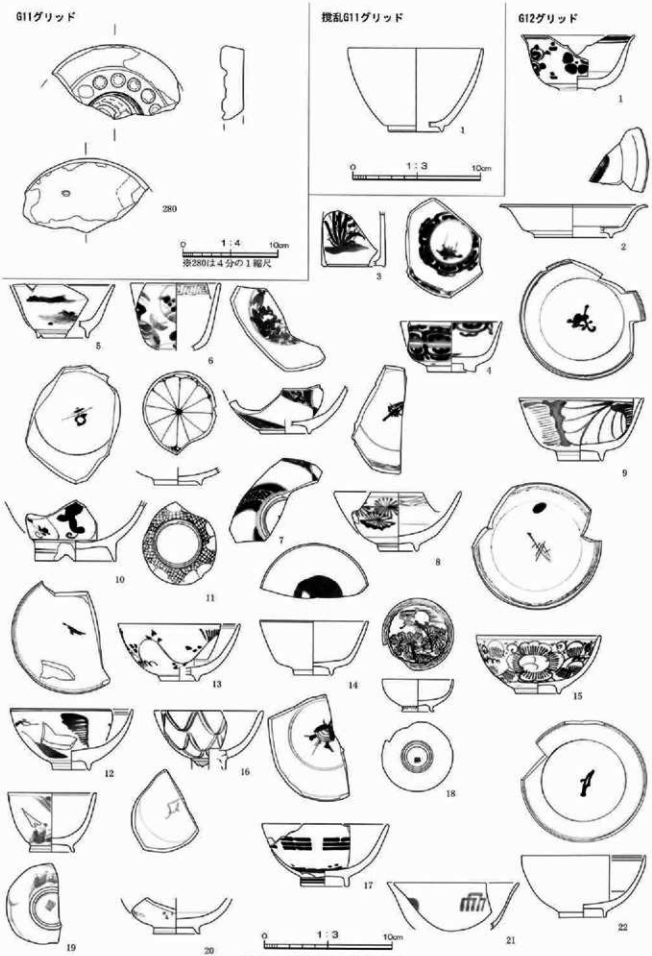


図175 遺構外出土遺物（34）

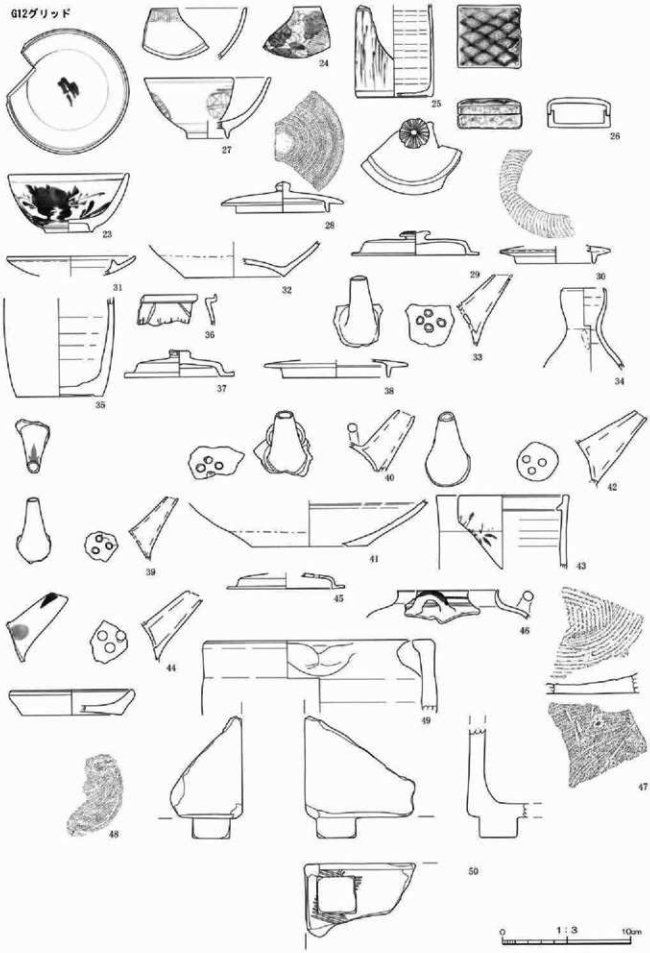


図 176　遺構外出土遺物 (35)

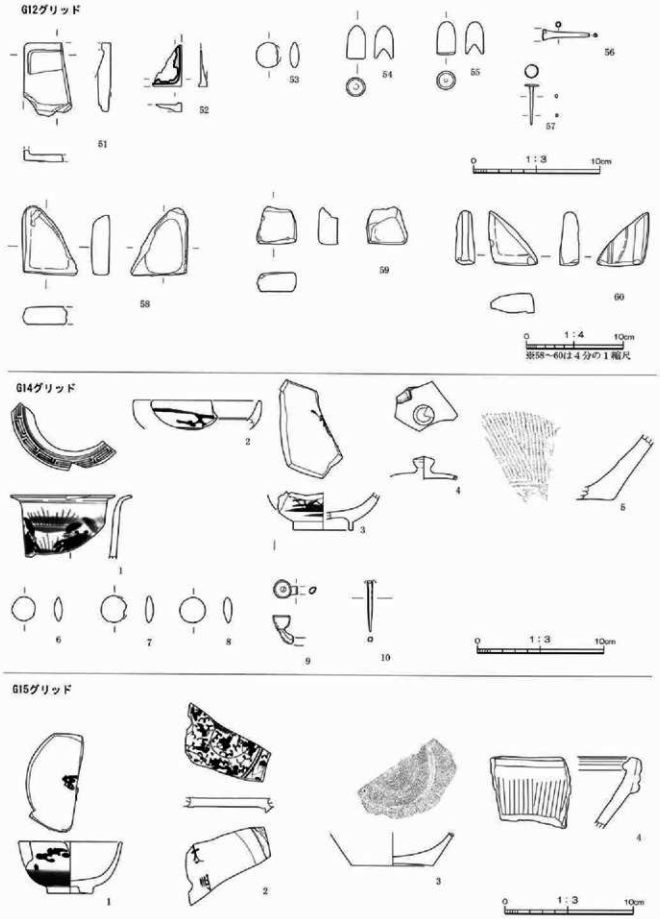


図177 遺構外出土遺物 (36)

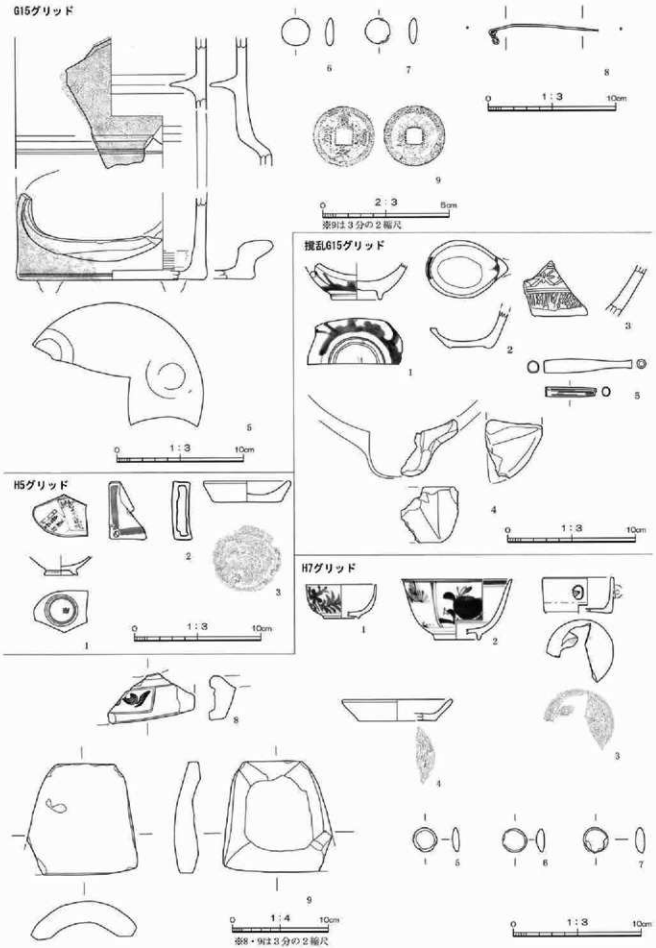


図 178　遺構外出土遺物（37）

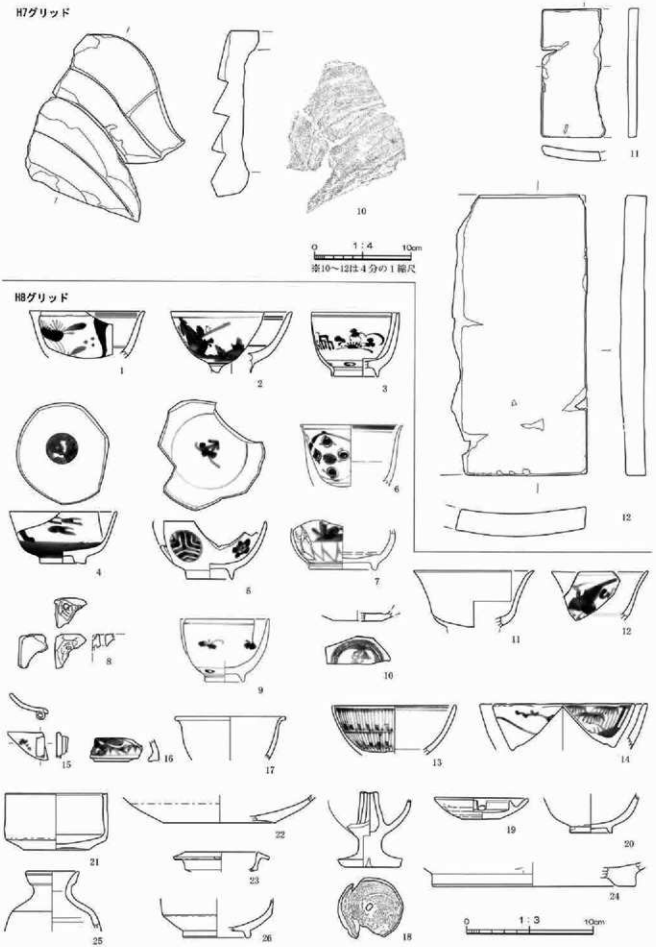


図 179　遺構外出土遺物（38）

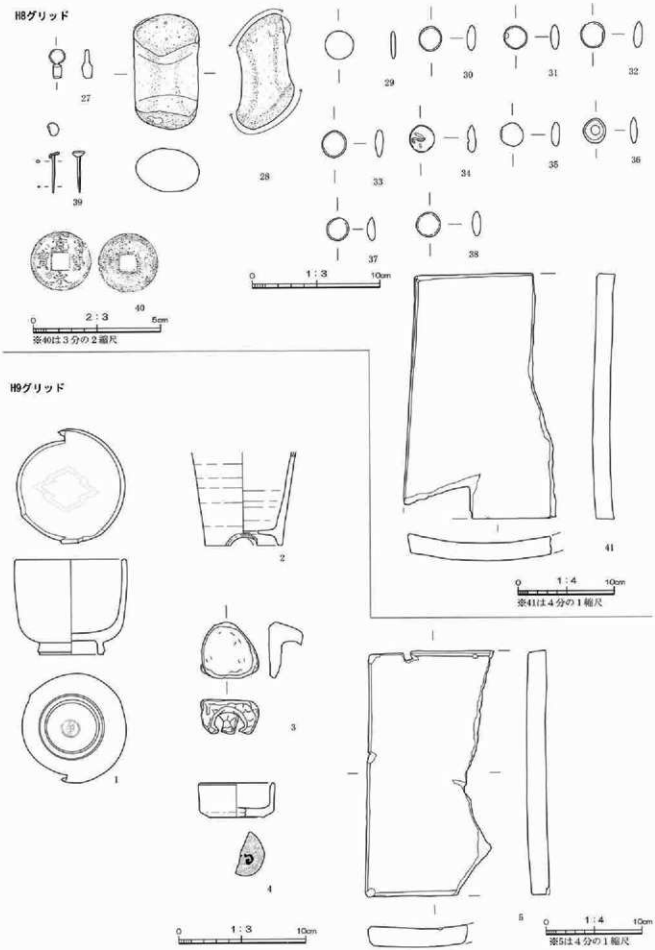
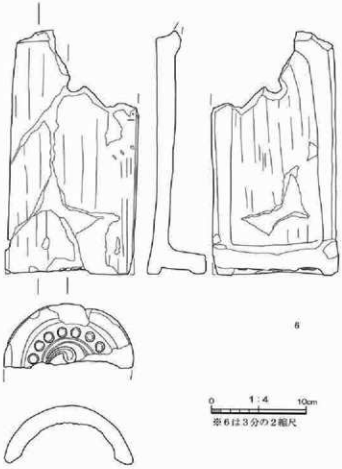
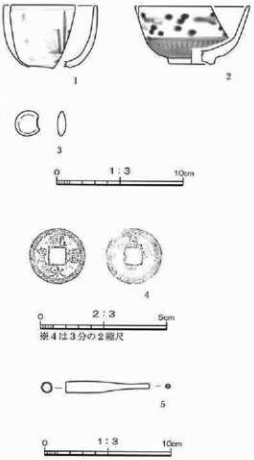


図180　遺構外出土遺物（39）

H9グリッド



H10グリッド



撹乱H10グリッド

図 181　遺構外出土遺物（40）

H11グリッド

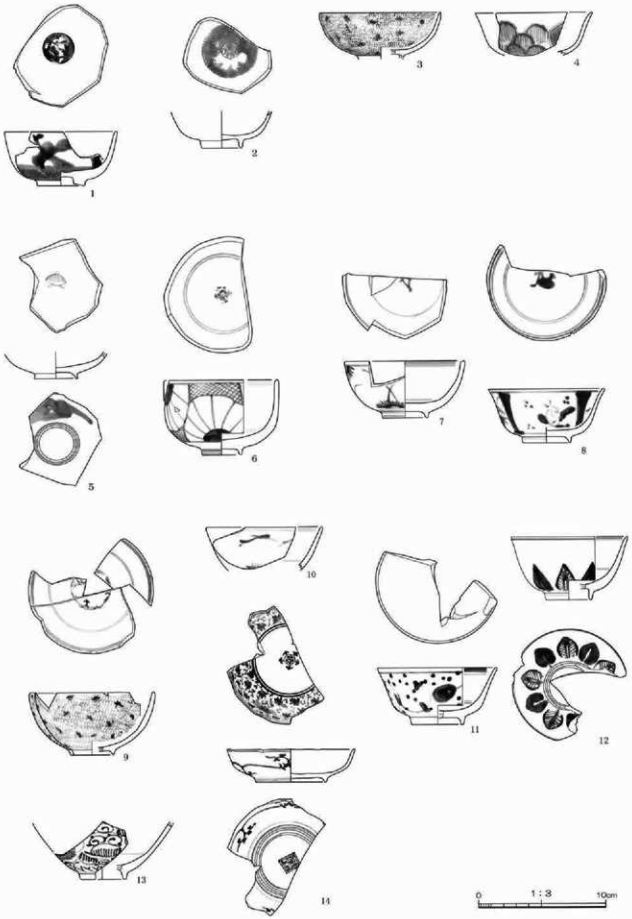


図182　遺構外出土遺物（41）

H11グリッド

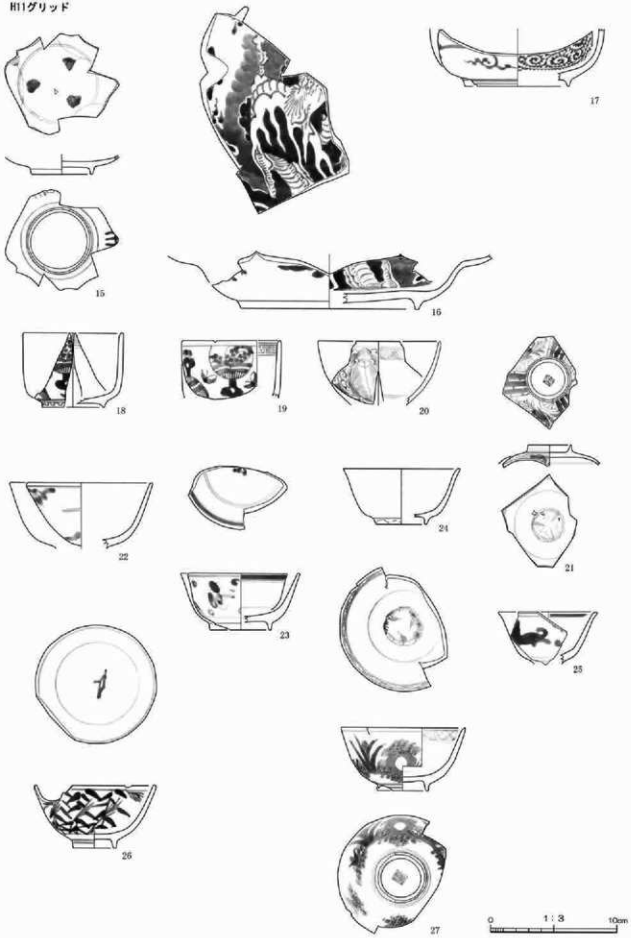


図 183　遺構外出土遺物（42）

H11グリッド

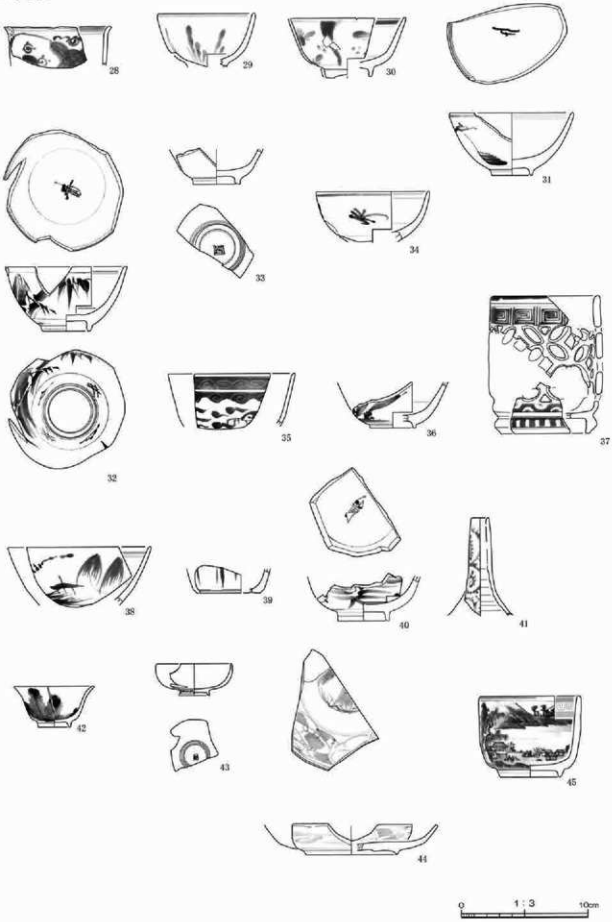


図 184　遺構外出土遺物（43）

H11グリッド

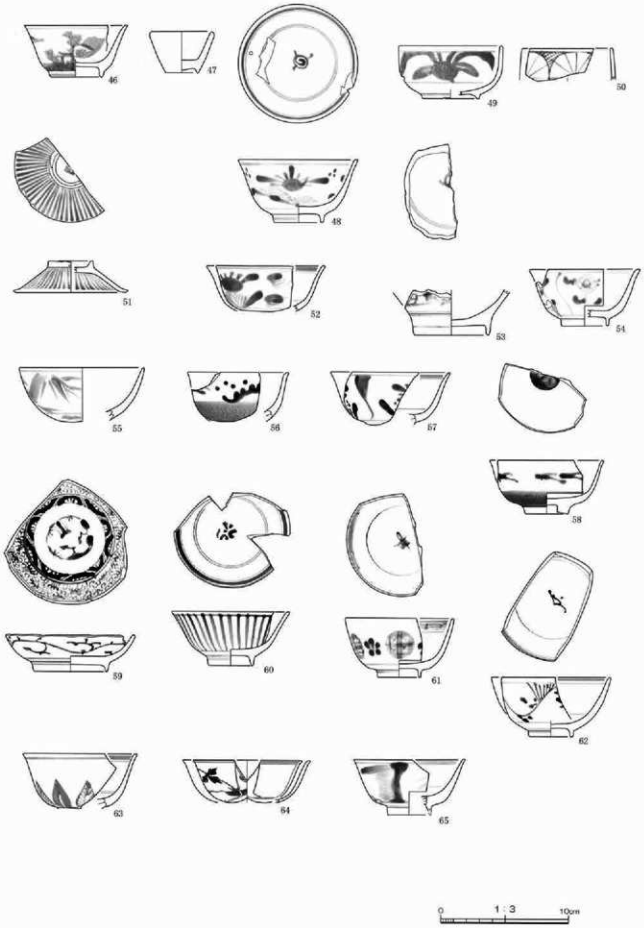


図 185　遺構外出土遺物（44）

H11グリッド

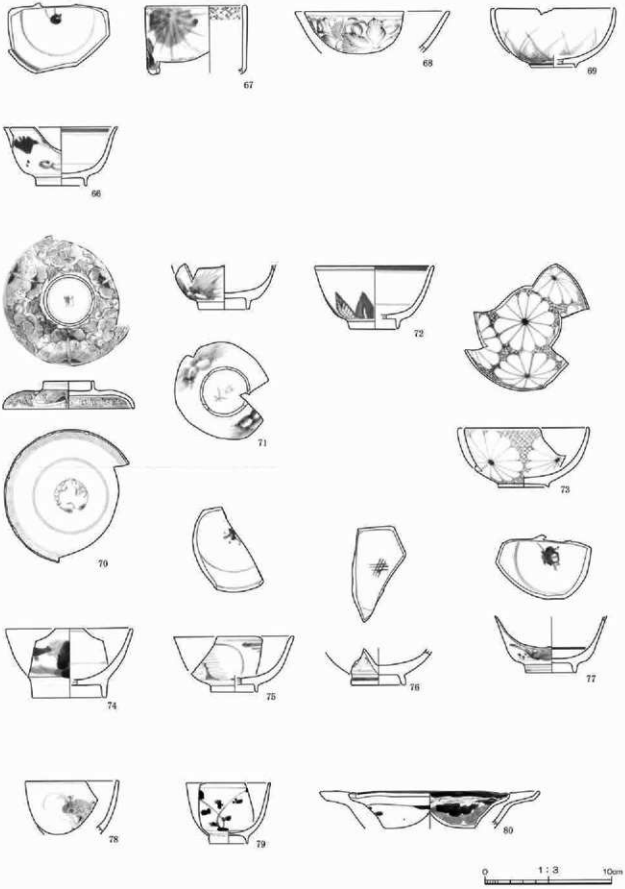


図 186　遺構外出土遺物（45）

H11グリッド

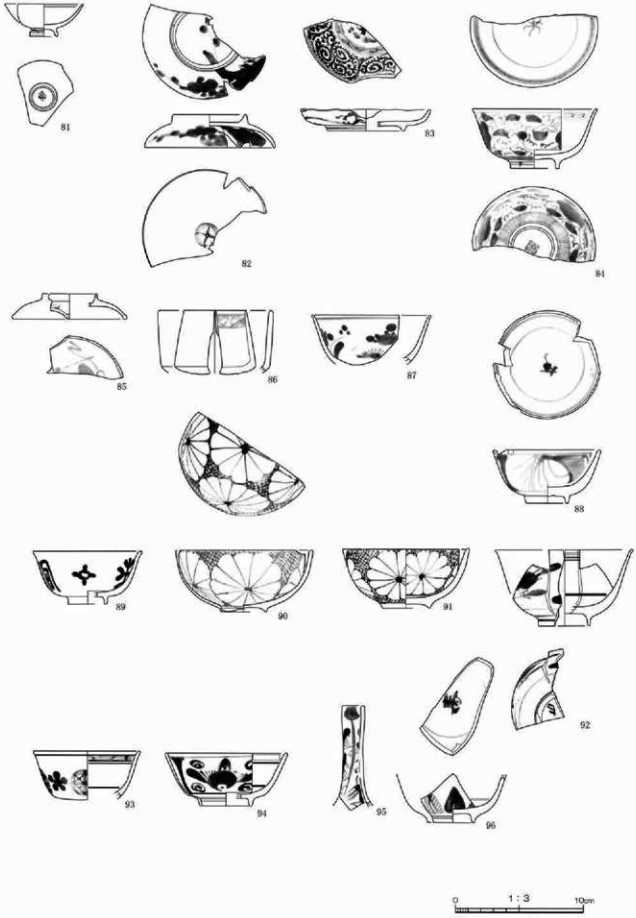


図187　遺構外出土遺物（46）

H11グリッド

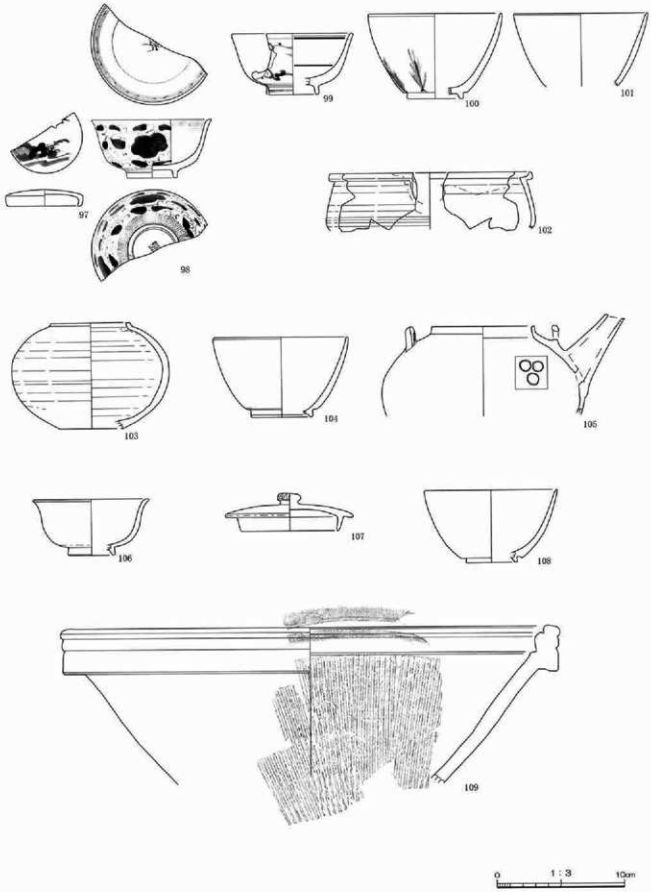


図 188　遺構外出土遺物（47）

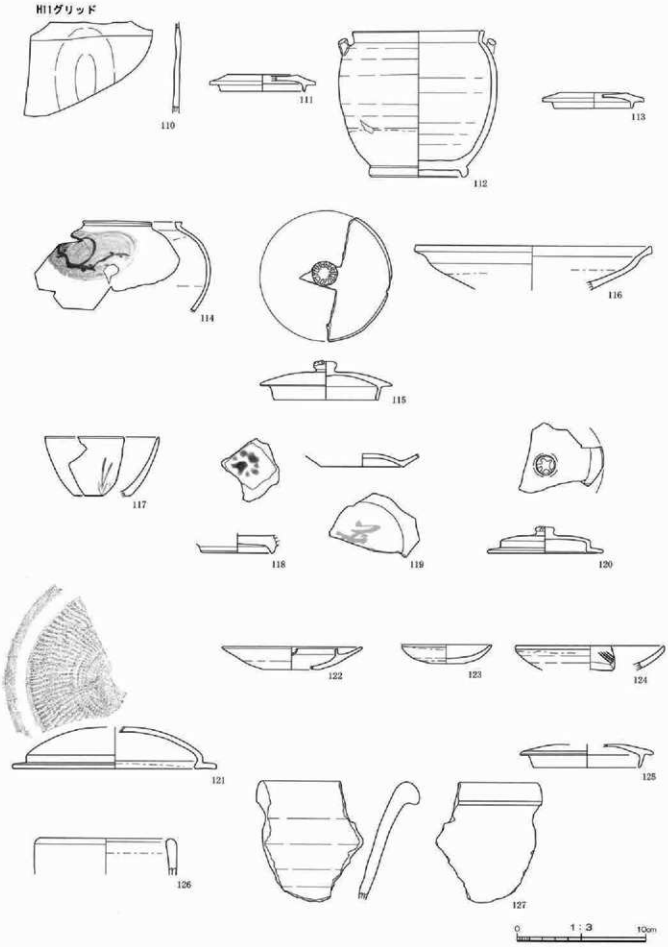


図189　遺構外出土遺物（48）

H11グリッド

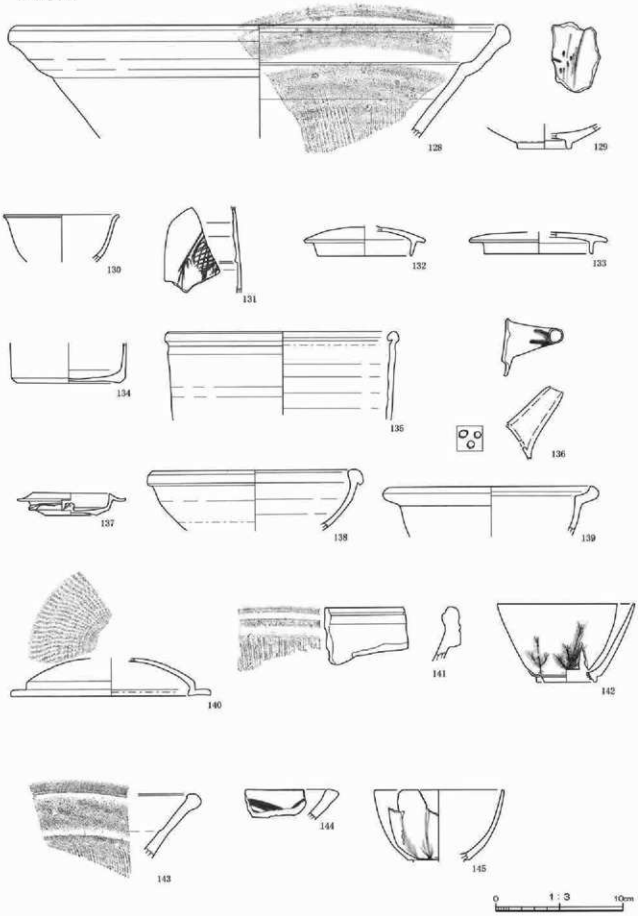


図 190　遺構外出土遺物（49）

H11グリッド

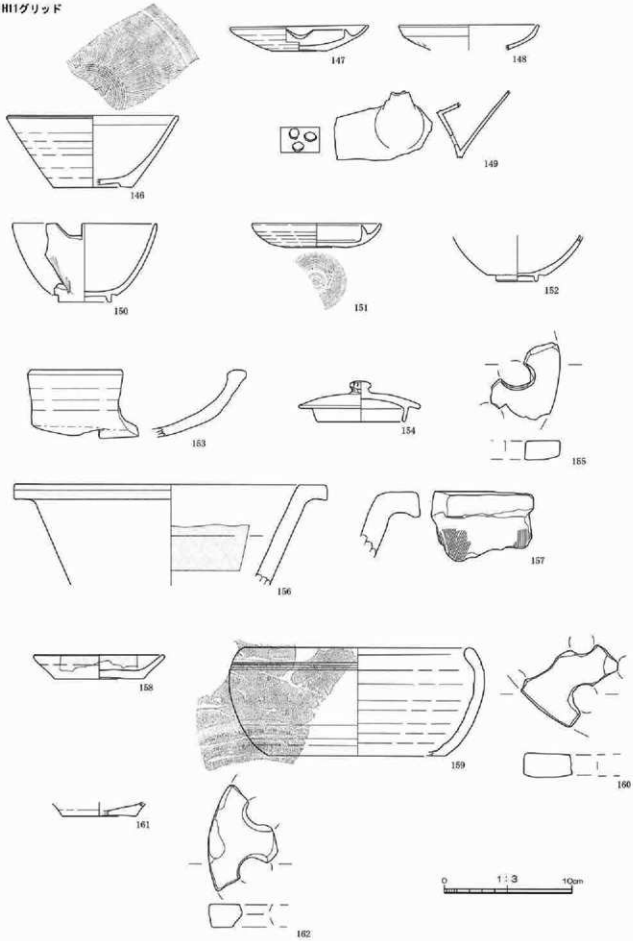


図 191　遺構外出土遺物（50）

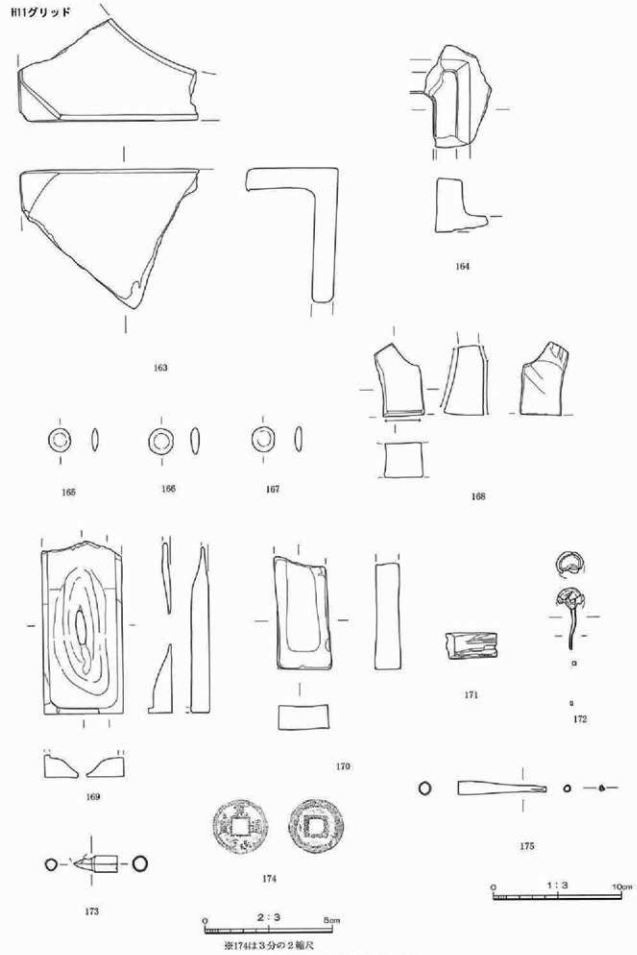


図 192　遺構外出土遺物（51）

H1グリッド

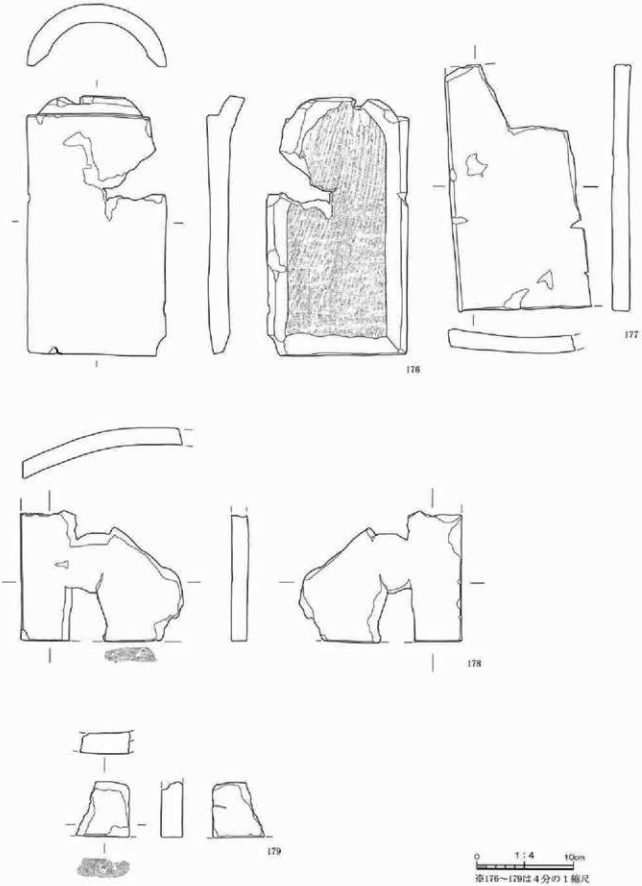


図193　遺構外出土遺物（52）

撹乱H11グリッド

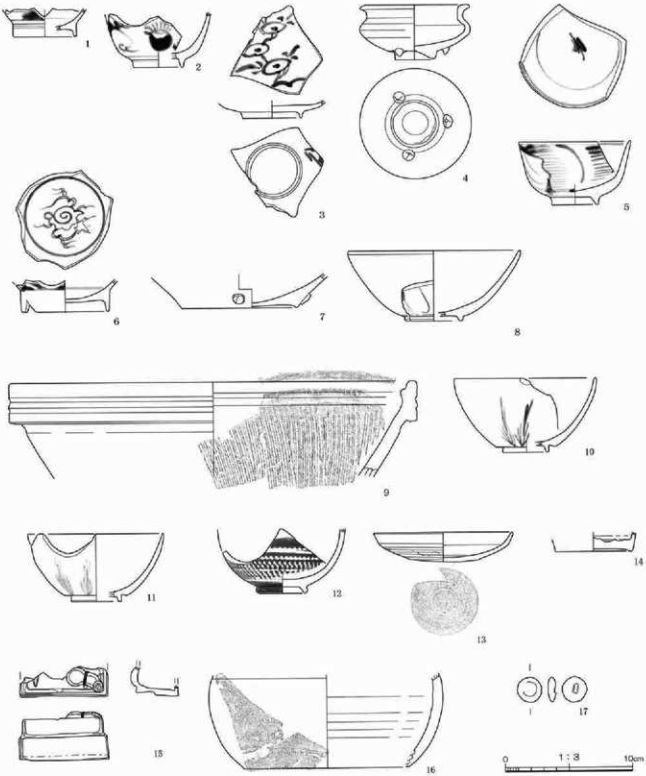


図 194　遺構外出土遺物（53）

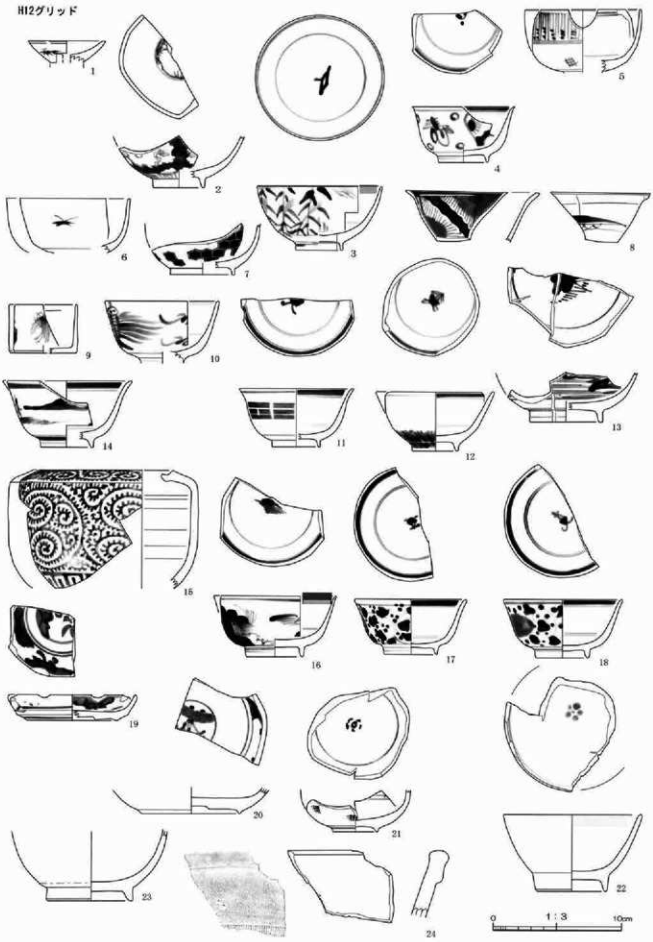


図 195　遺構外出土遺物（54）

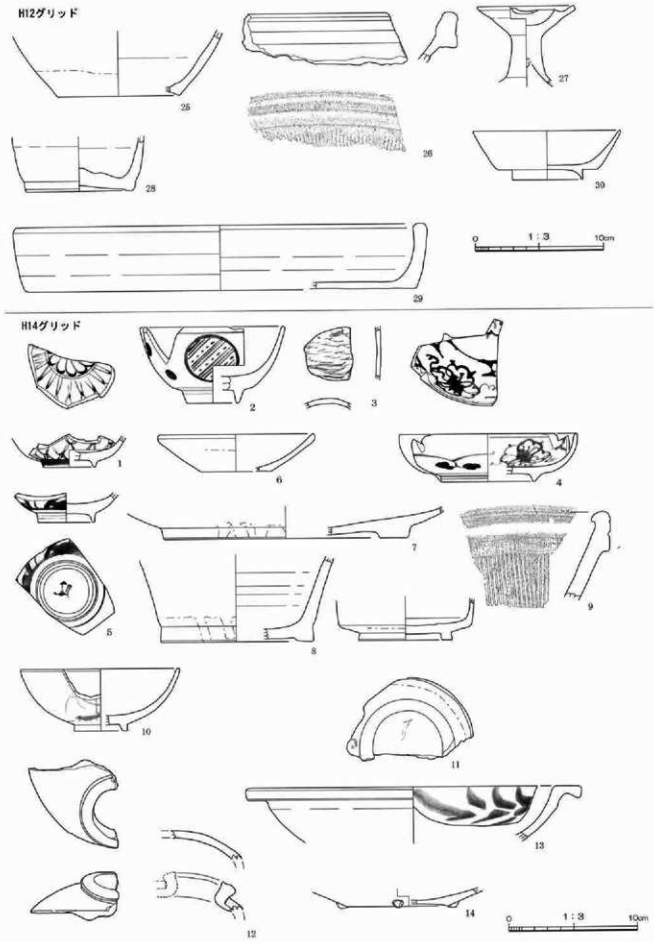


図196 遺構外出土遺物 (55)

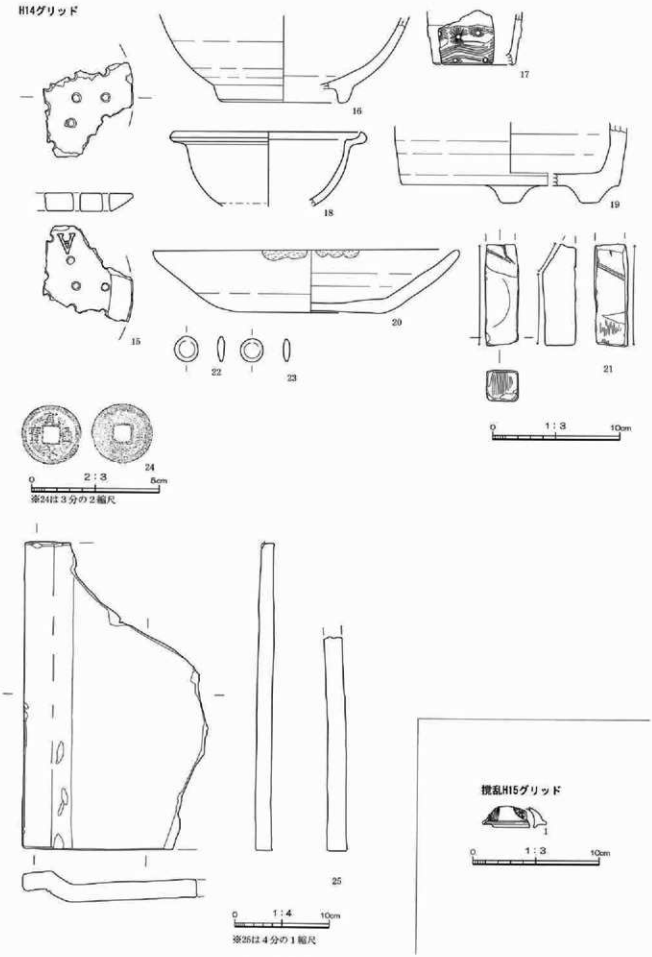


図 197　遺構外出土遺物（56）

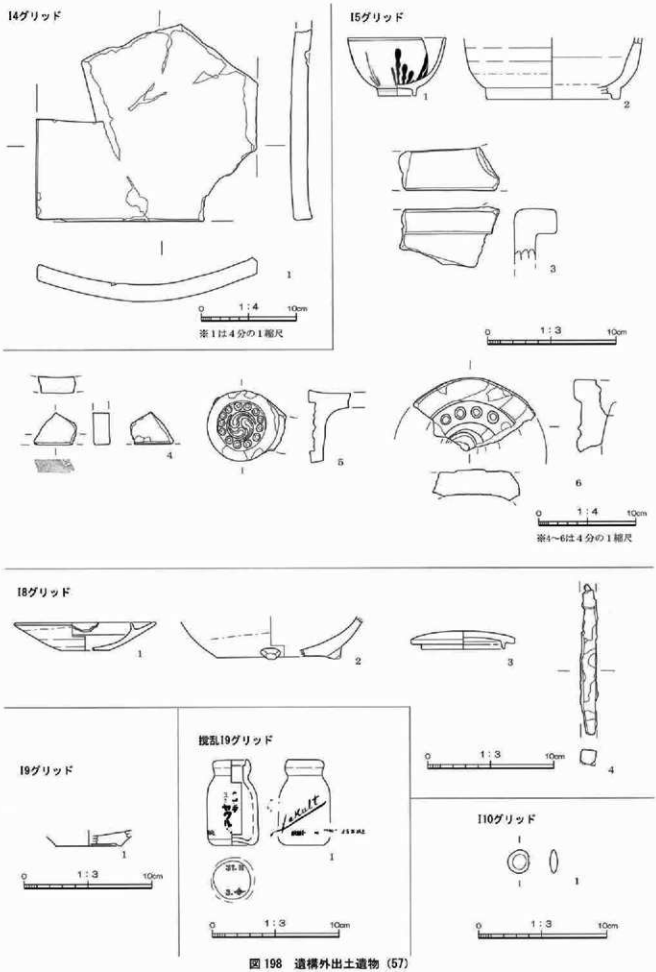
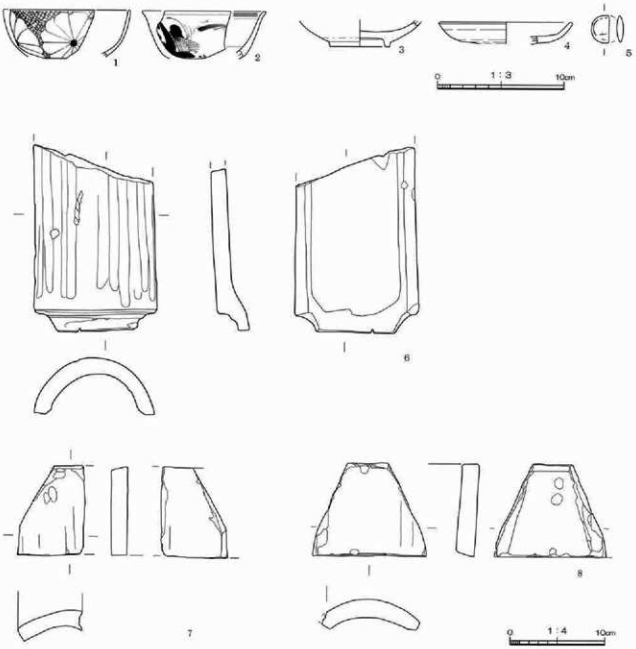


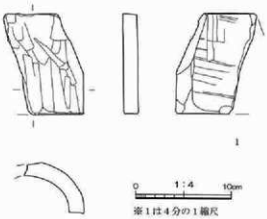
図 198　遺構外出土遺物（57）

I11グリッド



※6～8は4分の1縮尺

撹乱I11グリッド



※1は4分の1縮尺

撹乱I12グリッド

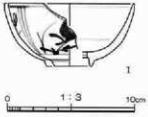


図 199　遺構外出土遺物（58）

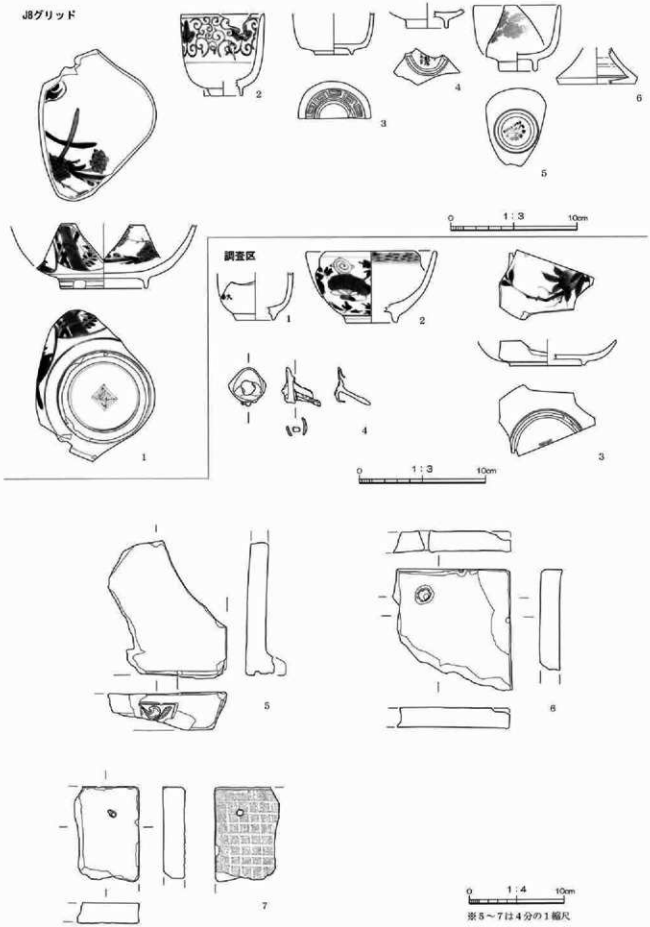


図 200　遺構外出土遺物（59）

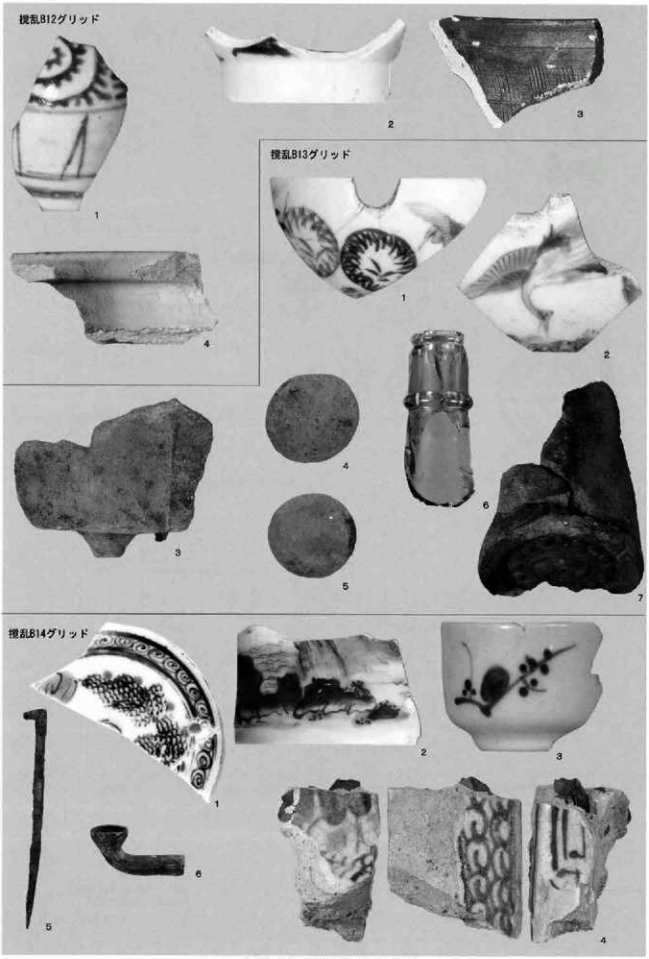


写真 157　遺構外出土遺物（1）

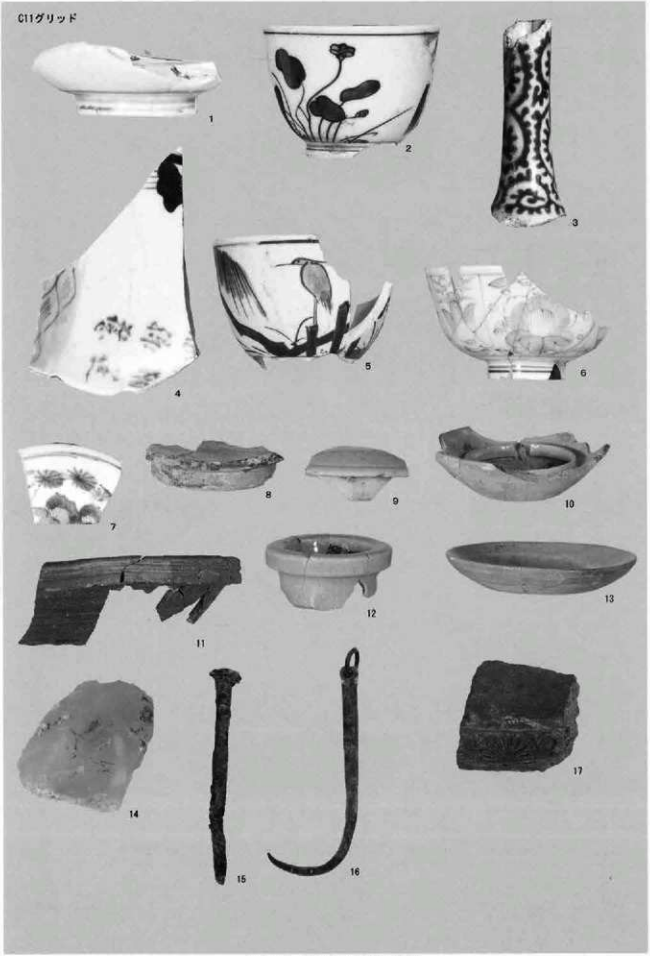


写真 158　遺構外出土遺物（2）

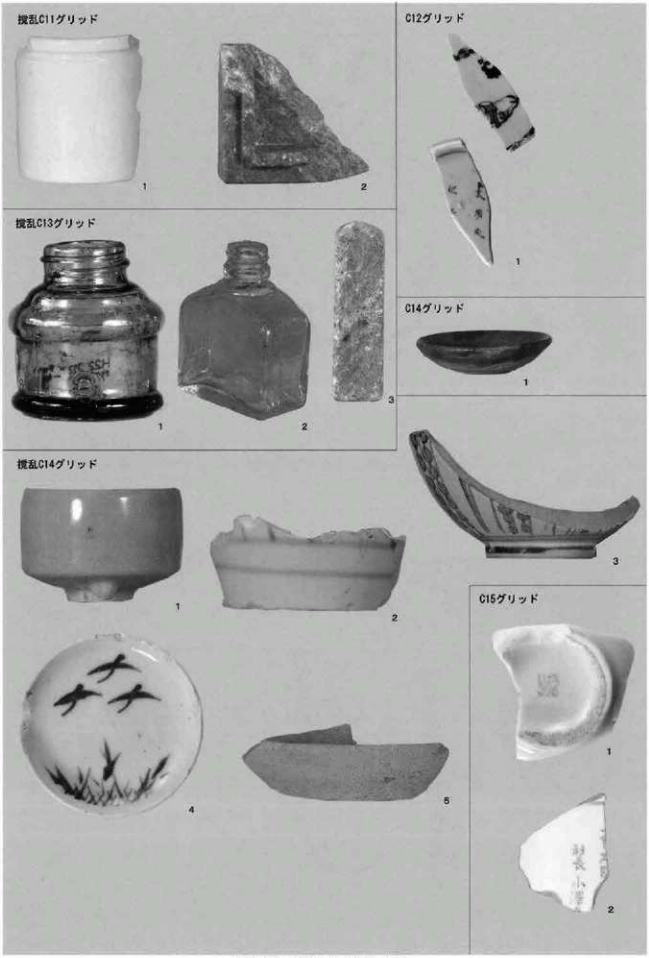


写真 159　遺構外出土遺物（3）

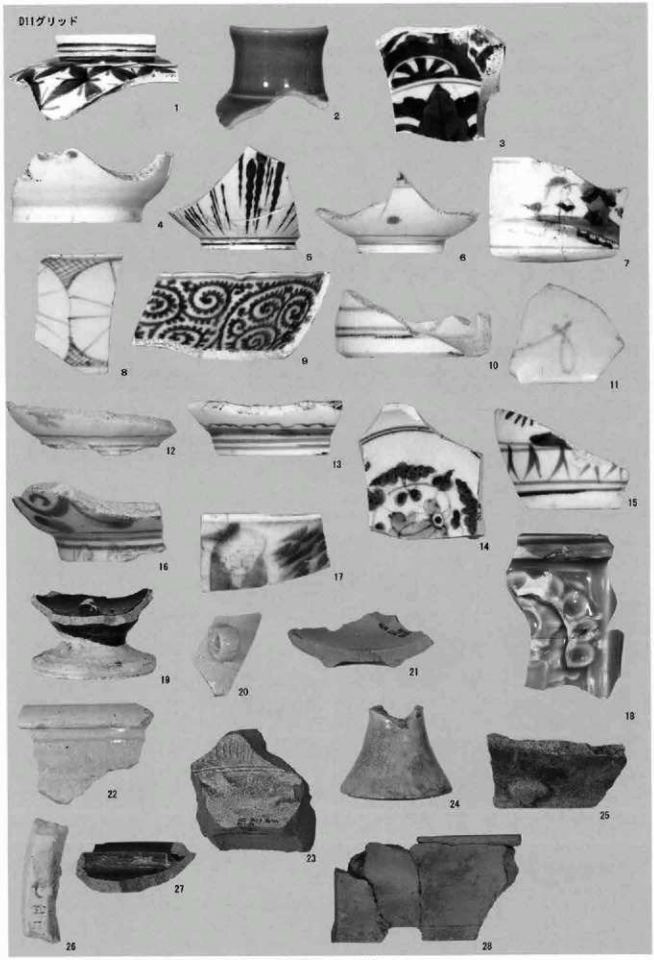


写真 160　遺構外出土遺物（4）

写真 161　遺構外出土遺物（5）

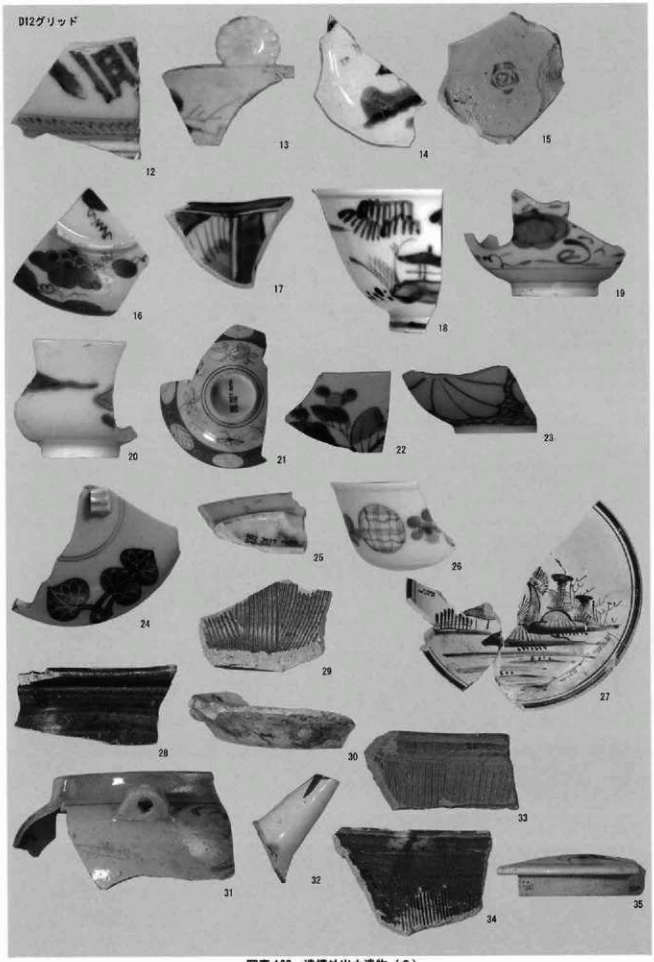


写真 162　遺構外出土遺物（6）

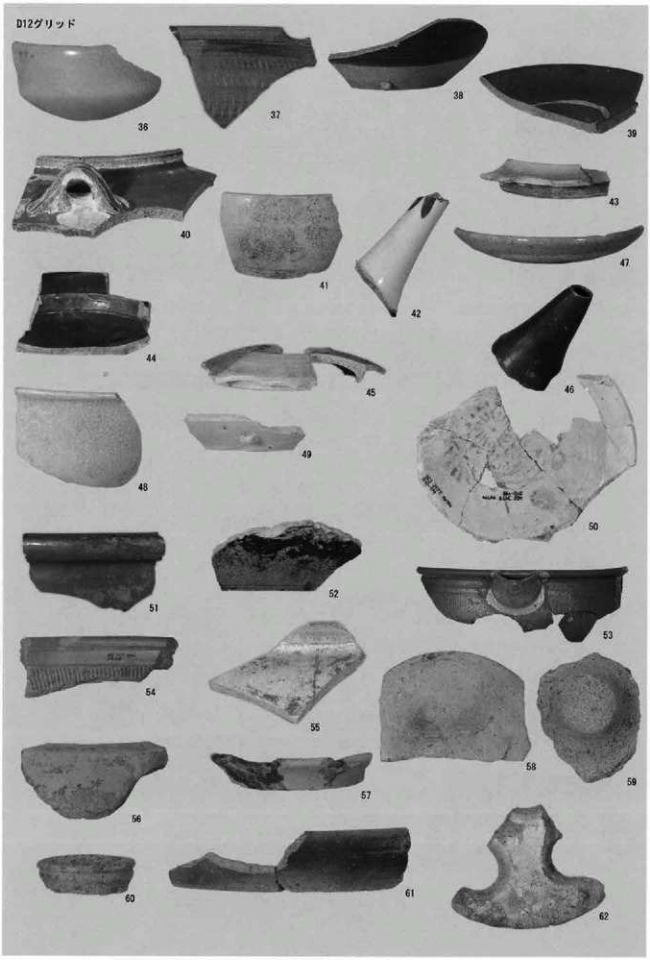


写真 163　遺構外出土遺物（7）

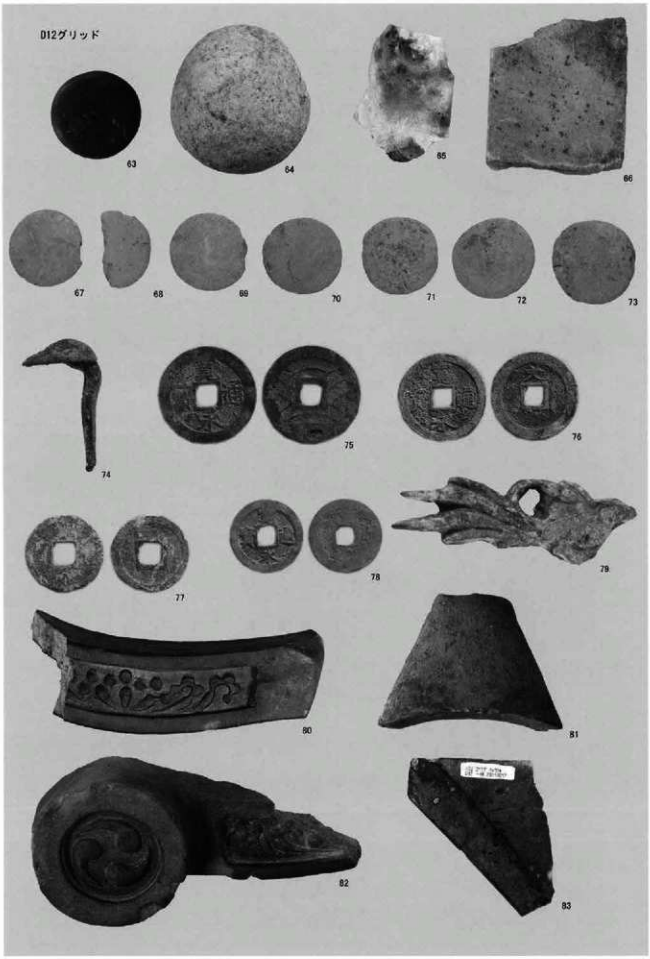


写真164　遺構外出土遺物（8）

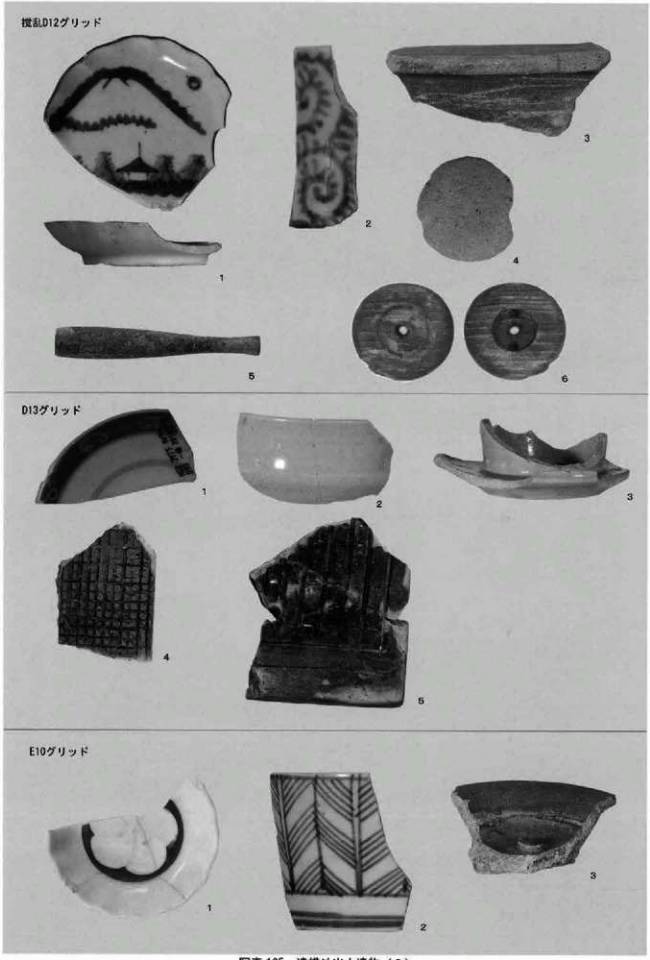


写真 165　遺構外出土遺物（9）

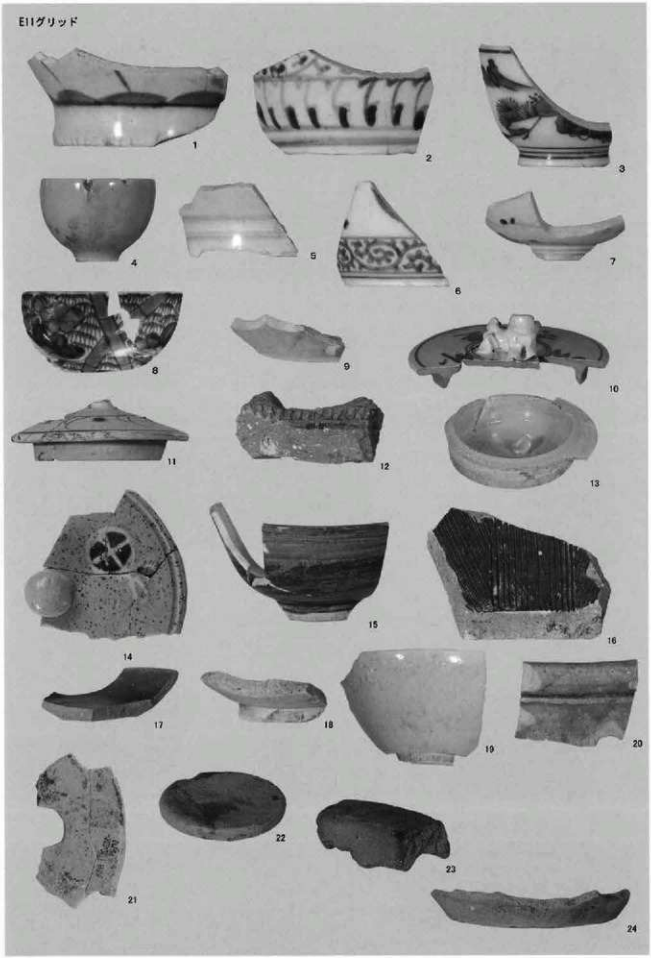


写真 166　遺構外出土遺物（10）

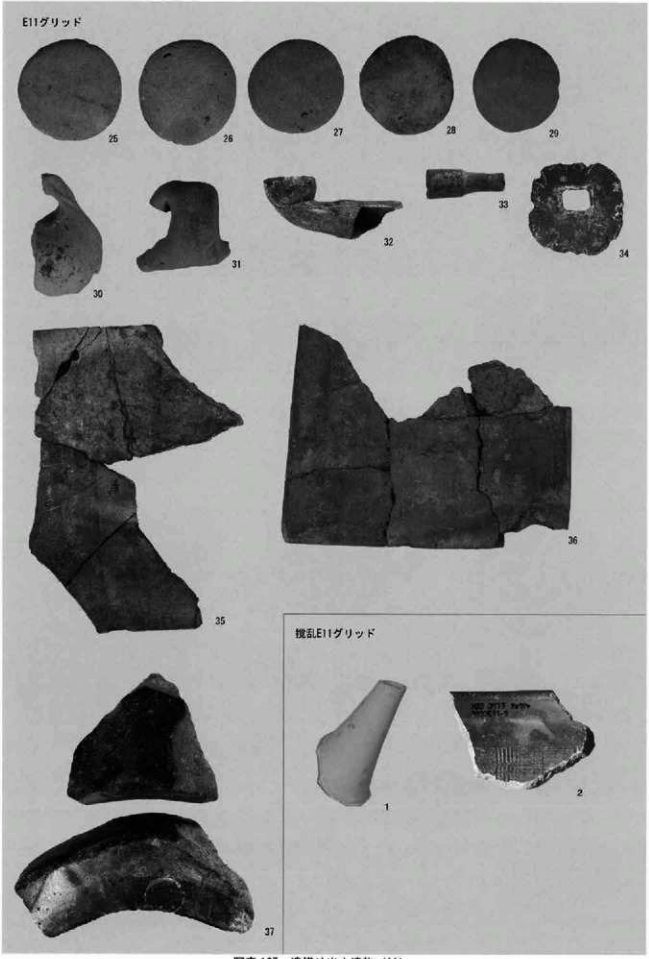


写真167　遺構外出土遺物（11）

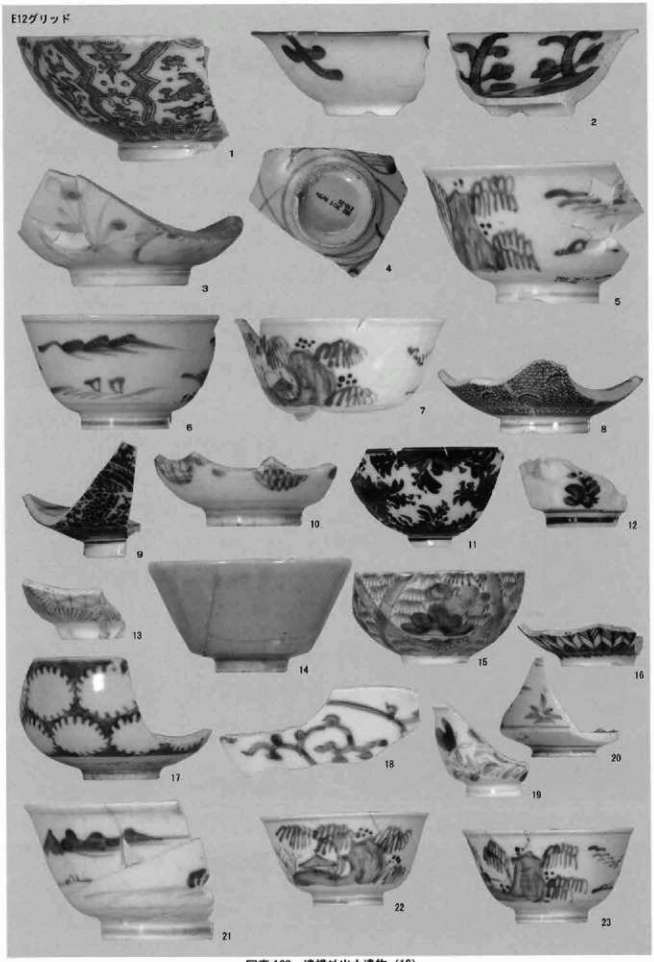


写真 168　遺構外出土遺物（12）

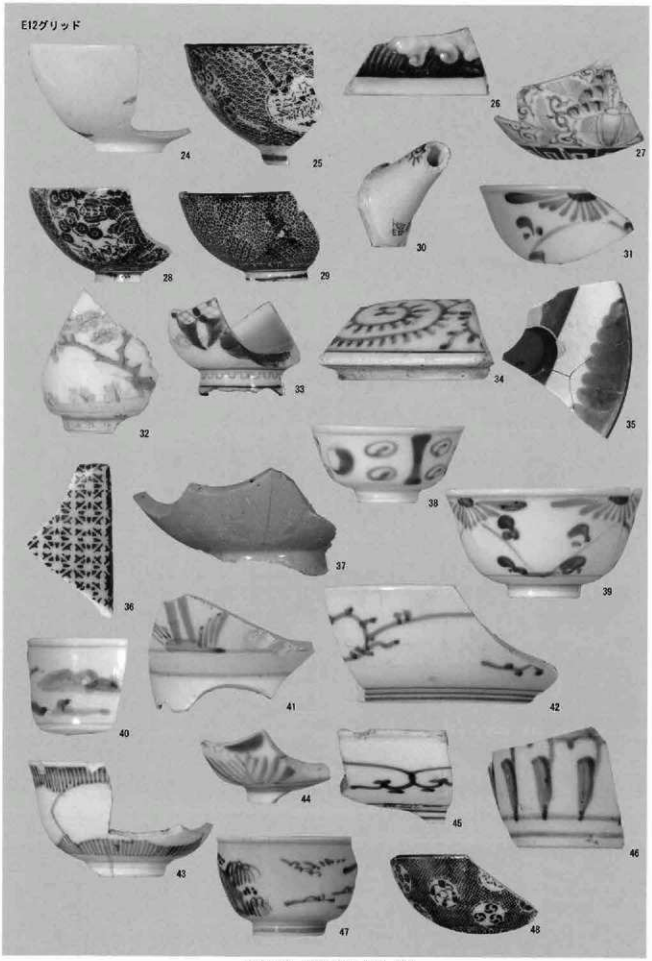


写真 169　遺構外出土遺物（13）

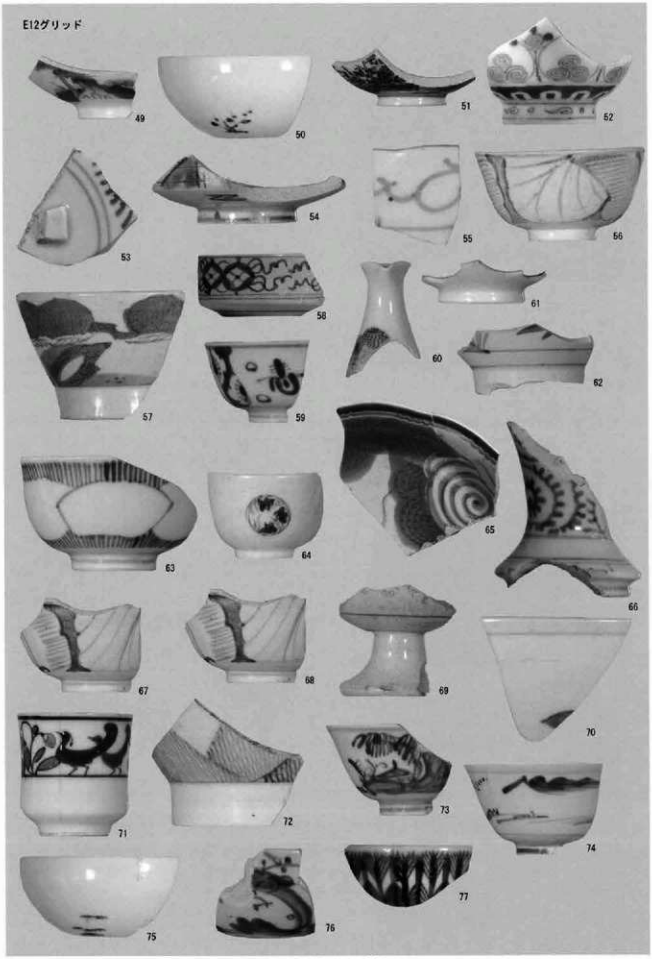


写真 170　遺構外出土遺物（14）

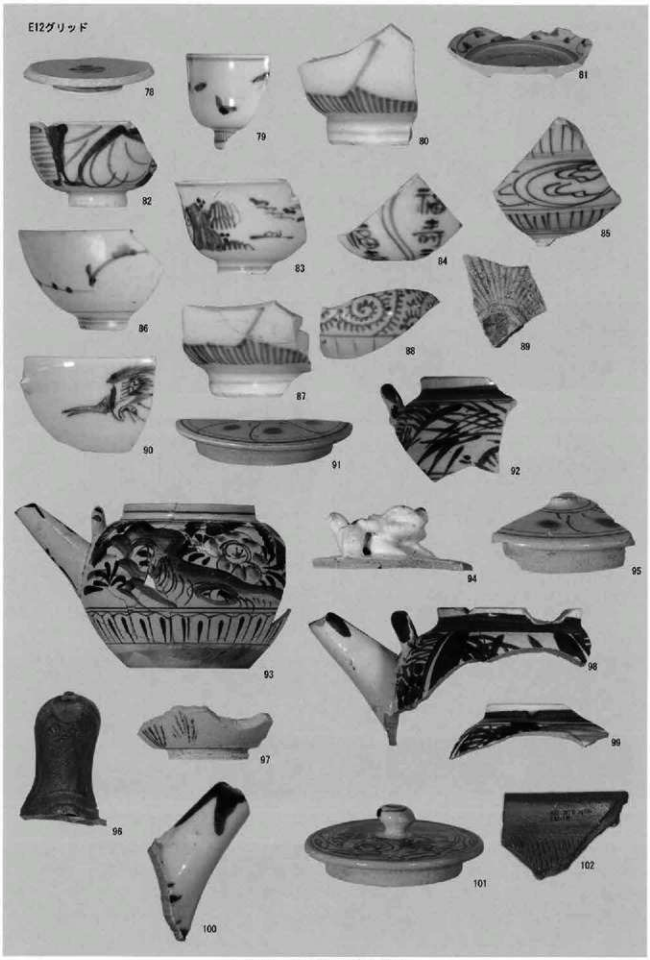


写真 171　遺構外出土遺物（15）

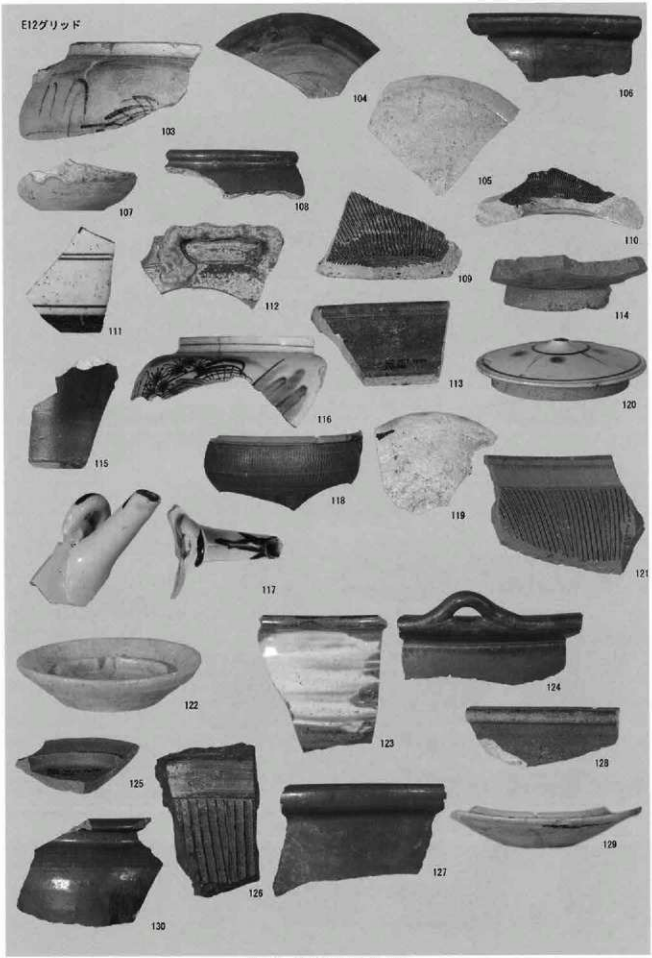


写真 172　遺構外出土遺物（16）

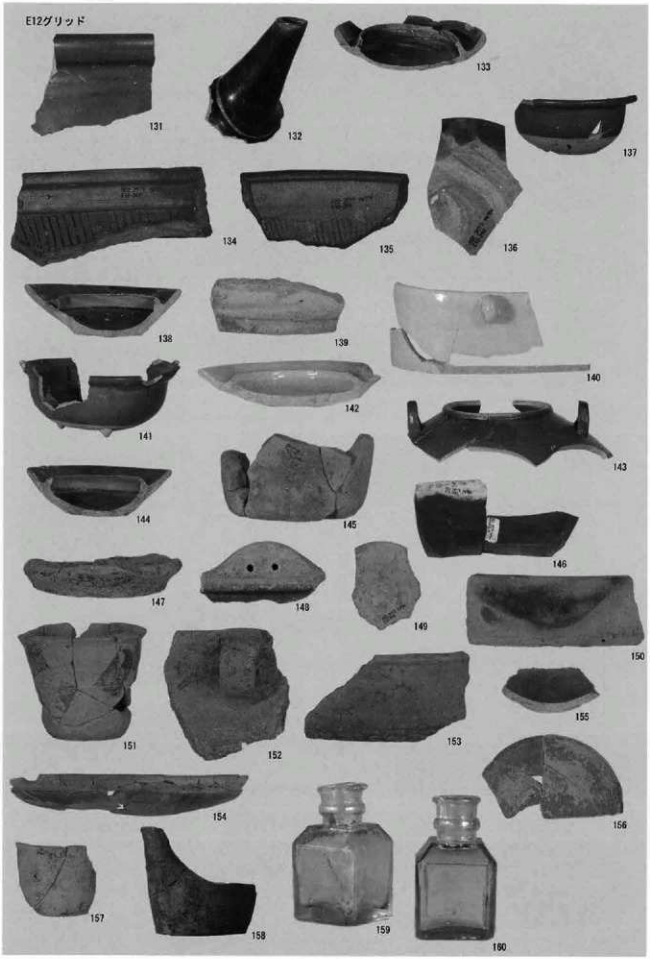


写真 173　遺構外出土遺物（17）

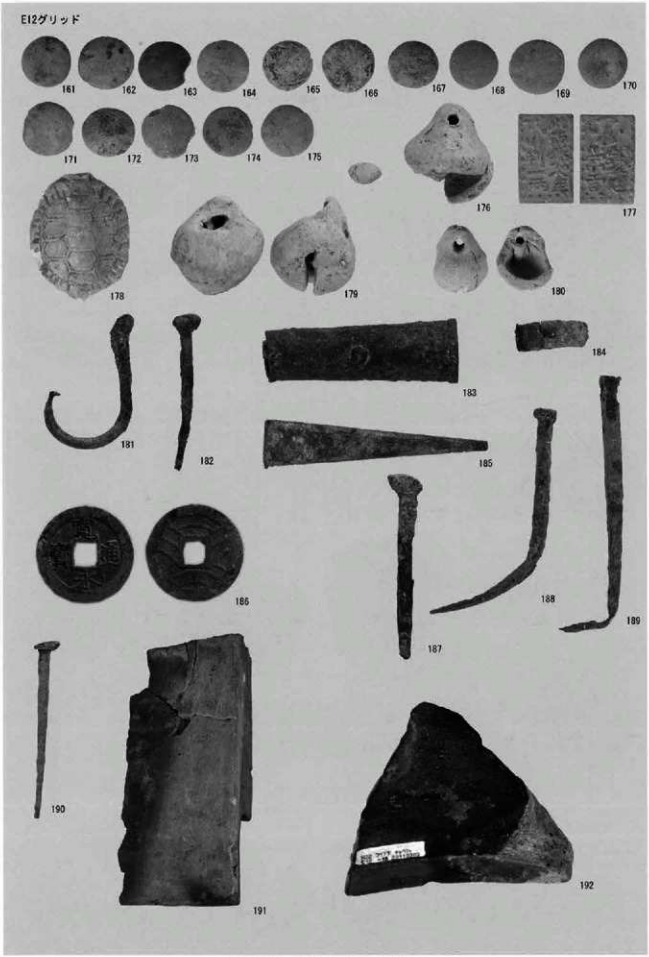


写真 174　遺構外出土遺物（18）

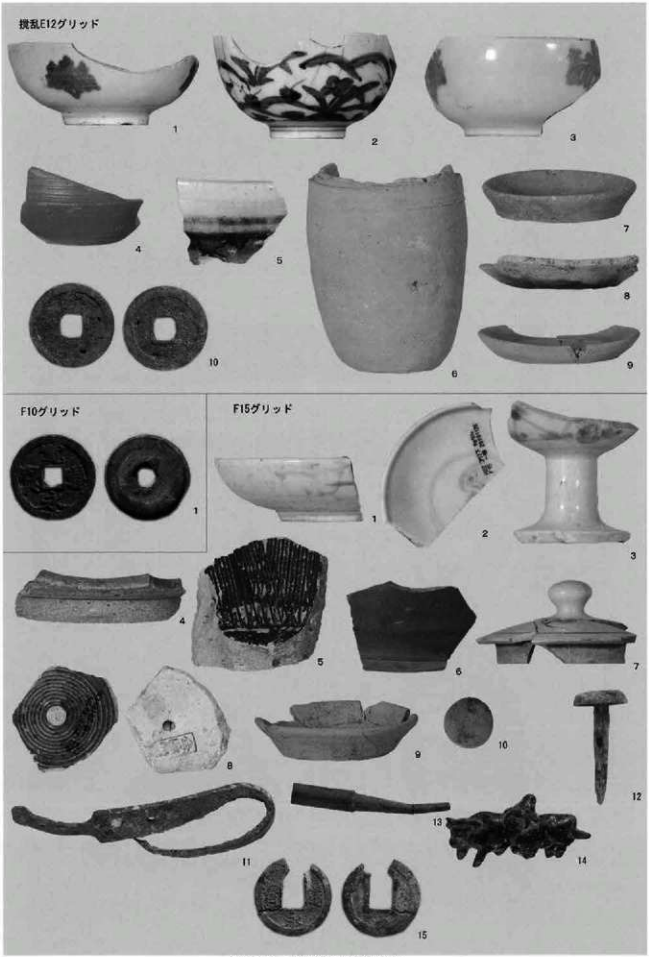


写真 175　遺構外出土遺物（19）

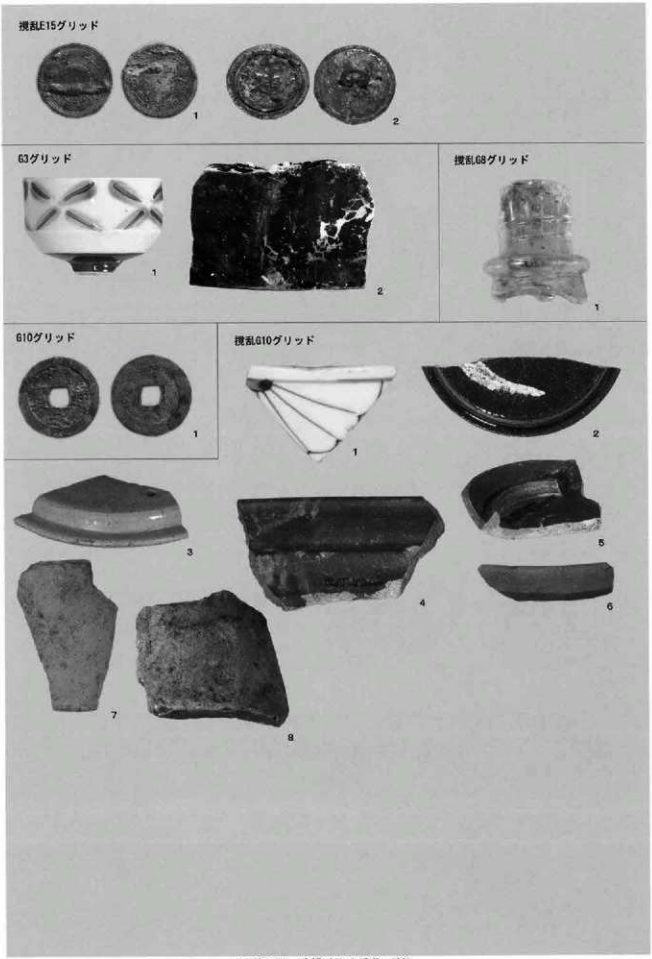


写真176　遺構外出土遺物（20）

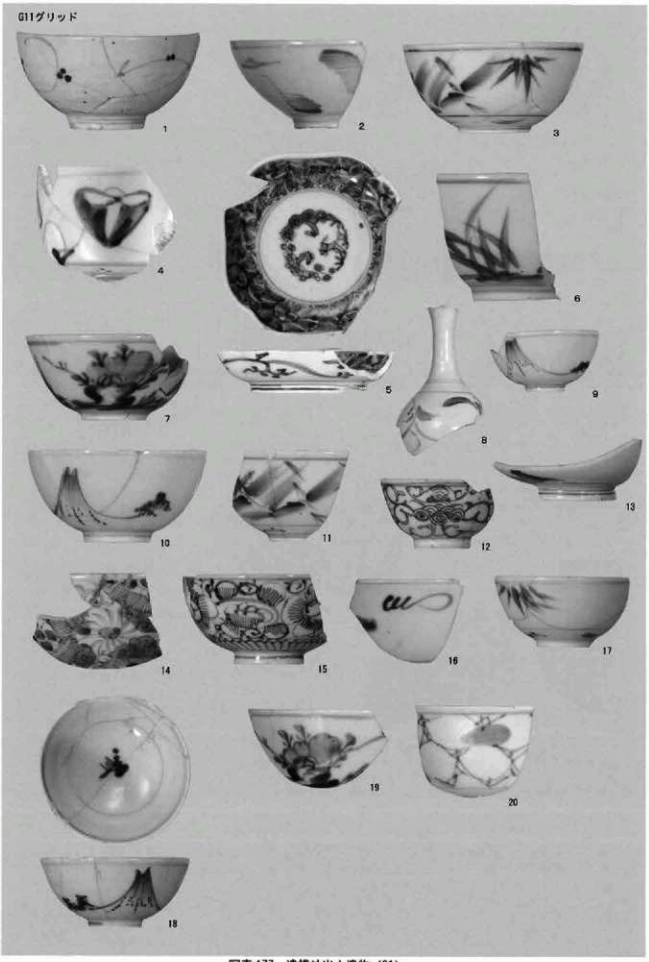


写真177　遺構外出土遺物（21）

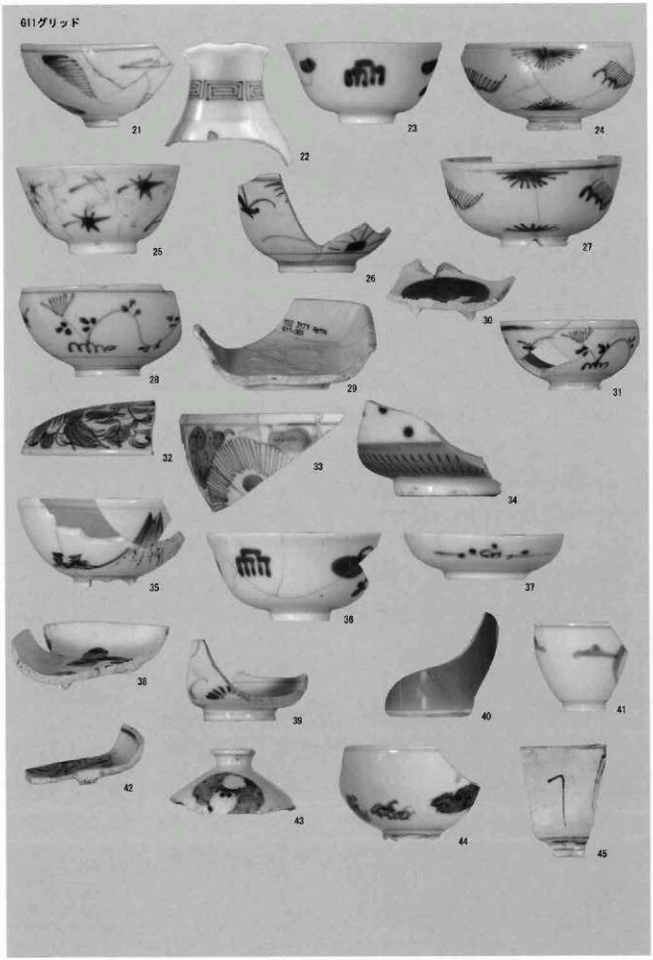


写真 178　遺構外出土遺物（22）

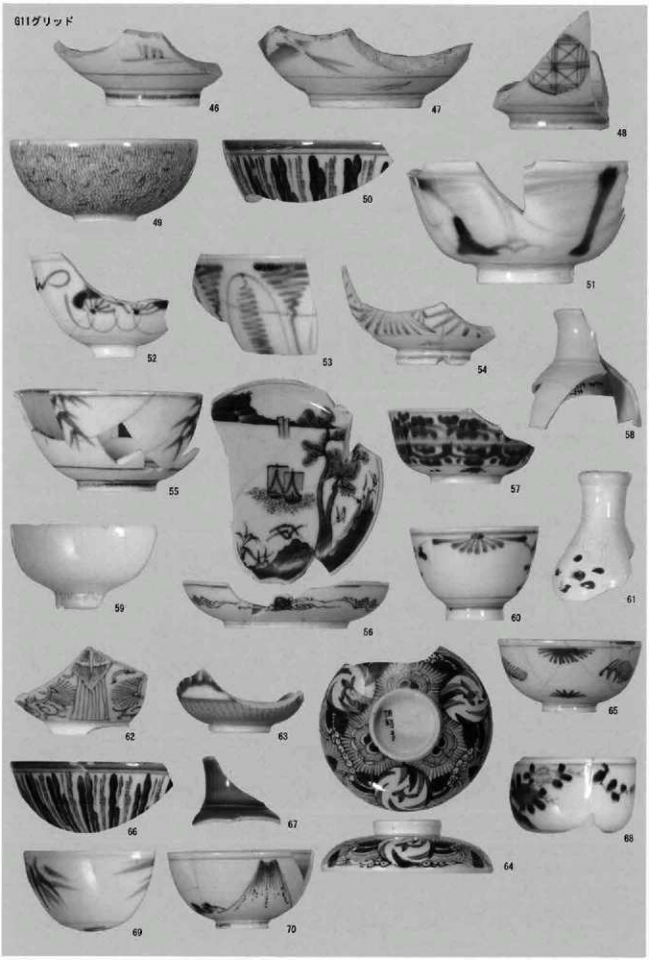


写真 179　遺構外出土遺物（23）

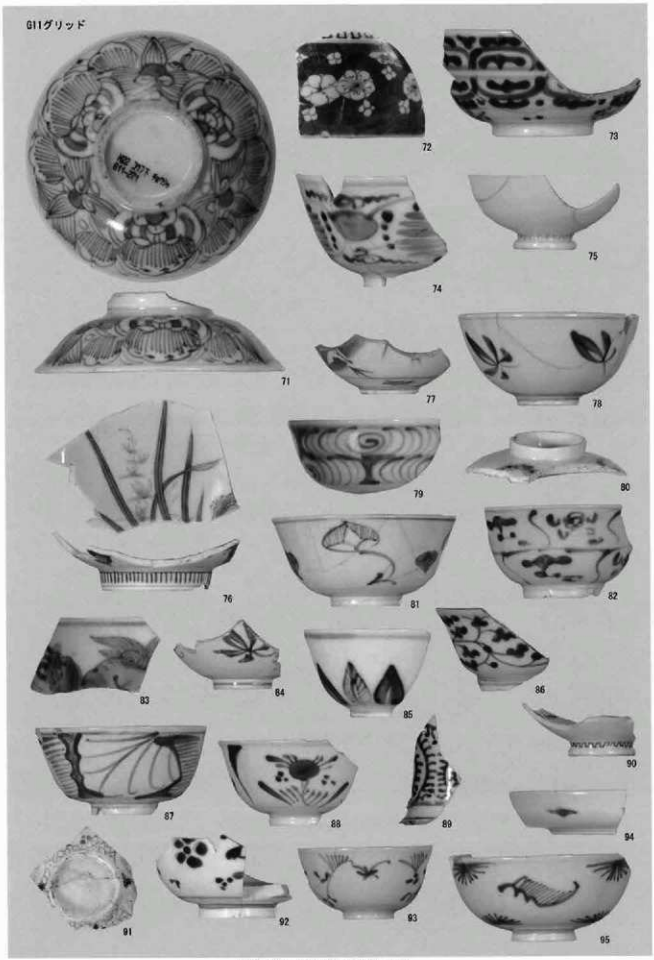


写真 180　遺構外出土遺物（24）

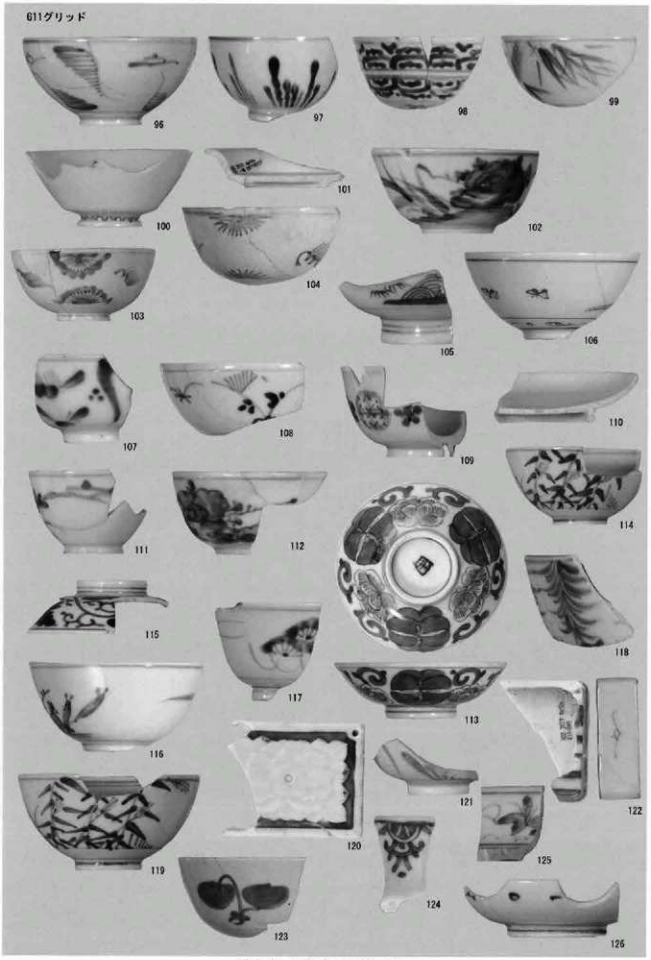


写真 181　遺構外出土遺物（25）

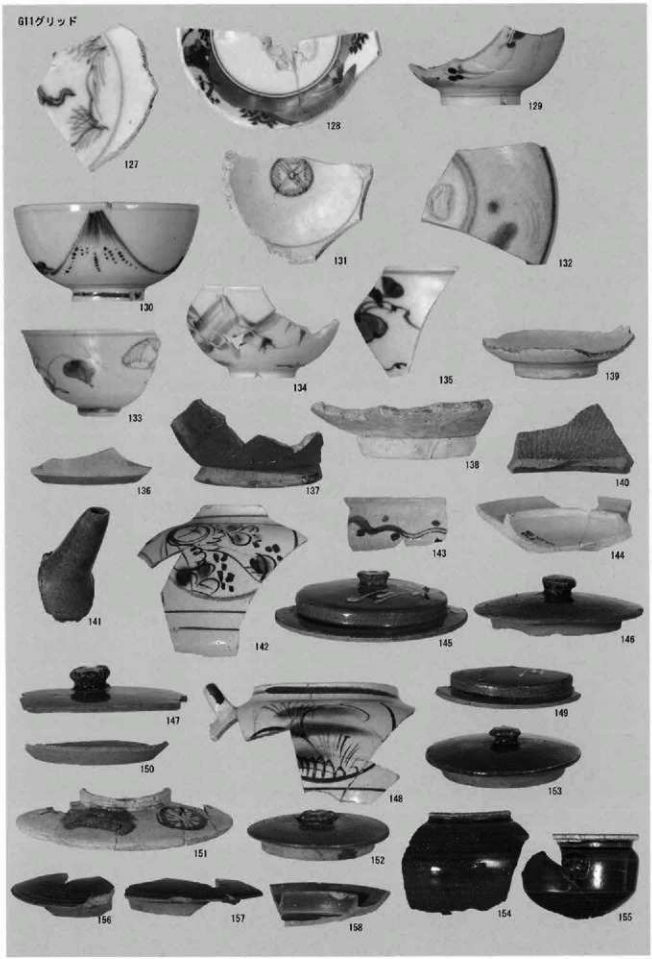


写真 182　遺構外出土遺物（26）

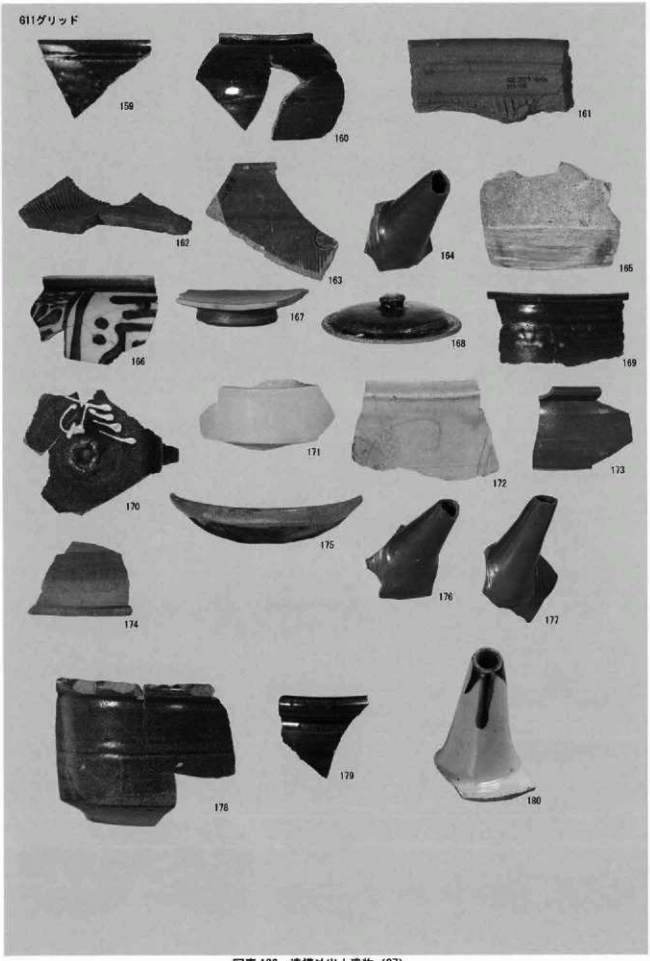


写真 183　遺構外出土遺物（27）

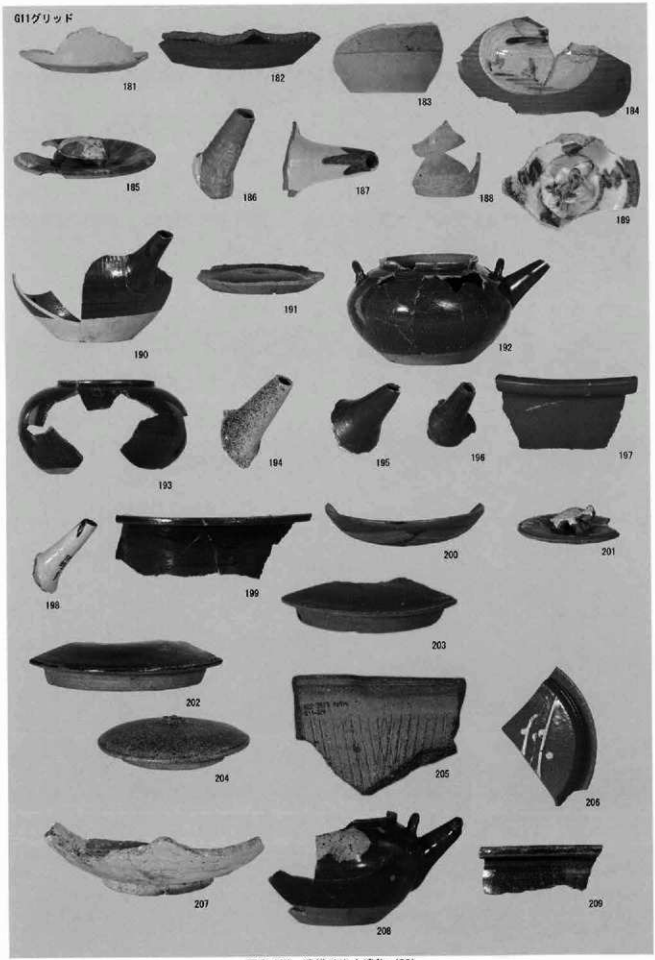


写真 184　遺構外出土遺物（28）

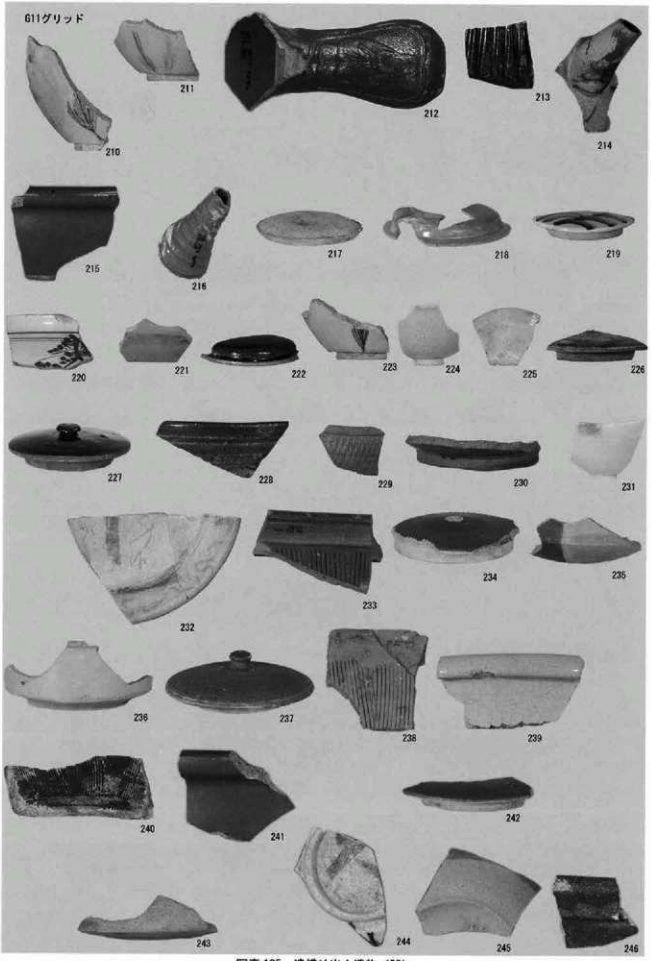


写真185　遺構外出土遺物（29）

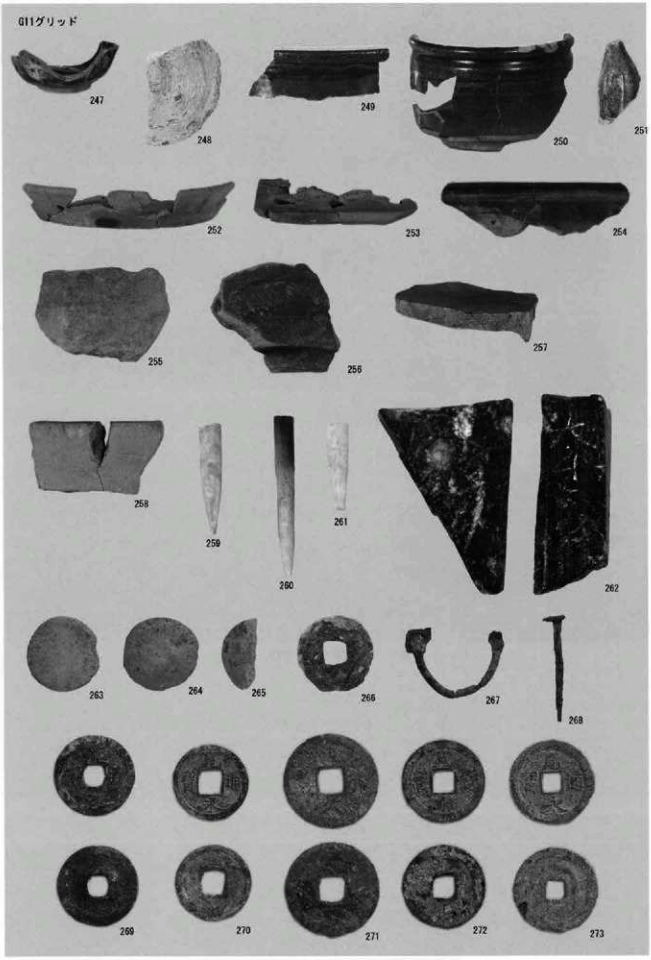


写真 186　遺構外出土遺物（30）

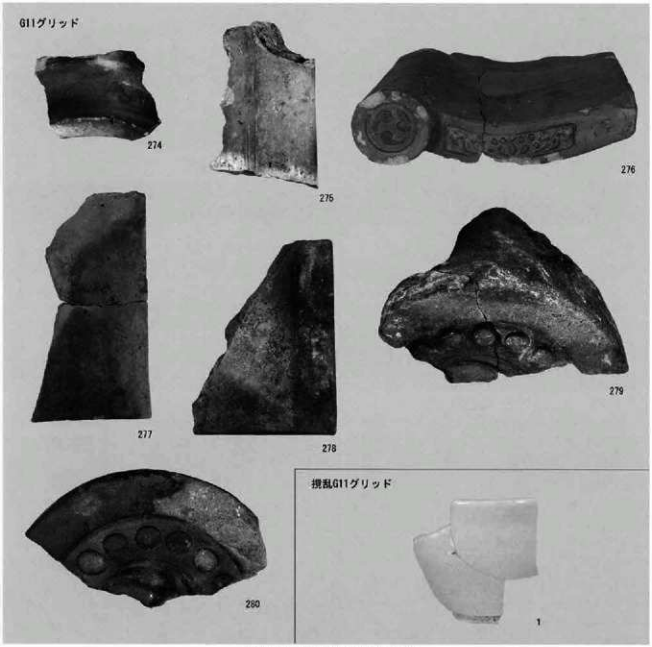


写真 187　遺構外出土遺物（31）

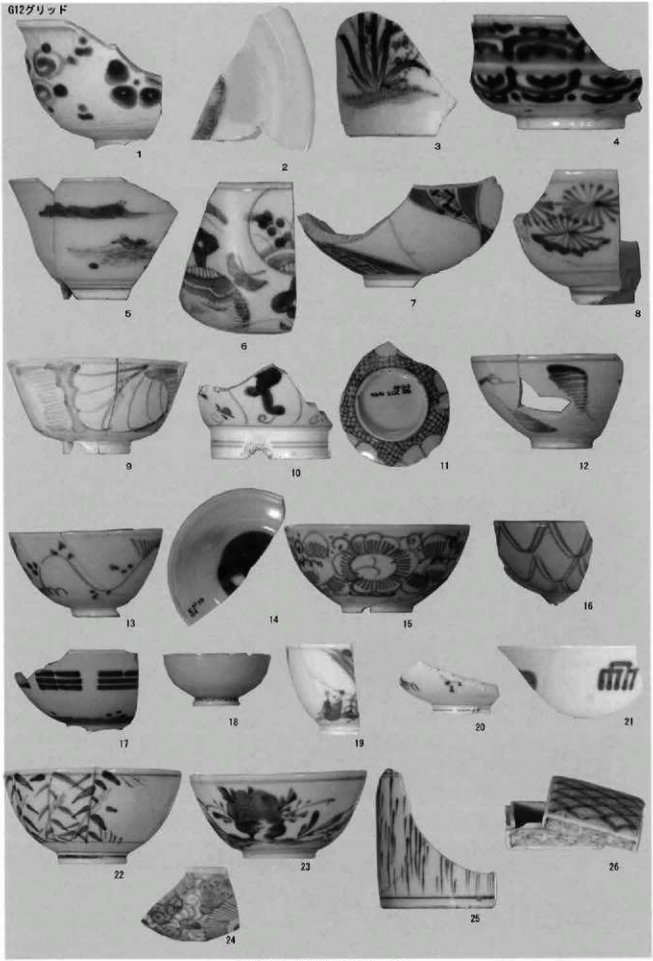


写真 188　遺構外出土遺物（32）

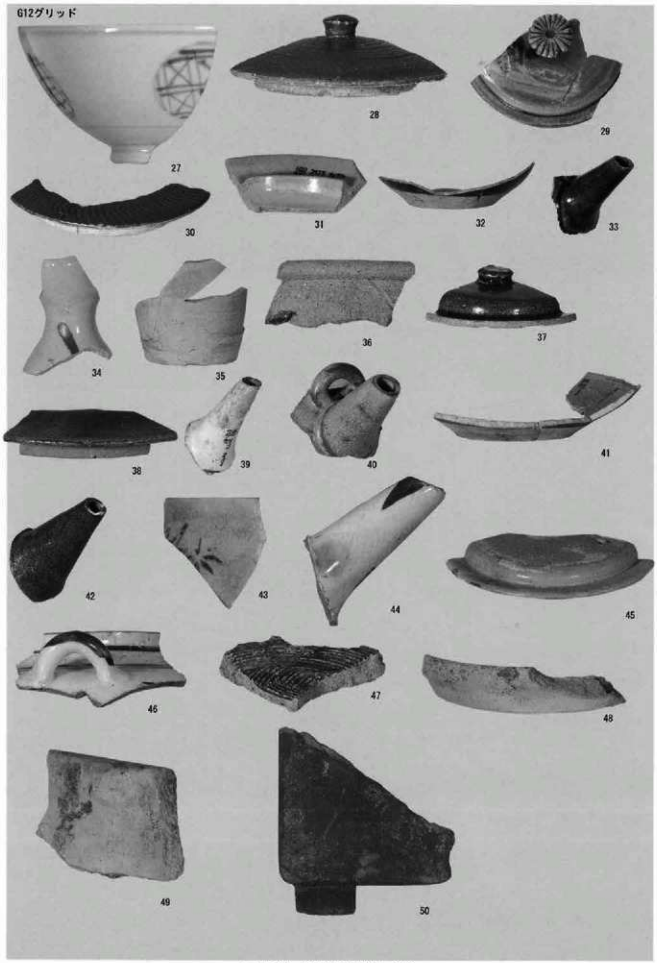


写真 189　遺構外出土遺物（33）

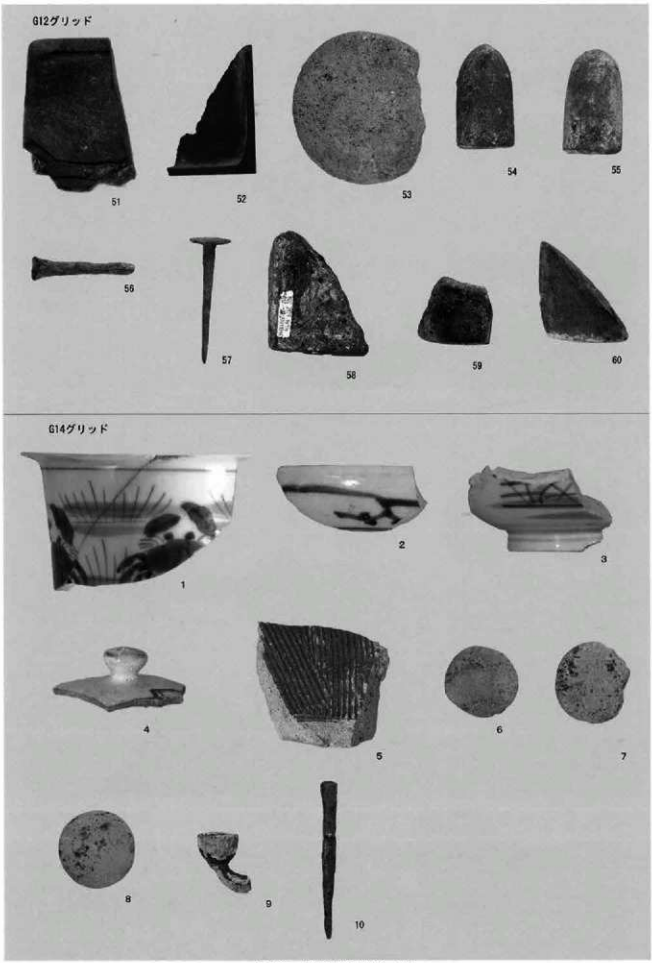


写真 190　遺構外出土遺物（34）

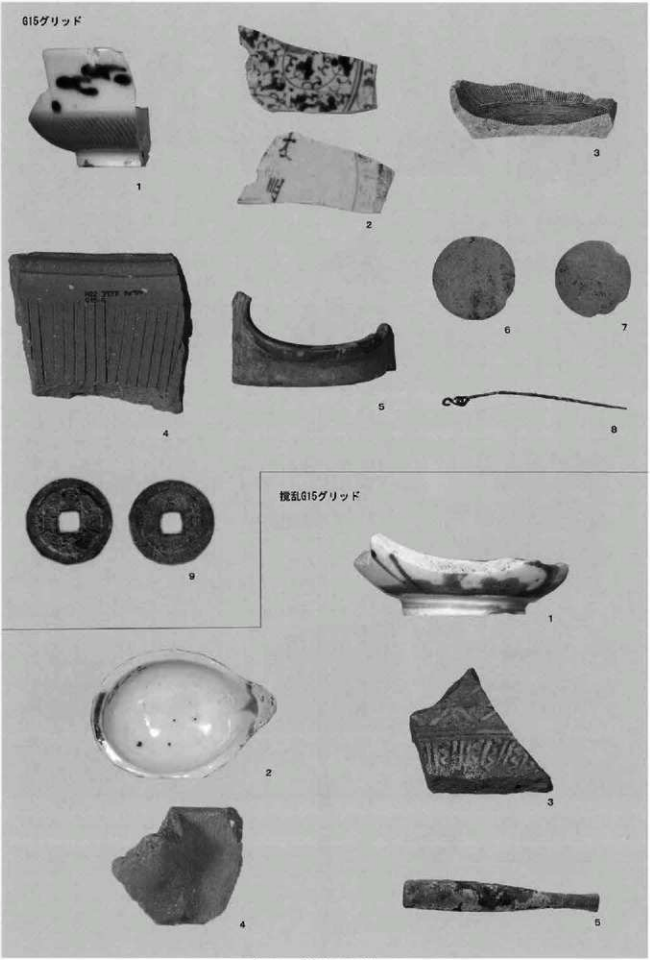


写真 191　遺構外出土遺物（35）

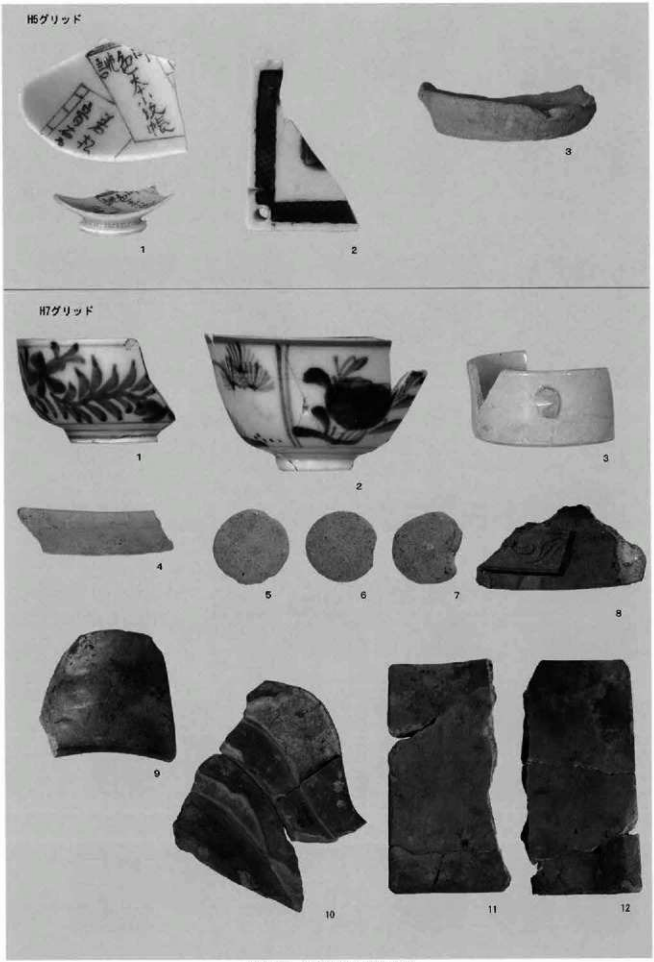


写真 192　遺構外出土遺物（36）

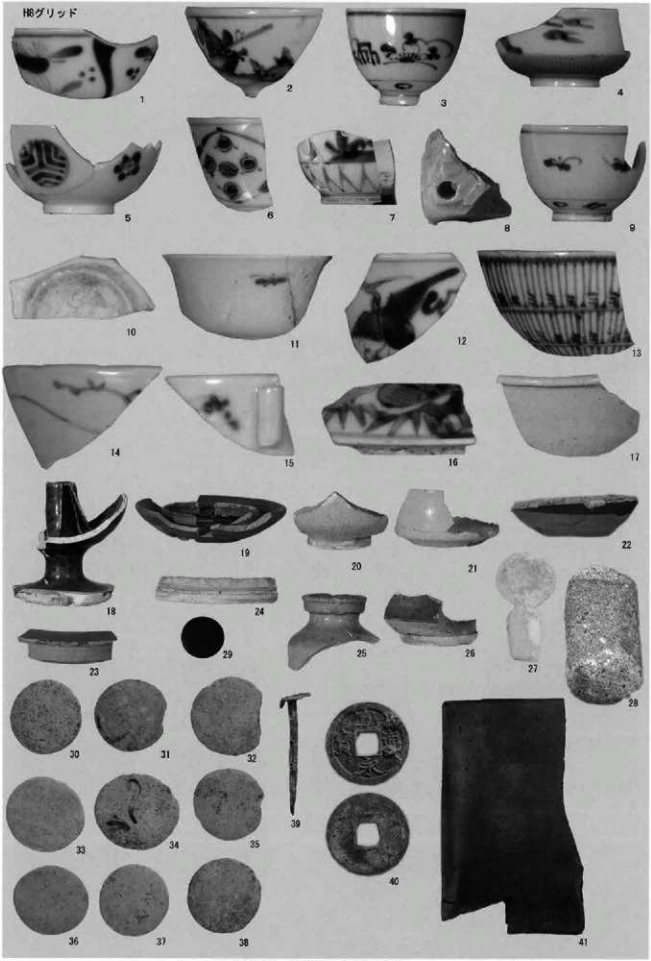


写真 193　遺構外出土遺物（37）

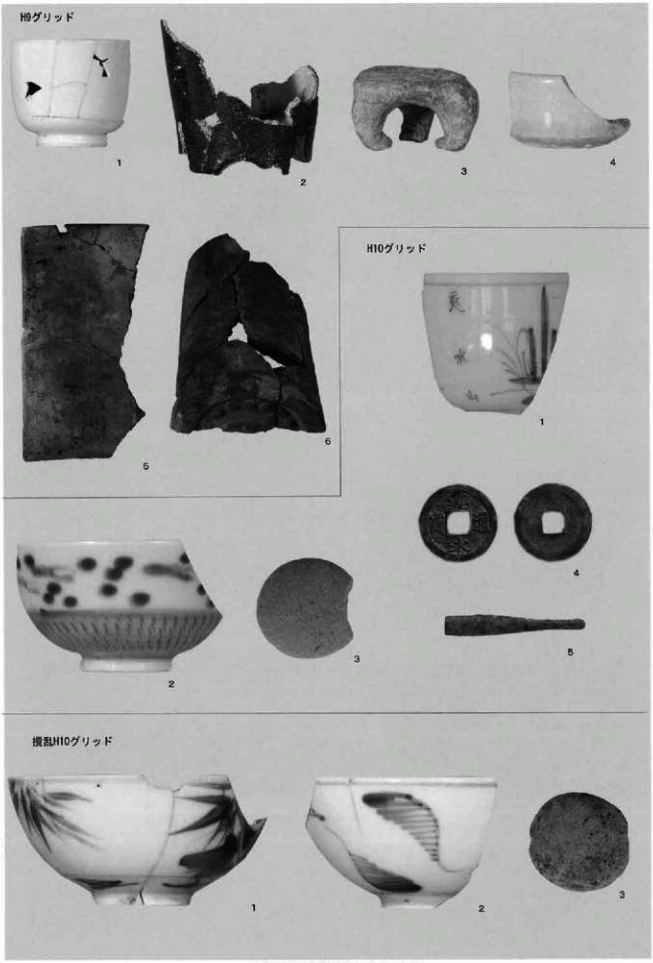


写真 194　遺構外出土遺物（38）

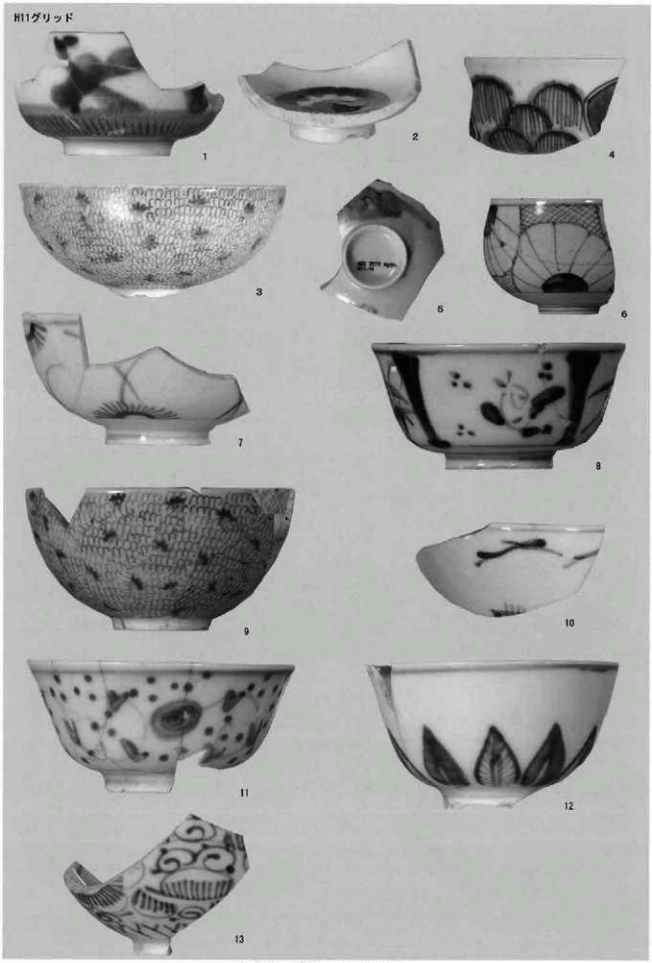


写真 195　遺構外出土遺物（39）

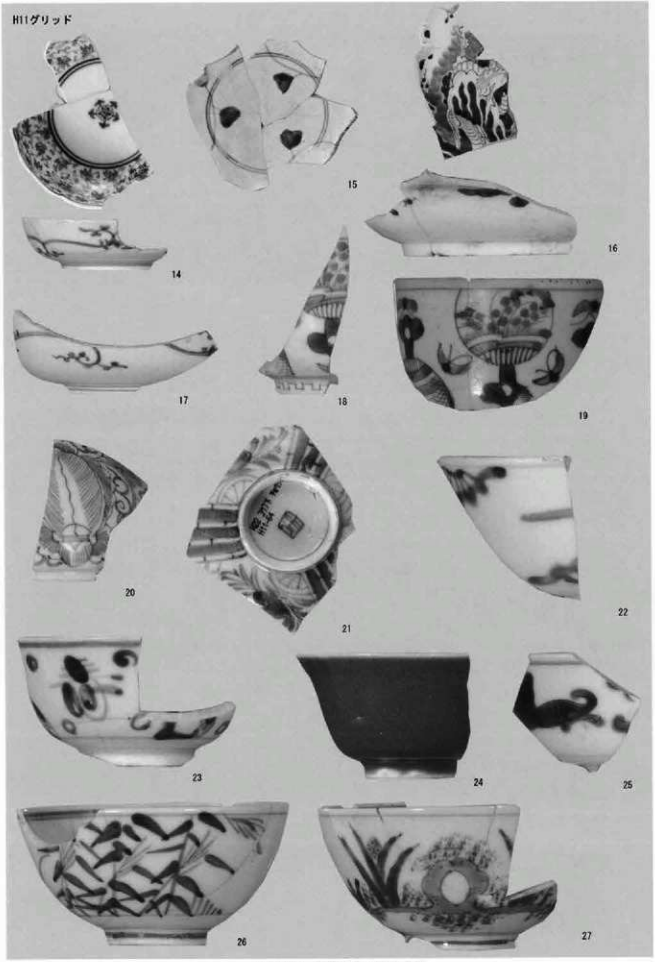


写真 196　遺構外出土遺物（40）

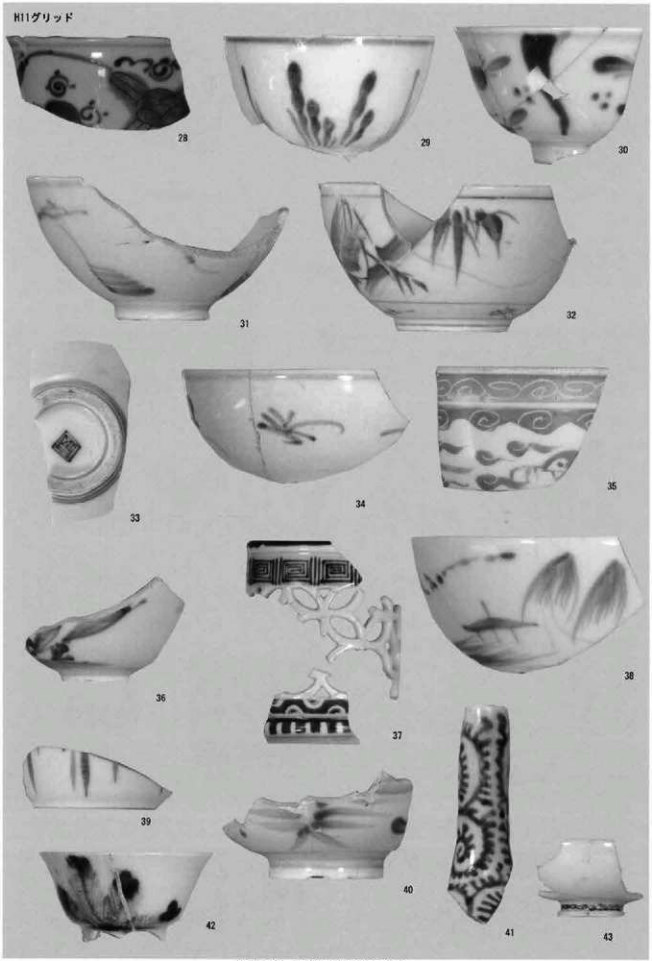


写真 197　遺構外出土遺物（41）

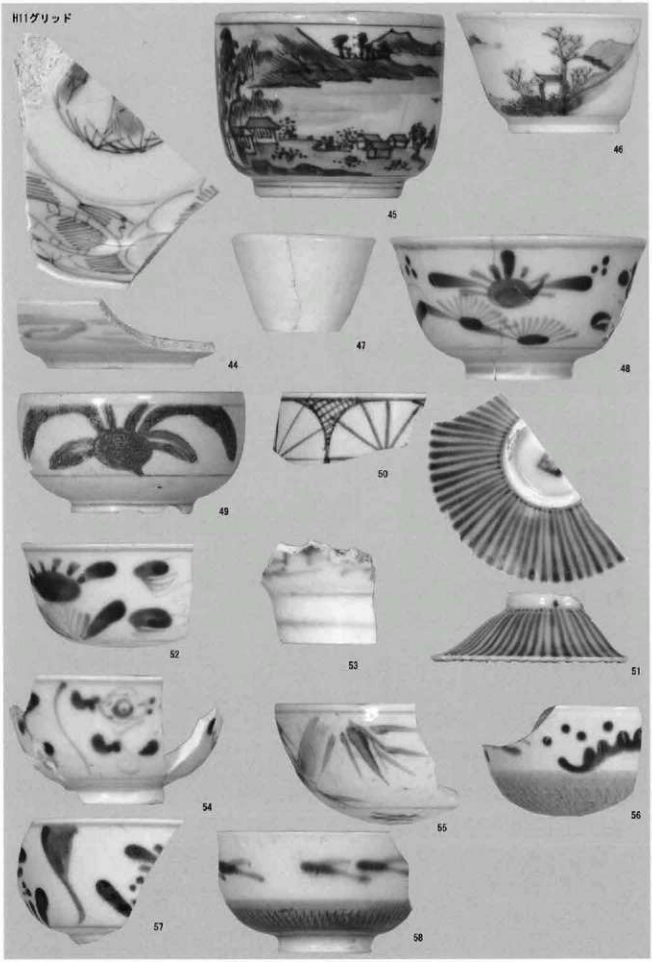


写真 198　遺構外出土遺物（42）

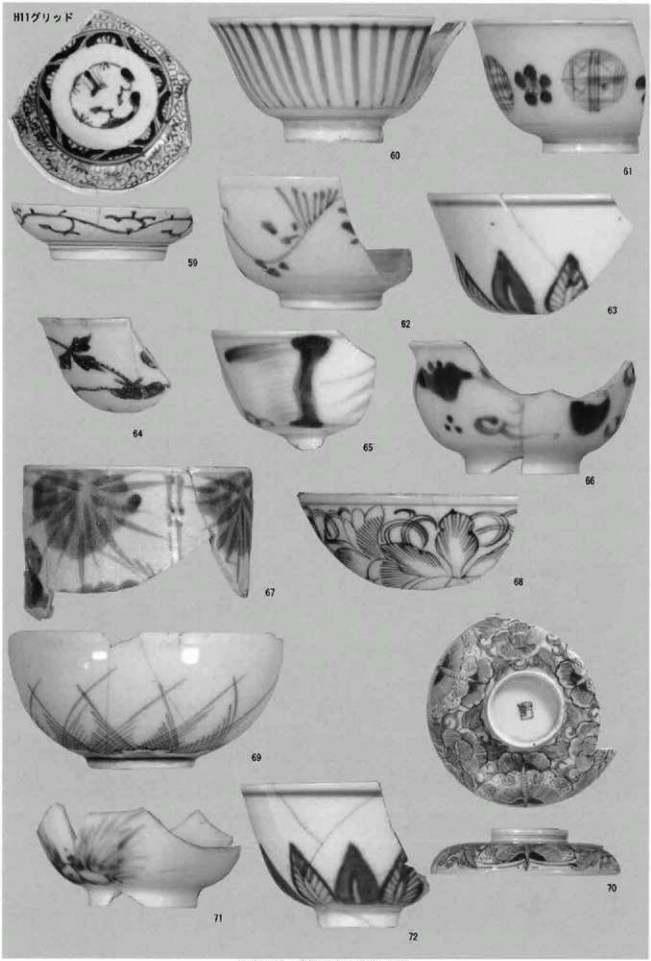


写真 199　遺構外出土遺物（43）

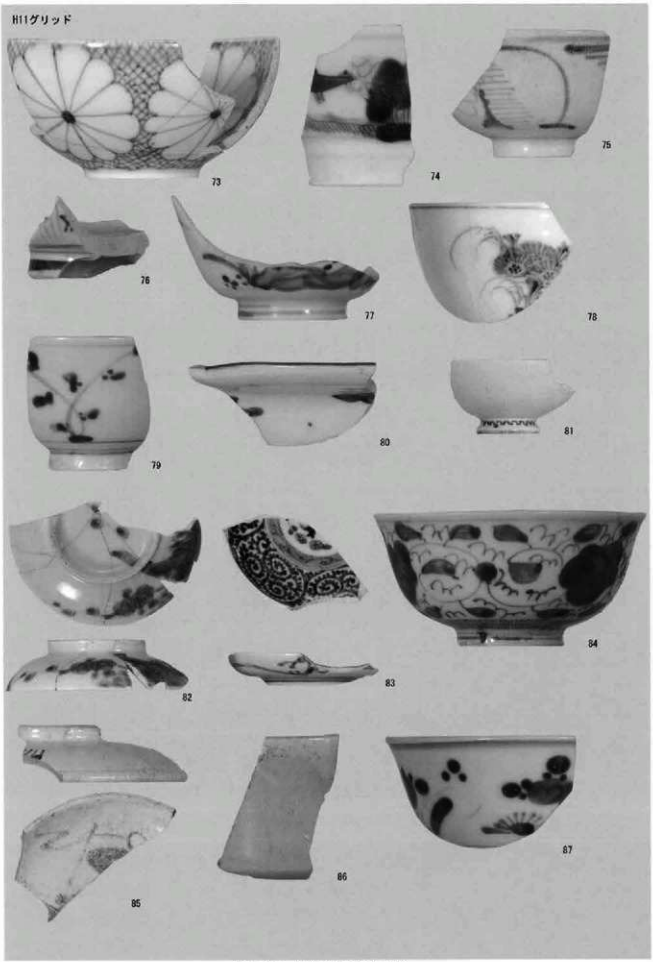


写真 200　遺構外出土遺物（44）

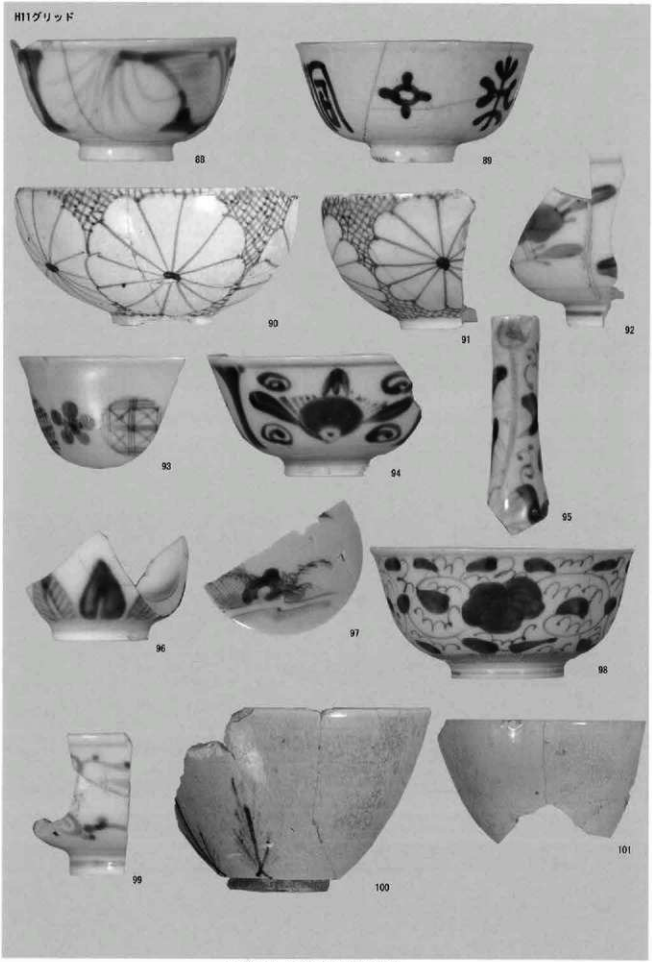


写真 201　遺構外出土遺物（45）

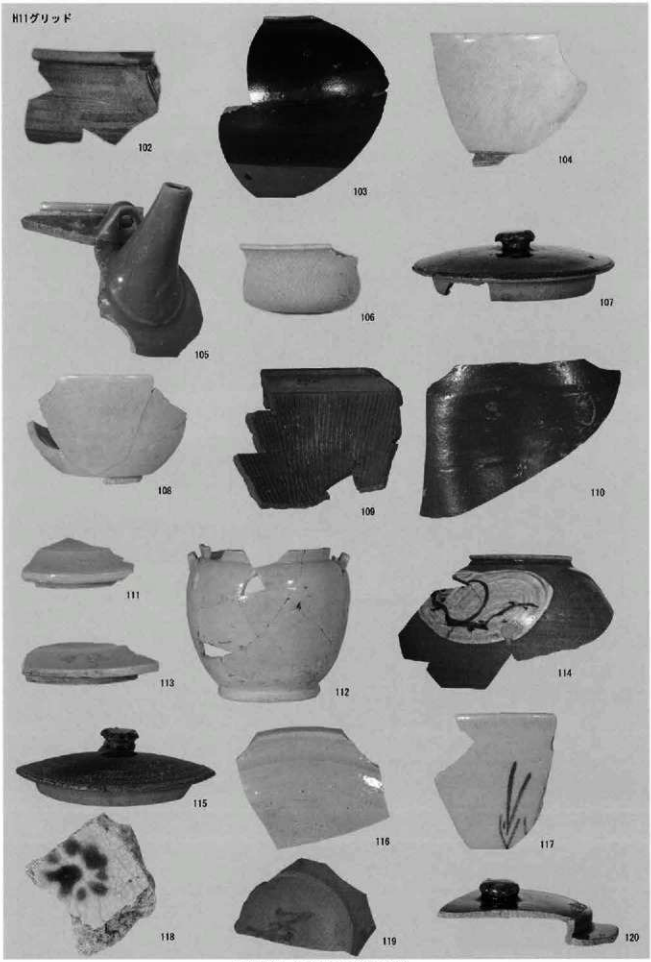


写真 202　遺構外出土遺物（46）

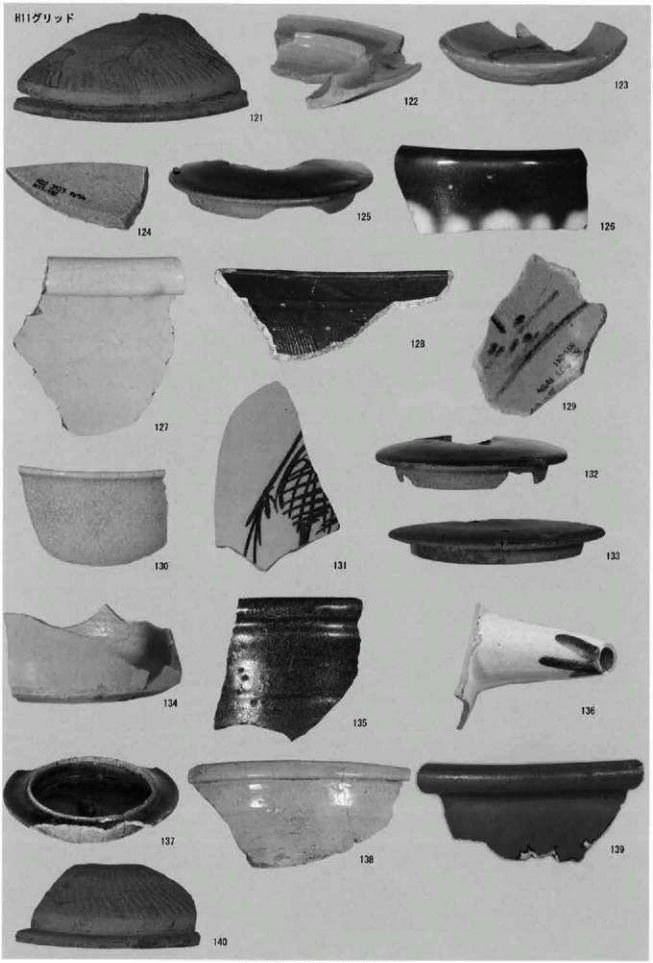


写真 203　遺構外出土遺物（47）

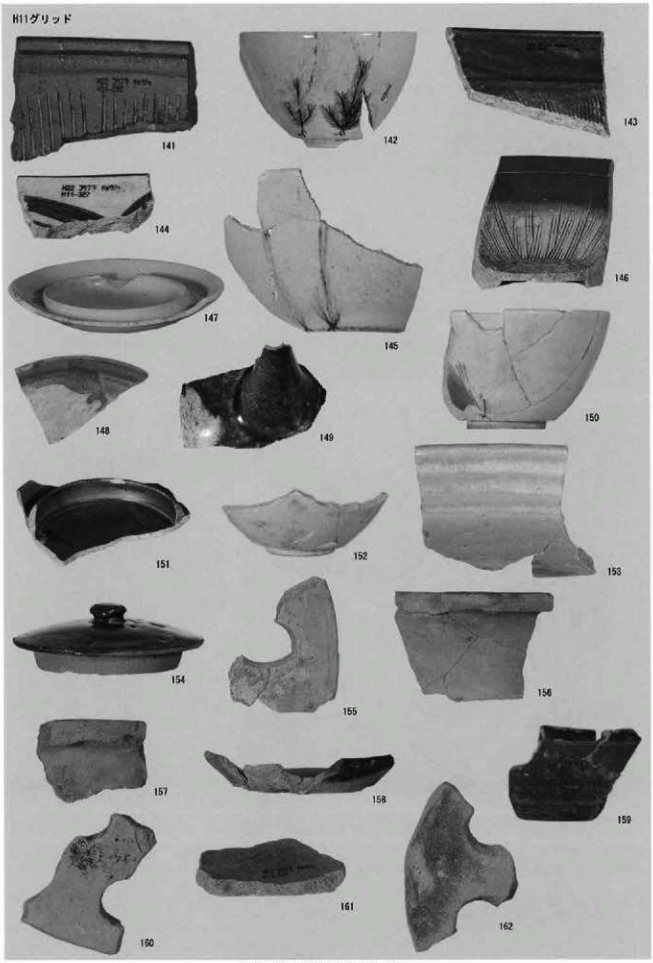


写真 204　遺構外出土遺物（48）

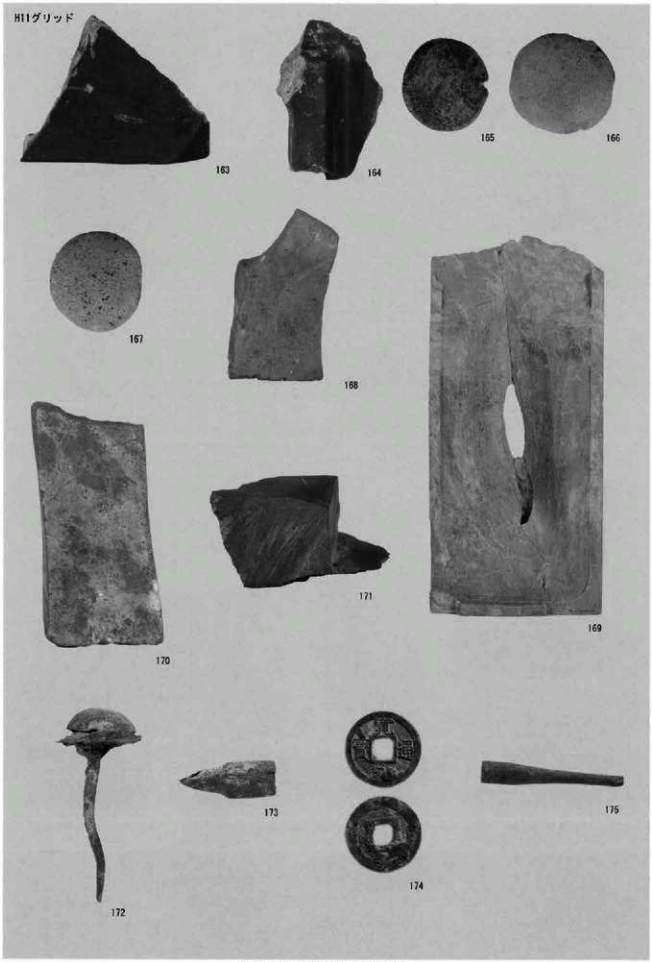


写真 205　遺構外出土遺物（49）

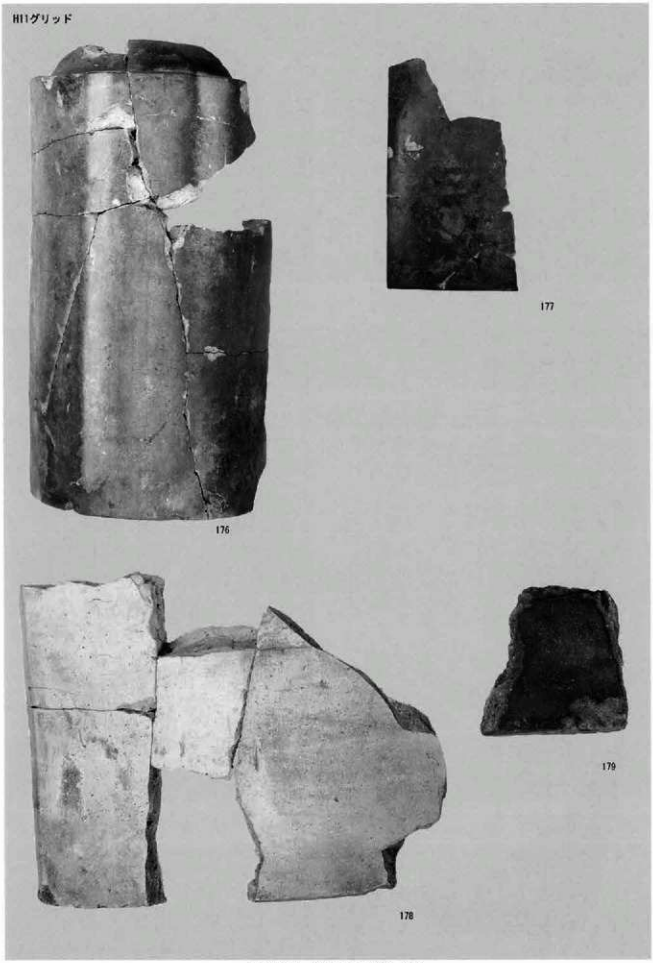


写真 206　遺構外出土遺物（50）

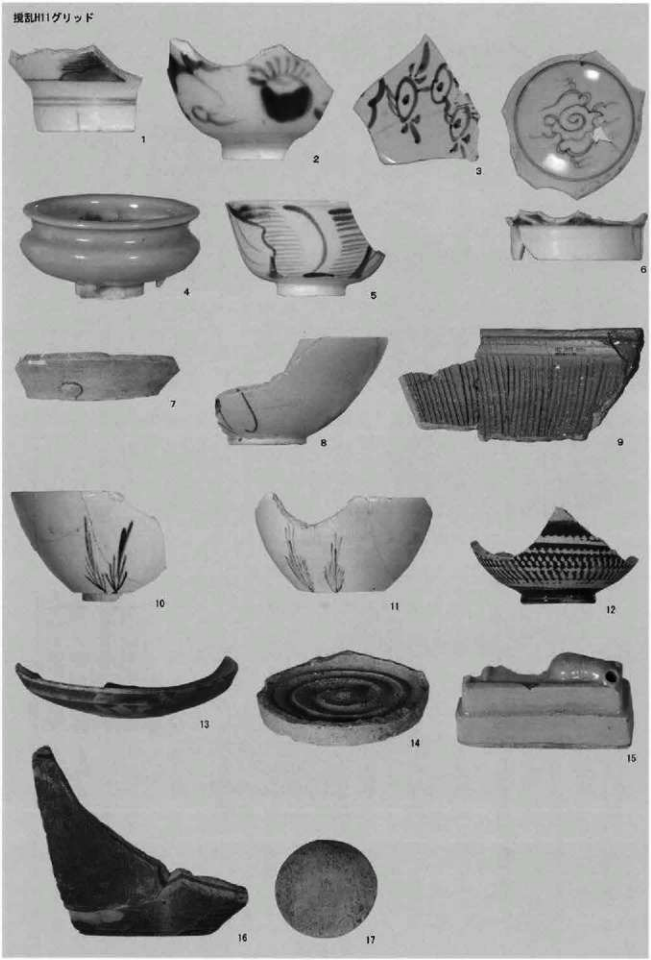


写真 207　遺構外出土遺物（51）

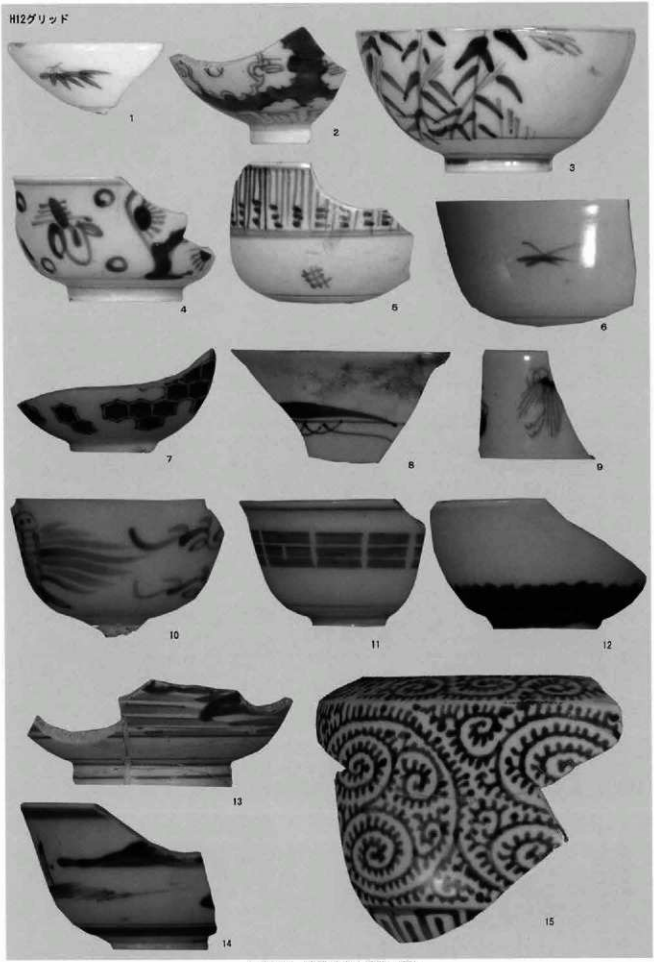


写真 208　遺構外出土遺物（52）

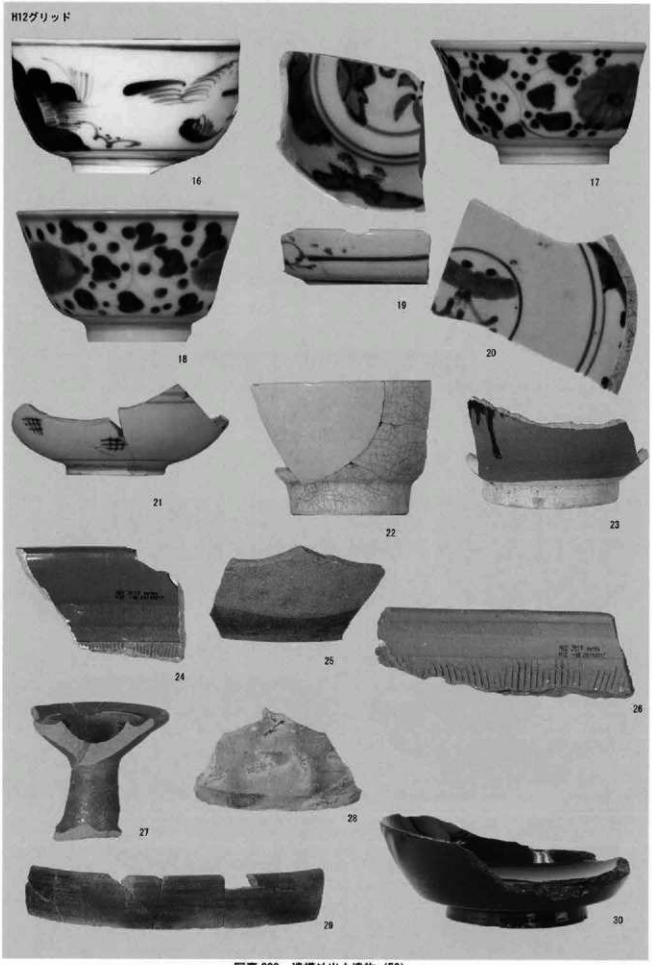


写真 209　遺構外出土遺物（53）

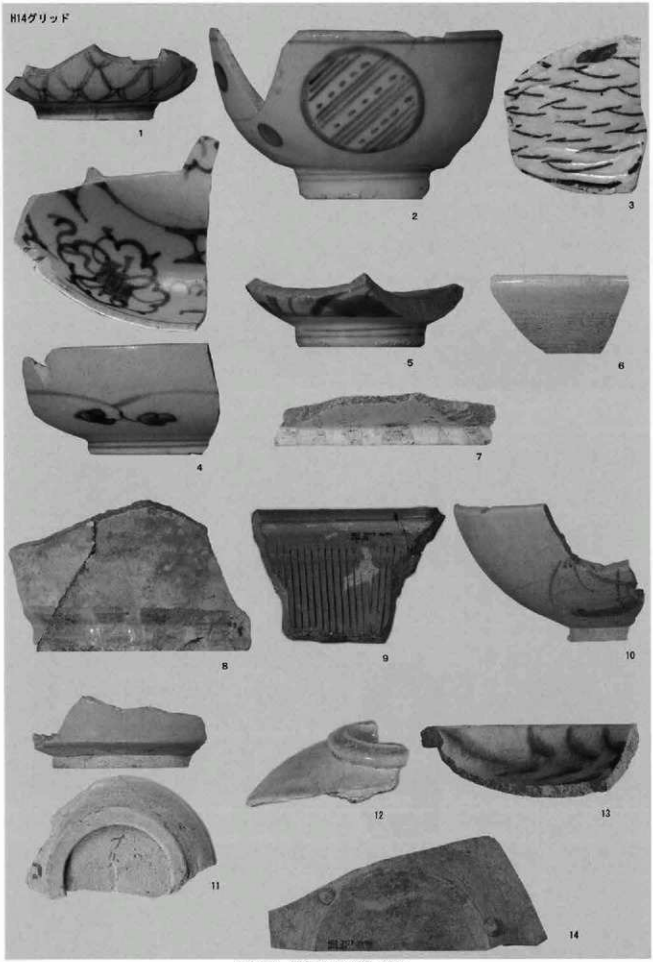


写真 210　遺構外出土遺物（54）

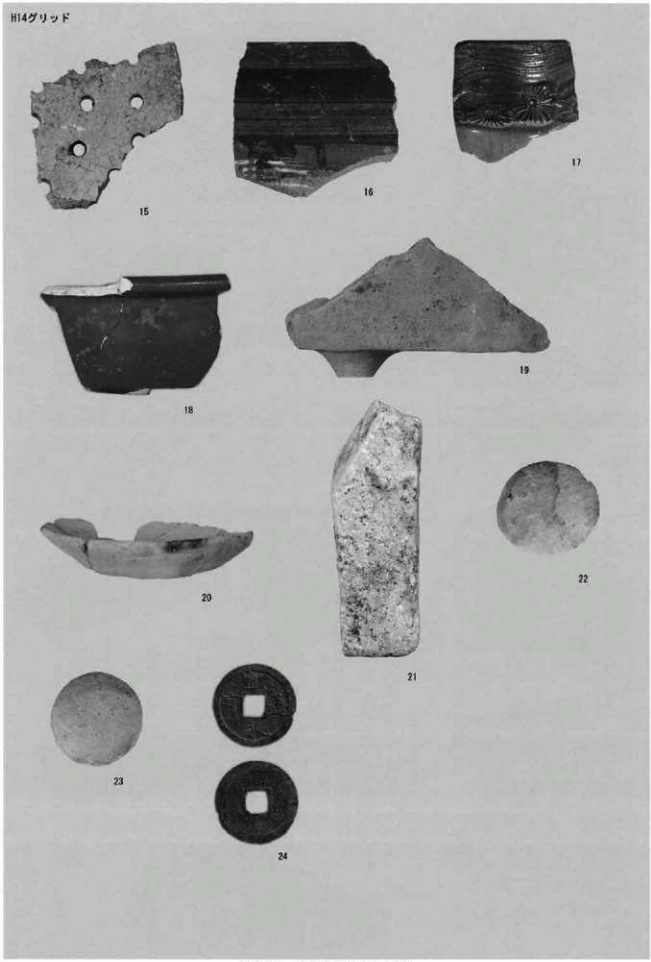


写真 211　遺構外出土遺物（55）

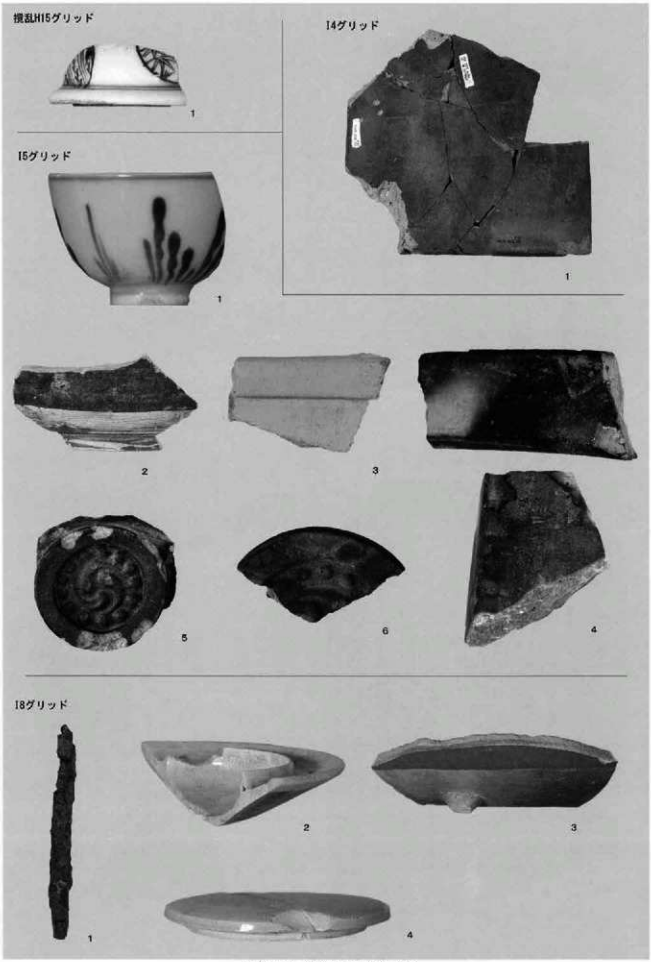


写真 212　遺構外出土遺物（56）

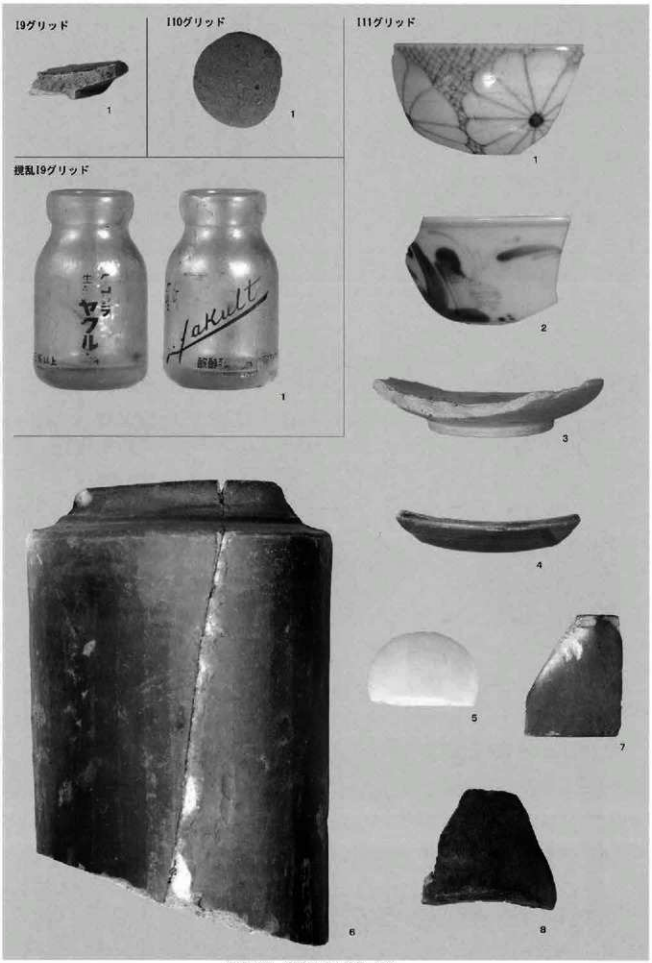


写真 213　遺構外出土遺物（57）

撹乱I11グリッド

1

撹乱I12グリッド

1

J8グリッド

2

1

3

5

4

6

写真 214　遺構外出土遺物（58）

調査区

1

2

3

4

5

6

7

写真 215　遺構外出土遺物（59）

第５章　自然科学分析

第１節　環境考古学分析

株式会社古環境研究所

１．はじめに

甲府城下町遺跡市役所庁舎地点の発掘調査では、18世紀前半の武家屋敷の庭に設けられていたと考えられる井戸や池が検出された。井戸や池などの堆積物中には、有機質遺体が比較的良好に保存されていることが多い。そこで、これらの遺構から採取された堆積物と、出土した昆虫遺体や貝類について環境考古学分析（花粉分析、微細物分析、昆虫同定、貝類同定）を行い、環境や生業の検討を行うことになった。

花粉分析では、比較的広域な範囲の植生・環境の復原が行われ、遺跡の遺構内の堆積物などからは局地的な植生が推定される。微細物分析では、堆積物中よりやや小型からやや大型の種実遺体や木材遺体を検出・同定することで、環境および植物利用が推定される。昆虫遺体同定は、昆虫が比較的限定された環境で生息する種類が多いことから、環境を知る手がかりとなる。貝類同定では主に食生活の推定ができる。

ここでは、これら複数の分析を併せて行い、江戸時代の甲府城下町における環境と生業や流通の一端を明らかにする。

２．花粉分析

（１）試料と方法

試料は、18世紀前半の武家屋敷の庭に設けられていたと考えられる１号池より採取された堆積物である。

（２）方法

花粉の分離抽出は、中村（1967）の方法をもとに、以下の手順で行った。

１）試料から１cm3を採量

２）0.5%リン酸三ナトリウム（12水）溶液を加え15分間湯煎

３）水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去

４）25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置

５）水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１のエルドマン氏液を加え１分間湯煎）実施

６）再び氷酢酸を加えて水洗処理

７）沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製

８）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の分類は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。同定分類には所有の現生花粉標本、島倉（1973）、中村（1980）を参照して行った。イネ属については、中村（1974，1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。

（３）結果

１）分類群

出現した分類群は、樹木花粉16、樹木花粉と草本花粉を含むもの３、草本花粉10、シダ植物胞子２形態の計31である。これらの学名と和名および粒数を表１に示し、花粉数が200個以上計数できた試料は、周辺の植生を復元するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを作成し図１に示す。主要な分類群は顕微鏡写真に示した。また、寄生虫卵についても検鏡した結果、１分類群が検出された。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

トウヒ属、マツ属複維管束亜属、スギ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属－アサダ、クリ、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ、エノキ属－ムクノキ、サンショウ属、ツツジ科、トネリコ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科－イラクサ科、コキノシタ科、マメ科

〔草本花粉〕

オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、タデ属、アカザ科－ヒユ科、アブラナ科、セリ亜科、タンポポ亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

〔寄生虫卵〕

回虫卵

以下にこれらの特徴を示す。

表1　甲府城下町遺跡　市役所庁舎地点における花粉分析結果

分類群		1号池
学名	和名	
Arboreal pollen	樹木花粉	
Picea	トウヒ属	1
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	26
Cryptomeria japonica	スギ	5
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	4
Alnus	ハンノキ属	6
Betula	カバノキ属	6
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属-アサダ	5
Castanea crenata	クリ	13
Fagus	ブナ属	2
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	335
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	2
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ	3
Celtis-Aphananthe aspera	ユノキ属-ムクノキ	25
Zanthoxylum	サンショウ属	1
Ericaceae	ツツジ科	1
Fraxinus	トネリコ属	1
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	10
Saxifragaceae	ユキノシタ科	1
Leguminosae	マメ科	3
Nonarboreal pollen	草本花粉	
Sagittaria	オモダカ属	1
Gramineae	イネ科	55
Oryza type	イネ属型	7
Cyperaceae	カヤツリグサ科	7
Polygonum	タデ属	1
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	13
Cruciferae	アブラナ科	7
Apioideae	セリ亜科	1
Lactucoideae	タンポポ亜科	5
Artemisia	ヨモギ属	4
Fern spore	シダ植物胞子	
Monolate type spore	単条溝胞子	3
Trilate type spore	三条溝胞子	3
Arboreal pollen	樹木花粉	436
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	14
Nonarboreal pollen	草本花粉	101
Total pollen	花粉総数	551
Pollen frequencies of $1cm^3$	試料$1cm^3$中の花粉密度	4.3×10^3
Unknown pollen	未同定花粉	10
Fern spore	シダ植物胞子	6
Helminth eggs	寄生虫卵	
Ascaris(lumbricoides)	回虫卵	1
Total	計	1
Helminth eggs frequencies of $1cm^3$	試料$1cm^3$中の寄生虫卵密度	0.7×10
Stone cell	石細胞	(-)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	( )
Charcoal fragments	微細炭化物	(-)

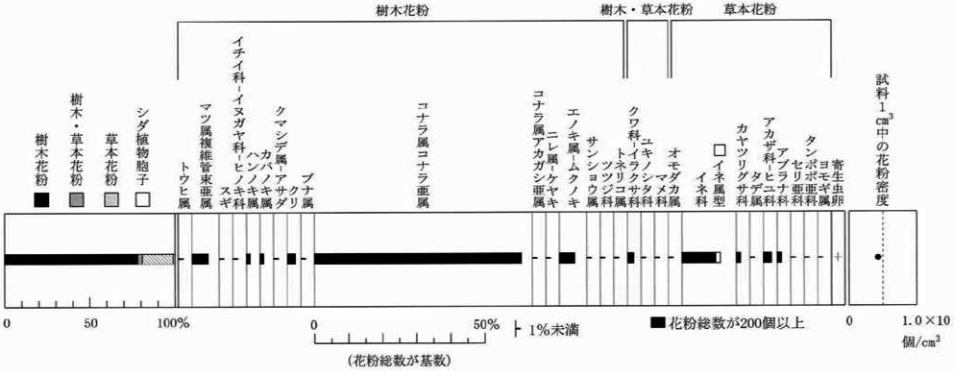


図1　甲府城下町遺跡1号池における花粉ダイアグラム

・回虫　Ascaris (lumbricoides)

回虫は、世界に広く分布し、現在でも温暖・湿潤な熱帯地方の農村地帯に多くみられ、卵には受精卵と不受精卵がある。遺跡の堆積物の分析では、堆積年数や薬品処理のため、受精卵と不受精卵の区別は不明瞭である。比較的大きな虫卵で、およそ 80 × 60 μ m あり楕円形で外側に蛋白膜を有し、胆汁色素で黄褐色ないし褐色を呈する。糞便とともに外界に出た受精卵は、18 日で感染幼虫包蔵卵になり経口摂取により感染する。

2）花粉群集の特徴（図１）

樹木花粉が 78.0%、草本花粉が 18.0%を占める。樹木花粉では、コナラ属コナラ亜属が高率に優占し、マツ属複維管束亜属、エノキ属－ムクノキ、クリ、ハンノキ属などの樹木花粉が望われる。わずかにツツジ科、サンショウ属が出現する。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）、アカザ科－ヒユ科、アブラナ科、カヤツリグサ科などが出現し、クワ科－イラクサ科が出現する。わずかに回虫卵が検出された。

（4）花粉分析から推定される植生と環境

コナラ属コナラ亜属が多く、低辺地域および近隣にも生育していたとみなされる。ミズナラの落葉広葉樹林要素とコナラやクヌギの二次林要素が考えられるが、微細物分析からコナラ属コナラ節およびコナラ属クヌギ節が同定されており、二次林要素と推定される。マツ属複維管束亜属は同様にアカマツの二次林要素が考えられる。エノキ属－ムクノキは生態から遠湿地に生育するエノキ属が考えられ、ハンノキ属は湿地林を形成する。また、クリは二次林種である。以上のことから、コナラやクヌギなどのコナラ属コナラ亜属を主に、アカマツ、クリの二次林が周囲に分布し、特にコナラ属コナラ亜属は１号池の周辺や城下町にもところどころに生育していたと推定される。また城下町周辺の湿潤地にはエノキ属やハンノキ属が分布していた。武家屋敷内または周辺の城下町には、イネ科を中心にアカザ科－ヒユ科、アブラナ科の草本が分布していた。アカザ科－ヒユ科やアブラナ科は排水の良いやや乾燥した人為環境に生育すること、寄生虫卵が検出されることなどからもそうした環境が示唆される。１号池はオモダカ属が検出されていることから、湿地や池状の環境であったと推定される。また、ツツジ科やサンショウ属も植えられていた可能性がある。

３．微細物分析

（1）試料と方法

試料は１号池と同じく、武家屋敷で検出された１号井戸の堆積物である。試料（堆積物）に以下の物理処理を施して、抽出および同定を行う。

1）試料 200cm3 に水を加え放置し、泥化

2）撹拌した後、沈んだ砂礫を除去しつつ、0.25mm の篩で水洗選別

3）残渣を双眼実体顕微鏡下で観察し、種実の同定計数

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行う。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

（2）結果

1）分類群

種実遺体と炭片が検出された。種実は草本６分類群が同定され、炭化材は３分類群が同定され、他に細片で同定できない破片が多数あった。学名、和名および粒数を表２に示し、主要な分類群を写真に示す。200cm3 中の産状をダイアグラムに示す。以下に形態的特徴を記載する。

○種実遺体

・イネ科　Gramineae　穎

穎は灰褐色～茶褐色で楕円形を呈す。腹面はやや平ら。背面は丸い。表面は滑らかである。

・カヤツリグサ科　Cyperaceae　果実

茶褐色で倒卵形を呈す。断面は三角形である。

・ヒユ属　Amaranthus　種子（完形・破片）　ヒユ科

黒色で光沢がある。円形を呈し、一ヶ所が切れ込み、へそがある。断面は両凸レンズ形である。

・スベリヒユ　Portulaca　oleracea L.　種子　ヒユスベリ科

黒色で光沢がある。円形を呈し、一ヶ所が切れ込み、白い種柄がある。表面全体には突起がある。

・カタバミ属　Oxalis　種子　カタバミ科

茶褐色で楕円形を呈し、上端がとがる。両面には横方向に６～８本の隆起が走る。

・シソ属　Perilla　果実　シソ科

茶褐色で球形を呈し、下端にへそがある。表面には大きい網目模様がある。

○炭片

炭片で比較的大きなものでは、以下の３分類群が同定された。アカマツは硬質の炭があり裂炭された

表２　甲府城下町遺跡市役所庁舎地点における微細物同定結果

分類群		部位	1号井戸
学名	和名		SE-1
○Seeds and fruits	○種実		
Gramineae	イネ科	穎	1
Cyperaceae	カヤツリグサ科	果実	11
Amaranthus	ヒユ属	種子	15
		(破片)	3
Portulaca oleracea L.	スベリヒユ	種子	46
Oxalis	カタバミ属	種子	1
Perilla	シソ属	果実	2
○Charcoal	○炭片		
Pinus densiflora S. et Z.	アカマツ	炭化材片	3
Quercus sect. Prinus	コナラ属コナラ節	炭化材片	4
Quercus sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節	炭化材片	1
Total	合計		87
unknown fragments	同定不能細片	炭化材細片	20<

(300cm³中0.25mm篩)

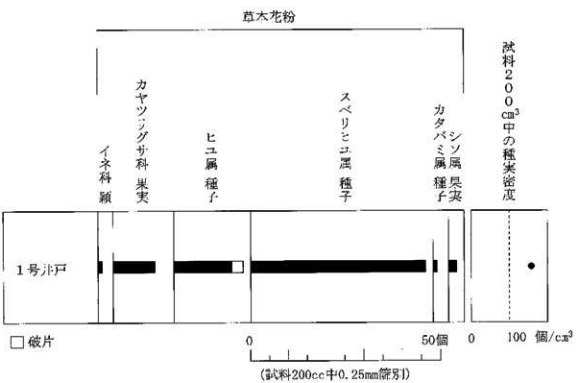


図２　甲府城下町遺跡市役所庁舎地点における微細物(種実)ダイアグラム

大炭である。他は軟質の炭でいわゆる消し炭であった。いずれも細片で精細な顕微鏡写真は撮影できなかった。

・アカマツ　Pinus densiflora S. et Z.　マツ科

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成される針葉樹材である。横断面では早材から晩材への移行は急で、垂直樹脂道が見られる。放射断面では、放射柔細胞の分泌嘴孔が窓状で、放射仮道管の内壁には著しい螺旋状肥厚が存在する。接線断面では放射組織が単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものがあり紡錘形を呈する。放射組織は熱により膨らむものが観察される。

・コナラ属コナラ節　Quercus sect. Prinus　ブナ科

横断面では年輪のはじめに大型の道管が1～数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面で道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面で放射組織は同性放射組織型で単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

・コナラ属クヌギ節　Quercus sect. Aegilops　ブナ科

横断面で年輪のはじめに大型の道管が、1～数列配列する環孔材である。晩材部では厚壁で丸い小道管が、単独でおよそ放射方向に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面で道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面で放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。コナラ属クヌギ節にはクヌギ、アベマキなどがある。

2）1号井戸産出植物遺存体群集の特徴

種実はすべて草本種実であり、スベリヒユが45と多く、次にヒユ属18、カヤツリグサ科11、シソ属2、イネ科1、カタバミ属1が同定された。スベリヒユをはじめ人里や畑地など開けた人為地に生育する草本である。炭片ではコナラ属コナラ節が4、アカマツ3、コナラ属クヌギ節1が同定された。アカマツには硬質の木炭もあった。他に炭片は同定できない微細なものが多数あった。

（3）考察

産出した種実では、スベリヒユ、ヒユ属、カヤツリグサ科を主に、シソ属、イネ科、カタバミ属などの生育が認められ、人里や畑地など比較的乾燥した人為地の環境が推定される。最も多いスベリヒユは小型の丈の低い草本であり、開けた人里の荒天が抑制された状況であり、屋敷内の環境が示唆される。炭片は燃焼したものに起因し、樹種はコナラ属コナラ節、コナラ属クヌギ節、アカマツでいずれも二次林要素である。燃料の供給源であった城下町周辺の里山が、コナラやクヌギのコナラ属やアカマツの二次林要素で構成されていたと推定される。アカマツに木炭が含まれることから、製炭された木炭が供給され用いられていた。

4．貝類同定

（1）試料と方法

試料は、18世紀前半の1号井戸、1号池から出土したものと、近代の遺物包含層（H10グリッド）から出土したものである。試料は、肉眼で観察し、形態的特徴を現生標本および貝類図鑑（奥谷編2001）の写真との対比によって同定した。

（2）結果

1号井戸から出土した貝類は、アワビ属、サザエ、マガキ、ハマグリの1属3種が、1号池から出土した貝類はマガキ1種が同定された（表3）。

・アワビ属　Haliotis

本属にはクロアワビ、メガイアワビ、マダカアワビ、エゾアワビなどが含まれており、これらは潮間帯から水深20～30mの岩礁に生息する。1号井戸から1点が出土しており、上記のいずれかと思われるが1/3が破損しており、属までの同定に留めた。破損部を復元すれば、殻の最大径は小さくても10cmを越える。

・サザエ　Turbo cornutus

本種は、潮間帯下部～水深20m、主に岩礁に生息する。殻体から突出する棘の有無、長さ、密度は個体によって変位が著しく、内海では無棘、外海では有棘の個体が多いという傾向がある。1号井戸から1点が出土しており、棘が発達しており、外海で獲られた可能性がある。殻長は、79.1mmを測る。

・アカガイ　Anadara broughtonii

本種は、水深5～50mの内湾の砂泥底に生息する。H10グリッドから左殻1点が出土しており、殻高

表3　甲府城下町遺跡市役所庁舎地点における貝類同定結果

遺構名		分類群 学名	分類群 和名	部位	殻高(mm)	殻長(mm)	備考
H10	17	*Anadara broughtonii*	アカガイ	左	87.2	105.8	
01号井戸	33	*Crassostrea gigas*	マガキ	左			
01号井戸	一括	*Meretrix lusoria*	ハマグリ	左	約35	約45	残存部分
01号井戸	一括	*Haliotis*	アワビ属				
01号井戸	一括	*Turbo cornutus*	サザエ			79.1	トゲ有
01号池	380	*Crassostrea gigas*	マガキ	右			
01号池	572	*Crassostrea gigas*	マガキ	左			

87.2mm、殻長105.8mmを測る大形の個体である。

・マガキ　Crassostrea gigas

本種は、汽水性内湾の潮間帯から潮下帯の砂礫底や泥のような所の泥底に生息する。1号井戸から1点(左)、1号池から2点(左1右1)が出土している。やや大きな個体である。

・ハマグリ　Meretrix lusoria

本種は、潮間帯下部から水深20mの内湾の砂泥底に生息する。1号井戸から左殻1点が出土している腹縁の一部が破損しているが、残存部でおよそ殻高35mm、殻長45mmと推定される。

(3) 考察

調査地は、18世紀前半は武家屋敷地に相当し、1号井戸と1号池から出土した貝類は屋敷内で生じた生ゴミと考えられる。また、近代には山梨県庁が建設され、その時に整地された上層からもアカガイが1点出土している。出土資料はいずれも食用となる貝種であり、中・近世には美味なもの、高級なものとして位置づけられる。18世紀に成立した『黒白精味集』ではアカガイ、アワビ、カキは「上」に、サザエ、ハマグリは「中」に格付けされている(松下・吉川・山下1988、1989)。このような高級食材が消費されていたことは、当地甲府藩柳沢氏の家老である平岡氏の屋敷地と推定されることと矛盾しないだろう。出土量は少ないが、江戸時代中期には内陸の山梨に、海産貝類が殻付きで持ち込まれていたことを示し、生食を目的としたものであった可能性も考えられる。甲府城下町遺跡では、18世紀～19世紀のカツオやタラなどの海産魚類が出土しており(山梨県立博物館編2008)、近世の流通技術の発達が窺える。現代でも山梨の煮貝は有名であり、江戸時代後期には製造されていたことが知られ、保存加工というだけでなく、加工することで旨みを引き出す効果があった(山梨県立博物館編2008)。食品加工技術の発達も内陸部における海産物の消費を促したことが推測される。

5．昆虫遺体同定

(1) 試料と方法

試料は、県庁13号基礎18地点の1点である。堆積物に付着した状態であり、水とコ:チルアルコールを加えながら堆積物を泥化しながら分離した。同定は、肉眼および実体顕微鏡で観察して行った。

(2) 結果

同定の結果、ガムシ属1が同定された(表4)。以下に観察された特徴を記す。

・ガムシ属　Hydrophilus　ガムシ科

黒色を呈し、胸部と腹部が残存し、頭部、上翅をはじめ他は外れている。後胸突起が腹部まで長く達する。本試料は大きさが2.8cmほどで後胸突起が腹部のどこまで達するかが不鮮明であるため、ガムシ属の同定に留めた。ガムシおよびコガタガムシにあたる。

表4　甲府城下町遺跡市役所庁舎地点における昆虫遺体同定結果

試料名		分類群 学名	分類群 和名	部位
県庁13号基礎	18	*Hydrophilus* (Hydrophilidae)	ガムシ属 (ガムシ科)	胸部・腹部・その他

（3）生息環境

ガムシ属は池や沼など小さな止水に生息することから、県庁13号基礎18地点が池や沼の環境であったと考えられる。

6．まとめ

甲府城下町遺跡市役所庁舎地点において、18世紀前半当時の武家屋敷の環境考古学分析を行った。18世紀前半の武家屋敷の庭に設けられていたと考えられる1号池の花粉分析では、コナラ属コナラ亜属が優占し、屋敷内および周辺地域および城下町にもコナラ属コナラ亜属の樹木が生育分布していたとみなされた。1号池の微細物分析において検出された炭片からはコナラ属コナラ節およびコナラ属クヌギ節が同定され、このことと一致する。花粉分析で検出されたマツ属複維管束亜属は炭片ではアカマツが対比され、コナラやクヌギなどのコナラ属コナラ亜属を主にアカマツ、クリの二次林種が城下町周辺の里山に分布していた。炭片は燃料に起因すると考えられるが、アカマツの炭片に木炭が含まれており、製炭された炭が供給され用いられていたとみなされる。

武家屋敷内または周辺には、花粉群集からイネ科を中心にアカザ科－ヒユ科、アブラナ科の生育が、種実群集からはスベリヒユ、ヒユ属、カヤツリグサ科を主にシソ属、イネ科、カタバミ属の生育がそれぞれ示唆された。いずれも排水の良いやや乾燥した人為環境に生育するやや小型の草本である。なお、オモダカ属が検出されていることから、1号池は滞水した環境であったと推定される。また、ツツジ科やサンショウ属も生育し、屋敷内に植えられていた可能性も考えられた。

18世紀前半の井戸と池、近代の遺物包含層（H10グリッド）から出土した貝類は、アワビ属、サザエ、マガキ、ハマグリが同定され、内陸の山梨に海産貝類が殻付きで持ち込まれていたことが示唆された。これらは当時比較的高級な食材であり、甲府藩柳沢氏の家老である平岡氏の屋敷地と推定されることと矛盾しない。

県庁13号基礎18地点の昆虫遺体は水生昆虫のガムシ属であり、当地が池や沼の環境であったことが推定された。

参考文献

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集，60p.

中村純（1967）花粉分析．古今書院，p. 82-102.

中村純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として．第四紀研究，13, p. 187-193.

中村純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，第10号，p. 21-30.

中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第13集，91p.

笠原安夫（1985）日本雑草図説，養賢堂，494p.

笠原安夫（1988）作物および田畑雑草種類．弥生文化の研究第2巻生業，雄山閣，p. 131－139.

南木睦彦（1992）低湿地遺跡の種実．月刊考古学ジャーナルNo. 355，ニューサイエンス社，p. 18－22.

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p. 20-48.

佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の組胞．木材の構造，文永堂出版，p. 49-100.

島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，p. 296.

山口昌久（1993）日本列島における大型遺物出土遺跡文献集成，植生史研究特別第1号，植生史研究会，p. 242.

日本昆虫学会（1955）原色日本昆虫図鑑甲虫編，保育社.

岡島秀治（1983）日本の甲虫．自然観察シリーズ15生態編，小学館.

上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝（1985）原色日本甲虫図鑑（II），保育社.

森本桂（2007）新訂原色昆虫大図鑑第II巻（甲虫篇），北隆館.

奥谷喬司編（2001）日本近海産貝類図鑑，東海大学出版会.

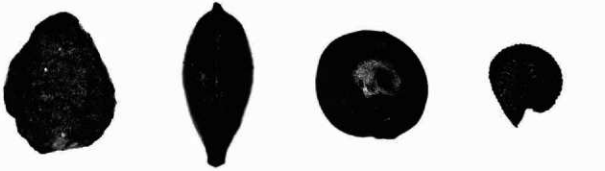
松下幸子・吉川誠次・山下光雄（1988）古典料理の研究（13）－『黒白精味集』について．千葉大学教育学部研究紀要第36巻第2部．千葉大学教育学部，p. 307-346.

松下幸子・吉川誠次・山下光雄（1989）古典料理の研究（14）『黒白精味集』中・下巻について．千葉大学教育学部研究紀要第37巻第2部．千葉大学教育学部，p. 221-290.

山梨県立博物館編（2008）甲州食べ物紀行，山梨県立博物館.

甲府城下町遺跡　市役所庁舎地点の微細物(種実)

・1号井戸



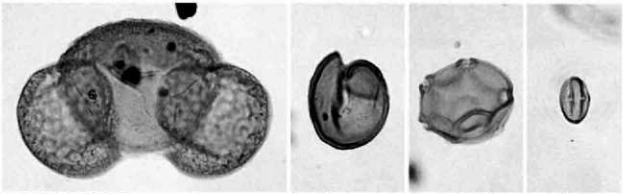
1　イネ科穎　0.5mm　2　カヤツリグサ科果実　0.5mm　3　ヒユ属種子　0.5mm　4　スベリヒユ種子　0.5mm

5　スベリヒユ種子　0.5mm　6　スベリヒユ種子　0.5mm　7　カタバミ属種子　0.5mm　8　シソ属果実　0.5mm

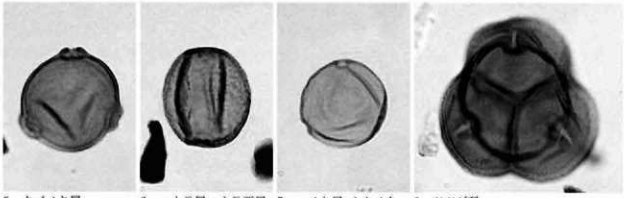
甲府城下町遺跡　市役所庁舎地点の昆虫

5.0mm　5.0mm

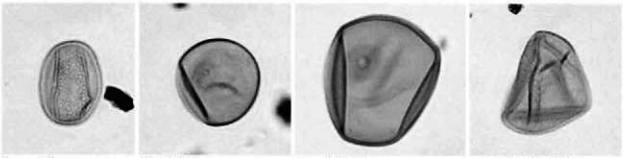
ガムシ属（県庁13号基礎　18）



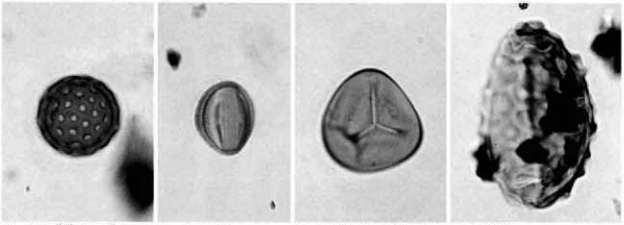
1　マツ属複維管束亜属　2　スギ　3　ハンノキ属　4　クリ



5　カバノキ属　6　コナラ属コナラ亜属　7　エノキ属-ムクノキ　8　ツツジ科



9　マメ科　10　イネ科　11　イネ属型　12　カヤツリグサ科

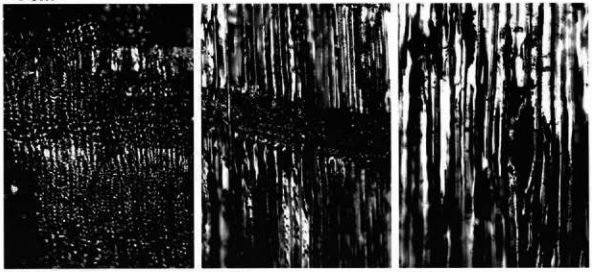


13　アカザ科-ヒユ科　14　ヨモギ属　15　シダ植物三条溝胞子　16　回虫卵

10 μm

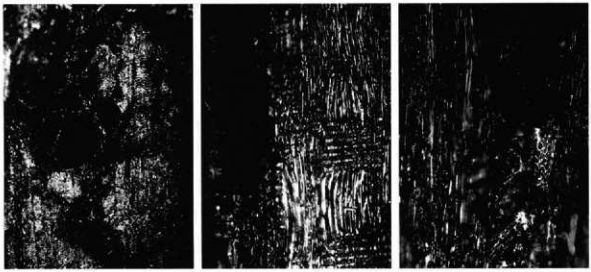
甲府城下町遺跡　市役所庁舎地点の微細物（炭片）

・1号井戸



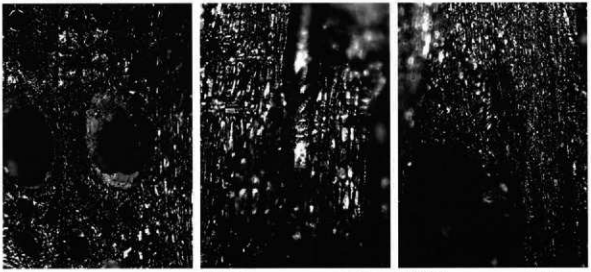
横断面 ―――― ：0.15mm　放射断面 ―――― ：0.15mm　接線断面 ―――― ：0.15mm

1．マツ属複維管束亜属



横断面 ―――― ：0.3mm　放射断面 ―――― ：0.15mm　接線断面 ―――― ：0.15mm

2．コナラ属コナラ節

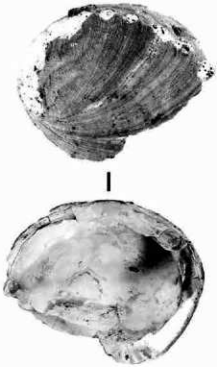


横断面 ―――― ：0.3mm　放射断面 ―――― ：0.15mm　接線断面 ―――― ：0.15mm

3．コナラ属クヌギ節

1.0cm

アカガイ

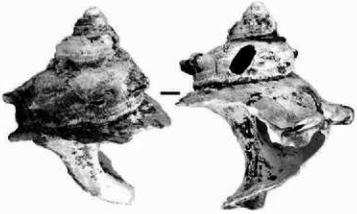


1.0cm

アワビ属

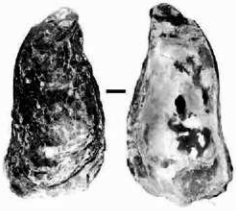
1.0cm

ハマグリ



1.0cm

サザエ



1.0cm

マガキ

第２節　樹種同定

株式会社古環境研究所

1.　はじめに

木製品の材料となる木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、出土した木材の樹種を明らかにすることで比較的近隣の森林植生の推定が可能である。また、木製品では樹種による利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

ここでは、甲府城下町遺跡市役所庁舎地点より出土した木材について、木材解剖学的手法を用いて樹種同定を行い、当時の木材利用について検討する。

2．試料

試料は、甲府城下町遺跡市役所庁舎地点より出土した江戸時代中期～後期の木材23点と、明治時代の県庁（洋風建築）の基礎に用いられた木材11点の合計34点である（表１）。

3．方法

カミソリを用いて試料から新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって40～1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

4．結果

表１に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

1）カラマツ　Larix kaempferi Carr.　マツ科

写真１

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管および垂直、水平両樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成さ

表１　甲府城下町遺跡市役所庁舎地点における樹種同定結果

通し№	番号	時期	結果（学名／和名）	
1	1号池211	江戸時代中期～後期	*Larix kaempferi* Carr.	カラマツ
2	1号池280	江戸時代中期～後期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
3	1号池188	江戸時代中期～後期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
4	1号池195	江戸時代中期～後期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
5	1号池276	江戸時代中期～後期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
	1号池276(炭木)	江戸時代中期～後期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
6	54号ピット1_5	江戸時代中期～後期	*Tsuga*	ツガ属
7	54号ピット1_1	江戸時代中期～後期	*Tsuga*	ツガ属
8	55号ピット1_6	江戸時代中期～後期	*Tsuga*	ツガ属
9	55号ピット1_1	江戸時代中期～後期	*Tsuga*	ツガ属
10	29号ピット2	江戸時代中期～後期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
11	7号土坑5	江戸時代中期～後期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
12	県庁16号基礎3	江戸時代中期～後期	*Tsuga*	ツガ属
13	2号井戸桶底	江戸時代中期～後期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
14	1号井戸桶側	江戸時代中期～後期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
15	2号井戸桶側	江戸時代中期～後期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
16	県庁11号基礎枕木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ
17	県庁9号基礎枕木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ
18	県庁13号基礎枕木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ
19	県庁9号基礎胴木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ
20	県庁10号基礎胴木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ
21	県庁9号基礎胴木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ
22	県庁10号基礎枕木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ
23	県庁10号基礎胴木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ
24	県庁9号基礎枕木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ
25	県庁9号基礎胴木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ
26	1号池277	江戸時代中期～後期	*Tsuga*	ツガ属
27	1号池279	江戸時代中期～後期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
28	8号土坑1	江戸時代中期～後期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
29	9号土坑1隅	江戸時代中期～後期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
30	9号土坑1底	江戸時代中期～後期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
31	10号土坑1隅	江戸時代中期～後期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
32	10号土坑1底	江戸時代中期～後期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
33	1号池220	江戸時代中期～後期	*Tsuga*	ツガ属
34	県庁9号基礎胴木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ

れる針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は極めて急で、早材部と晩材部では仮道管の細胞壁の厚さの差が著しい。垂直樹脂道が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔はトウヒ型からヒノキ型を示し、1分野に3～5個存在する。放射仮道管の有縁壁孔対の断面は、壁孔縁の先端が丸みを帯びるかややとがったものが多く、孔口も比較的大きい。軸方向仮道管の有縁壁孔が2列のものが見られる。

接線断面：放射組織は単列で1～20細胞高であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の形質よりカラマツに同定される。カラマツは本州（石川県、静岡県から宮城県まで）の主に亜高山帯に分布し、北海道では広く植栽されている。落葉の針葉高木で、高さ30m、径1mに達する。材は耐久性が強く、建築材、土木材、造船材などに用いられる。

2）ツガ属　Tsuga　マツ科　写真2

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞及び放射仮道管から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は急である。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、スギ型でややヒノキ型の傾向を示し、1分野に2～4個存在する。放射仮道管が存在し、その壁には小型の有縁壁孔が存在する。樹脂細胞が存在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりツガ属に同定される。ツガには、ツガ、コメツガがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で通常高さ20～25m、径50～80cmである。材は耐朽性、保存性ともに中庸で、建築、器具、土木、薪炭などに用いられる。

3）アカマツ　Pinus densiflora Sieb. et Zucc.　マツ科　写真3・4

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は急で、垂直樹脂道が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁には著しい鋸歯状肥厚が存在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の形質よりアカマツに同定される。アカマツは、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ40m、径2mに達する。材は重硬な良材で水湿によく耐え、広く用いられる。

4）スギ　Cryptomeria japonica D.Don　スギ科　写真5

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。樹脂細胞が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で、1分野に2個存在するものがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、10細胞高以下のものが多い。樹脂細胞が存在する。

以上の形質よりスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、高さ40m、径2mに達する。材は軽軟であるが強靭で、広く用いられる。

5）ヒノキ　Chamaecyparis obtusa Endl.　ヒノキ科　写真6

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で1分野に2個存在するものがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、1～15細胞高である。

以上の形質よりヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ40m、径1.5mに達する。材は木理通直、肌目緻密で強靭であり、耐朽性、耐湿性も高い。良材であり、建築など広く用いられる。

5．考察

同定の結果、甲府城下町遺跡市役所庁舎地点の木材のうち、江戸時代中期～後期の木材23点はスギ10点、ツガ属7点、ヒノキ5点、カラマツ1点であった。いずれも針葉樹であり、木理通直で大きな材がとれる材である。どれも良材であるが、スギやツガ属、カラマツは肌目がやや粗いのに対し、ヒノキは肌目も細かく特に保存性が高く、最良の木材の一つである。スギ、ヒノキ、ツガ（ツガ属）は温帯に広く分布する常緑針葉高木であり、コメツガ（ツガ属）

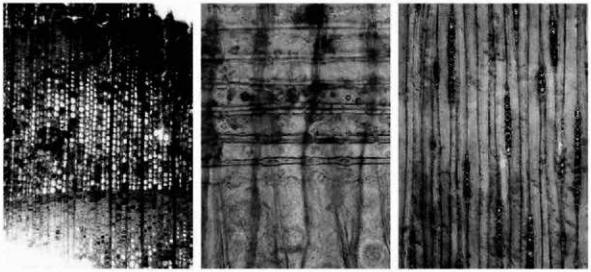
とカラマツは亜高山帯に分布する常緑針葉高木である。
明治時代の鼠庁（洋風建築）の基礎に用いられた木材11点は、全てアカマツであった。アカマツは温帯を中心に広く分布するが、二次林や里山を形成する常緑針葉高木である。木理はおおむね通直で肌目はやや粗いが、水湿に良く耐え、また強度の高い材である。そのため、アカマツが建築部材の中でも建物基礎に利用されたと考えられる。

参考文献

佐伯浩・原田浩(1985)針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p. 20-48.
佐伯浩・原田浩(1985)広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p. 49-100.
島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，p. 296.
山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成，植生史研究特別第1号，植生史研究会，p. 242.

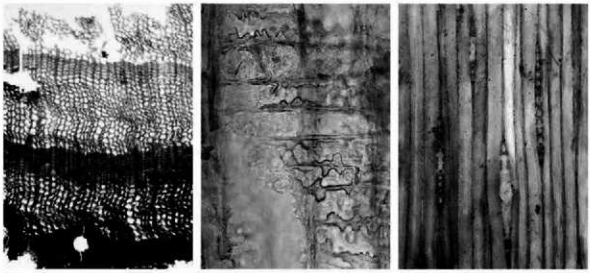
横断面 ―――― : 0.2mm　放射断面 ―――― : 0.1mm　接線断面 ―――― : 0.2mm

1．1　M2　カラマツ



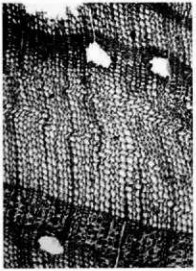
横断面 ―――― : 0.5mm　放射断面 ―――― : 0.05mm　接線断面 ―――― : 0.2mm

2．7　M262　ツガ属



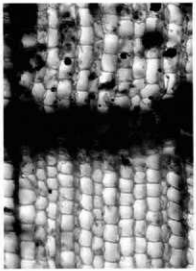
横断面 ―――― : 0.5mm　放射断面 ―――― : 0.05mm　接線断面 ―――― : 0.2mm

3．23　M312　アカマツ



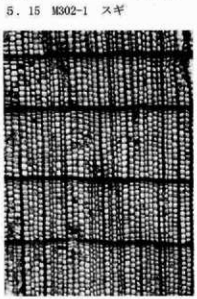
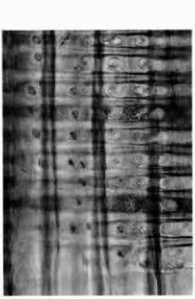
横断面 ―――― : 0.5mm　放射断面 ―――― : 0.05mm　接線断面 ―――― : 0.2mm

4．25　M314　アカマツ



横断面 ―――― : 0.2mm　放射断面 ―――― : 0.05mm　接線断面 ―――― : 0.2mm

5．15　M302-1　スギ

横断面 ―――― : 0.5mm　放射断面 ―――― : 0.05mm　接線断面 ―――― : 0.2mm

6．4　M157　ヒノキ

第3節　人骨・動物骨同定

聖マリアンナ医科大学　澤山純明

甲府城下町遺跡市役所庁舎地点から出土した近世～近代の人骨と動物骨について、肉眼形態学的検討を実施した。動物骨の計測はDriesch（1976）と茂原（1986）にしたがった。以下に、出土骨の観察所見を遺構別ないしグリッド別にまとめて報告する。なお、焼痕や明瞭な解体痕は見当たらなかった。

1号集石

ヒトの右上顎中切歯（写真1-6）。咬耗はMolnarの2度で、軽度である。舌側面はシャベル状を呈する。齲蝕はなし。歯冠に1本のエナメル質減形成が認められる。人骨は他に見つかっておらず、この上顎中切歯の由来は判然としない。

1号池

イヌの右上腕骨（写真1-14）と左大腿骨骨幹部（写真1-16）、ネズミ科の右下顎骨（写真1-7）、ニワトリの左足根中足骨（写真1-5）、および種不明の骨（らしき）小片が出土した。イヌ上腕骨の最大長は162mm。イヌの左大腿骨骨幹部も大きく、上腕骨と同じ個体のものと思われる。

イヌ上腕骨の最大長をもとに、山内（1958）のIII式で体高を復元したところ、48.1cmの値を得た。これは仙台城三ノ丸遺跡出土犬骨（茂原・小野寺，1985）の体高49.0cmに匹敵する大きさで、日本在来犬の中ではやや大型の部類に属する。中近世の遺跡で比較的大型のイヌが散見されることが確認されており（茂原・小野寺，1987）、本例もそうした様相に通じるものといえよう。

1号井戸

イヌの右橈骨（写真1-15）。最大長は137mmで、比較的大型である。

1号溝

シカの左脛骨骨幹後部断片（写真2-4）。

県庁1号基礎

マダイの右歯骨とタイ科の右舌顎骨（写真1-1・2）。

県庁3号基礎

スズキの腹椎（写真1-3）。

E11グリッド

ウマの左中手骨（写真2-5）と種不明四肢骨片。

E12グリッド

ブタ（またはイノシシ）の右肩甲骨（写真2-1）、シカの左中手骨（写真2-3）、タヌキの左肩甲骨、左上腕骨（写真1-9）、右尺骨（写真1-10）、左尺骨（写真1-11）、左大腿骨骨幹小片、尾椎。ブタの肩甲骨は小さく、関節窩の癒合が完了していないことから未成獣である。

F15グリッド

種不明鳥類の四肢骨小片2点。

G11グリッド

ニワトリの右大腿骨（写真1-4）と種不明魚類の背鰭棘。

H10グリッド

タイ科の血管棘。

H14グリッド

ブタまたはイノシシの右上腕骨（写真2-2）。

I5グリッド

種不明骨片。

I08グリッド

イヌの脳頭蓋（写真1-12）と左上顎骨（写真1-13）。脳頭蓋は大型であり、1号池出土四肢骨と同等のサイズのように見受けられる。

I11グリッド

ネコの右橈骨（写真1-8）。完形が保存。最大長は86mm。

まとめ

甲府城下町遺跡市役所庁舎地点から近世～近代のヒト上顎中切歯1点と動物骨約30点が出土した。動物骨は、少ない点数にも関わらず豊富な種類で構成されており、陸上動物ではイヌ、ネコ、タヌキ、ウマ、シカ、ブタ（またはイノシシ）、ネズミ、ニワトリが同定された。ほかにマダイやスズキといっ

た海産魚類も出土しており、内陸まで海産物が運ばれ消費されていた様相がうかがわれた。

謝辞

動物骨の同定に際し、京都大学名誉教授の茂原信生先生と宮城県東松島市奥松島縄文村歴史資料館の菅原弘樹館長より貴重なご教示を賜った。写真図版の作成には佐伯史子氏のご助力を得た。記して深謝の意を表したい。

文献

Driesch A. 1976. A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Sites. Peabody Museum Press, Cambridge.

茂原信生．1986．イヌの骨格および歯の計測法．東京大学総合研究資料館標本資料報告，13（東京大学総合研究資料館所蔵長谷部言人博士収集犬科動物資料カタログ）：30-36.

茂原信生・小野寺覚．1985．仙台城三ノ丸跡出土の17世紀犬骨について．仙台市文化財調査報告書第76集，仙台市教育委員会，pp.547 559.

茂原信生・小野寺覚．1987．鎌倉材木座出土の中世犬骨．人類学雑誌，95：361-379.

山内忠平．1958．犬における骨長より体高の推定法．鹿児島大学農学部学術報告，7：125-131.

(スケールバー：3cm)

1

2

3

4

5

(スケールバー：3cm)

第6章　まとめ

第1節　遺構の時代区分

今回の発掘調査では遺構の切り合い関係、出土遺物などから、近世・近代にかけて大きく3時期に分けて遺構を検出することが出来た。最も古い時期では宝永元年（1704）から享保9年（1729）の甲府藩柳沢氏の領有期のもので、記録にみられる城代の平岡得能屋敷の一部と考えられるものである。この時期の遺構としては1号池、2号集石、1号井戸などがあげられ、屋敷の庭の一部や、食生活の一部を窺うことが出来る。1号池は全貌を確認できたわけではないが、検出範囲のみで周囲68.2m、面積138.4㎡の大きさである。池中には周囲17.3m、面積22.2㎡の中島が作られている。ひょうたん形に見える池の括れ部には橋が架けられていたと考えられる。池の位置は調査区では西側に位置する。当時で考えると敷地東側が甲府城大手門から真っ直ぐに南下するメインストリートに面していたことになり、東側が表である。一方、西側は甲府城二の堀に面した屋敷の奥になり、1号池は屋敷の奥に設けられた庭園に作られていたといえる。1号池の縁の2号集石では敷き詰められた小石の中に橋へと向かう飛び石が並べられていた様子がわかる。池の縁辺には杭が打たれ土留め板で池の上端が保持されている。その後、1号池と同じ位置に明治期の山梨県庁、昭和期の水道局倉庫が建築されたため、1号池は上部に削平を受け、検出状況では飛び石と池の上端に落差が認められるが、当時は池の上端がより高く、飛び石と平坦面あるいは緩斜面でつながっていたと考えられる。1号井戸からは貝類でマガキ、ハマグリ、アワビ、サザエなどが検出され、いずれも安の大きさが大きいことが特徴である。食材としても高級品であるこれらの貝が、内陸の地でしかも大ぶりなものが消費されていたということは、屋敷内での食生活の豊かさを示す貴重な資料となっている。

次の時期区分として享保9年の柳沢氏の大和郡山移封後から幕末までの甲府勤番支配期がある。前述の1号池は陶磁器や上器ばかりではなく、柱などの建材や手鏡の枠、羽子板、下駄、曲物、漆器、桶、柄杓などの日用品が投げ込まれて埋められている。1号井戸も埋められて廃に2号井戸が新設されている。5mの深さを持ち地下水を汲み上げる方式の1号井戸に対し、2号井戸は甲府上水を敷地内に引き込み、大型の桶に貯める方式の井戸である。敷地北側から、底面に粘土が貼られた9号溝が2号井戸まで続いている。9号溝は2号井戸へ到達する直前で埋められた1号井戸の上を通過している。また、9号溝には中継地点として3号井戸が設けられている。この井戸は大手役宅の絵図面上の広場にみられる井戸（流し）に相当すると考えられる。2号井戸が口径70cm、底径80cm、深さ90cmの大型な桶であるのに対し、3号井戸は底径40cm、残存部位で深さ20cmの桶である。この桶には胴部に直径2.5cmの穴が一つと幅9cm、残存部位で高さ4cmの四角い窓が一つ開けられている。四角い窓には上水を送水する樋が設置されていたと考えられる。確認できたのは南側の出水側だが北側にも同様に取水側の樋を受ける窓が設けられていたと考えられる。そして、小さな丸い穴が送水途中の地点で上水を利用するための蛇口のような役割を果たしており、これが絵図に見る井戸（流し）の正体であると思われる。

2号井戸の西隣には壁面や底面が焼けた土坑（1号～6号・30号）が集中している。ここは上間であり、土坑はカマドと考えられる。絵図面中にも井戸の脇には下台所、上間という表記が見て取れる。また、土坑底辺の土層断面の観察から三和土を作ってから、その範囲内で土坑を掘り込み作り替え、移設を繰り返していると考えられる。また、最も新しい1号・2号土坑が円形で焚口が北側を向いているのに対して、それ以前の3号～6号・30号土坑は方形で焚口が西を向いているという差異が認められるが、いずれにしても水場と炊事場は隣接して長期にわたりセットで使用されていたと考えられる。また、調査区東側では大手役宅の表門から玄関の間に敷かれていた小石と考えられる1号集石が検出されている。1号集石では塀の礎石列と考えられる直行する石列が2条検出されている。

埋められた1号池には新たに埋め桶（7号～10号・13号土坑）などが設置されている。湯殿や厠といった関連の施設が作られていたと考えられる。

そして、次の時期にこれらの埋め桶も削平を受けて、明治10年（1877）に山梨県庁所庁舎が建築されている。検出されたのは内務省型とよばれるE字形をした県庁の正面玄関と両翼部の一部である。杭を打ち三石で補強し、その上に枕木、胴木、根石、礎石と重ね、その隙間を更に玉石で充填することで胴木以下のアカマツを用いた材木が水に浸かるように集水するという基礎構造が明らかになった。

第2節　県庁舎建設前史

1. はじめに

維新直後、大手役宅を県庁舎として利用した後、明治10年（1877）、E字形平面をなす洋風庁舎を建設した。すでに『山梨県史』[1]に関係資料が網羅されるとともに、樋松光弘氏は県下洋風建築を集成し[2]、石田潤一郎氏は全国都道府県庁舎に対する建築史的考察を行う中で、山梨県庁舎の建築経緯・工費・規模など基礎的諸事実を明らかにし、建築的様態について詳しく考察している[3]。ここでは関係資料を収集するとともに先学に導かれつつ建築経緯を辿ってみる。

2. 建設経緯

維新以降、新庁舎建設までの経緯を踏まえておく。

(1) 甲府城内への移転計画

「御一新ノ際、取敢ズ元甲府勤番支配役宅ヘ修繕ヲ加ヘ[4]」庁舎として利用した。江戸期より多くの年月を経過した建物は、すでにその当初より建替えが問題となっていたようである。明治4年（1871）、城内の楽屋敷と称す建物を修繕した後、転用する許可を大蔵省へ求めている[5]。と同時に役割を終えた役宅や練屋などを官員住宅として利用する計画であったが、これは不許可となっている[6]。翌年、見積・図面等を添え移転計画は再協議されたが、陸軍省の許可が得られず、従来の建物を修築して利用するよう指示された[7]。

(2) 裁判所設置に伴う改修計画

明治5年（1872）8月8日、大小切税法の廃止が布告された。この後、県下各地で反対運動が起こり、24日の若尾郡焼き討ちを経た9月3日、騒動参加者への弾圧・逮捕へといたる。逮捕者の取調べ・審理のため県庁内に裁判所が設置されることとなり、この過程で改築工事が実施された[8]。翌年2月、工事の精算報告を行い、工事経費462円39銭1厘（以下462.391円のように表記する）の1/3、154.130円を官費支給分として請求している[9]。この頃、山手役宅は県病院及び官員住居として活用されており[10]、明治8年（1875）2月の移転まで病院として利用されたのち民間に払い下げられたようだ[11]。

資料No.	日付		内容
資料(6)	M8年12/15	庁舎新築の上申	長勝会支配の役宅を修繕し始め、年々増築して使用してきたが、年間500～600円の修繕費がかかる。新築経費として15,000円程を見込む。
	M9年3/ 3	指令	簡易、多様ニつき分不見合わせ候。
資料(7)	M9年3/18	庁舎改造の再上申	修繕しかし間に合ッて、本月末ヨリ住いている。再度、新更ハ可を求める。
	M9年4/1	指令	絵図面・見積し出、内新築・間数小間数不良ニて用い難キこと。
資料(13)	M9年5/5	新築地等取計を調査	経費ハ、ムカシ、絵図を御リ、外私造の御ヤ、吉野、地役国多地等するなと地費を指定する少定。
	M9年7/24	指令	金二所・吉田地所は不要。内新築を御ヤ、総建坪500坪12円ニて、家ム、後、再願待ちなと。
資料(14) 資料(15) 資料(16)	M9年8/1	新築経費を報告	建物内訳書・図面を添え、総建築費は1,396円12銭を報ずる。
	M9年10/31	指令	官地坪13,368円12銭9厘の内2,512円7銭3厘を拝借。10,856円9銭3厘を本業費とする。建築内ノ22ノ7坪建築、2ノ3ニ相当。
資料(17) 資料(18)	M9年11/13	庁舎建築のために町役代表ヘ寄付し、医学者にて市町村役員を調整する。	
資料(21)	M9年1/14	用材の払い下げ願い	国有林の谷・松・栗などが3,742本、金額にして188円18銭7厘の払い下げを願う。
	M9年2/1	指可となり、代金は大蔵省所轄から納めるよう伝える。	
資料(23)	M9年11/18	経費請求について	事業費の一部を請求する。
	M9年12/2	指令	金額支払分3,626円11銭6厘の内2,500円を支給する。
資料(26)	M10年8/13	裁判所設置について	建物代と運賃賃が見積より過剰していたため1,830円36銭5厘増額を報ずる。
	M10年10/3	指令	建築御請負間ったら、再上申すること。
資料(31)	M10年10/19	裁判所について	10年度分として4,000円を請求する。
	M13年1/6	伺令	9年度増額として300円支給したが、1,382円33銭5厘過剰ニて支給したための差引すると、1,082円33銭5厘請求額に、総額は分割支払ハ9,282円33銭5厘とする。
資料(35)	M10年1/16	開成学校の建築	11/30日午後2時、民間有志の5人出張を命じる。
資料(36)	M10年12/3	銀行建築	11月30日第銀行の視察を報告
資料(39)	M11年3/7	銀行建築について	10月度地震ノ、1,239円61銭5厚すする。物価等の変動及び地震後ヲ二ムを造成二本分を加え地平更変（4,232円50銭）度とする。
	M11年6/26	指令	現況の之通をもッて開始ト見ボ ケる。
資料(40)	M11年6/4	入学者増加ニつき入舎者は第一級常度の規定を設ける。	
資料(41) 資料(46)	M11年4/23	華上申書及び地利使令の承認を伺ふ。聖諭を入一部修する。	
資料(47)	M11年10/22	勝利書等、建物第分を知ずる。	

表1　県庁舎建設関係資料（M8年～11年）

舎新築の上申を行った。申し出には「庁中ノ体裁ハ中央ニ長次官ノ席ヲ設ケシテ、諸局ヲ左右前後ニ配置」し、「西洋形ニ擬シ」などと記載され[12]、洋風庁舎で平面形もE字もしくはI字形とするよう時流を反映した要望を挙げている。翌月、内務省より見合わすよう指示され、いったんは却下された。同年12月15日付にて再び新築の上申を行っている[13]。以後の経緯については石田氏が詳細に考察しており、元長ともなるため一表にする（表1）。

①起工から竣工まで

明治9年（1876）10月31日付で事業決定[14]を受けた後、翌月13日に仮庁舎で事務取扱を開始した[15]。翌14日付で岡中三郎、24ヶ所の官林から3,742本の用材、金額にして188.187円の払い下げを内務省に申し立て、12月1日付で許可を受けた。この間、用材の伐採から搬出・運送まで請負希望する者に対し、申し出るよう各村々へ通達している[16]。資料(26)は工事の進捗状況について「十二月中、用材伐出ニ取リ懸リ、今年四月ニ至リ大工其ノ他ノ職工ヲ雇入レ工事着手致シ候処、六月迄ニ凡ソ三分

通り落成致シ候」と記載する。
実質的な工事着手は、木材・職人とも確保した4月になってからと判明する。

明治10年(1877)10月、風害による追加工事を実施し[17]、翌月23日に開庁[18]、30日に事務取扱を開始している[19]。開庁に先立ち11月5日付で各課へ新庁舎に持ち込む備品等について指示を出し、編纂局などは16日付で持込品などを報告している[20]。竣工日は判然とせず、11月16日～23日間となろうか。約1年に及ぶ建設事業であった。

②経費

当初、工費は「人屋」ほか附属屋5棟に門・柵を加え13,396.129円と算出されていた。各建物の内訳が判明するが、単価等の算出基礎が明示されているのは「大工方」「人足方」「材木方」に限られ、他の「鍛冶方」「屋根方」「壁方」「建具方」「張付方」「地形方」「石方」「喰師方」「ペンキ塗方」などは総額が記入されているだけである(表2)。内務省は「標準例」に基づき2,517.773円を割減し、総工費10,878.356円として許可している[21]。工事期間中、賃物代及び物品運送費1,287.703円と風害による追加工事費2,066.892円が増加したため総工費は14,232.951円となり、当初より3,354.595円増加している(表3)。

資料(39)に「人民控所」の精算額が載っていないものの、資料(15)に見積額が計上され、資料(48)には修繕の記録もある。一方で精算に際し見積段階にない「雑費」という項目が登場し、1,200円余を計上しているが、これは賃物代及び物品運送代のことであり[22]、資料(39)の合計自体に齟齬は見られず、単に遺漏でもないようだ。こうした表面的な矛盾は、風害後の対処により引き起こされていた。この時、庁舎以外にも勧業製糸場や民家にも被害が及び、この対応のため県は「附属建物ノ中、差向キ新築ヲ要セサルモ格別善シツカエコレ無キ分ハ、暫ク旧形ニ据置キ、其ノ減費ヲ以テ」費用増加分に充当するという方針を立てた[23]。このため費用不足により「人民控所」の建設を取り止めた結果、精算書にその記載がないのであろう。資料(48)に載る修繕の記録は引き続き使用され、「旧形ニ据置」かれた人民控所のことであろう。

建物	内訳	大工方	1,624円17銭5厘	延べ数	6,495人	1人/25銭	
		鍛冶方	461円25銭				
		屋根方	986円30銭				
		壁方	896円25銭				
		建具方	464円25銭				
		張付方	123円36銭				
		地形方	662円90銭				
		石方	367円5銭				
		人足方	774円/銭	合4,201人		1人/18銭	
		材木方	4,098円60銭	合2,277本		1本/1円30銭	
	小計①		10,306円55銭5厘	二階建500坪		1坪/40円37銭8厘余	農商工局
人民控所	内訳	大工方	46円	672人		1人/25銭	
		鍛冶方	46円				
		屋根方	216円				
		壁方	69円/銭5厘				
		建具方	37円25銭				
		張付方	53円62銭5厘				
		石方	81円45銭				
		人足方	168円12銭	合336人		1人/18銭	
		材木方	312円	合240本		1本/1円30銭	
	小計②		979円83銭3厘	86坪		1坪/11円30銭6厘余	建物4棟・柵付2ヶ所 農商工局、村長1人1尺
酒造所	内訳	大工方	189円25銭	77人		1人/25銭	
		鍛冶方	48円30銭				
		屋根方	24円75銭				
		壁方	39円50銭				
		建具方	29円75銭				
		張付方	12円50銭				
		地形方	11円25銭				
		石方	17円45銭				
		人足方	69円48銭	合38人		1人/18銭	
		材木方	35円70銭	合27.5本		1本/1円30銭	
	小計③		99円07銭	11坪		1坪/9円01銭余	建築3間・西行3間 農商工局、郡下3尺に2間
馬場	内訳	大工方	10円	40人		1人/25銭	
		鍛冶方	2円50銭				
		屋根方	17円50銭				
		地形方	1円25銭				
		壁方	8円25銭				
		人足方	4円50銭	合25人		1人/18銭	
		材木方	31円70銭5厘				
	小計④		75円62銭5厘	7坪(間口2)		1坪/10円50銭余	
倉門	内訳	大工方	21円30銭	85人		1人/25銭	
		鍛冶方	12円30銭				
		石方	87円45銭5厘				
		建具方	87円45銭5厘				
		人足方	9円45銭	合38人		1人/18銭	
		材木方	23円85銭	合11.83本		1本/2円	
	小計⑤		61円20銭4厘				石不潔物
塀門	内訳	大工方	10円75銭	43人		1人/25銭	
		鍛冶方	3円53銭				
		石方	4円25銭				
		建具方	6円30銭				
		人足方	3円42銭	合19人		1人/18銭	
		材木方	9円63銭5厘	合5.85本		1本/1円70銭	
	小計⑥		40円14銭9厘				
表門(番所)	内訳	大工方	18円	90人		1人/20銭	
		鍛冶方	47円/銭5厘				
		屋根方	25円/銭5厘				
		壁方	8円45銭				
		建具方	9円90銭				
		地形方	8円/銭5厘				
		石方	3円30銭				
		人足方	8円45銭	合45人		1人/18銭	
		材木方	39円/銭5厘	合26.25本		1本/1円50銭	
	小計⑦		121円5銭	7.5坪		1坪/16円14銭	建築2間半・右行2間 農商工局、郡第3尺
表門(番所)	内訳	大工方	8円	32人		1人/25銭	
		鍛冶方	2円30銭				
		屋根方	13円30銭				
		壁方	8円30銭				
		建具方	8円30銭				
		地形方	3円50銭				
		石方	2円40銭				
		人足方	5円1銭	合28人		1人/18銭	
		材木方	21円30銭	合14.2本		1本/1円50銭	
	小計⑧		79円1銭	5坪		1坪/14円16銭	建物2間半・右行2間 農商工局、郡第3尺
柵(ペンキ塗)	内訳	大工方	132円75銭	750人		1人/25銭	
		鍛冶方	27円45銭				
		石方	79円/銭				
		ペンキ塗方	194円/銭5厘				
		人足方	68円/銭	合378人		1人/18銭	
		材木方	356円52銭4厘	合132.817本		1本/2円	
	小計⑨		756円36銭3厘	長延123間・高1尺			表柵下右現状通し長延べ123間・石垣2ヶ所
柵(四方丸太柵囲)	内訳	大工方	236円25銭	937人		1人/25銭	
		鍛冶方	82円15銭5厘				
		手鉄方	44円64銭				
		人足方	168円42銭	合936人		1人/18銭	
		材木方	423円27銭9厘				
	小計⑩		954円72銭4厘	長延180間・高6尺			
合計			13,396円129銭3厘				

表2 建設見積額～資料(15)より作成

No.	建物(構造物)	見積額※①	私算額※②	増減額	増減率
1	本屋	10,306円35銭5厘	11,012円76銭4厘	706円60銭9厘	6.86%
2	表門及塀	979円83銭2厘			
3	湯呑所	98円67銭	134円45銭8厘	34円78銭8厘	34.90%
4	便所	76円93銭5厘	72円61銭4厘	△3円31銭1厘	4.37%
5	玄関	87円28銭4厘	87円81銭2厘	64銭8厘	0.74%
6	玄関	40円68銭8厘	40円39銭4厘	32厘	1.57%
7	裏門番所	121円5銭	126円96銭8厘	5円91銭8厘	4.89%
8	裏門番所	76円4銭	86円96銭7厘	16円92銭7厘	24.17%
9	牧場飼養人夫第一所	756円30銭3厘	722円42銭4厘	△33円88銭9厘	4.48%
10	牧場飼養人夫第二所	856円72銭4厘	980円31銭6厘	△150円37銭2厘	23.19%
11	雑費	—	1,287円70銭1厘	—	
	総計	13,396円19銭5厘	—	△2,517円77銭3厘	※③ 23.14%
	全体(定額)	10,878円35銭4厘	14,232円93銭1厘	3,354円59銭5厘	30.84%

表3 設計見積・積算対比表

※①は資料(表4)より、※②は資料(表5)より、※③は表面上は算定対比の増減率を示す。

③図面

i 『石田氏前掲書』所載平面図（図1）

中央部を前面に、両翼を前後に突出させたI字形であり、明治9年10月時点の計画案であった。氏はこのデザインを洋風に整えられているが、部屋割りや廊下配置はぎこちなく、特に通路に不必要な面積が割いてあって、無駄が多い」と評する。

ii 『山梨県史』所載平面図（図2）

資料（15）に続き掲載されている。題字・注記など無くいかなる図面かも判然としなかったが、石田氏が計画案とした図1に酷似したデザインであるため庁舎平面図と判断した。図1とは異なる箇所も多々あり、一階では左翼部の部屋割りと背後に廊下・階段を設けている点、湯呑所の廊下が狭い点、左翼部の部屋割りなどに違いがあり、二階は右翼部北側に至る廊下と階段がある点、中央部及び左翼部に廊下を設けていることなどが挙げられる。

iii 『石田氏前掲書』所載平面図（図3）

明治32年（1899）時点の平面図であり、事務室名などが注記されている。中央と左右両翼を前方に突出させたE字形であり、一・二階とも前方にベランダをめぐらしている。

iv 『明治天皇御巡幸紀』[24] 所載平面図（図4）

明治13年（1880）、本県への行幸に際し県庁舎へ臨幸した。平面E字形となる平面図が掲載され、附属屋などが詳細に表現されている。

発掘調査から本書作成の過程で県庁舎の設計図・仕様書・その他図面などを捜し求めてきたが、以上4種の平面図を知ることができた。平面I字形となる図1.2とE字形となる図3.4に大別でき、すでに石田氏が指摘するように設計変更されたため2種

内容	内訳	金額	延べ数	単価	備考
建物(新築)費	大工方	9円60銭	26人	1人/36銭	
	棟梁方	1円75銭6厘			
	内訳 [illegible]	16銭3厘	5坪	100坪/115銭5厘	
	小計	22銭	2人半	100人/8銭	
	石工方	26銭5厘	2坪半	100坪/106銭2厘	
	内訳	1円95銭3厘	21坪半/1ヶ	1坪/4銭5厘	
	ペンキ塗方	1円44銭	12人	1人/12銭	
	大工手伝人足	1円44銭			
	材木方	1円12銭	28枚	1枚/3銭6厘	板長6尺
	内訳 [illegible]	1円12銭	28枚	1枚/3銭6厘	板長6尺
	小計	23円24銭4厘	86人半	1人/27銭	
敷地費用	小屋	19円17銭	160人	1人/12銭	
	ブーラ代	19円17銭	159坪半	1坪/12銭1厘1毛3厘	
	敷地代	2円20銭		1坪/13銭1厘1毛3厘	
	設立費	11銭8厘		1坪/5銭1厘4毛3厘	
	小計	22円54銭4厘			
手伝費	大工方	3円16銭	46人	1人/3銭	
	棟梁方	1円6銭			
	内訳 [illegible]	11銭4厘	10人	100人/1円14銭4厘	
	左官	4銭	4坪	1坪/1銭	
	鳶方	4銭	4坪	1坪/1銭	
	大工手伝人足	4銭	2人	1人/2銭	
	材木方	1円2銭6厘	尺/2枚半	尺/4銭2厘/1枚半	
	小計	4円27銭8厘	56人半		
雇金賃銀費	職人賃銀	2円25銭	24人半	1人/9銭	
	職人賃金賃銀日雇賃	62円45銭6厘	25人	1人/2円49銭8厘	
	日雇賃	39円75銭	25人	1人/1円59銭	
	職人賃銀	3円60銭6厘	24人	1人/15銭1厘5毛	
	雇人賃	2円25銭	25人	1人/9銭1厘	
	小計	109円72銭6厘			
門塀構造物費	小屋	12円	11坪	1坪/1円12銭7厘1毛	
	塀代費	36銭3厘	11坪	1坪/3銭4厘1毛	
	小計	12円36銭3厘			
建築材料運搬日雇賃	運代	6円60銭	10人	1人/66銭	
	運代費	4円	10人	1人/40銭	
	小計	6円20銭			
諸々雑費費用	運賃手当	10円70銭	10人	1人/1円07銭	
	飲食費	17円18銭5厘	25人	1人/68銭7厘4毛8厘	
	小計	27円88銭5厘			
職人手間賃等費	大工方	19円60銭	49人	1人/40銭	
	ペンキ塗方	6円60銭	10人半	1人/63銭	
	手伝人夫	1円60銭	8人	1人/20銭	
	材木方	6円72銭6厘	尺/2枚半	尺/2枚半/2円68銭1厘	
	小計	35円93銭1厘	67人半		
人馬運搬手当切り賃運搬費	大工方	1円60銭	12人	1人/13銭	
	棟梁方	4銭3厘			
	内訳 [illegible]	4銭3厘	5坪	100坪/7銭8厘	
	左官	4銭	4坪	100坪/7銭	
	内訳 [illegible]	3銭6厘	3坪半	100坪/7銭	
	石工手伝代	1円75銭	1坪	1坪/1円75銭	
	ペンキ塗方	2円	1坪	1坪/2円	
	人夫手伝人賃	1円8銭	6人	1人/13銭	
	材木方	6円70銭6厘			
	内訳 [illegible]	2円8銭6厘	10枚	1枚/2銭8厘	板長7尺
	鳶代	1円44銭6厘	尺/2枚半	尺/2銭/1円44銭6厘	
	小計	15円18銭3厘			
本工棟梁その他作成	大工方	8円	30人	1人/26銭	
	棟梁方	6円			
	内訳 [illegible]	3円60	200坪	100坪/1円80銭	
	左官	2円	200坪	100人/1銭	
	石工方	2円	140坪	100人/1銭	
	小計	14円60銭			
本屋棟梁手間	建具師	7円17銭5厘	2坪	1坪/3円58銭7厘	板代+表具
	表具屋手間	1円30銭	9人	1人/14銭	
	建具屋手間	4銭	2人	1人/20銭	
	雇人人夫	2円25銭	6人	1人/38銭	
	小計	10円77銭5厘			
馬糞場建物費	大工方	1円60銭	8人	1人/20銭	
	左官	2円25銭	40坪	1坪/5銭6厘	
	手伝人夫	1円60銭	8人	1人/20銭	
	材木方	12円75銭5厘	尺/10枚半	尺/1銭/12円75銭5厘	
	小計	17円40銭5厘			
	総計	360円11銭4厘			

表4 明治11年庁舎新築費一覧(48)より作成

の図面が存在し、図1.2は計画案で、図3.4が完成形となろう。

3. 附属屋の建設・維持管理

庁舎建設直後から更なる附属屋の建設を行うなど引き続き営繕事業を実施している。ここでは建設直後、明治11年（1878）の状況を取り上げる。

庁舎建設中の明治10年（1877）8月、地券台帳その他保存すべき帳簿多数のため、内務省に図面・見積書を添え物置の建設許可を求め、11年度予算で着工するよう指示を受けている[25]。県は指示通り翌年7月再び申し出を行い、見積どおり総工費1,685.415円を要し、十蔵造りの梁間5間・桁行

15間の物置建設を9月20日付にて許可された[26]。約一か月で竣工したらしく、県は10月15日に費用請求している[27]。

この年、7月から9月の三か月分営繕経費として260.214円を内務省に請求している[28]。廊下への手摺設置や庁舎ほか門番所・湯呑所などに戸除けのカーテンを設け、台風被害に遭ったのか風損により板壁・柵矢来を修繕し、105枚の硝子替えを行っている（表4）。他に庭木の手入れ37.592円などの経費もあり[29]、県は庁舎建設直後から更なる附属屋の建設を行うとともに、庭木の維持管理や建物修繕などに引き続き多額の経費を必要としている状況が明らかである。

4. その他資料

(1) 図

i「山梨県庁平面図」山梨県立博物館蔵（図5）

東面して入口を設け、東側街路に沿って建物が並らぶ状況が表現されている。江戸期の役宅図面と見積・平面形・屋敷構えなど基礎的要素に変化なく維新後、明治9年まで役宅を転用・利用していた時を表現している。改築・修繕を受けてはいるものの、役宅の最終形を伝える図となる。

ii「甲府日々新聞」（図6）

明治9年9月25日号に掲載されている市内鳥瞰図である。東側街路に面して門を構え、門から上要建物に向け通路が通じ、東面して玄関部が開口する。玄関脇に県旗を立て、周辺に附属屋が並ぶ状況が表現されている。明治9年11月13日には仮庁舎で事務取扱を開始しているため解体直前の姿を伝える図である。

iii「大正期の甲府市街図」（図7）

E字形庁舎の前面に泉水が、背後に通路で繋がれた議事堂ほか附属屋が建ち並ぶ状況が表現されている。敷地全体、建物群まで表現した図は数少ないものである。庁舎は、昭和初年に移転・新築するため庁舎が最も整備された状況を伝える図であろう。

(2) 写真

数葉の画像が知られ、そのほとんどが正面から撮影されたものである。写真1はそれほど庭木も目立たないため竣工後、時間を経ず撮影されたものであろう。写真3からは門の変更が判明する。

5. 結語

明治4年以降、庁舎建設に際し中央官庁との往復文書や村々への布達など多くの資料を確認していくなかで様々な知見が得られたが、一方で設計図や仕様書など核心的な資料は得られなかった。県庁平面図と伝わる図5や市内に洋風建築が建ち並ぶ図として度々引用される図6などは、大手役宅の最終形を表現した図と位置づけられ、新たな証拠を加えることができる。

資料（4）に「椅子等相用ヒ候」とあり執務に際し床坐から椅子座へ転換していることが判明する。石田氏は、洋風物品の使用が庁舎の洋風化を促した一要因と位置づけ、椅子座への転換は中央官庁にやや遅れ、早い府県で明治4年末、並5年中には各地への波及を確認している。本県でも洋風庁舎建設に先立つ明治5年5月、物品等を洋風に替え、時流と軌を一にした変化が確認できる。一方で新築時、敷物代の経費を計上し忘れ、後に要求している。板敷きだけでは隙間風や冷気の侵入を防げず、敷物が必要となるのであろうが、洋風化へ意識が転換していない状況を垣間見せている。

註

（1）山梨県立図書館編『山梨県史』第1巻1958～第7巻（1964）

（2）植松光宏『山梨の洋風建築』甲陽書房1977

（3）石田潤一郎『都道府県庁舎－その建築史的考察－』思文閣出版1993

（4）山梨県庁建設資料（1）「明治四年官省指令全」県立図書館蔵県行政文書（以下資料（1）と略す）

（5）資料（1）

（6）資料（2）

（7）資料（4）、なお資料（3）は、規模の平準化を目的に施行された条文等であり、資料（4）とともに送付された。

（8）資料（5）、なお廃止の布告の直前、8月3日に「司法職務定制」が施行され、司法権は地方官から司法省管轄下の裁判所へと吸収されることとなった。庁舎内への裁判所設置は、逮捕者へ聴取・取調べのため喫緊の課題でもあり、こうした制度変更にも沿った対応であった。

（9）資料（7）

（10）資料（6）、（8）

(11) 山梨県立中央病院『山梨県立中央病院史』1982年
(12) 資料 (9)
(13) 資料 (10)
(14) 資料 (14)
(15) 資料 (17)、(18)
(16) 資料 (21)、(22)
(17) 資料 (39)、(40)
(18) 資料 (34)、(35)
(19) 資料 (34)、(36)
(20) 資料 (32)
(21) 資料 (14)、(16)
(22) 資料 (39) で「敷物代并諸品運送賃金」として計上している額と同額である。
(23) 資料 (41)、(46)
(24) 昭和15年、皇紀二千六百年を記念して山梨県が編纂した。
(25) 資料 (29)、(30)
(26) 資料 (43)
(27) 資料 (45)
(28) 資料 (48)
(29) 資料 (44)

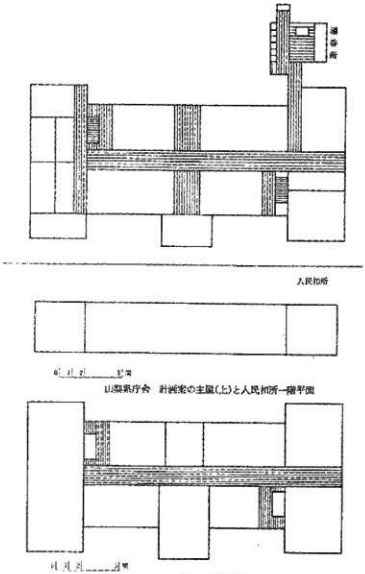


図1　平面図①(石田潤一郎『都道府県庁舎』思文閣出版1993より)

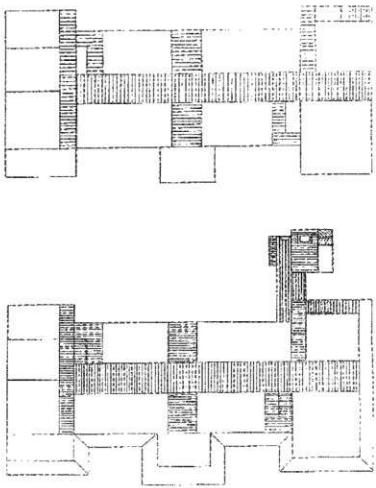
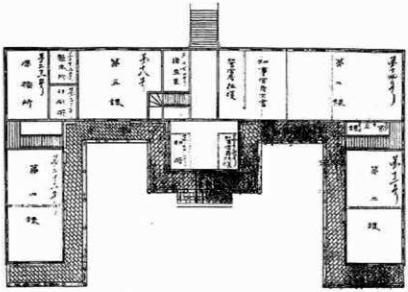
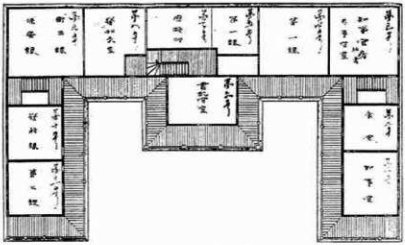


図2　平面図②(『山梨県史』第4巻1961より)



山梨県庁舎　実施案一階平面(明治22年当時)



同上　二階平面

図3　平面図③(石田潤一郎『都道府県庁舎』思文閣出版1993より)

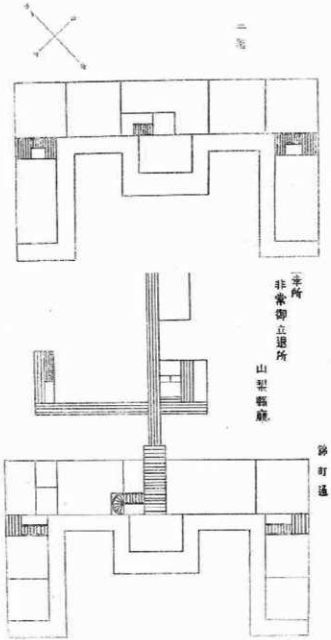


図4　平面図④(『明治天皇御巡幸紀』1940より)

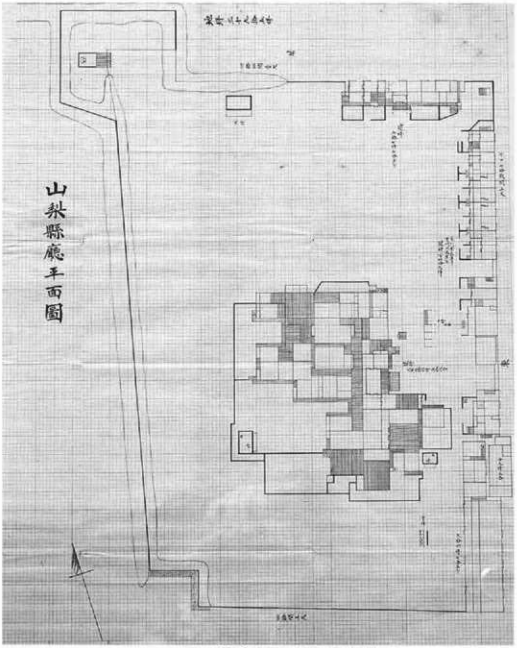


図5　山梨県庁平面図(山梨県立博物館蔵)

図6　市内俯瞰図(『甲府日々新聞』明治9年9月25日号)

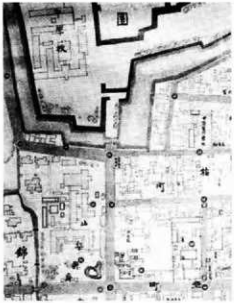


図7　大正期の甲府市街図（『甲府市史史料編』第6巻口絵写真）

写真1　『ふるさとの想い出写真集　明治大正昭和　甲府』
国書刊行会1978より

写真2　『明治・大正・昭和写真集甲府90年』
甲府市役所1881より

写真3　『甲府市今昔写真結』郷土出版社2004より

写真4　『目で見る甲府の100年』郷土出版社1990より

写真5　『ふるさとの想い出写真集　明治大正昭和　甲府』
国書刊行会1978より

山梨県庁建設資料

(1)明治四年官省指令　全　県立図書館蔵県庁行政文書

県庁建築請願書

当県庁ノ儀者御一新ノ際不取敢元甲府勤番支配役宅江修繕ヲ加ヘ置候儀ニ有之候処元々城下市中限之諸願向聽怒等ヲ取扱候迄之場所ニ而何分狭苦敷之儀ニ付今般建築修繕之見積総分ヲ以元米小家江迫ル建築候儀ニ而来様根向水殺等モ不整合ニ而過半建築不致候事而者為建築行届仮令建築ヲ加ヘ候而モ造作粗雑ニ付何ト風損ヲ蒙モ有之其外官所勝掛御用等ニモ隙峰之場所多分有之旁入費相嵩新規建替ト格別之相違ニ無之ニ付一時之費用ヲ厭レ建出ノ修繕致置候而者不都合而已ナラス却而後日ノ後損失ト見込候ニ付無上勘弁致シ候処甲府城内ニ有之番所仕之儀者其元屋敷之富請ニ付被拝所取縮候ハヽ大半ハ其儘用ス可申且所仕之者共之御所ニ可相用長屋等モ有之候間更ニ庁中文課之御所、棟取建候ハヽ却而建坪減後作修繕之費モ得リ且取締者之臨而仕ニ然而モ城中江県庁取設候儀者兼々賞罰範在旁以右案慥江新規建築致シ不苦候成為念民政相何候之右費用之儀者御規則之通リ三分之都中右減割之積リヲ以仕様目論見図面取調委細者追而新条御許可之上可申立積仕之後米之変原図面相添此段相伺申候也

辛未八月十七日　甲府県　印

大蔵省
御中

書面県庁建増之儀願原伺ニ付在来変原内模様替仕様絵図申入貴取調已録内閣報ヲ以可伺出候事

辛未十一月十五日　大蔵大輔　井上　馨　印

大蔵少輔　吉田清成

(2)明治四年官省指令　全　県立図書館蔵県庁行政文書

一　官員住宅新規取建方伺書

右別紙之通丟ル七月十二日弁官江進達シた置候処未タ何等之御達シモ無之候間早々御下知相成候様御取計有之度此段申上候也

辛未十一月十日　山梨県　印

大蔵省
御中

官員住宅新規取建方伺書

当県官員住宅之儀旧幕府令陣屋元勤番支配其外役場等明屋作有之場所取敷練相無之旁之儀者有之不体裁様三分之家家作者何レモ年数相立大破及ト唐破中元所今麻屋小屋五六軒之儀者木品数体朽腐儀之風雨ニモ雨漏依無止来即之数体難儀届ニ立至リ旁ニ付古家取敷更ニ長家西ニ棟取敷建申度候得共ニ付而ハ手矢ニ而者差支候間後日他無之新ニ棟取敷建之儀者当年之村々多高割出仮賃金ニ相成候ハヽ大災ニ而疲弊之村々多高割出仮賃金及ニ付差当リ是迄雇建加之破之内間其儀者当年

可及御地候、此段右向御後二付不取敢区分ノ模様書修繕ノ箇所ハ絵図面相添此段及御願候也

壬申九月　山梨県令　上野景正

大蔵大輔　井上　馨殿

(6)「明治九年官省往復　地」県立図書館蔵県立図書館蔵行政文書

元甲府勤番支配明家衆病院江御貸渡之儀書

元甲府勤番支配役宅

一　病院建家衆台六坪

七坪五合

検坪

弐拾七坪五合

内

表門

腰掛所

医員和田吉友住居

門番所

明家造作無之

造作無之元厩跡

検坪

弐拾坪五合

孝穆建家衆台三拾四坪弐合五勺

内

七坪五合

検坪

四拾七坪五合

弐拾坪五合

孝穆建家衆台六坪

内

七坪五合

検坪

四拾七坪五合

弐拾坪五合

検八坪五合

検七坪五合

弐拾坪弐合九勺

検八坪五合

検七坪五合

弐拾九坪弐合九勺

内

表門

官員永井真義住居

高木利敬同断

福嶋少属同断

丸山子盛同断

横田良貞住居

造作無之厩屋跡

右者今般元内長屋等之外徒家所管之官宅御払下被仰付候二付元県官宅引別紙弐通ヲ以御払下相何申候然処右屋宅之儀元甲府勤番支配役宅二付御払下取計可申之処去来中伺之趣金弐万円病院改改右明家作造等之儀ハ元之通被仰付候得共家作造等用多手永続之見居得策候宅之儀二付変作御払下相願候余力無之旨候間其儀病院江無代御貸渡被下度且又長屋向之儀モ元来大破之上修復費二付臨刻之費毎破損当時御払直段元立三致之御規則之旨代収立候而者修繕入費不引足都而御損失可相成一体右開墾之儀間院所結二被成下手入等者向県金之内ヲ以弗加仕得篤人江者御貸渡見込積相対二而低価之値代取立仕居中破損修復都而当為自費事二取極申度別紙絵図面相添此段相伺候也

壬申十九月廿一日

大蔵大輔　井上　馨殿

山梨県権参事　高岡敬明　㊞

山梨県令　土肥実匡　印

(7)「従明治六年官省往復　地」県立図書館蔵県立図書館蔵行政文書

県庁機構変革人員費目拾二分ノ御下伺書

一　金四百六拾弐円三拾六銭　於八月銭弐厘　県庁機構変革人員費

内訳

金弐百五拾四円拾三銭　三分　官費之分

金三百八円弐拾六銭壱厘　三分　管費之分

右者去ル十中年九月中当県江藏判所被貸候処向県庁ニ可取設相当之場所無之間民撰勤ニ付多人数御雇ヲ有之候ニ付該示ノ上当庁中絡課之節所管被判所江引渡候而明治元年所物置所其外機構変県庁部課詰所ニ相殺候分縁人費書面之通有之候間三分ニ官費之分金百五拾四円拾三銭御下渡有之度別紙絵図面清書相添此段伺候也

明治六年二月廿日　山梨県権参事　高岡敬明　㊞

大蔵大輔　井上　馨殿

(8)「従明治六年一月至十二月大蔵省伺　附租税寮　貞」県立図書館蔵県立図書館蔵行政文書

「第壱号」

元甲府勤番支配明家衆病院江御貸渡候書

一　建家衆四百八拾六坪弐合九勺

内

長屋弐棟建家衆台四拾壱坪弐合五勺

右者元甲府勤番支配役宅之儀去ル十一月中病院江無代御貸渡之儀相伺候処御聞届被下候ニ付而者直宅ニ取設全不用之分ハ入札私取計候様御指令之処各家作者干広ニ付宅地ニ者差向多分之入費相掛候間指令之処各家作者干広ニ付宅地ニ取設全不用之分ハ入札私取計候様御

(9) 従明治八年一月至一月内務省伺　大一　県立図書館蔵県行政文書

第九十八号

県庁建築ノ義ニ付伺出二付心得方伺

県庁建築ノ義ニ付昨明治七年一月中別紙之通区長ヨリ申出候ニ付朱書之通左指図資候処今般改ノ儀江達之趣ニ付ハ右ノ実際庁中之不便且教育ニシテ修繕費之不相等ハ申立之通相違無之到底数年ヲ不出大ニ修繕ヲ起シ候歟又ハ新築不日無ハ難相成京況ニ有之ニ応申出ニ付之被等ヲ之心得ヲ以テ一般江急数職務義ハ不苦候哉　然ル上若ニ被為存無之新築ノ義申出候様之運ニ至リ候ハバ其節費目状可有之心得仕度相伺候也

明治八年一月一日　山梨県令　藤村紫朗

内務卿　大久保利通殿　内務大丞　林友幸殿

(10) 明治九年内務省伺之書　第三号　県立図書館蔵県行政文書

第五百九十二号

県庁新築之儀ニ付上申

当県庁之儀ハ元勤番之屋敷ニ付且下雖従来之配役之邸舎ニテ且下雖従来之儀ニ付上申

一、一般ノ公共ヲ興起スヘキ急務ヲ以県庁新築ヲ如キハ僅ニ百年ニモ無之候条先ヅ暫ク見合ヒ度ニ付申上

一、現庁建築ノ義ニ付昨明治七年一月中別紙之通区長ヨリ申出候ニ付朱書之通左指図資候処今般改ノ儀江達之趣ニ付ハ右ノ実際庁中之不便且教育ニシテ修繕費之不相等ハ申立之通相違無之到底数年ヲ不出大ニ修繕ヲ起シ候歟又ハ新築不日無ハ難相成京況ニ有之ニ応申出ニ付之被等ヲ之心得ヲ以テ一般江急数職務義ハ不苦候哉　然ル上若ニ被為存無之新築ノ義申出候様之運ニ至リ候ハバ其節費目状可有之心得仕度相伺候也

明治八年一月一日　山梨県令　藤村紫朗

内務卿　大久保利通殿　内務大丞　林友幸殿

(11) 「明治七年至同八年公達例届　書類綴」　県立図書館蔵県行政文書

御黒原庁舎内北長家九尺二間之処狂言仕り御布達書制木所ニ相用茂仕テ右修繕之用別紙積書ノ通リ三御座候間拝借願奉共御聞届被成下度当面ヲ以拝願上候以上

区長勤代

尾瀬　孝治

小松迫一郎

(12) 山梨県令　藤村紫朗殿

「書面之趣ハ方今民費多端加之本年第一十廿六歳条件ノ如キ普下一般ノ公共ヲ興起スヘキ急務ヲ以県庁新築ヲ如キハ僅ニ百年ニモ無之候条先ヅ暫ク見合ヒ度ニ付申上

内務卿　大久保利通

明治九年一月十五日　山梨県令　藤村紫朗

内務卿　大久保利通殿

(13) 「書面ノ趣ハ無之条儀等信ニハ相間敷得共其国事多端之際ニ付当分見合可申事」

明治九年二月十二日　内務卿　大久保利通

(14) 「明治七年至同八年公達例届　書類綴」　県立図書館蔵県行政文書

御黒原庁舎内北長家九尺二間之処狂言仕り御布達書制木所ニ相用茂仕テ右修繕之用別紙積書ノ通リ三御座候間拝借願奉共御聞届被成下度当面ヲ以拝願上候以上

区長勤代

尾瀬　孝治

小松迫一郎

明治八年二月十八日

穴太朝敬郎

名取敬次郎

同接代理
穴水朝次郎 ㊞

山梨県令　藤村紫朗殿

（第四）
「明治八年二月十八日」
御県庁番間北長拾九尺三間之処活板所御雇所御雇所三御場建築御入用積り

一　金六円六拾七銭
　此内訳
　金四円六拾弐銭九厘
　此工数拾八人半

壱組	代金壱銭五厘	大工	但壱人六什 金弐拾壱銭
輪鎖	壱張方		
金拾六銭五厘			
内			
壱坪	柿板		
壱人	壱人金拾六銭五厘	柿葺師	
六畳半	代金壱拾二銭	古屋敷之手間	
金三円弐拾銭		手伝人足	但壱人六什 金拾壱銭
此人足八人			
十吉			
壱本	栗長六尺	四寸 二寸	
柾	弐本	松長六尺	四寸角
棚	壱本	〃長四尺	四寸角
垂木掛			
壱本	〃長四尺	四寸 弐寸	
乗木	三本	〃長九尺	弐寸角
水舞			
六枚	〃長六尺	一寸 五分	
貫			
六枚	〃長三間	一寸 八分	

■々樋

壱本	〃長四尺		四寸角
〃根太			
壱本	〃長四尺		弐寸五分角
〃板			
弐枚	〃長六尺	廣 壱	
羽目板作目板			
四拾壱枚	松長六尺	廣 五分	
雲屋鳴屋			
七本	〃長六尺	四寸 弐分	
総ヒカ			
八本	〃長六尺	壱寸三分角	
天井縁			
四本	〃長九尺	弐寸角	
同断			
八本	〃長六尺	同断	
天井桁			
五本	〃長九尺	壱寸弐分角	
同断			
三本	〃長六尺	同断	
〃板			
弐拾二枚	〃長六尺	廣 壱	
〃釣木			
四本	〃長三間	壱寸三分角	
根太			
三本	〃長九尺	弐寸五分 弐寸	
根太板			
五枚	松長六尺	廣 六分	

右都て桧木用

右之通御座候以上
明治八年二月十八日

賞績積方
内藤忠兵衛

（12）明治九年内務省指令書　第三二　県立図書館蔵県行政文書
（第九十三号）

県庁改築之儀ニ付達上申

県庁改築之儀昨明治八年十二月ニ五月付達第五、第九ヲ以テ總テ上申致シ候処本月十三日付ヲ以テ右上申ニ対シ無余儀事情ニハ御聞込候不得止県庁改築ノ儀ニ付テハ昨年来屢々上申致候処右ハ一層最緊要ノ事ニ付テハ即今詰席ニ差支不得已県庁近傍ノ民家借受分局相設ヲ事務取扱候体ニテ不不利ハ勿論被是不都合不少実ニ実際無拠儀ヲ以テ国庫御多端ノ際タルハ不拘本年七月以後三於テ御許可相成候様被度尤積方等モ数ヶ家ニ被候儀ニ付然ルニ本年七月以後三於テ御許可相成候様猶可伺出候条右事情御察特別ノ御詮議ヲ以テ何分ノ儀御指示被下度此段再応願上申候也

明治九年四月一日　内務卿　大久保利通　印

内務卿　大久保利通殿

県庁改築之儀ニ付上申書

当県庁改築ノ儀ニ付テハ昨年来屢々上申候処第百五十号伺ニ対シ建坪凡壱万三千百五拾坪ノ内ニ本庁ノ建物ニ二階建ニ不及其他分建坪ノ内門番所ノ分ヲ除キ二階共総坪五百坪以内ノ積リヲ以テ目論見調査シ図面相副更ニ伺出事

明治九年七月廿四日　内務卿　大久保利通　印

(14)「明治九年内務省伺届書」第六」県立図書館蔵県庁行政文書

県庁改築之儀ニ付テハ昨年来屢々上申致シ候処第百五十号伺ニ対シ建坪凡壱万三千百五拾坪ノ内ニ本庁ノ建物ニ二階建ニ不及其他分建坪ノ内門番所ノ分ヲ除キ二階共総坪五百坪以内ノ積リヲ以テ目論見調査シ図面相副更ニ伺出事

明治九年七月廿四日　内務卿　大久保利通　印

内務卿　大久保利通殿

「書面県庁改築ニ付達」第六」

「書面県庁改築ニ付達」ニ相見ヘ候条会議所並客用便所等ハ別段取設ケ候ニ不及儀ト相心得其他建坪ノ内門番所ノ分ヲ除キ二階ト唯ト唯坪五百坪以内ノ積リヲ以テ目論見調査シ図面相副更ニ伺出事

明治九年七月廿五日　内務卿　大久保利通　印

内務卿　大久保利通殿

「書面県庁改築ニ付」第六」

「書面県庁改築ニ付」ニ相見ヘ候条会議所並客用便所等ハ別段取設ケ候ニ不及儀ト相心得其他建坪ノ内門番所ノ分ヲ除キ二階共総坪五百坪以内ノ積リヲ以テ目論見調査シ図面相副更ニ伺出事

明治九年七月廿五日　内務卿　大久保利通　印

内務卿　大久保利通殿

「第百五十号」

県庁改築之儀伺

県庁改築之儀ニ付テハ昨年来屢々上申致候処右ハ一層最緊要ノ事ニ付テハ即今詰席ニ不及儀ト相心得其他建坪ノ内門番所ノ分ヲ除キ二階共総坪五百坪以内ノ積リヲ以テ目論見調査シ図面相副更ニ伺出事

明治九年七月廿五日　内務卿　大久保利通　印

内務卿　大久保利通殿

(13)「明治九年内務省伺届書」第六」県立図書館蔵県庁行政文書

「書面県庁新築之儀ハ一層最緊要ノ事ニ付テハ即今詰席ニ不及儀ト相心得其他建坪ノ内門番所ノ分ヲ除キ二階共総坪五百坪以内ノ積リヲ以テ目論見調査シ図面相副更ニ伺出事

明治九年四月一日　内務卿　大久保利通　印

内務卿　大久保利通殿

「書面県庁新築之儀」

「書面県庁新築之儀ハ一層最緊要ノ事ニ付テハ即今詰席ニ不及儀ト相心得其他建坪ノ内門番所ノ分ヲ除キ二階共総坪五百坪以内ノ積リヲ以テ目論見調査シ図面相副更ニ伺出事

明治九年四月一日　内務卿　大久保利通　印

内務卿　大久保利通殿

「第百五十号」

県庁改築之儀伺

県庁改築之儀ニ付テハ昨年来屢々上申致候処右ハ一層最緊要ノ事ニ付テハ即今詰席ニ不及儀ト相心得其他建坪ノ内門番所ノ分ヲ除キ二階共総坪五百坪以内ノ積リヲ以テ目論見調査シ図面相副更ニ伺出事

明治九年七月廿五日　内務卿　大久保利通　印

内務卿　大久保利通殿

「書面県庁新築之儀」

「書面県庁新築之儀ハ一層最緊要ノ事ニ付テハ即今詰席ニ不及儀ト相心得其他建坪ノ内門番所ノ分ヲ除キ二階共総坪五百坪以内ノ積リヲ以テ目論見調査シ図面相副更ニ伺出事

明治九年七月廿五日　内務卿　大久保利通　印

内務卿　大久保利通殿

「書面県庁改築之儀」

「書面県庁改築之儀ハ一層最緊要ノ事ニ付テハ即今詰席ニ不及儀ト相心得其他建坪ノ内門番所ノ分ヲ除キ二階共総坪五百坪以内ノ積リヲ以テ目論見調査シ図面相副更ニ伺出事

明治九年七月廿五日　内務卿　大久保利通　印

内務卿　大久保利通殿

「書面県庁改築之儀」

「書面県庁改築之儀ハ一層最緊要ノ事ニ付テハ即今詰席ニ不及儀ト相心得其他建坪ノ内門番所ノ分ヲ除キ二階共総坪五百坪以内ノ積リヲ以テ目論見調査シ図面相副更ニ伺出事

明治九年七月廿五日　内務卿　大久保利通　印

内務卿　大久保利通殿

県庁改築之儀ニ付達上申

県庁改築之儀昨明治八年十二月ニ五月付達第五、第九ヲ以テ總テ上申致シ候処本月十三日付ヲ以テ右上申ニ対シ無余儀事情ニハ御聞込候不得止県庁近傍ノ民家借受分局相設ヲ事務取扱候体ニテ不不利ハ勿論被是不都合不少実ニ実際無拠儀ヲ以テ国庫御多端ノ際タルハ不拘本年七月以後三於テ御許可相成候様被度尤積方等ヲ数ヶ家ニ被候儀ニ付然ルニ本年七月以後三於テ御許可相成候様猶可伺出候条右事情御察特別ノ御詮議ヲ以テ何分ノ儀御指示被下度此段再応願上申候也

明治九年四月一日　内務卿　大久保利通　印

内務卿　大久保利通殿

(15)「山梨県史」第四巻　昭和一二年　山梨県立図書館蔵

別冊　県庁建築九人資積

一　金壱万三千三百九拾六円拾三銭九厘

諸建築　一式入用

此内訳

一　本家壱棟　但　屋根瓦葺

金五百八円

内　下家弐百五拾坪

金壱万二百六円

一　厩同断

内

金千六百廿四円八拾七銭五厘

此二数六千四百九拾九人五分

金四百六拾四円弐拾五銭

金九百八拾八円廿五銭

金六百八拾八円廿五銭

金百弐拾三円八拾銭

金三百八拾七円九銭

金七百七拾四円拾六銭

此人足四千三百弐人

尺ノ武千弐百七拾七本

代金四千九拾九円六拾銭

一　人民相所弐棟　受間四間

軒高壱丈六尺　桁行廿四間

此坪九拾六坪

金九百七拾九円八拾三銭三厘

内

大工方　但　壱人三付

金壱人銭

鍛冶方

左官方

建具方

瓦葺方

石方

人足方

代　壱人二付

金拾人銭

材木方

但　尺ノ武本二付

金弐円八銭

屋根瓦葺

但　壱坪二付

金拾人銭

金拾人銭

金拾人銭

金百六拾八円
此工数六百七拾弐人
金四拾六円
金弐百拾六円
金六拾九円拾九銭五厘
金三拾七円弐拾五銭
金五拾三円六拾弐銭八厘
金八円六拾四銭
金六拾九円拾弐銭
金六拾九円拾四銭
此人足三百八拾四人
凡ノ弐百四拾本
代金三百弐拾弐円

大工方
但 壱人六拾
金壱五銭
鍛冶方
屋根方
鑿方
鑢師方
地形方
石方
人足方
但 壱人三拾
金拾六銭
材木方
但 凡ノ弐本三拾
金四三銭

渉禅寺定棟　梁間二間
桁行二間
附繩下六八三間
合代拾壱坪
金九拾九円六拾七銭
内
金拾九円弐拾五銭
此工数七拾七人
金四円三拾五銭
金廿四円七拾五銭
金三円五拾銭
金弐円七拾五銭
金弐円八拾銭
金七円四拾銭
金七円四拾八銭
此人足三拾六人
凡ノ弐拾七本五分
代金三拾五円七拾五銭

但 壱坪三付
金九円八銭除
大工方
但 壱人三付
金廿五銭
鍛冶方
屋根方
鑿方
建具方
地形方
石方
人足方
但 壱人三付
金拾八銭
材木方
但 凡ノ弐本三付
金四五銭

一 表門壱ヶ所
金四拾六円六銭六厘
内
金拾円七拾五銭
此工数四拾三人
金四円六拾一銭
金四円弐拾三銭
金六円三拾六銭
金二円四拾弐銭
此人足拾九人
凡ノ五本六分八厘
代金九円六拾五銭六厘

但 壱人三付
金廿五銭
大工方
但 壱人三付
金廿五銭
鍛冶方
石方
鑢師方
人足方
但 壱人三付
金拾八銭
材木方
但 凡ノ弐本三付
金四五銭

一 表門壱ヶ所
金弐拾七円弐拾六銭四厘
内
金弐拾七円五拾五銭
此工数八拾五人
金拾七円五拾五銭
金八円八拾一銭五厘
金九円四拾八銭九厘
金六円四拾八銭
此人足三拾六人
凡ノ拾壱本八分二厘
代金弐拾二円六拾六銭

但 壱人三付
金拾六銭
人足方
但 壱人三付
金拾六銭
材木方
但 凡ノ弐本三付
金四

一 表門壱ヶ所　梁間弐間半
桁行弐間
軒高弐丈
此坪十坪五合
金百五拾壱円三銭

但 壱坪三付
金拾六円拾銭
内
金拾九円
此工数六拾人

大工方
但 壱人三付
金廿五銭
鍛冶方
屋根方
鑢方
建具方
地形方
石方
人足方
但 壱人三付
金拾八銭
材木方
但 凡ノ弐本三付
金四五銭

金弐拾九円弐拾六銭
此工数六拾七人
金四円六拾九銭
金六拾七円弐拾五銭
金三拾七円弐拾五銭
金五拾三円六拾弐銭八厘
金八円六拾四銭
金六拾九円拾弐銭
金六拾九円拾四銭
此人足三百八拾四人
凡ノ弐百四拾本
代金三百弐拾弐円

大工方
但 壱人三付
金廿五銭
鍛冶方
屋根方
鑿方
鑢師方
地形方
石方
人足方
但 壱人三付
金拾六銭
材木方
但 凡ノ弐本三付
金四三銭

渉禅寺定棟　梁間二間
桁行二間
附繩下六八三間
合代拾壱坪
金九拾九円六拾七銭

但 壱坪三付
金九円八銭除
内
金拾九円弐拾五銭
此工数七拾七人
金四円三拾五銭
金廿四円七拾五銭
金三円五拾銭
金弐円七拾五銭
金弐円八拾銭
金七円四拾銭
金七円四拾八銭
此人足三拾六人
凡ノ弐拾七本五分
代金三拾五円七拾五銭

大工方
但 壱人三付
金廿五銭
鍛冶方
屋根方
鑿方
建具方
地形方
石方
人足方
但 壱人三付
金拾八銭
材木方
但 凡ノ弐本三付
金四五銭

廊下長七坪
金七拾五円八拾弐銭五厘

但 壱坪三付
金九円八銭除

内
金拾円
此工数四拾人
金弐円五拾銭
金拾七円五拾銭
金弐円壱五銭
金八円四拾八銭
金四円五拾銭
此人足弐拾五人
金三拾三円七拾九銭五厘

大工方
但 壱人三付
金廿三銭
鍛冶方
屋根方
鑿方
人足方
但 壱人三付
金拾六銭
材木方
但 凡ノ弐本三付
金四五銭

一 表門壱ヶ所

便所壱棟
代金二拾五円七拾五銭

但 壱坪三付
金九円八銭除
凡ノ弐拾七本五分
材木方
但 凡ノ弐本三付
金四五銭

(16)二大政類典第二編　明治四年～明治十年　第百三巻　一附立公文書館　デジタルアーカイブス

十月廿日　　大蔵省へ達

別紙内務省伺山梨県々庁改築ノ儀案寄ノ通及損害賠償金額取調書雛形ノ内ヲ以該方可取計此旨相達候事

内務省伺

山梨県々庁改築ノ儀八年以来再応伺出ノ通モ有之候ニ付建坪減省方等及指令置候案令一般別紙ノ通申出当案実不得止次第ニ付開ヘ候間成規標準三限シ諸費調査仕候処本庁ハ二階造リ三付五割増ヲ加ヘ其他人民拘所渉呑所便所雨番所及坪総計五百七坪五合余構造ノ儀方可渉呑所便所雨番所及坪総計五百七坪五合余構造ノ儀ニ付テハ金二千二円九十八銭一厘一毛余相当ノ則標準ニ等シ概レバ申立尚金二万三千三百九十八円十一銭九厘ノ内ヨリ金二千五百十七円七十七銭二厘相減シ日表第二別表雛等ノ分ハ不相当ニ無之候間民費ヲ用ヒ可申旨引金二万八百七十八円三十五銭八厘ヲ目的ニ着手為取度右ノ御許容ノ上ハ一歩一官費金ニ千六百一十六円十一銭九厘八当年度府県費雛等ノ内ヨリ支出可取計候様至急御何分ノ御指揮相成度因テ該県山陵関係共相副上段相何申候也　十月　日

何ノ趣聞届候ハヽ分金二千六百一十六円十一銭九厘ハ雛等大蔵省ヨリ可受取事　九月廿日

二万三千三百九十八円十一銭九厘　内訳　二千五百十七円七十七銭二厘

山梨県々庁改築雛等仮計帳

目録

一　建物

内

金壱万二千三百九十六円十一銭九厘

金一万千六百五十二円七十七銭二厘

但本庁建坪一百二十五坪五合四勺内二階造リ三付五割増此坪一百八十一坪八合拘所渉呑所便所及表廊門番所共合坪百三十六坪五合総計五百七坪五合余構造坪一付十二円九十六銭一厘　毛余

内

金二千五百十七円七十七銭二厘　減削見込

第引

○金九千三十五円　標準ニ等シ由リ一坪金十八円三積算

生ヲ八高引如此

○金千七百四十三円一十五銭六厘

但角柱丸太柵石垣共表廊門右橋共此費標準ニ無之不相当ニ付モ不相見積ハ此積ヲ用

○印二付

金二万八百七十八円三十五銭六厘

右ノ通リ

第五号雛案　　大蔵監査

内務省伺山梨県々庁改築ノ儀表按処渡県山梨見申上為ノ内官令総案内規標準ニ等シ金二千五百十七円余減削表費内西国棚等ノ費共金二万八百七十八円三十五銭六厘ヲ以テ改築被シ度

右ノ通有之候也

極費用不相当三不相当等無間ノ趣御許可相成它費ハ分当年度府県営繕費ノ内ヲ以テ御下付相成可然歟若左様取調相伺候也　以上

六月　内務

（17）明治九年十月院省達編　県立図書館蔵県行政文書

（表紙）
「各紙」

此般当県庁改築御許可ニ付来ル十二ヨリ第一区山梨郡甲府第七川町第二番地旧代官所ヘ仮ニ転庁左改築致等手候間此段御届仕候也

明治九年十一月　太政大臣　三条実美殿　山梨県令　藤村紫朗

内務卿　大久保利通殿

（18）明治九年管内巡達（甲）　個人蔵

甲第三百四十一号

此般当県庁改築に付右工事中第一区山梨郡甲府第七川町旧山梨銀判所跡（移転来る十二日より本務取扱候條此旨布達候事

明治九年十一月七日

山梨県令　藤村紫朗

（19）甲府日々新聞　明治九年十一月十八日号　県立図書館蔵

（表紙）
「第百廿二号」

各区
区長
戸長

此般第壱区御町筋庁舎家弘下伝統家の者は来る二十日より二十五日迄に第三飯土木掛（申出規則第一覧の上本月三十日限り入札願出候様区内無洩可申渡旨和達候事

明治九年十一月十日

山梨県令藤村紫朗

（20）明治九年自十一月至十二月内務省指令書　第四　県立図書館蔵県行政文書

（表紙）
「第三百七十四号」
県庁改築ニ費額四千円ニ付申上書

甲第金壱万三千二百五拾六円弐銭壱厘三分一官私金四千四百六拾五円三拾七銭三厘之内

一　金二千円

右ハ当県庁改築ノ儀御許可ニ付此段教諭手候処御払方ニ差支候間前記之金員当省額内ヲ以仮ニ御一渡有之度此段致上申候也

明治九年十一月十日　山梨県令　藤村紫朗　印

内務卿　大久保利通殿

（表紙）
「第三百四十二号」
甲第金壱万三千二百五拾六円弐銭壱厘三分一官私金四千四百六拾五円三拾七銭三厘之内

一　金二千円

右ハ当県庁改築ノ儀御許可ニ付此段教諭手候処御払方ニ差支候間前記之金員当省額内ヲ以仮ニ御一渡有之度此段致上申候也

明治九年十一月十日　山梨県令　藤村紫朗　印

内務卿　大久保利通殿

（21）明治九年内務省指令書　第八　県立図書館蔵県行政文書

（表紙）
「第三百七十七号」
県庁改築ニ付用材御下渡之儀願

此般当県庁改築ニ付用材御下渡之儀願ニ相成候ニ付且遠隔手可被処用材之義悉皆商人又ハ所有人民ヨリ買入候方ハ徒ニ空価ヲ張リ迚モ御指令通之費用ニテ成功可致見込無之而ハ十ラズ近年民間家屋建築之等盛ニシテ過ル伐採近傍無キニ於テ買上見込之場所無之其発支候間別紙ニ記載之通従来林業上知ニ付本文之立木相当代価ヲ以テ御払下相成度候シ山林之儀指揮被下度候也

明治九年十一月十四日　山梨県令　藤村紫朗　印

内務卿　大久保利通殿

（表紙）
「右書面之趣ニ付ては前記之伐採用立木之内金三千五拾七円五拾七銭三厘ヲ減額シ更ニ金弐万八百七拾八円三拾七銭六厘ヲ目的ニ着手可致答ニ付仮金額三百五拾円ヲ直シ更ニ可申出事

明治九年十一月十九日　内務卿　大久保利通　印」

（表紙）
「右書面之趣ニ付ては前記之伐採用立木之内金三千五拾七円五拾七銭三厘ヲ減額シ更ニ金弐万八百七拾八円三拾七銭六厘ヲ目的ニ着手可致答ニ付仮金額三百五拾円ヲ直シ更ニ可申出事

明治九年十一月十九日　内務卿　大久保利通　印」

別紙

県庁改築用材竹林伐木取調書

一　杉弐百拾弐本　　巨摩郡柳瀬村
　　角九八六寸五厘拾七本分　　代金　拾七円六拾七銭八厘　　金六銭
　　代金　拾七円六拾七銭八厘　　但　九八六寸三分

一　松五拾本　　同所
　　角八八寸　　代金　　但　　金六銭
　　代金　　　

負八ノ五百六拾九分
代金四円六拾六銭
杉巨木六本
九尺八ノ拾一寸九分五厘
代金六拾銭屋

一 松本
負八ノ拾本
代金十拾銭

一 黒内代八拾八本
負八ノ百二拾八本十九分八毛
代金拾九円四拾六銭一厘

一 栗古本
負八ノ拾五本二分
代金六円六銭六厘
一 杉式本
負八ノ百二拾八本十九分八毛
代金拾九円四拾六銭一厘
一 松七拾本
負八ノ百五拾本
代金拾円五拾銭
一 松三拾七本
（二）代、郷ヨリ出ガ為ノ為ノ為ノ為ノ
一 松七拾本
負八ノ百五拾本
代金十円五拾銭
一 松四拾本
負八ノ拾四拾本
代金拾円七拾銭
一 松八拾四本
負八ノ四百五拾本
代金拾円七銭
一 松弐本
負八ノ拾本
代金拾円五拾銭
一 松七拾本
負八ノ百五本
代金拾円五拾銭
一 松五拾本
負八ノ拾本
代金一円七拾銭
一 松三拾九本

海道字上知官林
但 八ノ壱本二付
金六銭
同所
但 八ノ壱本二付
金四銭七厘
山梨郡岡部村
大字字上知官林
但 壱本二付
金五銭
八代郡上野村
三等官林
但 壱本二付
金五銭七厘
巨摩郡榊原村
伝四院上知官林
但 壱本二付
金七銭五厘
同所乃
但 四壱本二付
金六銭
同所
山梨郡塩原村
一等官林
但 壱本二付
金六銭
山梨郡上石和村
老郷官林
但 壱本二付
金五銭
山梨郡平代村
芝等官林
但 壱本二付
金六銭
山梨郡上芳力村
老郷官林
但 八ノ壱本二付
金五銭
山梨郡二ノ蔦村
芝等官林
但 四壱本二付
金九銭
巨摩郡亀ヶ村
老等官林
但 八ノ壱本二付
金五銭
巨摩郡書原村
等官林
但 八ノ壱本二付
金五銭
巨摩郡風祭村

芝等官林
但 八ノ壱本二付
金九銭
巨摩郡秋山村
清光寺上知官林
但 八ノ壱本二付
金六銭
同所
但 壱本二付
金四銭七厘
巨摩郡書原村
長光寺上知官林
但 壱本二付
金六銭
同所
但 壱本二付
金四銭七厘
巨摩郡門ノ蔦村
明聚寺上知官林
但 壱本二付
金六銭
同所
但 壱本二付
金四銭七厘
巨摩郡道祭村
芝等官林
但 壱本二付
金六銭
八代郡祝村
正元寺上知官林
但 壱本二付
金五銭
八代郡祝村
東福寺上知官林
但 壱本二付
金六銭
山梨郡里垣村
三等官林
但 壱本二付
金五銭
山梨郡古府中村
等官林
但 壱本二付
金五銭

負八ノ百五拾本
代金四円五拾銭
杉巨五拾本
負八ノ百五拾本
代金四円五拾銭
一 杉五本
負八ノ壱本九分
代金四拾五銭
一 杉三本
負八ノ四本五分
代金四拾五銭
一 松三拾五本
負八ノ百五拾本
代金四円五拾銭
一 松九拾本
負八ノ百八拾本
代金四円五銭
一 杉拾本
負八ノ拾本
代金五銭
一 杉式拾本
負八ノ拾本
代金五銭
一 杉拾本
負八ノ拾本
代金五銭
一 杉巨拾六本
負八ノ拾三本九分五厘
代金裕一銭五厘
一 松三拾五本
負八ノ壱本九分
代金四円六拾五銭五厘
一 杉一本
負八ノ四本五分
代金四拾五銭

総計
本数一千七百四拾弐本
尺八ノ千四百拾八円拾八銭七厘
代金百五拾八円拾八銭七厘

右ノ通ニ候也
明治九年十一月　山梨県令　藤村紫朗

（22）明治九年山梨県内号達（全）　県立図書館蔵県行政文書

内第六十七号

第一区ヨリ廿八区迄

区　長

戸　長

県庁改築ニ付別記ノ村々ヨリ用材伐出候係根伐角取遠近共之負級シ度者ハ本月廿五日迄三第三課土木掛へ申出候様区内無洩可触示此旨相達候事

明治九年十一月十四日　山梨県令　藤村紫朗

記

第十八区　巨麻郡　身延村

一　一等官林

第十五区　同郡　平林村

一　一等官林

第廿八区　山梨郡　松里村

一　一等官林

第十八区　巨麻郡　福居村

一　上知官林

第八区　同郡　津金村

一　上知官林

第廿二区　八代郡　上黒駒村

一　一等官林

第十四区　巨麻郡　榊村

一　上知官林

第廿四区　山梨郡　里垣村

一　三等官林

第四区　同郡　古府中村

一　一等官林

同区　同郡　塚原村

一　一等官林

同区　同郡　上積翠寺村

一　一等官林

第四区　同郡　千代田村

一　一等官林

第廿六区　同郡　上ケ万村

一　一等官林

第三区　同郡　龍王村

一　一等官林

第十一区　巨麻郡　菅原村

一　一等官林

同区　同郡　風来村

一　一等官林

第十区　同郡　秋田村

一　上知官林

同区　巨麻郡　日ノ出村

一　上知官林

第十区　同郡　清春村

一　一等官林

第廿四区　八代郡　祝村

一　上知官林

（23）明治九年内務省指令書　第四　県立図書館蔵県行政文書

（朱書）

「第三百八十五号」

県庁改築ニ付内務下渡材申立書

甘藷令者ノ八百七拾五枝六厘ノ二分一

官船令者下三百九拾弐枝八厘三毛ノ内

金三千五百円

右ハ当県庁改築ノ義御許可ニ付此段致来候処払方ニ差支候間官費ノ額内之金員御下渡有之義本月十日付第三百七十四号ヲ以申立候処計算相違ニ付御指令ニ依リ即金額引直シ前記之通官給額内ヲ以仮ニ御下渡有之旨此段申立候也

明治九年十一月十八日　山梨県令　藤村紫朗　印

内務卿　大久保利通殿

一書面県庁改築入費目的高弁壱万八百七拾八円三拾五銭六厘ノ三分、官給金三千六百五拾六円拾壱銭九厘ノ内金弐千二百四拾三円ニ付テハ当省可申立事

但申請書三分一官給ノ金額ハ違算ト見做シ本文之通正笠候様此旨可相心得事

明治九年十一月二日　内務卿　大久保利通　印

(24)「明治九・十年分除官費可伺　第二課」県立図書館職員行政文書

文書

「第百七十号」

令　㊞　大書記官　㊞　一等属　㊞

人民扣所雇費之儀ニ付伺

県庁内ニ遊惰有ノ人民扣所ニ係ル費用ハ出張官員給料等ノ官費ハ従前長官ニ賦課ノ来候処右等ニ本年第十六号公達ニヨリ官費又給致シ可然歟此段伺候也

明治十年二月

内務卿　大久保利通代理

内務少輔　前嶋密殿

「書面伺之通

但官費又給之儀ハ本年第六拾八号公達之通可相心得事

内務卿　大久保利通代理

明治十年三月廿七日　内務少輔　前嶋密　印

(25)「明治十年内務省届　乾　書記局」県立図書館職員行政文書

「明治十年度

諸官省官費費目書内訳簿

山梨県」

定額官費之部

目録官費

一　金四百五拾四銭

内訳

諸官省官費費

金弐百四拾五銭　鮎九郎

外庁舎修繕費

金九拾壱円五拾銭

県庁長官修繕費

金百四拾弐円弐拾七銭五厘

県庁外出張経費

総計官費之部

目録官費

金七千六百五拾四銭九厘

県庁改築費

但九年一月廿三日一回済目録官費総計金壱万八百七拾八円三拾五銭六厘ノ内金弐千二百四拾三銭九厘ノ内金弐千六百五拾四銭九厘ノ内金弐千六百五拾四銭九厘七月廿九日迄ニ歩通出来見込分三歩引ニ残七歩通金七千六百五拾四銭九厘七月以降三歩増見込ニ付増加官費金四拾壱円也

二　額

合計金八千拾九円八銭九厘

内金七千六百五拾四銭九厘　新営

金四百四拾五銭　修繕

右者明治十年七月廿日同十一年六月迄官費費目之通ニ有之候也

明治十年五月三日　山梨県令　藤村紫朗

(26)「明治十年内務省届　坤　書記局」県立図書館職員行政文書

明治　年　月　日発行

十九年九月　日成案　八等属　岩崎寄一　㊞

令　㊞

書記官

一等属

第一課長　属　㊞　㊞

警部

内務省ヘ御届

県庁改築上事ノ儀様御届

当県庁改築之儀客年十二月中用材伐出ニ取掛リ今年四月三至リ大工其他之職工ヲ雇入工事着手致ク候処六月迄ニ九ニ分通落成致シ候右者六月以後官費之分七月以後官費之分ニ可相立旨御達有ノ候ニ付費途之向ニ関係致シ候間中段之御届申上候也

十九年八月二日　山梨県令　藤村紫朗

内務卿　大久保利通殿代理

内務少輔　前嶋密殿

(27)「明治十年従十月至十一月内務省指令書　人　書記局」県立図書館職員行政文書

「第二百八十五号

県庁改築官費額内訳下渡申立書

目録金壱万八百七拾八円三拾五銭六厘

一　金千三百五拾四銭九厘　内訳

一　金弐千五百円　外金弐千五百円

先般御下渡相成候分

金金千五百円

是ハ当六月迄三歩三分通出来ニ付目的長額三分通之三分

一　金千八拾七円八拾三銭九厘之分繰入残七分通金七千六百拾四円八拾四銭九厘ニ付全官費可相成ニ付金千六百円ハ拾八銭七月後之工事ニ係リ候費額ニ付金

右ハ当県庁改築之儀工事凡五分通落成致シ先般御下渡之金百円ニ下渡仮令之儀ハ当月以後之工事ニ係リ候費額之内金百円ニ下渡仮令之儀ハ当月以後之工事ニ係リ候費額之内金百円ニ下渡相成度此段申立候也

明治十年八月二日　山梨県令　藤村紫朗　印

内務卿　大久保利通殿代理

内務少輔　前嶋密殿

「書面之趣ハ九年度三分ニ於テ官費落成之為用中仕切費相立候上可下渡仮令分取調可申出事

明治十年十月十日　内務卿　大久保利通　印

(28)「明治十年従十月至十二月内務省指令書　人　書記局」県立図書館蔵県庁政文書

[原文]

「第四百五号」

県庁改築営繕願ノ儀ニ付上申

当県庁改築ノ儀客年十月中伺ノ経ニ三省手御令ニ準ル五歩ノ通落成候処先般指出候積り書ノ内敷物代并雑費ト上申還送答ノ之廉調洩ニ相成右ハ終費目的金ニ内ニテ取調ヒ可申故ニ敷得其目的分ノ儀モ被初申ル歩目論見金弐千五百拾七円七拾七銭三厘ヲ減セラレ更ニ金弐万八百五拾八円三拾五銭六厘ヲ目的ニ当ル事ニ致様御指令相成候次第ニ付落成ノ上ハ多少不足可相立モ難図旁右調洩之分金千八百三拾五円三拾銭五厘ヲ取調候儀ハ雑費ニ取調別紙御下渡相成度旨別紙積書ヲ通相認ヒ此段申上候間御指揮有之度候也

明治十年八月十二日　山梨県令　藤村紫朗　印

内務卿　大久保利通殿

(29)「明治十年十月廿三日　内務卿　大久保利通　印」

[原文]

「第四百七号」

県庁用敷物畳上張取改之儀伺

当県庁改築之儀客年十月中伺ノ経既ニ三省手落成ノ節ハ敷物畳上張取改ノ儀ハ本年三月中ニ出事ニ付遂テ何分ノ可及議請付ニ目ヲ意調者御略ノ廉ニ付敷物ノ如キハ可成下品相用ヒ精々入費減省ヲ以テ意調再取調ヒ可申出事

明治十年十月廿三日　内務卿　大久保利通　印」

(30)「明治十年十月廿三日　内務卿　大久保利通　印」

[原文]

「書面申出之儀ハ当初取調之節粗漏ニ出ヒ不都合無得共既往無除儀事ニ付遂テ何分ノ可及議請付ニ目ヲ意調者御略ノ廉ニ付敷物ノ如キハ可成下品相用ヒ精々入費減省ヲ以テ意調再取調ヒ可申出事

明治十年十月廿三日　内務卿　大久保利通　印」

(31)「明治十年十月廿三日　内務卿　大久保利通　印」

[原文]

「第四百八拾七号」

県庁改築之儀客年十月中伺ノ経既ニ三省手落成ノ節ハ敷物畳上張取改之儀ハ本年三月中ニ出事ニ付遂テ何分ノ可及議請付ニ目ヲ意調者御略ノ廉ニ付敷物ノ如キハ可成下品相用ヒ精々入費減省ヲ以テ意調再取調ヒ可申出事

明治十年十月廿三日　内務卿　大久保利通　印」

(32)「明治十年十月廿三日　内務卿　大久保利通　印」

[原文]

「第四百八拾七号」

県庁改築営繕願ノ儀ニ付上申

別冊　物品七歳新発注件様目論見

中等

一　物置七歳　壱棟

一　雑費

一　術行　拾五間　但　壱棟之家敷地五間壱尺四寸

一　婆岡　五間

右仕様地所高低平均地所ニ致シ縦八間半巾五間半ニ致シ上台檜長弐間九寸角柱杉長弐間半五寸五分角材松長弐間山八寸厚六寸婆松長壱尺六尺巾壱尺八寸巾用ユ

一　金千八百八拾五円四拾壱銭五厘　土蔵新築費

内訳

金千弐百五拾八円弐拾五銭　大工方

内

金七円五拾円　竹木諸材代

金五拾六円廿九銭　諸職物代

金四百五拾円　大工諸人賃

金弐百五拾円　瓦代

金九拾七円六拾弐銭　屋根葺賃工代共

金四拾弐円三拾弐銭　屋根葺賃工代共

金六拾五円廿弐銭五厘　壁塗賃左官代共

内　坪数八十八坪三合小間掃ヨリ上塗塗坪三付金七拾五銭上塗八

自弓方用

金弐拾八円五拾銭　建具方

金拾五円　入口裏表戸一五枚代

金拾三円九拾銭　窓障子八枚

金百弐拾円　石工方

内訳

金九拾六円　礎石代

但　切石弐個三分金壱円弐拾銭　砂石八百個代

金弐拾四円　人夫方

但　壁塗代三付金三銭

金六拾九円　大工手伝賃

内

金四拾五円　礎石代

但　此人夫賃廿人壱人二付金弐拾銭　地形人足賃

金弐拾四円　砂人足賃代

但　此人足賃拾壱人二付金弐銭　雑色代

金六円九拾銭　内

金五円　足場掛料

金弐円五拾銭　縄其外代

右ノ通相違無之候

明治十年八月十四日　山梨県令　藤村紫朗

(33)「明治十年従十月至十二月内務省指令書　人　書記局」県立図書館蔵県庁政文書

[原文]

「第四百八拾七号」

県庁改築営繕願ノ儀ニ付上申

別冊金壱万八百五拾八円三拾五銭六厘之内

一　金千八百八拾五円四拾壱銭五厘

内訳

金千弐百五拾八円弐拾五銭　大工方

内

金七円五拾円　竹木諸材代

金五拾六円廿九銭　諸職物代

金四百五拾円　大工諸人賃

金九拾七円六拾弐銭　瓦代

金四拾弐円三拾弐銭　屋根葺賃工代共

金六拾五円廿弐銭五厘　壁塗賃左官代共

内　坪数八十八坪三合小間掃ヨリ上塗塗坪三付金七拾五銭上塗八

自弓方用

金弐拾八円五拾銭　建具方

金拾五円　入口裏表戸一五枚代

金拾三円九拾銭　窓障子八枚

金百弐拾円　石工方

内訳

金九拾六円　礎石代

但　切石弐個三分金壱円弐拾銭　砂石八百個代

金弐拾四円　人夫方

但　壁塗代三付金三銭

金六拾九円　大工手伝賃

内

金四拾五円　礎石代

但　此人夫賃廿人壱人二付金弐拾銭　地形人足賃

金弐拾四円　砂人足賃代

但　此人足賃拾壱人二付金弐銭　雑色代

金六円九拾銭　内

金五円　足場掛料

金弐円五拾銭　縄其外代

右ノ通相違無之候

明治十年八月十四日　山梨県令　藤村紫朗

一　金四千円　　此度御下渡金額分
　　外金弐千五円　　先般御下渡相成候分
　　合金六千五百円
　　是ハ当六月分事業落成之分ニ係ル入費金二千六百五拾三円
　　壱銭弐厘之二分　金千六百五拾五円二拾四銭四厘及七七月後
　　之工事ニ係ル費金七千六百弐拾五円二拾四銭四厘共金百給
　　可相成金額ハ千四百位ニ可巻銭ニ達之内
右ハ当県庁改築之儀本月中事業落成之目途ニ付去ル八月当県第二
百八十五号ヲ以テ貴額内之金員御下渡之儀申上候処九年度ニ於テ
事業落成ニ番用中仕切精算相ニ候上御下渡可相成トノ御指令ニ付
則中仕切精算帳取調進送致ノ候間前記之金員至急御下渡相成度此
段申立候也
明治十年十月十九日　山梨県令　藤村紫朗　印
内務卿　大久保利通殿

(32)「明治十年並十年内外往復　史誌編輯局」県立図書館蔵県庁文書
「書面九年度ニ於テ事業落成之番用金千弐百拾七円六拾七銭壱厘
中仕切精算之儀ニ御聞候得共右金額既ニ下渡置候金弐千五百円ニ
差引金千弐百八拾弐円三拾弐銭壱厘ニ属シ十年度費額ニ組入ル
キ分ニ付同金額ハ書面ヲ以返納致スベシ尤此度地租高四千円ヘ
返納済ト加食金五千弐百八拾弐円三拾弐銭九厘ハ十年度費額トシ
テ更ニ可下渡事
明治十年十一月六日　内務卿　大久保利通　印

(32)「明治十年並十年内外往復　史誌編輯局」県立図書館蔵県庁文書
近々風庁新築落成ニ付テハ椅子テーブル書棚等必需調和成候間従
前各課備付相成居候雑具ノ内相応ノ分論必用ニ無之分ハ悉皆
廃シ相成候ニ付移転ノ際右等ノ品ハ当庁ヘ相残ノ候上局ヨリ御
築有之候ハヽ相成度御物ニ就テ御願も可致候尤も従ノ物品ハ何レモ返納メ
当課ヘ御引渡可相成候此段各御心得可被成候尤も従ノ物品ハ何レモ返納メ
明治十年十一月五日　第六課
各課御中

記

一　箪笥　　壱棹
一　書籍函　　四個
　内　甲号書籍入箱　三ツ組函入箱
　　乙号書籍入箱　壱ツ組函入箱
一　硯箱　　七個
以上庶務庁ヘ付属ノ分

一　書棚
一　テーブル　　武架
一　椅子　　七脚
一　箱類　　同
　　三個
以上庶務庁ヘ付属ノ分
右之通候也
十年十一月十六日
第六課　　編輯局
御中

(33)「明治十年内務省届　坤　書記局」県立図書館蔵県庁文書
明治　年　月　日付
十年十一月九日達案　八号属　岩崎寄一　印
令　印
書記官
　等属　印
　第三課長　属　印　印
　警部
内務省へ御中立案
県庁改築費返納ニ並書
当県庁改築費之内九年度御下渡之分過剰相成候間別紙返納証書ニ
要致進達候也
十年十一月十二日　山梨県令　藤村紫朗
内務卿　大久保利通殿

返納証書
一　金弐百八拾弐円三拾弐銭九厘
　是ハ県庁改築費之内金弐千五百円明治九年十二月御下渡之
　処九年度ニ於テ事業落成之分ニ係ル官費金千弐百拾七円六
　拾七銭壱厘ヲ引去之過剰分
右返納候也
明治十年十一月十二日　山梨県令　藤村紫朗
内務卿　大久保利通殿

(34)「明治十年山梨県申与布達　坤」個人蔵
甲第二百七号
第一区甲府錦町新築官庁落成ニ付来る二十三日開庁同二十日ヨリ
事務取扱事
右に付来る廿四日より廿八日迄五日の間庶人官中縦覧を許す
右布達候事
明治十年十一月十四日　山梨県令　藤村紫朗

(33)「明治十年本庁達　書記局」「山梨県庁行政文書」山梨県立図書
館蔵
第八十四号
　　各課
貼庁新築落成ニ付来ル廿一日開庁候間日午後第一時各課漸等外
以上礼服着用出頭可致此旨相達候事
明治十年十一月十九日
　　本　庁

(36)「明治十年内務省届　坤　書記局」「貼立図書館蔵県庁行政文書
県庁改築落成ニ付復旧御届
当県第一区山梨郡錦町県庁改築落成ニ付去月二十日本庁江復帰致
シ候間此段致御届候也

明治十年十一月二日　山梨県令　藤村紫朗

太政大臣　三条実美殿

内務卿　大久保利通殿

(37)「明治十年本庁達　甚四号」　県立図書館蔵県行政文書

第六十八号

各　課

庁内各部出入ノ節其ハヲ明放シ閉ク可ラス庁中戦ノ外ハキモノヲ禁ス

右相達候事

明治十年十一月十日

本　局

(38)「明治十年山梨県甲号布達　坤」　個人蔵

甲第二百二拾号

此度第二区第十二川町役所庁舎家具下候様達ノ者ハ来る廿日上ル二日迄の内第二課へ申出庁舎家具見別置ノ上本月廿七日限入札可差出旨布達候事

明治十年十一月十二日　山梨県令　藤村紫朗

(39)「山梨県史」第七巻　山梨県立図書館　昭和二十九年

県庁改築費ヲ内務省ニ申請ス

一　金八千四百四拾二円壱銭五厘

是ハ県庁改築費内訳ノ金高ニ付八月七拾八円二拾五銭八厘之内ニ十六月分事業進成之分三係ル人夫賃金二千六百五拾三円壱銭壱厘之二分ニ民費金弐千四百二拾五円二拾四銭壱厘引去ル残リ

一　金千弐百八拾七円七拾五銭一厘

是ハ十年八月中別紙書面下渡ス候甲立候数物代弁償品運搬費金千二拾円ニ拾円ニ拾五銭御席候数物ノ費ヲ減下品用用候御抵分之減ヲ有ス候ニ付人費減分ヲ注意致シ実費ヲ修ス運搬之候

一　金弐千二拾六円八拾九銭壱厘

是ハ自繭至金高壱万二千二百九拾六円拾弐銭壱厘之内金弐千五百拾七円七拾七銭三厘ヲ越額シ東三金壱万八百七拾八円二拾五銭六厘ヲ月内三着手可致旨予テ御指令相成候ニ付一層鞭撻方注意致シ候得共其中黒雲二種リ蚕種之養用相揃ヲ御指令遅ニハ就シ旅日的金額より超過致シ候分

合金壱万千七百九拾七円八拾三銭

内

金六千五百円

残金弐万弐百九拾七円八拾壱銭

上ハ中御下渡成分

仮賃御下渡候分

右ハ客年中文部省候通ノ県庁改築成二付人員相揃候処官給可相成分相書之通ニ之有ニ付人員賃金ヲ備相候位旨指見候ニ而度節御予算ニ タルモノニテ坪数・数書品代三亜位ニ付共ニ無理ナル筋省相可致無之候内共予定御指令之趣キ有之ニ付共ニ無理ナル筋省ヲ加ヘ口的金額より超過セサル様注意能ク候中本図案年一月之第

(40)「明治十一年内務省達　本局書記」　県立図書館蔵県行政文書

第五号

山　梨　県

県庁新築費ヲ内務省ニ申請ス

一　金壱万八百七拾八円二拾五銭八厘ヲ目的ニ普請

可致旨明治九年十月指令ニ及ヒ同金高ニ迚々下渡置候末今現落成三至拾分金高ヨリ超過之分及民費ニ重複ニ付用共ヶ弐千二百拾八円八拾五銭弐厘増費請取方申出候処右目論之ニ付賃其時ヶ時求ニ不及代払取計候段願ル不都合之儀ニ付厳断之始末ヶ再申出候此旨指令候事

内務卿　大久保利通代理

明治十一年四月四日　内務少輔　林　友幸　印

(41)「太政官布達第三編　明治十一年～明治二十年　第二十二番」

「四立公文書館」デジタルアーカイブ

内務省甲

六月廿二日

山梨県庁改築費ヶ付

内務省甲

山梨県庁改築ヶ儀　昨九年十月御許可ノ上金二万円余ヶ目的トシ建築落手ノ儀指令イタシ置キ此度落成ニ至候可金高ヨリ超過

風ニテ相違致シ三種ニ蚕ヲ生ジ桑ヲ欠ク目下飛ニ其桑候様ヶ之ヲ養ヲ要ス候ニ付終ニ目的金額ヨリ金弐千円余之不足ニ付人員賃金ヲ備ノ人夫賃

ノ分金壱千円余揃之取請求有之答曲別紙甲七号ノ通リニ有之依テ審按候ニ被州損害ノ金額ハ四百円ニ付塩少ノ超過ハ不出訪ニ候ヘトモ風雪烈敷ノ世用ヲ加フルニ致セ二千円余ノ超過ヲイタス如キハ甚以不法者ノ至殊ニ公吏等申出ニ無之ニ遠拒候如来不実ニ付イ各方其筋ヘ可申出旨相達置候ニ付イ専断ノ所業ハ御処分ニ相成候ヘキ前顕金額ノ如キハ既ニ仕払後ニ相違高金弐千六拾六円八拾九銭弐厘請求ノ通下渡取計度此段相伺候也

六月九日

何ノ藩廃置県事　六月十七

甲　山梨県上申　内務省宛

県下、遠江・駿河

乙　同上　同上

県庁新築費ノ儀ハ目的金高ヲテ御指令ノ趣モ有之候処風雪吉重複ノ費用等不日目的金額ヨリ超過ノ分ヲ敢落成ニイタリ受取方申立有保ニ付ハ本月六月分ノ金額ヨリ二不足仕払ト候様願ル不都合ニ付尊撫ノ趣モ有之候ニ付尊撫ノ趣ニ準ズタシ候ニ付右新築ニ付テハ当初ニヲイテ精密算減シ費額目論見相伺候処然ルニ其内実ニ千五百円余ヲ減シ目的金額御定相成候ニ付ノ屋敷若干ノ値段ヨリ超過セサル様注意可致旨王仁ノモノヘ相達シ専ラ賃業所使ヲ主トシ板ヲ省キ此ノ節ハ弥増経営ノ手術成功ヲ重ンスルニ筋ン昨十年ノ月太貸有ノ風災ヲ之ヲメニ本度規外ノ経費ヲ以テ壁ヲ除リ且ツ飛シ其他数ヶ所ノ損害ヲ被リ右後後ノ工費凡ソ千円余ノ臨被ヲ生シ候ニ付其節詳細取調増費請求可致処同時ノ風雨災害助分等多額用ヲ費ヤシ其出業費ヲ吉ケ受ケ仰キ且一般人民風災救助分等ノ費用ヲ請求候ハヘ一端心慮煩ニ候右附属建物ノ所業向キ新築ヲ要セサルモ格別差閊無之分ハ暫ク旧形ニ復元致シ其減費ヲ以テ此ノ復費ヲ補ヒ別途塗塗書ヲ請求セシテ塗費ノ追相立候様申付取調為致候処凡ソ其機ノ増費ヲ相当ニ、ヘキ減額ヲ算出候ニ付当時請求不致候処其後風災ニ種々民害種既後繕等一時ニ差湧ヒ候ヨリ諸職ノ賃銭及建物用品等非常ニ騰貴ノ是カ為メ遂ニ始終ノ目論ニ顧慮ヲ生ノ落成ノ上全ク金弐千六拾六円八十九銭二厘ノ増費ト相成恐懼ニ不地旨十仁ノモノヨリ申出折角節省ノ苦慮モ其効無キニ付相当落成ノ処分ヲ敢積之不官上大害記置ヲイテモ配変不行届ノ段ハ固ヨリ不免其責候ニ付其節ハ待罪事ニ付其節ハ待罪事ニ有之候此段其由候也

胸答同上議案

別紙内務省伺山梨県々庁改築建築増額ノ分御下渡ノ件審按候処最前御教可之金額ヨリ超過ノ分不経伺遊拡候段不都合ノイタリニ候ヘトモ既往ニ属シ今更イタシ方モ無之次第ニ付申出ノ通ノ御件可相成候外有之間敷因テ御指令候左ニ相伺候也　六月十一日

（42）明治十一年内務省届　書記局　県立図書館蔵処行政文書

明治　年　月　日受付

十一年七月　日成案　九等属　久保出無礼　㊞

令　㊞

書記官

一等属　第二課長　㊞　属　㊞

第三課長　㊞　属　㊞

一金五千弐百五拾七円六拾弐銭

但県庁改築費及風雪重複之費用トモ目的金額ヨリ超過之分ヲ

右御諾有之候也

明治十一年七月一日　山梨県令藤村紫朗

内務卿　大久保利通殿

（43）明治十一年従七月至十二月　内務省伺書　第二　県立図書館蔵県行政文書

（第五百八拾）

県庁物置ト蔵建設ノ儀申立

地方官吏其他諸使傭雇多ニシテ保護スヘキ場所無之差閊候ニ付物置ト蔵ヲ建設ノ儀願ノ趣モ有之候ニ付今般更ニ別冊目論見書及風雪重複之費用トモ目的金額ヨリ超過之分ヲ敢落成

及窓義難除ケ等ノ議論ヲ要シ候ニ付テハ其候処各額別紙付記書之通
何之通可相心得事
明治十一年八月
大蔵卿　大隈重信殿

大蔵卿　伊藤博文　印
大蔵省
山梨県令　藤村紫朗

[第四五一二百八十七号]
何之通可相心得事
明治十一年九月十二日
大蔵卿　伊藤博文　印
邸内御不毛入費ヲ表内記書
一　金二拾七円五拾九銭三厘　定額常費
内
金　拾七円五拾三銭　給与　人足費
是ハ平常ノ人足費ヲ雇ヒ之ヲ用ル方
金拾円弐銭弐厘　庁中費　需用費
右之通令ス候也
明治十一年八月
山梨県令　藤村紫朗

(45)「明治十一年従七月至十一月内務省指令書　第三　臥立図書館蔵県行政文書」

[第七百三十九号]
貯庁物費土蔵建築費御下渡ノ儀ニ申
一　金千六百八拾五円四拾壱銭五厘
右ハ貯庁物費土蔵建築費御下渡ノ儀本年七月十日当県第五百八号ヲ以テ相
伺候処客月廿日付御指揮ノ旨ニヨリ即今落成候ニ付前記各額御下
渡相成度依依之図面相添此段聞申也
明治十一年八月十五日
山梨県令　藤村紫朗　印
内務卿　伊藤博文殿

[第三]
「壱図面積算他所金千六百八拾五円四拾壱銭五厘当省ヨリ可下渡事
明治十一年十一月二十日　内務卿　伊藤博文　印
一物費土蔵図　梁間　五間
桁行　拾三間
右之通
山梨県令
藤村紫朗殿

(46)「太政官典第三編　明治十一年～明治十二年　第五巻」「国立公文書館」デジタルアーカイブ

十月二十二日
山梨県令宛左位勝村紫朗ヘ達
県庁新築費増額ノ儀ハ其筋伺之上ヨリ請求スベキノ処無其儀申断
ヲ以テ消費節減不都合ニ付譴責ス
勝村紫朗殿
伊藤博文　各通
当県庁新築ニ付テハ費用節減ヲ主トシ去ル明治九年八月中再応
目論見金内務省ヘ稟議候処右額ノ内第弐千五百円余ヲ越シ金
壱万八百七拾八円二拾五銭六厘ヲ目的ニ着手可致旨指令有之候
ニ付　層節省右額ヨリ超過セザル様注意可致旨十月ノモノヘ相
達シ総テ質素節便ニ基キヲ彼ヲ省キ此ヲ節ル様ニ相心
労ヲ無ケントスル二際シ昨年十月未曾有ノ風災有之為メニ本度
傾斜シ壁ヲ破リ且ヲ飛シ其他数ケ所ノ損害ヲ被リ右修復ニ金千
円ノ内余ノ費額ニ相成候ニ付其筋詳細取調ヘ内務省ヘ増額請
求可致処予テ当県ニ設置スル所ノ勧業試験場モ同時悉皆倒潰シ
其用築費モ莫大ニ及ブヲ仰キ且一般人民風災救助等多費ノ費用ヲ要シ
殊ニ西南変動以来国費節減ハ御多端ニ在ル事情ハ内務省ヘ稟議
ノ中表向キ新築ヲ要セザル旨格
別差増費ヲ請求セシテ増額ノ追相ヲ以テ此ノ複費ニ充テ
別差増費ヲ請求セシテ増額ノ追相ヲ以テ此ノ複費ニ充テ
凡ソ重複ノ増費ニ相当スベキ減額ヲ算出候ニ付当時請求不致義
儀ハ其後風災ニ際シ民家倒潰修繕等ニ時ニ冷後ニ候ヨリ該国職工
賃銭及建築用品需ヲ非常ニ増騰シ是ガ為メ遂ニ始終ノ目算ニ齟齬
ヲ生シ落成ノ上全ク金式千六拾六円八十九銭二厘ノ増費ト相成
恐怒ニ不堪旨在ノ者ヨリ申出折角節省ノ苦慮モ其効ナキニ立
主在ノ者ハ変更例ニ依リ処分可致心得ニ候ヘ共右様ニ都合相違
シ候ハ単ニ下賜表示仕居ヨリ請求ノ順ヲ誤リ深ク恐懼仕候
依テ始末ヲ具申シ御之通書面候也　四月廿二日

内務省回答
山梨県令藤村紫朗ヘ達　書記官西村尚吉殿
山梨県庁新築費用ノ義進退伺出
候ニ付着見可申出旨御照会之趣ハ明治十一年一月中已聞届置ニ付
一増費ト渡ノ儀申出候処其ニ新築費用概算上ニ於テ金千六拾六円余
ノ増費ト渡ノ儀ハ可申出旨御照会之趣ハ明治十一年一月中已聞届置ニ付
日中風損修復ノ工費有之為ニ増ノ儀ハ可カラサル義ニ候ヘ共況其筋其他
費ヲ請求候ハヽ到底下付相成候外無之義ニ候ヘ共尚其筋ニ候処之レヲ請求セス
専断ノ以テ費消候儀不都合ニ付候ヘ共ヘトモ前述ノ次第ニ付事情的
量過失ノ軽キヲ不ナラン旨在勝村紫朗ノ懲戒例第三条ニ依テ御
処分相成大書記官西村尚吉ハ不問ニ指カレ可然此段及御回答候
也　十六

山梨県大書記官西村尚吉ヘ通牒　書記官
別紙進退伺出ノ趣不被為聞外次位候位及通牒候也　十六日

書記官桑原
山梨県庁新築ノ儀ハ予テ之義ノ金額ヲ以テ可取計事ノ処風災ノ
都合二付別紙ノ通風令藤村紫朗大書記官西村尚吉ヨリ進退伺出
第一条ニ掲リ御聞書相成大書記官西村尚吉ハ不問ニ付セラルヘ
キヤ仰高裁候也　十六日　内務省大書記官
(47)「藤村紫朗関係史料」明治15・12・27『山梨県史　資料編14』平成8年

明治十一年十一月十五日
一　県庁新築増額ノ儀ハ其筋伺之上ヨリ請求スベキノ処無其儀申
断

断ヲ以テ酒肴饗応不都合ニ付譴責ス

明治十一年十月廿二日　太政大臣　三条実美

(48)「明治十一年従七月至十二月内務省達甲号書　第三」　県立図書館蔵県庁文書

第八百四拾二号

県庁修繕費御下渡ノ儀申立

一　金弐百六拾円弐拾銭四厘

右ハ県庁営繕費令達第二号ニ同百拾弐ヶ月毎政廨出火形演算帳和添可申出旨客歳御省ヨリ第九拾八号同百拾弐ヶ月毎政廨三照準県庁修繕費本年七月ヨリ九月マデ三ヶ月分修繕費概数進達候間右費用御下渡相成度此段及聞申候也

明治十一年十二月七日　山梨県令　藤村紫朗　印

内務卿　伊藤博文殿

(49)「書面修繕費高金弐百六拾円弐拾銭四厘当省ヨリ可下渡事

明治十一年十二月廿七日　内務卿　伊藤博文　印」

(50)「明治十一年十二月

県庁営繕費修繕費

山梨県」

明治十一年十二月　県庁営繕費修繕費帳

一　金弐拾二円六拾七銭四厘　県庁用ノ為器具雑費共ニ概算ス夫用

此　訳

金七円九拾五銭　太工方

此工数二拾六人五分　供　壱人二付　金　拾銭

金壱円八拾二銭六厘　鍛冶方

内　五寸釘

百三拾本　代金拾六銭三厘　但　百本二付　金拾六銭　鉄屋

弐百七拾五本　四寸釘

代金拾弐銭　但　百本二付　金六銭

弐千百五拾本　弐寸釘

代金七拾五銭一厘　但　百本二付　金壱銭五厘

金拾弐円弐拾六銭八厘　ベンキ塗

此坪廿拾五坪六合壱分　但　壱坪二付　金四銭四厘

金壱円四拾四銭　大工手伝人足

此人足七人弐分　但　壱人二付　金六銭

金壱円八拾八銭　材木方

内　五分

三拾弐枚　長六尺　巾五尺

代金壱円七拾八銭

一　金弐拾弐円五拾八銭八厘　県庁本館修繕費金壱人用

此　訳

金拾九円四拾七銭　ツーク拾六坪五合代

此工数二拾六人五分　但　壱坪二付　金四拾七銭

金九拾壱銭八厘　同前敷込代

此工数二拾六人五分　但　壱坪五厘六毛一糸　金壱銭五厘

一　金四円七拾七銭弐厘　県庁本館ニ入ル修繕費　同工数壱人費

此　訳

金一円拾五銭　大工方

此工数拾八人五分　但　壱人二付　金三銭

金拾九銭三厘　鍛冶方

内　五寸釘

九拾本　代金拾五銭一厘　但　百本二付　金拾五銭　鉄屋

四　組　代金四銭　肘　平　但　壱組二付　金壱銭

四　組　代金四銭　掛　金　但　壱組二付　金壱銭

金四拾銭　手伝人足

此人足壱人　但　壱人二付　金壱拾銭

金壱円弐銭九厘　材木方

内　尺ノ弐分六厘一毛　笠木

四　挺　杉長九尺

尺ノ壱分九毛　弐寸九分

六　挺　三寸九分

尺ノ壱分六厘　束　同長弐尺九寸　間断

四　挺　筋違木　同長八尺　弐寸角

金百尺ノ四分九厘弐毛　手伝人足

代金壱円弐銭九厘　但　壱人二付　金壱拾銭

一　金七円一拾八銭　県庁本館屋根ヘ伸縮部取付人夫

此　訳

弐百四拾八組　鉄鳴子物

代金七円一拾八銭　但　壱組二付　金一銭

一　金四拾二円八拾弐銭一厘　県庁本館屋根敷設人夫

此　訳

弐拾六掛　晒天谷二木綿母衣仕立日覆
代金一拾三両四銭八厘　但　壱歩三付　金壱両弐拾七銭八厘

弐拾六組　日覆真
代金五両九拾九銭　但　壱歩三付　金弐拾壱銭

百三拾組　同前取付金物
代金二両拾八銭五厘　但　壱歩三付　金弐銭四厘五毛

弐拾八組　同前取付賃
賃金弐両弐匁　但　壱歩三付　金七銭七厘

金拾四両弐拾六銭九厘　此　訳

拾壱掛　晒天谷二木綿母衣仕立日覆
代金拾四両　但　壱歩三付　金壱両弐拾七銭七厘

拾壱掛　同前取付賃
賃金弐拾六銭五厘　但　壱歩三付　金弐銭四厘五毛

金二両九拾七銭二厘　此　訳　幅九尺　丈七尺　晒天谷二木綿目覆　但　壱歩三付　金六拾八銭

代金二両八拾銭　同前取付賃　但　壱歩三付　金七銭二厘

拾掛
賃金拾一銭

金拾六両九拾四銭二厘　此　訳　百五枚　幅一尺三寸　長サ九尺五寸　代金拾五両七拾五銭　但　壱枚三付　金拾銭　胴子板

同前取込賃　但　壱枚三付　金壱銭

百五枚
賃金壱両拾九銭三厘

金弐拾八両九拾壱銭五厘　此　訳

金拾九両五拾銭　大工方　但　壱人三付　金二拾銭

此工数六拾五人

金四両六拾弐銭　ペンキ塗　但　壱坪三付　金四拾銭

此坪拾五合

金壱両六拾銭　手伝人足　但　壱人三付　金六拾銭

此人足八人

金三両拾九銭五厘　材木方

内　尺〆六分四厘　板　松長六尺　四寸角
八　本　竿木　三寸
尺〆弐分四厘　同長弐間　四寸
弐　挺

金壱両九拾九銭二厘　但　尺〆壱本三付　金四六拾銭　鍛冶屋
代金二両拾銭五厘　但　尺〆六拾一　鍛冶屋

金拾五両九銭二厘　此　訳

金二両六拾銭　大工方　但　壱人三付　金二拾銭
此工数拾弐人

金四拾九銭五厘　鍛冶方
内　五寸釘　但　百本三付　金拾銭鍛冶屋
五拾本　四寸釘　但　百本三付　金拾銭鍛冶屋
代金六銭三厘
百　本
代金八銭
千百七拾四本
代金二拾九銭弐厘

金壱両拾六銭　鑓一反弐寸　穂三尺九寸
硝子障子壱本代
金二両九拾六銭　ペンキ塗　但　壱坪三付　金六拾四銭
此坪九坪

金壱両八銭　壱人足　但　壱人三付　金弐銭
此人足五人四分

金四両七拾九銭八厘　材木方
内　尺〆弐分五厘　壱　挺　松長一間　五寸角
尺〆弐分八毛　壱　挺　板　同長壱丈　同断
壱　木　尺〆壱分六厘七毛　同　同長八尺　同断
壱　本　尺〆八厘三毛　同　同長八尺　同断
壱　挺　同長八尺　弐寸五分
五寸

尺〆壱分弐厘五毛　同　同長六尺　同断
弐　挺　同　同長六尺　同断
尺〆壱分　桟木　同長八尺　壱寸五分
五　本　同長八尺　弐寸

尺〆壱分弐厘　同　同長六尺　同断
八　本　同　同長六尺　同断
三拾枚　岩見杉長七尺　六分　壱尺　但　壱枚三付　金六銭五厘
代金弐両八拾五銭

今角尺〆壱本五厘三毛
代金壱円九拾四銭八厘　但　尺〆壱本　六厘　金壱円八拾六銭

金九円五拾六銭
此　訳
金九円
此工数三拾人

金五拾六銭
内
弐百本
代金弐拾五銭
一百本
代金弐拾四銭
白四拾本
代金七銭

金七円弐拾銭
樋埋込用ヘナ十九拾間代　但　壱間三付　金八銭
水口石五拾弐枚代

金九拾五銭六厘
右之通相違無之候也
明治十一年十一月
山梨県令　藤村紫朗

一金拾円七拾七銭五厘　長サ八寸巾壱尺弐寸板敷巾壱尺六間程相場八分
此　訳　　毎一尺　長六尺
七　枚
代金七円八拾七銭五厘

西面板　但　壱枚三付　金四銭　長サ同断

五人
賃金壱円五拾銭

同部畳手間　但　壱枚三付　金三厘

式人
賃金六拾銭

尾張畳手間　但　壱枚六付　金三厘

四人
賃金八拾銭

壬伝人足　但　壱人三付　金弐厘

一金九拾五円四拾九銭八厘
此　訳
金拾一円五拾銭
此工数四拾五人

金七円弐拾銭

金壱円八拾銭
此人足九人

金拾九円弐拾四銭
此尺〆拾木四分

金六円
此人足二拾人

長サ一間本巾壱寸五厘ヶ一拾間程之建場入費
大工方　但　壱人三付　金一銭

崖折六寸釘六百本代　但　百本三付　金壱厘弐銭

壬伝人足　但　壱人六付　金三厘

樋木拾尺壱本三尺八寸角
拾五間代　但　尺〆金壱二付　金壱円八拾五銭

樋隙際弐尺上口弐尺長延
三拾間程相場込人足　但　壱人三付　金六銭

第3節　甲府城下町遺跡出土の焼塩壷について

海水から作られた粗塩を白で鉢かく砕き、壷をした素焼きの壷に詰めて、壷ごと焼くことによって白い良質な精製塩（壷焼塩）が得られる。この壷焼塩の製造と流通に使用された容器が焼塩壷である。元来は武家の宴席で用いたり、贈答品とされた「高級品」であったようである。これまでの甲府城下町遺跡の調査では、日向町遺跡第2地点、北口二丁目桜シルク跡地点、集会場地点、北口二丁目舞鶴城公園西通り豫地点などで焼塩壷が出土している。いずれも武家屋敷地である二ノ堀の内郭に位置する。出土数はあまり多くなく日向町遺跡第2地点の9点、桜シルク跡地点の5点が目立つ程度である。今回の調査地点では、26点（身15点・蓋11点）と比較的多くの焼塩壷が出土した（図1）。ここではその資料を紹介しつつ、若干の推察を行ってみたい。

1号池からは蓋4点・身6点の焼塩壷が出土した。身と蓋がセットとなって出土した例はなかった。1号池は中島を挟つ大きな池で、調査区南西部の大部分を占める。池は、柳沢氏の家老平岡将監の屋敷に関わる遺構と考えられる。

上段の4点は蓋である。裏面に布目があり、断面形は逆凹字形である。他の6点は身である。蓋受けを持ち、コップ形を呈す。内面には布目が見られ、板状の粘土を芯に巻きつけて成形したものと考えられる。113は「泉州麻」、117は「泉州麻生」、133には「泉州・・」の刻印がある。113は「麻生」の「生」の一画目まで描きかけて止めているように見える。刻印が体部の下位にあるため、スペースがなくなってしまったのだろうか。145は平行する線刻が見られるが文字は確認できない。底部は粘土塊を充填して製作した痕跡が明瞭に残る。1号池出土の焼塩壷は、その形状や刻印、成形技法から18世紀前半までの時期に製作されたものと考えられる。

1号池以外の場所で出土した焼塩壷は、蓋7点・身9点である。セットでの出土例はない。いずれも調査区の東半から出土した。蓋では断面形が逆凹字形のものの他に、1号溝54や28号土坑7など凹みがほとんどなくなって平らになっているものがある。身では、撹乱G 10グリッド出土のものは、板作り成形されているが、蓋受けが退化しており、器形も体部の立ち上がりがゆるやかになっている。37号土坑とE 12グリッド出土の5点は、1号池出土のものに比べて明らかに寸詰まりで薄手になっている。底部には回転糸切り痕が残り、ロクロ成形されたものである。これらの蓋と身の製作時期は18世紀後半から19世紀にかけてのものと考えられ、調査地点に甲府勤番の大手役宅が存在していた時期である。

最後に、大手役宅の様子が描かれた『甲府勤内追手御役宅絵図』に遺構図を重ね、焼塩壷の出土分布から推察される点を挙げてみたい（図2）。なお、図面の重ね方は絵図上の東側と南側の屋敷境が現道に一致すると仮定した。絵図の位置、縮尺等に検討の余地はあるが、分布のおおよその傾向はつかめるものと考える。

焼塩壷の出土地点は、1号池で出土したもの、大手役宅北東角の台所あたりと推測される位置から北へ広がるものと、役宅東側の長屋門あたりと推測される位置のものの三つに分かれる。

1号池出土のものは、大手役宅の成立時期には池が埋没していたと考えられることや「高級品」である焼塩壷が10点も出土したことを考え合わせると、大手役宅成立以前の柳沢氏領国期（1704～1729年）の家老平岡将監の屋敷で使われ、使用後に池に投棄されたものである可能性が高い。

大手役宅北側出土のものは、台所や井戸など役宅の炊事場がある所から北側に広がる空間に、役宅で使用した焼塩壷やその他の不要となった陶磁器などを捨てるゴミ穴等の存在を考えることができる。ただし26号土坑は、1号池と同様な時期の焼塩壷ばかりが出土していることから、平岡将監屋敷の時期のものとも考えられる。屋敷の絵図なども見つかっておらず、その様子は不明であるが、平岡将監屋敷の炊事場の立地も大手役宅期とあまり変わらなかったのかもしれない。

大手役宅東側出土のものについては、役宅の東側には長屋が連なっており、甲府勤番支配に仕えて長屋に暮らす人々の炊事にも壷焼塩が使われることがあったのではないかと想像している。この付近で出土した焼塩壷は3点であるが、その内、2点は大手役宅期のものと考えられる。「高級品」とされる壷焼塩であるが、少なくとも大手役宅の時期（1730～1867年）には、そこに暮らす人々も壷焼塩を味わっていたのかもしれない。

参考文献：『図説　江戸考古学事典』

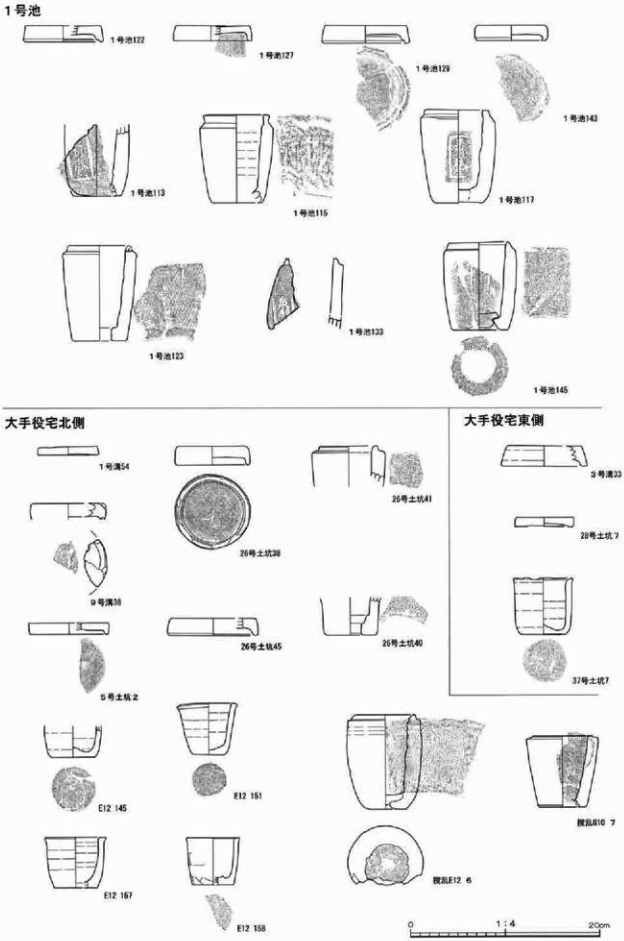


図1　甲府城下町遺跡市役所地点出土の焼塩壷（S=1/4）

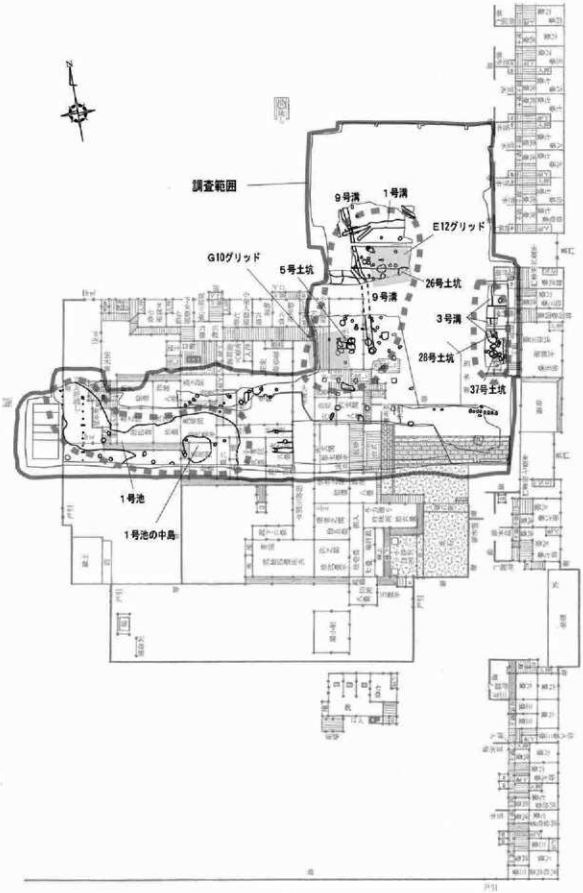


図2　『甲府郭内追手御役宅絵図』（東北大学収蔵）と焼塩壺出土地点（S=1/500）

第４節　甲府城下町遺跡出土の真牡蠣について

今回の調査で、当時の食生活の分かる動物骨、魚骨、貝殻が出土した。特に目を引いたのは、県内では鎌沢河岸跡遺跡でもマガキの殻は出土しているが、こんな大きな殻はめったに見たことがない、と言うような巨大なマガキの殻。

江戸時代、牡蠣は、日本最初の魚類図鑑『日東魚譜』に紹介されている。『日東魚譜』には、1. 享保４年（1719）　2. 享保 16 年（1731）3. 享保 21 年（＝元文元年、1736）4. 元文６（＝寛保元年、1741）の４種類があり、それぞれ構成・所収品数・図の出来が異なる。

写真は 4. 元文６年版の牡蠣の紹介箇所の一部である。（国立国会図書館デジタル化資料より引用）

内容は、牡蠣の当字、名前の由来、生態、気味（香と味）、効能が紹介されている。効能には、炙食、煮食、生食の場合の効能が紹介されている。

山梨の食文化に関しては、『甲州食べもの紀行－山国の豊かな食文化－』論考２「山梨の食文化を記録した歴史資料について」で詳細な分析が行われている。そこで、今回はマガキに焦点を当てて、当時の料理本、紀行文から実際にどのようにして料理していたのかを見てみる。

その前に、海から離れている甲府まではどのようにして海産物は運ばれていたのだろうか。

ルートは、①沼津から御坂峠を越え黒駒道を行く「鎌倉往還」、②富士吉原から本栖湖・精進湖の間を抜けて古関、右左口を経由する「中道往還」（「魚の道」）③富士川の３つのルートが知られている。

今回の調査で貝類は、マガキの他に赤貝、アワ

海産物の運搬ルート

ビ、ハマグリ、サザエの殻が出土している。その産地は、例えば、沼津あたりと考えると、江戸と比べて近く、生のまま運搬出来る可能性はあったかもしれないが、江戸からの生牡蠣は難しいのではないだろうか。

江戸時代、甲府に最も近いカキの産地は江戸であった[i]。カキの価格は安く　。大阪はカキご飯にして食べていた[ii]事は紹介されているが、江戸の庶民がどのようにして食べたのかは紹介されていない[iii]。

上流階級は「カキの吸い物」「カキのてんぷら」を食べていたという記録がある[iii]。県内では前出資料中には[iv]「牡蠣」は登場していない。したがって県内のカキの料理方法は良く分かっていない。可能性として、大きなカキ殻は「貝鮑」のように盛付けのために使用されたかもしれない。

また、食用としてではなく、カキ殻は漆喰、石灰の代用品、薬として活用されていた[v]とも紹介されている。

[i]『和漢三才図会』（宝徳三（1713）年、寺島良安）巻六十七「武蔵国土産　品川」

[ii]『類聚近世風俗志』（明治四十一（1908）（原名『守貞謾稿』（天保八（1837）～嘉永六（1853））（喜田川季荘著，室松岩雄等編）「第五編　生業下」

[iii]『鬼平舌つづみ』（2004 年、文藝春秋社編）（底

本は『料理物語』（寛永二十（1643）、著者・出版社不詳）

※『甲州食べもの紀行－山国の豊かな食文化－』論考2「山梨の食文化を記録した歴史資料について」

※『大和本草』（宝永六（1709）年、貝原益軒）巻十四「牡蠣」

第5節　まとめ

調査地は江戸中期以降、現在まで県市の行政をつかさどる公的施設が存在し続けた場所である。宝永元年（1704）～享保9年（1729）の甲府藩柳沢氏の領有期には城代の平岡将監屋敷、その後幕末までは甲府勤番支配大手役宅、明治期には山梨県庁、県庁移転後の昭和期には甲府郵便局、甲府水道局と続き、昭和34年（1959）に甲府市役所が建設されている。そしてまた、このたび甲府市役所の新庁舎が建設される。行政の中枢地として使用され続け、新しいものが作られ続けるということは、裏返すとそれだけ以前のものが見えにくくなるということになる。このような状況の中で今回の調査では江戸中期の屋敷内に作られた池を持つ庭園の様子や、内陸の地にもかかわらず大きなマガキなど高価な海産物を消費する豊かな食生活、幕末までの間の勤番支配役宅に見る、表門周辺の様子や甲府上水を引き込んだ巧みな水利用、炊事場の様子などをうかがい知ることが出来た。

また、写真にも残る明治期の山梨県庁のE字形に南を向いた洋風庁舎の基礎構造を知ることができた。最下層の杭から規則的に配列され緻密に計算されていることや、基礎中間に玉石を用いることで下層の胴木・枕木材が水に浸かりやすくして、木材が朽ちたり、腐食したりしないように考慮されていることなど明治期の技術を明らかにできた。また一方では、礎石、根石は加工されているが定型ではなく、それぞれまちまちな形をしており、2寸幅や3寸幅の矢穴を持つものもあることから、転用品である可能性も考えられ、当時の建築費用のやりくりの苦労もうかがうことが出来た。

このように今回の調査では比較的大型の遺構が目立つ傾向にある。しかし、一方で貴重な小さな遺構も検出している。いずれも上間の縁辺部で検出した2号・27号・51号・58号・59号の各ピットからは埋納された胞衣皿が検出されている。出産後に後産を入れて埋納した容器で上皿と下皿を重ね合わせて使用された。胞衣埋納の目的に関しては諸説あるが、子供の行く末を願う行為とするものもある。また、胞衣埋納遺構は近世江戸地域の検出事例に比べ、他地域では希少な遺構とされる。このような遺構が集中して検出されたのは勤番士が江戸からの風習を持ち込んで来ていたためということが考えられる。いずれにしてもこの地で新しい命が産まれ、慈しまれていたということが、分かったことは非常に喜ばしいことと思われる。今回検出した胞衣皿の中には「寿」の文字が確認できたものはなかった。58号ピットの共伴遺物の痕跡の可能性を検出できた。下皿には中空の錆が僅かに付着しており、共伴埋納された針の地金が腐食し、周囲の錆のみが残存した状態を推量することが出来る。さらには、針の共伴埋納とすると女児に対する祈りが込められた胞衣埋納ということも想像することが出来る。

今回の調査では行政の中枢を継続する地という立地条件にもかかわらず、大小の多くの遺構、遺物を検出するに至り、各時期の様子を一部ながらも明らかにすることが出来ことは貴重な成果と考える。

【参考・引用文献】

江戸遺跡研究会編　2001『図説　江戸考古学研究事典』柏書房

九州近世陶磁学会　2000『九州陶磁の編年』

甲府市教育委員会他　2001『甲府城下町遺跡Ⅰ』甲府市文化財調査報告15

甲府市教育委員会　2002『甲府城下町遺跡Ⅱ』甲府市文化財調査報告19

甲府市教育委員会　2006『甲府城下町遺跡Ⅲ』甲府市文化財調査報告33

甲府市教育委員会他　2007『甲府城下町遺跡Ⅳ』甲府市文化財調査報告39

甲府市教育委員会　2009『甲府城下町遺跡Ⅴ』甲府市文化財調査報告52

甲府市教育委員会他　2012『甲府城下町遺跡Ⅵ』甲府市文化財調査報告57

甲府市教育委員会他　2012『甲府城下町遺跡Ⅶ』甲府市文化財調査報告61

甲府市史編さん委員会　1992『甲府市史　通史編　第二巻　近世』

山梨県教育委員会　2004『甲府城下町遺跡（上向町遺跡第2地点）』

山梨県教育委員会　2005『県指定史跡甲府城跡』

山梨県教育委員会　2007『甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）』

遺物観察表

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(cm)	復元残存	底径(cm)	復元残存	器高(cm)	胎土	色調	成形	観察所見	胎土	備考
9	第1号基礎	1	磁器	碗	完元	8.8	復元	3.2		4.3		密				
9	第1号基礎	2	磁器	碗	完元	10			残存	2.9		密				
9	第1号基礎	3	磁器	碗	復元	10.4			残存	4.6		密				
9	第1号基礎	4	磁器	碗			復元	4.6	残存	2.8		密				
9	第1号基礎	5	磁器	碗			復元	3.6	残存	4.4		密				
9	第1号基礎	6	磁器	碗					残存	4		粗密				
9	第1号基礎	7	磁器	碗			復元	1.6	残存	2.5		密				
9	第1号基礎	8	磁器	碗				3	残存	2.4		密				
9	第1号基礎	9	磁器	碗	復元	9	復元	3.2		4.9		密		底目		
9	第1号基礎	10	磁器	碗	復元	8.8	復元	3		4.3		粗密				
9	第1号基礎	11	磁器	碗	復元	9			残存	4.5		密				
9	第1号基礎	12	磁器	碗					残存	3.5		密		施釉		
9	第1号基礎	13	磁器	碗					残存	1.5		密				
9	第1号基礎	14	磁器	碗					残存	3.8		密				
9	第1号基礎	15	磁器	皿	復元	15.8	復元	7.4		2.95		密				
9	第1号基礎	16	磁器	皿			復元	9.8	残存	1.2		密		蛇の目釉剥ぎ		
9	第1号基礎	17	磁器	皿					残存	2.2		密				
9	第1号基礎	18	磁器	徳利					残存	3.8		粗密				
9	第1号基礎	19	陶器	行平鍋蓋	復元	10.8	復元	4.6		2				受部幅(復元)7		
9	第1号基礎	20	陶器	行平鍋		9.8		4.4		2				受部幅5.8		
9	第1号基礎	21	陶器	瓶			復元	4.4	残存	1.6				口径不明		
9	第1号基礎	22	陶器	上鉢					残存	2.6			口縁部	内外面施釉・コバケテ・外面:ヒビオンナ		
9	第1号基礎	23	陶器	壺					残存	1.3				上胴径(復元)8.2・受部径(復元)6.4		
9	第1号基礎	24	陶器	土瓶					残存	4.5						
9	第1号基礎	25	陶器	瓶			復元	10	残存	2.7				口縁部		
9	第1号基礎	26	陶器	蓋					残存	3						
10	第1号基礎	27	陶器	徳利			復元	17	残存	6.9						
10	第1号基礎	28	陶器	壺蓋			復元	13.6	残存	3.5						
10	第1号基礎	29	陶器	壺蓋		4.8		3.6		4				底部糸切痕		
10	第1号基礎	30	硝子	瓶		2.5		3.5						総重量 17.64g		
10	第1号基礎	31	硝子	瓶		2.7		5						重量 38.73g		
10	第1号基礎	32	金属	釘	残存	6.8	残存	0.5						7.93g		
10	第1号基礎	33	金属	鉸	残存	15.4	残存	0.7						38.29g		
10	第1号基礎	34	金属	不明		1.9		2		0.6				4.22g		
10	第1号基礎	35	瓦	軒桟瓦	復元	3.5	残存	12.3		2.2				厚み 7.1cm		
10	第1号基礎	36	瓦	軒桟瓦	復元	4	残存	3.5		1.2						
12	第2号基礎	1	磁器	碗			復元	3.2	残存	3.2		密				
12	第2号基礎	2	磁器	碗				4.8	残存	1.1		密				
14	第2号基礎	1	磁器	碗			復元	6.2	残存	2.2	底部					
14	第2号基礎	2	磁器	碗	復元	8.8	復元	3.5		5		密		下駄台紀		
14	第2号基礎	3	磁器	皿					残存	2.6		密				
14	第2号基礎	4	陶器	小皿		5.4		4.3		1.3						
14	第2号基礎	5	陶器	鉢		10			残存	2.2				鉢部		
14	第2号基礎	6	金属	銭		2.3		0.6		0.1				寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 刻銭 2.45g		
14	第2号基礎	7	金属	銭		2.3		0.6		0.1				寛永通宝 新寛永(1668年以降)文銭(寛文期(1661～1672年) 一文銭 刻銭 1.82g		
16	第3号基礎	1	磁器	碗			復元	4.1		3.2						
16	第3号基礎	2	磁器	徳利					残存	3.8		密		釉剥		
18	第5号基礎	1	磁器	皿			復元	12.8	残存	2.5		密				
18	第5号基礎	2	陶器	徳利					残存	3.1						
20	第6号基礎	1	磁器	碗	復元	9.2			残存	4.2						
20	第6号基礎	2	磁器	碗	復元	10.2			残存	3		密				
20	第6号基礎	3	磁器	碗			復元	3.6	残存	2.8		密				
20	第6号基礎	4	磁器	碗			完元	4.4	残存	2.4		密				
20	第6号基礎	5	磁器	碗			復元	3.2	残存	3		密				
20	第6号基礎	6	磁器	碗	復元	9	復元	3.6		4.1						
20	第6号基礎	7	陶器	鉢			復元	4	残存	1				内外面施釉・糸切痕		
20	第6号基礎	8	陶器	皿	復元	9.6				3.9				受部径(復元)7.6		
20	第6号基礎	9	陶器	上皿			復元	7	残存	1.8	底部			内面施釉・コバケテ・外面施釉・糸付		
20	第6号基礎	10	陶器	上皿			復元	8.8	残存	2				内外コバケテ・内面スリ目・外面釉剥		
20	第6号基礎	11	陶器	鉢	復元	10			残存	2.8				内外コバケテ		
20	第6号基礎	12	陶器	徳利			復元	16.4	残存	3.9						
20	第6号基礎	13	陶器	上皿					残存	4.7						
20	第6号基礎	14	瓦	平瓦(ハケ)	残存	7.5	残存	5.7		1.7		密		厚み 2.7cm		
22	第7号基礎	1	磁器	碗					残存	3.8		密				
22	第7号基礎	2	磁器	碗			復元	8.2	残存	4.5		密				

図番号	道構名	遺物番号	器種	器形	復元 現存	口径 (長)	復元 現存	底径 (幅)	復元 現存	器高 (厚)	部位	観察所見	出土	備考
22	弘平19号墓	3	鉄器	刀			復元	3.8	現存	3.4			表	
22	弘平19号墓	4	鉄器	刀	復元	6.8			現存	4.5			表	
22	弘平19号墓	5	鉄器	刀	復元	10.2	復元	4		5.3			表	
22	弘平19号墓	6	陶器	土師皿	復元	10	復元	4.4		2.1		受部径(復元)7		
22	弘平19号墓	7	陶器	壺					現存	5.2				
22	弘平19号墓	8	陶器	須恵器	復元	12.2	復元	6		7.1		受部径(復元)6		
22	弘平19号墓	9	鉄器	鉄棒					現存	5				
22	弘平19号墓	10	土師	皿						4.7				
22	弘平19号墓	11	金属	鉄	現存	12.8		0.65		0.75		27.76g	表	
24	弘平19号墓	1	鉄器	釘					現存	3.3			表	
21	弘平19号墓	2	鉄器	鏡	復元	7		3		3.2				
26	弘平19号墓	1	陶器	皿					現存	0.9	底部			
26	弘平19号墓	2	金属	鏡	現存	13		0.6		0.7		22.05g		
26	弘平19号墓	3	金属	鏡	現存	12.5		0.8		0.8		20.12g		
26	弘平19号墓	4	金属	鏡	現存	10.8		0.7		0.6		21.10g		
29	弘平19号墓	1	鉄器	石紙					現存	5.4		鉄/ 鉄片	表	
29	弘平19号墓	2	鉄器	鉄板	現存	8.7	現存	7.7	現存	2.2			表	
29	弘平19号墓	3	鉄器	鉄	復元	11.8	復元	6		2.1			表	前
29	弘平19号墓	4	鉄器	鉄					現存	4.7			表	前
29	弘平19号墓	5	鉄器	鉄					現存	4			表	
29	弘平19号墓	6	鉄器	鉄元正					現存	2.9			表	
29	弘平19号墓	7	鉄器	鉄					現存	3			表	
29	弘平19号墓	8	鉄器	石刀鞘	復元	7.8		2.0		1.8			表	
29	弘平19号墓	9	鉄器	鉄					現存	2.6			表	
29	弘平19号墓	10	陶器	土師					現存	4.2	底部	前(鉄鏡)-器/上部は口ゴム心下は鉄鏡		
29	弘平19号墓	11	鉄器	木	現存	16.7	現存	6		6				
29	弘平19号墓	12	鉄器	木棒	現存	4.3	現存	2.7		1.7		10.39g		
29	弘平19号墓	13	鉄器	刀		5.6		3.6		6.1		2.19g		
29	弘平19号墓	14	金属	鉄	現存	13.5		2.4				20.61g		
29	弘平19号墓	15	金属	鉄	現存	13.5	現存	2.7		0.7		21.39g		
29	弘平19号墓	16	金属	鉄	現存	3.4		2.8		0.7		9.34g		
29	弘平19号墓	17	金属	鉄	現存	4.9		2.2		0.6		6.61g		
29	弘平19号墓	18	金属	鉄	現存	14		2.9		0.6		38.44g		
29	弘平19号墓	19	金属	鉄	現存	13.6						23.44g		
29	弘平19号墓	20	金属	鉄	現存	14	現存	2.7		0.8		37.85g		
30	弘平19号墓	21	金属	鉄	現存	13		3.2				34.45g		
30	弘平19号墓	22	金属	鉄	現存	14.4		2.6		0.6		30.30g		
30	弘平19号墓	23	金属	鉄	現存	13.7		2.3		0.5		22.77g		
30	弘平19号墓	24	金属	鉄	現存	4.8		3		0.6		4.92g		
30	弘平19号墓	25	金属	鉄	現存	5.4		3.6		0.7		8.05g		
30	弘平19号墓	26	金属	鉄	現存	14.4		0.8		0.7		29.29g		
30	弘平19号墓	27	金属	鉄	現存	7.5		3.2		0.6		10.89g		
30	弘平19号墓	28	金属	鉄	現存	15.9		2.5		0.6		28.80g		
30	弘平19号墓	29	金属	鉄	現存	14		3		0.7		24.83g		
30	弘平19号墓	30	金属	鉄	現存	14.3		3.2				25.65g	表	
30	弘平19号墓	31	瓦	[illegible]	現存	6.3	現存	10		1.3			表	
30	弘平19号墓	32	瓦	[illegible]	現存	4.7	現存	7.9		3.4			表	
32	弘平19号墓	1	陶器	陶	復元	10	復元	3		3.5		2.5Y 8/1 灰白	表	
32	弘平19号墓	2	陶器	皿	復元	11.4	復元	3.2		3.5		明の上鉄釉剥落	表	
32	弘平19号墓	3	鉄器	皿	復元	15.4			現存	2.9			表	
32	弘平19号墓	4	鉄器	刀		4		4		0.5			表	
32	弘平19号墓	5	陶器	硯	復元	5.4		5		2				
32	弘平19号墓	6	陶器	小皿	復元	6			現存	1.8				
32	弘平19号墓	7	陶器	茶碗					現存	4.3		胎土白色		
32	弘平19号墓	8	陶器	花瓶		4.6			現存	6.6	首一巻部分			
32	弘平19号墓	9	陶器	鉢					現存	3.3		表施釉		
32	弘平19号墓	10	陶器	皿			復元	4	現存	1.7				
32	弘平19号墓	11	金属	鉄	現存	5.2		3.6		0.65		15.20g	表	
32	弘平19号墓	12	瓦	軒瓦	現存	8.9	現存	9		2.3				
34	弘平19号墓	1	金属	鉄	現存	11.2		0.6		0.65		22.13g	表	
36	弘平19号墓	1	陶器	皿	復元	8	復元	5		1.7			表	前
36	弘平19号墓	2	陶器	碗			復元	4.4	現存	2.2				
36	弘平19号墓	3	陶器	鉢				5.4	現存	1.9		胎土白色/上施釉		
36	弘平19号墓	4	金属	鉄	現存	15.5		2.7		0.6		28.46g		
36	弘平19号墓	5	金属	鉄	現存	12.3		0.7				13.39g		

图番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	底穴	口径(数)	胴径	底径	色調	焼成	器高(厚)	紋様	現状所見	拓本	備考
36	土ピット15号遺構	6	金属	鉄		2.5			0.6		0.1		東木通立 新定水(1668年以降) 文銭(寛永期1661～1672年) 一文銭 銅銭 3.11g		
36	土ピット15号遺構	7	金属	鉄		2.4			0.6		0.1		東木通家 六寸寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭 2.83g		
36	土ピット15号遺構	8	金属	鉄		2.3			0.6		0.1		東木通家 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭 2.91g		
36	集ピット19号遺構	9	木製品	曲物					3.5		0.1	底部			
36	集ピット19号遺構	10	木製品	曲物	残存	9.1	残存	7.7	1		0.1	底部			
38	土ピット15号遺構	1	磁器	皿	復元	9.8			6		1.9			有	
38	土ピット15号遺構	2	陶器	瓶類						残存	5.9		内外:鉄釉		
40	集ピット16号遺構	1	木製品	不明	残存	49			10		8.8				
40	集ピット16号遺構	2	木製品	曲物		16.4			14.3		0.4				
40	集ピット16号遺構	3	木製品	角材		64			8		3				
41	ピット1	1	磁器	碗	復元	9.8				残存	3.2			有	
41	土ピット2	2	陶器	鉢						残存	3	鉄釉	内面青磁・外面灰付		
41	集ピット2	2	金属	銭		2.4			0.6		0.1		東木通家 六寸寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭 2.63g		
41	集ピット2	3	金属	銭		2.4			0.6		0.1		東木通家 六寸寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭 3.08g		
41	集ピット2	5	金属	銭		2.4			0.6		0.1		東木通家 六寸寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭 3.52g		
41	集ピット2	6	金属	銭		2.35			0.65		0.1		東木通家 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭 3.67g		
43	1号建物	7	磁器	碗				復元	4	残存	7		底面		底部内面刷毛目
43	1号建物	2	磁器	碗						残存	1.5				
43	1号建物	3	磁器	皿	復元	8.8		復元	4.6		2.3		地面		
43	1号建物	4	磁器	碗	復元	10		復元	3.8		3.7		底付		
43	1号建物	5	磁器	皿						残存	1.1				
43	1号建物	6	磁器	碗				復元	9.4	残存	3.6		底付		
43	1号建物	7	磁器	碗						残存	4		底付		
43	1号建物	8	陶器	壺						残存	5.1	白釉紙	上面:鉄石2～灰釉6.6		
43	1号建物	9	陶器	土瓶	復元	6.4				残存	6	白釉～年代			
43	1号建物	10	陶器	鉢				復元	12	残存	2.1	鉄釉			
43	1号建物	11	磁器	皿				復元	11	残存	4.4		内外:鉄釉		
43	1号建物	12	陶器	瓶	復元	6.8		復元	6		2.5		内外:鉄釉		
43	1号建物	13	陶器	灯明具						残存	4.4		内外:白釉		
43	1号建物	14	陶器	鉢				復元	6	残存	2.3		内外:白釉		
43	1号建物	15	磁器	皿						残存	4.6		内面:鉄絵有り		
43	1号建物	6	金属	鉄釘	残存	7.2							頭径 小口径 1cm 厚径 0.5cm 7.36g		
43	1号建物	17	木製品	曲物	残存	5.8		残存	2.5		0.25	底部			
43	1号建物	18	瓦	丸瓦		26.3			23.5		1.5			有	底部内面刷毛目
44	1号溝	1	磁器	碗				復元	3.4	残存	3.3			有	底部内面刷毛目
44	1号溝	2	磁器	皿	復元	5.5				残存	1.3		底付		
45	1号溝	3	磁器	皿						残存	1		底付		
45	1号溝	4	磁器	碗				復元	5.8		6.2			有	底部内面刷毛目
45	1号溝	5	磁器	碗				復元	3.4	残存	2.2		底付	有	底部内面刷毛目
45	1号溝	6	磁器	碗						残存	3.3		底付	有	底部内面刷毛目
45	1号溝	7	磁器	碗	復元	9.4				残存	2.5		底付	有	底部内面刷毛目
45	1号溝	8	磁器	碗	復元	9.8				残存	4.7			有	底部内面刷毛目
45	1号溝	9	磁器	碗	復元	9.8				残存	2.8		底面	有	底部内面刷毛目
45	1号溝	10	磁器	碗	復元	11.8		復元	4.7		5.7		底付	有	底部内面刷毛目
45	1号溝	11	磁器	皿				復元	10	残存	3		底付	有	底部内面刷毛目
45	1号溝	12	磁器	碗				復元	6	残存	4.4		底付	有	底部内面刷毛目
45	1号溝	13	磁器	碗				復元	6	残存	3.7		底付	有	底部内面刷毛目
45	1号溝	14	磁器	碗	復元	11				残存	2.5		底面	有	底部内面刷毛目
45	1号溝	15	磁器	瓶類						残存	1.5		底面	有	底部内面刷毛目
45	1号溝	16	磁器	皿	復元	13	復元	7			1.5/8/1	底付	1.6高台 1.6高台 焼台跡の痕あり	有	底部内面刷毛目
45	1号溝	17	磁器	皿			復元	3	残存	2.8				有	底部内面刷毛目
45	1号溝	18	磁器	皿					残存	4.1		底付		有	底部内面刷毛目
45	1号溝	19	磁器	碗					残存	2.3		底付		有	底部内面刷毛目
45	1号溝	20	磁器	碗	復元	9				残存	3		底付	有	底部内面刷毛目
45	1号溝	21	磁器	碗			復元	4.6	残存	3.9			底付	有	底部内面刷毛目
45	1号溝	22	磁器	碗			復元	4	残存	2.2			底付	有	底部内面刷毛目
45	1号溝	23	磁器	皿			復元	11.4	残存	1.9			底付	有	底部内面刷毛目
45	1号溝	24	磁器	皿					残存	2			底付	有	底部内面刷毛目
45	1号溝	25	磁器	碗	復元	5.4				残存	1.7		底付	有	底部内面刷毛目
45	1号溝	26	磁器	碗	復元	9.8				残存	3.6		底付	有	底部内面刷毛目
45	1号溝	27	陶器	鉢	復元	14.2				残存	4.9		内外:鉄釉		
45	1号溝	28	陶器	壺						残存	6.7	白釉～鉄釉	色調:(復元)9.4		
46	1号溝	29	陶器	皿(6.8)			復元	16.9	残存	2.3	土器		貫入有り		
46	1号溝	30	陶器	皿	復元	14			残存	3.5	休耕～白釉紙				
46	1号溝	31	陶器	土瓶			復元	8.8	残存	2			鉄釉		

図番号	遺構名	遺構番号	器種	器形	復元度	口径(cm)	復元度	底径(cm)	復元度	残存率(%)	胎土	観察所見	胎土	焼成
46	1号溝	32	陶器	碗			復元	6	残存	1.6	精良	黒釉有り		
46	1号溝	33	陶器	皿			復元	6.6	残存	3.1	良精	灰釉		
46	1号溝	34	陶器	横鉢			復元	14.8	残存	6.2	白部～底部			
46	1号溝	35	陶器	鉢			復元	7.75	残存	6.4	体部～底部	貫入有り		
46	1号溝	36	陶器	十徳					残存	4.8	底口			
46	1号溝	37	陶器	鉢(即ち行)					残存	3.3	口縁部			
46	1号溝	38	陶器	十徳			復元	9.4	残存	1.6				
46	1号溝	39	陶器	小皿	復元	8.4			残存	1.3	口縁部			
46	1号溝	40	陶器	茶碗			復元	6.2	残存	3.1		中心に穴あり		
46	1号溝	41	陶器	灯明皿	復元	12	復元	7	残存	2.2		受部幅(復元)2.6		
46	1号溝	42	陶器	上皿			復元	6.2	残存	1.4		釉掛有り		
46	1号溝	43	陶器	瓶	復元	37.6			残存	6.8	口縁～			
46	1号溝	44	陶器	甕	復元	19.2			残存	6.3	口縁～			
46	1号溝	45	陶器	碗			復元	6.8	残存	2.3				
46	1号溝	46	陶器	擂鉢					残存	4.3				
46	1号溝	47	陶器	上皿					残存	3.7	底口			
46	1号溝	48	陶器	擂鉢					残存	5.5				
47	1号溝	49	陶器	灯明皿	復元	5.7	復元	5		1.75	口部～底部	受部幅(復元)2.6		
47	1号溝	50	陶器	灯明皿			復元	4.6	残存	2.1		受部幅(復元)5		
47	1号溝	51	陶器	皿			復元	3.6	残存	0.9				
47	1号溝	52	陶器	鉢					残存	2.1				
47	1号溝	53	陶器	碗			復元	4	残存	2.3				
47	1号溝	54	土師	鍋蓋				6.5		0.9	良			
47	1号溝	55	土師	小皿						3.7				
47	1号溝	56	土師	小皿						5				
47	1号溝	57	土師ｍ	鍋不		1.9	残存	1.8		0.5		7.5YR 6/4 にぶい橙	密	
47	1号溝	58	土師ｍ	赤台		2		2		0.5		5YR 6/8 橙	密	
47	1号区	59	金属	釘	残存	2.1	残存	0.15				0.36g		
47	1号溝	60	金属	針	残存	1	残存	0.15				0.04g		
47	1号溝	61	金属	物	残存	1.8	残存	1.8		0.05		0.39g		
47	1号溝	62	金属	物	残存	5.9	残存	1.7	残存	0.2		3.6g		
47	1号溝	63	木製品	曲物		7.4		4		0.2	底部	漆?		
47	1号溝	64	木製品	板				5.4		2.6		漆?、煤煙ブナ属		
47	1号溝	65	瓦	桟瓦	残存	22.4	残存	9.6		2		厚さ 2.1cm 凹幅 4cm	密	
47	1号溝	66	瓦	平瓦または桟瓦	残存	26.1	残存	12.7		2.2			密	
47	1号溝	67	瓦	桟瓦	残存	21.6	残存	10.9		1.9			密	
48	2号溝	1	磁器	碗	復元	7		2.6		3		外側 鉄釉 口縁に釉あり	密	
48	2号溝	2	磁器	碗					残存	4.6			密	
48	2号溝	3	磁器	皿					残存	1.3			密	
48	2号溝	4	磁器	碗	復元	8.6		3.8		1.8			密	
48	2号溝	5	磁器	碗			復元	3.6	残存	3.8			密	
48	2号溝	6	磁器	皿	復元	11	復元	6.4		2.6		炭口	密	
48	2号溝	7	磁器	皿			復元	11.8	残存	2.6		炭口	密	
48	2号溝	8	磁器	碗	復元	13.4			残存	4.5			密	
48	2号区	9	磁器	碗			復元	3	残存	2.4		炭口	密	
48	2号溝	10	磁器	碗	復元	10	復元	4.6		5.2			密	
48	2号溝	11	磁器	碗	復元	9	復元	4		4.3			密	
48	2号溝	12	磁器	碗			復元	3.8	残存	1.8			密	
48	2号溝	13	磁器	碗					残存	1.6			密	
48	2号溝	14	磁器	碗					残存	2.6			密	
48	2号溝	15	磁器	碗			復元	4.4	残存	1.6			密	
48	2号溝	16	磁器	皿					残存	3.3			密	
48	2号溝	17	磁器	碗					残存	3.2			密	
48	2号溝	18	磁器	碗					残存	5.8			密	
48	2号溝	19	陶器	土	復元	8	復元	4		2.5				
48	2号溝	20	陶器	碗	復元	11.8			残存	3.6		内外灰釉		
48	2号溝	21	陶器	瓶	復元	12	復元	3.8	残存	1.5		ｍｍｍｍ 鉄釉		
48	2号溝	22	陶器	十徳			復元	8	残存	2.5		鉄釉 3.5ｍｍ		
49	2号溝	23	陶器	皿		2.8		3.6	残存	4.6				
49	2号溝	24	陶器	瓶			復元	10	残存	8.8		内外ｍｍｍｍ 外(底部近)鉄釉有り		
49	2号溝	25	陶器	擂鉢					残存	1.9		内外面鉄釉有り		
49	2号溝	26	陶器	上皿					残存	2.6		縁付・小型灰釉		
49	2号溝	27	陶器	皿			復元	14.4	残存	2.2				
49	2号溝	28	陶器	碗形			復元	13	残存	2.8		外面鉄釉・底部近鉄		

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
49	3号井	29	陶器	灯明皿	完元	9.6			残存	1.8		受熱痕(復元)6.6		
49	3号井	30	土師	小皿				7		1.3				
49	2号溝	31	土師赤	小皿		1.9	残存	1.7		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
49	2号溝	32	木製品	櫛		17.4		0.6		0.1				
49	2号溝	33	瓦	丸瓦	残存	14.2	残存	18		1.7		刻印欠損(ス)	密	
49	2号溝	34	瓦	丸瓦	残存	26	残存	21.1		1.6			不純物	
50	2号溝	35	瓦	丸瓦		28.4	残存	22.4		1.2		幅広 22cm 厚側 4cm	不純物	
50	2号溝	36	瓦	丸瓦	残存	26.4	残存	21.3		1.6		幅広 21.5cm 厚側 4cm	密	
50	2号溝	37	瓦	丸瓦		35.7		27.5		1.9		刻印欠損(ス内一文字)	密	
51	2号溝	38	瓦	丸瓦	残存	12	残存	11.5		1.7		刻印欠損(ス)	密	
51	2号溝	39	瓦	マルヒ(丸瓦)	残存	12.8	残存	10.7		2		刻印欠損(ス)	密	
51	2号溝	40	瓦	軒丸瓦	残存	15.3	残存	7.4		2			密	
51	2号溝	41	瓦	軒丸		26.4		23.8		1.5			不純物	
52	8号井	1	磁器	碗					残存	2.6		灰白	密	
52	8号井	2	磁器	皿					残存	2.2		底輪	密	
52	8号井	3	陶器	鉢					残存	4			密	
52	8号井	4	磁器	鉢					残存	4		外側 底輪 内側 型輪	密	
52	8号井	5	磁器	鉢			復元	4	残存	2.3			密	
52	8号井	6	陶器	鉢					残存	2.7		外面ロクロナデ・縦刷		
52	8号井	7	陶器	土瓶					残存	3.9				
52	8号井	8	陶器	擂鉢					残存	5.4				
52	8号井	9	陶器	瓦燭			復元	4	残存	2.3	底部～胴部	内外面施釉		
52	8号井	10	陶器	分	復元	6.6	復元	3		2.3	底部～口縁部	内外鉄釉・外底ロクロナデ		
52	8号井	11	陶器	徳利					残存	6				
54	3号溝	1	磁器	鉢			復元	3.8	残存	2.4			密	
54	3号溝	2	磁器	皿					残存	1.4			密	
54	3号溝	3	磁器	皿	復元	9.6	復元	4.6		2			密	
54	3号溝	4	磁器	皿			復元	4.4	残存	6.3			密	
54	3号溝	5	磁器	小鉢	復元	6.8	復元	2.8		3			密	
54	3号溝	6	磁器	小鉢	復元	6.4			残存	2.3			密	
54	3号溝	7	磁器	鉢			復元	6.4	残存	3.3			密	
54	3号溝	8	磁器	碗	復元	11.8			残存	3.7			密	
54	3号溝	9	陶器	擂鉢					残存	5.6				
54	3号溝	10	陶器	灯明皿			復元	4.6	残存	1.3		受熱痕(復元)8		
54	3号溝	11	陶器	碗					残存	4.1		全体に施釉		
54	3号溝	12	陶器	鉢	復元	20			残存	4.3		全体に施釉		
54	3号溝	13	陶器	一瓶					残存	5.3	底部	釉付・底部露胎 全体に施釉		
54	3号溝	14	陶器	一瓶			復元	6.4	残存	1.5		内面・縁部 外面:施釉		
54	3号溝	15	陶器	徳利					残存	3.8				
54	3号溝	16	陶器	瓶					残存	3.6		釉付・底部露胎 外面施釉		
54	3号溝	17	陶器	徳利			復元	18.2	残存	5.3	底部	焼成器に刻印		
54	3号溝	18	陶器	瓶	復元	8.2	復元	4.4		5.7	口縁～底部	内外面施釉		
54	3号溝	19	磁器	茶			復元	11.8	残存	6.5	体部～底部	内外面施釉 底部無釉		
54	3号溝	20	陶器	灯明皿			復元	4.6	残存	1	底部	内外面施釉		
55	3号溝	21	瓦質	灯明皿	復元	17.2	復元	7		7.4				
55	3号溝	22	瓦器	鍋			復元	8.6	残存	1.7	底部	内面施釉 外面に炭付着		
55	3号溝	23	瓦器	灯明皿	復元	17.2			残存	6.1				
55	3号溝	24	陶器	灯明皿					残存	3.3		内面鉄釉		
55	3号溝	25	陶器	鉄瓶					残存	4.7		内外全鉄釉		
55	3号溝	26	陶器	鉢					残存	1.2		小さな内面:5.9 内面鉄釉		
55	3号溝	27	陶器	擂鉢					残存	7.1		内外鉄釉		
55	3号溝	28	陶器	擂鉢					残存	7.9		内外鉄釉		
55	3号溝	29	陶器	皿					残存	1.7		小さな内面:1.5 外面鉄釉		
55	3号溝	30	陶器	鉢					残存	4		内外鉄釉		
55	3号溝	31	土師	火鉢						6				
55	3号溝	32	土師	火鉢		18		15.8		8.7				
55	3号溝	33	土師	焙烙皿		9		8		2.2	縁			
55	3号溝	34	土製品	紡石		1.9		1.9		0.6		5YR 6/6 橙	密	
55	3号溝	35	土製品	不明		1.9		1.9		0.6		5YR 6/6 橙	密	
55	3号溝	36	土製品	紡石		2	残存	1.9		0.6		2.5YR 7/4 に赤い橙	密	
55	3号溝	37	金属	切竹	残存	4.6	残存	1				現在 小石径 1cm 口付径 0.7cm 5.18g(中の上を含む)		
55	3号溝	38	金属	切竹	残存	4.5	残存	0.5				現在 小石径 0.5cm 口付径 0.4cm 0.96g		
56	3号溝	39	瓦	丸瓦	残存	17.5	残存	16		2.1			不純物	
56	3号溝	40	瓦	丸瓦	残存	17.8	残存	14.5		2			不純物	

図版番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元率	口径 (cm)	底径 残存	底径 (cm)	復元率	器高 (cm)	備考	磨耗痕	絵土	備考
57	4号竪	1	壺形	頸					残存	2		7.5YR/1 灰白	褐	
57	4号竪	2	壺形	小杯				復元	2.4	残存	1.8		褐	
57	4号竪	3	壺形	頸	復元	9.6				残存	4.1		褐	
57	4号竪	4	壺形	頸				復元	3	残存	3.8		褐	
57	4号竪	5	壺形	頸						残存	2.6	部縦あり		
57	4号竪	6	鳥形	頭部						残存	6.6			
57	4号竪	7	鳥形	頭部						残存	6.3			
57	4号竪	8	鳥形	嘴						残存	1.7	内面磨耗		
57	4号竪	9	壺形	胴	復元	7.6				残存	7.1	外面磨耗・内面剥離		
57	4号竪	10	土器	小鉢							4.3			
57	4号竪	11	金属	刀	残存	11.5	残存	0.8				8.3g		
58	3号竪	1	鉢形	小杯	復元	3.8	復元	7.6		3.05			褐	
58	3号竪	2	器形	鉢			復元	4.7	残存	3.9			褐	
58	3号竪	3	器形	鉢	復元	7.6	復元	2.9		3.8			褐	
58	3号竪	4	壺形	耳形	復元	4.6		2.2		1.35		5YR/1 灰白	褐	
58	3号竪	5	器形	鉢					残存	2.5			褐	
58	3号竪	6	壺形	首	復元	9			残存	1.8			褐	
58	3号竪	7	壺形	耳(八角)	復元	13.8	復元	7.2		4.4			褐	
58	3号竪	8	器形	鉢	復元	7			残存	3.4			褐	
58	3号竪	9	器形	鉢	復元	11			残存	3.4			褐	
58	3号竪	10	器形	鉢	復元	10.6			残存	3.7			褐	
58	3号竪	11	壺形	胴			復元	6.4	残存	5			褐	
58	3号竪	12	壺形	頸					残存	4.1			褐	
58	3号竪	13	器形	鉢	復元	16.3	復元	10.7		4.8			褐	
58	3号竪	14	壺形	胴	復元	8.8	復元	3.2		4.2		L字部は刻あり	褐	
58	3号竪	15	壺形	頸			復元	5.2	残存	2.4		胴部刻行		
58	3号竪	16	壺形	底			復元	6.8	残存	1.7		内面無釉		
58	3号竪	17	壺形	底			復元	9.4	残存	4		外面一部剥離		
58	3号竪	18	壺形	底部				13.2	残存	3		外面一部剥離		
59	5号竪	19	海獣	盃						2.1		内部に同行有り		
59	5号竪	20	海獣	脚部					残存	6.4				
59	5号竪	21	海獣	皿					残存	1.8		内外透明釉		
59	5号竪	22	海獣	瓶	復元	10.6				7.3		透明釉・外面刻行		
59	5号竪	23	海獣	角			復元	10.4	残存	2		内外鉄釉		
59	5号竪	24	鳥獣	嘴	復元	14.4			残存	4.3		内外鉄釉		
59	5号竪	25	海獣	十瓶			復元	10	残存	1.3		内面鉄釉・外面無釉		
59	5号竪	26	海獣	十瓶	復元	8.4			残存	4.7		内面鉄釉・外面無釉		
59	5号竪	27	海獣	瓶			復元	6.8	残存	1.9		内面鉄釉・外面無釉		
59	5号竪	28	海獣	角						2.2		全部径0.5~0.3ヵ所1.4 内面無釉・外面鉄釉		
59	5号竪	29	鳥獣	嘴			復元	6.8		6.2		内外(一部)無釉		
59	5号竪	30	鳥獣	盃	復元	8			残存	2.3		全面(復元18.2 内面鉄釉・外面透明釉, 輪郭有り		
59	5号竪	31	鳥獣	盃	復元	9.4			残存	2.1		六角(透明釉・外面無釉(口縁残り)		
59	5号竪	32	海獣	碗	復元	16			残存	2.5		内面 鉄釉有り・外面無釉		
59	5号竪	33	海獣	灯明皿	復元	9.6			残存	1.7		受部径(復元)5.4 内外無釉		
59	5号竪	34	海獣	灯明皿		11.1		3.9		1.8		受部径7.2 内面透明釉・外面無釉		
59	5号竪	35	海獣	皿	復元	10.2			残存	1.9		内面無釉(輪郭25ヵ有り)・外面無釉		
59	5号竪	36	海獣	鉢			復元	5.6	残存	1.6				
59	5号竪	37	海獣	頭部					残存	7.6				
60	5号竪	38	海獣	上瓶	復元	5			残存	2.57				
60	5号竪	39	海獣	柄					残存	3.25		全体に透明釉		
60	5号竪	40	海獣	瓶					残存	3.3		内面無釉・外部 刻線釉		
60	5号竪	41	鳥獣	頭部		14				4.2				
60	5号竪	42	海獣	足	復元	9.8	復元	4.4		2.1		内外鉄釉		
60	5号竪	43	鳥獣	上瓶					残存	4.7		内外透明釉・外面無釉あり		
60	5号竪	44	鳥獣	足				3.2	残存	2.2		無釉		
60	5号竪	45	海獣	瓶胴		18				4.7		内面鉄釉		
60	5号竪	46	上器	小皿		4.4		6		1.8				
60	5号竪	47	上器	灯台						6.3				
60	5号竪	48	土器	火鉢		18.6		8		7.65				
60	5号竪	49	上器	円柱		11		12.4		1.3				
60	5号竪	50	上器	火鉢		16.6		8		8				
60	5号竪	51	土製品	基石		2.1		2		0.6		7.5YR 6/6 橙	橙	
60	5号竪	52	土製品	基石		2		1.8		0.6		10YR 6/6 明黄褐	橙	
60	5号竪	53	土製品	基石		2		1.7		0.6			橙	

同修号	遺構名	遺物番号	器種	器形	側先情報	口径(長)	側先情報	底径(幅)	側先情報	器高(厚)	部位	概況所見	附…	備考
60	5号溝	54	石製品	紡錘		2		1.0		0.6			表	
60	5号溝	55	土師器	高杯		2.3		1.3				7.5YR 6/6 橙	表	
60	5号溝	56	金属	鏡		2.7		0.75		0.1		文久永宝(1863~1869年) 背一一銭 文銭 銅銭 2.67g		
60	5号溝	57	金属	鏡		2.4		0.6		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭 3.22g		
60	5号溝	58	金属	鏡		2.3		0.6		0.1		鉄一分銭 1.66g		
60	5号溝	59	金属	紡錘	残存	5.1	残存	1.3				錆 現在 小口径 1.1cm 上径径 0.5cm 5.70g		
61	5号溝	60	瓦	丸瓦	残存	23.7	残存	15.8		1.8			中央部	
61	5号溝	61	瓦	軒丸瓦	残存	6.3	残存	8.2		2.1			表	
64	10号溝	1	須恵器	坏					残存	2.8			表	
64	10号溝	2	須恵器	蓋			復元	4.8	残存	3.5		灰白	表	
64	10号溝	3	須恵器	蓋					残存	3		灰白	表	
64	10号溝	4	須恵器	蓋			復元	2.8	残存	0.9			表	
64	10号溝	5	須恵器	蓋					残存	1.3			表	
64	10号溝	6	須恵器	蓋	復元	13.35	復元	12.6	残存	4.9	口縁～底部	内外炭化	表	
64	10号溝	7	須恵器	甕					残存	3	体部	外面格子目	表	
65	10号溝	8	須恵器	横瓶			復元	13.95				2.5Y7/2 灰黄褐色系統		
65	11号溝	1	土師器	坏		7.4		4		1.9		内外面付着	表	
65	11号溝	2	土師器	埴輪底部	残存	10.9	残存	7.9		2.1			表	
69	1号井戸	1	須恵器	大甕	復元	13	復元	8		3.4		2.5GY	表	
69	1号井戸	2	須恵器	甕	復元	10.8			残存	3.8		灰白	表	
69	1号井戸	3	須恵器	甕			復元	6	残存	1.9		灰白	表	
69	1号井戸	4	須恵器	壺	復元	4			残存	1.6		白	表	
69	1号井戸	5	須恵器	鉢	復元	10	復元	4.2		5		灰白	表	
69	1号井戸	6	須恵器	鉢	復元	9			残存	3.5		灰白	表	
69	1号井戸	7	須恵器	甕			復元	9.4	残存	2.1		灰白	表	
69	1号井戸	8	須恵器	坏					残存	6.3		灰白	表	
69	1号井戸	9	須恵器	蓋			復元	4	残存	1.8		灰白	表	
69	1号井戸	10	須恵器	蓋	復元	7.5			残存	2.8		灰白	表	
69	1号井戸	11	須恵器	蓋					残存	4.9		褐色	表	
69	1号井戸	12	須恵器	蓋	復元	10			残存	3.2		灰白	表	
69	1号井戸	13	須恵器	壺	復元	12.4			残存	7.5		灰白	表	
69	1号井戸	14	須恵器	甕	復元	9	復元	4		4.9		灰白	表	
69	1号井戸	15	須恵器	甕			復元	5	残存	3.9		灰白	表	
69	1号井戸	16	土師器	器台					残存	6.7				
69	1号井戸	17	須恵器	短冠					残存	9.8		全体に焼編		
69	1号井戸	18	須恵器	壺				4.8	残存	3		底径不明		
69	1号井戸	19	須恵器	鉢				3	残存	3.1		底内面付着		
70	1号井戸	20	須恵器	鉢				7	残存	1.5				
70	1号井戸	21	須恵器	壺					残存	4.4		底体に刻印		
70	1号井戸	22	須恵器	瓶			復元	4.6	残存	1.1				
70	1号井戸	23	須恵器	横瓶	復元	27.8			残存	7.3				
70	1号井戸	24	須恵器	横	復元	8.8			残存	3.7				
70	1号井戸	25	須恵器	壺								受部径(復元)7.5 下向部付着号		
70	1号井戸	26	鉄製	長頸			復元	2.2	残存	2.4				
70	1号井戸	27	鉄製	片口鉢	復元	19			残存	8.1	口縁～体部			
70	1号井戸	28	鉄製	鍋			復元	3.4	残存	1.9	体部～底部			
70	1号井戸	29	須恵器	鍋			復元	5.2	残存	1.1	口縁			
70	1号井戸	30	鉄製	小鉢	復元	11	復元	4		1.75	口縁～底部	内外面磨耗		
70	1号井戸	31	鉄製	紅明鍋			復元	3.6	残存	3.9	口縁～底部	底面径(復元)8.8 内外面磨耗		
70	1号井戸	32	鉄製	紅明鍋			復元	3.8	残存	3.9	外周～底部	底径(復元)9.2 内外面磨耗		
70	1号井戸	33	鉄製	鍋杯					残存	8.1	口縁～体部			
70	1号井戸	34	土器	焙烙		26		27		5.6				
70	1号井戸	35	土器	焙烙		27.8		26.6		5.8				
70	1号井戸	36	土器	小皿						2.7				
70	1号井戸	37	土器	鉢						5.1				
70	1号井戸	38	石製品	砥石	残存	6.2		5		3		HV 7/ 灰 53.32g		
70	1号井戸	39	石製品	砥石	残存	3	残存	3.8		1.9		白 47.96g		
70	1号井戸	40	木製品	刀柄	残存	8	残存	4.2		0.4	底部			
72	2号井戸	1	須恵器	坏	復元	7			残存	3.8		SYG5/1 灰色	表	
72	2号井戸	2	須恵器	蓋	復元	8.8			残存	3.8			表	
72	2号井戸	3	須恵器	蓋	復元	8.8	復元	3.4		4.7		灰白	表	
72	2号井戸	4	須恵器	蓋	復元	8.4	復元	3.6		4.1			表	
72	2号井戸	5	須恵器	蓋	復元	9.6	復元	3.6		4.8			表	

区	遺構名	遺物	器種	部位	復元	口径	復元	底径	復元	器高	残存	備考	胎土	焼成
72	3号井戸	6	須恵	蓋	残存	(6)	残存	(4)	残存	(1.1)	残存		良	良
72	3号井戸	7	須恵	水瓶	残存	5.1	残存	8		6.2			良	良
72	3号井戸	8	須恵	甕	残存	2.2			残存	4.1			良	良
72	3号井戸	9	須恵	瓶	復元	1.7			残存	4.1		重複外 底部	良	良
72	3号井戸	10	陶器	鉢					残存	2.7				
72	3号井戸	11	陶器	皿					残存	4.7		外面板目有り		
72	3号井戸	12	陶器	十合					残存	3.1				
72	3号井戸	13	陶器	徳利	復元	3.0			残存	7.8				
72	3号井戸	14	陶器	灯明皿					残存	1.6		受部(復元)3.6×上径(復元)5.2 全面ロクロ調整		
72	3号井戸	15	木製品	箸状製品				7.4		7.		7.5YR 6/3 上径0.4程 6/6 上径1.4程	良	
73	3号井戸	16	木製品	角材	残存	44.6		5.2		3.6				
73	3号井戸	17	木製品	板材	残存	18	残存	17		0.6	底部			
73	3号井戸	18	木製品	板材		24.3		9.6		0.3				
73	3号井戸	19	木製品	板材		20		4.8		0.2				
73	3号井戸	20	木製品	板材		24.3		4.2		0.2				
73	3号井戸	21	木製品	板材	残存	27.1		6.8		2.2				
73	3号井戸	22	木製品	板	残存	25.3	残存	7.6		2.1	表皮			
73	3号井戸	23	瓦	軒平瓦	残存	34.2		27.9		1.9		三巴紋四 瓦当 瓦当径 8.1cm	良	良
73	3号井戸	24	瓦	丸瓦	残存	6	残存	11.4		1.8		凸面荒目(凸)	良	良
73	3号井戸	25	瓦	平瓦(凹)		14.6		14.8		1.4			良	良
75	3号井戸	1	土製品	赤彩		2.		1.9		0.5		7.5YR 6/8 種		
75	3号井戸	2	土製品	球			残存	42	残存	35				
75	3号溝	1	鉄製	鏃	復元	8			残存	3.8			良	良
75	3号溝	2	鉄製	鏃					残存	2.5		5GY 灰白	良	良
75	3号溝	3	鉄製	鏃			復元	4	残存	5.7			良	良
75	3号溝	4	鉄製	鏃	復元	9			残存	3.6		11cm1.7g	良	良
75	3号溝	5	鉄製	鏃			復元	4.	残存	2.1			良	良
75	3号溝	6	鉄製	鏃	復元	6.6			残存	5.2			良	良
75	3号溝	7	鉄製	鏃					残存	4			良	良
75	3号溝	8	鉄製	鏃					残存	3.2		7. 5GY灰白	良	良
76	3号溝	9	鉄製	鏃	復元	12.4	復元	5.4		3			良	良
76	3号溝	10	鉄製	鏃	復元	6			残存	2.8			良	良
76	3号溝	11	鉄製	鏃			復元	3.1	残存	1.5		鉄片	良	良
76	3号溝	12	鉄製	刀			復元	2.6	残存	1			良	良
76	3号溝	13	鉄製	鏃					残存	2.8			良	良
76	3号溝	14	鉄製	鏃					残存	4.3		7. 5YR6/1 厚錆鉄	良	良
76	3号溝	15	鉄製	鏃			復元	3.6	残存	5.1			良	良
76	3号溝	16	鉄製	鏃			復元	3.8	残存	4.2			良	良
76	3号溝	17	鉄製	鏃					残存	3.8		鉄目	良	良
76	3号溝	18	鉄製	鏃					残存	4		10YR/1 灰白	良	良
76	3号溝	19	鉄製	刀					残存	2.5			良	良
76	3号溝	20	銅製	鏡	復元	9.4		3.8		0.9			良	良
76	3号溝	21	銅製	鏡					残存	3		鉄片	良	良
76	3号溝	22	銅製	鏡					残存	2.7			良	良
76	3号溝	23	銅製	レンガ					残存	3			良	良
76	3号溝	24	陶器	碗	復元	5			残存	3.8		内:外面(一引)黒釉面 外面透明釉、煙草有り		
76	3号溝	25	陶器	徳利					残存	19				
76	3号溝	26	陶器	皿			8		残存	1.5		内面透明釉		
77	3号溝	27	陶器	碗	復元	8			残存	2.5		外面透明釉、煙草有り		
77	3号溝	28	陶器	土製品		3.8				2.3		内外鉄釉		
77	3号溝	29	陶器	皿			5.3		残存	1.1		内面透明釉		
77	3号溝	30	陶器	瓶	復元	8.2			残存	2.9		内面鉄釉・外面鉄釉 3GY-5/1		
77	3号溝	31	陶器	瓶			復元	9.2	残存	2.7		鉄釉		
77	3号溝	32	陶器	壺	復元	9.6			残存	1.2		外面鉄釉		
77	3号溝	33	陶器	土製			復元	5.8	残存	1.5		鉄釉		
77	3号溝	34	陶器	瓶					残存	4.3		内外鉄釉		
77	3号溝	35	陶器	瓶					残存	3.2		外面鉄釉		
77	3号溝	36	陶器	瓶	復元	6.6			残存	1.5		内(一部)外面鉄釉		
77	3号溝	37	陶器	壺底			3		残存	1.6		外面鉄釉		
77	3号溝	38	土師	須恵器		8				1.7	底			
77	3号溝	39	土師	須恵						3.3				
80	3号土坑	1	金属	鉄		2.3		0.5		0.1		重量測定 鉄重大(1969年-2月) 一文銭 銅銭 2.7g		
80	3号土坑	2	金属	鉄		2.3		0.6		0.1		重量測定 鉄重大(1969年-3月) 一文銭 銅銭 3.0g		
80	3号土坑	3	金属	鉄		2.3		0.6		0.1		重量測定 鉄重大(1969年-3月) 一文銭 銅銭 2.7g		

遺構番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元径	口径(長)	復元残存	底径(幅)	底元残存	器高(厚)	部位	胎土	備考
80	7号土坑	4	金属	鉄		2.3		0.55		0.15		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭 4.38g	
80	7号土坑	5	木製品	柿			残存	44	残存	51		柿種スギ	
80	8号土坑	1	木製品	柿				27	残存	23		柿種スギ	
80	9号土坑	1	木製品	柿				42	残存	24.6		曲輪スギ	
80	10号一括	1	木製品	柿		41.6		43		2.4	底部	曲輪スギ	
81	13号一括	1	木製品	柿				43	残存	41.2		曲輪スギ,七本鑿	
81	32号十坑	1	金属	銭		2.4		0.6		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭 1.80g	
81	32号十坑	2	金属	銭		2.7		0.6		0.1		文久永宝(1863~1869年) 當十 一朱 四文銭 銅銭 2.08g	
81	32号十坑	3	金属	銭		2.8		0.65		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 四文銭(1768年以降) 銅銭 當十一朱 3.77g	
81	34号土坑	1	砥石	砥			欠元	6	残存	1.7		点口	密
81	34号土坑	2	砥石	皿			欠元	9.4	残存	2.1		灰口	密
81	34号土坑	3	陶器	碗					残存	4.7			
81	34号土坑	4	金属	銭		2.3		0.6		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭 2.86g	
82	36号十坑	1	陶器	碗					残存	4.7		外内鐵釉あり	
82	36号上坑	2	陶器	鉢類					残存	5.2			
82	36号上坑	3	陶器	碗	復元	10.6			残存	3.9			
82	36号土坑	4	陶器	碗					残存	1.5			
82	36号十坑	5	陶器	土瓶			欠元	9	残存	2.2			
82	36号土坑	6	陶器	鉢類					残存	8.4			
82	36号土坑	7	陶器	鉢類					残存	2		内外鐵釉	
82	36号土坑	8	陶器	土瓶					残存	2.3	肩部下部		
82	36号十坑	9	陶器	鉢			欠元	7.6	残存	2.7			
82	36号十坑	10	金属	煙管	残存	3.4						雁首 小口径 1.3cm 3.48g	密
82	36号土坑	11	瓦	軒丸	残存	30	残存	29.4		1.9			密
85	1号池	1	砥石	砥	欠元	7.2			残存	3.6		灰白	密
85	1号池	2	砥石	砥					残存	4.8			密
85	1号池	3	砥石	砥	復元	9.6	復元	44		3.3			密
85	1号池	4	砥石	砥	復元	10			残存	3.6			密
85	1号池	5	砥石	表裏面口			欠元	8.2	残存	1.2		灰内	密
85	1号池	6	砥石	砥	欠元	10	欠元	4.4		6.6			密
85	1号池	7	砥石	小鉢	復元	8.8	復元	3.2		3.4		灰白	密
85	1号池	8	砥石	叩石(石臼)	復元	6.2	復元	5		5.5		点口	密
85	1号池	9	砥石	仏教器	欠元	8	欠元	4		6.5			密
85	1号池	10	砥石	砥	欠元	11			残存	4.1		灰内	密
85	1号池	11	砥石	砥			欠元	4	残存	3.9		灰内	密
85	1号池	12	砥石	砥	復元	7			残存	2.2		灰白	密
85	1号池	13	砥石	砥	欠元	10	欠元	4.2		5.6		点口	密
85	1号池	14	砥石	皿			欠元	10	残存	2		灰白	密
85	1号池	15	砥石	平	欠元	10.4	欠元	4.6		6			密
85	1号池	16	砥石	砥			復元	4.2	残存	4		灰内	密
85	1号池	17	砥石	砥			復元	4	残存	3.2		灰内	密
85	1号池	18	砥石	砥			復元	10	残存	4.5		灰白	密
85	1号池	19	砥石	砥			復元	4.4	残存	1.4		灰内	密
85	1号池	20	砥石	皿				6		5.1		灰白 10Y 8/1	密
85	1号池	21	砥石	碗			欠元	3.6	残存	1.9		灰白	密
85	1号池	22	砥石	碗	復元	10			残存	4.5			密
85	1号池	23	砥石	仏教器	復元	5.4	復元	3.6		6.1			密
85	1号池	24	砥石	碗	復元	8.4			残存	4.7			密
85	1号池	25	砥石	碗			欠元	5.6	残存	2			密
85	1号池	26	砥石	鉢			復元	5.2	残存	1.2			密
86	1号池	27	砥石	碗	復元	4.7			残存	4.7		灰白	密
86	1号池	28	砥石	鉢	復元	13.6	復元	8		3			密
86	1号池	29	砥石	碗					残存	6			密
86	1号池	30	砥石	小鉢	復元	5.8	復元	2.2		2.6			密
86	1号池	31	砥石	碗				4.4	残存	1.6			密
86	1号池	32	砥石	仏教器	復元	7.2		3.6		5.4		灰内	密
86	1号池	33	砥石	碗	復元	10		3.8		5.4		灰白	密
86	1号池	34	砥石	碗	復元	6.8	復元	2.8		4.3		灰白	密
86	1号池	35	砥石	碗	復元	10	復元	4		5.2			密
86	1号池	36	砥石	碗	欠元	6.2	欠元	5.2		4.3		灰白 底部 紀の日輪刻印	密
86	1号池	37	砥石	小鉢			復元	5.4	残存	6.6		灰白 N8/	
86	1号池	38	砥石	鉢			復元	5.8		6.3			密
86	1号池	39	砥石	碗	欠元	8			残存	3			密
86	1号池	40	砥石	小鉢	復元	6	復元	2		2.9			密

図番号	遺構名	遺物番号	器種	部位	復元残存	口径(尺)	復元残存	底径(尺)	復元残存	器高(尺)	製位	装飾・所見	胎土	備考
86	1号墳	41	鉢型	底	復元	13.8	復元	8.4		3.6		灰白	砂粒	
86	1号墳	42	鉢型	底			復元	4	残存	2.5			砂粒	
86	1号墳	43	鉢型	縁	復元	10			残存	4.5		黄白	砂粒	
86	1号墳	44	鉢型	底			復元	3.6		2.3		灰白	砂粒	
86	1号墳	45	鉢型	胴	復元	8	復元	2.6		3.3			砂粒	
86	1号墳	46	鉢型	胴	復元	6.4	復元	2.8		3			砂粒	
86	1号墳	47	鉢型	底	完存	8.8			残存	4.3		灰白	砂粒	
86	1号墳	48	鉢型	底	復元	3.8			残存	6.9		灰白	砂粒	
86	1号墳	49	鉢型	縁		8.4		3.2		5.2		灰白	砂粒	
86	1号墳	50	鉢型	縁					残存	5.3		褐色	砂粒	
86	1号墳	51	鉢型	仏杯型	復元	8	復元	4		5			砂粒	
86	1号墳	52	鉢型	縁	復元	5.8	復元	2.4		2.7		灰白	砂粒	
87	1号墳	53	鉢型	底			復元	11		2.4			砂粒	
87	1号墳	54	鉢型	胴	復元	9.4	復元	4.4		5.6			砂粒	
87	1号墳	55	鉢型	胴	復元	11.2	復元	4.2		3.7			砂粒	
87	1号墳	56	鉢型	底	復元	14.2	復元	6.4		4.1		灰白	砂粒	
87	1号墳	57	鉢型	胴			復元	2.4	残存	2.3		灰白 脚の足指刻印	砂粒	
87	1号墳	58	鉢型	体	復元	16.1	復元	6.4		7.9		灰白	砂粒	
87	1号墳	59	壺型	底	復元	9.6	復元	5		1.95		金雲に底部	砂粒	
87	1号墳	60	鳥形	嘴					残存	4.3		金雲に底部・内面墨痕有り	砂粒	
87	1号墳	61	陶器	蓋			復元	5	残存	2.8			砂粒	
87	1号墳	62	陶器	脚			復元	5	残存	4.2			砂粒	
87	1号墳	63	陶器	脚				3.3	残存	1.25			砂粒	
87	1号墳	64	陶器	小杯			復元	3.6	残存	2.3		外面墨痕有り	砂粒	
87	1号墳	65	陶器	脚	復元	11			残存	5		外面墨痕有り	砂粒	
87	1号墳	66	陶器	脚	復元	12	復元	4.6		6.3			砂粒	
87	1号墳	67	陶器	器台					残存	4.9			砂粒	
87	1号墳	68	陶器	蓋		9.4		6.5		14.45			砂粒	
88	1号墳	69	陶器	杯		25.8	復元	14.4		11.9			砂粒	
88	1号墳	70	陶器	底		7.5		3.8		2.6			砂粒	
88	1号墳	71	瓦塔	基		2			残存	5.2			砂粒	
88	1号墳	72	陶器	脚	復元	9.6			残存	5.1		外面線刻有り	砂粒	
88	1号墳	73	陶器	蓋	復元	12.2		4.6		6.7			砂粒	
88	1号墳	74	陶器	脚						3.3		内面線刻有り	砂粒	
88	1号墳	75	陶器	脚				4.9	残存	2.1		内面線刻有り・墨書文字有り	砂粒	
88	1号墳	76	陶器	蓋	復元	12		5		7.7			砂粒	
88	1号墳	77	陶器	横杯			復元	15	残存	6.3			砂粒	
88	1号墳	78	陶器	短脚					残存	4.9	口縁～体部		砂粒	
88	1号墳	79	陶器	灯明皿	復元	7.2	復元	3.5		1.75	口縁～底部		砂粒	
88	1号墳	80	陶器	鉢	復元	11.2			残存	5.9	口縁～体部	内外金彩痕・内面貫入有り	砂粒	
88	1号墳	81	陶器	横杯		32			残存	6.8	口縁～体部		砂粒	
88	1号墳	82	陶器	鉢	復元	11.4			残存	6			砂粒	
88	1号墳	83	陶器	灯明皿	復元	11	復元	5.1		2.15	口縁～底部		砂粒	
89	1号墳	84	陶器	鉢			復元	10.6	残存	2.3	底部	内外面線痕	砂粒	
89	1号墳	85	陶器	鉢				2.4	残存	3.4	体部～底部	内外面線痕・貫通孔無・外面に線有り	砂粒	
89	1号墳	86	陶器	鉢			復元	6.6	残存	2	底部	外面伊部の外底線	砂粒	
89	1号墳	87	陶器	灯明皿					残存	2	口縁～体部	受部径(復元)11・底部(復元)8.2	砂粒	
89	1号墳	88	陶器	鉢					残存	4.7			砂粒	
89	1号墳	89	陶器	脚	復元	11		4.6		7.2			砂粒	
89	1号墳	90	陶器	壺形	復元	11.4	復元	10.8		5.8			砂粒	
89	1号墳	91	陶器	蓋	復元	8.2	復元	4		1.4			砂粒	
89	1号墳	92	陶器	蓋					残存	1.9		受部径6.2・上面径(つまみ)1.2	砂粒	
89	1号墳	93	陶器	横杯					残存	3.1			砂粒	
89	1号墳	94	陶器	蓋						9.3	底部	内外面線痕	砂粒	
89	1号墳	95	陶器	横杯					残存	6.8			砂粒	
89	1号墳	96	陶器	鉢					残存	2.4		内面線痕有り	砂粒	
89	1号墳	97	陶器	鉢	復元	9.8			残存	4.9		外面上絵代	砂粒	
89	1号墳	98	陶器	鉢			復元	7	残存	2.7			砂粒	
89	1号墳	99	陶器	脚					残存	3.75			砂粒	
89	1号墳	100	陶器	脚の足指					残存	4.9		内面線痕有り	砂粒	
89	1号墳	101	陶器	蓋			復元	4.2	残存	5.1			砂粒	
89	1号墳	102	陶器	脚				3.8		1.4			砂粒	
89	1号墳	103	陶器	小杯		7.8		3		3	口縁～底部		砂粒	
89	1号墳	104	陶器	横杯				3		2.9			砂粒	

墓番号	墓坑名	遺物番号	器種	銘文	材質	銘文残存	口径(cm)	残存	底径(cm)	残存	銘文残存	銘文(cm)	出仕	解説(所見)	伴土	備考
89	2号墓	105	陶器	瓶カ	土師						残存	2.6				
89	1号墓	106	陶器	瓶							残存	4.9				
89	1号墓	107	陶器	瓶							残存	3.3		外面/型痕有り		
90	1号墓	108	陶器	鉢	瓦質		9.5	現存	5			6				
90	1号墓	109	上部	小皿			8.1		4.3			1.4				
90	1号墓	110	上部	小皿			4.9		2.5			1.15				
90	1号墓	111	上部	小皿			8.1		4.3			1.3				
90	1号墓	112	上部	小皿			8.1		4.2			1.35				
90	1号墓	113	上部	碗型台					6					全面施釉有り		
90	1号墓	114	上部	小皿			8.4		6.4			2.45				
90	1号墓	115	上部	碗型皿			8.9		5.7			2.2				
90	1号墓	116	一部	鉢蓋			33		29			7.4				
90	2号墓	117	一部	碗型蓋			8.6		5			9.85				
90	2号墓	118	下部	小皿			8.4		4.5			2.05				
90	2号墓	119	下部	小皿			8.1		3.2			2.2				
90	1号墓	120	上部	小皿					3.9			3				
90	1号墓	121	上部	小皿			7.9		4.3			2.1				
90	1号墓	122	上部	碗型皿			8.5		8			1.7	黄			
90	1号墓	123	上部	碗型皿					6.9			2.3				
90	1号墓	124	下部	皿			8.2		6			2.15				
90	1号墓	125	上部	皿			7.3		6			1.4				
90	1号墓	126	下部	皿			9.6		7.2			1.7				
91	1号墓	127	下部	碗型皿			8.5		6			1.6	黄			
91	1号墓	128	下部	皿			9.2		6.6			1.9				
91	1号墓	129	一部	碗型蓋			3.3		8.6			1.9	黄			
91	1号墓	130	一部	皿			3.7		5			2.1	灯明皿	口縁部外面に朱有り		
9	2号墓	131	一部	皿			16.8					2.3				
9	2号墓	132	全部	皿			9.5		5.5			2.5				
51	2号墓	133	全部	碗型蓋								1.6		外面文字有り		
91	1号墓	34	上部	皿			3.4		3.3			1.6				
91	1号墓	53	上部	皿			7.6		6			1.75				
91	1号墓	136	上部	皿			5.9		4.3			1.1				
91	1号墓	137	下部	皿			6		4.9			1.2				
91	1号墓	138	下部	小皿			3		3.4			1.1				
91	1号墓	139	上部	小皿			7		3.4			1.35				
91	1号墓	140	下部	小皿			8.2		3.6			1.2				
91	1号墓	141	下部	碗												
91	1号墓	142	一部	小皿					5.6							
9	1号墓	143	一部	碗型蓋			7.5		7.3			1.65	茶			
9	2号墓	144	一部	小皿			9.8		5			1.8				
9	2号墓	145	上部	碗型蓋			6.25		5.8			2.4				
91	1号墓	46	上部九	皿	陶器		3.4		5			2		SD 4/1 時代区 716.87g		
91	1号墓	47	石製品	皿			3.4		5			1.25		土坑 6/1 区 221.5g		
92	1号墓	48	金属	把手	銅釘	残存	5.3	残存	4.2					5.08g		
92	1号墓	149	金属	小皿	銅釘	残存	10.9	残存	6.9					3.97g		
92	1号墓	150	金属	鉄	鉄釘	残存	8.9	残存	4.1	残存		0.95		0.47g		
92	1号墓	151	金属	釘	鉄釘		8.3	残存	6.8					10.2g		
92	1号墓	152	金属	釘	鉄釘		8	残存	0.9	残存		0.4		3.3g		
92	1号墓	153	金属	釘	鉄釘		5.8	残存	6.6					2.9g		
92	1号墓	154	金属	金具	鉄釘		8.3	残存	0.9			0.7		8.12g		
92	1号墓	155	金属	釘	鉄釘		9.8		3.8			3.5		泥口(金属: 57.77g 木材と銅釘: 6.5g		
92	1号墓	156	金属	釘	鉄釘		8.3		3.7			3.2		2.71g		
92	1号墓	157	金属	釘	鉄釘		8.1		3.7			3.4		1.9g		
92	1号墓	158	金属	釘	鉄釘		5.7		1.2			3.8		5.48g		
92	2号墓	159	金属	釘	鉄釘		8.4	残存	0.9			0.4		6.7g		
92	2号墓	160	金属	鉄製	鉄釘		6.8							鉄釘 火熱痕 1.5cm 八ッ径 0.9cm 5.75g		
92	2号墓	161	金属	鉄製	鉄釘		7.6							鉄釘 八ッ径 0.9cm 巾付径 0.5cm 6.24g(銅中心有り)		
92	2号墓	162	金属	鉄製	鉄釘		6.8							鉄釘 火付径 1.8cm 八ッ径 1.2cm 8.42g		
92	2号墓	163	金属	銅釘	鉄釘		2.3	残存	3.8					2.91g		
92	2号墓	164	金属	釘	鉄釘		3.4		0.9			0.3		1.87g		
92	2号墓	165	金属	釘	鉄釘		8.4		0.6			0.45		3.74g		
92	1号墓	166	金属	鉄			2.3		6.0			0.1		東北墓坑 銅貨XX (1668年以降) 文銭 寛永 2.26g		
92	1号墓	167	金属	鉄			2.3		0.6			0.1		東北墓坑 ＋ XX (1638～1656年) 文銭 寛永 2.39g		
92	1号墓	168	金属	鉄			2.3		0.7			0.1		東北墓坑 銅貨XX (1668年以降) ＋ 文銭 寛永 2.47g		

区番号	遺構名	遺構番号	器種	器形	遺存	口径(長)	現存	底径(幅)	復元	器高(厚)	型式	観察所見	給土	備考
92	1号地	169	合蓋	鉢		2.3		0.65		0.1		荒木遺跡 前期古(1668年以降) 一文銭 銅銭 3.00g		
92	1号地	170	合坏	鉢		2.45		0.65		0.1		荒木遺跡 古期古(-2.7) 一文銭 銅銭 3.34g		
92	1号地	171	合坏	鉢		2.35		0.6		0.1		荒木遺跡 前期古(1668年以降) 一文銭 銅銭 3.51g		
92	1号地	172	合坏	鉢		2.5		0.6		0.1		荒木遺跡 文銭 一文銭 銅銭 3.15g		
92	1号地	173	合蓋	鉢		2.3		0.6		0.1		荒木遺跡 前期古(1668年以降) 一文銭 銅銭 2.91g		
92	1号地	174	合蓋	鉢		2.3		0.6		0.1		荒木遺跡 前期古(1668年以降) 一文銭 銅銭 3.09g		
92	1号地	175	合蓋	鉢		2.3		0.65		0.1		荒木遺跡 前期古(1668年以降) 一文銭 銅銭		
93	1号地	176	本製品	鍋型						1				
93	1号地	177	本製品	蓋板	現存	12.2	現存	6.8		1.5				
93	1号地	178	本製品	蓋板	現存	17.7	現存	8		0.4				
93	1号地	179	本製品	角材	現存	33		4.2		2.2				
93	1号地	180	本製品	角材	現存	37.4		7.8		4				
93	1号地	181	本製品	型材		23.5		16.3		1				
93	1号地	182	本製品	手鍋	現存	40.6		6.4		1	鋼製			
93	1号地	183	本製品	平鍋	現存	25.6	現存	14		0.6				
93	1号地	184	本製品	平鍋	現存	25.6	現存	14		0.8				
93	1号地	185	本製品	武器	現存	29.5	現存	9		1.1				
93	1号地	186	本製品	角材		43		3		3				
93	1号地	187	本製品	鉄材		3.5				2.1		鍋手者り		
93	1号地	188	本製品	底板				16		0.9				
93	1号地	189	本製品	板材		13.5		8.5		0.5				
93	1号地	190	木製品	小板		24		9.5		1.5				
93	1号地	191	木製品	板材		9.3		3		1.1				
93	1号地	192	木製品	底板	現存	2	現存	8.3		0.5				
93	1号地	193	木製品	底板	現存	14.5	現存	8.6		0.5				
93	1号地	194	本製品	刻下駒		30.6		10.6		0.5				
94	1号地	195	本製品	小皿		13		1.8		0.4				
94	1号地	196	本製品	曲物		11		13		5.5				
94	1号地	197	本製品	底板	現存	8.3	現存	6.2		0.6		口縁が歪めて少し残っている		
94	1号地	198	本製品	桶形		50.4		2.2		1.2	酒			
94	1号地	199	本製品	小皿		6.8		1.7		0.1				
94	1号地	200	木製品	法板				12.3		0.9				
94	1号地	201	本製品	蓋板				12.6		0.9				
94	1号地	202	本製品	蓋板				11.4		0.8				
94	1号地	203	本製品	板材		13.5		6.5		0.7				
94	1号地	204	本製品	曲材		21.4		1		1				
94	1号地	205	本製品	角材		35		6		2.2				
94	1号地	206	本製品	板材		26.3		2		1				
94	1号地	207	本製品	蓋板	現存	26.8	現存	10.6		1				
94	1号地	208	本製品	曲材				3.8		0.6	桶類			
94	1号地	209	本製品	板材		16		9.7		1				
94	1号地	210	本製品	桶形				6.5		1.7				
94	1号地	211	本製品	武器	現存	21	現存	6.2		1.1		金属16.5 金属6.5		
94	1号地	212	本製品	板材		37		11.5		1.6				
94	1号地	213	木製品	角材	現存	81.2		6		6				
94	1号地	214	木製品	板材	現存	29.7		19		0.9				
94	1号地	215	木製品	板材		24		3.4		0.7				
94	1号地	216	木製品	板材	現存	42		4.2		3.6				
94	1号地	217	木製品	杵		44		10.4		8.4				
94	1号地	218	木製品	板材		65.4		2.5		2				
93	1号地	219	本製品	板材		38		14		1.7				
93	1号地	220	木製品	角材		34		2.4		2.5				
93	1号地	221	木製品	曲物		25.4		12.1		5.6		白付		
93	1号地	222	本製品	角材		35.6	現存	4		2				
93	1号地	223	本製品	杭	現存	66		6		4				
93	1号地	224	本製品	板材	現存	43	現存	13.6		1.6				
93	1号地	225	本製品	角材	現存	36.5	現存	6.5		3				
93	1号地	226	本製品	底板	現存	21.8	現存	7.5		1.3				
93	1号地	227	本製品	角材	現存	26.2		1.4		1.4				
93	1号地	228	本製品	板材		41.6		6.4		4.2				
93	1号地	229	本製品	箸	現存	35.4	現存	12.2		2.4				
93	1号地	230	本製品	鍋手	現存	22.4		8.9		2.3				
93	1号地	231	本製品	板材	現存	30.6	現存	13.6		1.2				
93	1号地	232	本製品	人形		6.8		4.7		0.3				
93	1号地	233	木製品	箸		5.7				0.8				

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	完形 残存	口径 (径)	復元 残存	底径 (幅)	復元 残存	厚さ (図)	出位	残存状況	胎土	備考
96	1号池	231	木製品	角材		52		4.8		3				
96	1号池	235	木製品	柱		33		10		9.6				
96	1号池	236	木製品			10.6		11.2		6.1				
96	1号池	237	木製品	角材		45		5.2		2.5				
96	1号池	238	木製品	角材		26		7.1		7.1				
96	1号池	239	木製品	角材		38.2		4		3.6				
96	1号池	240	木製品	角材		39.4		4.8		1.8				
96	1号池	241	木製品	板材		10		24.1		2				
96	1号池	242	木製品	角材		39		5		5				
96	1号池	243	木製品	角材		33.1		2		1				
96	1号池	244	木製品	角材		54.6		6		4.2				
96	1号池	245	木製品	曲材	現存	45		6.2		3.6				
96	1号池	246	木製品	板材	現存	80		8.8		2				
96	1号池	247	木製品	曲材		44		3.2		1.1				
96	1号池	248	木製品	板材	現存	10.2	現存	7		0.6				
96	1号池	249	木製品	角材		29		3.6		3.5				
96	1号池	250	木製品	板材	現存	9.2		3		0.5				
97	1号池	251	木製品	角材		23.3		5.6		3.4				
97	1号池	252	木製品	板材	現存	35		10		1				
97	1号池	253	木製品	板材		48.4	現存	27.2		1.6				
97	1号池	254	木製品	角材	現存	32		1.8		1.5				
97	1号池	255	木製品	曲材		76		4.4		2.8				
97	1号池	256	木製品	曲材		22.3		5.2		3.5				
97	1号池	257	木製品	杭		61.2		4.6			縄手前			
97	1号池	258	木製品	消肉				20.6		9.4				
97	1号池	259	木製品	板材		20	現存	9		1.2	今長谷 今高19			
97	1号池	260	木製品	板材	現存	30		11.3		1.1				
97	1号池	261	木製品	布		60		5.2		2				
97	1号池	262	木製品	角材	現存	39.9	現存	4.6		1.8	板			
97	1号池	263	木製品	曲材		18				7.2	曲輪ヒノキ			
97	1号池	264	木製品	角材		57.2		4.8		1.6				
98	1号池	265	木製品	曲材		52.8		3.2		1.6				
98	1号池	266	木製品	曲材		48		10.4		7.4				
98	1号池	267	木製品	角材		76		5.6		4.4				
98	1号池	268	木製品	角材		26.6		3.2		1.1				
98	1号池	269	木製品	角材		36.6		4.8		1.8				
98	1号池	270	木製品	下駄	現存	49		7.4		1.6				
98	1号池	271	木製品	角材	現存	24.8		6.3		5.3	紀不			
98	1号池	272	木製品	角材		19.9		2.6		1.9				
98	1号池	273	木製品	曲材		42		4.2		3				
98	1号池	274	木製品	板材		9.2		8		0.8	縄手前			
98	1号池	275	木製品	角材		24.8		4.7		4				
98	1号池	276	木製品	鍬ヒラ				10.8		16.2	東国道5、樹種ヒノキ			
98	1号池	277	木製品	板材		10.5		2.6		2.2	高畑前5			
98	1号池	278	木製品	底板	現存	11	現存	4		0.5				
98	1号池	279	木製品	底板	現存	12.2	現存	6		0.7	曲輪スギ			
98	1号池	280	木製品	板		15		1.7		0.2	曲輪ヒノキ			
98	1号池	281	木製品	板材		9.3		6.6		0.7	神板加工品			
98	1号池	282	木製品	工板		16.5		17		0.6				
98	1号池	283	木製品	板材	現存	8.3		4.2		0.9				
98	1号池	284	木製品	曲物				11.7		3	樹種ヒノキ			
98	1号池	285	木製品	曲	現存	7.2	現存	12.3		1.8	樹ヒノキ			
98	1号池	286	木製品	板材		44.6		2		1.2				
98	1号池	287	木製品	板材		27		11		0.5				
98	1号池	288	木製品	中材		36.4		3.6		0.4				
98	1号池	289	木製品	板材		29.5		8.6		0.4				
99	1号池	290	木製品	板材		30		8.2		0.5				
99	1号池	291	木製品	板材		24.5		2		0.8				
99	1号池	292	木製品	角材		19		0.9		0.1				
99	1号池	293	木製品	角材	現存	14	現存	5.5		2.3				
99	1号池	294	木製品	杭	現存	48.8		7.6		5.6				
99	1号池	295	木製品	角材		36.4		4.2		3.8				
99	1号池	296	木製品	角材		48.6	現存	2.4		1.3	縄手前			
99	1号池	297	木製品	板		48.4		10.4		1.2				

区	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	遺存所見	図示	備考
99	1号池	298	木製品	柱材		51		1.4		1.3				
99	1号池	299	木製品	板	残存	24.7		3.1		1.3				
99	1号池	300	木製品	板		28.1		8.3		1.4				
99	1号池	301	木製品	板材		46.3		14.9		0.6				
99	1号池	302	木製品	板		57.6		5.6		3.6				
99	1号池	303	木製品	底板	残存	29.6	残存	10.6		1.6				
99	1号池	304	木製品	曲げ物	残存	12	残存	5.8		2.1				
99	1号池	305	木製品	板				6		3.7				
99	1号池	306	木製品	板			残存	6.3		2.2				
99	1号池	307	木製品	板		12		5.5		3.9				
99	1号池	308	木製品	杭				5.8		2.5				
99	1号池	309	木製品	杭				6.5		3.9				
100	1号池	310	木製品	櫛		23.7		0.8		0.7				
100	1号池	311	木製品	櫛		16.9		0.8		0.4				
100	1号池	312	木製品	櫛		21.9		0.8		0.3	完形			
100	1号池	313	木製品	櫛		22		0.8		0.6				
100	1号池	314	木製品	櫛		21.7		0.8		0.6				
100	1号池	315	木製品	櫛		22		0.7		0.6				
100	1号池	316	木製品	櫛		22		0.7		0.7				
100	1号池	317	木製品	櫛		22.1		0.7		0.6				
100	1号池	318	木製品	櫛		22.3		0.6		0.4				
100	1号池	319	木製品	櫛		22.2		0.7		0.7				
100	1号池	320	木製品	櫛		23		0.6		0.6				
100	1号池	321	木製品	櫛		23.1		0.6		0.6				
100	1号池	322	木製品	櫛		22.2		0.5		0.3				
100	1号池	323	木製品	櫛		22.1		0.6		0.6				
100	1号池	324	木製品	櫛		21.6		0.5		0.5				
100	1号池	325	木製品	櫛		19.1		0.7		0.7				
100	1号池	326	木製品	櫛		17		0.5		0.6				
100	1号池	327	木製品	櫛		11		0.65		0.6				
100	1号池	328	木製品	櫛		13.5		0.6		0.6				
100	1号池	329	木製品	櫛		17.8		0.6		0.5				
100	1号池	330	木製品	櫛		22		0.7		0.7				
100	1号池	331	木製品	櫛		19.2		0.5		0.6				
100	1号池	332	木製品	櫛		22.1		0.7		0.7				
100	1号池	333	木製品	櫛		13.2		0.7		0.6				
100	1号池	334	木製品	櫛		17.2		0.6		0.5				
100	1号池	335	木製品	櫛		23.6		0.7		0.7				
100	1号池	336	木製品	櫛		23.1		0.8		0.4				
100	1号池	337	木製品	櫛		21.5		0.5		0.4				
100	1号池	338	木製品	櫛		21.5		0.8		0.5				
100	1号池	339	木製品	櫛		22		0.8		0.7				
100	1号池	340	木製品	櫛		21.5		0.5		0.7				
100	1号池	341	木製品	櫛		22.9		0.4		0.6				
100	1号池	342	木製品	櫛		22		0.6		0.7				
100	1号池	343	木製品	櫛		22		0.5		0.6				
100	1号池	344	木製品	櫛		22		0.6		0.5				
100	1号池	345	木製品	櫛		19.7		0.6		0.7				
100	1号池	346	木製品	櫛		23.3		0.8		0.5				
100	1号池	347	木製品	櫛		22		0.5		0.7				
100	1号池	348	木製品	櫛		22		0.7		0.6				
100	1号池	349	木製品	櫛		22.5		0.6		0.6				
100	1号池	350	木製品	櫛		21.4		0.6		0.6				
100	1号池	351	木製品	櫛		22		0.7		0.6				
100	1号池	352	木製品	櫛		19		0.6		0.4				
100	1号池	353	木製品	櫛		22.5		0.6		0.3				
100	1号池	354	木製品	櫛		21.6		0.7		0.4				
100	1号池	355	木製品	櫛		21.2		0.65		0.7				
100	1号池	356	木製品	櫛		22		0.6		0.6				
100	1号池	357	木製品	櫛		12.1		0.7		0.5				
100	1号池	358	木製品	櫛		12		0.7		0.7				
100	1号池	359	木製品	櫛		22.3		0.5		0.5				
100	1号池	360	木製品	櫛		22.2		0.9		0.6				
100	1号池	361	木製品	櫛		22.3		0.8		0.3				

図番号	遺構名	層位番号	種類	器形	復元残存	口径(cm)	復元残存	底径(cm)	復元残存	器高(cm)	胎土	備考
100	14号地	362	木製品	笠		21.7		0.6		0.7		
100	14号地	363	木製品	笠		21.8		0.7		0.6		
100	14号地	364	木製品	笠		21.7		0.7		0.5		
100	14号地	365	木製品	笠		22		0.7		0.5		
100	14号地	366	木製品	笠		22.8		0.6		0.5	漆	
100	14号地	367	木製品	笠		22.3		0.7		0.5		
100	14号地	368	木製品	笠		21.6		0.7		0.6		
100	14号地	369	木製品	笠		22.2		0.7		0.6		
100	14号地	370	木製品	笠		22.2		0.6		0.6		
101	14号地	371	木製品	笠		23		0.7		0.6		
101	14号地	372	木製品	笠		22.2		0.7		0.5		
101	14号地	373	木製品	笠		21.8		0.8		0.5		
101	14号地	374	木製品	笠		16.5		0.6		0.6		
101	14号地	375	木製品	笠		17.9		0.6		0.7		
101	14号地	376	木製品	笠		12.7		0.6		0.7		
101	14号地	377	木製品	笠		21.8		0.6		0.7		
101	14号地	378	木製品	笠		22		0.7		0.7		
101	14号地	379	木製品	笠		21.4		0.6		0.6		
101	14号地	380	木製品	笠		22.2		0.8		0.7		
101	14号地	381	木製品	笠		22.3		0.7		0.5		
101	14号地	382	木製品	笠		22.8		0.6		0.4		
101	14号地	383	木製品	笠		23.2		0.6		0.7		
101	14号地	384	木製品	笠		22.6		0.6		0.6		
101	14号地	385	木製品	笠		21.5		0.8		0.67		
101	14号地	386	木製品	笠		20.3		0.7		0.5		
101	14号地	387	木製品	笠		22		0.9		0.6		
101	14号地	388	木製品	笠		20.1		0.7		0.7		
101	14号地	389	木製品	笠		23.1		0.6		0.6		
101	14号地	390	木製品	笠		21.9		0.6		0.6		
101	14号地	391	木製品	笠		23.2		0.7		0.5		
101	14号地	392	木製品	笠		23.6		0.6		0.6		
101	14号地	393	木製品	笠		19		0.7		0.7		
101	14号地	394	木製品	笠		22		0.6		0.4		
101	14号地	395	木製品	笠		21.9		0.6		0.5		
101	14号地	396	木製品	笠		21.6		0.3		0.3		
101	14号地	397	木製品	笠		21.4		0.6		0.6		
101	14号地	398	木製品	笠		18.4		0.7		0.6		
101	14号地	399	木製品	笠		23.3		0.5		0.4		
101	14号地	400	木製品	笠		23.4		0.5		0.4		
101	14号地	401	木製品	笠		21.8		0.6		0.5		
101	14号地	402	木製品	笠		19.5		0.8		0.6		
101	14号地	403	木製品	笠		22.1		0.7		0.6		
101	14号地	404	木製品	笠		13.5		0.8		0.5		
101	14号地	405	木製品	笠		22.7		0.7		0.5		
101	14号地	406	木製品	笠		22.1		0.6		0.6		
101	14号地	407	木製品	笠		21.8		0.6		0.6		
101	14号地	408	木製品	笠		22.8		0.6		0.5		
101	14号地	409	木製品	笠		22		0.7		0.7	銅鏡	
101	14号地	410	木製品	笠		21.5		0.6		0.6		
101	14号地	411	木製品	笠		22.7		0.6		0.5		
101	14号地	412	木製品	笠		22		0.6		0.6		
101	14号地	413	木製品	笠		22		0.7		0.5		
101	14号地	414	木製品	笠		22		0.7		0.6		
101	14号地	415	木製品	笠		21.3		0.6		0.6		
101	14号地	416	木製品	笠		21.6		0.6		0.5		
101	14号地	417	木製品	笠		22		0.7		0.6		
101	14号地	418	木製品	笠		22.1		0.7		0.6		
101	14号地	419	木製品	笠		23		0.7		0.5		
101	14号地	420	木製品	笠		22.2		0.7		0.6		
101	14号地	421	木製品	笠		17.7		0.6		0.6		
102	14号地	422	瓦	[illegible]	残存	4.6	残存	10.5		4.6	唐草	唐草
102	14号地	423	瓦	[illegible]	残存	3.3	残存	8		6.3		中世
102	14号地	424	瓦	[illegible]	残存	3.3	残存	13		5	江戸式	中世
102	14号地	426	瓦	軒丸瓦	残存	12.9	残存	16.2		2.2	瓦当径 16.2cm	

図版番号	遺構名	箱番号	器種	器形	復元 既存	口径 (cm)	復元 残存	底径 (cm)	復元 残存	容量 (ml)	備考	特記事項	釉・彩	備考
102	3号墳	425	瓦	軒丸瓦筒	既存	6.8	残存	8.9		4			須	
102	3号墳	427	瓦	丸瓦	既存	6.2	残存	7		2		端に大穴開き直径2.5cm 平穴面、端下縁部(丸内一文字)	須	
102	3号墳	428	瓦	軒丸瓦	既存	10.9	残存	11.3		7			黒	
102	3号墳	429	瓦	不明	既存	5.8	残存	10.1		2.2		不明	灰黒	
102	3号墳	430	瓦	軒丸瓦	既存	9.9	残存	11.1		8			黒	
103	3号墳石	1	須器	水差	既存	5.8	残存	3.4	既存	2.1		底目	黒	
103	3号墳石	2	須器	甕	復元	5.4			既存	2.5		底目	黒	
103	3号墳石	3	須器	甕	復元	10.4			既存	3.8		1.5CM 厚縁部	黒	
103	3号墳石	4	須器	瓶			復元	5	既存	2.1		底目	黒	
103	3号墳石	5	須器	瓶			復元	8	既存	1.2		底目	黒	
103	3号墳石	6	須器	蓋	復元	14.8			既存	2.9		内・外(一部)黒鉄釉		
103	3号墳石	7	須器	蓋	復元	9.2			既存	1.2	円径21	内外 金銅環・外周部欠・海形		
103	3号墳石	8	須器	杯用蓋	復元	11.85	復元	5.4	既存	1.5	円径一武21	内面無釉		
103	3号墳石	9	土	壺	既存	1.8	残存	3.8	既存	3.4				
103	3号墳石	10	金属	鏡		2.4		3.6		3.1		表水銀面 裏 文様 厚鏡 2.70g	中中銅	
113	3号土坑	1	瓦	丸瓦	既存	10.6	残存	10.7		2.3				
113	3号土坑	1	須器	杯蓋			復元	5	既存	3.1		内外鉄釉		
113	3号土坑	2	土器	杯蓋		22		10.8		5.4				
113	3号土坑	3	土器	坩ガ類						1.7				
113	3号土坑	1	鉄器	刀	復元	11.4	復元	5.4		2	高約一二	外外使跡 0.9×2.7		
113	5号土坑	2	土器	須恵器		8.4		8.2		1.3	鉄			
113	15号土坑	1	鉄器	釘				6.2		1.3				
113	16号土坑	1	鉄器	灯明皿		20.1		5		1.8				
113	16号土坑	2	鉄器	灯明皿		10.8		4.8		2.2				
113	17号土坑	1	鉄器	釘		1.7				4.8		外外銅張釘		
113	17号土坑	2	鉄器	鉄鏃	復元	11.1		4.1		8.3		外外炭釘		
113	17号土坑	3	鉄器	釘	復元	10.6		4.5	5.5					
113	17号土坑	4	土器	小皿				7.8		6.9				
113	19号土坑	1	鉄器	金鋲					既存	1.3		4.4大穴開に穴あり 直径金鋲部		
113	19号土坑	2	鉄器	鋲?	既存	7.1						頭 3 小口径 0.9cm 口付径 0.7cm 4.30g		
113	20号土坑	1	鉄器	釘					既存	4.5		内外炭薄和 頭入有り		
113	20号土坑	2	土器	小皿				6						
114	21号土坑	1	須器	坩					既存	2			黒	
114	21号土坑	2	須器	壺	復元	4.6	復元	8.2		3.2			焼色	
114	21号土坑	3	須器	坩	復元	10.8			既存	2.8			焼色	
114	21号土坑	4	須器	坩	復元	8.5	復元	3.5		4.3		表に 内付着 口縁部 黒換色	焼色	
114	21号土坑	5	須器	坩	復元	8.5	復元	3.6		4.3		1/4部 黒換色	焼色	
114	21号土坑	6	瓦器	大皿		8.9		3.3		4				
114	21号土坑	7	瓦器	灯明皿		7		3.2		2.5		受部等(復元)径8.3		
114	21号土坑	8	瓦器	鉢		7.1		3.2		3.2				
114	21号土坑	9	陶器	皿			復元	5	既存	4				
114	21号土坑	10	陶器	椀					既存	5				
114	21号土坑	11	陶器	茶椀	復元	10.9	復元	4		5.55				
114	22号土坑	12	土製品	石石		2		1.8		0.8		7.5×5 6/8 軽	緑	
114	22号土坑	13	瓦	丸瓦凸面	既存	9.8	既存	4.3		1.5			緑	
114	22号土坑	1	鉄器	小鉄鏃	復元	7.3	復元	4.3		3.3				
114	22号土坑	2	鉄器	鎌		7.3		3.6		1.45				
114	22号土坑	3	鉄器	不明品		4.2		4.2		2.9				
114	22号土坑	4	二器	皿					既存	4.2				
114	23号土坑	1	鉄器	鎌					既存	2.5			緑釉	
114	23号土坑	2	鉄器	鉄鏃	復元	27			既存	3.5	口径21	内外 金銅環		
114	23号土坑	3	鉄器	鎌					既存	1.5		つまみ径1・突帯径2.3 外 金銅環 貫入有 縁在 底面釉		
114	23号土坑	4	鉄器	鋤先					既存	3.8	径21			
114	24号土坑	1	鉄器	鉄					既存	1.8		受部径(復元)? 外面釘付 鉄滓有り		
114	24号土坑	2	鉄器	鉄					既存	5.2		内外鉄滓		
114	24号土坑	3	土器	皿										
114	24号土坑	4	瓦	丸瓦凸面	既存	5.2	既存	10.9		2.			緑	
115	25号土坑	1	鉄器	鉄	復元	10.6	既存	6.6		2.		鞘尻径 口縁に2箇所あり	緑	
115	26号土坑	2	鉄器	鉄			復元	3.8	既存	4.5		茎を刃先あり	緑	
115	26号土坑	3	鉄器	鉄			復元	3.9	既存	5.			緑	
115	26号土坑	4	鉄器	鉄					既存	3.6			緑	
115	26号土坑	5	鉄器	鉄					既存	3.7			緑	
115	26号土坑	6	鉄器	鉄					既存	3.2			緑	
115	26号土坑	7	鉄器	鉄					既存	2.8			緑	

遺構番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	底充残存	口径(長)	復元残存	底部(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
115	26号十坑	8	鉢形	瓶	復元	3			残存	4.3		口縁(外傾)	密	
115	26号十坑	10	鉢形	鉢					残存	5.4			密	
115	26号土坑	10	鉢形	鉢					残存	4			密	
115	26号土坑	11	器形	皿	復元	14			残存	3.1			密	
115	26号土坑	12	陶器	碗			復元	7.6	残存	6.8		内外施釉 ロクロナデ		
115	26号土坑	13	陶器	瓶	完元	12.6	復元	5.9	復元	7.8		内外施釉 ロクロナデ		
115	26号土坑	14	陶器	擂鉢	復元	22.8			残存	4.6		内外施釉		
115	26号十坑	15	陶器	茶椀	復元	6.8	復元	3.2		3		内外灰釉 染付		
115	26号土坑	16	陶器	碗	復元	21	復元	10		9.8		内外施釉		
115	26号土坑	17	陶器	碗			復元	4.6	残存	5.7				
115	26号土坑	18	陶器	碗	復元	10			残存	4.8		内外施釉		
115	26号土坑	19	陶器	碗				3.2	残存	2		内外施釉 底部糸切あり		
115	26号土坑	20	陶器	鉢	復元	9.8	復元	4.4		1.8		ロクロナデ 内外に13本櫛ヌスリ痕 底部ヘラ切り		
115	26号土坑	21	陶器	皿		10.6		4		2		1/4部内外底付着		
115	26号土坑	22	陶器	皿					残存	1.9		ロクロナデ 外面口縁部に灰釉 内面に灰釉		
115	26号十坑	23	陶器	壺					残存	1.9		内外灰釉 内面ロクロナデ		
115	26号十坑	24	陶器	擂鉢					残存	3.3		内面ハケ		
115	26号土坑	25	陶器	瓶			復元	6.4	残存	1.6		内外鉄釉 外底部ヘラ切り(ヨコナデ)		
115	26号土坑	26	陶器	土瓶			復元	8.2	残存	1.5		内外灰釉		
115	26号十坑	27	陶器	瓶			復元	3.6	残存	1.3		ロクロナデ		
115	26号十坑	28	陶器	鉢					残存	4.5		内外灰釉 ロクロナデ		
115	26号十坑	29	陶器	擂鉢					残存	4		内外鉄釉 内面ロクロナデ CL片		
116	26号土坑	30	瓦器	土釜					残存	8.2				
116	26号土坑	31	陶器	人形				3.6		3.6		厚さ3.6		
116	26号十坑	32	土器	底部欠						7.3				
116	26号十坑	33	土器	皿		7.4		5		1.7				
116	26号土坑	34	土器	皿		6.1		5.3		1.3				
116	26号土坑	35	土器	皿		7		5		1.3				
116	26号十坑	36	土器	皿		6.1		5		1.6				
116	26号土坑	37	土器	皿		10		7.6		2				
116	26号十坑	38	土器	高塔皿						2	底			
116	26号十坑	39	土器	皿		7.6		6.4		1.5				
116	26号十坑	40	土器	鉢状皿				5.2		3.9				
116	26号十坑	41	土器	鉢状皿		6				4.3				
116	26号十坑	42	土器	小皿				3.5		0.9				
116	26号十坑	43	土器	小皿				10		1.4				
116	26号十坑	44	土器	皿		8.7		5.6		1.6				
116	26号十坑	45	土器	鉢状皿		9.2		9		1.8	底			
116	26号十坑	46	土器	焙烙						5				
116	26号十坑	47	土器	小皿						3				
116	26号土坑	48	土製品	羽石		2		2.1		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
116	26号土坑	49	金属	鐘釜	現存	6.6						胴径 火銷径 1.5cm 口径 3cm 8.85g(銷十を含む)		
116	26号一坑	50	金属	クサビ	現存	7.1	現存	1.5	残存	0.5		2.38g		
117	27号二坑	1	器形	鉢	復元	7.8	復元	4.4	残存	5.8			密	
117	27号上坑	2	器形	鉢			復元	6	残存	3			密	
117	27号上坑	3	器形	鉢					残存	3.4			密	
117	27号上坑	4	器形	鉢			復元	3.6	残存	7			密	
117	27号十坑	5	器形	皿			完元	7	残存	1			密	
117	27号十坑	6	器形	碗	復元	9.8			残存	4.2			密	
117	27号十坑	7	器形	碗			復元	3.2	残存	2.4			密	
117	27号十坑	8	器形	鉢	復元	9.2	復元	3		4.8			密	
117	27号十坑	9	器形	皿			復元	7.2	残存	2.3		高台(糸切)の貼痕跡 チャンクの痕跡あり	密	
117	27号十坑	10	器形	碗	復元	10			残存	3.4			密	
117	27号上坑	11	陶器	碗			復元	3.4	残存	2.4				
117	27号一坑	12	陶器	土瓶					残存	3.4	注口	鉄釉		
117	27号土坑	13	陶器	土瓶	復元	8.6			残存	3.5				
117	27号上坑	14	陶器	土瓶			復元	6.3	残存	7.2		内外鉄釉		
117	27号一坑	15	陶器	碗			復元	9.4	残存	5.4				
117	27号一坑	16	陶器	皿			復元	11.8	残存	1.8				
117	27号土坑	17	陶器	鉢					残存	3.5				
117	27号土坑	18	陶器	皿					残存	1.3		受部径(最大)18.8		
117	27号十坑	19	陶器	瓶					残存	1.6		ロクロナデ1.4		
117	27号土坑	20	陶器	壺	復元	22.8			残存	6.6		外面ロクロナデ 内外鉄釉		
117	27号十坑	21	陶器	壺	復元	32			残存	4.5				

図番号	遺構名	遺物番号	層位	器種	残存	口径(cm)	復元 残存	底径(cm)	復元 残存	残高(cm)	備考	遺構所見	出土	備考
117	27号ピット	24	開部	壺					残存	8.5				
117	27号ピット	25	開部	壺					残存	5.6				
117	27号ピット	26	開部	壺					残存	5.1		内面漆塗		
117	27号ピット	27	開部	壺					残存	6.8		外面漆塗(底部)に1点金箔貼		
117	27号ピット	28	開部	鉢					残存	3.8	14世紀			
117	27号ピット	27	白磁碗	石塔	残存	3.1	復元	0.6		0.6		重 1.57g		
117	27号ピット	28	白磁碗	石塔	残存	3.3	復元	0.2		0.6		重 1.45g		
118	28号土坑	1	開部	皿					残存	3.1				
118	28号土坑	2	開部	鉢					残存	1				
118	28号土坑	3	開部	鉢			復元	16	残存	5.6		受部幅(復元)8.4		
118	28号土坑	4	開部	鉢	復元	11			残存	6.2				
118	28号土坑	5	開部	土師器	復元	12.6			残存	2				
118	28号土坑	6	開部	土師			復元	6.1	残存	11				
118	28号土坑	7	上部	瓦				6.1		1.1				
118	28号土坑	8	上部	焜炉				26.8		22.5				
118	29号ピット	1	開部	碗					残存	3			表	
118	29号ピット	2	開部	碗	復元	8.4			残存	7.9				
118	29号ピット	3	開部	大碗	復元	13.4	底元	6.6		7.3			表	
119	31号土坑	1	開部	皿					残存	2.2		内面漆塗		
119	31号土坑	2	金属	釘		2.8				3.1		現在錆が進行しており不明 重1.2g 同定困難 鉄釘 2.59g		
119	31号土坑	3	金属	釘		2.8		3.7		3.1		重不明 鉄釘(1660年以降) 重十一般 同定困難 鉄釘 3.46g		
119	33号土坑	4	金属	釘		2.6		3.7		3.1		重不明 鉄釘(1660～1697年) 重十一般 鉄文錆 3.9g 3.1g		
119	33号土坑	5	金属	釘		2.8		3.8		3.1		現在錆が進行しており不明 鉄釘(1660年以降) 重十一般 同定困難 鉄文錆(1760年以降) 3.73g		
119	37号土坑	1	開部	碗					残存	3.9			表	
119	37号土坑	2	開部	碗					残存	3.6			表	
119	37号土坑	3	開部	皿				8.9	残存	8.6		鉄釘文字		
119	37号土坑	4	開部	鉢(口縁)		10			残存	8.3				
119	37号土坑	5	開部	土師					残存	8.1				
120	37号ピット	6	開部	皿			底元	6	残存	1.5				
120	37号ピット	7	上部	焜炉部				4.6		8.9			表	
131	1号ピット	1	開部	碗	復元	8			残存	2.5		炭化		
131	1号ピット	2	開部	鉢					残存	5.7		内外漆塗跡		
131	2号ピット	1	開部	瑞水瓶		20.8		3.3		4.8				
131	2号ピット	2	上部	瑞水瓶		21		3.8		4.45				
131	6号ピット	1	開部	くらわんか碗	復元	13	復元			5.9		炭化	表	
131	6号ピット	2	開部	碗			復元	3.8	残存	1.5		炭化	表	
131	6号ピット	3	開部	碗					残存	3.1		内外漆塗跡		
131	6号ピット	4	開部	碗					残存	1.6		内外漆塗跡		
131	6号ピット	5	上部	石臼				20		15.1		内面点状付着		
131	6号ピット	6	上部	焜炉						5.3				
131	8号ピット	1	開部	碗			底元	3.6	残存	1		炭化	表	
131	8号ピット	2	開部	皿			復元	6	残存	1.9		内面:下部漆塗跡		
131	8号ピット	3	上部	火鉢		17.8		14		2.7				
131	10号ピット	1	開部	碗	復元	16.6			残存	4.2				
131	12号ピット	1	開部	碗					残存	2.5		炭化	表	
132	14号ピット	1	開部	土師					残存	3.6		外面:鉄釉・外端上部白釉		
132	14号ピット	2	開部	皿			復元	5	残存	0.9		内面:白釉		
132	14号ピット	3	開部	碗					残存	3.9		外面:鉄釉・内面:白釉		
132	14号ピット	4	開部	大碗		8				2.1		外面:鉄釉・内面:白釉		
132	14号ピット	5	上部	焜炉						2.7				
132	16号ピット	1	上部	小皿										
132	16号ピット	1	開部	碗					残存	1.4		炭化	表	
132	22号ピット	1	土師	瑞水瓶		20		15.4		3.1				
132	22号ピット	2	土師	瑞水瓶		20.8		17.2		3.5				
132	26号ピット	1	開部	碗					残存	1.7		炭化	表	
132	26号ピット	2	上部	焜			復元	14.5	残存	22		表面:火平		
132	32号ピット	1	開部	碗					残存	4.2		炭化	表	
132	34号ピット	1	開部	碗					残存	2.9		炭化	表	
132	34号ピット	2	開部	碗底					残存	6				
132	37号ピット	1	開部	碗					残存	2.2		炭化	表	
132	40号ピット	1	開部	碗					残存	2.4		炭化	表	
132	42号ピット	1	木製品	杭			復元	6.5	残存	3.9				
132	43号ピット	1	開部	碗	復元	10			残存	3.6		炭化	表	
132	45号ピット	1	開部	皿					残存	1.6		炭化	表	

遺構番号	遺構名	遺物番号	形態	器形	復元 既存	口径(長)	復元 既存	底径(幅)	復元 残存	器高(厚)	部位	観察所見	挿図	備考
132	45号ピット	2	掘形	鉢			復元	2.6	残存	3		底径	廃棄	
132	46号ピット	3	掘形	鉢					残存	3.5		底径	廃棄	
132	47号ピット	1	掘形	鉢	復元	9.4			残存	3.3		底径	廃棄	
132	47号ピット	2	掘形	皿		8.2			残存	3.7	口縁～体部	外・内面 横撫痕		
132	47号ピット	3	掘形	甕	復元	14.4			既存	3.6	口縁部	外・内面 上部撫痕		
132	50号ピット	1	掘形	小甕	復元	4.4	復元	3.8		3	口縁～底部	内外面 横撫痕・底部無調・胴部糸切痕		
132	51号ピット	1	土師	坩台皿		30.3		16.8		3.1				
132	51号ピット	2	土師	坩台皿		19.9		15.8		2.9				
133	52号ピット	1	掘形	碗					既存	2.4		底径	廃棄	
133	52号ピット	2	掘形	碗					既存	2.4		底径	廃棄	
133	53号ピット	1	掘形	皿					既存	3.4				
133	56号ピット	1	掘形	鉢					既存	2.8				
133	57号ピット	2	掘形	碗			復元	5.2	既存	4.5				
133	58号ピット	3	土師	坩台皿						3.7				
133	58号ピット	4	土師	坩台皿		18.8		6		4.9	上皿			
133	58号ピット	5	一番	坩台皿				12		2.3	下皿			
133	58号ピット	6	五	坩台	既存	20.8		30.2		2.1			廃	
133	59号ピット	1	七番	坩台皿		19		22.5		4.2				
133	59号ピット	2	七番	坩台皿		12		17.9		3.7				
134	54号ピット	1-1	木製品	箸		15.8		15.1		1.6	底部	面取ヲガ施		
134	54号ピット	1-2	木製品	箸	既存	59	既存	10.2		1.6	側面			
134	54号ピット	1-3	木製品	箸	既存	66.2		14		1.4	側面			
134	54号ピット	1-4	木製品	箸	既存	61		10		1.5	側面			
134	54号ピット	1-5	木製品	箸	既存	64.8		15		1.2	側面	面取ヲガ施		
134	55号ピット	1-1	木製品	箸		16.6		15.3		1.5	底面	面取ヲガ施		
134	55号ピット	1-2	木製品	箸	既存	70		14		1.5	側面			
134	55号ピット	1-3	木製品	箸	既存	68.4		10		1.7	側面			
134	55号ピット	1-4	木製品	箸	既存	69.6		11		1.6	側面			
134	55号ピット	1-5	木製品	箸	既存	72		10		1.4	側面	面取ヲガ施		
136	1号集石	1	掘形	鉢	既存	9.6			既存	4		底径		
136	1号集石	2	掘形	鉢			復元	4	既存	4.3		底径		
136	1号集石	3	掘形	坩台	既存	1.8			既存	3.4				
136	1号集石	4	掘形	鉢			復元	6.4	既存	1.9				
136	1号集石	5	掘形	碗			復元	3.8	残存	2.6		底径		
136	1号集石	6	掘形	坩皿	既存	4.6	既存	1.6		1.3				
136	1号集石	7	掘形	台形			復元	7.6	既存	5				
136	1号集石	8	掘形	鉢					既存	3.4				
136	1号集石	9	掘形	碗			復元	9.2	既存	2.7				
136	1号集石	10	掘形	碗	既存	10.6			残存	3.8				
136	1号集石	11	掘形	碗	既存	9.6			既存	3.7				
136	1号集石	12	掘形	皿			既存	6.4	既存	1.6				
136	1号集石	13	掘形	碗			既存	3.4	既存	3.7				
136	1号集石	14	掘形	鉢	既存	8	既存	4		3				
136	1号集石	15	掘形	鉢	既存	5.4	既存	2		3				
136	1号集石	16	掘形	碗	既存	10.4			既存	5				
136	1号集石	17	掘形	鉢	既存	4	既存	11		3.4				
136	1号集石	18	掘形	鉢			既存	3.4	既存	3.8				
136	1号集石	19	掘形	皿	復元	13.4	既存	5		3.5				
136	1号集石	20	掘形	碗			既存	6.6	残存	5.9				
136	1号集石	21	掘形	坩台			既存	3.4	残存	1.8				
136	1号集石	22	掘形	碗	既存	9.4			残存	4.3				
136	1号集石	23	掘形	皿			既存	5.6	残存	1.8				
136	1号集石	24	掘形	碗	既存	9.6			既存	4				
137	1号集石	25	掘形	皿	既存	13.1	既存	7.4		3.7				
137	2号集石	26	掘形	鉢	復元	3.6	復元	9		2.3				
137	3号集石	27	掘形	碗			復元	4	既存	2.7				
137	1号集石	28	掘形	鉢	復元	12.8	既存	8		3.8				
137	1号集石	29	掘形	碗	復元	7	既存	4.2		6.2				
137	1号集石	30	掘形	皿			復元	3		0.9				
137	1号集石	31	掘形	石製品			既存	4	既存	2	1.3号集石(復元)17.7 内面底部 外面ハケナデ			
137	1号集石	32	掘形	鉢						5.6	縁部 横撫 内面底部 外面ハケナデ			
137	1号集石	33	掘形	碗					残存	3.6	内外 横撫痕 口縁部 一部欠損			
137	1号集石	34	掘形	石製			既存	3.4	既存	2.1	内外面研磨			
137	1号集石	35	掘形	石製					既存	4.3	内外面研 底面 ヘラ削り ナデ ハケナデ			

図番号	遺構名	土器番号	器種	部位	残存	口径(cm)	残存	底径(cm)	残存	器高(cm)	所見	特記事項	新土	備考
137	1号集石	36	陶器	皿				4.4		0.6		内面ロクロナデ・指頭痕　外面施釉　高台糸切痕		
137	1号集石	37	陶器	皿			残存		残存	1.2	焼形	内外面施釉		
137	1号集石	38	陶器	皿						1.2	～口縁	内外面施釉		
137	1号集石	39	陶器	碗			残存	8.36	残存	2.3	底形	内外面施釉		
137	1号集石	40	陶器	碗			復元	5.8	残存	4.3				
137	1号集石	41	陶器	碗	復元	10			残存	4.8	口縁～底部	内外面施釉		
137	1号集石	42	陶器	鉢							鉢～25～11.6cm	受部幅(復元)1.2　鉢内面に「九(?)」の文字		
137	1号集石	43	陶器	徳利			復元	6.8	残存	3.1				
138	1号集石	44	陶器	徳利			復元	3.8	残存	7.5		内外面施釉		
138	1号集石	45	陶器	土瓶					残存	5.5	底足			
138	1号集石	46	陶器	鉢	復元	3			残存	3.5	口縁～底部	内外面白磁(明瞭)・貫入有り		
138	1号集石	47	陶器	皿		10.4		8.8		2.5		内外面施釉		
138	1号集石	48	陶器	碗	復元	9.4			残存	4.8		内外面施釉　内面ロクロナデ		
138	1号集石	49	陶器	碗			復元	6	残存	1.5		高台内面施釉		
138	1号集石	50	陶器	天目碗			復元	5.5		1.4		受部幅(復元)7・上面幅4.5　内外面施釉　ロクロナデ		
138	1号集石	51	陶器	蓋?					残存	3				
138	1号集石	52	陶器	蓋		10.4		8.8		2.1		外面施釉		
138	1号集石	53	陶器	蓋			復元	7.2	残存	2.5				
138	1号集石	54	土器	皿		10		7		1.2				
138	1号集石	55	金属	刀	残存	1.9		0.7				3.72g		
138	1号集石	56	金属	銭		2.8		0.65		0.1		寛永通宝　万治元年(1658年以降)　雪ヶ一淀　赤穂銭　延享銭(1750年以降)　4.78g		
138	1号集石	57	金属	銭		2.5		0.55		0.1		寛永通宝　文政　一文銭　長崎　3.99g		
138	1号集石	58	石	平面はほぼ長方形	残存	28.2	残存	14		1.6		側面　敲痕	新	
138	1号集石	59	石	平面		12.1	残存	12.8		1.5			新	
138	1号集石	60	石	平面はほぼ長方形		3.6	残存	12.8		1.2		磨痕	新	
138	1号集石	61	石	輪廻?	残存	9.1	残存	12		1.5			新	
141	1号有物集中	1	弥生土器	火打石	残存	5.4	残存	2.7		0.5		表面　乳白色　下面　7.5Y 8/2　火口　25.8g		
141	1号有物集中	2	土師器	蓋?		1.8		1.5		0.6		7.5YR 6/6 橙	新	
142	B21,B12	1	縄文	鉢					残存	6.8		灰白	新	
142	B21,B12	2	縄文	鉢			復元	6	残存	3.1		灰白	新	
142	B21,B12	3	縄文	鉢?						4.5				
142	B21,B12	4	縄文	鉢						3.3				
142	縄文B12	1	縄文	鉢	復元	13.6			残存	4.3		灰白	新	
142	縄文B12	2	縄文	鉢	復元	13.6			残存	4.2		灰白	新	
142	縄文B13	3	土師	壺				18	残存	9.1				
142	縄文B13	1	縄文	鉢?		1.9		1.9		0.7		7.5YR 5/6 橙	新	
142	縄文B13	5	弥生	甕?		1.8		1.8		0.7		7.5YR 5/6　にぶい橙	新	
142	縄文B13	6	須恵	鉢		2.8	残存	4.4	残存	4.8		灰A.ue		
142	縄文B13	7	石	砥石	残存	18.4	残存	13.3				三辺開鉄痕(8.14cm)　長辺巾　13cm	砥中	
143	縄文B14	1	縄文	鉢			復元	8.4		1.7		灰白	新	
143	縄文B14	2	縄文	鉢			復元	6.8	残存	1.8		灰白	新	
143	縄文B14	3	縄文	鉢	復元	6.4	復元	4		4.5		灰白	新	
143	縄文B14	4	縄文	鉢?	残存	5.8		4.2		2.2		黒褐		
143	縄文B14	5	金属	刀		3.2		0.9				61.98g		
143	縄文B14	6	金属	煙管	残存	3.4						雁首　火口径　1.36cm　小口径　0.7cm　5.80g(手打ち金属製)		
143	C	1	縄文	鉢			復元	3.8	残存	2.8		灰白	新	
143	C11	2	縄文	鉢	復元	6.6	復元	3.4		4.8		灰白	新	
143	C11	3	縄文	鉢					残存	3.1		灰白	新	
143	C11	4	縄文	鉢			復元	17	残存	2.7		灰白	新	
143	C11	5	縄文	鉢	復元	6.4	復元	3.6		4.2		灰白	新	
143	C11	6	縄文	鉢	復元	11	復元	4		5.9		灰白	新	
143	C11	7	縄文	鉢			復元	9.6	残存	5.9		灰白	新	
143	C11	8	弥生	甕				8.9		2	西部			
143	C11	9	土師	鉢		9			残存	2.5				
143	C11	10	弥生	土師器		9		4.3		2.7	口縁～西部			
144	C11	11	弥生	壺?		22.8					口縁～体部			
144	C11	12	弥生	壺?		4.2			残存	2.2	口縁部			
144	C11	13	土師	皿		9.3		4.6		1.7	完形			
144	C11	14	石製品	火打石	残存	3.8	残存	2.9		2.5		表面　メノウ　21.84g		
144	C11	15	金属	刀		5.6		0.6				277.4g		
144	C11	16	金属	釣針		5.3		0.4		0.2		1.08g		
144	C11	17	石	砥石(三角形)	残存	4.1	残存	6.9		1.5			砥	
144	縄文C11	1	縄文	鉢	復元	4.8	復元	4.8		5.5	口縁～底部			
144	縄文C11	2	弥生土器	小壺	残存	3.1	残存	2.7		1.5		N 6/ 灰　淀E　11.18g		

図版番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元程存	L値(長)	復元程存	底径(幅)	復元程存	厚さ(厚)	部位	調査所見	釉上	備考
144	C12	1	碗類	大碗			復元	10.4	残存	1.5		灰白	瓷	
144	現況C13	1	碗類	碗		2		3.8		4.2		緑色透明 30.5kg		
144	現況C13	2	碗類	碗		2		6.2		8		透明 115.9kg		
144	現況C13	3	不明	不明		3.1		1.4		1.7		N 6/ 灰 胎土 10.8kg		
144	C14	1	陶器	小皿		6.3		2.4		1.6	完形			
144	現況C14	1	磁器	皆平	復元	4.8	復元	2.2		4		地 5GY7/1明オリーブ灰	瓷	
144	現況C14	2	磁器	瓶			復元	4.2	残存	2.3		灰白	瓷	
144	現況C14	3	磁器	碗			復元	3.6	残存	1.6		灰白	瓷	
144	現況C14	4	磁器	皿	復元	6.4	復元	3.4		1.4		灰白	瓷	
144	現況C14	5	土器	小工		9		6.4		2.4				
145	C15	1	磁器	碗			復元	4.4	残存	1.5		灰白	瓷	
145	C15	2	磁器	碗					残存	4.3		灰白	瓷	
145	D11	1	磁器	皿			復元	4.6	残存	3.2		灰白	瓷	
145	D11	2	磁器	皿類	復元	3.2			残存	3.2		灰白	瓷	
145	D11	3	磁器	大皿			復元	14.4	残存	3.6		灰白 高台内焼締印	瓷	
145	D11	4	磁器	碗			復元	4.8	残存	2.6		灰白 2.5Y8/1	瓷	
145	D11	5	磁器	碗			復元	4.8	残存	3.3		灰白	瓷	
145	D11	6	磁器	碗			復元	4.5	残存	4.2		灰白	瓷	
145	D11	7	磁器	碗	復元	8.8			残存	5.4		灰白	瓷	
145	D11	8	磁器	碗					残存	4.4		灰白	瓷	
145	D11	9	磁器	皿	復元	13.6			残存	3.4		灰白	瓷	
145	D11	10	磁器	碗			復元	4.7	残存	2.4		灰白	瓷	
145	D11	11	磁器	碗					残存	3.7		灰白	瓷	
145	D11	12	磁器	皿			復元	2.6	残存	1.6		灰白	瓷	
145	D11	13	磁器	皿			復元	9	残存	1.8		灰白	瓷	
145	D11	14	磁器	皿			復元	6	残存	1.9		灰白	瓷	
145	D11	15	磁器	碗			復元	5	残存	4.1		灰白	瓷	
145	D11	16	磁器	碗			復元	3.6	残存	1.9		灰白	瓷	
145	D11	17	磁器	碗					残存	1.9		灰白	瓷	
145	D11	18	磁器	瓶					残存	6.7		緑釉	瓷	
146	D11	19	陶器	茶碗				4.5	残存	2.9	底部			
146	D11	20	陶器	灯入れ					残存	2.9	口縁部			
146	D11	21	陶器	鉢				1	残存	2.2	底部			
146	D11	22	陶器	鉢					残存	3.8	口縁部			
146	D11	23	陶器	鉢				12.2	残存	4.7	底部			
146	D11	24	陶器	鉢				5	残存	1.5	底部			
146	D11	25	陶器	鉢				10	残存	2.8	底部			
146	D11	26	陶器		残存	4.3	残存	1.4	残存	1.6				
146	D11	27	陶器	灯明皿		7.5		2.8		1.7	口縁～底部			
146	D11	28	土師	瓦				14.4		2.9				
146	D11	29	金属	ネクタイピン				6.6				7.15g		
146	D11	30	瓦	軒瓦	残存	9.2	残存	11		2			瓷	
146	D11	31	瓦	平瓦か丸瓦		24.6	残存	13.7		1.7			瓷	
146	D11	32	瓦	平瓦か丸瓦	残存	13.6	残存	9.3		1.6		計画名	瓷	
146	D11	33	瓦	平瓦か丸瓦	残存	7.9	残存	11		1.8		刻印焼刻(三角内 文字)	瓷	
147	現況D11	1	磁器	碗			復元	6.4	残存	3.5		灰白	瓷	
147	D12	1	磁器	碗	復元	8.8	復元	3.4		4		灰白	瓷	
147	D12	2	磁器	碗			復元	3.4	残存	2.9		灰白	瓷	
147	D12	3	磁器	碗			復元	3.8	残存	3.8		灰白	瓷	
147	D12	4	磁器	碗			復元	3.8	残存	4		灰白	瓷	
147	D12	5	磁器	皿			復元	8	残存	4.6		灰白	瓷	
147	D12	6	磁器	皿			復元	11	残存	2.7		灰白	瓷	
147	D12	7	磁器	碗	復元	10	復元	4		5		灰白	瓷	
147	D12	8	磁器	碗	復元	8	復元	3.2		4.1		灰白	瓷	
147	D12	9	磁器	碗	復元	10.4			残存	4		灰白	瓷	
147	D12	10	磁器	碗			復元	3.9	残存	2.9		灰白	瓷	
147	D12	11	磁器	皿			復元	7	残存	2.4		灰白	瓷	
147	D12	12	磁器	碗			復元	4.2	残存	3.3		灰白	瓷	
147	D12	13	磁器	上瓶	復元	9.2			残存	4.6		灰白 高台内釉剥ぎ	瓷	
147	D12	14	磁器	皿	復元	10.4	復元	6		2.4		灰白	瓷	
147	D12	15	磁器	碗			復元	3.8	残存	1.5		灰白 2.5Y	瓷	
147	D12	16	磁器	皿	復元	5	復元	10		2.3		灰白	瓷	
147	D12	17	磁器	皿					残存	2.7		灰白	瓷	
147	D12	18	磁器	碗	復元	9.2	復元	3.6		3		灰白	瓷	

探坑番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元推存	口径(cm)	復元結果	底径(cm)	復元推存	器高(cm)	部位	特徴所見	伊土	備考
147	D12	19	陶器	皿			復元	4.1	残存	6.1		灰白	密	
147	D12	20	陶器	皿	復元	0	復元	3.8		6.2		灰白	密	
147	D12	21	陶器	皿	復元	0	復元	3.2		5		灰白 (明)	密	
147	D12	22	磁器	皿					残存	4.4		灰白	密	
147	D12	23	磁器	皿			復元	4	残存	2.4		灰白	密	
147	D12	24	磁器	皿			復元	3.8	残存	2.8		灰白	密	
147	D12	25	磁器	人形瓶	復元	0	復元	5.2		2.3		紫色	密	
147	D13	26	磁器	碗	復元	4			残存	2.85		黒色	密	
148	D13	27	陶器	甕		23.8		14.5		3.1		二段～底部		
148	D12	28	陶器	鉢		3.8						口縁～底部		
148	D12	29	陶器	鉢				22.2				底部～胴部		
148	D12	30	陶器	皿				8.8				胴部		
148	D12	31	陶器	一輪		10			残存	3.6		口縁～胴部		
148	D12	32	陶器	一輪								胴部		
148	D12	33	陶器	鉢								口縁部		
148	D12	34	陶器	鉢		10						口縁～体部		
148	D13	35	陶器	皿		8		6		1.5				
158	D12	36	陶器	鉢		9				1				
158	D12	37	陶器	土瓶		13				3.5				
158	D13	38	陶器	鉢				9		5.7				
158	D12	39	陶器	皿		10.5		4		1.55		内外上釉施釉		
158	D12	40	陶器	土瓶		7.8				2.4				
159	D12	41	陶器	鉢		8				3.3				
159	D12	42	陶器	土瓶				3.8		6.7				
159	D12	43	陶器	皿		5.2						体部～底部		
159	D12	44	陶器	切形皿		10.2		4.6		2.1		口縁～底部		
159	D12	45	陶器	皿				7.4				体部～三段部		
159	D12	46	陶器	土瓶								口縁		
159	D12	47	陶器	皿		5.5		4.3		1.8				
159	D12	48	陶器	皿		9						口縁～底部		
159	D12	49	陶器	皿				7.5				体部～底部		
159	D12	50	陶器	皿		12.8		6.7		2.41		胴部～底部		
159	D12	51	陶器	鉢		18.6						口縁～底部		
159	D12	52	陶器	皿				8.2				底～底部		
159	D12	53	陶器	行平鍋		16.5			残存	6.5		口縁～底部		
159	D12	54	陶器	瓶類		30.8						口縁部		
159	D12	55	陶器	鉢		9.5								
159	D12	56	土師	皿		21.3			残存	3				
159	D12	57	土師	小杯		9.2	7			1.3				
159	D12	58	土師	小杯		7.4	4			1.3				
159	D12	59	土師	壺か	残存	5	残存	5.4	残存	2.8				
159	D12	60	土師	ミニチュア		3.4		3.1		1				
159	D12	61	土師	鉢か		31.7		33		4.8				
159	D12	62	一括	粗砂器底	残存	4.4				1.4				
159	D12	63	石製品	石英		2.95	3.3			0.45		N 1.61 重量 3.55g		
159	D12	64	石製品	石		7.2	6.7			5.3		10YR 8/1 灰白 高さ/最高部 302.32g		
159	D12	65	石製品	硬	残存	6.5		残存	4.9	0.8		38.03g		
159	D12	66	石製品	硬質	残存	3.8	1.6		1.6	0.9		10YR 8/1 灰白 25.14g		
159	D12	67	二次品	石英		1.6	1.9			0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
159	D12	68	二次品	石英		1.5		残存	1.3	0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
159	D12	69	二次品	石英		2	2			0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
159	D12	70	二次品	石英		2	2			0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
159	D12	71	二次品	石英		1.9	1.9			0.6		5YR 6/6 橙	密	
159	D12	72	二次品	石英		2.1	2.1			0.7		7.5YR 7/6 橙	密	
159	D12	73	二次品	石英		2.1	2			0.8		7.5YR 6/6 橙	密	
159	D12	74	金属	鉄	残存	2.3	1.4			0.25		1.84g		
159	D12	75	金属	鉄		2.5	3.6			3.1		荒木遺下 動荒木(1668年以降) 貫十一枚 真鍮板 刻文銭 3.79g		
159	D12	76	金属	鉄		2.5	3.6			3.1		荒木遺下 文銭 銅製 一文銭 3.13g		
159	D12	77	金属	鉄		2.3	3.7			3.1		荒木遺下 一文銭 銅製 1.87g		
159	D12	78	金属	鉄		2.18	3.55			3.1		荒木遺下 動荒木(1668年以降) 一文銭 手銭 1.7g		
159	D12	79	金属	銅か		3.	1			0.3		2.13g		
159	D12	80	瓦	[illegible]	残存	16.7	8.5			1.6			金雲母	
159	D12	81	瓦	軒先瓦	残存	8	10.8			1.6			密	
159	D12	82	瓦	軒先瓦		7.9	残存 17.			1.9		天地径7.8cm	密	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元	残存	口径(長)	復元	残存	底径(幅)	復元	残存	器高(厚)	胎土	色調	焼成	備考
150	D12	83	土	百平土	残存		6.5	残存		8.7			1.8		明		
151	竪穴D12	1	砥器	鉄	復元		10.0	復元		6.4			2.2		灰白		
151	竪穴D12	2	砥器	鉄	復元		1.6		残存			残存	4.5		灰白		
151	竪穴D12	3	土器	鍋			32.8		残存			残存	3.8				
151	竪穴D12	4	土製品	金石			2.7	残存		1.9			0.5		5YR 6/8 橙		密
151	竪穴D12	5	金属	鉄刀	残存		7.3								長さ 小は等 1cm 口付径 0.7cm 13.55g		
151	竪穴D12	6	木製品	角材			4.4						0.9				
151	D13	1	砥器	皮				復元		8.6	残存		1.6		灰白		密
151	D13	2	砥器	鉄			10.4				残存		4.5		コ縁ヘラ状		
151	D13	3	砥器	鉄						6	残存		3.7		黒鉛		
151	D13	4	火	なに？焼？	残存		9.8	残存		7.1			2		明灰白	焼	粗
151	D13	5	瓦	なに？焼？	残存		6.3	残存		5.3			2		明灰白（焼） 粗穴あり	焼	粗
151	F10	1	砥器	鉄				復元		4.8			2.2		灰白	焼	密
151	E10	2	砥器	鉄	復元		7.4	復元		6			3.3		灰白	焼	密
151	E10	3	陶器	皿			11.6			3.2			3				
152	E11	1	砥器	鉄				復元		6.8		残存	3.5		灰白		密
152	E11	2	砥器	鉄				復元		7		残存	3.7		灰白		密
152	E11	3	砥器	鉄	復元		6.4	復元		5.2			4.2		灰白		密
152	E11	4	砥器	鉄	復元		8	復元		3			5.8		灰白		密
152	E11	5	砥器	鉄				復元		5.6		残存	2.5		灰白		密
152	E11	6	砥器	鉄				復元		5.5		残存	3.6		灰白		密
152	E11	7	砥器	鉄				復元		4		残存	3.6		灰白		密
152	E11	8	砥器	鉄	復元	10						残存	4		灰白		密
152	E11	9	陶器	鉄						8			2.9				
152	E11	10	陶器	皿			11.8	受部		9			4		つまみ部ヘ受部		
152	E11	11	陶器	皿			8.2	受部		5.7		残存	2.9		上面ヘ受部		
152	E11	12	陶器	碗								残存	2.4		底部		
152	E11	13	陶器	皿			8.3			4.4			1.9		上面ヘ受部	灯火具	
152	E11	14	陶器	皿	三宝		9.7					残存	2.5		つまみ部ヘ上部		
152	E11	15	陶器	碗			10.8			4			5.4		底部ヘ底部		
152	E11	16	陶器	鉢状						11.2		残存	6		底部		
152	E11	17	砥器	小皿			9.7			3.8			2.1		口縁ヘ底部		
152	E11	18	瓦器	鍋						5			2.5		底部		
152	E11	19	陶器	碗			9.8			3.8			5.4		口縁ヘ底部		
152	E11	20	陶器	鉢								残存	5		底部		
152	E11	21	中世	日用									3.7				
152	E11	22	中世	土師皿						6.4			1.1		底		
152	E11	23	中世	火鉢									2.2				
152	E11	24	中世	土						8.4			1.8				
153	E11	25	土製品	金石		2				2			0.5		7.5YR 6/6 橙		密
153	E11	26	土製品	石七			2.1			1.9			0.6		5YR 6/8 橙		密
153	E11	27	土製品	勝石			1.9			1.8			0.6		7.5YR 6/6 橙		密
153	E11	28	一土製品	勝石			1.9			1.8			0.6		7.5YR 6/6 橙		密
153	E11	29	土製品	石石			1.9			1.7			0.6		7.5YR 5/4 にぶい褐		密
153	E11	30	土製品	土師	残存		2.3	残存		2.1			1.2		7.5YR 5/4 にぶい褐		密
153	E11	31	土製品	人形	残存		3.8	残存		2.6			2.1		7.5YR 6/3 にぶい褐		密
153	E11	32	金属	薄管	残存		3.5						0.1		銅質 大幅径 1.2cm 小口径 1.0cm 5.00g		
153	E11	33	金属	薄管	残存		2.8								銅も 小口径 1cm 口付径0.5cm 3.03g		
153	E11	34	金属	鉄	残存		1.2	残存		1.2					0.31g		
153	E11	35	瓦	平瓦	残存		16	残存		24.3			2.1				粗
153	E11	36	瓦	平瓦	残存		21.5			26.2			2.2				粗
153	E11	37	瓦	丸瓦	残存		5.1	残存		5.2			1.8		胎土粘土		粗
154	竪穴E11	1	砥器	庫口								残存	4.1		灰白		密
154	竪穴D11	2	砥器	鉄鉢								残存	3.5				
154	E12	1	砥器	鉄	復元	11	復元	3.9					4.4		灰白		密
154	E12	2	砥器	皿	復元	11.8	復元	6.4					3		灰白		密
154	E12	3	砥器	鉄			復元	4		残存			4.1		灰白		密
154	E12	4	砥器	鉄			復元	4.2		残存			1.9		灰白		密
154	E12	5	砥器	鉄	復元	9.4	復元	4					4.8		灰白		密
154	E12	6	砥器	鉄	復元	9.3	復元	3.8					3		灰白		密
154	E12	7	砥器	鉄	復元	10						残存	4.4		灰白		密
154	E12	8	砥器	鉄			復元	4		残存			3.2		灰白		密
154	E12	9	砥器	鉄			復元	3.6		残存			4		灰白		密
154	E12	10	砥器	鉄			復元	3.6		残存			2.6		灰白		密

图号	编号	定性	编部	部位	发光	口径 (μ)	发光	直径 (μ)	发光	距离 (μ)	附记	属于所属	地址	备考
154	B12	11	编号	板	强光	10.4	强光	3.4		3.2		灰白	伊	
154	B12	12	编号	小体			强光	2.8	微弱	2.6		灰白	伊	
154	B12	13	编号	盘			强光	4	微弱	3.1		灰白	伊	编号
154	B12	14	编号	部位	强光	11		3.6		5.8		灰白	伊	对/外-段箱
154	B12	15	编号	腹	强光	10.6	强光	3.6		1.8		灰白	伊	
154	B12	16	编号	腹				3.0	微弱	2.5		灰白	伊	
154	B12	17	编号	腹	强光	8.8		3.4		5		灰白	伊	
154	B12	18	编号	盘					微弱	2.7		灰白	伊	口螺旋纹
154	B12	19	编号	部	强光	8.8	强光	3.6		5.1		灰白	伊	
154	B12	20	编号	腹部为系帆			强光	3.4	微弱	3.4		灰白	伊	
154	B12	21	编号	口	强光	9.2	强光	4		4.8		灰白	伊	
154	B12	22	编号	部	强光	9.2	强光	3.8		4.9		灰白	伊	
154	B12	23	编号	部	强光	9.6	强光	3.8		3		灰白	伊	
155	B12	24	编号	部	强光	14.6	强光	5.6		7		灰白	伊	
155	B12	25	编号	腹	强光	10.6	强光	3.6		5.9		灰白	伊	
155	B12	26	编号	水滴		9		1.8		0.35			伊	
155	B12	27	编号	腹					微弱	1.5		灰白	伊	
155	B12	28	编号	腹	强光	10.4	强光	4		4.9		灰白	伊	
155	B12	29	编号	腹	强光	10.6	强光	3.6		3.4		灰白	伊	
155	B12	33	编号	上部有1					微弱	3.8		灰白	伊	
155	B12	31	编号	腹	强光	13.8			微弱	5.1		灰白	伊	
155	B12	32	编号	腹			强光	4	微弱	6.5		灰白	伊	
155	B12	33	编号	腹			强光	3	微弱	3.3		灰白	伊	
155	B12	34	编号	腹			强光	3.4	微弱	2.1		灰白	伊	点眼
155	B12	35	编号	入口	强光	25.6	强光	14.4		2.9		灰白	伊	口螺旋纹
155	B12	36	编号	腹					微弱	1.4		黄白	伊	
155	B12	37	编号	腹			强光	4.6	微弱	2.7		外-螺旋	伊	
156	B12	38	编号	腹	强光	8.4	强光	3.4		4.1		灰白	伊	
156	B12	39	编号	腹	强光	10.4	强光	3.8		5.7		灰白	伊	
156	B12	40	编号	腹	强光	7.8			微弱	3		灰白	伊	
156	B12	41	编号	腹			强光	5.8	微弱	5.3		灰白	伊	
156	B12	42	编号	腹	强光	15.2	强光	9.8		3.3		灰白	伊	
156	B12	43	编号	腹	强光	11.2	强光	4.6		6		灰白	伊	
156	B12	44	编号	腹			强光	3.2	微弱	2.7		灰白	伊	
156	B12	45	编号	腹						3.5		灰白 口螺旋纹	伊	
156	B12	46	编号	腹	强光		强光	3.4	微弱	4.1			伊	
156	B12	47	编号	腹	强光	9	强光	5		5.2		灰白	伊	
156	B12	48	编号	腹	强光	10.6			微弱	4.9		灰白	伊	
156	B12	49	编号	腹			强光	5.3	微弱	3.2		灰白	伊	
156	B12	50	编号	腹	强光	10.4			微弱	4.2		灰白	伊	
156	B12	51	编号	腹			强光	3.8	微弱	3		灰白	伊	
156	B12	52	编号	腹			强光	3.2	微弱	3.6			伊	
156	B12	53	编号	腹					微弱	0.8		灰白 点眼	伊	
156	B12	54	编号	腹			强光	3.6	微弱	2.4		灰白	伊	
156	B12	55	编号	口					微弱	3.3		灰白	伊	
156	B12	56	编号	腹	强光	9.4	强光	3.6		3.1		黄白	伊	
156	B12	57	编号	腹	强光	13.2	强光	7.2		6.5		白 SGYS/1 2Mm宽	伊	
156	B12	58	编号	口	强光	14	强光	5.5		6.9			伊	
156	B12	59	编号	部	强光	8	强光	3.8		4.2		灰白	伊	
156	B12	60	编号	部间		3.2			微弱	6		灰白	伊	
156	B12	61	编号	腹			强光	3.2	微弱	1.5		灰白 壳内隐螺印	伊	
156	B12	62	编号	腹			强光	6	微弱	3.7		灰白	伊	
156	B12	63	编号	腹	强光	10.4	强光	4.4		5.8		灰白	伊	
156	B12	64	编号	腹	强光	6.6	强光	3.6		4.5		灰白	伊	
156	B12	65	编号	大红	强光	38	强光	23.1		4.9		灰白 单螺旋	伊	
156	B12	66	编号	红腹			强光	4.2	微弱	3.9		灰白	伊	
156	B12	67	编号	腹			强光	5	微弱	4.7		灰白	伊	
157	B12	68	编号	腹	强光	10	强光	3.6		3.1		灰白	伊	
157	B12	69	编号	红腹部			强光	4	微弱	3.6		灰白	伊	
157	B12	70	编号	腹					微弱	4.5		灰白	伊	
157	B12	71	编号	腹	强光	6.2		3.6		6.6		灰白	伊	
157	B12	72	编号	腹			强光	6.6	微弱	5.4		灰白	伊	
157	B12	73	编号	腹	强光	9.8	强光	4		4.9		灰白	伊	
157	B12	74	编号	腹	强光	9.2	强光	3.9		4.8		灰白	伊	

河番号	遺構名	遺物番号	層種	器形	残存	口径(cm)	復元残存	底径(cm)	復元残存	器高(cm)	部位	観察所見	粘土	備考
157	E12	75	縄跡	鉢	復元	10.2			残存	4.2	底白		密	
157	E12	76	縄跡	皿					残存	5.6	底白		密	
157	E12	77	縄跡	鉢	復元	10.6			残存	3.2	底白		密	
157	E12	78	縄跡	皿			復元	3.5	残存	1.1	底白		密	
157	E12	79	縄跡	鉢	復元	8.8	復元	6.6		4.9	底白		密	
157	E12	80	縄跡	鉢			復元	5	残存	4.3	底白		密	
157	E12	81	縄跡	土			復元	6		3	底白	見込みに刻目	密	
157	E12	82	縄跡	鉢	復元	8	復元	3.4		4.5	底白		密	
157	E12	83	縄跡	鉢	復元	9.2	復元	3.8		3	底白		密	
157	E12	84	縄跡	鉢					残存	3.1	底白		密	
157	E12	85	縄跡	鉢					残存	4.8	底白		密	
157	E12	86	縄跡	鉢	復元	10.6	復元	4.4		5.4	底白	見込み刻目	密	
157	E12	87	縄跡	鉢			復元	4.6	残存	3.3	底白		密	
157	E12	88	縄跡	鉢					残存	3.8	底白		密	
157	E12	89	縄跡	紐鉢			復元	0.18	残存	1.3	台脚西側壁		密	
157	E12	90	縄跡	鉢	復元	10.4			残存	3.5	底白		密	
157	E12	91	縄跡	皿		6.8		9			内面一部錆			
157	E12	92	縄跡	土瓶		9.4				5.5	上部			
158	E12	93	縄跡	土瓶		8.8		7.7		11				
158	E12	94	縄跡	壺							持ち手			
158	E12	95	縄跡	壺										
158	E12	96	縄跡	一括							持ち手			
158	E12	97	縄跡	鉢				3.4		1.9	上部			
158	E12	98	縄跡	土瓶		8				7.3	口付			
158	E12	99	縄跡	土瓶							上部			
158	E12	100	縄跡	土瓶							注口			
158	E12	101	縄跡	鉢		7	1型	8.8		2.3	完形			
158	E12	102	縄跡	鉢蓋		17.6				1.1	口縁～底部			
158	E12	103	縄跡	土瓶		9				4.8	上部			
158	E12	104	縄跡	小鉢		16.4		3		2.3	口縁～底部			
158	E12	105	縄跡	小鉢		8.2		2.4		1.3	口縁～底部			
158	E12	106	縄跡	鉢		17					口縁～体部			
158	E12	107	縄跡	小鉢				3.3			底部～底部			
158	E12	108	縄跡	皿		9.4					口縁部			
158	E12	109	縄跡	鉢蓋				13			体部～底部			
158	E12	110	縄跡	鉢蓋				8.4			底部			
158	E12	111	縄跡	鉢							底部			
158	E12	112	縄跡	鉢		16.4					口縁部			
158	E12	113	縄跡	鉢							口縁部			
158	E12	114	縄跡	鉢				4.6		2.7	上部			
158	E12	115	縄跡	鉢				8		8.4				
158	E12	116	縄跡	土瓶		8.2					口縁～体部			
159	E12	117	縄跡	土瓶							注口			
159	E12	118	縄跡	竹下編		15.6				6.7	口部	復元一部明り		
159	E12	119	縄跡	皿		7				1.9	口縁～底部			
159	E12	120	縄跡	鉢		6.35	七部	8.6						
159	E12	121	縄跡	鉢蓋		35.8			残存	9.6	口縁部			
159	E12	122	縄跡	刀明皿		9.1		4.9		2.3	口縁～底部			
159	E12	123	縄跡	鉢		11			残存	3.3	口縁部			
159	E12	124	縄跡	土瓶		20			残存	2.4	口縁部			
159	E12	125	縄跡	刀明皿		6.6		2.7		1.6	口縁～底部			
159	E12	126	縄跡	鉢蓋					残存	6.6	体部			
159	E12	127	縄跡	壺		19.4				4.6				
159	E12	128	縄跡	鉢		27				3.1				
159	E12	129	縄跡	刀明皿		11.4		4		2				
159	E12	130	縄跡	鉢		13.4				7.8				
159	E12	131	縄跡	鉢		20				4.6				
159	E12	132	縄跡	一括						4.8	注口			
159	E12	133	縄跡	刀明皿		7.8		3.4		1.7				
159	E12	134	縄跡	鉢蓋						4.4	上部			
159	E12	135	縄跡	鉢蓋		20.8				3.4				
159	E12	136	縄跡	鉢		8.4		4.6						
159	E12	137	縄跡	鉢		7.2		3		3.1				
159	E12	138	縄跡	刀明皿		9.8		4		3.1				

図番号	遺構名	図版番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径	復元残存	器高(厚)
159	B12	136	陶器	皿				10.2		2.8
159	B12	146	陶器	碗		3.0		9.8		
160	B12	147	陶器	碗		7.6		3.2		3.3
160	B12	142	陶器	灯明皿		10		3.6		1.33
160	B12	143	陶器	皿		5.4				3
160	B12	144	陶器	灯明皿		10.4		4.4		2.1
160	B12	145	土師	須恵器				4.5		3.1
160	B13	148	土師	坩堝		18.2		4		5
160	B12	147	土師	皿				3		1.2
160	B12	148	土師	須恵器		4.2		9.2		3.7
160	B12	149	土師	小皿				4.6		1.1
160	B12	150	土師	鉢形		32		28		5.2
160	B12	151	土師	鍋鍋型		12.8		3.4		4.4
160	B12	152	土師	瓦器						3.7
160	B12	153	土師	瓦器		32.7		27.6		5.8
160	B12	154	土師	瓦器		34.3		31		5.3
160	B12	155	土師	小皿				2.2		0.8
160	B12	156	土師	小皿		7.4		5.4		1.3
160	B12	157	土師	須恵器		6.4		4.4		3.3
160	B12	158	土師	須恵器		8.6		4.4		5
160	B12	159	磁器	皿		9.2		3.35		2.1
160	B12	160	磁器	皿		7.1		3.2		2.1
160	B13	161	土師/白	甘平		2		1.9		0.7
160	B12	162	土師/白	甘平		2.2		2.1		0.5
160	B12	163	土師/白	甘平		2		1.9		0.5
160	B12	164	土師/白	甘平		2		2		0.7
160	B12	165	土師/白	甘平		2.9		2.9		0.6
160	B12	166	土師/白	甘平		2.1		2		0.6
160	B12	167	土師/白	甘平		1.9		1.8		0.6
160	B12	168	土師/白	甘平		1.5		1.9		0.6
160	B12	169	土師/白	甘平		2.2		2.1		0.6
160	B12	170	土師/白	甘平		2		1.5		0.6
160	B12	171	土師/白	甘平		2.1		2		0.6
160	B12	172	土師/白	甘平		2		1.9		0.6
160	B12	173	土師/白	甘平	残存	2.1	残存	1.9		0.6
160	B12	174	土師/白	甘平		2		1.9		0.7
160	B12	175	土師/白	甘平		2.1		2		0.6
160	B12	176	土師/白	土師		2.5		2.3		0.3
160	B12	177	土師/白	小皿		2.2		1.3		0.3
160	B12	178	土師/白	皿	残存	4.2		3.3		0.8
160	B12	179	土師/白	土師		2.5		2.3		0.3
160	B12	180	土師/白	土師		2.7		2.1		0.4
161	B12	181	金属	釘	残存	3.85		0.4		
161	B12	182	金属	釘	残存	1		0.7		0.3
161	B12	183	金属	鉄刀	残存	5.2		1.7		
161	B12	184	金属	金具	残存	3.2	残存	1.2		0.08
161	B12	185	金属	クサビ	残存	2.1		1.4		0.5
161	B12	186	金属	釘		2.8		0.65		0.1
161	B12	187	金属	釘	残存	5.7		0.5		
161	B12	188	金属	釘	残存	5.6	残存	0.7		0.5
161	B12	189	金属	釘	残存	8.2	残存	0.8		
161	B12	190	金属	釘	残存	7.5	残存	1		0.4
161	B12	191	瓦	軒瓦		27	残存	12.9		2
161	B12	192	瓦	平瓦	残存	9.2	残存	9.2		1.8
161	既出E12	1	磁器	碗	復元	7		3.9		2.8
161	既出E12	2	磁器	碗	復元	10	完存	3.8		5.4
161	既出E12	3	磁器	碗	復元	8.4	完存	5.6		5.3
161	既出E12	4	陶器	皿			復元	3	残存	2
161	既出E12	5	陶器	碗					残存	3.3
161	既出E12	6	土師	須恵器		6		4.4		10
161	既出E12	7	土師	皿		7.5		5.9		1.5
161	既出E12	8	土師	皿		8.4		4.5		1.5
161	既出E12	9	土師	皿		8		5.9		2
161	既出E12	10	金属	釘		2.4		0.65		0.1

部位	瓦類形式	保土	備考
下段			
上段			
	西外面 施釉色		
	盛付 58.38g		
	54.52g		粘土
	7.5YR 6/6 橙		粘土
	7.5YR 6/6 橙		粘土
	7.5YR 6/3 にぶい橙		粘土
	7.5YR 6/6 橙		粘土
	7.5YR 6/4 にぶい橙		粘土
	7.5YR 7/4 にぶい橙		粘土
	7.5YR 6/6 橙		粘土
	7.5YR 6/4 にぶい橙		粘土
	7.5YR 6/6 橙		粘土
	5YR 6/6 橙		粘土
	7.5YR 6/4 にぶい橙		粘土
	10YR 6/4 にぶい黄橙		粘土
	7.5YR 6/4 にぶい橙		粘土
	5YR 6/6 橙		粘土
	5YR 6/6 橙		粘土
	10YR 8/2 灰白		粘土
	7.5YR 6/4 にぶい橙		粘土
	橙 7.5YR 7/4 明灰 底 2.5YR 8/3 淡黄		粘土
	10YR 8/3 浅黄橙		粘土
	10YR 7/3 にぶい黄橙		粘土
	2.48g		
	1.44g		
	9.67g		
	1.30g		
	20.44g		
	配水施設 鉛直水(1988年以降) 管1 前 胃腸炎 四女様 4.34g		
	2.42g		
	6.68g		
	9.76g		
	4.25g		
			使用
	刻印模刻(丸)		使用
	沒白		使用
	沒白		使用
	沒白		使用
	外出預輸		

図番号	遺物番号	遺物番号	器種	器形	孔の有無	口径(cm)	底径	残存	厚さ(mm)	重量(g)	残存	重量(g)	特徴	胎土の特徴	胎土	備考
162	P10	1	金属	鏃		2.45			3.4			0.14		鉄鏃茎（復元2.25cm穴径0.5cm厚さ0.1cm）片刃茎 全長 [illegible] 重量0.41g		
162	P15	1	石製	丸	穿孔	3.6	底穿		4.8			2.2		灰存	灰	
162	P15	2	石製	三	穿孔	3.2	底穿		8.4			2.7		灰存	灰	
162	P15	3	石製	丸剥造			底穿		3		残存	3		灰存	灰	
162	P15	4	陶器	鉢					9.7		残存	2.9	底部			
162	P15	5	陶器	壺					7		残存	5.1	底部			
162	P-3	6	陶器	甕					11.5		残存	4.5	底部			
162	P-3	7	陶器	鉢		9			6.8			4	つまみ部～受け			
162	P-3	8	陶器	鉢							残存	[illegible]	体部			
162	P-5	9	土製	小皿		7.7			5.3			2				
162	P15	10	土製品	紡錘		2.2			7			0.6		7.5YR 6/6 橙	橙	
162	P15	11	金属	鏃	穿孔	1.1			0.6			0.2		2.12g		
162	P15	12	金属	刀	穿孔	3	穿孔		1.9					2.50g		
162	P15	13	金属	鏡鏡	穿孔	7								現11 小口径 0.3cm 口径部 0.2cm 8.45g		
162	P15	14	金属	鈴		1.6			3.7					5.09g		
162	P15	15	金属	板		3.3			0.65			0.1		黒色顕鏡 新寛永(1668年以降) 一文銭 5.48g		
162	現No.15	1	金属	鉄		2.2						0.14		十字 アルミ合金 [illegible] 4.5g 鉄 [illegible] [illegible] 1面 [illegible]		
162	現No.15	2	金属	ボタン			2		2.1			2.5		0.99g		
162	C9	1	石器	斧	穿孔	7.8	底穿		3.4			0.1		灰存	赤	
162	C9	2	天	半完成品	穿孔	8.4	穿孔		1.9			1.7		1区 [illegible] (二角形・天平)	赤	
162	現No.9		硬石	板		0.8	穿孔		3		残存	2.3				
162	C10		金属	鉄		2.35			0.9			0.1		寛永 [illegible] (1635年～1668年) 一文銭 [illegible]		
162	現No.C10		石製	剥	穿孔	2					残存	3.5		灰存	灰	
162	現No.C10	2	陶器	鉢		6.8					残存	1.5		灰存		
162	現No.C10	3	石製	丸							残存	1.3		多孔質(復元)		
162	現No.C10	4	石製	板状							残存	0.2	二穴部			
162	現No.C10	5	石製	打製品	穿孔	7.4	穿孔	4				1.1	石器～板部			
163	現No.C10	6	土製	小皿		8		5.7				1.4				
163	現No.C10	7	土製	焼成台		6.3		8				7.3				
163	現No.C10	8	瓦	陶器	穿孔	8.8	穿孔	19.2				1.8			赤	
163	G11	1	石製	板	穿孔	8.8	穿孔	3.8				5.1		灰存	灰	
163	G11	2	石製	板	穿孔	9.8	穿孔	3.7				4.8		灰存	灰	
163	G11	3	石製	板	穿孔	9.8		3.8				4.8		灰存	灰	
163	G11	4	石製	板	穿孔	7.2				穿孔		5		灰存	灰	
163	G11	5	石製	丸	穿孔	9.8	穿孔	6.9				2.3		灰存 二穴状況	灰	
163	G11	6	石製	板	穿孔	9	穿孔	3.8				4.3		灰存	灰	
163	G11	7	石製	板	穿孔	9.2		3.6				4.8		灰存	灰	
163	G11	8	石製	紡錘							残存	13.5		最大 径2.7cm 穴径	灰	
163	G11	9	石製	板	穿孔	9.5	穿孔	3.4				5.1		灰存	灰	
163	G11	10	石製	板	穿孔	9.7		3.4				4.9		灰存	灰	
163	G11	11	石製	板	穿孔	9.4	穿孔	3.6				5		灰存	灰	
163	G11	12	石製	板	穿孔	8.6	穿孔	2.9				3.6		灰存	灰	
163	G11	13	石製	板			穿孔	4.8			残存	3.3		灰存	灰	
163	G11	14	石製	板	穿孔	8.6					残存	5.1		灰存 剥片あり	灰	
164	G11	15	石製	板	穿孔	9.8	穿孔	3.6				4.7		灰存	灰	
164	G11	16	石製	板							残存	4.4		灰存	灰	
164	G11	17	石製	板	穿孔	9.2	穿孔	3.4				4.6		灰存	灰	
164	G11	18	石製	板	穿孔	9.8		3.4				4.6		灰存	灰	
164	G11	19	石製	板	穿孔	13					残存	4.1		灰存	灰	
164	G11	20	石製	板	穿孔	10.6					残存	5			灰	
164	G11	21	石製	板	穿孔	10.4	穿孔	3.4				4.5			灰	
164	G11	22	石製	板状	穿孔	3.2					残存	4.2		灰存	灰	
164	G11	23	石製	板	穿孔	8.6	穿孔	3				4.3			灰	
164	G11	24	石製	板	穿孔	10	穿孔	4				4.6			灰	
164	G11	25	石製	板	穿孔	9.8	穿孔	4				4.7			灰	
164	G11	26	石製	板	穿孔	10.2	穿孔	4				5.2			灰	
164	G11	27	石製	板	穿孔	9.5	穿孔	3.6				4.75		灰存	灰	
164	G11	28	石製	板	穿孔	10	穿孔	3.4				4.7		灰存	灰	
164	G11	29	石製	角状	穿孔	8.2	穿孔	3.8				2.5		灰存	灰	
164	G11	30	石製	板			穿孔	3			残存	1.9		灰存	灰	
164	G11	31	石製	板	穿孔	10	穿孔	3.4				4.5		灰存	灰	
164	G11	32	石製	板			穿孔	11			残存	1.9		灰存	灰	
164	G11	33	石製	板	穿孔	12					残存	3.5			灰	
164	G11	34	石製	板			穿孔	3.6			残存	6.5			灰	

図番号	遺構系	遺物番号	器種	器形	復元 残存	口径(cm)	復元 残存	底径(cm)	復元 残存	器高(cm)	胎土	特徴	特記事項	備考
164	G11	35	碗類	椀	復元	9.2	復元	3.4		4.6	密			
164	G11	36	碗類	椀	復元	10.4	復元	3.2		4.6	良			
164	G11	37	碗類	甲丸	復元	10	復元	3.2		2.1	密			
165	G11	38	碗類	外反	復元	8.2	復元	3.8		2.1	良	灰白		
165	G11	39	碗類	皿			復元	3.8	残存	4.2	良	灰白		
165	G11	40	碗類	皿			復元	6	残存	5.1	良	SBR/白		
165	G11	41	碗類	皿	復元	6.8	復元	3.6		1.7	良	灰白		
165	G11	42	碗類	平皿	復元	8	復元	4		1.7	良	灰白		
165	G11	43	碗類	台類	復元	8.8			残存	2.3	良	灰白		
165	G11	44	碗類	椀	復元	9.4			残存	8.1	良	灰白		
165	G11	45	碗類	皿					残存	3.9	良	灰白		
165	G11	46	碗類	皿			復元	3.6	残存	2.7	良	灰白		
165	G11	47	碗類	皿			復元	4	残存	2.8	良	灰白		
165	G11	48	碗類	椀			復元	3.4	残存	4.3	良	灰白		
165	G11	49	碗類	椀	復元	10		3.4		2.4	良	灰白		
165	G11	50	碗類	椀	復元	10			残存	2.7	良	灰白		
165	G11	51	碗類	椀	復元	9	復元	3.4		4.3	良	灰白		
165	G11	52	碗類	椀	復元	9.2	復元	3.4		4.4	良	灰白		
165	G11	53	碗類	碗	復元	11.2			残存	1.9				
165	G11	54	碗類	皿			復元	4.4	残存	3.1				
165	G11	55	碗類	皿	復元	10.4	復元	4		3.4				
165	G11	56	碗類	皿	復元	11	復元	6.4		2.5				
165	G11	57	碗類	碗	復元	8.6	復元	3.8		4				
165	G11	58	碗類	鉢類	復元	3.2			残存	5.0				
165	G11	59	碗類	椀	復元	6	復元	2.8		2.9				
165	G11	60	碗類	碗	復元	7	復元	3		4.9				
165	G11	61	碗類	碗	復元	9.18			残存	4.7				
165	G11	62	碗類	皿			復元	4	残存	3.2				
165	G11	63	碗類	椀			復元	3.2	残存	3.4				
166	G11	64	碗類	鉢	復元	4.3	復元	11.6		3.43	良	灰白		
166	G11	65	碗類	椀	復元	9.2	復元	3.6		4.7				
166	G11	66	碗類	椀	復元	10.4			残存	3.7	良	灰白		
166	G11	67	碗類	碗類	復元	3.4			残存	3.5	良	灰白	青磁	
166	G11	68	碗類	椀	復元	7			残存	4	良	灰白		
166	G11	69	碗類	椀	復元	9			残存	4.2	良	灰白		
166	G11	70	碗類	碗	復元	9.6	復元	3.6		5.1	良	灰白		
166	G11	71	碗類	碗	復元	3.4		8.8		2.9	良	灰白		
166	G11	72	碗類	碗	復元	9.6			残存	3.3	良	灰白		
166	G11	73	碗類	碗	復元	8.2	復元	3.6		4	良	灰白		
166	G11	74	碗類	椀	復元	12	復元	4.4		3.9	良	灰白		
166	G11	75	碗類	仏飯器	復元	6.6		2.2		2.6	良	灰白		
166	G11	76	碗類	皿			復元	5.7	残存	3.1	良	灰白		
166	G11	77	碗類	皿			復元	3.6	残存	3.2	良	灰白		
166	G11	78	碗類	碗	復元	9.6	復元	3.4		4.7				
166	G11	79	碗類	碗	復元	9			残存	3.9				
166	G11	80	碗類	皿	復元	3.8			残存	2				
166	G11	81	碗類	椀	復元	9.8	復元	3.6		4.8				
166	G11	82	碗類	椀	復元	10	復元	4.4		4.9				
166	G11	83	碗類	椀	復元	8.6			残存	2.7				
166	G11	84	碗類	碗			復元	3.4	残存	3.6	良	灰白		
166	G11	85	碗類	碗	復元	8.8	復元	3.4		4.65	良	灰白		
166	G11	86	碗類	碗	復元	9.8	復元			4.6	良	灰白		
167	G11	87	碗類	碗	復元	9.8	復元	3.4		4.6	良	灰白		
167	G11	88	碗類	碗	復元	9	復元	3.6		4.5	良	灰白		
167	G11	89	碗類	石臼					残存	8.5	良	灰白		
167	G11	90	碗類	小鉢				2.2	残存	1.8	良	灰白		
167	G11	91	碗類	皿			復元	3.8	残存	1.2	良	灰白		
167	G11	92	碗類	椀			復元	4.1	残存	4.5	良	灰白		
167	G11	93	碗類	皿	復元	9.6	復元	3.3		4.8	良	灰白		
167	G11	94	碗類	皿	復元	14	復元	9.4		2.4	良	灰白		
167	G11	95	碗類	碗	復元	9.8	復元	3.4		4.9	良	灰白		
167	G11	96	碗類	碗	復元	9.35		3.3		4.7	良	灰白	三足(口縁がすぼむ感じ)	
167	G11	97	碗類	椀	復元	7.8	復元	2.8		4.5	良	灰白		
167	G11	98	碗類	椀	復元	10			残存	3.9	良	灰白		

図件名	遺構名	遺物番号	器種	形制	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	接合痕跡	脚上	備考
167	G11	99	鉢類	椀	復元	9.2			残存	3.6		灰白	要	
167	G11	100	鉢類	椀底	復元	6		2.3		2.7		灰白	要	
167	G11	101	鉢類	椀	復元	10	復元	5.4		3.1		灰白	要	
167	G11	102	鉢類	椀	復元	9.2	復元	3.6		4.5			要	
167	G11	103	鉢類	椀	復元	9.6	復元	3.4		4.7			要	
167	G11	104	鉢類	椀	復元	9.8			残存	4			要	
167	G11	105	鉢類	椀			復元	4	残存	2.7			要	
167	G11	106	鉢類	椀	復元	9.4	復元	3.4		4.6			要	
167	G11	107	鉢類	椀	復元	9.2	復元	3.6		4.6		灰白	要	
167	G11	108	鉢類	椀	復元	10			残存	3.9		灰白	要	
167	G11	109	鉢類	椀	復元	9	復元	3.6		5.8		灰白	要	
167	G11	110	鉢類	椀	復元	11	復元	5.4		3.3		灰白	要	
167	G11	111	鉢類	椀	復元	7	復元	3.2		4.5		灰白	要	
167	G11	112	鉢類	椀	復元	9	復元	3.2		4.3		灰白	要	
168	G11	113	鉢類	鉢	復元	3.7	復元	9.2		2.9			要	
168	G11	114	鉢類	椀	復元	10	復元	3.6		5.1			要	
168	G11	115	鉢類	椀	復元	3.8	復元	9.4		2.8			要	
168	G11	116	鉢類	椀	復元	9.2	復元	3.6		4.6			要	
168	G11	117	鉢類	椀	復元	10.6	復元	4		3			要	
168	G11	118	鉢類	椀	復元	8.6			残存	3.4			要	
168	G11	119	鉢類	椀	復元	9.6	復元	3.4		3		灰白	要	
168	G11	120	鉢類	小鉢	残存	6.1	残存	7.4	残存	2.3		灰白	要	
168	G11	121	鉢類	椀			残存	4	残存	3.9		灰白	要	
168	G11	122	鉢類	小鉢	残存	6.9	残存	4.8	残存	2.4		灰白	要	
168	G11	123	鉢類	鉢	復元	10			復元	4.5		灰白	要	
168	G11	124	鉢類	鉢類	復元	2.2			残存	3.3			要	
168	G11	125	鉢類	中鉢	復元	14	復元	8.6		3.9			要	
168	G11	126	鉢類	中鉢	復元	11.6	復元	5.6		3.1			要	
168	G11	127	鉢類	鉢			復元	4.6	残存	2.7			要	
168	G11	128	鉢類	中鉢			復元	7	残存	2.7			要	
168	G11	129	鉢類	椀			復元	4	残存	4			要	
168	G11	130	鉢類	椀	復元	9.8	復元	3.8		5.2			要	
168	G11	131	鉢類	椀			復元	4.8	残存	2			要	
168	G11	132	鉢類	鉢	復元	8.6	復元	7.4	残存	1.8			要	
168	G11	133	鉢類	椀	復元	9.6	復元	4		4.6			要	
168	G11	134	鉢類	椀	復元	9.2	復元	3.4		5			要	
168	G11	135	鉢類	椀	復元	9.8			残存	5.8			要	
168	G11	136	鉢類	椀				8						
168	G11	137	鉢類	鉢				10.6		6.8				
168	G11	138	鉢類	椀				9.4						
168	G11	139	鉢類	椀				4						
169	G11	140	鉢類	鉢				18			体部～底部			
169	G11	141	鉢類	上鉢							底り			
169	G11	142	鉢類	鉢		8.2				8				
169	G11	143	鉢類	鉢	復元	15			残存	3				
169	G11	144	鉢類	刻み鉢		17		4.8		1.9				
169	G11	145	鉢類	鉢		9.6				2.5				
169	G11	146	鉢類	鉢		9.7		8		3.2				
169	G11	147	鉢類	鉢						1.3				
169	G11	148	鉢類	一括		8.2			残存	6	口縁～体部			
169	G11	149	鉢類	鉢				10		1.7				
169	G11	150	鉢類	鉢				8		1.5				
169	G11	151	鉢類	鉢	つまみ	4.8	受部	13.4		2.5	つまみ部～受部			
169	G11	152	鉢類	鉢		9		7.5		2.4				
169	G11	153	鉢類	鉢		9.6		7.4		3				
169	G11	154	鉢類	上鉢		8.6				2.1				
169	G11	155	鉢類	火鉢		14				9				
169	G11	156	鉢類	鉢		13		10		1.7				
169	G11	157	鉢類	鉢		11		8.8		1.9				
169	G11	158	鉢類	不明受部		10				1.8				
169	G11	159	鉢類	鉢		24				5.5	上部			
169	G11	160	鉢類	鉢		9.2								
169	G11	161	鉢類	鉢		32				4				
169	G11	162	鉢類	鉢				18		3.6				

区	遺構名	遺物番号	器種	部位	現状残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	現状残存	器高(厚)	型式	観察所見	砂土	備考
169	G11	165	陶器	頸部						8				
170	G11	164	陶器	土瓶						4.7	注口			
170	G11	165	陶器	肩				11		8.2				
170	G11	166	陶器	上瓶		9				4.7				
170	G11	167	陶器	蓋				4						
170	G11	168	陶器	徳		8.7				2.2	つまみ部～受部			
170	G11	169	陶器	碗		23.8			残存	7.5	口縁			
170	G11	170	陶器	皿		9.6				2.4	つまみ部～受部			
170	G11	171	陶器	小瓶		6.5			残存	3.5	口縁～体部			
170	G11	172	陶器	鉢					残存	5.1	口縁			
170	G11	173	陶器	十器		13.9			残存	5.7	口縁～体部			
170	G11	174	陶器	蓋		15.3			残存	3	受部			
170	G11	175	陶器	小皿		9.5		4		2.4	口縁の底部			
170	G11	176	陶器	十器							底コ			
170	G11	177	陶器	上瓶							底コ			
170	G11	178	陶器	鉢		16		9.6		10.8				
170	G11	179	陶器	鉢		12.2					口縁～体部			
170	G11	180	陶器	土瓶	残存	5.8	残存	3.7			肩コ			
170	G11	181	陶器	瓶				4.8			体部～底部			
170	G11	182	陶器	瓶				7.6			底部			
170	G11	183	陶器	瓶				7.2			体部～底部			
170	G11	184	陶器	上瓶						7.2				
170	G11	185	陶器	蓋		10.8				2.6	つまみ部～受部			
170	G11	186	陶器	十器							肩コ			
170	G11	187	陶器	上瓶		4					注口	残存 長5×幅3.8		
170	G11	188	陶器	碗				9.5		14				
171	G11	189	陶器	皿		7.2		2.9		2.8	つまみ部～受部			
171	G11	190	陶器	二器				6.4	残存	9.1	体部			
171	G11	191	陶器	碗				7.2						
171	G11	192	陶器	二器		8		6.8		8.3				
171	G11	193	陶器	二器		8.6				8.4				
171	G11	194	陶器	二器			残存	3.9	残存	7.5	肩口			
171	G11	195	陶器	二器			残存	4.4	残存	6	肩口			
171	G11	196	陶器	二器							注口			
171	G11	197	陶器	蓋		22								
171	G11	198	陶器	二器	残存	6	残存	3			肩口			
171	G11	199	陶器	碗		24				5.7				
171	G11	200	陶器	碗		11.8		4.8		2.4				
171	G11	201	陶器	皿		8		3		2.6				
171	G11	202	陶器	皿				8						
171	G11	203	陶器	皿				7.4						
171	G11	204	陶器	皿				5.4						
171	G11	205	陶器	招碗					残存	7.3				
171	G11	206	陶器	蓋				10.2						
171	G11	207	陶器	碗				5.4						
171	G11	208	陶器	十器		9.7		7.3		9.7	口縁～底部			
171	G11	209	陶器	碗		23.8								
171	G11	210	陶器	碗				4.2		6.1				
171	G11	211	陶器	碗				3.6	残存	3.4	底部			
171	G11	212	陶器	十器							肩部			
172	G11	213	陶器	碗							底部			
172	G11	214	陶器	上器							底コ			
172	G11	215	陶器	碗		14.2			残存	4.9				
172	G11	216	陶器	十器						4.2	底コ			
172	G11	217	陶器	碗						1.2				
172	G11	218	陶器	蓋				9.8		1.6				
172	G11	219	陶器	碗		6		6		1.8				
172	G11	220	陶器	十器		8				2.9	口縁部			
172	G11	221	陶器	碗				9		3.4				
172	G11	222	陶器	碗				8.8		1.8				
172	G11	223	陶器	碗				4	残存	3.2	底部			
172	G11	224	陶器	碗		9.6		3.6		4.8				
172	G11	225	陶器	皿		9.6		4		1.9				
172	G11	226	陶器	皿		13.2		9		1.8				

図版番号	遺構番号	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	調整・所見	出土	備考
172	G11	227	陶器	皿		9.1		6.4		2.9				
172	G11	228	陶器	皿		21.2				4.3				
172	G11	229	陶器	上瓶		12.6				3.2				
172	G11	230	陶器	鉢				9		2.5	高部			
172	G11	231	陶器	鉢		10.6		4		5.35				
172	G11	232	陶器	皿								内面に墨書有り		
172	G11	233	陶器	擂鉢						3.6	上部			
172	G11	234	陶器	皿		8		3.9		1.5		つまみ等無		
172	G11	235	磁器	鉢						3				
172	G11	236	磁器	碗		6.6		5		3.6				
172	G11	237	磁器	皿		7.4		4.6		2.6				
172	G11	238	磁器	擂鉢						8				
172	G11	239	磁器	蓋						5				
172	G11	240	陶器	擂鉢				14		1.8				
172	G11	241	陶器	碗						4.6	上部			
172	G11	242	陶器	皿		8.6		6.6		1.3				
172	G11	243	陶器	碗				4.2		1.7	底部			
172	G11	244	陶器	碗				4.2		1.3		底部墨書		
172	G11	245	陶器	土瓶				6.6	残存	2.2	底部	墨書有り		
172	G11	246	陶器	皿					残存	3.5				
172	G11	247	磁器	碗				2.6	残存	2.5	底部	焼台痕跡		
172	G11	248	磁器	碗				3.5	残存	1	底部	墨書有り		
172	G11	249	陶器	鉢		23.6								
173	G11	250	陶器	鉢		13.5		8.9		19				
173	G11	251	陶器	ロクロ目残				2.2		4.2		厚さ:0.7		
173	G11	252	土器	人面		20.6		16		3.6				
173	G11	253	土器	七輪		9		16		2.2	内石			
173	G11	254	土器	砂鉢		38				4.9				
173	G11	255	土器	鉢					残存	6.1				
173	G11	256	土器	七輪						7.6		火鉢・焜炉・皿		
173	G11	257	土器	鍋		15.4		14.9		3		口内黒鉛塗		
173	G11	258	土器	火鉢脚						6.2		火鉢脚		
173	G11	259	石製品	石臼	残存	2.9	残存	0.6				10YR 8/3 浅黄橙 1.22g		
173	G11	260	石製品	石臼	残存	4.2	残存	0.5				上面 10Y 2/1 黒 左 10Y 8/1 灰白 1.34g		
173	G11	261	石製品	石臼	残存	2.2	残存	0.6				10YR 6/3 浅黄橙 0.83g		
173	G11	262	石製品	不明	残存	2.5	残存	1.7		0.9		5 5/ 灰 文字あり 内石 5.12g	内	
173	G11	263	土製品	瓦玉		2		1.9		0.6		7.5YR 6/8 橙	内	
173	G11	264	土製品	瓦石		2		2		0.6		7.5YR 6/6 橙	内	
173	G11	265	土製品	瓦石		2	残存	0.9		0.65		7.5YR 6/6 橙	内	
173	G11	266	金属	刀	残存	2	残存	2				1.46g		
173	G11	267	金属	鉄釘	残存	4.9	残存	8.4				13.06g		
173	G11	268	金属	鉄	残存	2.4	残存	0.7				0.46g		
174	G11	269	金属	銭		2.35		0.6		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 無鑑		
174	G11	270	金属	銭		2.2		1.65		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 無鑑 1.85g		
174	G11	271	金属	銭		2.7		0.75		0.1		文久永宝(1863年~1889年) 當十 銭 無鑑 四文銭 4.03g		
174	G11	272	金属	銭		2.4		0.6		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 無鑑 2.97g		
174	G11	273	金属	銭		2.4		0.55		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 無鑑 2.89g		
174	G11	274	瓦	丸瓦	残存	5	残存	6.6		1.4		刻印痕跡(一角の一文字)	表	
174	G11	275	瓦	桟瓦	残存	15.2	残存	9.2		3.2		刻印痕跡(三角の三文字)	表	
174	G11	276	瓦	軒先瓦	残存	29.7		38.4		1.8		三巴 鼻部 刻印痕跡(文字 文字)	中央部	
174	G11	277	瓦	袖瓦		35.2	残存	17.8		1.7		刻印痕跡(ネ[illegible])	中央部	
174	G11	278	瓦	左鬼面瓦		15	残存	10.9		1.3			表	
174	G11	279	瓦	軒先瓦 角	残存	13.6	残存	7.9		2.3		三巴痕跡	表	
174	G11	280	瓦	軒先瓦 角	残存	7.8	残存	13.2		2.4			表	
175	復元G11	1	陶器	碗	復元	10.4	復元	4.3		6.7		コ種一底部		
175	G12	1	磁器	碗	復元	8.8			残存	3.4		灰白	表	
175	G12	2	磁器	皿	復元	11.6	復元	6		2.6		灰白	表	
175	G12	3	磁器	鉢			復元	4.8	残存	4.3		灰白	表	
175	G12	4	磁器	碗	復元	8	復元	3.8		1		灰白	表	
175	G12	5	磁器	碗	復元	8	復元	4		4.2		灰白	表	
175	G12	6	磁器	碗	復元	7			残存	5.3		灰白	表	
175	G12	7	磁器	碗			復元	4	残存	3.8		灰白	表	
175	G12	8	磁器	碗	復元	10	復元	5	残存	4.7		灰白	表	
175	G12	9	磁器	碗	復元	9.6	復元	3.6		5		灰白	表	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	変形	口径(高)	底径(幅)	器高(厚)	残存	重量(g)	部位	胎土・焼成・色調	新上	備考
175	G12	20	壺胴	底		復元	6.4	残存		4.8		灰白	密	
175	G12	11	壺胴	胴		復元	3.8	残存		1.4		灰白	密	
175	G12	12	壺胴	胴	復元	9.6	復元	3		4.8		灰白	密	
175	G12	13	壺胴	胴	復元	9.6	復元	3.2		4.5		灰白	密	
175	G12	14	壺胴	胴	復元	8.6	復元	3.2		4.3		灰白 (白粒・白粒)	密	
175	G12	15	壺胴	胴	復元	9.8	復元	3.6		4.8		灰白	密	
175	G12	16	壺胴	胴	復元	8.8			残存	4.5		灰白	密	
175	G12	17	壺胴	胴	復元	10	復元	3.6		5		灰白	密	
175	G12	18	壺胴	肩	復元	8.6	復元	2.4		2.6		灰白	密	
175	G12	19	壺胴	胴	復元	7	復元	3.4		4.7		灰白	密	
175	G12	20	壺胴	胴			復元	3.6	残存	2.9		灰白	密	
175	G12	21	壺胴	胴	復元	10.4			残存	3.7		灰白	密	
175	G12	22	壺胴	胴	復元	9.4		3.6		4.9		灰白	密	
175	G12	23	壺胴	胴	復元	9.4		3.6		4.7		灰白	密	
176	G12	24	壺胴	胴					残存	4.1		灰白	密	
176	G12	25	壺底	平底			復元	5.8	残存	7.3		灰白	密	
176	G12	26	壺胴	肩		3.4				2.4		灰白	密	
176	G12	27	壺胴	胴	復元	10	復元	3.4		4.8		灰白	密	
176	G12	28	胴部	肩		9.6		7.2		2.4		赤色にブンずさの記様あり		
176	G12	29	胴部	肩		10				2				
176	G12	30	胴部	肩		8.6		6.2		1.4				
176	G12	31	胴部	肩胴		10.2				1.6				
176	G12	32	胴部	底				7.8		2.8				
176	G12	33	胴部	十底						3.6				
176	G12	34	胴部	脚		8.4				6.6				
176	G12	35	胴部	底				6.6		7.8				
176	G12	36	胴部	脚						2.4				
176	G12	37	胴部	肩		8.8				2.2				
176	G12	38	胴部	肩		11.2		8.4		1.9				
176	G12	39	胴部	十底						5.2	底口	沒様あり(白線)		
176	G12	40	胴部	土底						6.2	底 1			
176	G12	41	胴部	胴				9		3.6				
176	G12	42	胴部	上胴							底口	底脚		
176	G12	43	胴部	脚		10.2					口縁部	外面胴脚・段付有り		
176	G12	44	胴部	上胴							肩1	面取・段付有り		
176	G12	45	胴部	肩		9.2					口縁～体部	重孔有り		
176	G12	46	胴部	上胴		8					口縁部			
176	G12	47	胴部	脚部							胴部			
176	G12	48	十器	小皿		9.4		7.8		2				
176	G12	49	十器	仏ポ		17.6								
176	G12	50	土器	カマド							底部			
177	G12	51	石製品	錘	残存	5.8	残存	3.8		1		N1.5/ 黒色 35.23g		
177	G12	52	石製品	錘	残存	3.3	残存	2.2		0.7		N1.51 黒色 乳 10YR 6/8 褐色 36.23g		
177	G12	53	土製品	基円		2	残存	1.7		0.65		7.5YR 6/6 橙	密	
177	G12	54	金属	鉄丸		2.6		1.4				36.13g		
177	G12	55	金属	鉄丸		2.6		1.4				35.4g		
177	G12	56	金属	釘状	残存	3.7						軸 小口径 0.9cm 口付径 0.3cm 1.54g		
177	G12	57	金属	釘	残存	3.2	残存	1.1				1.24g		
177	G12	58	瓦	瓦転用砥石	残存	7.3	残存	5.8		1.9		砥石	密	
177	G12	59	瓦	瓦転用砥石	残存	4	残存	4.2		2		砥石	密	
177	G12	60	瓦	瓦転用砥石	残存	5.7	残存	5.2		2		砥石 (ムは丸型)	密	
177	G14	1	鉢胴	鉢胴	復元	9.6			残存	5			密	
177	G14	2	鉢胴	底	復元	10			残存	2.3		灰白	密	
177	G14	3	鉢胴	底			復元	4.6	残存	3		灰白	密	
177	G14	4	胴部	肩					残存	1.8	つまみ部			
177	G14	5	胴部	脚部					残存	5.2	底部			
177	G14	6	土製品	赤石		1.9		1.8		0.65		7.5YR 6/6 橙	密	
177	G14	7	土製品	赤石		2.1		1.9		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
177	G14	8	土製品	赤石		2		2		0.65		7.5YR 6/6 橙	密	
177	G14	9	金属	鉄釘	残存	1.9						頭有 火箸径 .5cm 小口径 0.7cm 2.38g(中の中心穴有り)		
177	G14	10	金属	釘	残存	4	残存	0.4				釘 1.81g		
177	G15	1	鉢胴	鉢			復元	3.4		4.1		灰白	密	
177	G15	2	鉢胴	底					残存	1.2		灰白	密	
177	G15	3	胴部	脚部			6.4		残存	2.7	底部			

図番号	遺物番号	遺構番号	器種	部位	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	層位	観察所見	胎土	備考
177	G15	4	陶器	腰部					残存	5.7	二段堀			
178	G15	5	土器	小破片				15		19.2				
178	G15	6	上製品	滑石		2.15		2.15		0.65		7.5YR 6/6 橙	良	
178	G15	7	上製品	滑石		2		1.95		0.6		7.5YR 6/6 橙	良	
178	G15	8	金属	不明	残存	5.6		0.18				1.17g		
178	G15	9	金属	銭		2.4		0.6		0.1		黒色銹化 新寛永(1668年以降) 一文銭 重量 3.07g		
178	表見G15	1	瓦器	鍋			完元	4	残存	2.9		灰白	密	
178	表見G15	2	瓦器	レンゲ	残存	6.5	残存	4.6	残存	3		灰白		
178	表見G15	3	陶器	鉢					残存	4.3		内面墨書有り		
178	表見G15	4	土器	片口鉢脚				4.5	残存	4.4				
178	表見G15	5	金属	滑車	残存	6.9						重量 小穴径 1.1cm 山付幅 0.7cm 11.21g		
178	H5	1	瓦器	鍋底				2.6	残存	1.3		灰白	密	
178	H5	2	瓦器	小皿	残存	4.6	残存	1.4	残存	1.4		灰白	密	
178	H5	3	一般	鼎		6.6		5.4		1.7				
178	H7	1	瓦器	鍋	復元	5.6	復元	2.8		2.7		灰白	密	
178	H7	2	瓦器	鍋	復元	8.8	復元	3.6		4.8		灰白	密	
178	H7	3	陶器	鉢		5.6				2.9		底部墨書有り		
178	H7	4	土器	皿		8.9		6		2.7				
178	H7	5	上製品	滑石		1.9		1.9		0.3		7.5YR 6/6 橙	密	
178	H7	6	上製品	滑石		1.8		1.85		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
178	H7	7	上製品	滑石		2		1.9		0.7		7.5YR 6/6 橙	良	
178	H7	8	丸	軒平丸瓦	残存	4.7	残存	9.2		2.8			良	
178	H7	9	瓦	唐草	残存	11.6	残存	11.3		2.3			密	
179	H7	10	瓦	鬼瓦	復元	17.6	残存	15.2		3.2			やや粗	
179	H7	11	丸	平丸		27.1	残存	13.2		1.9			密	
179	H7	12	丸	平丸		29.7	残存	14.3		2.6			やや粗	
179	H8	1	瓦器	鍋	復元	9			残存	3.7		灰白	密	
179	H8	2	瓦器	鍋	復元	9.6			残存	4.8		灰白	密	
179	H8	3	瓦器	鍋	復元	6.8	復元	3.6		5.1		灰白	密	
179	H8	4	瓦器	鍋	復元	8.4	復元	3.6		4.1		灰白	密	
179	H8	5	瓦器	鍋	復元	9	復元	3.6		4.6		灰白	密	
179	H8	6	瓦器	鍋	復元	8			残存	4.9		灰白	密	
179	H8	7	瓦器	鍋			復元	5.4	残存	3.3		灰白	密	
179	H8	8	瓦器	小皿		2.7		2.4		0.7		胎土 10G5/1	密	
179	H8	9	瓦器	鍋	復元	6.8	復元	3.2		5		鍋	密	
179	H8	10	瓦器	皿			復元	3.8	残存	1.3		内面ヨコ	密	
179	H8	11	瓦器	鍋	復元	9.6			残存	4.5			密	
179	H8	12	瓦器	鍋	復元	7.4			残存	3.9			密	
179	H8	13	瓦器	鍋	復元	9.6			残存	3.9			密	
179	H8	14	瓦器	鍋	復元	13			残存	3.6		二段堀状	密	
179	H8	15	瓦器	鉢入れ	残存	6.6			残存	3.2		灰白	密	
179	H8	16	瓦器	鍋					残存	1.9			密	
179	H8	17	陶器	鉢		8.6			残存	3.9	二段堀			
179	H8	18	陶器	壺頸				4.4	残存	6	住居一括遺	底部墨書有り		
179	H8	19	陶器	江戸焼		7.3		3		1.2	上層～住居			
179	H8	20	陶器	皿				3.2	残存	3.1	底部			
179	H8	21	陶器	鉢		8		6		4.3	上層～住居			
179	H8	22	陶器	十徳				8.8		2.2				
179	H8	23	陶器	皿		5.8				1.6				
179	H8	24	陶器	皿				16		1.9				
179	H8	25	陶器	蓋		4.2				4.8				
179	H8	26	陶器	鉢				3.4		3.1				
180	H8	27	石一	砥	残存	2.3		1.2				2.84g		
180	H8	28	石製品	滑石		9.1		5.2		3.8		SY 8/1 灰白 226.34G		
180	H8	29	石製品	滑石		2.2		2.2		0.1		N 1.51 黒色 3.17g		
180	H8	30	上製品	凝石		2		1.8		0.7		7.5YR 6/6 橙	密	
180	H8	31	上製品	滑石		1.85		1.8		0.65		7.5YR 6/6 橙	密	
180	H8	32	上製品	凝石		2.1	残存	1.8		0.7		7.5YR 6/6 橙	密	
180	H8	33	上製品	滑石		2.1		1.9		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
180	H8	34	上製品	滑石		2.1		1.9		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
180	H8	35	上製品	凝石		1.9	残存	1.75		0.7		7.5YR 6/6 橙	密	
180	H8	36	上製品	凝石		2		1.8		0.55		7.5YR 6/6 橙	密	
180	H8	37	上製品	滑石		1.8		1.8		0.7		7.5YR 6/6 橙	密	
180	H8	38	上製品	凝石		2		1.7		0.7		7.5YR 6/6 橙	密	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	胎土・色調・焼成・特徴	加工	備考
180	H8	39	金属	鉄	残存	3.2	残存	0.9		0.2		0.98g		
180	H8	40	金属	鉄		2.4		0.03		0.1		電水滴化 刑資水(.668年以降) 一文銭 銅銭 2.41g	研磨	
180	H8	41	瓦	平瓦		25.8	残存	15.8		1.8		灰白	研磨	
180	H9	1	磁器	碗	復元	8.8	復元	5.8		7.5				
180	H9	2	陶器	鉄平鉢				6		7.4				
180	H9	3	陶器	鉢						2.8				
180	H9	4	陶器	鉢		6.8		4.1		2.7		磁器系釉		
180	H9	5	瓦	平瓦		25.8	残存	15.2		2			中中研磨	
181	H9	6	瓦	軒丸	残存	25.8	残存	13.3		2		三巴連弧	研磨	
181	H10	1	磁器	碗	復元	7.4			残存	5		灰白	研磨	
181	H10	2	磁器	碗	残元	9	復元	3.6		4.6		灰白	研磨	
181	H10	3	土製品	鞠玉		2	残存	1.9		0.6		7.5YR 6/6 橙	研磨	
181	H10	4	金属	銭		2.2		0.6		0.1		電水滴化 文銭 文銭 銅銭 1.98g		
181	H10	5	金属	鉄釘	残存	6.7						錆し 小小形 0.8cm 口付径 0.3cm 10.07g		
181	焼土H10	1	磁器	碗	復元	9.4	復元	3.2		4.3		灰白	研磨	
181	焼土H10	2	磁器	碗	復元	10.4	復元	3.2		4.7		灰白	研磨	
181	焼土H10	3	土製品	鞠玉		1.9		2		0.6		5YR 6/6 橙	研磨	
182	H11	1	磁器	碗	復元	8.8		3.8		4.3		灰白 コ焼焼・口縁	研磨	
182	H11	2	磁器	碗			復元	3.2	残存	2.9		灰白	研磨	
182	H11	3	磁器	碗			復元	9.4		3.7		灰白	研磨	
182	H11	4	磁器	碗	復元	9.2			残存	3.2		灰白	研磨	
182	H11	5	磁器	皿			復元	3.4	残存	2.1		灰白	研磨	
182	H11	6	磁器	碗	復元	9.2	復元	3.2		6		灰白	研磨	
182	H11	7	磁器	碗	復元	9.4	復元	3.6		4.6		灰白	研磨	
182	H11	8	磁器	碗	復元	9.2	復元	3.8		4.3		灰白	研磨	
182	H11	9	磁器	碗	復元	9.8	復元	3.3		4.9		灰白 型縁あり	研磨	
182	H11	10	磁器	碗	復元	9			残存	2.6		灰白	研磨	
182	H11	11	磁器	碗	復元	9.4	復元	4		4.5		灰白	研磨	
182	H11	12	磁器	碗	残元	9	復元	3.6		5		灰白	研磨	
182	H11	13	磁器	碗			復元	3.6	残存	2.6		灰白 油調あり	研磨	
182	H11	14	磁器	碗	復元	10	復元	3.6		2.6		灰白 口縁波状	研磨	
182	H11	15	磁器	皿			残元	3.1		1.6		灰白	研磨	
182	H11	16	磁器	皿			復元	3.5	残存	4.3		灰白	研磨	
183	H11	17	磁器	碗			復元	8.2	残存	4.3		灰白	研磨	
183	H11	18	磁器	碗	復元	8	復元	5		3.9		灰白	研磨	
183	H11	19	磁器	碗	復元	7.8			残存	4.5		灰白	研磨	
183	H11	20	磁器	碗	復元	9.6			残存	5		灰白	研磨	
183	H11	21	磁器	碗	復元	3.4			残存	1.7		灰白	研磨	
183	H11	22	磁器	碗	復元	11.2			残存	5.2		灰白	研磨	
183	H11	23	磁器	碗	復元	8.4	復元	4.8		4.5		灰白	研磨	
183	H11	24	磁器	碗	復元	9.2	復元	4		4.4		灰白	研磨	
183	H11	25	磁器	碗	復元	7.8			残存	4.2		灰白	研磨	
183	H11	26	磁器	碗	復元	9.6	復元	3.4		5		灰白	研磨	
183	H11	27	磁器	碗	復元	9.8	復元	4		5		灰白	研磨	
184	H11	28	磁器	碗	復元	8.4			残存	3.1		輪花碗	研磨	
184	H11	29	磁器	碗	復元	7.6			残存	4.3		灰白	研磨	
184	H11	30	磁器	碗	復元	9.2	復元	3.8		4.7		灰白	研磨	
184	H11	31	磁器	碗	復元	9.8	復元	3.2		5		灰白	研磨	
184	H11	32	磁器	碗	復元	9.6	復元	3.8		5.1		灰白	研磨	
184	H11	33	磁器	碗			復元	3.6	残存	2.8		灰白	研磨	
184	H11	34	磁器	碗	復元	8.8			残存	4		灰白	研磨	
184	H11	35	磁器	碗	復元	10			残存	4.2		灰白	研磨	
184	H11	36	磁器	碗			復元	3.4	残存	3.6		灰白	研磨	
184	H11	37	磁器	香炉	残存	8.6	残存	7	残存	10.9		灰白	研磨	
184	H11	38	磁器	碗	復元	11.2			残存	4.7		灰白	研磨	
184	H11	39	磁器	皿			復元	5	残存	1.9		灰白	研磨	
184	H11	40	磁器	碗			復元	4.1	残存	3.6		灰白	研磨	
184	H11	41	磁器	壺					残存	7.1		灰白	研磨	
184	H11	42	磁器	碗	復元	6.4	復元	3		3.2		灰白 色調あり	研磨	
184	H11	43	磁器	小杯	復元	5.8	復元	2.4		2.5		灰白	研磨	
184	H11	44	磁器	皿	復元	13.6	復元	7		2.3		灰白 口縁波状	研磨	
184	H11	45	磁器	碗	復元	8	復元	4.9		6.4		灰白	研磨	
185	H11	46	磁器	碗	復元	8.2	復元	4		4.2		灰白	研磨	
185	H11	47	磁器	碗	復元	5	復元	2.6		3.3		灰白	研磨	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元 残存	口径(長)	復元 残存	底径(幅)	復元 残存	器高(厚)	図位	観察所見	胎土	備考
185	H11	46	磨製	斧	復元	9.2	復元	3.8		3		灰白	密	
185	H11	49	磨製	斧	復元	8	復元	4.4		2.5		灰白	密	
185	H11	50	磨製	斧	復元	7.2			残存	2.5		灰白	密	
185	H11	51	磨製	斧	復元	3.4	復元	9		2.5		灰白	密	
185	H11	52	磨製	斧	復元	9.2			残存	3.6		灰白	密	
185	H11	53	磨製	斧			復元	5.8	残存	3.6		灰白	密	
185	H11	54	磨製	斧	復元	8.8	復元	3.8		4.5		灰白	密	
185	H11	55	磨製	斧	復元	9.8			残存	4.5		灰白	密	
185	H11	56	磨製	斧	復元	7.8			残存	3.9		灰白	密	
185	H11	57	磨製	斧	復元	9.4			残存	4.2		灰白	密	
185	H11	58	磨製	斧	復元	9	復元	3.4		4.2		灰白	密	
185	H11	59	磨製	斧	復元	10	復元	5.8		3.9		灰白	密	刃部破損
185	H11	60	磨製	斧	復元	9.2	復元	3.4		4.3		灰白	密	
185	H11	61	磨製	斧	復元	8.6	復元	3.4		4.7		灰白	密	
185	H11	62	磨製	斧	復元	9.4	復元	3.4		4.7		灰白	密	
185	H11	63	磨製	斧	復元	9			残存	4.4		灰白	密	
185	H11	64	磨製	斧	復元	10			残存	3.3		灰白	密	
185	H11	65	磨製	斧	復元	8.8			残存	4.2		灰白	密	
186	H11	66	磨製	斧	復元	9	復元	4		4.7		灰白	密	
186	H11	67	磨製	斧	復元	8			残存	5.4		灰白	密	
186	H11	68	磨製	斧	復元	12			残存	3.3		灰白	密	
186	H11	69	磨製	斧	復元	9.8	復元	3.6		4.7		灰白	密	
186	H11	70	磨製	斧	復元	3	復元	10.3		2.4		灰白	密	
186	H11	71	磨製	斧			復元	3.9	残存	3.5		灰白	密	刃部 角分析・蛍光分析
186	H11	72	磨製	斧	復元	9.2	復元	3.6		5		灰白	密	
186	H11	73	磨製	斧	復元	10.4	復元	3.9		4.7		灰白	密	
186	H11	74	磨製	斧	復元	10	復元	5.8		5.5		灰白	密	
186	H11	75	磨製	斧	復元	9.4	復元	3.5		4.4		灰白	密	
186	H11	76	磨製	斧			復元	4.2	残存	2.9		灰白	密	
186	H11	77	磨製	斧			復元	3.9	残存	4.5		灰白	密	
186	H11	78	磨製	斧	復元	7.4			残存	4.2		灰白	密	
186	H11	79	磨製	斧	復元	6.6	復元	3		4.8		灰白	密	
186	H11	80	磨製	斧	復元	17			残存	3		灰白	密	
187	H11	81	磨製	小斧	復元	6.2	復元	2.2		2.6		灰白	密	
187	H11	82	磨製	石	復元	10.2	復元	3.8		2.6		灰白	密	
187	H11	83	磨製	石	復元	10.2	復元	6		1.7		灰白	密	
187	H11	84	磨製	斧	復元	9.8	復元	3.8		4.7		灰白	密	
187	H11	85	磨製	斧	復元	4.2	復元	9		2		灰白	密	
187	H11	86	磨製	斧	復元	9			残存	3		灰白	密	
187	H11	87	磨製	斧	復元	9.4			残存	3.9		灰白	密	
187	H11	88	磨製	斧	復元	8.4	復元	3.2		4.2		灰白	密	
187	H11	89	磨製	斧	復元	8.6	復元	3		4.2		灰白	密	
187	H11	90	磨製	斧	復元	10.8	復元	2.6		4.9		灰白	密	
187	H11	91	磨製	斧	復元	10	復元	3.8		4.7		灰白	密	
187	H11	92	磨製	斧			復元	4		6		灰白 西日内加熱印	密	
187	H11	93	磨製	斧	復元	8.4			残存	3.8		灰白	密	
187	H11	94	磨製	斧	復元	9.6	復元	3.9		4.5		灰白	密	
187	H11	95	磨製	石鏃	残存	1.7			残存	8		灰白	密	
187	H11	96	磨製	斧			復元	3.3		3.8		灰白	密	
188	H11	97	磨製	斧	復元	6	復元	5.8		3.3		灰白	密	
188	H11	98	磨製	斧	復元	9.4	復元	4		4.6		灰白	密	
188	H11	99	磨製	斧	復元	9.4	復元	4		4.8		灰白	密	
188	H11	100	磨製	斧		10.3		4.3		6.7	口縁～底部	暗灰		
188	H11	101	磨製	斧		10.5			残存	5.8	口縁部			
188	H11	102	磨製	打斧		15.6			残存	6.5	口縁部			
188	H11	103	磨製	斧		8.3		5	残存	8.4	口縁～底部			
188	H11	104	磨製	斧		10.4		4.8		6.3	口縁～底部			
188	H11	105	磨製	土製		8				3				
188	H11	106	磨製	斧		9.2		2.6		4.05				
188	H11	107	磨製	斧		10		7.6		3				
188	H11	108	磨製	斧		10.4		4		5.75				
189	H11	109	磨製	錘状		38.2			残存	13	口縁部			
189	H11	110	磨製	錘判						7.5				
189	H11	111	磨製	斧		9.2		6.6		1.3				

図番号	遺構名	遺構番号	層位	器種	残存度	口径(cm)	残存度	底径(cm)	残存度	器高(cm)	部位	観察所見	備考	備考
189	H11	112	刻線	壺		10		7.2		11.6	口縁～底部			
189	H11	113	刻線	鉢	上部	7.8	完形	6		1.2	口縁～底部			
189	H11	114	刻線	鉢		8.2			残存	1.2	口縁～体部			
189	H11	115	刻線	壺	上部	13.2	完形	8		3.1	口縁～底部			
189	H11	116	刻線	壺		16.4			残存	3.0	底部			
189	H11	117	刻線	鉢		8.8			残存	4.8				
189	H11	118	刻線	鉢				5.3	残存	1.5	底部			
189	H11	119	刻線	土器				6.4	残存	1	底部			
189	H11	120	刻線	壺		9				2	つまみ～底部			
189	H11	121	刻線	灯明具		16			残存	3.3	受部			
189	H11	122	刻線	灯明具		11.8		4.2		1.8	口縁～底部			
189	H11	123	刻線	甕		7.2		3		1.3				
189	H11	124	刻線	甕						1.9	上部			
189	H11	125	刻線	甕		10.4		8.1		1.9				
189	H11	126	刻線	甕		11.2				2.9	口部			
189	H11	127	刻線	甕						5.6	上部	外面ススあり		
189	H11	128	刻線	甕		8.6			残存	9	上部			
190	H11	129	刻線	壺				3.2		2				
190	H11	130	刻線	壺		9				3.7	底部			
190	H11	131	刻線	壺(器台)						6.7		外面ススあり		
190	H11	132	刻線	壺		9.6		7.4		2.1		つまみ・底部		
190	H11	133	刻線	壺		10.8		8.4		1.75				
190	H11	134	刻線	壺				9		3.2	底部			
190	H11	135	刻線	壺		17.6				7.1	上部	ヨコ・外ススあり		
190	H11	136	刻線	土器						3.8	底部	外面底部有り		
190	H11	137	刻線	壺		8.8		4.2		3.8				
190	H11	138	刻線	鉢		16.8				4.8	口部			
190	H11	139	刻線	鉢		17				1.9	上部			
190	H11	140	刻線	壺		15.8				3				
190	H11	141	刻線	灯明具						4.9	下部	口部無		
190	H11	142	刻線	鉢		10.8		4.8		6.2	口縁～底部	磨耗		
190	H11	143	刻線	灯明具					残存	3.1	口縁部			
190	H11	144	刻線	鉢					残存	2.4	口縁部			
190	H11	145	刻線	鉢		10				3.2		外面底部有り		
190	H11	146	刻線	灯明具		13.2		5.3		3.47	口縁～底部			
190	H11	147	刻線	灯明具		13.6		4.2		2	口縁～底部			
191	H11	148	刻線	鉢		13.8			残存	2	口縁部			
191	H11	149	刻線	壺	残存	6.8	残存	4.4		3.5	底部			
191	H11	150	刻線	鉢		14.4		4.2		5.2		外面底部有り		
191	H11	151	刻線	灯明具		10		4.8		1.9		内面ススあり		
191	H11	152	刻線	鉢				3		3.7	下部			
191	H11	153	刻線	鉢						5.1	上部			
191	H11	154	刻線	壺		9.5		6.4		3.2				
191	H11	155	十師	小型甕	残存	5	残存	5.4						
191	H11	156	十師	甕		24.5			残存	8				
191	H11	157	十師	大甕					残存	5.5				
191	H11	158	十師	小甕		10		7		1.9				
191	H11	159	土師	鉢		8		4		8.8				
191	H11	160	土師	杯類		4.5		7.5		1.5				
191	H11	161	土師	小甕				6		1.1				
191	H11	162	土師	甕		8.5		5.5		8				
192	H11	163	土師	甕	残存	3.9	残存	8.2	残存	7	胴口	外面黒煤か・小底底付有		
192	H11	164	土師	甕		3.3		8.1		4.3	胴口	外面黒煤か		
192	H11	165	土師器	鉢か		8		7		0.5		yyR 6/8 橙	実測図	
192	H11	166	土師器	鉢か		2.1	残存	9		0.7		7.5YR 6/6 橙		
192	H11	167	土師器	鉢か		2		8		0.5		7.5YR 6/6 橙		
192	H11	168	土師器	鉢か	残存	3.8	残存	3.9		3.1		7.5Y 6/1 灰 97.00g		
192	H11	169	土師器	甕	残存	3.8		6.2		3		10Y 6/1 灰 194.45g		
192	H11	170	土師器	鉢か	残存	9		4.5		1.8		2.5Y 8/1 灰白 144.1g		
192	H11	171	土師器	不明	残存	4.1	残存	1.8		2		5B 6/1 青灰 内面剥 刷毛目あり 28.34g		
192	H11	172	金属	鉄	残存	5.5	残存	5.2		0.3		5.37g		
192	H11	173	金属	銅管	残存	3.2						断面 小口径 1.3cm 3.70g(銅管を含む)		
192	H11	174	金属	鉄		2.15		0.65		0.1		風水鉄釘 釘頭 水(1000年以上) 支点 (?)鉄 1.80g		
192	H11	175	金属	銅釘	残存	6.8						頭径 小口径 1.1cm 二化性 0.3cm		

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元	口径(長)	復元	底径(幅)	復元	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
193	H11	176	瓦	平瓦	残存	27.4	残存	14.4		2			中砂粗	
193	H11	177	瓦	平瓦	残存	26.4	残存	14.6		1.8			大石粗	
193	H11	178	瓦	平瓦	残存	13.2	残存	16.9		1.8			密	
193	H11	179	瓦	平瓦	残存	6.8	残存	5.5		2.2		凹印施刷(天井?)	良	
194	復元H11	1	陶器	碗			復元	3	残存	2.2		灰白	良	
194	復元H11	2	陶器	碗			復元	4	残存	4.6		灰白	良	
194	復元H11	3	陶器	皿			復元	4.6	残存	1.4		灰白	良	
194	復元H11	4	磁器	壺蓋		9.6		3.2		1.5		緑	良	
194	復元H11	5	磁器	碗	復元	9	復元	3.6		5		灰白	良	
194	復元H11	6	磁器	皿			復元	6.8	残存	2.6		灰白	良	
194	復元H11	7	陶器	土瓶			復元	9	残存	2.7		内面施釉		
194	復元H11	8	陶器	鉢	復元	13.6	復元	4.6		5.6		外面施釉有り		
194	復元H11	9	陶器	瓶類	復元	33			残存	7.6				
194	復元H11	10	陶器	鉢	復元	11	復元	3.6		3.9		外面施釉有り		
194	復元H11	11	陶器	鉢	復元	10.6	復元	4		3.4		外面施釉有り		
194	復元H11	12	陶器	鉢				3.4	残存	5	体部～底部			
194	復元H11	13	陶器	小皿		10.7		3.3		2.2	口縁～底部			
194	復元H11	14	陶器	瓶				6	残存	1.3	高台			
194	復元H11	15	陶器	水滴		7	残存	2.4		3.8				
194	復元H11	16	土師	火鉢				13	残存	7.4				
194	復元H11	17	土師器	甚形		2		1.9		0.6		NYR 6/6 橙	密	
193	H12	1	磁器	小碗	復元	6			残存	1.2			密	
193	H12	2	磁器	碗			復元	4	残存	4.1		灰白	密	
193	H12	3	陶器	碗		9.8		3.6		5.1		灰白	密	
193	H12	4	磁器	碗	復元	8	復元	4		4.4		灰白	密	
193	H12	5	磁器	碗	復元	9			残存	5		灰白	密	
193	H12	6	磁器	碗	復元	9.6			残存	4.3		灰白	密	
193	H12	7	磁器	碗			復元	5	残存	2.7		灰白	密	
193	H12	8	磁器	皿					残存	3.9			密	
193	H12	9	磁器	瓶	復元	5.2	復元	5.4		3.9		灰白	密	
195	H12	10	磁器	碗	復元	4.5			残存	4.9		灰白	密	
195	H12	11	磁器	碗	復元	5	復元	3.8		4.8		灰白	密	
195	H12	12	磁器	碗	復元	9	復元	3.6		4.7		灰白	密	
195	H12	13	磁器	碗			復元	5.6	残存	3.9		灰白	密	
195	H12	14	磁器	碗	復元	10	復元	4		5.3		灰白	密	
195	H12	15	磁器	皿	復元	10.5				9.2			密	
195	H12	16	磁器	碗	復元	9.6	復元	4.4		4.8		灰白	密	
195	H12	17	磁器	碗	復元	8.8	復元	4.1		4.4		灰白	密	
195	H12	18	磁器	碗	復元	9.2	復元	4		4.6		灰白	密	
195	H12	19	磁器	皿	復元	10	復元	6.6		2		灰白	密	
195	H12	20	磁器	皿			復元	7.2	残存	2.1		灰白	密	
195	H12	21	磁器	碗			復元	3.4	残存	3.3		灰白	密	
195	H12	22	陶器	碗		10.8		5.4		6.1		釉付き?		
195	H12	23	陶器	碗				6.4		5.6				
195	H12	24	陶器	碗底						5.7				
196	H12	25	陶器	土瓶				9.6		5.2				
196	H12	26	磁器	碗蓋						4				
196	H12	27	陶器	碗?(丸形底)		7.6				6.4				
196	H12	28	瓦質	鉢				8.2		4.3				
196	H12	29	土師	鉢類		32		31.4		3				
196	H12	30	木製品	板		11.4		5.4		3.9		漆塗、朱塗ケヤキ		
196	H14	1	磁器	碗			復元	4.2	残存	2.4		灰白	密	
196	H14	2	磁器	碗	復元	11.4	復元	4.2		6.1		灰白	密	
196	H14	3	磁器	人形					残存	3.5		白	密	
196	H14	4	磁器	皿	復元	14	復元	7.2		3.8		灰白	密	
196	H14	5	磁器	皿			復元	4.4	残存	2.3		灰白	密	
196	H14	6	陶器	皿		12		6.4		3	口縁～底部			
196	H14	7	陶器	鉢類				10.2				内面釉ダン痕有?		
196	H14	8	陶器	鉢				12			底部			
196	H14	9	陶器	瓶類							口縁部			
196	H14	10	陶器	碗		12.4		4.2		4.9	口縁～底部	外面釉付有り		
196	H14	11	陶器	碗				7.4			体部～底部	内面ハケン痕有り		
196	H14	12	陶器	碗				6.9		3.9				
196	H14	13	陶器	碗?		26.4				4.4		内面釉無有り		

試料番号	遺構名	遺物番号	器種	部位	復元	口径(cm)	復元	底径(cm)	復元	器高(cm)	部位	胎土の特徴	除上	備考
196	H14	14	陶器	上胴				8		1.4				
197	H14	15	陶器	台脚		1.6				6.9				
197	H14	16	陶器	脚				10		6.9				
197	H14	17	陶器	脚				6.4		4.2		外面長石多有		
197	H14	18	陶器	脚		15.7				5.9				
197	H14	19	土器	大鉢				17		6.4				
197	H14	20	土器	皿				3.9		1.7				
197	H14	21	石製品	砥石	残存	8		2.6		2.1		2.5GY 8/1 灰白 103.01g		
197	H14	22	石製品	磨石		2		1.8		0.5		10YR 8/3 浅黄橙	密	
197	H14	23	石製品	砥石		1.8		1.8		0.6		10YR 7/4 にぶい橙	密	
197	H14	24	金属	銭		2.4		0.6		0.1		寛永通宝 古寛永（文円） 文政 銅銭 2.40g		
197	H14	25	丸	砥丸		33.3	残存	19.2		1.8			やや密	
197	掘5,H15	1	磁器	碗			復元	3	残存	1.6		灰白	密	
198	H	1	瓦	平瓦	残存	20.9	残存	23		1.7			密	
198	B	1	陶器	碗	復元	7.6	復元	3		4.6		灰白	密	
198	B	2	陶器	鉢				10.4		4.9				
198	B	3	土器	大鉢								表面褐色		
198	B	4	瓦	平瓦(三枚重ね)	現存	3.3	現存	4.4		1.7		胎土(三枚目) 3	粗	
198	B	5	瓦	丸瓦(玉)	現存	7.4	残存	8.2		1.5		厚さ最 7.4cm	密	
198	B	6	瓦	平丸瓦(玉)	現存	7.8	現存	17.8		3.4			密	
198	B	1	陶器	灯明皿	復元	11	復元	3.6		2.2		底部注(復元)7.2		
198	B	2	陶器	碗			復元	8.7	現存	3.3				
198	B	3	陶器	皿						1.4		上面～受部 下面底3.2 受部底5.5		
198	B	4	金属	釘	残存	11.9	残存	1.15		1.15		33.72g		
198	B	5	陶器	碗			復元	6	現存	1.3				
198	掘B29	1	磁器	碗		2.4		4.1		6.8		86.00g		
198	H0	1	土製品	蓋形		1.8	残存	1.6		0.6		5YR 6/6 橙	密	
199	H1	1	磁器	碗	復元	10			残存	3.8			密	
199	H1	2	陶器	碗	復元	9.6			残存	3.8		灰白	密	
199	H1	3	陶器	碗				4.5	残存	2.1				
199	H1	4	陶器	碗	復元	10.6			残存	2.75				
199	H1	5	瓦	丸瓦		2.2	残存	1.4		0.5				
199	H1	6	丸	丸瓦	現存	19.8		12.8		1.8			やや密	
199	H1	7	丸	輪石?	残存	9.4	残存	7.1		1.7			粗	
199	H1	8	丸	輪石?	残存	9.8	残存	1.3		1.9			密	
199	掘H1	1	瓦	輪石?	現存	10.6	現存	8.2		1.9			密	
199	掘H12	1	磁器	碗	復元	10.2	復元	3.6		4.9			密	
200	B	1	磁器	碗			復元	3	残存	5		灰白	粗	
200	B	2	陶器	碗	復元	6.6	復元	3		6.6		灰白	密	
200	B	3	陶器	碗			復元	3	現存	3.3		灰白	密	
200	B	4	陶器	小皿			復元	3.2	現存	1.5		灰白	密	
200	B	5	磁器	碗			復元	3	現存	5.2		灰白	密	
200	B	6	陶器	鉢			復元	6	残存	2.9	底部			
200	表面区	1	陶器	碗			復元	4	残存	3.8		灰白	密	
200	表面区	2	磁器	碗	復元	10.4	復元	4		5.7		灰白	密	
200	南区	3	磁器	碗	復元	11	復元	6		2.1		灰白	密	
200	掘南区	4	金属	銭	現存	3.1	現存	2.9				11.46g		
200	掘東区	5	丸	砥石(二次的使用)	現存	14.5	現存	12.5		2.1			粗	
200	南東区	6	丸	砥石(二次的使用)	残存	12.7	残存	12.7		2.3			粗	
200	側溝区	7	瓦	なまこ瓦?	残存	9.8	残存	6.8		2.5		胎土特異 耐火質?	密	

報告書抄録

ふりがな	こうふじょうかまちいせき
書名	甲府城下町遺跡Ⅸ
副書名	庁舎建設に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	甲府市文化財調査報告
シリーズ番号	64
編集機関	甲府市教育委員会
著者名	伊藤正彦・高野高深・小谷亮二・泉英樹
所在地	〒400-8585　山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号　電話　055（223）7324
発行年月日	平成25年3月22日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
コウフジョウカマチイセキ 甲府城下町遺跡	ヤマナシケンコウフシ 山梨県甲府市 マル ウチ チョウメ 丸の内1丁目18 バン ゴウ 番1号	19201	253	35° 39′ 43″	138° 34′ 5″	H22.11.9 ～ H23.3.22	1,800	庁舎建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
甲府城下町遺跡	城下町	近世 近代	建物跡・井戸・堀 桶・池・土坑	土器・陶器・磁器・ 瓦・土製品・木製品・ 石製品・金属製品・ガ ラス製品・古銭	武家屋敷、大手役 宅、山梨県庁と近 世以降の3時期に わたる変遷が確認 された。

甲府市文化財調査報告64

甲府城下町遺跡Ⅸ
—庁舎建設に伴う発掘調査報告書—

平成25年3月22日

発　行　甲府市教育委員会
〒400-8585　山梨県甲府市丸の内一丁目18-1
TEL 055(223)7324
FAX 055(233)7331

印　刷　株式会社コネヤ
〒400-0031　山梨県甲府市丸の内一丁目-14-6
TEL 055(235)4311